K-1の猛威! 藤田血敗!! ガ然面白くなってきた!!!

紙のプロレス RADICAL

2001 41

桜庭和志・"最強"復活・特製ピンナップ

座談会
WWFシンドロームが吹き荒れる!!
"最後の黒船"襲来に、
日本マット界はどう迎撃するか?

頼むぞオーちゃん! 藤田敗戦に
猪木軍の総大将はどう動く?
小川直也

新「純プロレス」の
扉を開ける男!!
秋山準語録

どうなる『真撃』!!
橋本真也四面楚歌?

ヒャッホー! 遅ればせながら、
『PRIDE.15』を、
あの辻よしなりが斬ります!!

驚愕! WWFが10月から地上波で放映開始!!
どうする「日本のプロレス」!!

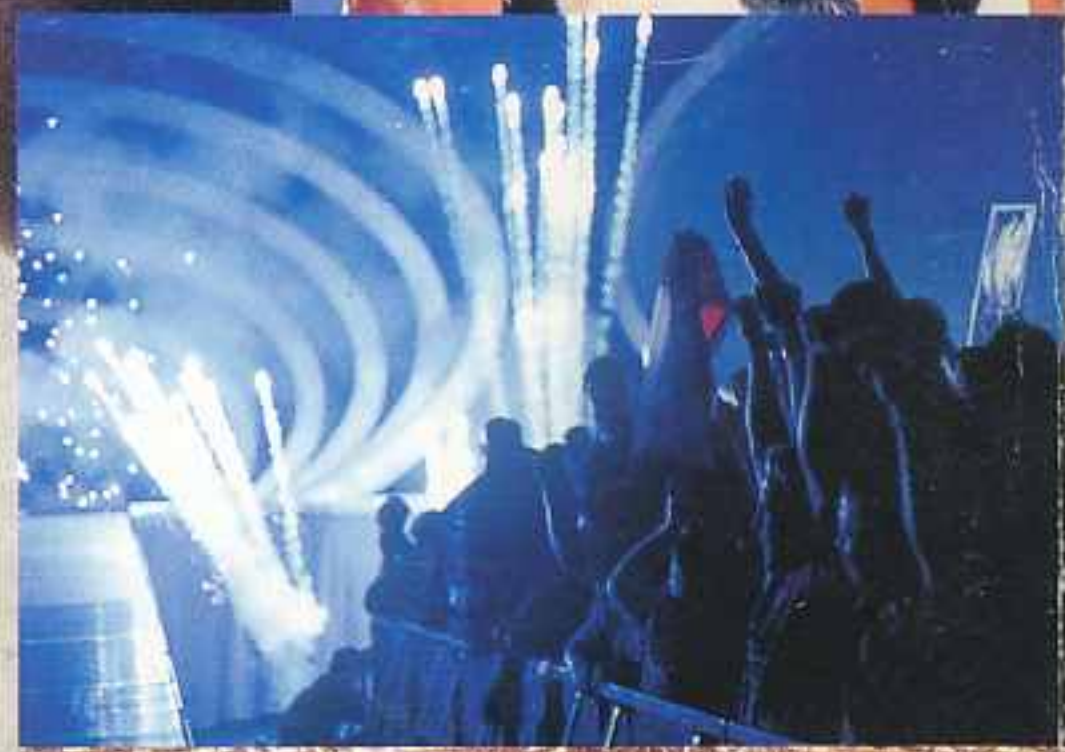
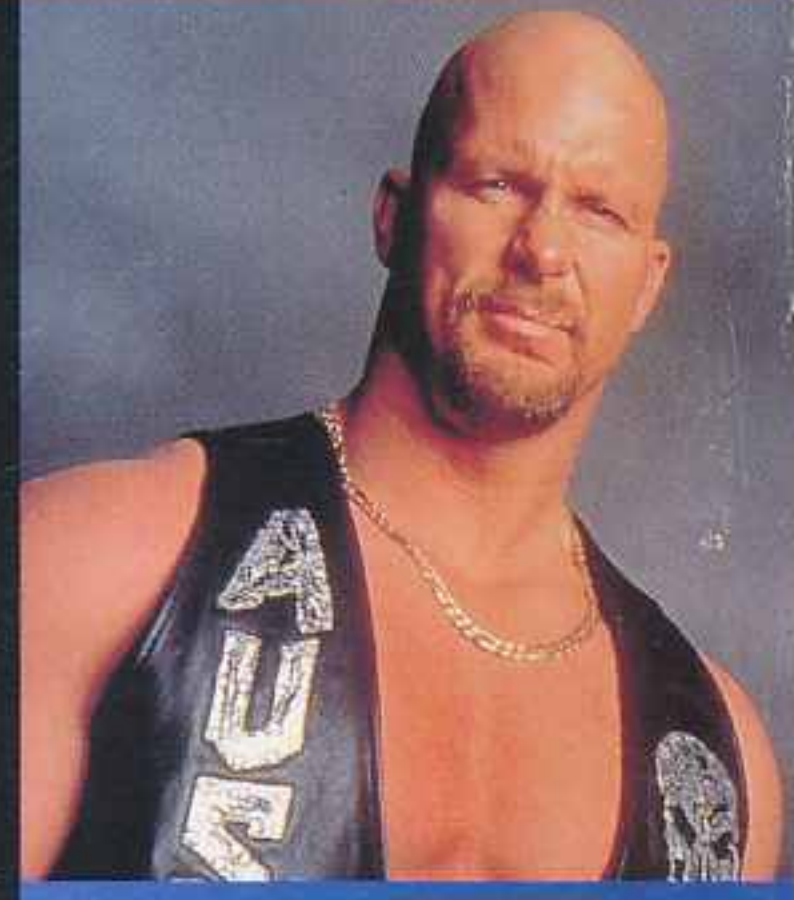
Can you? カミングアウト!

8・11リングス10周年大会大総括!
前田日明/ヴォルク・ハン
賞金総額10万円観戦記・入選作発表!!

超絶好評対談第2弾!!
金原弘光vs高山善廣

ビバ・メヒコ!
ドス・カラスJr『DEEP』で圧勝!!

大入り満員『ビヨンド・ザ・マット』大特集!

ブラジリアン柔術の逆襲!
ノゲイラ・ブラザース揃い踏み!

紙のプロレス RADICAL
2001 NO.41
"最後の黒船"襲来!!

発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社 定価:本体838円+

8・19
猪木軍団
vs
K―1軍団
第1ラウンド

藤田、安田惨敗!!

でも、

プロレスが負けたというのに
なぜかこの衝撃は心地よい!!

恐るべし、石井館長!!

しかし、猪木軍はこのままでは終わらない!!

例えば、いかがわしい場所で格闘技の道を極めるため

～「地上最強のプロレス」vs「地上最強のカラテ」～

タックルを"切る"というより、まるで、マタドール（闘牛士）のように、藤田の弾丸タックルをかわしていったミルコ

【猪木軍団vsK―1軍団・第3試合】
ミルコ・クロコップ（1R 0分39秒 ドクターストップ→TKO）藤田和之

ミルコのヒザは夢か現か？ 藤田、血敗!!

猪木軍が負けた！

安田忠夫は、レネ・ローゼのハイキックに怒濤の失神KO負けを喫した。

現役IWGP王者の藤田和之もミルコ・クロコップの奇跡のヒザの前に敗れた！

負けたぁぁぁぁぁ！（アニマル浜口調）

それなのに、なぜか晴れ晴れした気分だ。

8・19、さいたまスーパーアリーナは、今年、断突の興奮に包まれた。

ボクは、「ありがとう、館長！」と言いたい。それほど面白くて、興奮させてくれて、考えさせられた。つまり、『熱狂』しつつも『観察』できるという、相反する行為が同時にこなせるゼイタクな興行だったわけだ。

しかも、ワクワクドキドキに加えて、ヒリヒリとした緊張感がある。

この日のリングに、なぜ〝ビリビリ〟が生まれたか、その源を考えてみると、やっぱり〝闘魂〟という言葉にブチ当たる。「猪木軍vsK—1」には、〝闘魂〟が立ち昇りまくっていたのだ。

まだ戦後と言われることが真っ盛りの時代に〝闘魂〟という言葉を最初に使った力道山は、不世出の柔道家と言われた木村政彦を始め、異文化と闘いまくりながら、「日本のプロレス」を育んでいった。

その〝闘魂〟を受け継いだアントニオ猪木は、「プロレス」という枠を超えてモハメド・アリやウィリエム・ルスカらを始めとして、異分野の懐に自ら飛び込んで行った。

力道山やアントン総帥が辿ってきた、「プロレス」を軸にしながらも、コンパスの円を広げながら描いていく「超プロレス」こそが、「日本のプロレス」の原点、そして世界に討って出れる「日本のプロレス」のような気がしてならない。

「純プロレス」と「超プロレス」

「純K—1」と「超K—1」

「純PRIDE」と「超PRIDE」

今回の石井館長の踏み出し方は、「純K—1」を大切にする人たちから見れば、大反対もはなはだしい話だったに違いない。

実際、「猪木軍vsK—1」は、K—1ジャパンGPの決勝戦（ニコラス・ペタスが優勝）と表彰式がすべて済んだ後、この日の興行の第二部として開戦した。〝純〟の人たちにとってみれば、神聖なジャパンGPとは一緒にしてくれるなという気持ちが少なからずあったはずだ。

「総合がこれだけ進化した時代に、技術的に稚拙なものを見せるのは退化だ」

「これが刺激的なのはわかるけど、これはやっちゃいけないことだ。ふだんの大会が割を食ってしまう」

こういった声も、試合後のマスコミ控え室でもチラホラと聞かれた。

そういう声を聞いて、ボクは井上陽水のこんな言葉を思い出した。

ミルコもビックリするほどの藤田の流血。いいポジションを取っていた藤田だったが、そのままドクターストップ。藤田は納得いかない…

4度目のタックルに行った藤田の頭部を、ミルコの狙いすましたヒザが一撃！　その後、サイドポジションを取った藤田のコメカミ付近からは大量の鮮血がしたたり落ちていた

13針を縫合するほどの裂傷を負った藤田。この傷の深さではドクターストップもやむなしだが、客席からは猪木軍応援シートを中心に、「止めるな」のブーイングが

ヤスティ、怒濤の失神!!

とにかくヤスは、電車道。いい打撃をもらっても、肉体的＆精神的なタフネスぶりを発揮し、前へ前へと出ていった。『PRIDE』に出てからのヤスティは明らかに違う

【猪木軍団vsK—1軍団・第1試合】
レネ・ローゼ（3R 0分09秒 KO）安田忠夫

過去には桜庭和志を、ローキックでロープ際まで吹っ飛ばしたこともあるK—1の反則王、ローゼ。その蹴りがダウン状態のヤッさんの顔面を捉えた。ア、アウッ！

入場前には「G1からK—1へ」とリングアナに紹介されたヤスティ。G1で初戦から3連勝した勢いと同様、電車道とサバ折りの勢いは尋常じゃなかったが……

何度かサバ折りからテイクダウンするも、安田は次の展開に持っていけない。一度はケサ固めの態勢になったが、見事にメクられて（返されて）しまった。ああ、ヤスティ……

3R開始直後、さすがにいい打撃をもらいすぎたのか、少し躊躇しながら前へ出たヤスティ。そこへローゼはヒザからのハイキック！　ヤスティは白目を剥いて失神。「安田が死んだか」と思わせる凄絶なKOシーンだった。しかし安田は、翌日は「プロレスラーだから」とケロリ。試合翌4日に、ロスへと旅立っていった

陽水は、デビュー後に、「なぜ、いつもサングラスをはずさないのか？」と聞かれ、こう答えたという。

『例えば、いかがわしい場所で、人間の道を極めるため』

ボクはこのコク深い言葉が大好きである。

「純プロレス」「純K―1」「純PRIDE」といった〝純〟を守る側からすれば、この「猪木軍vsK―1」は、とてつもなく〝余計なこと〟で、〝いかがわしい場所〟に見えることだろう。でも、〝余計なこと〟や〝いかがわしい場所〟に踏み出さない限り、真実は見えてこないこともある。

ボクは、この日の闘いは、「例えば、いかがわしい場所で、Kの道を極めるため」と石井館長が言ってるように聞こえた。

アントン総帥の言うように、小さな釣り針では、大きな魚は釣れないのだ。石井館長は、今回、大きな釣り針で、大きな魚を釣りに行ったのである。

異分野、異文化との衝突を恐れず、迷わずに一足踏み出す。これが〝闘魂〟の正体だと仮定すれば、この日の石井館長には、まさに〝闘魂〟が宿っていた。

大きな魚に逆に喰われてしまう危険性が大きかった、まさに〝命がけの大物釣り〟に成功した石井和義という男、恐るべし！ である。

ところで、タックルに合わせたミルコの奇跡のヒザ蹴りに、藤田の左目上は骨が見えるくらいに深々とカットされ大流血に見舞われた。藤田はサイドポジションという絶好のポジションにいながら、その傷の深さからドクターチェックが入り、そのまま続行不能と判断され、わずか39秒でTKO負けとなってしまった。

プロレスファンは、事情説明のためマイクを持った石井館長に「もっと続けさせろ」と大ブーイングを飛ばした。それに対し館長は、「K―1は、これで勝ったとは思ってません！ 今日は猪木軍がこっちに来ましたが、今度はボクらが猪木軍の下に乗り込んで、完全決着をつけます！ 納得してください！ 押忍!!」と、その場を納めた。

石井館長が、「小川か藤田と闘わせたい」と言った、ジェロム・レ・バンナもリングサイドで「猪木軍vsK―1」を観戦。バンナの標的は誰だ？

藤田敗戦は、実に残酷な結果である。しかし藤田は試合翌日には「今日でも明日でも、すぐにでもやりたい」と再戦をアピールしたという。大仕掛けの中で生まれる〝残酷な局面〟は次の物語のスタートをすでに生んでいるのである。

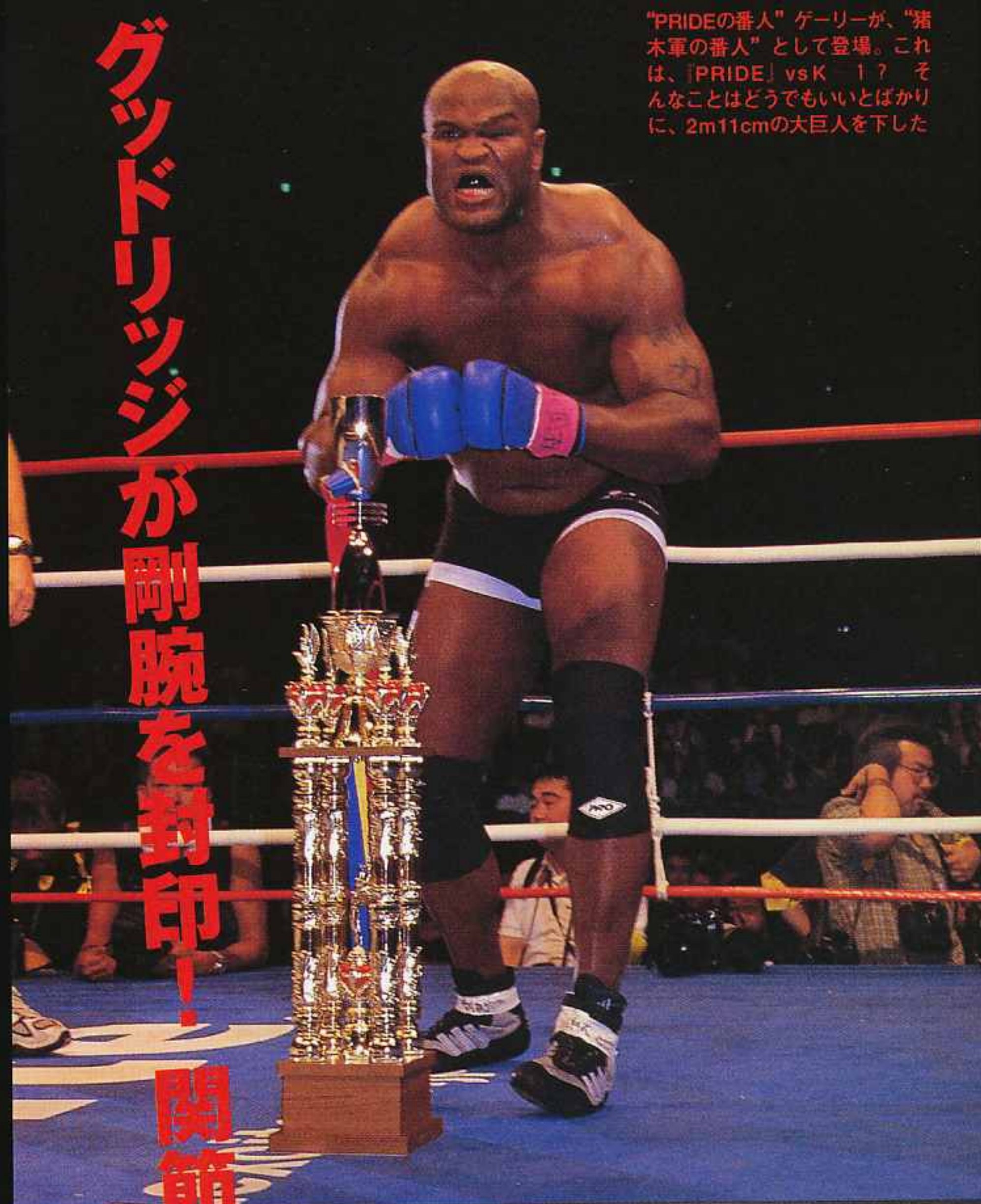
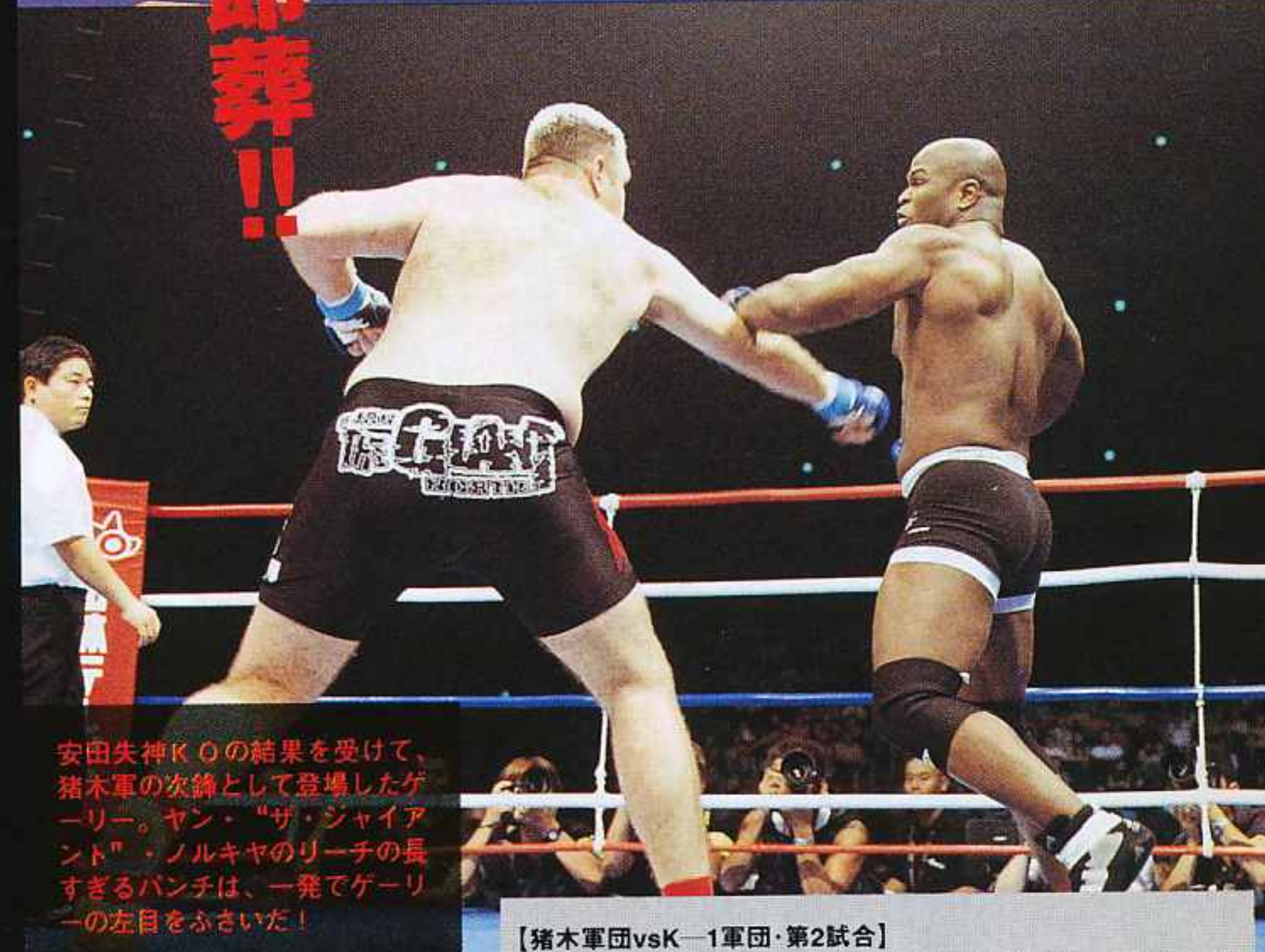
窮地に追い込まれたときのアントニオ猪木は、神がかりな的な力を発揮する。猪木軍には総大将、小川直也もいる。

実に、これからが面白くなってきた。

これは、元を正せば「地上最強のプロレス」vs「地上最強のカラテ」の喧嘩だ。もちろん、猪木軍にはプロレスラーじゃない者も入ってくるだろうし、K―1にもカラテ出身者じゃない選手もいる。そんなことは百も承知の上での話である。

でも、ボクは猪木さんと石井館長の心

グッドリッジが剛腕を封印！ 関節葬!!

"PRIDEの番人"ゲーリーが、"猪木軍の番人"として登場。これは、『PRIDE』vsK―1？ そんなことはどうでもいいとばかりに、2m11cmの大巨人を下した

安田失神KOの結果を受けて、猪木軍の次鋒として登場したゲーリー。ヤン・"ザ・ジャイアント"・ノルキヤのリーチの長すぎるパンチは、一発でゲーリーの左目をふさいだ！

【猪木軍団vsK―1軍団・第2試合】
ゲーリー・ （1R 1分11秒 腕ひしぎ逆十字） ヤン・"ザ・ジャイアント"・ノルキヤ

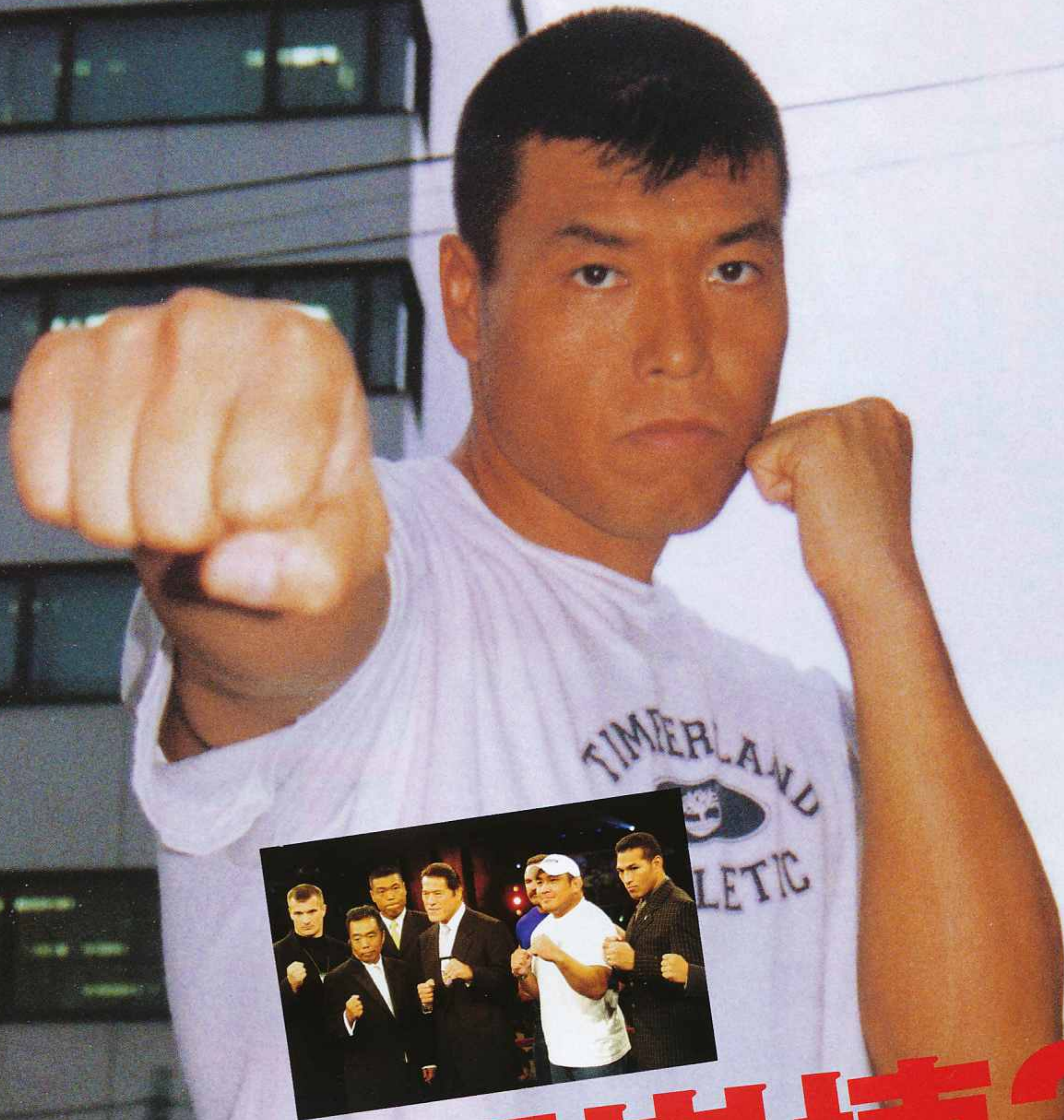
コーナーに詰められて、大巨人のパンチのラッシュを浴びたゲーリーは、なんとか組みついて内股でテイクダウン。マウントパンチの雨アラレではなく、なんと腕十字を綺麗に極めてしまった！ 仰天！

K―1の底力はわかった。
でもまだ
「地上最強のプロレス」と
「地上最強のカラテ」の
決着はついていない!!
引き下がるな
藤田!!

そして、猪木軍の総大将 小川直也はどう出るのか？

マット界が乱れ、混乱したときこそ、オーちゃんの出番!!

←オーちゃんインタビューは次のページから

猪木軍、"怒濤の敗戦"の翌日にオーちゃんを直撃!!

猪木軍崩壊?

俺は、例え一人になっても アントニオ猪木の 思想を持って闘い抜く!!

渦中の
小川直也
インタビュー
PART1

構成／山口日昇
撮影／松澤チョロ
designed by hisa (Two Three)

バーリ・トゥードでは絶対有利とも言われていた猪木軍の藤田、安田が敗れ、寝技で一本勝ちしたのは、なんとゲーリー・グッドリッジだけだったという悪夢が襲った8・19！

「猪木軍団vsK―1軍団」という、史上最大の異種格闘技の軍団抗争。その火ぶたが遂に斬って落とされたわけだが、猪木軍にとっては、いきなり背水の陣に追い込まれた感がある。こうなると、話をまっ先に聞かなければならないのが、猪木軍の総大将・小川直也だ。

小川の胸に去来するものはなにか？ 猪木軍が大決戦に敗れた翌日、某所で練習を終えて、小川が出てくるのを待ちかまえている日刊紙の取材陣を掻き分け、本誌も突撃！

決戦翌日のオーちゃんのナマの声をキャッチすることに成功した！

――昨日の試合は見ましたか？

小川　いや、寝てたよ（笑）。見てはいないんだよね、あとで聞いただけで。

――（藤田、安田の）二人とも惨敗で、猪木軍崩壊寸前なんですけど。

小川　寸前って……崩壊だろ。

――試合の感想は？

小川　この闘いで崩壊はしかけてるけど、まだ生きてるヤツがいるんだから。俺がまだいるだろう！ あとは"俺流"で頑張るしかないよ。いままで猪木さんのもとにUFOがあったし、そこに俺がいるんだから、看板守るんなら、俺一人でもやっていくしかない。戦（いくさ）で例えれば、城が全部壊されても、そこでジッと最後まで逃げずに、力ある限り闘い抜くっていう姿勢で行こうと思ってるよ。

――石井館長の方は、「K―1（のリング）での全面戦争は終わり。次は猪木さんの方に乗り込んで行く」というような意思表示をされたんですけど。

小川　まぁ、余裕のコメントじゃねぇかな？

――小川さんの方からもう一回K―1に乗り込んで行くっていう気は？

小川　俺はまだやったわけじゃないしね。その（闘いの輪の）中に入ってるわけでもないし。ただ事実、俺が入る前にやられちゃったんだけどね。ま、大丈夫だよ。自分さえしっかりしていればね。

NaoyaOgawa PART1

――小川さんの中で昨日の結果というのは、少なからず予想外のところはありました？

小川　結果がどっちに転んでもっていう予想は常に持っとかなきゃいけないし、絶対に勝つってことは、勝負ではあり得ないんだから。昨日はたまたま負けただけであって。だから、結果が予想外だからって、これからなにもできないってわけじゃないしね。俺は常に「いつ、何時」って言葉があるように、どんなときでも……とにかくやるしかないでしょう！

――藤田選手とは話はしたんですか？

小川　試合後は連絡は取ったけど、昨日は……ま、ネクストってことがあるから、あんまり彼も多くは語ってなかったよ。

――"俺流"でやっていくなかで、ターゲットに挙げるとするなら？

小川　俺は俺で自分なりの路線っていうのを持ってるし、どういう方向でも動けるようにね。タイソンやヒクソンっていうのがあって、それからK―1っていう波が来て。いまはたまたまK―1っていう流れが来ちゃってるんだけど、それをいかに乗り越えていくかっていうね。ま、神様がいるとすれば、いまK―1っていう無視できない存在っていうのかな？ そういう波が来てるから、その波に素直に乗れって言ってるんじゃない？

――今日、石井館長が「次はK―1の選手を『PRIDE』に出したい」って話をされたみたいなんですけど、小川さんが「K―1vsPRIDE」に乗り込む意思っていうのは選択肢の中にはあるんですか？

小川　『PRIDE』はあくまでも部外者だし、俺は『PRIDE』に飼われてるわけじゃないしね。それだったら『PRIDE』とK―1で勝手にやってくれって話ですよ。

――K―1側との次の接触は、石井館長は12月のグランプリ本戦以降っておっしゃってますけど、小川さんの中で時期的には？

小川　勝った方は好き勝手に言えるからね。こっちは「はは―、そうですか」としか言えないから（笑）。負けた方が「いつでも来い、この野郎！」って言えないからね（笑）。今回は、ある意味で、（猪木軍の）輪の中から外れた角度にいた存在だったから、よく周りが見れた部分もあるからね。いろんな意見が飛び回る中で、いろんな見解がある。でも、それはそれとして、ファンが一番見たいのがなんなのかっ

俺は負けないよ！　どんな戦（いくさ）だろうと。最後に立ってりゃいい

渦中の小川直也インタビュー PART1

NaoyaOgawaPART1

ていうのが見えたから、最高の位置にいたのかなって感じだよね。そういう流れがきてるなら、それはそれでヨシとして受け止めないと。ただ、昨日の結果っていうのはちゃんと踏まえての話だけどね。

――石井館長が「UFOのマットでやろう」というような話をしてきたとしたら、どうします？

小川　そう言われたら、避けて通れないでしょう。ましてや、こっちが乗り込まなきゃいけない立場なのに、向こうから乗り込んで来てくれるなんて言ったらね。猪木軍と言われてるものはいま崩壊しかけてるんで、俺が飲み込んで、その分を取り戻さなきゃいけないでしょ。向こうが仕掛けてくるんであれば、俺はそれに備えなきゃいけないんで。向こうが来るんであれば、こっちが避ける必要もないし。俺は闘うだけで、あとは周りの人が決めりゃいいっていうね。

――「K―1、恐るべし」って気になりましたか？

小川　恐るべしっていうか、K―1強しっていうイメージは、テレビで全国にああいう風に流されてるわけだから、そういうイメージで見られても仕方がないでしょう。結果は結果だし。昨日の結果っていうのは、食べたくないっていうのかな……お腹の中に入れたくないものだよね。夢であってほしいって部分はあるんだけど、現実をちゃんと見据えて、それを踏まえた上で、自分にいいように、プロレス界にとっていいように転がるように、この戦を利用できればいいんじゃないかな。

――猪木軍を背負うという気持ちは小川さんの中にありますか？

小川　昨日の結果で崩壊したって言ってもいいぐらいのダメージがあることは確かでしょう。でも、俺は軍団を背負うというより、〝猪木イズム〟を背負う！　俺はアントニオ猪木の思想を持って最後まで闘い抜くよ！　軍団を背負う背負わないってなると、俺が自分でやってることが小っちゃく思えちゃうんで、たとえ一人になっても堂々と闘い抜くしかない!!　俺は常にそういう気持ちだから。軍とか軍団とか、そういうことじゃなく、アントニオ猪木の思想のもとに闘うということ！

――小川さんの中では、猪木軍は崩壊寸前ということですけど、対K―1への勝算は？

小川　向こうとしては完全に崩壊させたいんだろうけど、俺は負けないよ。どんな戦であろうと、最後に立ってるのが俺であればいいという気持ちで臨むしかないでしょう！　人を頼ってちゃいけないし、第一、闘いなんだから！　1対1なんだから、どんな惨めな姿を晒しても、カッコ悪い姿を晒しても、最後に立ってりゃいいんだよ！　ま、そんなところでいいですか！

【8月20日／都内某所にて収録＝聞き手は複数】

「俺は負けないよ。どんな戦（いくさ）であろうと、最後に立ってるのが俺であればいいという気持ちで臨むしかないでしょう！」

この日のオーちゃんの声を聞いていると、猪木軍、というより、〝猪木イズム〟が窮地に追い込まれていることに危機感を感じていることが、ヒシヒシと伝わってきた。

小川が「vsK―1」に討って出る日は近そうだ。どう動いていくのか、今後の小川直也の動向には、本人が好むと好まざるに関わらず、さらなる注目が集まるのは間違いない。

マット界が乱れ、混乱したときこそが、オーちゃんの出番！

飛び出せ、人間UFO・オーちゃん！

渦中の
小川直也
インタビュー
PART2

聞き手／山口日昇
撮影／森“モーリー”鷹博
designed by hisa (Two Three)

「猪木軍vsK―1」の前日にオーちゃんに聞いた、いろんな話

プロレス界のみなさん 目を覚ましてくださ〜い

猪木軍がK—1に"戦慄の敗戦"を喫した翌日、あらためて対K—1出撃宣言を行った際のインタビューは、P8〜を見てほしいが、この「小川直也インタビューPART2」では、猪木軍vsK—1の前日、8月18日にオーちゃんの地元、茅ヶ崎でじっくり時間を取って話を聞いたものバージョンをお送りする。

vsK—1のことはもちろん、vs高田、『PRIDE』、プロレス界の現状などを暴走王は語りまくった。

猪木軍敗戦の翌日のトーンと、かなり違うが、そのあたりを読み比べてみるのも面白いかもしれない。

今年後半は、俄然、出番が多くなりそうなオーちゃんは、いま何を考えているのか、みなさん、猪木軍敗戦のショックから目を覚まして読んでくださ〜い。

小川　（東スポの一面を見ながら）凄いな、ゴルフの片山選手！　大会最小タイ記録だって。

——「片山、首」って書いてありますよ。

小川　「片山、首位」！

——あ、首位！　東スポマジックに引っかかった。折り畳んであるから気がつきませんでした（笑）。全米プロ選手権で首位！　日本人初のメジャーVが見えてきたとありますね。

小川　俺は話題はないよ、もう。白旗状態だよ（笑）。

——また、そんな寂しいことを。

小川　しばらくは寝てるよ。

——話題はありますよ。村上選手がG1で活躍しました。

小川　……逆に、どうだったんですか？

——……どうなんですかね？　でも新鮮なんじゃないですか、初参加ですし。

小川　新鮮だけど……彼がそれに幸せを感じるんであれば、それでもいいんだけどね。このまま取り込まれなければいいんだけど。実際、「新日本に入りたきゃ入れ」って言ったこともあるんだよ。

——あら（笑）。

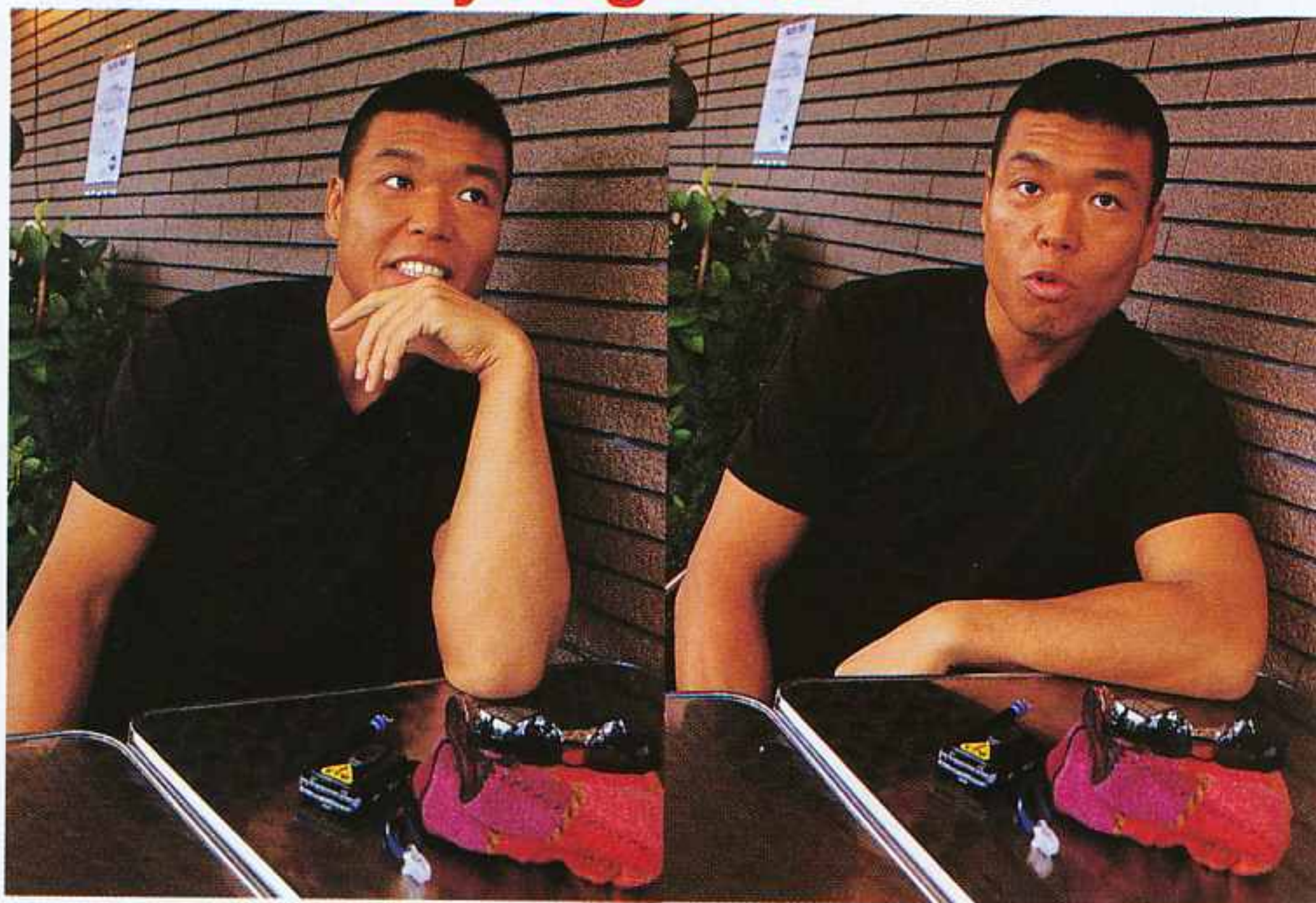
小川　でも新日本に出てもいいけど、内容がいいから盛り上がってるんじゃなくて、目新しさだけで喜ばれてるレベルで満足してる風にも見えるしね。UFOとしては、それじゃ困るんで。試合の内容と実力がキチンと備わってくれれば、もっと大きなスケールを持ってると思うんだけどね。

——でも、G1優勝者の永田選手と両者リングアウト引き分けでしたよ。

小川　いまの彼のレベルだったらそれが精一杯なのかな。それぞれ、その人間の役割があるからね。それで周りにチヤホヤされて、いま喜んでる状態だから。

——村上選手の話題はともかく、さっきのゴルフの話じゃないけど、猪木さんが「小川は世界を見ろ」って言ってますよね。

小川　なかなか世界でやるチャンスっていうのがないからね。

NaoyaOgawaPART2

対K—1には、純粋にアントニオ猪木の弟子として討って出たいよ

——でも、世界といえば、こないだK—1のラスベガス大会に突如現れましたね。

小川　まぁ、「その他大勢」だったけどね。

——は？　小川さんがですか？

小川　もちろん！

——またさらに、寂しいことを（笑）。

小川　猪木さんに「まぁ、日本から出るのもたまにはいいんじゃねぇか」って言われて、"それも、いいや"と思って行っただけだから。まぁ、こういうこともたまにはあるかなぁっていうかね。

——リング上での豪華な面子が揃った写真を見ると、どれも小川さんだけ、後ろの方でポツンと映ってましたね（笑）。

小川　俺が入っちゃいけねぇなって感じたんだよ。

——なぜですか？

小川　これは、別な枠があるんだなって感じたからね。

——のけ者にされてるって雰囲気があるんですか？（笑）。

小川　うん、のけ者。他にもなんで来てるかわかってない人も多かった感じなんだよね。だから、こいつらと一緒に写っちゃいけねぇなって思ってね（笑）。

——はぁ。一番興味があるのは、向こうで猪木さんとどんな話をしたかなんですよ。

小川　とりあえずは、暮れに大きな仕掛けするからということを言われたよ。それに今回、K—1のリングで猪木軍の闘いが始まるっていうことで、それを起爆剤として仕掛けていくとも言われた。

——小川さんの中でも対K—1ということに関しては、心中期するものがあるわけですよね？

小川　プロレスを守るという部分では、俺もプロレスラーである以上は、やってかなきゃいけないでしょう。でも、ちょっと悲しいのは、いわゆる総合格闘技が前に出すぎちゃって、「プロレス」っていうものが、ほとんど前面に出なくなってしまったんじゃないかっていう気がするね。いまの猪木軍というのは、プロレスとしての代表なのか、総合格闘技と言われる方の代表なのかっていうのが、いまいちわからないよね。だって、いまは明確に『PRIDE』の選手の方が多いでしょ（笑）。それで「猪木軍、圧勝！」ってなっても、面白くないんじゃない？

——ということは、明日（19日）、猪木軍はK—1軍に勝てるということですか。

小川　勝てるとか、そういうレベルじゃねぇだろうなって。内容だよね。勝つのは当然だと思うんだけど、どうやって面白く見せてくれるんだろうなっていうとこだね。

——なにを突き刺せるか、ですか。

小川　「プロレスラー」として出るのかど

8・11、K―1ラスベガス大会のリング上に錚々たるメンバーが集まった。左からマルコ・ファス、バス・ルッテン、ペドロ・ヒーゾ、1人置いて、サム・グレコ、フランク・シャムロック、ヴァリッジ・イズマイウ、ミルコ・クロコップ、石井館長、所在なげなオーちゃん、アントン総帥、ドン・フライ、藤田。なんでもいいから、凄ェ面子だ！　他にも大山峻護や、ジョン・ルイス、レイ・セフォーらの姿も見えた

うか。年末への起爆剤になったとしても、あまりにも呆気なく終わっちゃったら、つまんないと思うしね。「こりゃあ、面白いなぁ」って試合があればいいと思うよ。

――猪木さんが年末に大仕掛けをするっていうのは、K―1絡みでしょうけど、そこには当然、小川さんは討って出るつもりなんですよね？

小川　そうだね。そこには、純粋にアントニオ猪木の弟子として、討って出て行ければいいな、と。

――ところで、ラスベガスではK―1の試合は見たんですか？

小川　途中までね。

――途中まで（笑）。猪木軍対K―1の10vs10というのが取りざたされたときに、小川さんは、「ピーター・アーツとやっても面白いかも」と言ってましたよね。実際、そのアーツを見てシミュレーションはしたんですか？

小川　いや、シミュレーションなんかしないようにしてるから、俺は（笑）。

――なるほど（笑）。ラスベガスは、行ってすぐ帰って来たって感じなんですよね？

小川　とても辛い2泊4日でした～（笑）。疲れだけ残ったって感じだね。時差ボケがあるし、向こうであんまり寝れないし。おまけに初日はカバンが届かないわ、飛行機が遅れるわ、最悪でしたよ。2日目は飯食って、K―1見て、猪木さんと話して、次の日の朝早く発つって感じかな。なんだかビジネスマンが仕事に行って帰って来たって感じですね。

――2泊4日の出張（笑）。

小川　ダーッハッハ。ホントそうだね。

――猪木軍対K―1というのを、小川さんの中ではどう捉えてるんですか？　潰し合いか、それとも共存共栄の中で格闘技界を盛り上げていく一つの場なのか。

小川　もちろん、選手としては潰し合いでもあるんだけど、ある意味K―1も来るとこまで来ちゃってるからね。向こうは人気があるけども、さらにそこで余裕があれば別に無理に絡む必要もないわけでしょ。それがなぜ絡むのかなっていう部分もあるわけだよね。でも、それは世間一般の企業も合併、合併となってる。銀行だろうが、自動車業界だろうが、みんなそういう流れだから。そういった流れのなかでも、お互い協力しながら企業同士でやり合っていくというのはあるからね。でもそれは企業レベルで考えることであって、選手としては殴ったり蹴ったりして、強い者が勝つっていう、わかりやすいものでいいんじゃない。

――小川さんにとって、K―1というのは大きな魚なんでしょうか？

小川　大きくても小さくても、俺はその魚は食うから（笑）。その魚がウマいかマズいかはわからないけど、食うことによって、自分の歴史の一つに加えられるのか、加えられないのかっていうことだよね。

――ところで、間近に迫った8月30日の『真撃』はどうなるんですか？

小川　ねぇ。こっちが聞きたい。協力したいんだけど、なんだか、選手を取る取らないの話で、猪木会長と橋本さんの間でトラブルがあったみたいで……。

――いろいろ揉めてるみたいですね。

小川　でも、俺にとっては、その揉め事自体は関係ないことだから、早く丸く収まってくれりゃあ、いつでも橋本さんのとこには上がりたいけどね。

――高田戦の話が上がってる『PRIDE』に対して、いま新たに感じてることはありますか？　小川さんは『PRIDE』に上がってた頃は、プロレスとバーリ・ト

ゥードの境はないっていう考えでやってましたよね。
小川　俺の考えは分け隔てなくやろうとしてるし、やれると思うからやってるんだよ。ただ第三者として見れば、ああやってガチャガチャ殴り合って、みんなが「凄ぇ！」ってなってるけど、あのまま行って、見てる人が夢を得られるのかなっていうのは、疑問に思う部分もあるね。だからといって、いまや、プロレスだから夢を描けるってわけでもないんだろうけどね。
——あ、そういうわけでもない（笑）。
小川　でも、少なくともプロレスである以上は、見てる人に夢を与えなきゃいけないって考えのもとでやってるから、俺は。
——『ＰＲＩＤＥ』の場合は、いま小川さんが言った、プロレスの持っていた夢を与えるっていう部分を、うまく吸収しながら、興行として成り立たせてますよね。
小川　猪木さんがいまプロデューサーということで、猪木さんの冠をつけてるから、少しはそうなってきたのかなぁとも思うけどね。
——その猪木さんと、ベガスで、プロレス界の将来的な話はしなかったんですか？
小川　将来的って意味じゃ、新日本が猪木さんをどう扱うかによって変わってくるんじゃないの？『ＰＲＩＤＥ』の場合は、凄く猪木さんを大事に扱ってるでしょう。だから、脱・猪木だなんだって、猪木会長を排除しようとしてる団体が新日本で、『ＰＲＩＤＥ』は吸収しようとしてるから。『ＰＲＩＤＥ』はそれで成功してますからね、いまは。だから、俺も常々言ってるけど、いちばん大事なのは、猪木イズムと言われるものであって、アントニオ猪木の思想だよ。でもね、『ＰＲＩＤＥ』に関しては、猪木さんの冠が付いてるからって、くだらないヤツらが「小川が出るのは当たり前だ」とかなんとか言ってもいるみたいだけど、それはちょっと違うと思うけどね。
——新日本に対してはどう思ってるんですか？
小川　俺が前に、新日本に対して「目を覚ましてください」って言ったけど、逆に深い眠りについちゃったようなところもあるんじゃない？（笑）。まあ、俺も新日本や『ＰＲＩＤＥ』というものに限らず、面白いことをやりたいんだけど、なかなか歯がゆいことが多いんだよ、この業界は。
——ぜひ小川さんには、そこを切り開いてほしいですね。マスコミや関係者の声なんかを聞いてみると、とにかく小川さんには前面に出てほしいっていう声が多いんですよね。ファンもそう思ってますよ！
小川　猪木さんとは密に話してるんだけど、いい具合に進みそうだなぁと思うと、突然邪魔が入るっていうか、話が潰れちゃうんだよね。
——難しいですねぇ、この業界は（笑）。
小川　みんなで切磋琢磨してやりゃあいいのに、別の角度から「俺が、俺が」の性格の人が出てくるとね、俺はそういうの大っ嫌いだから！
——『ＰＲＩＤＥ』での高田戦というのは、まだ正式決定ではないんですか？
小川　そうみたいだね。早く決まってくれればいいんだけどね。

小っちゃくなったものを大きくするのは、凄ェ気持ちいいと思うな（笑）

「バーリ・トゥードなんてションベン」発言で、一躍時の人となった、人間兵器バンナ。猪木軍vsK—1が行われた8・19でも、K—1初参戦の相手をド突き倒した。小川との対戦はあるか？

——条件さえ整えば、高田戦は問題なしですか？
小川　まあね。この前も言ったけど、もともと『ＰＲＩＤＥ』に上がるなら、高田、ヒクソンっていう流れを自分の中に持ってたんで、それがたまたまちょっと遅れて巡ってきた。２～３年前に「高田！　ヒクソン！」って言ってたのが、いまになって動くんだから面白いよね。
——小川さんがせっかちすぎるっていう話もありますけどね（笑）。
小川　ダーッハッハッハ。そういえば俺がデビューしたころ、いっつも高田戦の話が出てたからなぁ。だからって、そのときは高田選手とやるなんて考えられなかったからね。
——だから、ファンの方としては、小川直也がそのときどきに出てきたものをチョイスして出撃するというタイプなのは重々わかってても、今後のシナリオというか、方向性を出してほしいと思ってるんですよ。
小川　いろんな方向性は持ってるんだけど、いまは出さねぇでおこうって思ってね。
——なぜだ（笑）。
小川　出すタイミングってもんがあるからね。要は、さっきの話じゃないけど、この業界には俺が動くと面白くないヤツがいるんじゃないの？（笑）。
——じゃあ小川さんとしては面白いシナリオなら、それに思いっきり乗っかっていくのもやぶさかではないと。
小川　面白ければね。自分で「こうなっていったら面白いのになぁ」っていうシナリオもけっこうあるんだけど、それになかなか乗っかってくんないっていうか。なんか人に言わせると、俺のアイディアってけっこう厳しいものがあるらしいから。
——周りから見ると厳しすぎる！　石井館長も、「小川選手もそろそろ口ばっかりじゃなく、リング上で面白いことをやってほしい」って言ってましたよね。
小川　俺の方はいつでも面白いことをやりたいんだけど、やる場所によって、こうでなきゃいけない、ああでなきゃいけないってシナリオが出てくるからね。それは俺は嫌なんだよ。
——あらかじめ決められるのが嫌？
小川　そう。どんどん話が転がって面白い方向に転ぶなら、俺だって話には乗るよ。でも、なんだか選手じゃない人間だったり部外者だったりが、クソ面白くないシナリオばっかり考えてやがるから。あとは「俺たちは雇ってやってんだ」とかそういう次元で来るやつも多いしね。夢を売る人間が、雇われてるからってヘーコラしてたら、リング上から夢を与えるなんてことはでき

ないからさ。

——それはわかりやすいですね。

小川　だって、言うこと聞かないといけないってなったら、それは嘘になっちゃうからね。ある意味で役者になっちゃうから。でも、プロレス界自体がここで頑張らないと、プロレス業界が悪い意味で混沌としてきそうだから、俺も早く暴れたいけどね。

——いずれにしても、小川さんが要（かなめ）なんですよ。

小川　正直言って、プロレス業界が業界内で揉めたって、なんの得もないよ。対世間という認識でやらないと。外から見たら醜いだけだからね。もう一つは、敢えてプロレスと格闘技っていうのを分けて語るとするなら、プロレスが死ぬと格闘技も消えちゃうんだから。

——それはその通りだと思います。

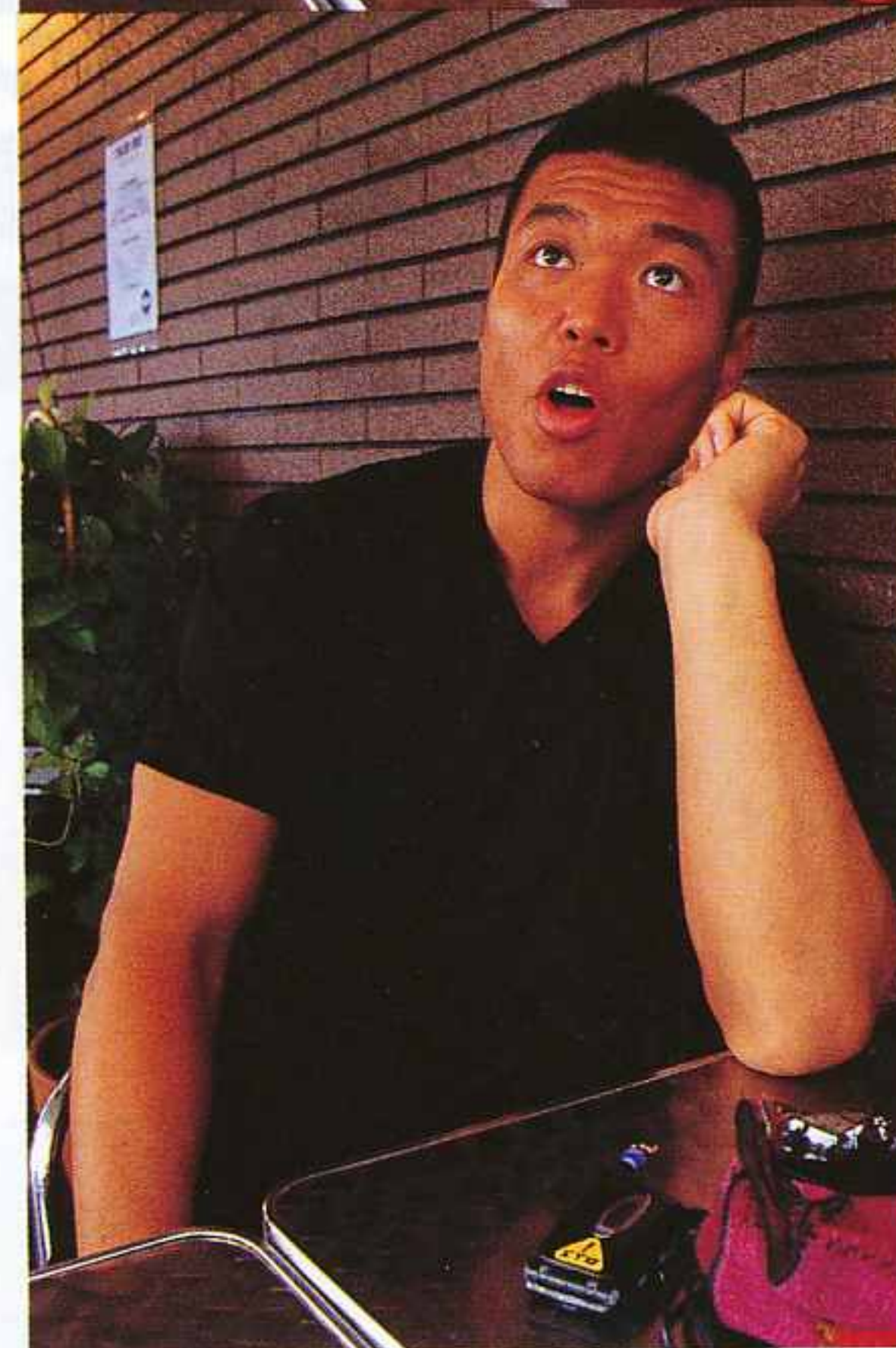
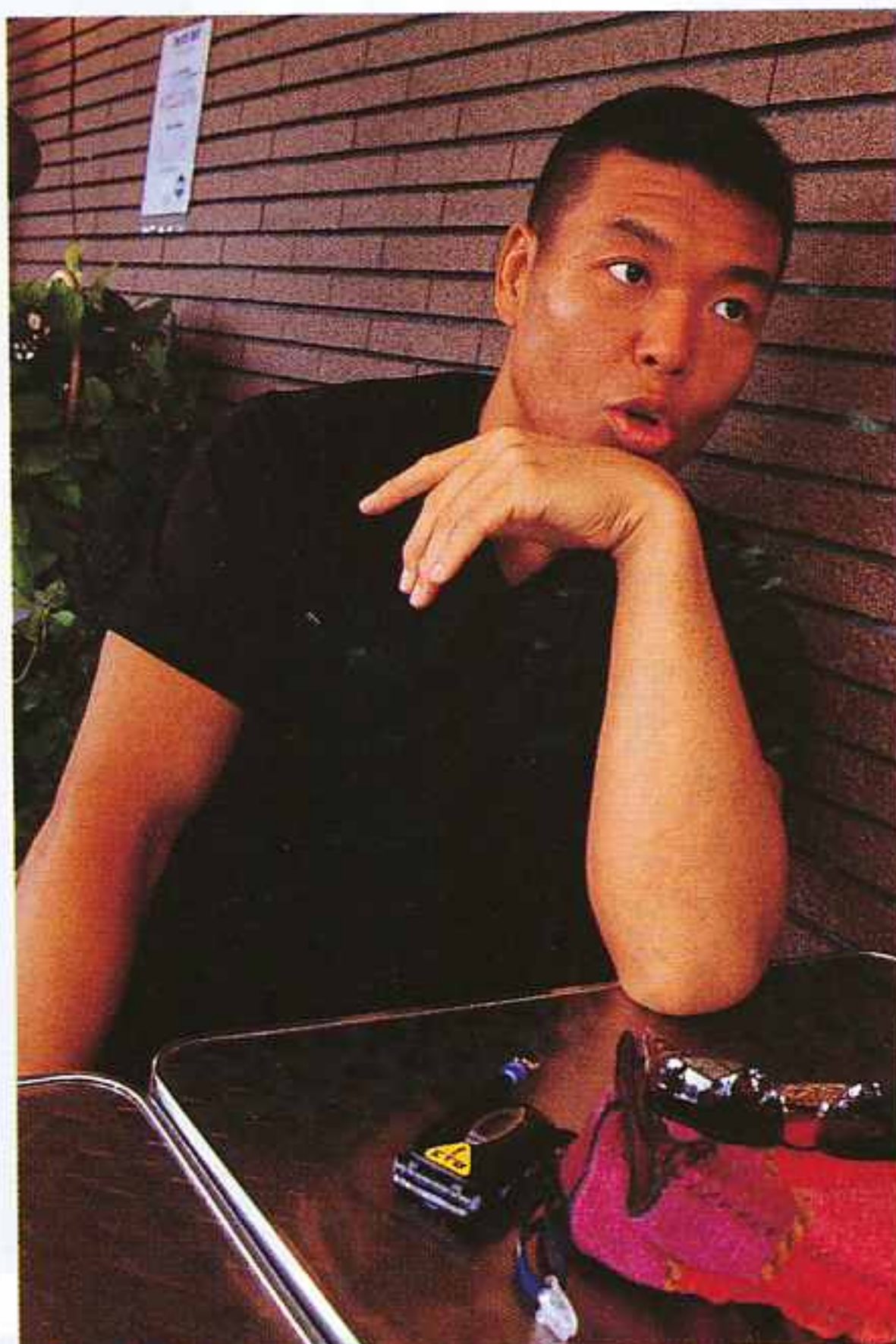
小川　結局、いまはプロレス側が損してでも格闘技を盛り上げるっていうふうな流れになってるでしょ。その役割をやってるから格闘技が得してるって感じだよね。お互い消し合うんじゃなくて、お互いが切磋琢磨していかないと、大きくはならないよね。自分の支配欲のみで相手を潰すとかの次元は、いまの時代には合わないよ。

——プロレス村の体質というのもあるし。

小川　この業界の体質がそうだから。テレビ業界とかだと、新しいヤツだろうが、面白いヤツをどんどん取り入れるからさ。でも、この業界って、入って何年めだとか、そういうレベルで考えるからさ。「プロレスがわかんねぇヤツにそこまで言われる筋合いはねぇ！」みたいなね。俺もよく言われてるみたいだけどさ（笑）。

——『PRIDE』も、最初は記者会見で、マスコミに「お前らいったい誰なんだよ！」って詰められてましたからね（笑）。いまとは主催者が違いますけど。新しい人材が入ってくる環境ではないですよね。

小川　プロレスラーで、そのへんを歩いてる人が知ってるのなんて、10人中1人か2人ぐらいの割合だからね。例えば、モーニング娘。だったら、あんな俺だってわかるぐらいだから、10人中8人か9人ぐらいの人がモーニング娘。ってわかるんじゃねぇかな？　そういう風に考えちゃうと、ちょっと極端すぎる例かもしれないけど、プロレスもヤベエなって思うよ。

——一応は成功してる『PRIDE』をもっと利用しちゃえ、みたいな考えはないんですか？

小川　利用しつつ、『コロシアム』だなんだってあるよね。面白い場を提供してくれるところがあれば、そっちにも出て行くよ。いまは、猪木さんが『PRIDE』の方に寄っているから、そっちの路線が強くなってるんだろうしね。でも、そうするとプロレスが間違いなく衰退していくよね。

NaoyaOgawaPART2

——そうなったときに、小川さんはどういうスタンスでいるんですか？

小川　やっぱり、両方できるスタンスじゃないと。そのときそのときにいろんな波があるんだから、大きな波を逃さずに乗れるようにしていかなきゃならないだろうね。いまの俺の状態っていうのは、確かにいるはずの魚の姿が、姿を見せたり見せなかったりの状態だよね。

——「小川はプロレス業界の心地よさに慣れてきたんじゃないか。小川はプロレスにとっての『外敵』じゃないと魅力がない」という人もいますね。

小川　逆に、プロレスを攻撃したら簡単だもん。プロレスの外に出て攻撃するのなんて。いまはそればっかりっていう雰囲気もあるでしょ。それに、いまのプロレスは攻撃する対照でもないんじゃない。

——11月と噂されてる高田戦、それから明日の猪木軍とK―1の結果によっては、この秋には大きな出番が増えそうですね。

小川　俺はやったって「逃げてる」って言われるんだからね、どうしようもないよ（笑）。やっぱり猪木さんが、いままでは対『PRIDE』でやってたはずが、いつのまにか対プロレスになっちゃってるから。そのプロレスが、どうしても、ちっちゃく見えちゃうのは仕方がないね。新日本は脱・猪木とかわけのわからないこともやってるし、俺が言うのもなんだけど、もう少し、みんな真剣にプロレスのことを考えたほうがいいよ。

——おお、小川さんが言いますか！

小川　たしかに、いまのプロレス界のスケールちっちゃくなってるよ。でも、ちっちゃくなりすぎたものを、また大きくするのって凄ぇ気持ちいいと思うんだよなぁ（笑）。

——ガハハハ。たしかに聞いてるだけで気持ちよさそうです（笑）。

小川　だから、例えば『コロシアム』とか、そういうものに力が付いて、逆にそっちが面白くなれば面白いよね。「毒をもって毒を制す」じゃないけど、『PRIDE』を毒とするんであれば、『コロシアム』とかに復活してもらって、そっちの毒で制すと。『PRIDE』は猪木さんの冠ついてるし、一人勝ち状態だから。でも、俺はプロレスというものの勢いを復活させたいから、『PRIDE』に出ていくときも、K―1に出ていくときも、プロレスラーとして出て行くんだよ。あれも、ひとつのプロレスだと捉えてね。

——プロレス界には押せ押せムードが足りないって、猪木さんも言ってましたね。

小川　だから、いまプロレス界は、耐えな

がらも攻撃しないといけないでしょう。

――対K―1は、そういう意味ではいいチャンスだし、いい刺激になりますよね。

小川　アントニオ猪木の思想のもとに、みんな集って討って出ればいいんだよ。おれは軍団とかなんとかは嫌いだけどね。逆に俺なんて、ものの考え方として「プロレスや〜めた、明日から総合格闘家を名乗りま〜す」なんて言えたら、凄ェ楽なんだけどね。だって勝ちゃあいいだけだったら、柔道時代の考え方にスイッチひねればいいだけだから。

――小川さんにとっては、そっちのほうがラクでしょうね。

小川　だって、やったことないものが面白いからっていうんで、プロレスっていう道を歩いていったんだから。プロレスの素晴らしさっていうのがわかったからやってるわけだよ、俺は。それをやめて、いちアスリートに戻れば、感覚としてはラクだよね。でも、それじゃ面白くねぇだろっていうのがあるからね。

――そのプロレス界のスケールがどんどん小さくなってるってことに関しては？

小川　そこまで考えてる俺が、プロレス界の人たちには「小川はわかってない」だのなんだの言われるんだから、不思議なところだよな。だから、「や〜めた」ってなれば、こんなラクなことはないよ（笑）。ある意味では、猪木さんがいまそうですからね。

――かつてのプロレスの役割を『ＰＲＩＤＥ』が担ってる部分もありますけど、その役割を果たして、いまのプロレスで取り返せるのかなっていうのはありますよね。

小川　こんな時代になっちゃったら、もうグチャグチャだしね（笑）。ま、好きでやってるからしょうがないけどさ。

――役割ってものを考えると、昔のプロレスが歌謡曲だとしたら、いま、歌謡曲に近いポジションにいるのが『ＰＲＩＤＥ』ですよね。

小川　昔は、いまみたいに乱立してないんだよね、歌謡界にしても。たとえばチェッカーズだ、中森明菜だとか、そういう人の曲はどんな曲でも売れたけど、アイドル以外の人って、一発屋で終わっちゃったりしてたでしょ。だけど、いまはそれが一変して、自由競争っていうか、専門分野が認知されてきてるからね。

――時代っていうことで考えると、日本の戦後のヒット曲って、歌謡曲が圧倒的に多いですよね。ブラックミュージックだろうがロックだろうがサンバだろうがジルバだろうが、全部歌謡曲に変換して発信してたんですよ。変換しないと絶対に大衆に届かなかった。それを格闘技の世界で言うと、柔道やら空手やら相撲やら、いろんな格闘技を変換させる装置が「プロレス」だったわけですよね。

小川　うん。

――だから戦後、プロレスは大ヒットしたんだけど、いまは宇多田ヒカルなんかでも、ウマイかヘタかは知らないけど、ブラックミュージックのフィーリングそのままを発信しても受け入れられる次代ですよね。だから、『ＰＲＩＤＥ』みたいな専門的な

「プロレス、や〜めた。総合格闘家を名乗りま〜す」って言えればラクだよね

茅ケ崎よ、ありがとう

今回取材に協力してもらったオシャレなお店（死語か？）、『パシフィック　デリ』。茅ヶ崎海岸の近くにあってオーちゃんもときどき立ち寄る。その節は、カメラマンのモーリーが我がもの顔でお店を闊歩し、ご迷惑をおかけしました。
www.pacificdeli.com

モーリーミニ情報

前号の取材時、愛車に、オーちゃんの手によってシールをベタベタに貼られた（フロント＆サイドにも）ＵＦＯ公式出入り禁止カメラマン・モーリー。オーちゃんの取材には絶対に行かないというときまで、このシールは絶対に剥がせませ〜ん（笑）。シムフフフ

格闘技がヒットするのはよくわかるんですよ、構造的に。
小川　それはよくわかるね。
――でも、『PRIDE』が大衆に届く歌謡曲になれるのかっていったら、心もとない。だから、小川さんのように、そこらへんが見通せる選手が悶々とするのは、凄くよくわかるんですよね。
小川　別に悶々となんかしてないよ、俺は（笑）。欲求不満じゃありませ～ん。
――失礼しました（笑）。でも専門的なものが受け入れられる時代だとは言っても、大衆が潜在的に求めてるのは歌謡曲なんですよね。
小川　潜在的にはね。歌謡曲であり、アイドルにもいてほしいというさ。アメリカでも、結局UFCだなんだってね、州によっては「あれはいけませんよ」となって、WWFがあれだけ大きくなってるからね。
――WWFくらいスケールが大きければいいけど、歌謡曲のポジションに戻るには、いまの日本のプロレスじゃあ荷が重いってところもありますからね。
小川　歌謡曲への戻し方だよね。歌謡曲のポジションに戻るパワーは、まだプロレスは持ってるはずだよ。WWFみたいなプロレスは、日本じゃ難しいだろうから。だから、「猪木プロレス」しかないんだよ。それをいま新日本が中途半端にやってるから、『PRIDE』に行っちゃうわけでしょ、猪木さんが。
――だから、小川さんも波が来るまで待ってるだけじゃなく、波をつくるほうに回ってほしいですね、早く。
小川　いや、俺はただ待ってるわけじゃないよ。攻めるときは攻めるし。だから、明日のK―1の結果と内容次第で、俺に出番が来るでしょう。
――マット界が乱れ、混乱したときこそが、オーちゃんの出番！　ですよ。
小川　ところでモーリー。いつまで写真撮ってるんだよ！　この前、車に貼ってあげたオーちゃんシールどうした？　あんだけたくさん貼ってあげたんだから、やさしいでしょ、俺。（その模様は前号に掲載）
モーリー　も、もちろん、まだ貼ってますよ。ウ、ウチの近所のプロレスファンたちが、シールのこと喜んでしょうがないんですよ。「絶対剥がしちゃダメだ」って。
小川　俺、剥がすなんて言ってないよ。
モーリー　いや、お、小川さん言いましたよ。怖いから、は、剥がせないですよ。
小川　俺は「写真撮ったら剥がしていいよ」って言ったのに。まだ貼ってんのって凄いよね。
モーリー　う、小川さんの宣伝カーです。でも、あのあと車壊れたんですよ……。
――ガハハハ！　小川直也の呪い（笑）。
小川　違う！　車が目を覚ましたんだよ。
モーリー　ち、違うんですよ。動かなくなっちゃったんですよ、たぶん、小川さんの呪いで……。
小川　よし！　じゃあ、もっと貼りに行こう！
モーリー　ちょっと待ってくださいよ、お、小川さ～ん。

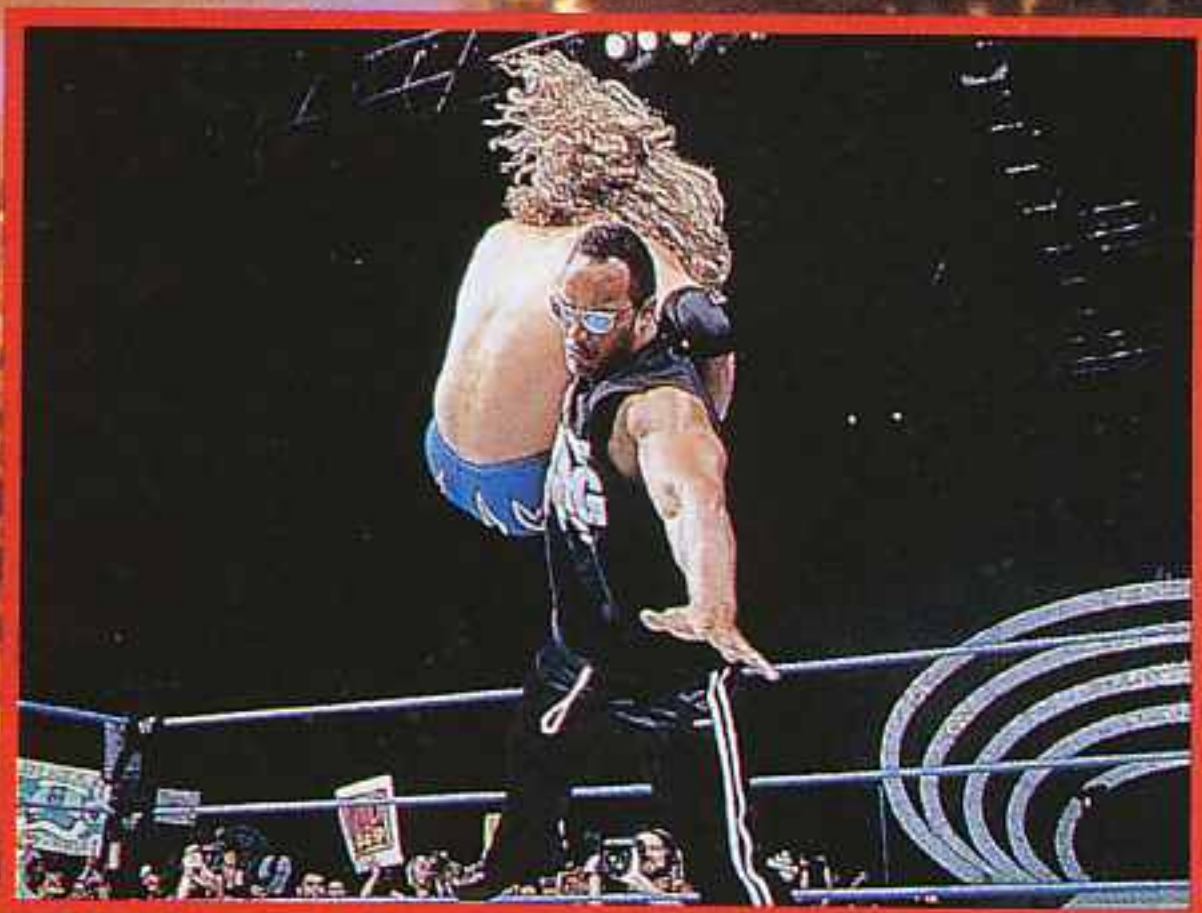
【8月18日／茅ヶ崎にて収録】

そういうわけで、対K―1への出撃態勢はできているオーちゃんだが、その舞台は、噂される12・31のさいたまスーパーアリーナ大会になるのか？　まずは、K―1の10・8マリンメッセ福岡大会に乗り込むのか？　高田戦や破壊王との関係も含めて、今秋のオーちゃんの動向からは、いつ何時でも目が離せない！

NaoyaOgawaPART2

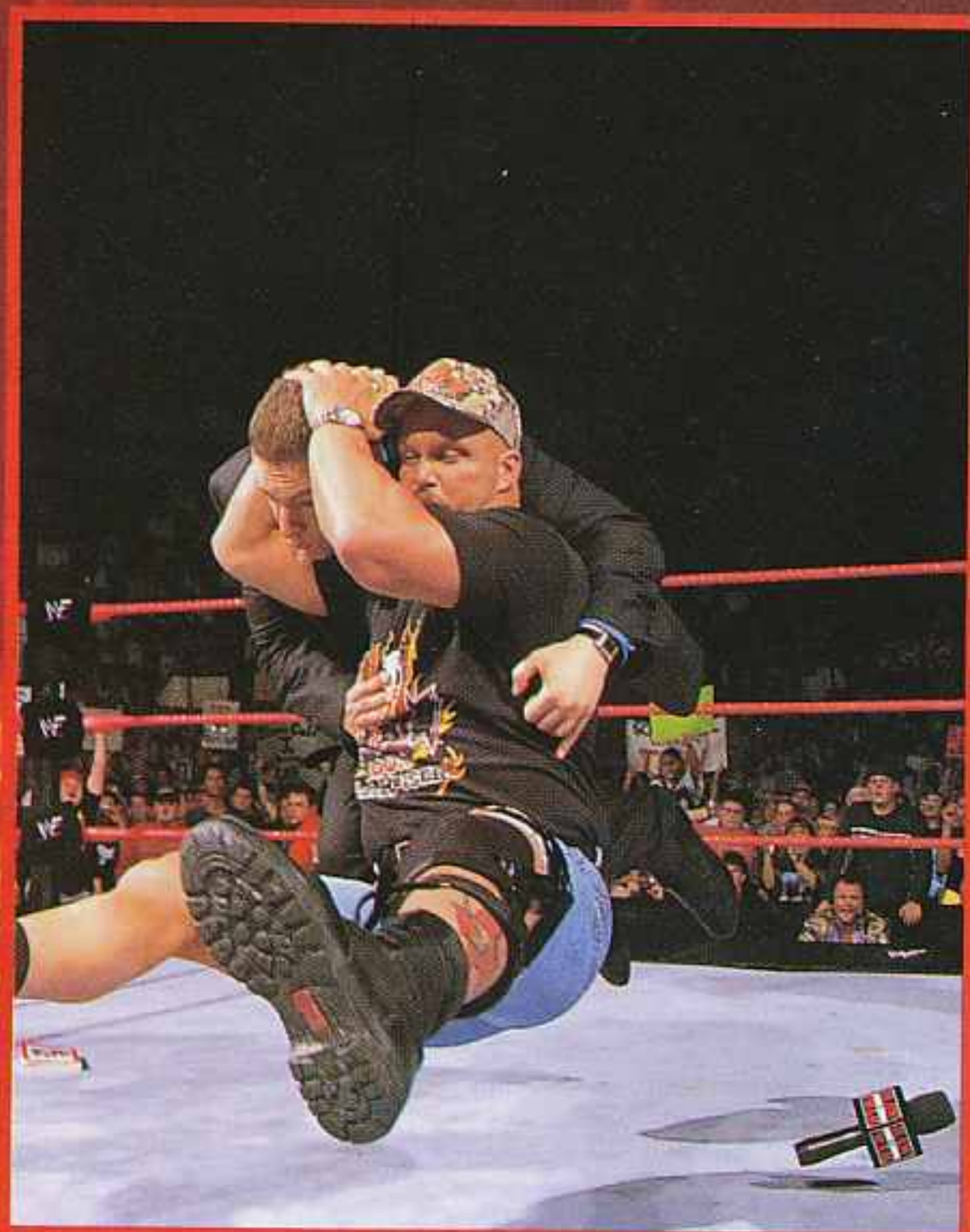
暴走王が教育委員会の招きで講演会

この夏は、由比ヶ浜に海の家を出店したり、K―1ラスベガスに出向いたりと初体験が多かったオーちゃん。
去る7月22日には、徳島県教育委員会の招きで初の「講演会」まで開いてしまった。会場はアスティ徳島という、宇多田ヒカルがライブを行ったこともある近代的なホール。そこに中高生を中心とした約2000名以上の聴衆を集めて行われたのだ。
ドでかいビジョン付きの会場にも関わらず、開始前には県知事の挨拶などもふんだんに盛り込まれ、「小川直也先生」と紹介される、パーフェクトにお堅い進行＆演出。この雰囲気には、さすがの暴走王も開始前は緊張を隠せなかったが、左の写真をよ～く見てほしい。
地元中学の柔道部の女子部員から、図々しくもオーちゃんと共に花束を受け取るのは、本誌鬼畜編集長だ！　どうやら司会進行役を務めたらしい。「山口日昇編集長さん」なんて、女子中学生にアナウンスされてやんの。ぷぷぷ。
夏はアロハ＆ジーンズしか着ない山口が、違和感のあるジャケット姿でいるということは、一応「講演会」ということは知ってはいたんだろうが、この男に「講演会」の司会などできるわけがない。いつものトークショーのノリで進めてしまった。
そんなスーダラな山口につられたわけでもないだろうが、オーちゃんも初っぱなから「元気ですかーーッ！」「文句あるかーーッ！」と飛ばしまくった。
話は、オーちゃんが中高生のときに、何を考え、何をやっていたかなどを中心に語られたが、最後には、中高生がオーちゃんに殺到するシーンも見られた。
この日の話は、時事ネタとは関係ないので、次号でタップリお伝えします（予定）。
「文句あるかーーッ！」

独占スクープ座談会!!

“最後の黒船”襲来に『日本のプロレス』も進路を決めるときが来た!!

10月1日、遂にWWFが日本に上陸する！　この“真の黒船”襲来に『日本のプロレス』は一体どう立ち向かうのか？　あるいは、グレイシー柔術やVTが台頭し始めた頃のように「見て見ぬフリ」をしてしまうのか？　大きな分岐点が目の前に迫ったいま、いよいよ本誌も、本腰を入れてWWFと『日本のプロレス』の行方を語り尽くします！

構成／赤覆面 X　designed by matsu（Two three）

WWFが遂に10月1日から地上波でOA!!

山口　そういうわけで、今日は、ビッグゲストをお迎えしてます。4月に『紙プロ』専属力士を廃業し、現在は某社で営業マンとして活躍中の、WWF大好きっ子、スモー・ノブさんです！（笑）。

ノブ　……あ！　ど、どすこ～い！

山口　このキャラ、久しぶりだから、噛んでるよ（笑）。その相撲用語は暑っ苦しいから、ふつうにしゃべれよ。

ノブ　あ、そうっスか。

豪　しかしまたチンケなゲストですねぇ（笑）。

山口　でも、ゲストはチンケだけど、今日はビッグな話題があるんだよ。いま、スモーがズッと前から唱えていた「WWFは面白い」ということが、ようやく認識されつつあるでしょ？

豪　っていうか、やっと会長（山口日昇のアダ名）に届いたってことなんですけど（笑）。

ノブ　……会長、ひと言いいですか？　遅いですよ！

一同　ダハハハハハハ！

山口　だ～って、ノブがウチでちょこちょこやってた企画読んでも、面白そうに思えなかったんだもん。伝え方が悪い！

ノブ　そ、それはわかりますよ。でも「面白いものを嗅ぎ取る嗅覚がなきゃダメだ」みたいなことを、普段、口が酸っぱくなるくらい言ってる人がね、今年に入ってからやっと見るっていうのがねぇ……。

豪　でも会長が凄いのは、カブれて1週間ぐらいで、チョロやガンツに「お前ら、WWF見なきゃダメだ、遅いよ！」って説教してたからね（笑）。

山口　俺は、伝えるときは犬や猫にでも広まるくらい強引に伝えるからね（笑）。『紙プロ』にも「日本のプロレスは全然見ないから知りません。WWFオンリーで～す」っていう16歳の女の子のハガキが来るくらいだから、明らかに新しい風が吹いてるわけでしょ。で、とうとうWWFをみんなに見てもらうチャンス到来！　スクープ情報！

ノブ　どすこ～い！

山口　まずは映像だけだけど、地上波！　しかも1時間枠で10月から放送決定！

豪　しかもテレ東！

一同　ガハハハ！

豪　だけど、いま総合格闘技とWWFとモー娘。が、プロレス界にとって明らかに〝黒船〟になってますからね。

山口　モーニング娘。？

豪　いや、これまで一緒にプロレスを語っていた仲間が、次々とモー娘。ファンに転んでるんですよ。これまでプロレスに注ぎ込んできた資金を全部モー娘。に流用するようになってるから、影響は想像以上デカいですよ！

山口　その話は今度にしよう（笑）。とりあえず今回、テレ東の番組プロデューサーの人に話を聞いてきて（P42～参照）、せっかくいろんな話をしてくれたのにこんなこと言うのは申し訳ないんだけど、確かに不安（笑）。……っていうか、テレ東がどこまでこのソフトに力を入れてくるかだろうね。

豪　そりゃあWWFよりモー娘。に力を入れるのは当然の話ですからね。なにしろ放送は深夜なわけだし。

チョロ　2時25分開始！　まだ放映される地方の系列局も決まってません。

豪　その時間帯じゃ、せっかく〝黒船〟が襲来してきたって誰も気付かない可能性があるんですよ（笑）。

山口　でも、新日本の『ワープロ』と同じくらいの時間帯でしょ。平日の月曜だけど。

ノブ　いま『フレンズ』とかやってるじゃないですか。あれみたいな扱いになっちゃうんじゃないかなぁ。

豪　せめて『サバイバー』ぐらい世間で騒がれる位置に行ってほしいよね。

山口　でも、ソフトとしてはそれぐらいのインパクトは軽くあるでしょ。世界で100カ国以上、アフリカの奥地まで知れ渡ってるWWFは、もはや一つのジャンルなんだから。ここはポジティブに捉えよう。放映は、いまWWFが見れるCSのJスカイスポーツよりも、なんと1週間早い！　つまり現場で行われてるものから1週間後には日本で見れるようになるんだよ。どうよノブ、この朗報？

ノブ　嬉しいですね。素晴らしいことだと思いますよ。

豪　ただホントにやり方次第じゃないですか。よくある格闘技番組みたいに、寒い芸人がレポーターみたいになったりとかしたら完全にアウトですよね。

ノブ　でも、そういったマイナス面も予想できるにせよ、放映するって一歩踏み出したことは凄いですよ。

豪　ただ、放映するのは『ライブワイヤー』みたいだけど、ぶっちゃけた話ボクらは見ない番組なんですよね。

ノブ　実際、『ロウ（・イズ・ウオー）』や『スマックダウン』を2時間ブッ通しで見たいのが本音なんですけど。

豪　まあ、毎週4時間見せるのはキツいから、最初は1時間の編集版でいいとは思うんだよね。この『ライブワイヤー』を地上波で見て、それからJスカイの『ロウ』なり『スマックダウン』へ入っていく入り口になればいいだろうし。プロレスファン以外の方が入りやすいわけでしょ。変にこだわりがあると楽しみきれないから。

山口　テレ東も『ライブワイヤー』だけじゃなくて、評判が良ければ『ロウ』や『スマックダウン』や特番（全米PPV）までやってくれる可能性もあるだろうし。

ガンツ　あ、あの、『ライブワイヤー』ってなんですか？

山口　おまえ、ハイアンみたいだな。「呼ばれてきたけど、なんですか？」（笑）。

ノブ　『ロウ』と『スマックダウン』で毎週4時間ライブで放送してるんだけど、それをブッ切

特別参戦!!
帰ってきたスモー・ノブ!!

元・本誌WWF担当者。「こんな会社辞めてやる！」と飛び出してから4カ月。WWF特集を組むにあたって呼んだら「オレたちの時代が来た」と偉そうに豪語。どすこ～い！

座談会出席者　紙プロスーパースターズ？

山口日昇
本誌鬼畜編集長。言ってみればお金のないビンス・マクマホン。4カ月前からWWFを見始めたばかりだがビンスとアングルとリーガルにゾッコン。

吉田　豪
本誌スーパーバイザー。編集部内に数々の謀略を張り巡らしている非常にWWF的な悪意に満ちた男。「断じてビンス派！」というのも頷ける。

グレート・チョロ
「世界のプロレス」といえば日本のインディー団体しか見たことがなく、本物の「世界のプロレス」には縁がない本誌猫戦士。姑息な小ネタはインディー魂？

堀江ガンツ
本誌プロレス博士。最近のWWFは見ていないが、倉持アナ実況&ターザン山本解説のWWFビデオを見まくっていたという。20代にしてすでにオールド・ファン。

興味ないって人に言いたいのは…「おまえら、バカか!」〈スモー〉

りにして選手のイベントの模様とかも加えて、司会者が「こんなことがありました」って紹介しているのが『ライブワイヤー』。

ガンツ　要は『PRIDE』の地上波中継みたいなもんですか?

山口　それに近い……かなぁ?　簡単に言えばダイジェストだよ。

豪　ただ、試合中心の構成だから、舞台裏のドラマが大好物なビンス派としては、ちょっともの足りない部分はあるんだけどね。

山口　WWFを見てる読者は、まだ実際は少ないと思うんだよ。WWFの魅力をさ、よく見てるノブと豪ちゃんに聞いてみたい。

豪　まず、マクマホン一家という本物の家族が、金ならいくらでもあるのにとことん身体を張ってバカをやったり、危険なアクションに挑んだりするっていうダイナミズムが最高ですよね。

山口　バカほど素敵な商売はないって感じだよね（笑）。

豪　あと、たとえばシェーン・マクマホン（ビンスの息子）がWCWを買収したって流れになってたとき、実際にはビンス自身が買収してテレビ放送しつつ若手選手を育てていこうとしてた。ところがTV放送はできず、選手の欠場も多いからWWFとの対抗戦をやらざるを得なくなったとき、それを上手いドラマに仕立て上げるんですよ。「ビンスは放送局に圧力をかけて、WCWの放送ができないように手を回した。だから、闘う」っていうような。乱入とかもマッチメイクを組む上での伏線になるから、ほとんどの試合にテーマがあるっていうのも大きいですよ。

ノブ　だから、素直に楽しめるんですよ。

豪　ただ読者ハガキとか見ても、女子プロとWWFって「別モノだから興味ない」とか言ってる人が多い2大ジャンルですよね。いまは興味ない人と、ホントにそれしか見ない人しかいないっていう。

ノブ　興味ないって人に言いたいのはね……。

山口　なに?

ノブ　「お前らバカか!」と（キッパリ）。

山口　威勢がいいね、今日は（笑）。

ノブ　ホントに面白いものを見逃してると思うんですよ。そういう壁ができちゃうのはしょうがないことだと思うんですけど。

豪　だけど、いま「プロレスがつまらなくなってる」とか言われて、「格闘技がいい」って言われてたけど「『PRIDE』もつまらなくなった」とか一部では言われるわけじゃないですか。それと同時に「レッスルマニアを頂点にしてWWFもつまらなくなった」ってマニアには言われるけど、それであのレベルなんだからとんでもない話ですよ!　それに対抗戦以降、明らかにまたズバ抜けて面白くなってるし。

ノブ　それを伝える活字メディアの人が、いままであんまり頑張ってこなかったんですよ!

山口　お前もだよ!

ノブ　……ボ、ボクも含めてですけど。

豪　ただ、誰の発言も届かなかったんですよね。実際に見るしかないジャンルだから、地上波進出はそういう意味で十分〝黒船〟だと思うんだけど。

ノブ　実物がそれだけ凄すぎるから、実際に活字で伝えるのはもの凄く大変ですよね。

山口　じゃあWWFが地上波で視聴率を取ったとしたら、日本のプロレス界にはどういう影響があると思う?

豪　ビンスにライバル心を燃やす猪木さんが、新日でより実権を握るっていうのはあるんじゃないですか?　対抗策として、より格闘スタイルになっていくというか。いま蝶野がマッチメイク委員会とかやってますけど、蝶野主導だとキャラが被るから太刀打ちできない部分ってあると思うんですよ。

ガンツ　逆にどんどん被ることをしてくる気もしますけどね。いいとこ取りしてるつもりみたいな。

豪　そもそも、いま何が一番凄いって『ビヨンド・ザ・マット』のCMがWWFの興行の中で何度も何度も流されてるんですよ。打ち合わせのシーンとかエグい部分だけをまとめた1分ぐらいのフィルムが。あれはこれからボディーブローのように効いてきますよ、絶対。

山口　それが日本の地上波で流れたらってこと?

豪　プロレスファン以外の視聴者を大量に掴んでるから、Jスカイでもそれだけ流れれば十分ですよ。

山口　じゃあそれがボディーブローのように効いてきた場合、日本のプロレス団体ってどういう態度をとると思う?　全く関係ない出来事として捉えるのかな。「あれは別モノだ」って。

ノブ　海外のものだから、そう言いやすいですよね。

豪　それが気になるから今回テリー・ファンクがどう答えてるのか調べてるんですけど、雑誌によって違うんですよね。「日本は別だ」って言ってるかと思えば、「日本は別だと言いたいが、でもそれもちょっと難しくなってきてる」って言い出したりとか。

山口　で、テレ東のプロデューサーは、あくまでもテレビ局として面白いソフトを流すというスタンスで、日本のプロレス界との軋轢は避けたいらしいんだ。その人はWWFが世界一のプロレスだと思ってるけど、日本のプロレスは別モノでいいっていうんだよ。

豪　別モノで全然いいんですけど、別モノと言い張るには、日本の側

WWF SUPER STARS

★ビンス・マクマホン

言わずとしれたWWFのオーナーであり世界的大富豪であり果てしなく続く大河ドラマの主人公。謀略とセクハラを駆使して〝悪のオーナー〟として君臨。表情が最高に素晴らしい!

★ザ・ロック

世界規模の人気を誇るトップ・スター。「しゃべり」の巧さは史上最高!　映画「ハムナプトラ2」に出演後、「スコーピオン・キング」では主演。撮影で長期欠場したが、最近復帰。

★〝ストーン・コールド〟スティーブ・オースチン

ビンスと抗争を繰り広げて大スターにのし上がったが、今年ヒールに転向。以来、ビンスと仲良しになり〝情けないキャラ〟という新路線をバク進中!　いつ元に戻るのか?

★HHH（トリプルH）

ビンスの娘婿。抜群のカッコ良さで、長年ヒールのトップを張ってきたが、今年5月の試合中に大腿二頭筋を断裂してしまい長期欠場中。その縫合手術の模様までも放送された。

がそれだけの説得力を持たせなきゃいけないわけじゃないですか。

ガンツ　それはですね、恐らく10年前にUWFのブームがあったじゃないですか。

山口　お前はなんでもかんでもUWFだなぁ（笑）。

ガンツ　ええっと、そのときと同じ現象が起こると思うんですよ。UWFはプロレスとは別にUWFってジャンルとして広められたわけじゃないですか。「UWF＝真剣勝負、プロレス＝八百長」っていうふうに、プロレス側は「八百長です」なんて言ってないのに、そういう状況ができたじゃないですか。その対抗策として新日本や全日本がやったのが、試合内容を激しくするとか、両者リングアウトや乱入決着を無くすとかですよね。でも試合のクオリティは上がったって一時は騒がれたけど、結局は人気も下がっちゃった。今回も、従来の日本のプロレスは試合を激しくするとか、格闘性をちょっと高めてみるとか、そういうことをやって、WWFと完全に離れていくような気がしますね。

豪　それが、いまの新日の流れでしょ。変にWWFのスタイルに合わせちゃうと絶対勝てないですからね。

山口　いま"なんちゃってPRIDE"が横行してるけど、あれは『PRIDE』に寄ってるようでいて寄ってないよね。で、WWFにも寄れないとなると、「日本のプロレス」はホントにどうなっちゃうんだろうってことなのよ。

豪　いま、見事にダッチロールしてる感じですもんね。

山口　ここが考えどきだと思うんだよね。真剣に考える材料としてWWFがガーンとブレイクしてくれた方が、「日本のプロレス」というものを、もう一度構築し直せるいいきっかけ、大きな刺激となると思うんだよ。

ノブ　WWFなんかが入ってくると、一番割り食うのがFMWとかですよね。

山口　スケール感が全然違うからね。カツカツでも食っていければいいというんだったら、パロディでもいいんだろうけどね。

"ピープルズ・チャンピオン"（みんなの王者）の異名を持つ、ザ・ロック。アフリカの奥地まで、その名を知られる世界的なスーパースターだ！

豪　日本でエンターテインメントやろうとしても、ビンスがいない以上はどうしようもないし。『ビヨンド・ザ・マット』を見ても、一番面白いのはビンスっていうのがWWFにとって最大の魅力であり、そして致命的な欠陥なんですけどね。

山口　俺はWWFの映像を1回見ただけで、もうわかったね。

豪　なにがですか（笑）。

山口　WWF＝ビンスってことがだよ。DDTやFMWがいっくらWWFを標榜しようとも、レスラーはいても、ビンスがいないのが問題だよ。

豪　それ、最初にボクが言った説ですよ（笑）。

山口　（ムキになって）だって、俺もそう感じたんだもん！　しょうがないじゃん！

豪　ダハハハ。

山口　ビンスはプロレス一家の三代目でしょ。で、このビジネスを必ず世間に届けさせてやるっていう執念を感じるよね。やっぱりプロレスというのは大衆芸術であるっていう揺るぎないものも感じるし。

豪　日本でいま一番ビンスをやれそうなのって、なんだか森下社長のような気もするんだけどね。

一同　ガハハハ！

ノブ　なんでもなさそうな顔して、ひどいことをするっていう。

豪　フリチンになったりとか、シウバあたりに脅されて小便漏らしたりしたら、かなり光るでしょ。

山口　まあ、森下社長はともかく（笑）。ロックとかストーン・コール

★ステファニー・マクマホン

ビンスの愛娘であり、HHHの妻。現在はECWの代表として、兄のシェインが率いるWCWと手を組んで、ビンス率いるWWFを侵略中。嫌味たっぷりのマイクがステキ！

★アンダーテイカー

ハーレイにまたがり、リンプ・ビズキットの曲で入場する"アメリカン・バットアス"なキャラとなったテイカー。妻・サラをストーキングしたWCWのDDPと抗争を展開。

★ケイン

テイカーの生き別れた弟。テイカーとのタッグは"破壊兄弟"の異名を取り、無類の強さを誇っている。入場時に手を振りかざすと、もの凄い火柱が吹き上がる。ズバリ言って圧巻！

★クリス・ジェリコ

ライオン・ハートの名前でWARなどでも活躍したカルガリー出身者。同じくカルガリー出身のクリス・ベノワ（ペガサスキッド）と共闘中。若いファンには絶大な人気を誇る。

ドは作れると思うんだよ。でも、ビンスはつくりようがないもん。成り立ちからして。
ノブ 猪木さんはビンスになれるんですかね？
山口 猪木さんはビンスを超えてるよ（笑）。
豪 両者意識もしてるだろうし。
ノブ 超えてるんだったら、もうちょっとしっかりしろって感じですけどね。
山口 お前、挑発するねぇ。ムカつくなぁ！（笑）。
ノブ ビジネス面もそうなんですけど、じゃあ団体のなにをコントロールしてるんだっていったら、試合も流れもコントロールしてるのか、してないのかわかんない、試合に出ない、歌も歌わない、オシッコも漏らさない……。
豪 WCWの女子マネに惑わされて、フリチンになったりもしないしね（笑）。猪木さんがフリチンになったら抜群なんだけど。
ノブ 実際、やろうと思えば猪木さんもできると思うんですよ。
豪 乞食のコスプレをしたっていうのは、その第一歩なのかな（笑）。
山口 俺は逆に猪木さんにはビンスみたいなことはできないと思うんだよ。だから猪木さん独自のものを世界に発信させようとしてるわけでしょ？
ノブ もちろん、猪木さんはいまのまま十分凄いんですけどね。いま、ある意味で哲学者みたいになってるじゃないですか。
山口 そこなんだよ！ ビンスの哲学はビジネスがベースでしょ。猪木さんも事業欲は旺盛だけど、ビジネスをスッ飛ばしての哲学もある。だいぶ、はしょるけど、そこが東洋文化と西洋文化の違いでしょ。
豪 ベースの発想は同じなんですけどね。驚かしゃいい、みたいな。同じはずなのに、そこに説得力を持たすかどうかっていう。
ノブ どっちがしっくり来たかっていったら、ボクはビンスなんですよ。
山口 それはノブの年代がアメリカ人化してるからなんだよね、脳味噌の構造が。あ！ ここで角回の話だよ！
豪 それ、もう何回も聞きましたよ！
山口 いいんだよ！ 今号から読み出した人もいるんだから、絶対（笑）。あのね、人間の脳には「角回」っていう場所があるの。そこが壊れると、失読症という病気になって字が読めなくなる。英語圏の外人の場合、「角回」が壊れると字がすべて読めなくなっちゃうけど、日本人の場合は、ひらがなとかカタカナは読めて、漢字だけ読めなくなる。だから、新聞を開いても穴ボコだらけに見えるんだよ。
豪 ひらがなやカタカナは角回が司ってないっていうことでしたよね（退屈そうに）。
山口 お前、退屈そうに聞くな！ 俺をVIP待遇しろ（笑）。
チョロ ウヒャヒャ。ターザンみたいですね（笑）。
山口 つまり、日本人の場合は、漢字文化に対応するだけで、その「角回」の容量をすべて使っているということらしいんだよ。だから、モンゴルでも中国でも漢字はあるけども、一通りの読み方しかしない。漢字を幾通りもの読み方をするのは、日本だけでしょ。
ノブ 音読みと訓読みがあるって話ですよね。
山口 それだけじゃねえよ（笑）。日本の場合、音読みや訓読みや、送り仮名を付けたりする。例えば「空」って漢字を「そら」とも「くう」とも読む。「しい」という送り仮名を付けて「ムナしい」とも読むでしょ。「箱」って漢字を組み合わせれば「カラバコ」だし。だから、わかりやすくいうと、「おんな」っていうのは、英語だと「ウーマン」だけだけど、日本の場合は「女」と書いて「メス」ってルビをふることもできるわけでしょ。「女豚」って書いて「メスブタ」って読むことだってできる（笑）。
チョロ メスブタ、いいですねぇ（笑）。
山口 その、漢字を幾通りにも読むという日本独特の文化に対応するためには、さっき言った「角回」の容量をフルに使わなければできない。もの凄く大変なことらしいんだよ。で、ここからが面白い！ 外人はその「角回」の容量を何に使ってるかっていったら、パフォーマンス。つまり、身振り手振り！
一同 （何度も聞いた話な

WWF SUPER STARS

★カート・アングル
佐山聡が製拳道に呼ぼうとした（未遂）アトランタ五輪のレスリング金メダリスト。ご当地の悪口を言いつつ、金メダルを自慢しながら入場するシーンと、そのスネ方は痛快！

★スティーブン・リーガル
ビンスの手先として謀略を張り巡らすWWFのコミッショナー。ド派手なWWFの中で、一部ランカシャースタイルを守り抜く異端の実力者。TAJIRIの保護者でもある。

★ビッグショー
身長224センチ、体重227キロの大巨人。一時不振で二軍に落ちていたが、最近は復調しつつある。最近のエピソードとしては、トリッシュをデートに誘い見事撃沈。

★エッジ&クリスチャン
ゴキゲンなメガネをかけたバカ兄弟。ダッドリーボーイズ、ハーディーボーイズと共に繰り広げたTLCマッチ（テーブル、ハシゴ、椅子を使ったデスマッチ）はすべて伝説的名勝負！

脳味噌レベルで昔と状況が違うから、ブレイクの目はあるよ〈山口〉

ので、無関心）

山口　おまえらさ、もっといいリアクションしてくれない。WWFばりの。しゃべる気なくすよ。

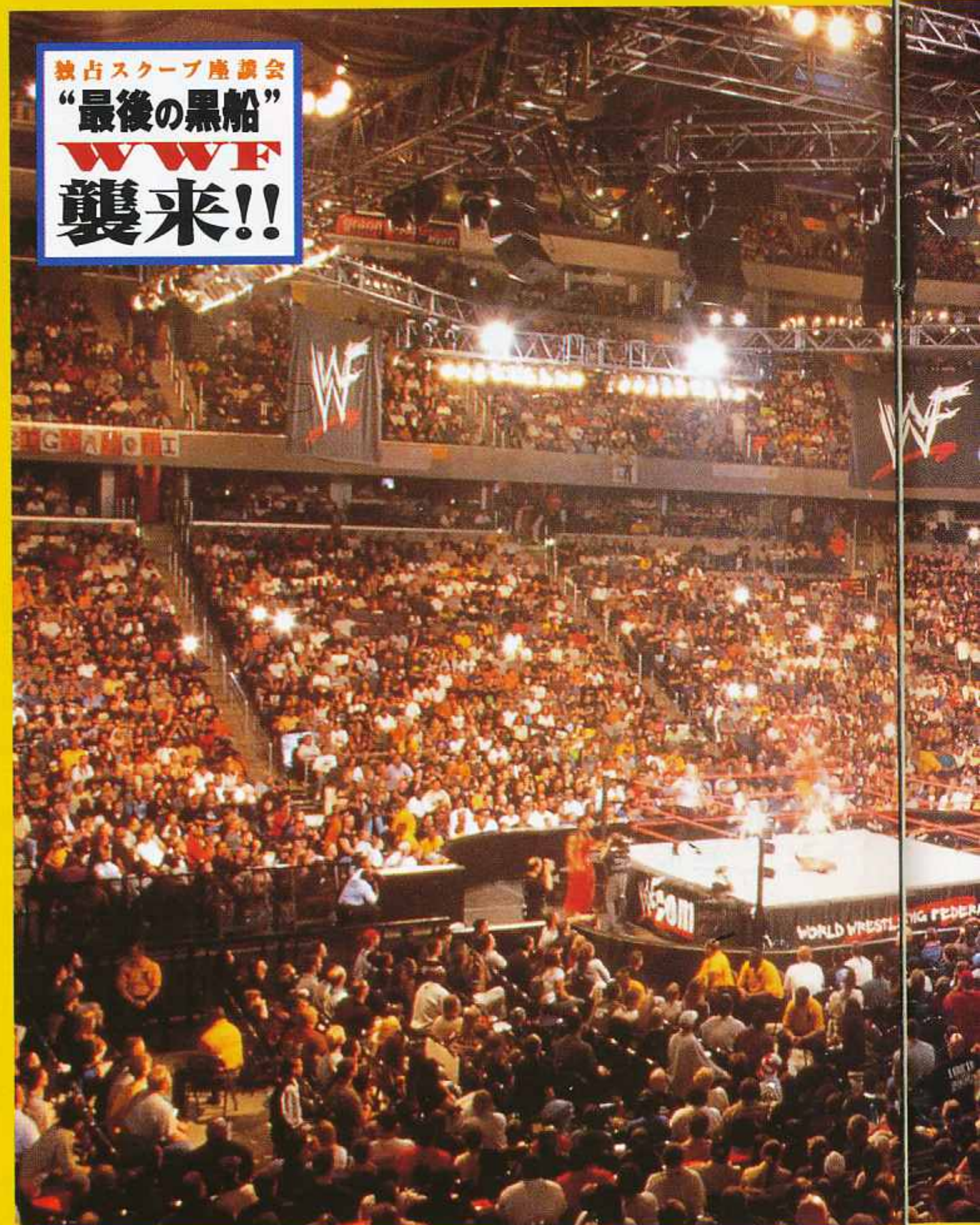
ノブ　ワ〜オ！

山口　もういい（笑）。でね、仮に我々がいままでプロレスというものを、その「角回」周辺の脳を使って見ていたとすると、日本人は「プロレス」という漢字を、音読みで「ショー」、訓読みで「シンケンショウブ」、送りがなを付けたら「ヤオチョウ」とか、幾通りもの読み方をしてきたんじゃないかと。

ノブ　ワ〜オ！

山口（無視して）そういう日本文化圏の独特の見方が、いままでのプロレスの見方の中にあったんだよね。逆にアメリカ人なんかは、「角回」をフルに使ってパフォーマンス文化に対応してるわけだから、プロレスをすんなりパフォーマンス文化として見ているということだよね。

ノブ　なるほど！

山口　そういうリアクションは、しゃべる気になるねぇ、実に（笑）。だから、アメリカ人がパフォーマンスとして秀逸なWWFに熱狂するのもよくわかるんだよ。パフォーマンスとして、いかに相手に伝えるかということを、アメリカ人は「角回」をフルに使って日常的にやってるわけだから。

ノブ　やっとWWFが出てきましたねぇ。

山口　ただ最近の日本人は、脳味噌の構造そのものが変わってきてるんだと思うんだよね。だから、最近のアメリカ人化してるって言われる日本の若者が、WWFにハマりやすいのもよくわかるわけだよ。だから、昔とは脳味噌レベルでも状況が違うから、WWFが日本でブレイクすることもありえるんだよな。で、そういうときに「日本のプロレス」はどうすんの？って話。

ガンツ　これだけ人材がいるのに中途半端なのはつまんないですよね。

豪　ただ『ライブワイヤー』を週イチでやるぐらいだったら、そんなには影響ないような気はするんですよ。試合スタイル自体はそんなに変わるわけでもないし。ただ、「お金をかけてプロレスやってるな」「田尻が頑張ってるな」、みたいなぼんやりした感想しか出てこないんじゃないのかなあ。

山口　これによってさ、テレ東が『コロシアム』と同じように、イベントとしてWWFを呼ぶ可能性が出てきたわけだしね。で、こないだのG1中継なんか見ると、明らかに番組の作り方としてランクが違うじゃない。そこらへんでは影響が出ると思うけどね。

ガンツ　いまよく考えてみると、新日黄金時代のあの展開とかって、その『ロウ』とかなり被るとこってありますよね。国際軍団だったり、維新軍団だったり。で、タイガーマスクがいて、毎週めくるめく人間模様を映し出していた。やっぱり似てるのは黄金時代の新日本ですよね。放送席からして完璧だったし。古舘、小鉄の最強コンビに、解説は桜井さん！

山口　日本で揃える布陣としては昔の新日本は最高だったってことでしょ？

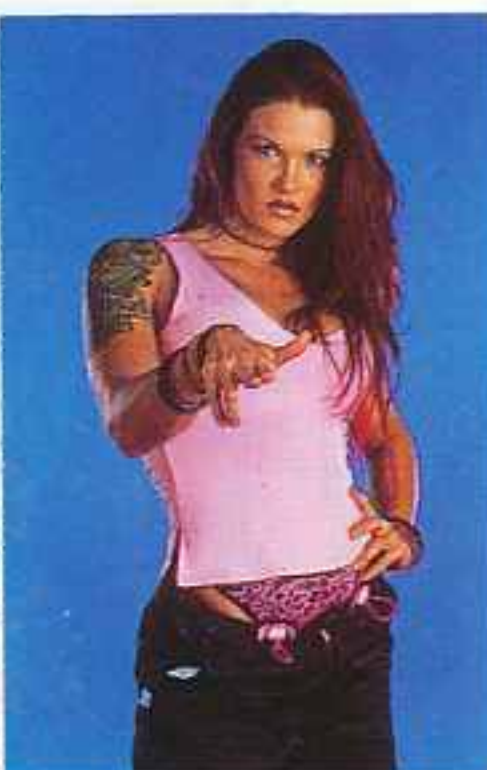
豪　いまの新日はどうしょうもないってことですか？

山口　いや、そんなことないよ（笑）。ドラゴンは面白い。

ガンツ　だから、新日本のあの頃の興奮が全く形を変えて来るようなもんじゃないですか？　それが向こう式になったっていう。

豪　特にストロングマシン時代の新日ってWWFみたいだったじゃんっていう。全日にしても、とにかくレフェリーがフッ飛ばされて失神したり、ヒールが乱入したりする。プロレスってあいうもんじゃんって感じするけど。

山口　でもね、日本のファンは擬音で言うと、〝ワクワクドキドキ〟だけじゃなくて、〝ヒリヒリ〟したいって感覚を持ってるんだよ。でも生ぬるい、〝ヒリヒリ〟だったら、WWFのような、ベタベタでもスケ

独占スクープ座談会
“最後の黒船”
WWF
襲来!!

★リタ
いつも腰のあたりからパンツが見えてるセクシー姉ちゃん。ハーディーボーイズのマットの彼女である。マネージャーだけでなく、試合もする。しなやか＆セクシーなムーンサルトプレスは圧巻。

★クリス・ベノワ
新日本でペガサス・キッドとして活躍後、WCWを経てWWF入り。「日本のドージョー」（P・ヘイマン談）仕込みの〝関節技〟を駆使して、実力者の地位を揺るぎないものとした。

★TAJIRI
タレントの宝庫・WWFの中でも一際輝く超新星！　ひたすら日本語しかしゃべらないのも素晴らしい。もちろん試合もファンタスティック！　文句なし！　行け、TAJIRI！

★トリッシュ
悩殺バディでWWFのありとあらゆる選手を悩殺しまくる危険な女。ちょっと前にはビンスを誘惑して、家族崩壊の火種を作った。ビンスのセクハラを受けて脱がされたりもした。

ールがデカい〝ワクワクドキドキ〟だけの方が、ファンは掴めると思うんだよね。だから日本のプロレスに〝ヒリヒリ〟感が非常に中途半端な形で蔓延してるわけでしょ、『PRIDE』が出てきてからは、特に。いまは「日本のプロレスとWWFは別ものだ」とは言っても、選手や関係者の間からも「もうカミングアウトした方がいいんじゃないか」とか、そういう声が上がってるっていうことは、昔とはかなり状況が変わってきてるよね。

豪 プロレス側でムキになって言い張る人もいないわけじゃないですか。

ノブ 某選手ぐらいですよ。

豪 そのノブに噛みついた某選手が「WWFを勉強したい」と言ってくるぐらい、〝黒船〟として脅威なわけでしょ。

山口 俺が思うのはね、昭和55年前後の、新日本の全盛期の頃のプロレスブームってあったでしょ？ あの頃って文化人やらいろんなジャンルの人がドワーッとプロレスを語ったじゃない。村松友視を始めとして、糸井重里、椎名誠、山下洋輔、唐十郎、景山民夫、高田文夫……。

豪 板坂剛もですか（笑）。

山口 ダハハ。いろんな人がプロレスを語ってたでしょ。その語られるというのがデカイんだけど、WWFはその可能性あるよ。WWFは文化人とかクリエイターとかに見られて語られると思うなぁ。

豪 杉作（J太郎）さんを筆頭にね（笑）。

ノブ いまでも、いろんな雑誌で軒並み連載とか始まってますよね。

豪 ボクの周りでも、編集者レベルでどんどんハマってますよ。そういう人たちが一般誌でどんどん趣味を活かした企画を始めてるから。

山口 だから、実際にWWFを見て、「浅い」と切り捨てられる可能性もあるんだけど、でもこれを浅いと言ったら、日本のソフトの中で、プロレスに限らず、「深い」と言えるものがあるかどうかっていう問題も絡んでくるわけだし。そういう視点からでも語れることはたくさんあるかもしれないよ。俺は語るぞぉ、これから、バリバリ。

豪 わかったから、まずはボクが貸したまま溜まってるビデオを見てくださいよ（笑）。

ノブ 見てないんじゃないですか（笑）。

山口 ガハハハ。だから、WWFの場合、マイクにしてもドラマ部分にしても、ベタベタだよね。でも裏切り方にしろ、くっつき方にしろ、人間の心の奥底に眠ってるものを、ちゃんと明確に表現してるよね。心理劇を噛み砕いてやってるでしょ。だって日本のレスラーのマイクアピールやバックステージでのインタビュー見てみなよ。「ここまでやっと来ましたァ」とか、「俺は突っ走ります」とかさぁ。

豪 ちょっと涙ぐんじゃって（笑）。

山口 いつまでもスポーツ選手の模倣の範疇でしょ。

豪 スポーツを標榜してるから、しょうがないですよ（笑）。

山口 WWFから一番学ばなきゃいけないのは、観客に対する大衆心理操作の部分と、心理劇の部分だよね。

豪 わかりやすく言うと、ドラマ部分でも、マイクでも、人間の醜い感情をストレートに出すっていうことですよね。見栄とかジェラシーとか。

山口 それが日本の場合だと、醜い感情を出した瞬間に、アングラという枠でしかできなくなっちゃうからね。

豪 ジェラシーとかを剥き出しにしてきたのって、たとえば猪木さんがそうでしたよね。いまは藤波ですけど（笑）。

山口 それを大衆に向けていかに表現していくか。表現として昇華させる技量があるかどうかも、これからは試されるでしょう。

豪 猪木さんはプライバシーもなにもかも、リング上にさらけ出して昇華させましたからね。

山口 だから、ベタベタだけども、心理劇の部分。それと、ベタベタだけどもリングでの肉体表現。その二つが過剰に表現されて、しかもその両輪が転がってるから、WWFは凄いなぁって思うんだよ。いまの日本のプロレスは確かに「プロレス」のレベルでいえば高いのかもしれないけど、それだけじゃ、片や『PRIDE』、片やWWF、両端から攻められたら勝てないよ。

豪 日本の試合のレベルが高いっていう幻想もあったけど、いまは各団体の出来る選手がどんどん集まって来てWWFの試合のレベルが上がっちゃってるわけだしね。

山口 俺ね、『ロウ』でも『スマックダウン』でも、試合まで全部見ちゃうもんね。むしろ、試合見たいんだよ。それが自分でも驚いたよ（笑）。日本のプロレスの場合、ビデオで見てたら、必ず早送りするからね、俺。

豪 つまんない選手って新日経験者だったりするんですよね。ベノワとかXパックとか（笑）。

チョロ え？ ベノワってダメなんですか？

豪 全然面白くない！

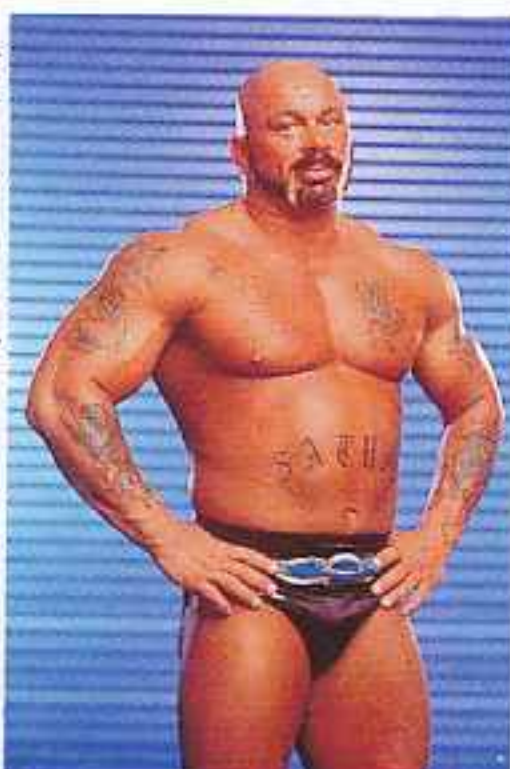
山口 スティーブン・リーガルとカート・アングルには惚れるな。素晴らしいよ、あれは（笑）。

豪 最高の素材ですよ。技術をベースにしたバカっていうか（笑）。

山口 強いけどバカっていうか（笑）。アングルなんて金メダリストだよ、オリンピックの（笑）。日本の金メダリストにはあれはできないでしょ。「なんでみんなは金メダリストの俺をバカにするんだ」って泣くんだぜ（笑）。あれをヒールに仕立て上げる観客も、その予定調和も、その予定調和に潜んでる大衆の心理も、すべてがエンターテインメントになってるところが素晴らしいよね。

豪 みんな心置きなくブーイングを送り。

ノブ デビュー戦からブーイング飛んでますからね。観客がエリートには「ブー」って言うっていうのがわかってるから、最初は普通に試合してたんですけど、試合が終わった

WWF SUPER STARS

★ペリー・サタン
エディ・ゲレロ、ベノワ、ディーン・マレンコと共にWCWからやってきた硬派な実力者。試合中に頭を打ってから突如、豹変！ 白●キャラ全開で変な帽子を被って奮闘中。

★テリー
昔はゴールダストの奥さんだったのだが、離婚。現在はサタンの彼女として活躍。もちろんナイスバディ。突然発狂する（というかいつも発狂してる）サタンの介護にかかりきり。

★KAIENTAI
デタラメな日本語をがなる（声は聞こえないが）と、英語のナレーションが流れてくる吹き替えがバカ受けしたTAKAとショー船木。「Indeed！」のキメ台詞は超クールだ。

★ミックフォーリー
元マンカインド&カクタス・ジャック。今年引退したが、たまに登場しては大声援を受けている。「Have a nice day」「Foley is good」と2冊を出して、どちらも全米ベストセラー！

↑他にもシェーン・マクマホン（ビンスの息子）、ハーディーボーイズ、ダッドリーボーイズと主要キャストはまだまだいるばい（byスモーノブ）

とたんに「なんでお前らブーブー言うんだ、俺は金メダリストだぞ!」って。最初っからあの芸風なんですけど、そういう客の心理を巧みについて、なおかつそれを逆なですることをやるんですよ。

豪　それをまたくだらないギャグに結びつけるしね。金メダルをベノワに盗まれて、ベノワが股間に金メダルを二つしまうんですよ。股間に金が二つっていうくだらないギャグなんだけど、それで2週間ぐらい引っ張るから（笑）。

山口　たぶんWWF見てない人がこの活字を読んでも「くだらねぇことやってんなよ」って思うんだろうけどね（笑）。でも、そのスケール感だよね。くだらないことをいかに大衆に届かせるか。だから、ひと言でいうと表現が凄いんだよね。

豪　バカやるバックボーンっていうか。下地がありながらバカやるっていうのが、ビンスとかでもWCWの女子陣にメロメロにされて、ほぼ全裸になって目を開けたらリンダ夫人が目の前に立ってるとか（笑）。それをやるビンス自身がホモだって説があるわけじゃないですか。ホモがそれやってるとしたら、本当に凄いことですよね。

ノブ　その凄さが届いてないのはマスコミのせいですよ!

豪　いま思えば、ターザンが毎年WWF行ってたのに、毎年夜中までファンと日本のプロレスの話をして、試合は見ないで寝てたっていうのはかなり罪ですよねぇ（笑）。あれもWWFが日本になかなか伝わらなかった原因でもあると思うんですよ。

山口　ターザンのせい（笑）。あの親父の嗅覚は、与作の豚汁とカツオの刺身にしか効かないから（笑）。

チョロ　ターザンは、誰も知らないところでビンスと同じように、シヨンベン漏らしたり、●チン出したりしてるんですけどね。

豪　金と権力のないビンスは寂しいなあ（笑）。

山口　だから、日本人がやるとアングラになっちゃうんだよ（笑）。

豪　『週プロ』の編集長時代にやってたらビンスになれてたけど、辞めてからだからね。ターザンが身体鍛えてたら、確かに面白いよ。

山口　FMWの荒井社長とかさ、貧弱だもんね。ビンス、強そうだもん（笑）。

豪　あのリスクは凄いですもんね。プロレス界屈指の金持ちが、いけない注射を打って、あそこまでの身体作るっていう。

ノブ　話は変わりますけど、なにかっていうと、ブラッシーを始めとする昔のレスラーが出て来たり。

豪　WWFの歴史を紹介する映像は、力道山から始まるからねぇ。

山口　だからメジャーだけども、マニアックなこともやってるんだよ。そのマニアックなことを全世界に広げる能力だよね、凄いのは。やってることはベタベタなんだけど、メジャーのスケールと、マイナーパワーを併せ持ってるよね、ビンスは。

豪　『ビヨンド・ザ・マット』で一番衝撃的なのはプロレスの裏側を暴いたことでも何でもなく、ビンスの裏側がいつものビンスだったたってことでしたからね（笑）。

ガンツ　それが、「プロレス」っていうことなんでしょうね。

山口　そうそう。だからある意味いまの日本のプロレスなんかより、全然プロレスなんだよね。

山口　ノブは、日本のプロレスは、WWFの方向に針を降るために、カミングアウトした方がいいと思う?

ノブ　しなくていいと思いますよ。

豪　ロックとかもインタビューで「日本のスタイルはシリアスすぎて、俺は勝てない」みたいなこと言ってましたよね。

ノブ　実際、日本は日本で凄いことやってると思いますからね。

ガンツ　アメリカの選手は「なかなかあれはできない」って言いますからね。

豪　今回の座談会を根本から崩しちゃうかもしれないですけど、WWFの成功とカミングアウトってほとんど関係ないことだと思うんですよ。

山口　ふ～ん。

豪　ショーって公言したからこそ、あそこまで成功したっていうわけじゃないですよね。ただ、雑誌としてはカミングアウトしてくれた方が絶対面白くなると思うんですけど、試合とは全然関係ないですからね。

ノブ　あれが普通にテレビで流れて

元五輪金メダリストのカート・アングル。『PRIDE』でその勇姿を見たい！と、つい不埒な考えを起こしてしまうが、そのキャラはWWFでしか出せない。

予定調和を望む大衆の裏に潜んでいる心理も含めてエンターテインメントにしてる〈山口〉

Jスカイスポーツで見れるWWF

番組	内容
RAW is WAR（ロウ・イズ・ウォー）	全米で毎週月曜日の夜にライブ中継されている2時間番組。アッと驚くドラマや陰謀やハプニングが毎週のように勃発して、様々な因縁が産まれる。もちろん試合もオモロ。
SMACK DOWN（スマック・ダウン）	基本的に「ロウ」と同じようにドラマと試合で成り立っている2時間番組（最近1時間半に短縮）。「ロウ」で勃発した遺恨はさらにこの番組で深まり、翌週の「ロウ」に続いていく。
LIVE WIRE（ライブ・ワイヤー）	「ロウ」と「スマック・ダウン」のハイライトシーンをダイジェストで見せる1時間番組。月に一度のPPVに到る遺恨の流れをスッキリ解説してくれる。この番組ををテレ東が放送する
SUPER STARS（スーパースターズ）	基本的には「ライブ・ワイヤー」と同じ1時間のダイジェスト番組だが、毎週一本はWWFのスター選手の素顔に密着した企画をやってくれるのがマニアにはたまらない。
METAL（メタル）	「ロウ」「スマックダウン」には出られない若手や前座戦線の試合を放送している1時間番組。だが、実況陣は試合そっちのけで今後の「ロウ」の展開を予想してる場合が多い。
HEAT（ヒート）	毎週NYにあるレストラン、WWFニューヨークで収録されるトーク番組。これまたスーパースターの意外な素顔が見えたりして、マニアにはたまらない1時間番組。

【Jスカイスポーツに関するお問い合せ】
Jスカイスポーツカスタマーセンター
TEL.03-5500-3488（受付時間9：30～18：00）
Jスカイスポーツホームページ　www.jskysports.com

地上最強のプロレスを目指すしか、WWFには対抗できない〈山口〉

たら、やっぱり面白いですもんね。

山口　ソフトの質がいいんだね。

ガンツ　アメリカ人でプロレスをショーだと思ってない人っていうのは、ほとんどいないんじゃないですか？　日本ぐらいですよね、プロレスが真剣勝負として守られてきたのは。

豪　たぶん相撲から来てるからでしょ？　ショー的な試合が混ざってたとしても、あくまでも真剣勝負として見せなきゃいけなかったジャンルの出身者である力道山から始まったんだから。

ガンツ　サーカスからスタートというのとは全然、逆方向ですもんね。

山口　K―1も日本発世界っていうのを掲げてるけど、これから「日本のプロレス」は世界に通用する独自の文化をつくり上げていくしかないね。世界に発信させていくソフトをつくるしかないよ。『PRIDE』ってものが世界にも発信していけるソフトとして育ってきてるわけで、ここでWWFが入ってきたら、プロレスはいまこそ真剣に考えなきゃいけないよ。

チョロ　デスマッチ系はメインストリームには行かないだろうけど、日本のそういうスタイルは受け入れられますよね。それと女子プロレスですよね。マードック、テリー、ルッテンもそうだけど、「あんな凄いレベルのプロレスを初めて見た」って人は多いじゃないですか。

山口　それを言うなら、ノアのレベルの高いプロレスも、受け入れられるでしょ。ただ、それは海外のプロレスマニアにも受けるっていうレベルの話でしょ。俺の言ってるのはそういうことじゃなくて、文化として世界にどうやって発信させていくのかってことだよ。

チョロ　ブンカブンカッ！

山口　（無視して）WWFってナンセンスだよね。余計なことばっかやってるし。やっぱ世界がナンセンスだと思ったり、余計なことやりやがってって思わないと、世界には通用しないんじゃないかな。たとえばUFCなんていうのも、出てきたときには、「あんな野蛮なことやって。ナンセンスだ」っていう目で見られたわけでしょ。そういった意味も含めてのナンセンスね。だから、猪木vsアリっていうのは通用したわけでしょ。ソ連でヴォルク・ハンまで見てたわけじゃん（笑）。

豪　評判は悪かったにせよ、ね。

山口　要はミックスド・マッチだよね。これは日本のオリジナルのプロレスだよ。

ノブ　価値観の違うもん同士がぶつかって、なにをしようってとこから始まってるわけですよね。

山口　見る角度が違えば、凄くナンセンスだよね。でも猪木vsアリなんていうのは世界中が見たってデータが残ってるわけでしょ。

豪　結局はヒトの問題になっちゃうんじゃないですか。プロレスvsボクシングじゃないですもんね。猪木vsアリだから注目された。いまの猪木軍vsK―1軍が問題なのは、それですもんね。あれはプロレスvsK―1であって、藤田vs誰々じゃない。ジャンルvsジャンルじゃ煽るのも難しいんですよ。

ガンツ　誰と誰が闘うのかが重要ですからね。

山口　そうか。結果的には、世界に通用する人間が日本のプロレス界に出てこなきゃダメだってことだね！

豪　要は、ヒトですか。

ガンツ　今日は問題がよくわかりましたねぇ。やっぱり、なんでもいいから凄ェヒトが出てこないと、そのジャンルはダメなんですよ。

豪　いまはそれが田尻なんですか？

山口　田尻はWWFの一員として凄いってことでしょ？ 日本で世界に通用する人って……宮本武蔵！　みんな知ってるじゃん（笑）。

豪　格闘技界で一番通用しますね、誰もが知ってる（笑）。

山口　要は独自の価値観と哲学を持った人。『五輪書』っていうのは世界中でインパクトを与えたわけでしょ。だから日本からは哲学を輸出するしかないんだよね。

豪　マス大山の空手とかもそうだったじゃないですか。技術っていうよりも哲学ですよね。

山口　うん。哲学や思想をどうプロレスとして表現していくかでしょ。

豪　じゃあ、一番通用しそうなのは西村修だったりするわけですか？

山口　ガハハハ！「穀物以外食うな！」っていう思想？（笑）。

ガンツ　試合後にみんなでガンジス川見に行っちゃったり（笑）。

山口　でもやっぱり、哲学や思想だけじゃ届かない。哲学や思想をキチンと表現できなきゃダメだよね。

ノブ　考えると、ヒクソンが一番それっぽいことやってますね。

山口　そうだね。だから、そこで前号の表紙コピーにした『地上最強のプロレス』っていうのを体現できれば、それが「日本のプロレス」として独自のものをつくれると思うんだよ。そういうプロレスを作り上げられるのは、猪木さんか前田日明しかいないでしょ。

豪　でも会長の言う「地上最強のプロレス」っていうのは、コールマンとかケアーとやるってことじゃないんですよね。

山口　そうじゃない。試合スタイルや、ガチンコの選手を引っ張ってきてやるプロレスということじゃないよ。非常にぼんやりとしてるんだけど、ベクトルとして、ホントに地上最強を目指しつつ、職業としてプロレスをやっていくっていう二律背反のものを追い求めるというかね。常にそのベクトルに対して本気になれるかどうかっていうさ。

豪　リング上では強さの片鱗が見えるぐらいでいいっていう。

山口　試合スタイルはなんでもいいと思う。極端に言えば。でも、バーリ・トゥードだろうが、なんだろうが、脅かす存在が出てきたときは討って出れる、裏のサービスをシッカリやると。でも、ふだんプロレスやってると、裏のサービスを忘れていくんだよ。普段の仕事にあまりにもフィードバックされないから。それを忘れない団体が欲しいね。

豪　たとえば新日としては、「『PRIDE』は格闘技なので別モノ、WWFもショーなので別モノ、ウチはプロレスでトップ」って言い張ると思うんですよ。

山口　そうだよね。だからその「プロレス」ってなんだよってことなんだよ。

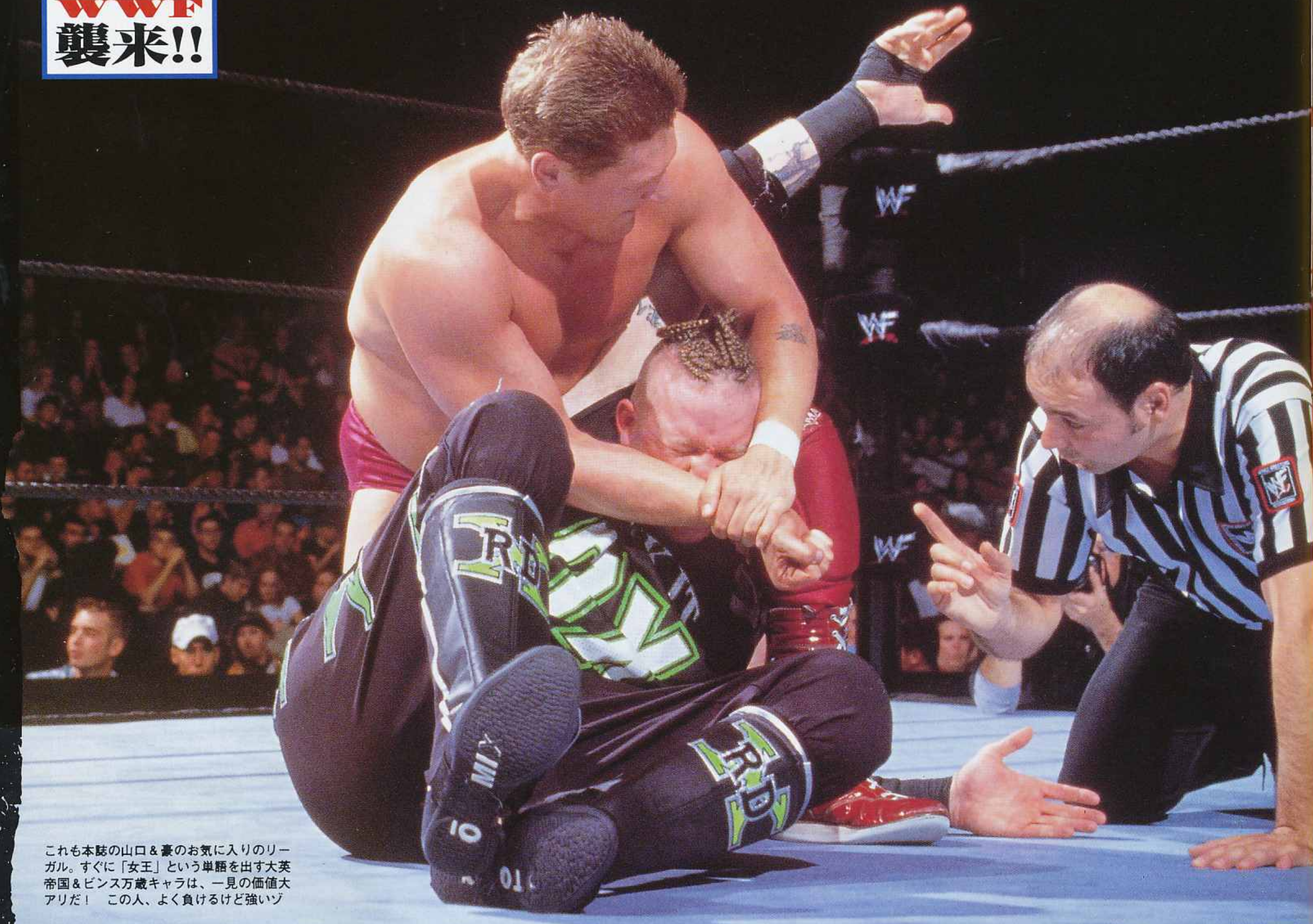
豪　格闘技でもショーでもない。

山口　それに答えを出せるのは、思想的には猪木さんしかいないじゃん。猪木さんはいまリングには上がれないから表現はできないよね。それを誰がやってくれるんだろうっていう期待だよな。

豪　期待っていうか不安ですね（笑）。誰もできないよなぁ……。

山口　ガハハハ！　猪木さんの「プロレスは闘いである」という、格闘技マニアからしてみると、非常にグレーゾーンに見える思想っていうのは、日本の文化として世界に輸出しても通用すると思うんだよね。一番通用しないように見えて。だから、猪木vsアリなんて受けたんだろうし。見ようによっては、幾通りの見方もできるというのは日本のオリジナルだもんな。さっきの

独占スクープ座談会

“最後の黒船” WWF 襲来!!

これも本誌の山口＆豪のお気に入りのリーガル。すぐに「女王」という単語を出す大英帝国＆ビンス万歳キャラは、一見の価値大アリだ！　この人、よく負けるけど強いゾ

漢字文化の話じゃないけど。

豪　猪木もマス大山も、幻想を売ることによって市場を作ったっていうスタイルですけど、WWFって幻想じゃないんですよね。

ノブ　Tシャツを売るんですよ（笑）。

豪　新日なんて完全にそうだったわけじゃないですか。だけど、いまは幻想を売らなくなってきて……。

ノブ　フィギュア売ってますからね。

豪　そうなってきちゃってるから、このままだと大変じゃないの？ってことなんですよね。

山口　うん。つまり、幻想をつくるには、何が必要なんだってことだよね。ヒクソンみたいな選手を世界に売っていけば、日本発世界で通用すると思うもんな。

豪　そもそも、幻想を疎かにしてたところにヒクソンが来ちゃったのも大きかったわけですよね。

山口　いままでのプロレスの道筋を考えたら、あれは日本のプロレスが一番やるべきことでしょ。

ノブ　でも実際に日本人でああいう選手がいたら、絶対、『紙プロ』の恰好の標的になってたと思うんですけどね。

豪　ま、叩くよね。

ノブ「なんで桜庭と試合しないんだ」とか（笑）。

豪「ヒクソンの山篭りを暴く！」とか（笑）。

山口　じゃあ『紙プロ』はプロレスの幻想を壊しまくってたの？（笑）。

ガンツ　ひどい雑誌だなぁ（笑）。

豪　でも、実際、幻想を壊す部分が喜ばれたわけじゃないですか。で、最近ウチが幻想を壊さなくなってからは「丸くなった」とか言われてるわけですけど。

山口　読者は幻想を壊してほしいわけ？

豪　それは潜在的にあると思いますよ。

山口　じゃあ、いま、なんの幻想を壊してほしいんだろ？

豪　いまは破壊するものがないわけじゃないですか。

ノブ　もう、破壊の段階は終わったんですよ。

ガンツ　ああ、そうですね。創造しないとダメですよ!!

山口「破壊なくして創造なし」って破壊王はよく言ったよね。WWFがドーンと来ることによってダメ押しになってほしい願望があるんだよね、俺の中には。そっから、もう一度創造していく機運が本気になって生まれれば儲けもんだよ。

豪　戦後の復興期みたいになってほしいと。

ノブ　どすこ〜い！　ワシがWWFをプッシュプッシュして、日本のプロレスが復興するきっかけをさらに与えるでごわす！

山口　なに最後だけスモーキャラに戻ってんだよ。出てけーッ！

【8月某日／ダブルクロス事務所にて収録】

WWF地上波放送に踏み出した番組プロデューサーのインタビューはP42へGO!!

もう一つの猪木軍vsK-1

仰天!!
10・14
バトラーツで

"イノキ"vsモハメド・アリ戦が実現!!

石川雄規 K-1出場の

締め切り間際に仰天ニュースが飛び込んできた。

10・14――、団体の存亡を賭けたビッグマッチを東京ベイNKホールでブッ放すバトラーツ。

そこで、"イノキ"vsモハメド・アリ戦が実現する!

"イノキ"とは、熱狂的猪木信者として知られ、猪木イズムが細胞レベルまで染み込んでいるバト社長の石川雄規。一方、モハメド・アリとは、今年の4月にK―1のリングに参戦した、あの世界一有名なプロボクサーと同姓同名のオーストラリアの立ち技ファイターである。

すでに8・11のK―1ラスベガス大会で、島田裕二プロデューサーは、石川&アレクサンダー大塚の「猪木軍団」入りをアントン総帥に直訴し、内々に了承は得ていた。だが、まだ正式に許可されたわけではなく、猪木軍団入りの条件として、10・14NKホールで異種格闘技戦を行うことを提示されていたという。

その矢先、8・19に、猪木軍団はK―1軍団に1勝2敗と負け越してしまった。この惨状を見て、石川雄規が敏感に反応。K―1へのリベンジに立ち上がったとい

モハメド・アリ

うわけだ。
　アントン総帥も、石井館長が選出したK―1ファイターと異種格闘技戦を行うことにGOサインを出し、これを猪木軍団入りの選考試合にするという。
　石川サイドは当初、10・14では「こんなバカみたいにスレ切った世の中に、プロレス本来の持つ怪しい魅力を取り戻したい」と、″幻の雪男・イエティ″″謎の怪獣・ヒバゴン″″双頭のヘビ・ゴーグ″″ジャングルの王者・トニー″などのキワモノ相手の異種格闘技戦を考えていたが、一時それらの相手との交渉を凍結。今回の「猪木軍団、K―1に敗れる」という衝撃事実の前に、K―1迎撃に立ち上がったというわけだ。
　石川雄規は、8・21に記者会見を開き、「本来やるべき新日本が立ち上がらないなら、俺が立ち上がるまで。決して逃げないというのが猪木さんの教えだから。たとえK―1だろうが、キャットファイトだろうが、いつ何時でも挑戦は受ける！」と吠えた。
　その後、本誌の徹底取材により、K―1サイドが用意している相手として、アリの名前が浮上したというわけだ。

　石川雄規が、K―1という毒を飲み込むことができるのか、この一戦は要注目だ。
　また、アレクの相手は、7・29『PRIDE.15』で、桜庭和志と闘った「暴走ホームレス」クイントン・″ランペイジ″・ジャクソンに決まったという。
　他にも『PRIDE』ファイターが大挙参戦するという噂も駆けめぐっており、10・14は格闘探偵団の面目躍如となるビッグマッチとなりそうだ。次号でさらに詳報をお伝えする。

【モハメド・アリ（オーストラリア)】マイク・ベルナルドの元でボクシング修行に励んだこともある。今年4月、K―1にも参戦！ 富平辰文にKO負けを喫したが、その闘いぶりはアリ・ボンバイエ！ と評価された

M. Nakagawa

石川雄規

10月14日(日) 東京ベイ NKホール
試合開始午後3時00分
入場料金・特別リングサイド 10,000円　リングサイド 7,000円　アリーナスタンド 7,000円
2階特別席 6,000円　2階指定席 5,000円　2階自由席 3,500円　小中自由席 2,000円（当日のみ発売）
前売発売所・都内各プレイガイド　お問い合わせ 0489(63)0005

日本”がここにある!!

“破壊王”の
ルーツは
荒川さんや!

師弟対談

橋本真也

々掲載!

お楽しみに!!

金原&高山の対談を読むまでもなく、やはり我々が憧れる、正しいプロレスラー、正しいプロレス団体のあり方は、よく食べ、よく飲み、よく暴れ、よくのぞき、よく喧嘩し、そしてよく練習し、すげぇ試合をする豪傑であってほしいもの。

失われた本物の"新

悪いことは
み〜んな私が
教えちゃった（笑）

トンパチ

ドン荒川×

次号堂

そんな要素をすべて兼ねそろえていたのが、昭和新日本で、中でもそれが色濃く残っているのがこの二人であることは言うまでもないだろう。
坂口会長も呆れるトンパチ師弟コンビ対談は次号を待て！

PARCO激震!!

破壊王節

グレートアントニオプレゼンツ　「サマーファイトシリーズ」

“破壊王”橋本真也vs“編集王”サダハルンバ谷川&山口日昇 in PARCO津田沼店

大爆発!!

猪木軍vsK-1をぶった斬った!!

破壊王、PARCOに現る！
『ファスティングジュース』『とうふパン』でお馴染みの、ショップ『グレートアントニオ』が、破壊王のトークイベントを開催してた！　破壊王と言えば、何でもすぐに言ってしまう&会えば誰もが好きになるという、イベントには打ってついけの人材。この日も破壊王節を爆発させてくれた！

構成&撮影／堀江ガンツ　designed by matsu（Two three）

8月5日、千葉県の津田沼パルコで、あの『グレート・アントニオ』主催で、破壊王vs〝タニー&ノビー〟こと『SRS・DX』編集長・サダハルンバ谷川&本誌編集長・山口日昇のハンディキャップ・トークバトルが200人近いファンを集めて行われた。

3週間前のトークショーだが、この後破壊王周辺の状況は、ケアー参戦問題等で急変。マット界の状況も猪木軍vsK—1軍の拡大など、大きなうねりが起きている。

そういう現在の状況を踏まえて、猪木軍団を3週間前に語る破壊王の話は、非常に重要なキーワードが散りばめられていたので、ここに猪木軍関係の話を中心にお届けしたい。

『真撃』とは何か？

（爆勝宣言」のテーマに乗って、破壊王登場）

山口 破壊王・橋本真也選手です！

【大拍手】

（破壊王壇上に登ろうとするも、階段でズルっと滑る）

山口 橋本さん、大丈夫ですか！もう掴むなぁ（笑）。

橋本 どうも。（と言って壇上のソファーに座るも、今度は勢い余ってソファーごと壇上から落ちそうになる）

山口 ホントに大丈夫ですか！もう、2段落ちだもんなぁ（笑）。橋本さん、気を取り直して、よろしくお願いします！

橋本 はい、よろしくお願いします（笑）。

谷川 橋本さん、ボク、そもそもZERO—ONEと『真撃』の違いがよくわからないんですよぉ。まず、それを橋本さんから説明していただきたいんですけど。

破壊王との1vs2ハンディキャップ・トークバウトに挑んだのは、タニー&ノビーこと、サダハルンバ谷川『SRS・DX』編集長と本誌編集長・山口日昇。破壊王にはVIP待遇として、豪華ソファが用意された（落ちそうになったけど）。

橋本 ネスカフェ飲まなきゃわかんないよ。

山口 は？ どういうことですか？

橋本 「違いのわかる男」。

山口 ガハハハ！ そういうことですか。破壊王ギャグですね（笑）。

橋本 俺、アホだと思われちゃうよ（笑）。

山口 で、ZERO—ONEと『真撃』は、橋本さんからすると、どこがどう違うんですか？

橋本 基本的には同じにしたいんですが、まず、3カウントをなくして、KOとギブアップだけ。時間制限もないです。いま格闘技ブームとか言われて、どうしてもプロレスと格闘技が分けられますからね、そうじゃない中間点に立ってやろうと思って。

山口 なるほど。そこらへんは格闘技評論家の谷川さんとしてはどうですか？

谷川 選手は文句言わないんですか？

橋本 気持ちを入れ替えて両方やれ、と。

谷川 それが橋本さんの理想ですか？

橋本 ホントは一つでなきゃいけないと思うんですが、プロレスも「これじゃなきゃいけない」って定義もないと思うんで、いろいろやっていいかなって。

谷川 あとボクが橋本さんに聞きたいのは、サングラスはどこのメーカーのなんですか？

橋本 今日のはちょっと違うんですけどね。

谷川 カッコいいですよねぇ〜。

橋本 スキーのメガネなんですよ。そうじゃないと顔の幅にはまんないの（笑）。だから俺はただ、顔の幅に合うってだけですよ。蝶野ほど似合うとは言わないけど、まあまあだと思うんですけど。

山口 オシャレですよ！

橋本 武藤がかけると按摩さんになっちゃうんだけど（笑）。

山口 破壊王ギャグですねぇ（笑）。

猪木軍とは何か？

谷川 あとボク的に興味あるのはですね、猪木軍団なんですけど。あれ、誰がいて、どういうものか、詳しいとこがわかんないんですよ。

橋本 ハッキリわかんないんですけど、いま決まってんのが俺でしょ？ 小川、藤田、安田、カシン、あと誰だろ？ よくわかんないんですよね。

山口 当事者もよくわかってないんですね（笑）。

谷川 猪木軍団については、橋本さんはどう思われるんですか？

橋本 あのね、「あの頃の新日本を蘇らせるために」って指令を受けたんですけどね。いま、俺だけ仲間外れになっちゃって。

谷川 仲間外れぇ!? それはどうしてですか？

橋本 たぶん、ZERO—ONEだけがホントのオフィスの戦いがないんですよ。UFOにしても、猪木事務所にしても、みんな新日本つながりなんでね。俺んとこだけオフィスのつながりが全くないんでね、そのへんの圧力かな、と。ホントに独立してるんで。あんまりこっちが上がってくるとヤバいんじゃないかって。

谷川 はぁ〜ん、なるほど。でも猪木軍団はボクなんかから見ると、プロレスっていうジャンルより上位概念があるような気がするんですよね。なんかカッコいいですよね。

橋本 『西部警察』の大門軍団みたいな（笑）。

山口 お客さん、わかんないですよ！（笑）。

谷川 猪木軍団対K—1の試合についてはどう思うんですか？

橋本 最初は凄くよかったんですけどね、館長と猪木さんは「キツネとタヌキの化かしあいだ」って俺はいつも言ってんですけど、お互いに引っ込みつかなくなっちゃってますね。

谷川 橋本さんは興味ないんですか？

橋本 俺は先に自分のリングで、角田さんとか、石井館長も協力してくれるって話だったんですよ。

谷川 言ってましたよね、あのへんはどうなっちゃったんですか？

猪木軍vsK—1は 猪木vsウィリーみたいになれば面白い

橋本　それでできるかなって思ってたら、猪木さんに持ってかれましたね（笑）。
谷川　まぁ、石井館長と猪木さんの化かしあいは当分続くでしょうね。
橋本　でも、この猪木軍vsK—1が、昔の猪木さん対ウイリー・ウイリアムスみたいになったら面白いかなって。
山口　猪木軍団vsK—1軍団がバーリ・トゥードルールに近いものであったら、橋本さんはいつでも出て行く覚悟はあるんですか？
橋本　それは前から言ってたことですから。ただし、俺の頭の中にあるのは、アントニオ猪木vsウイリー・ウイリアムスであり、アントニオ猪木vsモンスターマンなんですよ。あの試合は、いま思えばバーリ・トゥードじゃなかったから、よかったんだと思ってるし。
谷川　ルールをお互いに合わせようとしたからですか？
橋本　っていうか、お互いのものが守られてるわけですよね。譲らない部分というのが。いまはなんでもかんでもさらけ出しちゃって、それが受けてるんですけど、守るべき部分はお互いに守ったものでやって欲しいな、と。あのアントニオ猪木vsウイリー・ウイリアムスがさ、「あいつが素手だったら」とか考えたらさ、あとで想像力が沸くもん。
谷川　そうですねぇ。あの頃橋本さんはおいくつぐらいでした？
橋本　中学生でした。で、俺は柔道部だったからね、柔道着の襟に「極真會」って書いちゃったらね、先生に怒られて（笑）。
山口　そりゃ怒られますよ！（笑）。
橋本　それで柔道の試合行くのに、あの頃ウイリー・ウイリアムスがターバン巻いてたから、対抗戦に巻いてったんですよ。
山口　ターバン巻いて柔道の試合ですか！（笑）。
橋本　やっぱそれも怒られてね。自分はウイリー・ウイリアムスのつもりで試合やろうと思ってんのに。
谷川　猪木さんばっかりじゃなかったんですね。
橋本　両方ファンだったんですよ。だってね、俺も猪ぐらいだったら倒せると思って、山に猪探しに行ったことあるよ。
谷川　え！　見つかったんですか？
橋本　いたら逃げてますよ（笑）。
山口　いやぁ、橋本さんは昔っから破壊王だったんですね（笑）。
橋本　俺だけじゃないよ、武藤だって『空手バカ一代』読んで山篭りしてんだもん。夜、怖くなって下山したらしいけど（笑）。

【場内爆笑】

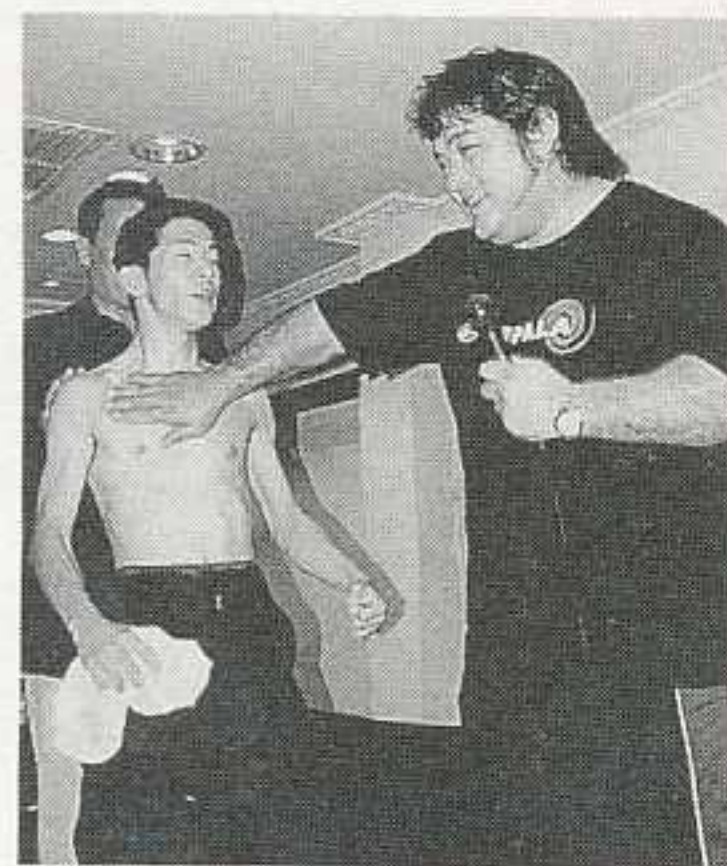
知らない話がたくさん出てきて、「へ〜」「んあ〜」を連発していたサダハルンバ編集長。イベント後は「破壊王ってメチャメチャいい人だね〜」を連発していた。

『火祭り』優勝者には副賞として赤いトラクターでもあげるよ！

「火祭り」とは何か？

山口　橋本さんは、日本テイストが結構似合うじゃないですか。真撃にしても、『PRIDE』みたいな洋名よりも。
橋本　あれ、わざとそうしたんです。『PRIDE』って凄くカッコいいと思うけど、いま海外で漢字ブームなんですよ。海外に行くには、逆に日本を押し出した方がいいかなって思って。
山口　それは賛成ですね。今度の若手のリーグ戦も『火祭り』ですからね。
橋本　あれね、『炎の男』にするか、迷ったんですよ。
山口　リーグ戦の名前だって誰も思わないじゃないですか！（笑）。
橋本　優勝者には赤いトラクターでもあげて。
山口　ガハハハ！　小林旭（「燃える男」の赤いトラクターというCMがあった）ですね、お客さんわかんないですよ！
谷川　……小林旭好きなんですか？
橋本　好きですよ。
谷川　へぇ〜。
橋本　あの人がヤクザ映画でね、白いマフラーをつけて、背広を着てるのがあったんですよ。それを見て、すぐ作ったんですけど、膝下まであるジャケットで、マフラーして、帽子被って銀座を歩いたんですよ。……笑われました（笑）。
谷川　カッコいいですねぇ、似合いますよ。
山口　なんでもやってみたいと思ったらやっちゃうタイプなんですね、橋本さんは（笑）。いま、プロレスの世界になかなかいないですよ。みんな躊躇しますからね。『火祭り』って文字を見たときはビックリしましたね。
谷川　感心しますよぉ。
山口　『G—1リーグ戦』より全然いいですよ！　カッコいいですよ。
橋本　副賞をまだ考えてないんだけど。
山口　副賞が橋本さんへの挑戦権じゃないんですか？
橋本　それはそれでいいけど、それじゃ足りなそうだから、なんかモノで。
山口　トラクターはいいなぁ。
谷川　もの凄くいいですねぇ。
橋本　新日本プロレスみたいに嘘の小切手作ってやろうかな。
山口　ガハハハ！　あれ、嘘なんだ。
橋本　入ったばっかの頃さ、あの特大小切手を「第一勧銀に持ってけ」って言われて、持ってったんですよ。

【場内爆笑】

橋本　銀行で怒られたよ（笑）。
山口　素直なんですよね（笑）。
橋本　（新日本から）金額は出てますよ、ただあの小切手は通用しないんですよ。
山口　そりゃそうですよ（笑）。
橋本　だから、車のデカい鍵と一緒ですよね。田舎モンだからあのときはわかんなかった。
山口　で、『火祭り』は名称としてはいいですよ。
谷川　誰が出るんですか？
山口　大谷選手、アレク選手、石

トークのあと、希望者を募って、闘魂ビンタならぬ、破壊王チョップの儀式を行う破壊王。「はい、がんばって」

川雄規、田中将斗選手。

橋本 どういうテーマかというと、上に俺らトップがいますよね、で、若手でもないし、中堅と言われるような選手でもない、要するにトップの座を狙いたいけど、なかなかチャンスがない、そのチャンスをやろうっていうんで組んだんですよ。

谷川 はぁ～ん。

橋本 あいつら幸せですよ、ライバルいっぱいいますもん。

山口 アレクが最近ちょっと低迷気味なんですけどね。

橋本 また低迷してたらダメだよね。

山口 どうしたらいいと思いますか?

橋本 やっぱり敵を作らないと。バトラーツの中にはもう敵いないでしょ?

谷川 バトラーツを辞めろと。

橋本 出るときが来たんじゃないですか?

山口 橋本さん、引き抜くつもりはないんですか?

橋本 自然とそうなると思ってますんで。

山口 明日の『東スポ』の一面は「アレク、バトラーツ退団」だな(笑)。

橋本 だって、敵がいない状態になったら、そこに骨埋めるんだったらそれで終わるし、もっと上を目指そうとするんだったら、出なきゃしょうがないでしょ。でもアレクは優しいからね。あんな大それた名前付けてるくせに。

山口 ZERO―ONEにアレク選手とか入って来てムーブメント起こすようになったら、新日本にとっては脅威ですからね。

猪木さんの判断で小川と引き離される可能性もあります!

破壊王がプレゼントのTシャツにサインしているため、代わりに、じゃんけん大会で前に立つサダハルンバ。実にじゃんけんがよく似合う男である。

質問コーナー

山口 じゃあ、この辺で質問コーナーに行ってみましょう。はい、君。

客 いまも猪木さんで業界は回ってるんですか?

橋本 影響は大きいですね。ただし、猪木さんを目指しても猪木さんになれるわけじゃないんで。僕らはいかにオリジナリティを出せるか。判断を仰いだりすることはあるんですが、もしかしたらいまZERO―ONEが立ってる位置っていうのは、将来的には猪木さんと反目する可能性があるんですよ。それは決断しなきゃいけないことがあるかもしれないですね。どうしても猪木さんは新日本プロレスのオーナーであって、俺は全く契約してないんで、俺らのやってることは新日本からしたら迷惑なことなんですよ。俺は自分を高めれば高めるほど、将来は敵になる可能性は大きいですね。

谷川 橋本さん自身は新日本に対してはどう思ってるんですか?

橋本 いまは、とにかく時間を置かなきゃいけないと思ってます。誤解が誤解を生んでて、やることなすこと全部反対に取られてるから。

谷川 たとえば、ZERO―ONEを新日本プロレスよりデカい団体にしてやろうとか、新日本プロレス、ブッ潰してやるとか、それぐらいの感じですか?

橋本 対等に立つ団体ではありたい、と。猪木さんも「敵がなくなったら終わりだ」って言ってるし。

谷川 小川選手のUFOとくっつくとか、そういうことはないんですか?

橋本 いま、くっついてる状態なんですけど、猪木さんの判断で小川と引き離される可能性もありますからね。

山口 そうなったら橋本さんはどうするんですか?

橋本 一度そうなったら、とことんやるしかないじゃないですか。たとえば自分のところがメシ食えなくなって、泣き入れたくないじゃないですか。でもね、やれる自信はあるんですよ。負ける気はしないですね、あんまり。それがいいのか、悪いのかはわかんないですよ。

山口 橋本さんは、それだけ大きな負けを経験してるから、それが強味になってるんじゃないですかね。

橋本 それもあるかもしれないですけどね。俺も意地張った以上、どうしても負けたくないんで。新日本ていうのはやっぱり大きな目標ですよね。

山口 では、最後に橋本さんからメッセージお願いします!

橋本 業界の締め付けは厳しいですが、ZERO―ONE、そして真撃を立ち上げた以上、必ず最後までやり遂げます。これからもZERO―ONEを応援してください、よろしくお願いします。これからも夢のカードを実現させていきたいと思います。まずは三沢とのシングルを!

【場内大拍手】

橋本 それでは皆さん、いきますよ。行くぞぉ～っ! 1、2、3、ダーッ!

ZERO-ONEにどんなに苦難が訪れようとも、破壊王のこの明るさがあれば、どーってことねぇよ! 頑張れ、破壊王!

8・30
日本武道館
真撃第Ⅱ章
緊急直前情報!!

橋本真也
&藤原喜明

VS

マーク・ケアー
&ジャスティン・マッコリー

"腐れ縁"の
オーちゃん
8・30は
何処へ……

猪木と絶縁?　小川が撤退?　そして大仁田が"訪問"

破壊王
四面楚歌の大ピンチ

8・30武道館、やれんのかーッ!!

構成・文／堀江ガンツ
designed by matsu (Two three)

いま、破壊王が大ピンチに見舞われている。8・30「真撃」日本武道館大会の全カードが一週間前になってもまだ発表されていないのだ！　カードが発表されないだけなら、ZERO-ONE4・18武道館大会でも三沢と小川のタッグ対決が決定したのはわずか二日前だったので、それほど驚くに値しないだろうが、決定カードさえも白紙撤回されそうな前代未聞の事態なのだ。

なぜ、こんな状況になってしまったのか。ズバリそれは今大会の目玉・マーク・ケアーの参戦を巡って、破壊王とアントンとの間に軋轢が生じてしまったためである。いや、正確には『真撃』と『PRIDE』の間にといった方がいいだろう。

とにかく、これによって、アントン傘下の小川、村上、『PRIDE』と結びつきが強いバトラーツ勢が現時点では微妙となってしまった。もし、彼らの参戦が不可能となれば、これからZERO-ONE、『真撃』が興行を続けていけるかも危うい。はたして8・30武道館は無事開催することができるのか？

破壊なくして創造なし！

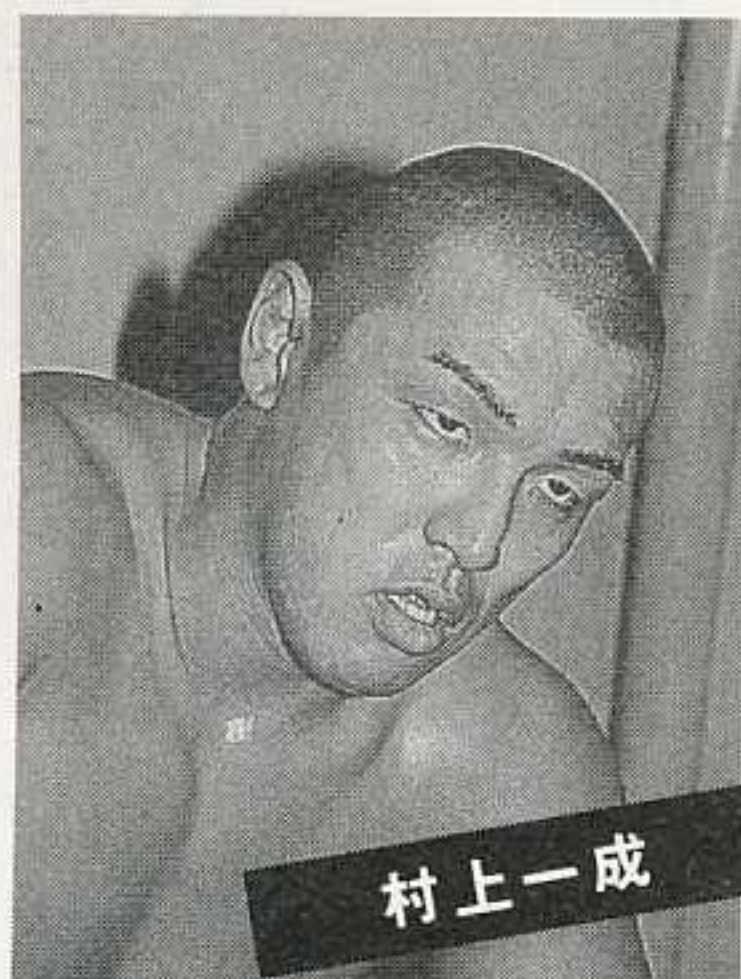
8・30武道館で何が破壊され、何が生まれるのか、その目でたしかめろ！

FIGHTING ATHLETES ZERO-ONE
『真撃』第二章
8月30日(木)日本武道館
橋本真也&藤原喜明vs
マーク・ケアー&ジャスティン・マッコリー
大谷晋二郎vsリー・ヤングガン　高岩竜一vs安生洋二
田中将斗vsジェラルド・ゴルドー　佐藤耕平vsイゴール・メインダート
星川尚浩vsショーン・マッコリー
【出場予定選手】トム・ハワード　アレクサンダー大塚
OPEN17:30　START18:00
【入場料】特別席(リングサイド)20,000円　RS席(アリーナ)12,000円
SS席(スタンド1F)10,000円　S席(スタンド2F)6,000円
A席(スタンド2F)3,000円
【お問い合せ　オデッセー】03-3796-9999

大谷晋二郎プレゼンツ　暑い男のリーグ戦――

9・1開幕迫る!!『火祭り』にみんなカモン!!

ZERO—ONE 7・13Zepp Tokyoにおける大谷の「熱い男たち、集まれ！」という熱い心がリング上に結びつき、9・1から「火祭り」なる2ブロック制の総当たりリーグ戦が開催される。

橋本が「お前らやる気があるなら全員、総当たりでやれ！」と提案したはずなのに2ブロック制に分かれているのは疑問だが、優勝者には橋本真也、小川直也への挑戦権が、2位には赤いトラクター（なぜだ！）があたえられるという豪華プランも練られている。

優勝決定戦はそれぞれのリーグの最高得点者同士によって決定。Aブロックに関していえば、サモア・ジョーとジャスティン・マッコリーは実力的に未知数だが、アレク、村上、田中（将）が横一線に並んでおり、誰が代表になってもおかしくないところ。興味深いのは3人はそれぞれシングルでの対戦はなく、どの対戦も新鮮味があるということだろう。ただ、村上に関してはいまのところケアー問題で出場が微妙なところ。

一方のBブロックは大谷と石川のトップ争いに他の3選手がどれだけ絡めるかがポイントになってくるだろう。中でも注目はZERO—ONE事務所に押し掛け参戦を直訴した、大日本の関本大介である。事務所に出向きながら、橋本はあいにく夏休みで不在だは、オッキー沖田リングアナからは門前払いを食らうはで熱い心に水をさされたかたちになってしまったが、それにもめげず、それならばと大谷に出場を直談判しリーグ戦出場の切符を手にした熱血漢だ。なにはともあれ、G1に出たくても出たくても出れなかった大谷には意地をみせてもらいたいものだ。

村上一成

大谷晋二郎

『火祭り』

【…………9月…………】

1日（土）
後楽園ホール（7:00）
8日（土）
Zepp Tokyo（7:00）
9日（日）
後楽園ホール（6:30）
14日（金）
ディファ有明（6:30）
15日（土）
ディファ有明（7:00）

【………出場選手………】

●Aリーグ●
アレクサンダー大塚
村上一成（予定）
田中将斗
ジャスティン・マッコリー
サモア・ジョー

●Bリーグ●
大谷晋二郎
石川雄規
佐藤耕平
関本大介
ショーン・マッコリー

※2ブロック制、5人総当たりリーグ戦。15日に1位同士の優勝決定戦。

【お問い合せ　ZERO-ONE事務局】
03-5730-3401

元気（とお金）があれば
闘魂猪木塾
にも行ける！

迷わず行けよ
行けばわかるさ！

「第5回闘魂猪木塾 IN USA～自己発見の旅 PART2～」
参加体験記　ツアー参加者◎沢　光（ブルース・リー書籍等出版の出版社勤務）

「元気ですかーッ！ 元気があれば何でも出来る」が塾生の合言葉の闘魂猪木塾、第5回アメリカ篇パート2に参加した生々しい体験を『紙プロ』読者にもお届けします。アントニオ猪木とともに過したライブの時間が猪木信者の共通項であるならば、この猪木ツアーはアントニオ猪木を肌で感じるLIVE感覚の旅。こんな極上の贅沢な時間はそうそうあるものではない。そのほんのさわりだけですが、ご紹介します。いきますかーッ！

猪木さん自身も楽しみにしているという猪木塾長を囲んでのイベント満載（バーベキューパーティ、キャンプファイアー&人生相談、講演会etc）の闘魂猪木塾も早5回を数える。第1回のパラオ（あの時はまだUFOという団体も存在しないながら、佐山、小川も参加。佐山が猪木さんのもとを去った今となっては夢のような取り合わせである）、第2回がカリフォルニア、第3回は『紙プロ』でも紹介され参加者の間では今だに語り草になっているアントニオ猪木とアメリカ大陸をバスで横断するグランドキャニオンツアー、第4回再びパラオ、そして今回第5回はコンセプトとしては大好評の第3回のバスツアーの感動を再び！　といった趣きのアメリカ大陸篇パート2。

自慢ではないが（いやいやこれ以上自慢できることはない）自分は猪木信者としてそのすべてに参加して目下皆勤賞を継続中。同じくある全回参加の人から、「まあ俺も人のことは言えんけど、毎回よく来るなあ」と冷やかされたものです。

1981年夏、『アントニオ猪木と行くパラオ冒険旅行』という企画がTV朝日であり子供の参加者を募ってテレビ放映されたことがあったが、今回も猪木塾生の面々は、子供がそのまま大人になったように眼を輝かせ、参加者27名一同少年少女のように猪木塾長を追っていた。

今回の旅の日程は、6月22日より27日までの4泊6日機中1泊で、24万8千円也。TV・雑誌でしか見たことない猪木さんに直に触れ、話を聞くことが出きる夢のような機会を与えられることを思えば、格安でしょうか。ターザン山本氏によると、この値段は猪木さんとしては大出血サービスということ。今回は初めてマスコミの取材が入り、『FIGHTING TV SAMURAI!』のカメラが常に塾長の一挙手一投足をとらえており、いつもとは若干雰囲気が違ってしまったのが、残念といえば残念でした。これまではツアー参加者だけで塾長を独占していたのが、TVカメラが入ることにより、この秘密同盟とも言える猪木塾が一般のメディアに流れてしまうのはちょっと複雑な気持ちでした（参加者の間からもブーイングとも思える不満の声が上がっていた）。

さすがに5回参加ともなると、猪木塾長と話をするのもさほど臆するところもなくなり、以前には雲の上の人であった猪木さんが手の届くところに来てしまったという矛盾しているが一抹の寂しさを覚えたのも事実。しかし我らがスーパースター、アントニオ猪木と同じバスに乗り直に話を聞けるなどという機会は滅多に訪れるものではない。

塾長お得意のアントン・ギャグ（現役の高校の先生に対して「先制攻撃だ」、「高校出てなくても親孝行してる」など他愛のないものですが）につきあわされながら、その昔、谷津嘉章が新日プロ入団時に「ダメなヤツになるな、凄いヤツになれ！」という下手な駄洒落を飛ばして、後年それが見事に外れたことが頭をよぎりました。

前回のバスツアーの時には途中から娘の寛子さんとサイモンさん夫妻が同乗し（サイモンさんは今回も最終日合流しましたが）、ふと気がつくと眼の前に寛子さんがすぐ隣には猪木さんが座っているという信じられない光景に思わず我を忘れたものです。

ヨセミテ公園を始めとしてアメリカの大自然の中を見学したことよりも、むしろバスの中で猪木塾長と同じ時間を過ごせたことの方がはるかに思い出深い感じがしたのは自分一人でしょうか？　それにしてもバスに戻る時がこんなにウキウキした気分になるなんて（もちろん塾長のソバの席のときという条件つきで）小学校の遠足さながらの気分でした。

そのバスの中での話題は縦横無尽、塾生からプロレス・格闘技の話題を振られれば、誰にも真似の出来ない的確で毒のある答えが返ってくるが、自らの過去の試合については「忘れるのが才能」という本人の言葉通り全く記憶していないのは恐れ入るというか常人の域を越えているところ。

アントニオ猪木の話術はメビウスの輪のごとく変幻自在と称した村松友視ではないが、猪木塾長の話はひとつの話題からありとあらゆる方向に放射線状に飛び火して行き、留まるところ

闘魂猪木塾には欠かせないメニューがこの闘魂棒トレーニング。ついでに闘魂棒も市販しないかなあ？

痛いけど嬉しい！　クイズの賞品に出されたのが必殺のコブラツイスト。どんなグッズにも勝るこれこそ最高の贈り物。

試合前に瞑想に耽る猪木。その光景はおなじみだが、木の上で何を思うか哲学者・猪木塾長？

キャンプファイアー後のダーッ!! 塾長が音頭を取れば一糸乱れず一斉に行くところは、そんじょそこらの宗教団体顔負け。

アメリカに海賊男現る！　ただし正体はガスパーに変身して塾長を襲う闘魂塾には欠かせない名キャラを演じる若社長。

を知らない。

プロレスラー以外にも冒険家・政治家として世界中を股にしてきたアントニオ猪木ならではの豊富な体験を基にした話の数々は、塾長ならではの面目躍如たるもの。

そんな中で心に残っているエピソードをひとつ。交友関係の広い我等が塾長、会社の社長さんに声をかけてパラオに遊びに行くという企画を立てたところ、何と直前に急用が入りキャンセルするお偉方が実に多いということ。「貧しい金持ち」という絶妙な呼び名をつけていましたが、「お金のお金」には執着は示さず、常に自らの本能の赴くままに行動してきた猪木塾長の贅沢な人生を思うと、千金に値する重みのある言葉ではないでしょうか。

今回の参加者も万障繰り合わせて有給休暇を取り、「海外研修旅行」の名目で（確かに研修としてもこれ以上のものは考えられない）会社に休暇届を出してきた人もちらほら見受けられた。

ツアーの参加者はもちろんのこと、いまだに全国区、否全世界区の人気を誇る塾長を見つけた日本人観光客から写真撮影をせがまれると、「撮られる度に寿命が縮まる」とジョークを言いながらも嫌な顔一つせずに100万ドルの笑顔とともに写真に収まるのは、天性のスター・アントニオ猪木ならではのものでしょう。

特にアリ戦の知名度・影響力は絶大で家族連れで来ていたタイの男性が、子供の頃テレビで見た猪木vsアリ戦を熱っぽく語っていたのが印象的でした。

バスの中でも「こんなにみんなから質問されて疲れないんですか？」というある女性ファンからの問いに対して、「皆さんに喜んで頂ければ……」という究極のエンターテイナーならではのお答え。

あげくの果ては、本邦初公開というブラジルで誤ってハンマーを打ち込んで残った足の指の傷をわざわざ靴下を脱いで見せてくれ、サービスもここまで来ると至れり尽くせり。悪乗りして行き過ぎなところは現役時代のファイトそのままでした。

今回の塾長は体調的には最悪で、特に歩くのが辛そうであった。セコイアの山を登る時は本当に不安そうでしたが、「バスを降りると不思議にスーッと痛みが抜けていった」という神がかり的な力を授けられ登頂してしまった。現役時代何度も最悪のコンディションの中、修羅場をくぐり抜けてきた猪木塾長ならではのコメントでした。

また恒例の闘魂棒トレーニングも、塾長自身が体調不良の上に参加者のノリが悪く、それを微妙に感じ取った塾長は早々と切り上げてしまった。思えば第1回のパラオの時には、この後、猪木塾長を囲んで車座になり、まるでお釈迦様の説法を聞くかのような神妙な面持ちで猪木講話会が即席で行なわれたものだった。

ツアーのイベント的には、バーベキュー＆キャンプファイアーそしてフェアウェル講演会が白眉。バーベキューの後のクイズ大会では賞品として、猪木・UFOグッズとともに塾長自らに技をかけてもらうというハンマープライスもどきの「賞品」が用意され、コブラツイスト、チョークスリーパーの2点が披露された。当選者は随喜の涙を流して技をかけられていました。

キャンプファイアーでの人生相談コーナーでは、これから独立する際の心得、男30代の生き方、親友に裏切られたが、といった塾生からのさまざまな質問に自分自身の体験を交えて懇切丁寧に答えて頂き、ここでもまた改めて一レスラーに留まらない人生の導師（グル）たるアントニオ猪木の大きさに魅せられっぱなしの我々塾生一同でありました。

キャンプファイアーの締めは、これも恒例の闘魂ビンタの洗礼。女性参加者も含めて嬉々として塾長のビンタを受ける参加者の面々。端から見ればやはり異様な集団でしょうねぇ。ここでも猪木さんにビンタを食らった後で禊（みそぎ）の儀式よろしくコップ酒を飲み干す者、「もう一発もう一発」と合計5連発のビンタを頂戴した者とあちこちでエキセントリックな光景が見られました。

最後のフェアウェル講演会では、これもお馴染みの参加者の一人が変身した海賊ガスパーの乱入に始まり、「嘘は好きですか？」と大胆な切り口でガチンコの勝負を塾長に挑んだ質問男が登場。そこはセメントでくればセメントで返す猪木さん、この質問に「色々気付かされるところがあった」と真剣に受け止めていたのが、猪木塾らしいライブの1シーンでした。

この後、サイン会、猪木塾Tシャツの贈呈でフェアウェル講演会は修了。バーベキューの時から半ば冗談半ば本気で塾長に迫っていた20代の女性ファンとの熱い抱擁で幕を閉じた（ちなみにこの女性は数ヶ月前に突然夢の中に塾長が現れたのがきっかけでこのツアーに参加したという、まさに神のお告げを聞いたような不思議な因縁でこの場に居合わせていた）。

いつもならこの後で修了証書の授与が行なわれるのであるが、今回は翌日場所を変えて何と藤波社長と登った伝説のトパンガキャニオンの山上で修了証書が授与された。これまでと全く違った趣向の山上での修了式はとても新鮮で、山上の訓戒ならぬ山上の修了儀式は、塾長の修了メッセージとともにこのイベントを心に深く刻み込むようなメモリアルなものとしてくれました。

ここで塾長自身の口から、ちょうど25年前の6月26日、モハメッド・アリ戦が行なわれたことが語られました。偶然とはいえ、思わず神聖な気持ちを呼び起こさせられた一瞬でした。

今回のアメリカ大陸横断パート2、前回のグランドキャニオンに比べるとスケール的に一段落ちるのは否めませんでしたが、アントニオ猪木というでっかい存在のバックスクリーンとして、広大なアメリカ大陸ほど似つかわしいものはないことを改めて痛感させられた第5回闘魂猪木塾でした。

リピーターが半分以上を占めることを見ても、いかにこのツアーが魅力的で楽しいものかということがわかるでしょう。来年は三たび猪木さんの第二の故郷とも言えるパラオを予定しているということ。何を措いても参加しなくては……皆さんも行きますかーッ！

これが猪木塾長からの修了メッセージ（直筆）ダーッ！

「癒しとは許すという行為を通じて可能になる」
イエスの人生やその教えのなかで許すことは、ひとつの完成された霊的な行為だが、それは肉体を癒す行為である。
「悩みごとは全部古い背のうに詰めこんで」
さあ笑って、笑って、笑って。
道はどんなに遠く険しくとも笑いながら歩こうぜ。
元気があれば何んでもできる。
いくぞー 1、2、3、ダー
2001.6.26、25年前の今日モハメット・アリ戦がありました。
闘魂猪木塾参加の皆様へ

フィナーレとなったトパンガキャニオン山上での修了式。塾長の手から塾生一人一人に修了証書が渡されます。上は塾長が最後に読み上げた修了メッセージ。最後のアリ戦のくだりでは思わずジーンと来てしまいました。

世界初のプロレス専門店

レッスル®

営業時間 AM11:00〜PM7:00 年中無休

大好評！アルシオン総集編ビデオ8/下旬発売!!

アルシオンファンのみなさん、おまたせしました▼

「ARSION GRAFFITI 2」

レッスルフェアー、ヤッテマス！
●開催期間7/7〜8/31●

リングス創立10周年記念 DVD BOX

●8/中旬発売 2枚組390分 10,500円 DVD

プロレスから総合格闘技へ。
未開の地平を切り開いてきたリングスの10年間。
格闘史に刻まれた不滅の名勝負を一挙に収録。

1991年〜2001年。今年で10周年をむかえたリングス。前田日明たった一人の旗揚げから始まったリングスであったが様々な選手がデビュー、参戦し、名勝負を繰り広げた。その選りすぐりの名勝負のDVD化！初めてのDVD化の試合を含め全46試合を収録。フライ戦、ドールマン戦、ハン戦、田村戦等の前田の名勝負は勿論だがKOKルールになってからの田村vsヘンゾ、田村vsアイブル、そして6月の金原vsアローナまでも収録。平vs後川、アーツvsワット、佐竹vs長井、田村vsフランク・シャムロック、田中みのるvs坂田、池田大輔vs高阪剛と凄い試合も続々。プロレスファンも格闘技も買うべし。

収録試合

●1991〜前田vsフライ、前田vsハン●1992〜山本vs成瀬、ピーター・アーツvsアダム・ワット、ハンvsコピィロフ、前田vsウィリー、佐竹vs長井、前田vsドールマン●1993〜ドールマンvsフライ、平vs後川、角田vs成瀬、フライvsハン●1994〜前田vsタリエル、前田vsフライ、ズーエフvs長井、ドールマンvs山本、坂田vs田中、高阪vs池田●1995〜前田vsハン、前田vsドールマン、山本vsハン●1996〜モーリス・スミスvs高阪、前田vs山本、フライvs田村、山本vsモラエス、山本vs田村●1997〜前田vs田村、高阪vsフランク・シャムロック、田村vsナイマン、田村vs前田●1998〜豊永vs滑川、高阪vs山健、フライvs金原、前田vs山本●1999〜田村vsフランク・シャムロック、田村vs山本、コピィロフvsカステロ・ブランコ、坂田vsヘンゾ、ヘンゾvsモーリス・スミス●2000〜田村vsヘンゾ、レナード・パバルvsダン・ヘンダーソン、田村vsアイブル、ノゲイラvs田村、金原vsトム・サワー●2001〜成瀬昌由vsリカルド・フィエート、ヒカルロ・アローナvs金原　他全46試合収録

みちのくプロレス・大日本プロレス・バトラーツ 三団体ベストバウト

DVD

〜SELECTED 3 FIRST COMPILATION 〜●7/25発売 123分 5,040円

新世紀のプロレス界を支える、「みちのくプロレス」「バトラーツ」「大日本プロレス」2001年上半期、注目の試合を一挙に収録!こだわりの技で勝負するファイター達が、それぞれの店を守り、時には横のつながりで、ヨソののれんを守ってみせたりもする。…そんな3団体 "SELECTED 3"の闘いの縮図を網羅！これは各団体にとって初めてのDVD！

収録試合

●みちのくプロレス収録試合(3/25.宮城・ZEPP SENDAI)
北海珍念vs折原昌夫、西田英樹vs風神、新崎人生vsつぼ原人、グラン浜田＆タイガーマスク＆浜田文子、ペンタゴン＆アパッチェ＆ファビーアパッチェ、ザ・グレート・サスケ＆ミステル・カカオvsディック東郷＆湯浅和也

●大日本プロレス収録試合(3/26.後楽園ホール)
伊東竜二vs湯浅和也、アブドーラ・小林vsファンタスティック、大黒坊弁慶vs大作、関本大介＆松崎駿馬＆「神風」vs外道＆邪道＆田中将斗、ＭＥＮ'Ｓテイオー＆シャドウ＆ジ・ウインガー＆金村キンタローvs葛西純＆マッドマン・ポンド＆ワイフビーター＆ワイフビーター＆ザンディグ

●バトラーツ収録試合(4/13.後楽園ホール)
アーバン・ケンvs関本大介、土方隆司＆ザ・グレート・サスケvs小野武志＆スペルクレイジー、臼田勝美vsＭＥＮ'Ｓテイオー、日高郁人vs松井大二郎、Junji.com＆アレクサンダー大塚vs高岩竜一＆大谷晋二郎、モハメドヨネ＆石川雄規vs田中将斗＆村上一成

★初回特典！　裏面に選手の直筆サインが入った特性ライナーノーツ入り。さて誰のサインが出てくるのかは開けてのお楽しみ！

DEEP2001

●7/27発売DVD5,040円ビデオ6,930円

2001年1/8愛知県体育館。様々な団体の選手が参加した総合格闘技の大会。一番話題を呼んだのが大阪プロレス、村浜vsホイラー・グレイシーの一戦。元S・Bの王者とはいえ総合ルールの試合ではグレイシー絶対有利と予想されていたが結果は村浜の大金星と言っていい時間切れドロー。他、パンクラスvsリングスと言われた窪田vs上山、異色対決謙吾vs大刀光、山宮、美濃輪らの激闘も収録。

収録試合　木村vsシュリジン・ワレンチン、安生vsチラギシビリ・ギア、窪田vs上山、謙吾vs大刀光、〜引退エキシビジョンマッチ〜　山田vs菊田、石井vsジョルジ・パチーノ・マカコ、藤井vsマルセロ・タイガー、KEI山宮vsパウロ・フィリョ、美濃輪vsヒカルド・リボーリオ、村浜vsホイラー・グレイシー

修斗 2000 BEST

DVD VIDEO

●カラー145分 DVD¥5,880 VIDEO¥6,930

クーバー、マッハ、三島、宇野。ルミナのハワイ初登場とエリック・パーソンのラストファイト。バレット・ヨシダ衝撃の初参戦。アブダビ帰りの刺客を迎え撃った植松と巽の激闘。真夏の横浜決戦。朝日vs植松の世代闘争。そして奇跡的な名勝負が連続したN.K.ホール。昨年行われた数々の試合の中から、選び抜かれた26試合を収録。

収録試合　マッハvs加藤(3.17　後楽園)宇野vsデニス・ホールマン(4.2 大阪)ルミナvs桑原　ノゲーラvs 巽(8.27 横浜)朝日vs植松(9.15　後楽園)五味vsライアン・ボウ　郷野vs須田(11.12 後楽園)マモルvs秋本じん　宇野vsルミナ(12.17 東京N.K.) 他

アルシオン グラフティー 2

〜波乱のARS2001から飛鳥電撃参戦まで〜

●8/下旬発売6,930円

2001年3/20名古屋から7/3後楽園まで3ヶ月間を収録。今回はARSION PREMIUM STARWARS 2001川崎大会、執念の大向優勝のトーナメントARS2001、感動のAKINO凱旋のトーナメントSKY3、7/3二大決戦浜田vs大向、飛鳥vs吉田と大きな試合も多く、見所沢山！白鳥、元川初参戦、POKO登場、勿論、クィーン、ツインスター、スカイ、二上認定ツインスターの各タイトルマッチも収録。試合以外にも府川さよならイベント、大向バースデイパーティー等も収録。今回は藤田選手がニュースキャスター？になり、レポーター高瀬選手と一緒に使ってこのアルシオンの3ヶ月を紹介。藤田選手は勿論ですが高瀬選手がいい味出してます。GAMI面白映像も必見！特に浜田選手と大向選手のインタビューは二人のお互いへの気持ちがわかって、非常に面白い！特別収録として「クィーン・オブ・アルシオングラフティ」として「クィーン・タイトルマッチ全記録を収録。

収録内容

●PIKO・PIKAvsAKINO・藤田(4/15　京都KBSホール)●大向vs　白鳥●AKINOvs　レディ・アパッチェ●浜田vs吉田●大向vsパイオニック●浜田vsGAMI(4/21　川崎市体育館)●大向vsGAMI(4/30　後楽園ホール)●大向・白鳥vs玉・田・チャパリータASARI●三田・下田vs浜田・日向(5/6　ディファ有明)●チャパリータASARIvsファビー●AKINOvs元川●AKINOvsチャパリータASARI(6/3　後楽園ホール)●玉・田・高瀬vsPIKA・POKO●三田・下田vs浜田・AKINO(6/9 札幌テイセンホール)●吉田vs飛鳥●クィーン・オブ・アルシオン・タイトルマッチ・浜田vs 大向(7/3 後楽園ホール)●特別収録　クイーン・オブ・アルシオン・タイトルマッチ・グラフィティ

長州力 革命伝説

DVD

〜熱き魂の記録〜

●6枚組31,500円

昨年電撃的に現場復帰した新日現場監督でもある長州のレスリング人生の集大成DVD。藤波、猪木、天龍、橋本、蝶野戦は勿論、ルスカ戦、ボック戦、カネック戦、藤波と組んでのローデス＆マードック戦、ディノ・ブラボーと組んでのホーガン＆ハンセン戦等マニアックな試合も収録。今年の大阪会の越中と組んでの川田＆渕戦まで収録。

収録試合

●第一章若獅子時代革命への胎動〜インタビュー(デビュー戦、蠍固め、海外武者修行時代、リキ・ラリアット)、vsルスカ(1977/12/1)、長州＆猪木vs上田＆シン(1978/1/13)、長州＆藤波vsバックランド＆ガレア(1978/5/30)、北米タッグ長州＆坂口vsマツダ＆マサ(1979/6/15)、vsアニマル浜口(1982/1/1)、長州＆藤波vsローデス＆マードック　他

●第二章反逆の炎　数え唄〜インタビュー(かませ犬発言事件、維新軍)浜口インタビュー(長州という男)、かませ犬発言事件(1982/10/8)、カーン造反長州＆マサvs坂口＆カーン(1983/1/6)、WWFインター藤波名勝負数え唄(4/3、4/11、7/7、8/4)、vs前田(11/3)、長州＆浜口vs藤波＆前田(12/2)　他

●第三章世代闘争猪木超え〜インタビュー(全日参戦、新日復帰、強行乱入、世代闘争、TV復帰戦)に向けて、長州の中の猪木、猪木戦初勝利、猪木から獲ったもの)、新日に宣戦布告(1987/4/27新日マットへ強行乱入(5/14)、新日復帰第一戦長州＆マシンvs坂口＆高野(6/1)、世代闘争勃発(6/12)、新日世代闘争イリミネーションマッチ(8/19)、長州＆藤波vs猪木＆武藤(8/20)、TV復帰第一戦vs藤波(10/5) 他

●第四章頂点君臨 越境対決〜インタビュー(闘魂三銃士、若い世代へ、藤波辰巳、引退問題)vs蝶野(12/6)、vs橋本(12/7)、vs武藤(1990/5/4)、vsベイダー(8/19)、vs藤波(12/26)、vs蝶野(1991/8/7)、vsビガロ(8/9)、逆下克上宣言(9/23)、vs橋本(11/5)、vs藤波(1992/1/4)、天龍、長州戦直訴(11/23)、vs天龍(1993/1/4、4/6)　他

●第五章ひとの決着 G1制覇〜インタビュー(長州力のプロレス、アキレス腱断裂、後輩達へのメッセージ、新日本と他団体の差)、復帰戦vs藤原戦(1994/1/4)、vs馳(5/4)、vs橋本(6/15)、vs蝶野(8/3)、vs武藤(8/5)、新日vsUインター長州＆永田vs安生＆中野(1995/10/9)、vs安生(10/9)、vs垣原(1996/1/4)　他

●第六章二つの決断 引退と復活〜インタビュー(復帰の理由、完全復活、1/4橋本戦を前に、川田戦を控えて)、長州＆橋本vsムタ＆蝶野(1997/7/6)、vs藤波(8/10)、vs健介(11/2)、長州力引退記念試合(1998/1/4)、大仁田無法乱入(11/18)、長州と大仁田睨み合い(2000/6/30)、vs大仁田(7/30)、vs橋本(2001/1/4)、長州＆真壁vs天山＆小島(2001/3/20)、長州＆越中vs川田＆渕(2001/4/9)

プライド14

〜藤田vs高山プロレスラー対決魂の激突！〜

●ビデオ7/27発売9,970円 DVD8/10発売5,040円

2001年5/27横浜アリーナ。桜庭不在のプライド14。メインはヘビー級プロレスラー同志の対決となった、藤田と高山の試合は見応え抜群！前回桜庭を破り一躍スターダムにのし上がったシウバは大山を秒殺で料理。ボブチャンチンとアイブルのプライド最強ストライカー対決の結果は判定となった！全9試合収録。

収録試合　藤田vs高山、ボブチャンチンvsアイブル、シウバvs大山、小路vsヘンダーソン、グッドリッジvsオーフレイム、メッツァーvsリデル、松井vsペレ　他

THE CONTENDERS M-1

●カラー86分 税込¥3,675

2001.6.10 Zepp Tokyo。組み技のみに限定されたルールによって、様々なジャンルの競技者が参戦し、驚きのカードが実現することで知られるコンテンダーズ。プロデューサーでもある宇野が今回挑んだ相手は、なんとパンクラスの鈴木みのる。僚友高瀬と組んだタッグマッチながら、見応え充分の白熱した好勝負を展開した。他、トーナメントなど、それぞれが持ち味を発揮。組み技のみの面白さを見せ付けた。

「Navigation to the Bright Destination」

●5,040円

ヘビー級に総勢12人に初代GHCジュニアヘビー級王座決定トーナメントが行われ、栄光の王座に金丸が君臨した。6/24愛知大会で初代王者が決定するまでの激闘を収録。特に6/23の丸藤vsフービーは必見！更にGHCをめぐるヘビーでの新たなる抗争、J.鶴田追悼セレモニーの模様など見所満載。

6/10山梨〜ジャンボ鶴田追悼セレモニー、6/20後楽園〜三沢＆小川＆池田＆丸藤vs秋山＆斎藤＆志賀＆金丸、6/23有明〜フービーvs丸藤、金丸vs菊地、6/24愛知〜金丸vsフービー、池田vs大森、三沢＆小川vs秋山＆斎藤

バトルレヴォリューション 序章

DVD

●5,040円

2000年8/9ディファ有明〜2001年1/18後楽園。揚げ戦からこれまでのメモリアル・マッチの数々を満載した永久保存版。

収録内容●ノア設立記者会見●8/5&8/6旗揚げ2連戦(有明)三沢＆田上vs小橋＆秋山、小橋vs秋山、小橋＆大森vs斎藤＆井上●8/19有明〜秋山＆金丸vs小橋＆力皇●10/8横浜〜小橋＆大森vs秋山＆高山、三沢＆小川vs丸藤＆ベイダー＆スコーピオ＆スリンガー●10/11愛知県〜小橋vs大森●12/23有明〜小橋vs秋山、三沢vsベイダー、橋本vs大森●1/13大阪府立〜三沢＆小川vs橋本＆大塚、ベイダー＆多山vs小橋＆田上

NOAHvsZERO-ONE

〜激突！三沢vs小川〜

●5,040円

2000年12/23有明＆2001年1/13大阪、4/18日本武道館。NOAH、ZERO-ONE、UFO。ついに夢のカードが実現した。4/18日本武道館で行われた「ZERO-ONE真世紀創造2」より、NOAHと他団体の交流戦を完全収録！更に、本大会の伏線となった橋本真也vsNOAH勢の2試合も完全収録。

収録試合●4/18日本武道館〜三沢＆力皇vs小川＆村上、井上＆本田vs橋本＆安田、丸藤vs高岩、杉浦vsアレク●1/13大阪府立体育会館〜三沢＆小川(良成)vs橋本＆アレク●12/23有明〜大森vs橋本

初代GHCヘビー級王座決定トーナメント

〜ノア最強は誰か？〜

●5,040円

新たに設けられたタイトル・GHC(Global Honored Crown)を懸けて総勢16人による頂上決戦が行われた！3/18のディファ有明大会に口火を切り、4/15の有明でついに決着の時を迎えた「初代GHCヘビー級王座決定トーナメント」の激闘を収録。

収録試合●決勝戦〜三沢vs高山(4/15有明)●準決勝〜三沢vs秋山(4/11広島)●準決勝〜高山vsベイダー(4/12大阪)●二回戦〜秋山vs力皇(4/8ディファ有明)●一回戦〜秋山vs大森(4/1福岡)他

GHCヘビー級選手権試合三沢光晴vs田上明

〜頂上決戦第2章、GHC王者vsダイナミックT〜

●5,040円

GHC初代チャンピオンとなった三沢光晴に田上明が挑戦状を叩きつけた！「Navigation with breeze」から5/18に行われた札幌決戦GHCヘビー級タイトルマッチを中心にメインカードを満載したメモリアルDVD。

収録試合●三沢vs田上、森嶋vs志賀(5/18北海道立総合体育センター)●三沢＆小川(良成)vs田上＆本田、秋山＆泉田＆志賀vs斉藤＆森嶋＆力皇(5/12ディファ有明)

ストーリー・オブ・ザ・F8

DVD VIDEO

〜運命と闘う若き勇者たち〜 ●7/25DVD＆ビデオ同時発売約140分各8,000円

2000年11/28後楽園〜2001年5/5川崎球場。FMWの激闘を記録した大好評の年間総集編ビデオ第8弾。2000年11/12の横浜でのビッグイベントの後エース・ハヤブサは怪我の治療の為半年間の戦線離脱を余儀なくされ、雁之助は黒田との戦いに敗れ約束通り引退した。FMWは人気者二人を欠き大揺れに揺れた。しかしこれを期に団体のトップに強引にダッシュをかける男がいた。黒田・最高・哲広である。黒田は仲間を集め「チーム黒田」を結成し、冬木、田中そして治療療養中のハヤブサ、挙げ句の果ては他団体の選手まで噛みつき、今までのプロレスの常識では考えられないような暴走を繰り広げる。果たして黒田はFMWの真の救世主なのかそれとも死神か？そして川崎でのハヤブサの復活、天龍の参戦とFMWのマットは予想できないことが続出！

収録内容　●2000/11/28後楽園〜冬木＆金村＆黒田vs田中＆邪道＆外道、冬木＆金村vs黒田＆田中vs邪道＆外道、GOEMONvs怨霊、アジャ＆京子vsくどあ＆元川●12/10後楽園〜GOEMONvs怨霊、冬木＆黒田＆金村＆くどあvs田中＆邪道＆外道＆中山、京子vs貴子●12/20後楽園〜FMWが「デスマッチ封印試合」を決行！GOEMON蘇生！怨敵・怨霊とタッグ結成！冬木＆黒田＆金村vs田中＆邪道＆外道、新宿鮫＆山崎vsGOEMON＆怨霊、マンモスvs保坂vsくどあ●2001/1/7後楽園〜冬木＆黒田vs田中＆外道、マンモス＆保坂vsGOEMON＆怨霊●1/16後楽園〜冬木vs黒田●2/6後楽園〜黒田＆マンモス＆京子vs冬木＆GOEMON＆怨霊●黒田＆マンモスvs冬木＆サスケ、GOEMON＆怨霊vs金村＆山川、京子＆元川vs下田＆三田●3/5後楽園〜「ネイキッドマン(全裸)マッチ」！黒田vsサスケ、金村＆山川vsマンモス＆くどあ●3/13後楽園〜黒田vs金村、京子＆元川vs風間＆イーグル●4/1後楽園〜冬木vs黒田、金村vsマンモス●4/15後楽園〜黒田＆雁之助＆マンモスvsサスケ＆GOEMON＆怨霊●冬木vs天龍！「15,000Vオクタゴン金網放電爆破一面触発式巨大爆弾サンダーボルトデスマッチ」ハヤブサ＆サスケvs黒田＆雁之助、GOEMON＆怨霊vsスペル・クレイジー＆スーパー・ノバ、マンモスvs金村、京子＆元川vs浜田＆AKINO、リッキー・バンデラスvsチョコボール、くどあ＆山崎＆薫子＆おそろしゴリラvs大矢＆市原＆谷本＆飛田、新宿鮫vsタレッグ・バスカ、リッキー＆牧田vs森田＆佐々木

【はみ出し新作情報……8・1発売 DVD「第2回メモリアル力道山」税込2,940円】

★表示価格はすべて税込です。送料はビデオは1本の場合¥500、2本以上は無料、グッズの送料は、お手数ですがお問い合わせ下さい。

1,000円お買い上げごとにスタンプを1つプレゼント。30個でTシャツ、50個でトレーナー、100個でビデオがもらえる！(店頭・通販共)※割引きもあり。

【通信販売お申し込み方法】 ●郵便振込口座番号　00180-8-65236　レッスル通販

住所・氏名・TEL希望商品名を明記のうえ、現金書留か郵便振込でお申し込み下さい。※振替通販の問合せは池袋店まで。また代金引換(税込¥5,000以上)に限りハガキかFAXでの注文となります。(手数料¥315がかかります)

レッスル渋谷店　店頭TEL.03-3464-0078　通販部＆FAX.03-3464-1780
〒150-0043　東京都渋谷区道玄坂1-17-2　第2野々ビル3F

レッスル池袋店　店頭TEL.03-3989-0056　通販部＆FAX.03-3987-7817
〒170-0013　東京都豊島区東池袋1-36-3　池袋陽光ハイツ306

南口徒歩4分
第2野々ビル3F
(1F茜屋)
井の頭線ガード
横浜銀行
渋谷中央街
住友銀行
KENWOOD
東急プラザ
南口
渋谷駅
玉川通り
首都高速

東口徒歩5分
豊島区役所真向かい
池袋陽光ハイツ3F
(1Fうどん屋)
サンシャイン通り
豊島区役所
ビッグカメラ
東口
至上野
池袋駅

はみだし先取り情報 ノア…7/27・武道館大会ビデオは、9/21・5,040円で発売決定！

紙のプロレスRADICAL

2001 No.41 CONTENTS

No.41 Main-Event

No.41 Semi-Final

Radical Fight

Columns

Another

RADICAL特製ピンナップ

恋敵はスーパーバイザー――ぼん

Cover Model
ビンス・マクマホン
その他

Art Director
出田さん● San Ideta

Design
Two Three
ヒサくん● Kun Hisa
マツくん● Kun Matsu
村松さん● San Muramatsu
グッチー● Gutty
ミネ● Mine

Saotome no jimusho
トメオ● Tomeo
ハナエ● Hanae
あっちゃん● Atchan

ZERO graphics
海老沢勇● Isao Ebisawa
古賀ゆきえ● Yukie Koga

※RADICALの意味は……「根本的」「根源的」だって?
ふ〜ん、じゃあストロボって何か知ってる?

㊗WWF地上波放送決定!!

世界最高峰のプロレスを味わいやがれ!

独占スクープ!!

"黒船"WWFが今秋、遂に日本上陸!! TV東京で10月放送開始!!

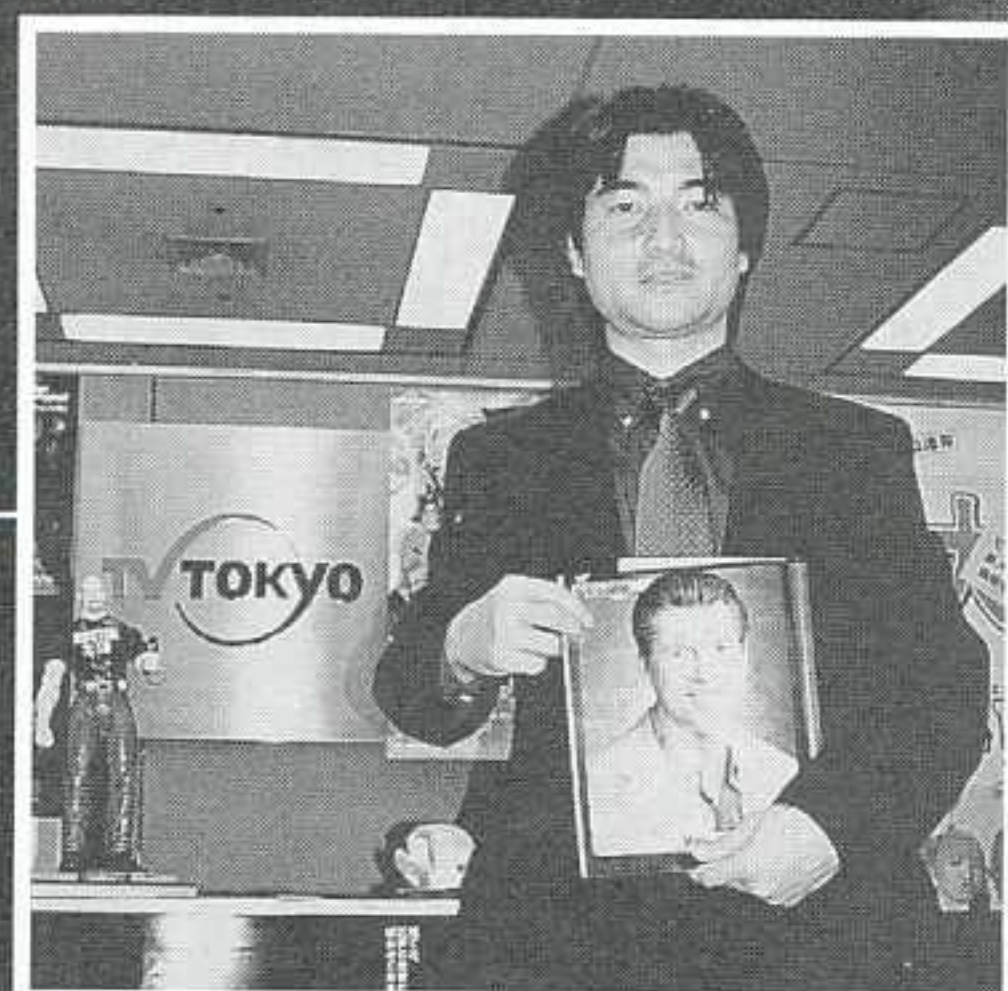
というわけで、日本のプロレスファンに朗報だ！　全米を、いや世界を制圧したWWFが日本の地上波で放映されるのだ！　ウソじゃないぞ！　ホッペをつねってみればいい、痛いでしょ？　新日本、ノア、全女に次ぐ地上波のソフトとしてプロレス界に殴り込みをかけてくるのだ。珍しく独占スクープをキャッチした本誌は、ことの真相を確かめるべくテレビ東京に乗り込んだ！　今、この大異変の真相が明らかになる！

聞き手／山口日昇　構成／坂井ノブ　撮影／松澤チョロ

designed by matsu (Two three)

WWFを日本に輸入した仕掛人が独占激白!

【TV東京プロデューサー】
秋間眞良

テレビ東京のプロデューサー。もともとプロレスも格闘技も分け隔てなく愛する秋間氏は、昨年の『コロシアム2000』にも放送のプロデューサーを担当、見事に成功された実績がある。

なんと！　遂に！　いよいよ！
日本でＷＷＦ中継が始まるっ！

　ここ10年間、Ｋ―１や『ＰＲＩＤＥ』といった〝格闘技〟という名の黒船が日本のプロレスを侵食してきたわけだが、〝ＷＷＦ〟というもうひとつの黒船が遂に上陸を果たすのだ！　すでに全米を制覇した今度の黒船は果たして日本のプロレスにどんな影響を及ぼすのだろう。大砲で吹っ飛ばされるのか？　あるいは無条件で開国するのか？　今から楽しみでしょうがない。

　とはいっても、総合格闘技方面からプロレスにアプローチすることが多かった『紙プロ』だけに、本誌の読者が一体どれくらいの割合でこのニュースに驚いているのか、今の段階ではわからない。

　だが、これだけは言える！

　もう、ＷＷＦを見ずに「プロレスファン」は名乗れない！

　つい3カ月ほど前から見始めたばかりの本誌・山口日昇編集長も現在、激ハマり中なのを筆頭に、もはや日本のプロレス関係者で見ていない者はいないと言われるほど、絶大な関心を集めている。これからますます中毒者は増え続けていくはずだ。

　今でもスカイパーフェクＴＶやケーブルＴＶの「Ｊスカイスポーツ」ではＷＷＦを視聴することは出来たのだが、今度はいよいよ地上波で始まってしまう。ただ、「見れば見るほど頭が悪くなる」「毎週続けてみなければならなくなる」「もう、ＷＷＦさえ見ていれば他のプロレスはいらない」という声も挙がるほど中毒性の強い麻薬のような番組である。ビンスが全裸でのたうち周り、ボインの姉ちゃんが机にパワーボムで沈められ、２５００万円のバスが大爆破されるような破廉恥きわまりない内容だ。日本のＴＶ史に金字塔をうち立てた『お笑いウルトラクイズ』にもヒケを取らない過激で、笑えて、泣ける内容である。「果たして地上波で放送可能なのか？」ということは、マニアの間ではずっと心配されてきた。

　しかし、そんな心配はどこ吹く風で夢の企画を実現させてしまったのが……なんと天下のテレビ東京！　これを快挙と言わずに何と言おう？

　というわけで、いち早く他誌に先駆けてこの大スクープを入手した本誌は、その大英断を下した番組プロデューサーの秋間氏をキャッチして、この舞台裏を聞くことが出来た。

　この秋間氏、ただのテレビ屋さんではない。『スポーツ・トゥディ』という番組で「バトル・ウィークリー」という伝説の名コーナーのディレクターを担当していた、といえば10年ぐらいキャリアのあるプロレスファンならおわかり頂けるだろうか？　そして、昨年行われた『コロシアム２０００』の放送を担当した筋金入りの敏腕プロデューサーである。格闘技にも造詣は深い。もちろん大のプロレスファンでもあるのだ！　そんな秋間氏が、なぜＷＷＦを地上波で放送しようと思ったのか？　そのへんのことを突っ込んでうかがってみた。

●

　そもそも、いかにしてＷＷＦが日本で放映されることになったのか？　そのへんの話を聞く前に、本誌がガセネタを掴まされたんじゃないか？と疑っている読者の方もいると思われるので、そのへんのことから確認してみた。

「え？　ガセネタじゃないかって？　それはないです！　これは紛れもない事実です（キッパリ）。10月1日から放送開始する予定です！」

えっ？　かかった費用ですか？　莫大な金額でしたね（しみじみ）

　この一言でご安心頂けただろうか？

　しかし、ＷＷＦの日本での放送は、今まで何度か噂になりながらも、結局実現しないままここまできたという経緯がある。それなりに障害も多いのだろうということは想像に難くない。そのへんの苦労はどうだったのだろうか？

「実現に至るまで、けっこう時間がかかってるんですよね。一番最初に光が見えてきたのは、およそ2年前なんですよ。ＷＷＦの関係者の人間と、たまたま違う海外ソフトの放送権のことで交渉する機会がありまして。それで向こうからＷＷＦの放送の提案が、まずその時にあったんです」

　なんと、ＷＷＦから話が来た！　お高くとまってそうなイメージがあったので、これは非常に意外だ！

「それでぶっちゃけて言うと、ＷＷＦはテレビ東京がＷＷＦのソフトを購入して放送するというスタンスを望んでいたんですね」

　いい話ではあるのだが、当然そこはオトナの社会である。タダで映像の権利をくれるはずがない。目ン玉が飛び出るぐらい莫大なお金が、当然のように必要となってくるのだろう。

「ええ、莫大な金額でしたね（しみじみ）。まあ、御存知のようにプロレスのソフトっていうのは、まだまだ日本では厳しい状況にありまして。未だに『汗臭い』『血が出る』とかいう理由でスポンサーがつきにくいんです。そういった裏事情などを切々と語りまして……その時点では、実現はちょっと難しかったですね。ただ、そこでボクが一つ向こうに提案したのは、『スポンサーさえ付けばボクの微々たる力で番組を成立させる気持ちはある』ということなんです。そんなことをヒントに色々動いていく中で、株式会社ユークスさんがスポンサードしていただけるということになったんです」

　ゲーム・マニアの方ならピンと来ただろう。そう、ＷＷＦの舞台裏や様々な謀略を忠実に再現してしまった名作プロレスゲーム『エキサイティングプロレス』（アメリカでは『ＳＭＡＣＫ　ＤＯＷＮ』というタイトル）の開発を行った会社である。

「ユークスさんも大々的に会社のソフトを広めたいという狙いがあったんですけど、なかなかそれが形に出来なくて。そこで自分がＷＷＦを通じて呼びかけたところ、『やってみようじゃないか！』という決断に至りました」

　ＶＩＶＡ！　ユークスさん！　しかし、ＷＷＦを通じて同じ日本の会社に呼びかけるとは……かなりスケールの大きな話である。

　こうして、実現に向けて動き出したＷＷＦの地上波中継だが、果たして局内ではどういった反応があったのだろうか？

「ＷＷＦというと『世界自然保護団体の番組か？』とかいう感じでしたけど（笑）」

　パンダのマークでおなじみのあの団体である。そういえば、最近プロレスのＷＷＦはパンダのＷＷＦに裁判で負けて、名称変更を余儀なくされているらしいが、まあ、それは余談ということで……話を戻そう。

　それにしても、日本の団体もいままで日本の団体も放映していなかったテレ東が、なぜ突然放映に踏み切ったのだろうか？

「やはり、ＷＷＦの持つソフトとしての価値という部分で決めました。あと世界に目を向けたときに、日本だけが放送されていないんですよ。アメリカではもちろんトップで、ヨーロッパでも人気はバツグンなんです。アジアに目を向けてみても、ＷＷＦ人気は一般市民レベルですごく浸透してるんですよね。でも、日本の場合は一部のファ

ンだけに受け入れられてて、まだまだ浸透していない状況なんで。『なぜなんだろう？』と考えたら、やっぱり地上波で放送しなければ……と思ったんですよね」

しかし、地上波で放送するとなれば、当然敷居も高くなってくるはず。WWFの破壊的な内容が、日本の放送コードに引っかかってくることも考えられる。秋間氏も言っていたように、「プロレス＝流血」といったイメージが付きすぎてスポンサーが集めにくい状況にある。本国アメリカでもあまりの下劣な内容に怒った消費者団体が、スポンサーに圧力をかけて降板させてしまったこともあるほどだ。今回の放送にあたって、テレ東はどういった基準で放送を検討しているのだろうか？　非常に気になる部分である。

「そうですねぇ……全てを見せられるという事は約束出来ないですね。毎週向こうから来る映像を見ながら、判断していくことになると思います」

アメリカも暴力描写にはうるさい国だが、ダッドリーズが70過ぎのお婆ちゃんを机の上にパワーボムで叩きつけるシーンなどが堂々と流れていた。それが日本のTVで放映されたりした日には、快挙と言っていいだろう。

「ああ……そういうシーンは、おそらくNGになるんじゃないかなぁ？　ただ屈強なお婆ちゃんならば、判断材料になると思います（笑）。その辺は難しいというか、こうなったらどうしようとかはまだ今のところ考えないようにしてます。まあ、多少のシーンは深夜枠での放映なので、ある程度は了承してもらいたい部分ですね。なるべく向こうで放送されてる映像に忠実にやっていきたいと思ってますから」

聞いたか、日本のアメプロ・ファンよ！

このセリフが聞けただけでも安心していいだろう。個人的には、ビンスが愛人のトリッシュを四つんばいにさせて「お前は犬だ！」などとガナりたてるシーンなど、是非とも地上波で流して頂きたいと思う。

「正直、あういうシーンを全てカットしちゃうと、番組自体が何を流したらいいのかな？っていうことになってしまいますからね。ただ、当然〝地上波放送〟というのは常に意識していなければいけません」

我々プロレスファンとしては、苦情がガンガン来るぐらいド派手にやっていただきたいものだ。深夜ならではの番組作りを期待せずにはいられない！

もちろん男性ファンは過激なセクハラシーンをノーカットで楽しみたいはず。テレ東さん、お願いだからからカットしないでください！

苦情といえば、以前ボクがWWFを絡めてプロレスの情報公開企画を扱ったとき、日本の某プロレスラーから猛烈な抗議を頂戴したことがあった。かなりフライング気味で怒られるのもやむを得ない内容だったが、WWFのやり方が日本の団体やプロレスラーに対して、相当なプレッシャーをかけていることは想像に難くない。日本の団体や関係者から「オマエら大変な事してくれたな。日本のプロレスはオマエらの放送しているWWFと一緒にしないでくれ！」とお怒りの声がテレ東に舞い込んでこないとも限らない。

「そういった場合は……こちらもWWFの番組をひとつのソフトとして捉えていますから。日本のプロレスのスタイルは確固としたものがあるじゃないかと。これは単純に海の向こうで行われてる1つのスタイルだ、という捉え方ですね。まあ、日本の団体の方から『これによって喰われちゃったよ』っていう苦情が入るような展開はボクも想像してなかったので、そう来た場合は『すいません』と言うしかないですね（笑）。ボクとしてはWWFが既存のプロレスファン以外の人を連れてくるキッカケになるモノだと思うので、その辺をちょっと理解してもらいたいなと思います。テレ東が団体そのものを経営するわけではないんで、ご理解いただけたらなと思います」

要するに、現在テレ東で放送している（残念ながら9月で放送終了）『フレンズ』という海外のドラマと同じような扱いであるということだ。テレ朝と新日本のような密着度の高い結びつき方ではないということである。しかし、放映する以上はWWFが日本のプロレスに刺激を与えまくって、あたふたするぐらいのことをやって頂きたいとは思う。テレビの持つ影響力を最大限に活かしつつ、日本のプロレスでは出来なかったことを実現していただきたいと思うのだ。

ちょっと話は横道に逸れるが、秋間氏は日本のプロレスに対してはどのような印象を持っているのだろうか？　テレビ的な視点から日本のプロレスが抱える問題を考えてみたい。

「日本のプロレスにですか……ウーン、難しい部分ですよね。あんまりズバズバと言ってしまうと色々と問題がありますから。これだけは言えますけど、日本のプロレスを敵に回すつもりは全くないです！　ボクの心の中では、うまく窓口となって日本のプロレスが発展していただくことを切実に願ってますので。ただし、ボクもメディア側の人間なので、他のTV局との勝負は考えているんです！　あくまでもTV局なので、選手や団体を奪い合うというつもりはないです。むしろプロレス業界自体がもっともっと大きい業界にならないと。一生懸命やってる選手の方たちが満足にメシも食えて、我々マスコミ側もこれによって潤っていかないといけないと思っていますから」

ライバルはプロレス団体ではなく、日本のテレビ局！　たしかに、最近の日本のプロレス中継といえば、プロレスファンのみならず一般ファンでさえも不満を感じるような内容のものが多かった。中継が尻切れトンボになったり、とんでもない深夜枠だったり、実況が非常に不快だったり……といった具合で枚挙に暇はない。では、今度のWWF中継は、どういった部分が「売り」になっているのだろうか？

「やっぱり、我々の業界的な部分で言えば、カメラワークとか照明の演出や音楽などの演出面でしょうかね？　カメラのアングル1つとっても、本当に凄いですよね。日本人の方が繊細だって言う人が多いじゃないですか？　でも、あのWWFの中継を見ている限りでは、本当に細かいところまで注意しているのはWWFですよね。『この技のときは、どのカメラで撮ったら最も凄く見えるのか？』っていうのを本当に細かく繊細に考えられてますから。それから単純にレスラーだけではなく周りにいる観客が、プロレスを楽しんでいるなっていう気がしますね。日本のプロレスファンももっともっと一緒に楽しんでもいいんじゃないかなって思いますよね。見せ方という部分では、見習う部分は多いと思います。実際ボクが見ていても、WWFを意識してやっている

日本の団体はたくさんあると思いますので」

ということは、放送のターゲットをマニアに絞っているということだろうか？

「いや、むしろ逆ですね。今回、放送を成立させる時点で自分の中での決断でもあったんですけど、試合そのものを流して「これがプロレスだよ」っていう形で放送したのでは、やっぱり地上波っていう舞台では一般の人には見てもらえないのかぁと思ったんですね。単純な試合だけじゃなく、そこに付随する憎悪劇のドラマ展開も見せたいですね。単純な試合を流しているだけでは、おそらくついては来てくれないでしょう。別に見方を限定するつもりはありませんので、ロックの肉体美に魅了されてプロレスを見始める女性が増えるケースでもいいですし。そういう色んな要素がWWFという団体には詰まってますから！」

たしかに、現在のWWFはアメリカの主要団体を全て飲み込んで、完全制圧した形になっている。その勢いは止まるところを知らない……かと思えば、そういうわけでもないらしい。

つい最近、WWFが手がけたアメフトリーグ・XFLで大コケして莫大な赤字を叩き出したり、株価が下がったりと人気に翳りが出始めているという指摘もある。そんな微妙な時期に放映に踏み切ったということは、「まだまだWWFはこれからだ！」という確信が、秋間氏の中にはあるのだろうか？

「そうですね。WWFは地上波に関しては全く手つかずだったわけです。そこに可能性はあると思うんですよね。実際にアメリカや他のアジア諸国では大ブレイクした数字が残ってますので。それをボクは素直に受け止めて、まず地上波がやらなければ日本では何も変わらないかなと思ってるんです」

WWFは全ての部分で世界で1番の団体だと思うんですよ！

たしかに、アメリカ人がWWFに食傷気味だとしても、日本でコケるとは限らないわけだ。では、そのWWFを地上波で放送することによって、日本のプロレス界に一体何をもたらそうと思っているのだろうか？

「偉そうな言い方になっちゃうので、語弊がないようにいいたいんですけど……WWFは全ての部分で世界で1番だと思うんですよ！　実際に世界で大いにウケてる。じゃあウケてる要因は何だっていうのを実際やってる選手にも、ファンにも受け止めてもらいたいなと思うんです。地上波放送という窓口が、1つのきっかけになってもらいたいと思ってるんですよね。今までマニアのファンしか見る機会がなかったし、なかなか入り込んでいくにも時間やお金もかかるという不利な条件がありましたので、その部分を取っ払いたかったんです。テレビ東京にチャンネルを合わせれば世界で一番ウケているプロレスが見れるんだよと（笑）。片方では日本のような激しい試合があって、片方ではアメリカのド派手なプロレスが存在してもいいんじゃないですかね？　どれが本当のプロレスか？っていう判断は、視聴者の方の判断にお任せしたいと思います」

日本のプロレスもこよなく愛する秋間氏（特にグレート・ムタのファン）としては、日本とアメリカのプロレスが共存している姿こそが理想なのだ。しかし、日本とアメリカのプロレスは「同じもの」というにはあまりにかけ離れてしまったように思う。WWFがプロレスをとてつもなく変質させてしまったからだ。その発端は、本誌で何度も取り上げてきたビンス・マクマホンの「プロレスはショーである」という発言である。この発言を秋間氏はどのように受け止めたのだろうか？

「あれは衝撃でしたね！　当時、ボクはまだ高校生でアメリカに留学していた時期だったんですけど、ホント毎週欠かさずWWFを見ていたわけなんですよ。好きとはいってもファン歴も短かったので、完全に虜になっていたというのが正直なところですね（笑）。基本的に日本とアメリカのプロレスは別ですね。ボクは逆に一緒にならない方がいいと思います。やっぱり日本人がWWFみたいなことをやろうとしても、同じには出来ないでしょうからね。国民性という部分や、もちろん観る側の受け止め方もありますし」

なるほど。日本のプロレスも、WWFも好きだけど、愛し方は違うというわけだ。もちろん、このスタンスは「あり」だと思う。ここでちょっと意地の悪い質問をぶつけてみた。秋間氏自身が「日本のプロレスもWWFと同じ様にショーなの？」と聞かれたら、何と答えるのだろうか？

「ブッ！（吹き出す）……ボクは別なんだよって言いますね。むしろ選手、関係者にも今回の放送を是非とも見てもらいたいんですよ。そっから学び取れる物があるのであれば自分の団体で活かして頂ければいいと思いますし。何かだいぶ大それたことを言っちゃってますけど（笑）。ボクがひとりのプロレス・ファンとして、こういった形で還元できればと思うんです」

果たして本当に日本のプロレスとは似て否なるものなのかどうか……答えは自分の目で確かめて欲しい。ただ、WWFとはちょうど正反対のベクトルで、似て否なるものの位置にある『PRIDE』という黒船も、プロレスを大きく変質させる大きな影響を及ぼしたように、やはりプロレスそのものが発展していくためには、大きな外圧がなければ何も変わらないのだから。

そういった意味で、まず地上波放送という大砲をブッ放して上陸してくるWWFという名の黒船の舵取りは非常に重要な任務である。インタビューを読んで頂ければ、秋間氏自身にプロレスそのものを攻撃しようという意思はないのだが、多かれ少なかれ日本のプロレスに大きな影響を及ぼすことは間違いない。敏腕プロデューサー・秋間氏は一体どんな爆弾を我々に投げかけてくれるのだろうか？　そして、日本のプロレス界は、それをどう受け止めるのか？　鎖国か？　開国か？　戦争か？

●

これまで『PRIDE』を通してプロレスを見て問題提起をし続けてきた本誌だが、今後もちろん同じようにWWFを通じた形でもプロレスに問題提起しまくっていきたいと思っている。乞う、ご期待！

とうわけで、10月1日放送開始（予定）の『LIVE WIRE』（仮題）は必見だ！

放送日時■毎週月曜日　深夜2時25分～3時20分

なんと、現在のCS放送よりも1週間早く（つまり、アメリカとのタイムラグは、たったの1週間!）放送できるというから、嬉しいではないか!　基本的には現在『Jスカイスポーツ』で現在放送されている「LIVE WIRE」と同じ素材から番組をつくる模様だ。しかし、試合には日本語の実況と解説をつけるたしいのだが（人選はまだヒミツ）、マイクアピールに関しては字幕スーパーで対応するという。選手のナマ声を活かしてくれる嬉しい配慮だ。深夜枠だが……寝不足になっても知らないよ!

テレビ東京にチャンネルを合わせてください。WWFが見れます！

CAT FIGHT WORLD

第14回「コスチューム・ファイトの魅力」

バトル編集部・編集長 猫宮さん

キャットファイトの世界に誘う話題騒然のこのコーナー。今回はコスチューム・ファイトの魅力について、おなじみバトル編集部・編集長の猫宮さんに語ってもらいました。

オトコたちの欲望を更に膨らませるコスチュームは、キャットファイトの必需品！

—さあ、今回もキャットファイト編集部の猫宮さんに、キャットファイト・ワールドの魅力を語ってもらいましょう！　猫宮さん、よろしくお願いします！

猫宮　はい！『紙プロ』読者及びキャットファイトファンの皆さん、元気ですかーッ！

—このコーナーはインターネットなんかでも話題になってますよ！

猫宮　嬉しい限りです。皆さんと、キャットファイトの世界を構築している思うと（笑）。

—それで、今回はコスチューム・ファイトの魅力ついてだそうですが、コスチューム・ファイトって、一体何なんですか？

猫宮　その名の通りのものですね。様々なスチュームでキャットファイトするという。

—キャットファイトを様々なコスチュームでって、それはそのまんまじゃないんですか？

猫宮　キャットファイトって、喧嘩や格闘技なんですよ。そんな場所にナース服やミニスカポリスの格好はしないでしょう？　それを敢えてそういう格好でファイトするからコスチューム・ファイトなんです。

—コスプレなんですね（笑）。

猫宮　そうです。キャットファイトが好き。そこで、まず1つのフェチが生まれますよね。そして、それから「ナース服が好き」という更なる欲望が生まれ、次にはナース服で喧嘩してる姿が観たい！　となるんです。

—なるほど！　好きなアイドルのコスプレも観たくなりますもんね。

猫宮　そうですね。コスチュームって、わりと欲望が持ちやすい物じゃないですか。コスチュームがもたらす魅力というか。キャラクター像が生まれるので。

—例えば、ナース服を着ていると白衣の天使……のような？

猫宮　服を着ているだけで、その女の子のキャラクターが想像しやすくなると。でもナース服を着ていても、もの凄い柄の悪い女の子かも（笑）。そういったギャップも楽しんでもらえますよね。「このナース、見かけによらず強い！　もしかして、看護婦同士で夜中に喧嘩しまくってるんだろうか!?」と、そんな感じで（笑）。

—そういった楽しみ方もあると。

猫宮　あとは、アニメのキャラクターのコスチュームだと、まるでそのキャラクターが闘ってるようで燃えるじゃないですか！

—おお、例えば宇宙戦艦ヤマトの「雪」vs銀河鉄道999の「メーテル」が対決とかですね。それは楽しみですよ〜。

猫宮　それは1例ですけどね（笑）。純粋にコスチュームにこだわって観る方もいますし。「スクール水着が好き。だからスクール水着の女の子が観たい」とかですね。

—そ、それならボクはブルマーが好きなんですけど、そういうファイトもあるんですか!?

猫宮　モチロンあります！　そんなのコスチュームの基本です、基本！

—サスガ！　では早速1本（笑）。

猫宮　ところで、ブルマーを履いた女性の魅力って、何でしょう？

—え？　そうですね……。やっぱり食い込みかなあ…。

猫宮　そうですよね（ニヤリ）。キャットファイトは激しいですから、グイグイ食い込むブルマーに注目してください！

—モチロンですよ！　注目します!!

テリーが泣く!

マンカインドの愛の行方は?

ビンスが吠える!

あなたの「プロレスLOVE」は本物ですか?

プロレスラーの素顔を描いた衝撃のドキュメンタリー・ムービー

『ビヨンド・ザ・マット』

他誌じゃできない徹底分析!

本誌が他誌に先駆けてNO.32で紹介した衝撃の問題作『ビヨンド・ザ・マット』が、遂に日本上陸を果たした! 日本のプロレスマスコミでは到底見ることのできない"プロレスの舞台裏"にスポット・ライトが当てられているためなのか、レイトショーにもかかわらず大盛況だという。もはや、時代の流れは止められないのか? というわけで、本誌は他誌じゃ出来ないきわどい角度から、この映画の危険な魅力を徹底的にエグり倒します!

グレイシー柔術出現に次ぐプロレスファンの「踏み絵」出現!

ビヨンド・ザ・マット

“高田馬場の狂えるシュート活字王”

田中正志激筆!

シュート活字映像の最終形態

BEYOND THE MAT

公開で迫られる日本マット界の選択

遂にこの夏、日本で劇場公開された『ビヨンド・ザ・マット』。その業界のタブーをタブーとしない傑作ドキュメンタリーは早くも多くの人に衝撃を与えている。この「シュート活字映像の最終形態」の魅力をご存じ田中正志がどこよりも鋭く突きつけます!

「プロレスラーの実人生とはどんなものなのか?」それがこのドキュメンタリーのテーマである。作品の冒頭に作り手のバリー・ブラウスティンが語り部として画面に登場し、まず自身が子どもの頃からの熱狂的なファンであることをカミングアウト。続いてハッキリと「プロレスはどっちが勝つのか事前に決まっているけれど、そんなことはどうでもいい。とにかく自分はこれにハマってしまったのだ」と、そもそも完成に5年かかったマイナー・プロジェクトの動機が表明されている。

またこの導入部では、ウディ・アレン監督の名作「ハンナとその姉妹」から、「プロレス好きの連中のレベルなんて最低じゃん!」のワンカットが挿入されていて、ハリウッド映画の脚本家としてそこそこ食えている（と、自己紹介した）バリーの反撃が宣言されてもいる。そしてその宣言は現実のものとなる。彼の「プロレスLOVE」の執念は、やがて大手ユニバーサル映画の重役たちを動かし、2000年5月18日（土曜）から一週間の、全米ロードショー公開という最後の奇跡へと結実したのである。

ここで、映画のタイトルが画面に登場。当初は、どこかの弱小ケーブルTV局が短縮版を放送してくれたら感謝。普通に考えてファン向けのビデオ販売が頼りで、バリーを含むほとんど3名だけのチームで撮った低予算ロードムービーは、「製作資金を回収できれば満足」という規模でしかなった。それが、劇場の大画面で全国一斉公開されて、ついには日本にまでやってきたのである。バリーは壮絶な賭けに勝ったのだ。

この作品が成し遂げたことの真の大きさを読者に伝えるためには、ここでかの地の映画事情を説明しなければならないだろう。いくらハリウッドを抱える映画王国アメリカといえども、あくまで「ファンタジーとしての作られたもの」しか映画館には配給されない現実があるからだ。

しかし、〝ビヨンド〟はまっとうな長編ドキュメンタリーである。どこかの映画祭で上映されることはあっても、全国ロードショーなど夢のまた夢と考えるのが常識なのだ。この作品が大成功を遂げたことで、歌手マドンナの「Truth or Dare（邦題イン・ベッド・ウィズ・マドンナ）」に迫る興行成績を上げたことが自慢されていた。もっとも、彼女の〝ブロンド・アンビシャス・ツアー〟の舞台裏を記録した音楽ドキュメンタリーは91年の公開である。ビデオやDVDが普及すればするほど、ますますノンフィクション映画の劇場公開がいかに奇跡的であったかをご理解いただけるかもしれない。プロレスファンとして素直に喜んでよいのではなかろうか?

それだけの立派な完成品であることは保証済なので、プロレスが趣味ではない一般の観客の鑑賞に耐え得る作品だと判定されたわけだ。願わくは二度目に恋人を連れて行き、三度目には親兄弟にも推薦してほしい。

これまで身内からプロレス好きであることで虐げられてきた人々に勇気を与え、自分たちの愛するスポーツ芸術が、どれだけリアルなものであるかを理解してもらう絶好のチャンスになる。実際北米でのオープニングは、インターネットの各情報サイトで「周囲のプロレスに無関心な友人や親を巻き込め!」と、盛んに応援キャンペーンを展開していたのである。

もっとも、あくまでプロレスをファンタジーとして楽しみたいファン層には、同僚を誘うどころか、本人すら見ない方がよい問題作であることも事実である。例えば、冒頭に「映画と同じくプロレスにもライターが存在している」とのナレーションが入って、WCW転落劇の主役ビンス・ルッソーが（WWFの筋書き担当だった時期の撮影なので）、選手に細かくスポット（振付と演技）を指示している場面が出てくる。あとはもう、終始徹底的に舞台裏の仕組みが業界用語交じりで白日のもとに……。

人気者ザ・ロックと主人公のミック・フォーリーが試合前に綿密に打ち合わせする映像や、その半殺しの流血試合後に仲良く反省会までやってる場面も収録されている。何しろバリー監督は英文「シュート活字」の熱心な読者なのだから、「プロレスはショー」という前提のもとに楽しむ姿勢を貫いているわけだ。だから過去の大御所プロレス評論家は排除されて、レスリング・オブザーバーのデイブ・メルツァーが画面にも登場するのである。

もちろん、聖域なき構造改革に反対するわが国の抵抗勢力は、圧倒的な映像の説得力を前にしても、「アレはアメリカのプロレスの話であって、日本のプロレスはああじゃない」と反論。ニッポン特殊論で逃げて、大人のファンから失笑を買ってしまった。

但し、渋谷シネマライズでの初日は立ち見も出る満席だったのは嬉しかったものの、上映終了後にほとんどの客が沈黙してしまったことからも、その衝撃の度合がいかに凄まじかったかが想像できた。シュート活字に馴染めない方々には、覚悟が必要な中身なのだ。もっとも、映画の趣旨はあくまで〝プロレスへの愛〟であって、暴露でもなければ低級な手品の種明かしでもない。人間模様の感動を判断するのは、あくまでも貴方自身になる。

脚本のないリング外でのレスラーの素顔

映画のハイライトは99年1月24日のロイヤルランブル大会。王者のミック・フォーリーからザ・ロックにベルトが移動する重要なカードだったからこそ、バリー監督に「撮影に来ないか？」と連絡が届く。しかし、カメラが捕えるのは、恐怖で泣き出すミックの幼い子どもたちと美人妻の表情なのだ。打ち合わせでは5回だったのに、11回もパイプ椅子で頭を殴られるミック。文字通りに半殺しにされて、最前列にいた家族が直視に耐えられなくて途中で退席する姿をカメラが追う。

この暴力映像は、「新作映画とプロレス・ブーム」のテーマでCNNの「ラリー・キング・ライブ」他が取り上げた時にも、センセーショナルな扱いを受けていたが、むしろ日本のファンに馴染みが深いのは、いつまでたっても引退しないテリー・ファンクの人生絵巻である。83年の蔵前国技館で、最初の引退興行にて「フォーエバー、フォーエバー」と叫ぶ有名な映像も収録されている。ファンクスが日本でいかに伝説的存在であったか、米国の一般客もわかってくれたわけだ。

地元アマリロでの引退興行も収録されているが、バリー監督が撮影を開始して最初に力を入れたのは新興団体ECWの躍進と、当時53歳のテリーが果たした役割について。アメプロ通にとっては97年4月13日、ECWがやっと全国的に認められた最初のPPV大会開始直前に、ポールE代表が感動のスピーチをする場面などの方が、お宝的映像となっていることも書きとめておこう。残念ながらビック・テキサンの話に絞っているのでカットされているが、この大会には〝みちのくプロレス〟直輸入の6人タッグも披露され、大好評だったことも補足しておきたい。

〝ビヨンド〟はメジャーからインディーまで、各種プロレス団体の裸の姿を追うドキュメンタリーである。ある程度の出番を与えられたキャラは、ビンス・マクマホンWWF代表から、女筋肉マンのチャイナ、無名選手まで5～6名いる。プロを夢見る〝予備軍〟ネタに出てくるマイク・モデストは、撮影中での「日本向きの選手」の予言通り、つい最近ノアの常連として迎えられた。しかし、本当の主役はジェイク〝ザ・スネイク〟ロバーツかもしれない。凄まじいその出生の秘密から、巡業生活での家庭崩壊、娘との再会と破綻、そしてコカインをやってヘロヘロの状態で受けるインタビューなど、これはもう映像を見てもらうしかないだろう。

この映画が米マット界に与えた影響としては、「月曜生TV戦争」によるブームが、いかに全国区であるかを再確認する役目となったことに尽きる。繰り返しになるが、劇場公開されたこと自体が奇跡なのだ。おかげで人気モーニング・ショーや映画紹介番組など、数え切れない一般向けの有名メディアに露出した。前後して、USA Todayのような全国紙が「野球とプロレスが現在のアメリカの国民娯楽である」という特集を組んだし、プロレスが単にマイナー趣味である日本とは余りにも違う状況が浮き彫りになった。

逆に言えば、そんなブームのタイミングがあったからこそ、幸運にもロードショー公開されたのだ。実際Wrestling with Shadows（別項参照）の方が、外部の大衆でなく内部の関係者に与えた影響は遥かに大きかった。ダブルクロス（裏切り）のフィニッシュは、その後パロディー版を含めて何度試合に使われたことだろう。しかも、主人公のブレット・ハートは業界から去ってしまっている。

正直に感想を述べさせてもらえるなら、〝シャドウズ〟の方がインサイダーには衝撃的かつオモシロイし、プロレス・ドキュメンタリー先駆者としての意義は不滅である。しかし、大衆相手の収支決算となれば、時代に早すぎても駄目だし、遅すぎても評価されない。さすが一般公開されただけあって、編集のセンスがずば抜けている〝ビヨンド〟は、完成までに5年という歳月を要したことで運を味方につけたのである。

日本マット界への影響はどうなのだろう？「シュート活字映像の最終形態」が公開されたことで、団体側はこれまでの熱心なマニア相手の商売を続けるのか、WWFのような開き直った大衆路線を目指すのか、選択を迫られるといえよう。

馳浩衆議院議員は「日本にカミングアウトは必要ない」と、紙プロのインタビューに答えている。しかし、現実にプロレス初心者の女性客などを惹きつけて盛況なのは、エンタテインメント宣言をしている闘龍門などのインディー系団体である。また、スカパーでWWFを楽しんでいた読者の方も多いのではないだろうか？ 大衆路線の大仁田厚は、大量得票で参議院議員に選ばれた。

近く株式公開計画を持つ新日本プロレスこそ、この映画の影響を真剣に考慮しなくてはならないだろう。映像のメッセージに目を覚まさないと、業界の勢力分布が激変することもありうるからだ。字幕DVD版がひっそり売られているだけの〝シャドウズ〟と比べて、レイトショーでの限定公開とはいえ、正式に劇場で上演された〝ビヨンド〟のもたらす波紋は計り知れない。

『ビヨンド・ザ・マット』は渋谷シネマライズでレイトショー公開中

『ビヨンド・ザ・マット』だけじゃない!
アメリカでは“シュート活字的映像”がこんなにも溢れていた!

「掟破り」大前提で放送されたプロレスを題材とするTV番組評

「シュート活字的映像」は『ビヨンド〜』だけじゃない! 傑作『レスリング・ウィズ・シャドウズ』をはじめ、アメリカではこんなにも、プロレスの内側にせまった映画、TV番組がつくられているのだ。この波はいよいよ日本マット界にもやってくるのか?

AN UNPRECEDENTED LOOK BEHIND THE SCENES OF THE WWF.
"THIS IS TRULY A KNOCKOUT FILM." -The Wall Street Journal
A film by Paul Jay
A High Road Production
HITMAN HART
wrestling with shadows
The story of a man who believes in heroes, in a world where the anti-hero is king.

① プロレスラーの光と影

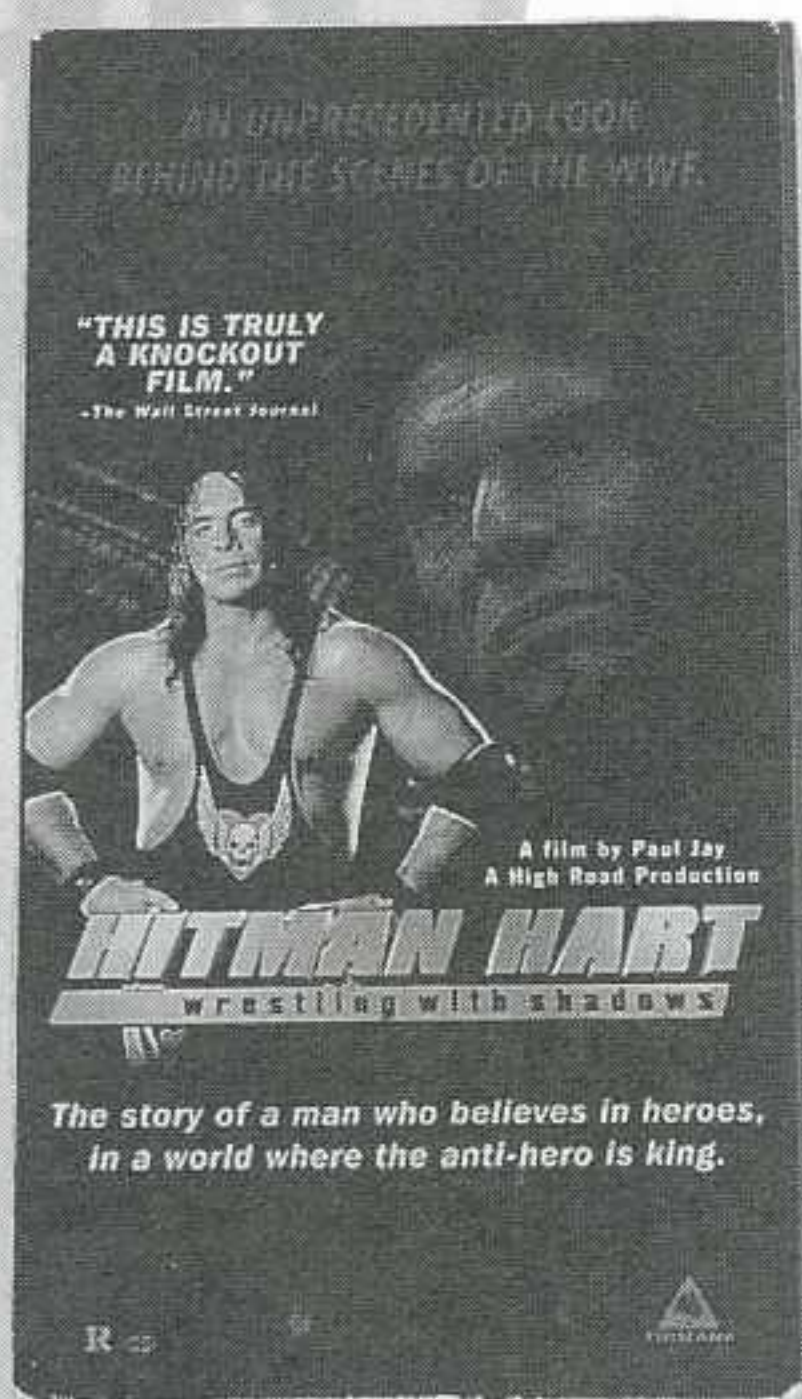
Hitman Hart:Wrestling with Shadows

史上初のシュート・プロレス映画誕生

プロレス映画といえばピーター・フォーク主演、ミミ萩原らも出ている「カリフォルニア・ドールズ（81）」から、つか・こうへい原作&長与千種・主演の「リング・リング・リング（93）」まで、一般に劇場公開されたものだけでも20本近くは作られてきた。怪優ジャン・レノに、メキシコに実在する〝暴風神父〟フライ・トルメンタ役をさせた「グランマスクの男（92仏）」もあったし、B級ルチャリブレ探偵物を含めるとさらにリストの数は増える。もっともプロレスという題材自体についての描写に関しては、ボカしたままか「明日の試合に勝つんや！」と主人公が誓ったりするフィクションになるのが通常である。舞台裏の真実をそのまま出したからといって、大衆が理解してくれるわけではない。簡素化してわかりやすい物語に脚色するのはエンタテインメントの原則なのだ。上記の作品群は、プロレスマニアには情けなく感じるものかもしれないが、それはウォール街で実際に働いている者が金融業界を題材にした映画を見て、その不正確さやありえない話の展開を笑うのと同じことである。事実に基づいた本物のプロレス・ドキュメンタリー映画がこれまで制作されなかったことは、別に嘆くことではない。

それを考えると、このブレット・ハートが主人公（12兄弟姉妹のすべてがプロレスラーの一家が焦点）の実人生ロードムービーの内容やテーマにはたまげるしかないだろう。映像を提供し、肖像権を放棄する形でWWFが全面協力しているにもかかわらず、この作品は完全なケーフェイ破りが前提だったからだ。もっとも正確にプロレスラーとプロレス業界について内部から描いた衝撃の作品は、ついに98年12月20日の日曜夜9時から2時間に渡ってA&E局（アーツ&エンタテインメント専門のケーブル局）でTV放送された。その後各主要都市で限定公開された他、各映画賞と賞賛の嵐をとりまくることになる。

カナダ人監督による当初の企画書では、この映画はプロレス大家族を軸に、過激に移りゆく業界の流れを描きながら、リング上のテーマにもなっていた微妙なアメリカxカナダの隣国関係がスパイスの実録物となるハズであった。ところが、キャラクター名〝ヒットマン〟選手（40）の巡業生活を97年の一年間追い続けるうちに、本人のライバル団体への転出話が追撃。11月9日のPPV大会〝サバイバー・シリーズ〟がドキュメンタリーのハイライトとなったのは、映像作家側にはラッキーとしか言いようのない偶然の産物であった。

その結果、メインイベントのフィニッシュがダブルクロスだった事件（事前の約束と違って王座が移動する）がクライマックスに。そう、これこそ力道山対木村政彦の1954年のリンチ伝説から、Uインターのリングで実現した高田延彦対北尾光司まで、大人のマニアを知的興奮に駆り立てた裏切りのゲームなのである。中継会場モントリオール（カナダ）で「ベルトを落とせ！」と迫るビンス・マクマホン代表に対して、「それはできない。〝ヒットマン〟キャラクターの暗殺じゃないか？」と拒む人間のチャンピオン。このやりとりから、業界を震撼させた赤裸なヒューマン・ドキュメントが始まるのだ。

また、映画の前半ではプロレスの仕組みの徹底的な公開が行われている。打ち合わせの現場にカメラが入り、筋書き通りに実際のPPV大会が進行している様子がわかりやすく描写されるのだ。純情ファンには信じられない映像の連続だろう。もっとも、映画のラストが〝悪の首脳部〟による「裏切りフィニッシュ」。台本通りの演劇ではありえないという、衝撃の結末に向かうから面白いのだ。どんどん試合が成立する過程を一旦ばらした上で、一般客を「格闘芸術」の〝最後の謎〟にハメる構成がステキなのである。年棒3億円の人気二世レスラーに、次々と業界の真実と本音を語らしたからこそ意味がある。また、ライバルのショーン・マイケルズ台頭の記録としても、アメプロ人気が大爆発する前夜を克明に捉えていて貴重な資料となっている。

〝シャドウズ〟は、プロレスにそれほど興味がない人や、好きではあってもWWFやB・ハート選手には特に関心がない層にも、ノンフィクション・ドラマとして一級の完成度を誇る編集に仕上がっている。「必見作だ！」と、ウォール・ストリート・ジャーナルからTVガイドまで激賞の嵐だったのは驚くに値しない。台本が存在するハズのプロレスが、舞台裏の人間模様劇において超リアルなものとなる。逆に言えば、映像の圧倒的説得力を得て、真剣勝負幻想は公式に終焉を告げたのだ。プロレスはもちろん「最強芸術」なのである。

この作品が業界に与えた衝撃は余りにも絶大だ。このダブルクロス事件をきっかけに、WWFはビンス・マクマホン自身が「悪のオーナー」というTV上のキャラクターを演じるようになる。そして上司に逆らう新種のヒーローが、ストーン・コールド・スティーブ・オースチンというわけだ。ここからビジネスとしてのWWFは、さらに雪だるま式に巨大化していって、99年10月19日の新規株式公開へと繋がる。ウォール街が総資産規模ビリオン・ダラー（約1200億円）の会社と認定するまでになったのだ。また、その後のプロレス台本にこの映画の裏切りのフィニッシュが一体何度使われたことだろうか？〝シャドウズ〟こそが、アメプロの歴史を根底から変えたのである。

このドキュメンタリーが示唆した教訓は、日本マット界にとって痛すぎる破壊力に満ちていた！「アメリカだから許された」と考えるのは間違いだ。プロレス業界に秘密なんてないし、あると主張する関係者は失格でしかなかったことが数字で証明されたのだ。ファンは馬鹿ではないのである。長州力は「メディアは東スポだけでよい」発言を

したが、それがWWFと新日本プロレスで10倍どころか、100倍近いビジネス格差をつけられてしまった最大の理由だった。80年代までは日本こそが世界のプロレスの中心だったのに、今は報道するマスコミのレベルまで含めて、あらゆる観点からすべての項目で圧倒的に差をつけられてしまっている。とても哀しい現実である。

アメプロの繁栄の出発点となった記念すべき作品は、初めての映像版シュート活字となった点でも画期的だった。また、お茶の間のプライムタイムですでに10回以上も好評につき再放送されている。映画でも重要な指摘を繰り返していた妻と離婚したブレット・ハートの、事件後インタビューを加えた市販ビデオも売られている。DVDの字幕は誤訳もあり満足してないが、日本語版も見られることは強調しておきたい。

② *The Unreal Story of Pro Wrestling*
プロレス物語

豊富な映像クリップ編集が
アメプロ全盛時代を
雄弁に語る2時間特別番組

「ジョージ・ワシントン大統領からブレーン・バスターまで」という、ユニークな副題がTVガイドにも書かれていた。98年4月26日にA&E局の目玉特番として初回放送。以降、再放送リクエストが殺到してA&E局がシリーズ化していくプロレス関連番組に資金を投入する切っ掛けをつくった。そのA&Eは上記ドキュメンタリー映画制作に出資する他、局看板の日替わり「人物ドキュメンタリー」でも、アンドレ・ザ・ジャイアントから故・オーエン・ハートまで、レスラー編を何度もとりあげるようになる。視聴率でも大成功を収めたことは記憶に新しい。その後ビデオ化は無論のこと、DVD版まで市販されている大ヒット作。

ルー・テーズの名著〝フッカー〟を下敷きにして、19世紀末の市民戦争後のカーニバルを起源とするプロレス歴史話がスパイスになっている。「〝AT show〟とよばれるアスレティック・ショーは、コン（騙し）ゲームとしてサーカスのサイドショーだった」という事実などは、お茶の間の大衆には新鮮に違いない。テーズさん自身が登場して毒舌をふるい、得意の「シュート論」から「ハルク・ホーガンなんかレスラーとしては最低」までを語らせる。番組の冒頭に「成人男性のためのソープオペラ論」が語られることから想像できるように、現在の大盛況ぶりをWWFとWCWの両メジャー団体の映像協力により伝える構成はよく練られている。

プロレスは筋書きのあるドラマだと断定する他、エンタテインメントであることをあっさりと説明する点では、このドキュメントもシュート活字と呼んでいいだろう。ただ、あたかも「最初は真剣勝負だったのが徐々に変わっていった」風の真実とは違う安易ななぞり方や、不正確なナレーションなど問題箇所も多い。〝シャドウズ〟公開前の作品なので、まだマスコミ自体が完全なシュート活字に移行しておらず、くだらない学術論文を発表した社会学者とか、〝教授〟などの肩書きを重視してしまっている。例えば1983年のアンドレ×ホーガン戦を、寓話風のクライマックスにしていること自体に無理がある。さらに、この〝レッスルマニア3〟に関するビンス・マクマホン代表らの証言はフィクションだ。「お仕事役」に同意した〝大巨人〟が、若き英雄の〝超人〟にトーチを渡す美談は、まぁ故人へのオマージュとして許そう。しかし、98年がまだシュート活字の過度期であったことを象徴していて、TV製作者は間抜けの「プロレス文化人」たちを画面に登場させてしまったのは痛い。

もっとも嘘で固めた日本のプロレス関連ドキュメンタリーと比べれば、ほとんどの記述は驚くほど正確にプロレス芸術の仕組みを公開している。選手たちは正直にインタビューに答えているし、何しろイメージ鮮やかな試合クリップの編集が非常に素晴らしい。野茂投手と並んで、メジャー・リーグで活躍したウルティモ・ドラゴン（浅井嘉浩）が4～5回も写ってるし、今はもう見ることができないショーン・マイケルズの姿など、MTVスタイルの映像は豪華絢爛。プロレスに興味ない一般視聴者にまで大好評だった事実は残った。

③ *The Secret World of Professional Wrestling*
秘密世界探求シリーズ：プロレス業界

クソ真面目な程正確に業界の
仕組みと裏側を取材した
教育番組のドキュメンタリー

98年11月15日初回放送。TLC（The Learning Channel）局（上記A&E局よりさらに弱小）の名物番組〝Secret World of XX〟シリーズが、真ジャーナリズムの視点から人気の「プロレス業界」について徹底的に調査したもの。筆者のインサイダー仲間が大挙して協力した番組は、過去一年間で5度目のケーフェイ破り映像番組となる。「最強芸術」論から道場論までコンパクトにまとめ上げた。大好評につき、何度も再放送されただけでなく、ついに市販ビデオも発売。日本からもネットのアマゾン通販などで入手可能である。

④ *NBC Special: Exposed! Pro Wrestling's Greatest Secrets*
プロレスの秘密暴露

三大ネットワークのNBCが万
節祭の夜に一千万世帯の視聴
率（再放送との合計）を達成

98年11月1日、業界をパニック（？）に陥れた問題作。なにしろ弱小ケーブル局と天下のNBCでは、見ている視聴者の数の桁が違ってくる。番組の構成が、筆者の97年に発売された『開戦！プロレス・シュート宣言』（読売新聞社）の巻末に収録された「真・業界用語辞典」の映像版そのものなので、個人的には印象深い。しかし、シュート活字人脈は企画にタッチしてないし、単なる暴露志向が鼻について業界関係者の評判は非常に悪い。

製作したのは、最近日本でも放送された、マスクド・マジシャンを使ったかの「手品の種暴露」シリーズで成功したチーム。イリュージョンのトリックを暴くのと同じ発想で、リング芸術の秘密に挑戦した作品になる。出演した覆面レスラーたちはインディーズの選手たちで、日本でも有名なLAオーディトリアムにて収録された。現場監督ブッカー役は、当時失業中の元NWA世界王者ハーリー・レイス。ただし、凄まじい数の大衆が見た事実は消えないし、市販ビデオ版が広く流通してもいる。

●総　評●

アメリカ人とビデオ交換でもしてない限り映像が入手困難だった時代と違い、市販ビデオやDVD版が広く流通していて、簡単に日本でも「暴露番組」が見られるようになった。アメリカでも日本でも、マット界のタブーはなくなったのである。すでに防ぎようがない秘密に固執して既得権を守ろうとしても時間のムダ。プロレス・マスコミが真剣に考えなければいけないのは、21世紀にふさわしいマーケティングなのだ。「ファンの夢を壊してはいけない」の大義名分にこだわって、いつまでたっても約三年間だけ熱中しては卒業していくファンを使い捨てる戦略が正しいのか、開き直って新規の顧客を開拓し、大人のファンをも呼び戻す方法論が正しいのか？　映画〝ビヨンド〟の劇場公開は、マスコミの勝ち組と負け組をはっきりさせることになる。

（文・田中正志）

ここに掲載したシュート活字的映像のビデオテープは、ネット通販で日本でも手に入れることが可能。もうタブーをタブーとして隠しておくこが、物理的に不可能な時代になってきているのは確かだ。

『ビヨンド・ザ・マット』が巻き起こした波紋！

あなたはどっちにしますか？

『ビヨンド〜』に飲み込まれるか？『ビヨンド〜』を飲み込むか？

「だって日本のプロレスとアメリカのプロレスはまったく全然別物じゃん？　そりゃそうだよ。金の掛け方だって違うし、やってる内容が違うし。そもそも国民性からして違うんだから！　一緒にしてもらっちゃ困るよ。やっぱ日本なら新日本が最高だと思うよ！」

……という意見が、やはり一番多いんだろうか？　こういう人にこそ見て欲しいのが、この『ビヨンド・ザ・マット』である。　一見ド派手なアメリカンプロレスの裏側に広がる暗い重苦しい世界を見事にエグリ撮った衝撃のドキュメンタリー作品である。

この映画に見るべきポイントは山ほどある。まあ、その内容は田中正志氏の原稿に細かく書いてあるので、詳しくはそちらを参照していただければと思う。

で、この原稿をよんでいる賢明なる『紙プロ』読者の方々ならば先刻承知だと思うが、この映画の中で描かれているような内容は、日本のプロレス界では完全にタブーとされている。以前、本誌32号で「プロレスの情報公開は是か？　否か？」という企画をやったら某プロレスラーが、もの凄い剣幕で電話をかけてきたことがあった。それぐらい、日本のプロレス界においてはアンタッチャブルな領域なのである。

非常に物騒ではあるのだが、こういう反応を返ってくるのは素晴らしいことだと思う。何が素晴らしいって、自分から電話をかけてきて、自分の言葉で、自分の立場を表明してくれたことが「素晴らしい」と思うのだ！　いや、これホント。

確かに「情報公開」というテーマは、非常にデリケートな問題だ。日本とアメリカでは状況も違うので「情報公開」の流れに安易に追随すべきではないとも思う。

だが、時代は確実に動いている。いまや日本でも『ビヨンド〜』のような映画が上映されて、地上波でWWFが放映される時代なのだ。そろそろ、この映画やWWFについて、もうちょっと突っ込んだ話をしてもいい時期なのではないだろうか？

例えば、本誌36号で馳浩先生は「（日本のプロレスは）カミングアウトする必要はない！」と断言して大きな波紋を呼んだ。さらに本誌38号では谷津嘉章が「（日本のプロレスは）プロレス・ガチプロ・ガチと3つに分けることだな」と発言して小さな波紋を呼んでいる。

この両者、アマレス出身であるという以外にも共通点があった。ちゃんとWWFを見ているのだ。本誌はここ何年かWWFを"黒船"と言い続けてきたが、すでにこの2人の視界には、ちゃんと"黒船"が入っていた。上のポジションに行けば行くほど「他人の試合なんか見ねえよ！」というプロレスラーも多いので、これにはちょっと驚いた。

そういえば、"黒船"といえばWWFよりも先にグレイシー柔術が日本のプロレスに開国を迫ったときも、ある男がタブーを踏み越える発言をして大きな波紋を呼んだことがあった。ちょうど時を同じくして"大仁田劇場"がバカ受けしたり、オーちゃんが橋本真也を潰して大暴走を始めて、プロレスは最も地盤沈下していた時期である。

ある男とは？　そう、宮戸優光だ！

「いま"ワーキング"という言葉を出さないとプロレスがダメになる！」

プロレスがあまりに変質し過ぎてしまったことに対してのアンチテーゼである。ちなみに、このとき宮戸氏は「ワーキング＝八百長、ショーではない！」「本物のレスリングの技術を持った人の"お仕事"、それが"ワーキング"なんです」と釘を刺すことも忘れてはいなかった。こうした発言には、当然大きなリスクも伴う。だが、時代の流れを敏感に察知して、自分の言葉で意見を言うからこそ、その言葉は多くの人に伝わり、心に届いていく。大事なのは、「自分の言葉で語ること」ではないだろうか？

話を戻そう。この『ビヨンド〜』をプロレスラーが語るのは非常に難しい作業だと思う。その難しさは左ページのテリー・ファンク語録をご覧いただければわかると思う。たしかに、黙っている方が楽だろう。無駄な波風を立てずに済むはずだ。しかし、本誌は、この映画をプロレスラーにこそ語ってほしいと思う。いままさに上陸しようとしている"黒船"に対して、どういうスタンスを取るのだろう？　飲み込まれるのか？　それとも逆に飲み込んでしまうのか？

というわけで、最後にカト・クン・リーのステキな言葉を紹介してみよう。

「情報公開？　いいんじゃないの」

銃弾をかわす男は、そんな問題などハナから飲み込んでしまっている！（のかな？）。この姿勢だけがすべてだとは思わない。だが、日本のプロレスラーには『ビヨンド〜』に飲み込まれることなく、逆に飲み込んでほしいと本誌は願っている！

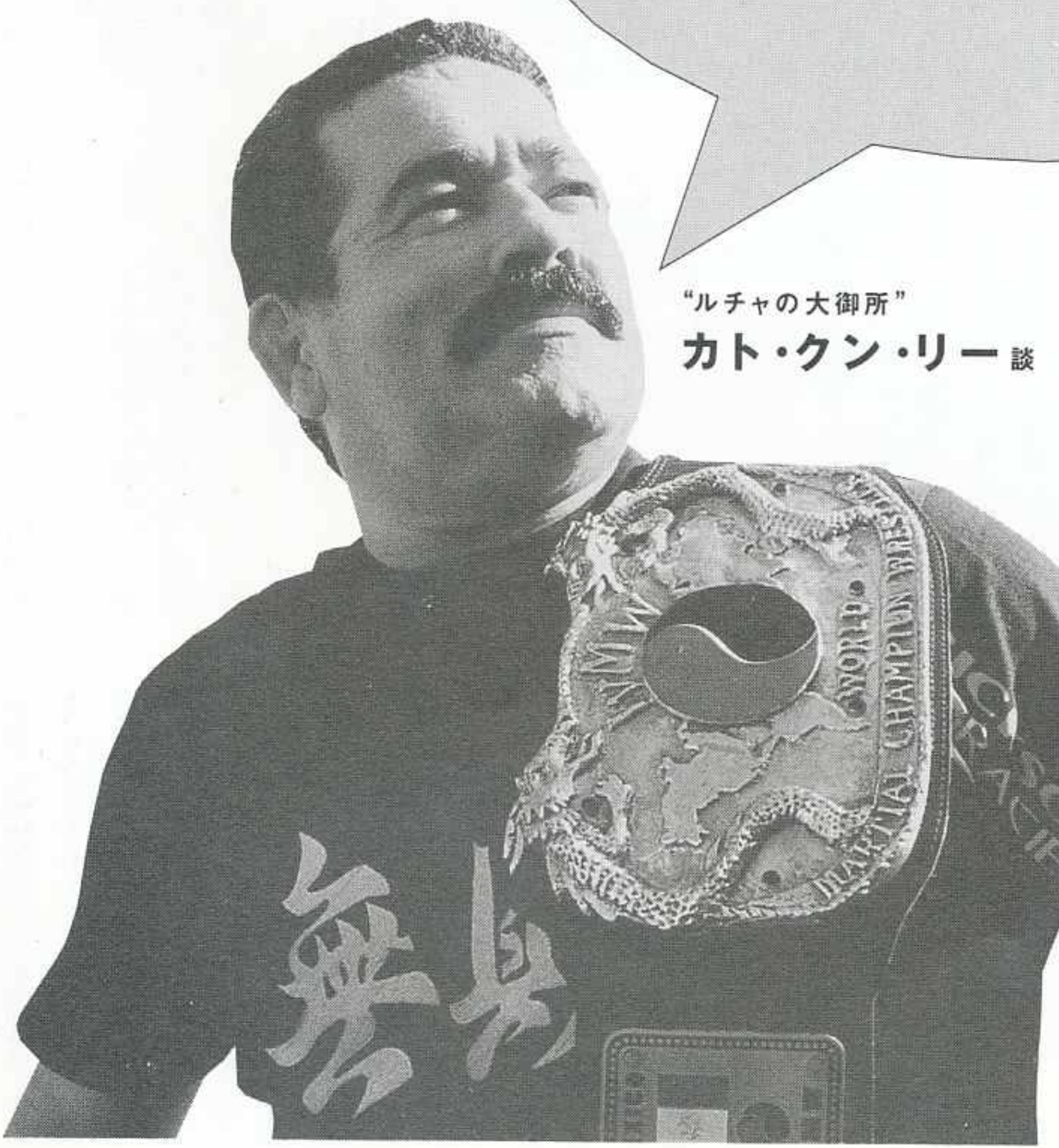
（文・スモーノブ）

プロレスの情報公開？

いいんじゃないの

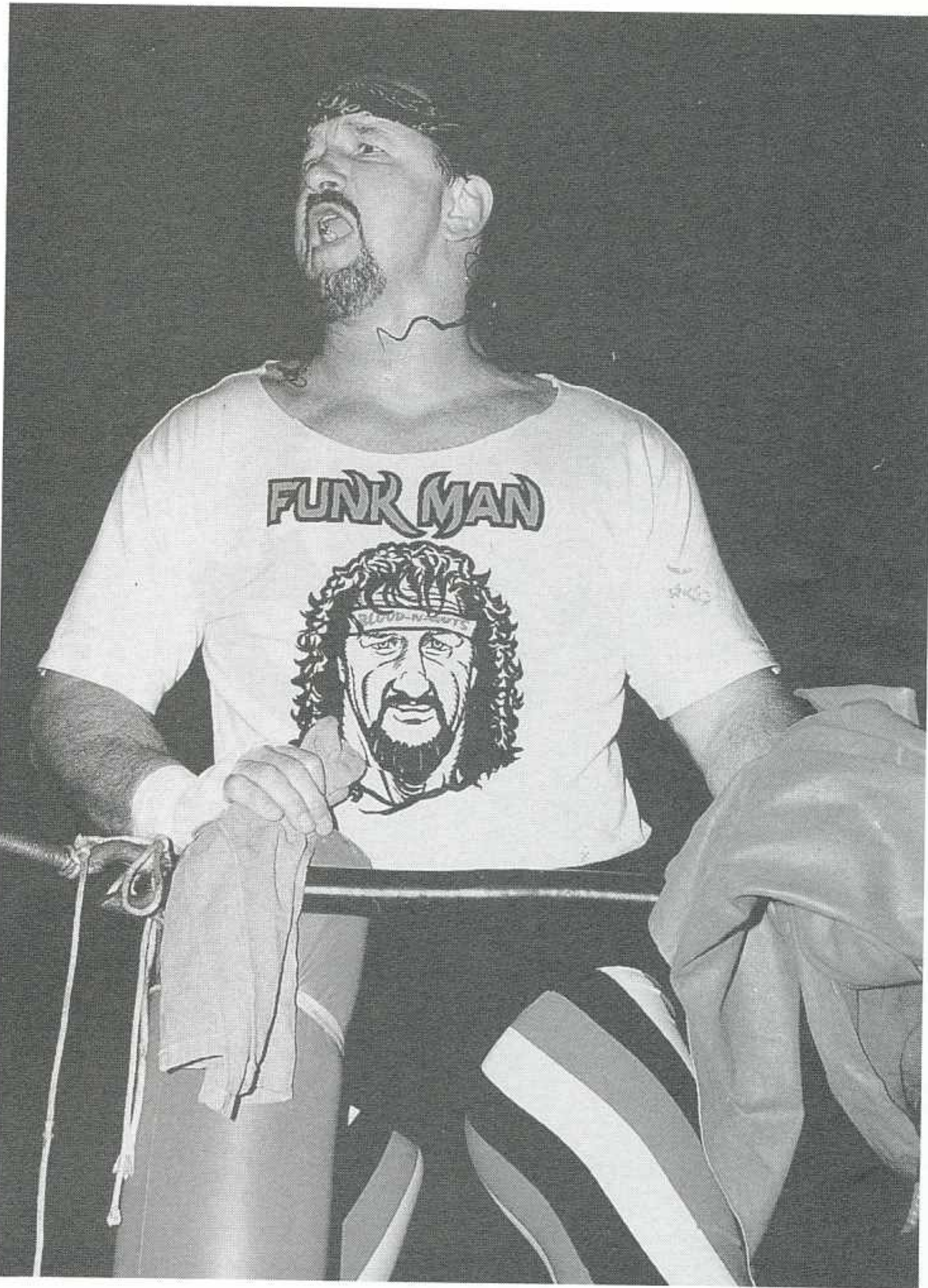
"ルチャの大御所"
カト・クン・リー談

取材の数だけ真実がある!
〝リビング・レジェンド〟テリー・ファンク 魂の名?迷?語録集

文・スモーノブ　スーパーバイズ・吉田豪

映画『ビヨンド・ザ・マット』の公開に合わせて、プロモーションのためにテリー・ファンクが来日した。一誌平均30分間という非常に短い時間の中で、30誌（紙）ものインタビューを受けまくったらしいのだが……どうも様子がおかしい！　テリーはこの映画について多くのコメントを発している。前ページで紹介しているように、この映画の中には「プロレスの裏側」をモロに映像化してしまったシーンがある。試合前にロックとマンカインドが打ち合わせをしている場面だ。当然、取材陣は現役（で、いいの？）のプロレスラーであるテリーにコメントを求める。

「プロレスの裏側がこういった形で公開されることについて、どう思いますか？」「非常に衝撃的なシーンですね？」「こういう作品が公開されてもいいんでしょうか？」

これに対するテリーの受け答えがじつにミステリーというかファンタジーに溢れた発言ばかり！　そこでかなりの問題発言をぶっ放していた！　まあ、映画のプロモーションをしなければいけない立場と、プロレスを守らなければいけない立場の狭間で揺れ動いているのだろうと思うのだが……ハンセンのラリアットを食らっていた往年のテリーよろしく、発言があっちこっちにフラフラと揺れまくりなのだ。というわけで、各媒体におけるテリーの発言を紹介してみよう。

まず、「プロレスを守る立場」から発言したと思われる言葉から。サラリーマン向けの雑誌『週刊ポスト』（小学館）では「あれはあくまで映画。実際にはないよ」と断言！　その証拠にブッチャーのフォーク攻撃でズタズタにされた腕を見せて「打ち合わせをしていたら、ここまではやらせない」と語っている。さらにクラス・マガジンでは一歩踏み込んだ表現をしており、『週刊プロレス』のフミ斉藤氏によるインタビューで「プロフェッショナルとしてひじょうにルーズな部分を無警戒にさらけ出してしまっている。（中略）ジャパニーズ・レスリングとビンスのスポーツ・エンターテイメントはまったくちがうものだからね」と、こちらは日本のプロレスを守る発言を残している。どちらもプロレスを守るためではあるのだろうが、その内容は微妙に違っている点は見逃せない。媒体に合わせて、発言を微妙に変えているのだろうか？　それにしても「あくまで映画」って……つまり「映画の中に脚本はある」ってことか？

このように日本の純粋なプロレスファンに気遣いを見せたかと思った矢先、一転して思いっきり映画のプロモーションに徹するシビアな一面も……。まず奥●恵のニャンニャン写真など超ド級のスクープを連発中の『BUBUKA』（コアマガジン）では、思いっきり「舞台裏の公開」を肯定しているのがオドロキだ。曰く「ひとくちに『裏』というけれど、そこには『明るく前向きな部分』と『本当に隠しておきたい暗い部分』があると思うんだ。（中略）この映画の中では、どちらもちゃんと描かれているんだ。これって有意義なことだとオレは思うよ」。有意義とまで言い切った……おそるべし、テリー・ファンク。さらに、ゆでたまご先生と対談した『プレイボーイ』（集英社）では「これを見て、プロレスのすべてがあじゃないって擁護してもなかなか難しい……」とも発言している。この発言を聞く限り、ちょっと弱気になっているのかな？と思えるのだが、さにあらず。本誌スーパーバイザー・吉田豪が『ダ・カーポ』（マガジンハウス）でインタビューした際には「見せ過ぎだよ！　それを見て人々は『ビンスは天才だ』って言うんだけども、あれはちょっとやり過ぎじゃないか？」と、憤慨しつつも結果的に「舞台裏」の存在を肯定してしまっている。その後、ビンスに対する憎悪が燃え上がってしまったようで、吉田豪にヘッドロックをかけ「続きを空港でやろう！」と大炎上したというから大変な嫌いっぷりだ。さらに『smart』（宝島社）では「この映画には試合前の〝打ち合わせ〟のシーンが出てくる。でも、それはビンスのやり方だってことは覚えておいてくれ。（中略）日本のプロレスとは違うんだ」と、ビンスひとりに責任をなすりつけてしまう始末！

ん？　ちょっと待てよ……たしか佐山聡著『ケーフェイ』が発売されたとき、黒幕・ターザン山本に殴りかからんばかりの勢いで抗議したのはテリーだったはずだ。そんな熱かったテリーが、今やここまで踏み込んだ発言をしたことを考えると、時代は変わったのだということを痛感させられる。ただ、テリーが『ダ・カーポ』他あらゆる媒体で発言しているように「日本にはレスリング・スタイルのプロレスリングが残っている」のだ。そういった意味では、「日本のプロレスは違う」という発言も真実味を帯びてくる。

いかがだろう？　ここまで来ると、一体何がホントなのかわかりゃしない。プロレス界には何か事件が起こると「レスラーの数だけ真実がある」とよく言われているが、テリーに関しては「取材の数だけ真実がある」といった感じである。とにかく、字面だけを見ていると非常に危険な発言を連発しているテリーだが、逆にこうした辻褄の合わなさによって〝プロレスの〟は守られたと言っていいだろう。やはりボクらのアイドル、テリー・ファンク！　結果的にプロレスを守りきったのは、「さすが！」の一言に尽きるのである。

『ビヨンド・ザ・マット』のプロモーション三昧のテリーが語りまくるプロレスバカッ話

テリー・ファンク

INTERVIEW

『ビヨンド・ザ・マット』のプロモーションのため来日し、数え切れないほど取材を受けまくったテリー・ファンク。プロモーションということで当然、映画の話、ビンスの悪口は各誌で言いまくりのテリーに『紙プロ』ではあえて、ざっくばらんなプロレスバカッ話をしてもらった。

聞き手&撮影／イナズマ☆K　構成／松澤チョロ　designed by matsu(Two three)

——（ウェスタンブーツ仕様のスニーカーを見て）おお、カッコイイ靴ですねぇ。

テリー　みんなオレを誉めないで靴を誉めるんだよなぁ（苦笑）。テキサスじゃ普通に売ってるよ。（用意した『闘魂パン』をジッと見て）それはなんだい？

——猪木さんの『闘魂パン』シリーズです。

テリー　オォ、イノキのパンか！

——やはりグレイトテキサンにはドーナツかなと（と言って『ジャーマンスープレックスホールド・ドーナツ』を差し出す）。

テリー（勢いよく袋から取り出し、ガブリと噛みつくテリー）うん。（日本語で）オイシ〜！

——それは良かったです（笑）。

テリー　誉めとかないとイノキに嫌われるからな（笑）。ガッハッハッ！

——そういえば、（テリー・）ゴディさんが亡くなられたみたいですね。

テリー　オーッ、そうだってな。いったい、どうなったんだい？（と近くにあった新聞に見入る。通訳の方が内容を聞かせると、ハァ〜と嘆き）アイツは凄くいいヤツだったんで、ホントにツライよなぁ。

——テリーさんの日本での引退試合で相手を務めたのがゴディの初来日になるんですよね。

テリー（即座に）83年だ！　良く覚えてるよ。アイツは当時、22歳だったな。13歳でアイツはデビューしたんだよなぁ（しみじみと）。

——13歳でデビューっていうのはホント凄いですよね。

テリー　将来が楽しみで、いずれはチャンピオンだって皆に言われてたんだよな。でも、アイツはマット界で多くのことをやり遂げたよ。日本でもタッグチャンピオンになったしな。スティーブ・ウィリアムスとのタッグチームは実にいいチームだったよ。ハンセンとのタッグも良かったけどな。

——フリーバーズもありましたしね。

テリー　そうだよな。でもアイツはダラスじゃ20歳でベテラン扱いだったよ（笑）。

——20歳といっても、キャリアはもう7年になりますからね。

テリー　あんなに若くレスラーになったのはオレが覚えてる限り、ゴディとハーリー・レイスぐらいだな。（寂しげに）ホントに一緒にいて楽しいヤツだったよ。それに生きることを愛してるヤツだった。ちょっと愛し過ぎるくらいにね。

——そうだったんですか。

テリー　でもちょっと飲み過ぎだったからな。ビール飲んで笑うのが大好きで、あんなによく笑うヤツはいなかったよ。

——最近は会ったりはしてたんですか？

テリー　ＥＣＷで一緒になったよ。でもここ数年はアイツに会う機会もなかったな……。一回、飛行機で心臓発作になってからは前のコンディションには戻ってないしな。みんなでメシ食べてもあんまり反応がなかったし、あれ以降、ホントの意味での回復はしてないよな。パワフルで強かったテリー・ゴディは遂に復活しなかったよ。

——人生の因果というか、テリーさんも出ている『ビヨンド・ザ・マット』にはそういう話がギッチリと詰まってますよね。

テリー　そうだな。この映画はドキュメンタリーで、ありのままの姿を写し出すものだから。2年間も会場も家でもカメラを回してたんだよ。最初はカメラを意識して、あまり自然体になれなかったが、しばらくすると気にならなくなった。そこからは本物のドキュメンタリーさ。だから映画で見られるオレはホントにありのままの姿さ。誰かがオレに「あのドキュメンタリーの映画は素晴らしかったよ」って言ったんだ。でもドキュメンタリーだからオレは何もしてないんだよな（笑）。普段の暮らしをしてただけさ。

——映画のハイライトでもあるテキサスでの引退試合の相手、ブレッド・ハートはテリーさんに憧れてアマリロで修行してたんですよね。

テリー　そうだ。ブレッドのデビュー戦はアマリロだったんだ。その相手が、テキサスでの引退試合でレフェリーをやってくれたデニス・スタッブだったのさ。

——あの試合にはそういうドラマもあったんですね。

テリー　ただ、ブレッドの場合はオレの影響だけじゃなく、オレと同じようにファミリーがレスラーだからな。でもオレの周りにはいいレスラーが集まってたよな（しみじみと）。ブロディ、ハンセン、デビアス……。

——そういえば、デビアスは今は牧師をやってるみたいですね。

テリー（驚いて）エッ、彼がアーメンかい!?（噛みしめるように）投票権があればオーニタに投票して、デビアスのところで祈りを捧げたいけどな（笑）。

——でも、テリーさんは〝リビング・レジェンド〟と言われるだけあって、あらゆるレスラーの中心軸って感じがしますね。

テリー　ガッハッハッ！　まあ長過ぎるくらいやってるからな。

——僕も昔から、あなたの試合を見てますけど、ファイトスタイルは変わってもテリーさんの試合って面白いんですよ。

テリー　最初に日本でイノキ、ババと闘ってた頃と、オーニタとのバーンマッチじゃ大きな違いだよ。あれは風圧も凄かったし、我ながらクレイジーな試合だったね。でもあれもこれも素晴らしい日々さ。

——ミック・フォーリーが、ＩＷＡの川崎球場のデスマッチトーナメントが印象に残ってるって自分の本で書いてましたけど。

テリー　とにかくアレは熱かった。クレイジー・アサノ（笑）。

——浅野社長はクレイジーですか（笑）。

テリー　アサノはクレイジープロモーターだよ（笑）。レスラー人生の中でもあんなのは初めてさ。一日中危険な状態の中にいたわけだからな。ホント、バカだよ（笑）。

——ところで、テリーさんのハードコアスタイルのきっかけはいつぐらいになるんですか？　ＥＣＷの頃からですか。

テリー　オリジナルのハードコアスタイルの試合というのは、シークとアブドーラ・ザ・ブッチャー戦が原点だろうな。あの試合でオレはハードコアなレスラーだってイメージが付くようになったんだ。オレがハードコアを好んだとか自分で印象付けたわけじゃないんだよ。望んだワケじゃないのにそのイメージが付きまとってたんだ。それがＥＣＷで花開いたって感じ

ミスター・ポーゴの名付け親がオレだっていうのは本当さ

オレはブッチャーにイスでブッ叩かれてバカになったんだよ（笑）

オーニタもかなりイカれてるけど、政治家に向いてるかもしれないな

かな。

―ＥＣＷは振り返るとどうでしたか。

テリー　いろんな意味で史上初の試みをたくさんしたよな。

―ＥＣＷで一番印象に残ってる試合は？

テリー　（即座に）そりゃサブーとの試合だよ。でも、あれはやりすぎだった（苦笑）。

―やりすぎでしたか（笑）。

テリー　サブーは有刺鉄線で傷が開いちまって二の腕の筋肉が見えてたからな。彼はマネージャーに「テープ巻いてくれ」って、試合を止めるんじゃなくて、テープを巻いたら「オッケー、レッツゴー！」って言って試合を続行したんだよ（笑）。

―試合止めないで、傷口を止めたと（笑）。

テリー　まさかテープをグルグル巻で戻ってくるとは思わなかったよ（笑）。オレは首に有刺鉄線が絡まって気を失う寸前だったんだ。首にトゲが突き刺さったまま取れなくてね。それで試合終わって安心したのか、首に巻いたまま気を失って倒れちゃったんだよ。あれほど残忍な試合はしたことがないよ。オレの記憶では最高だね。

―最高でしたか（笑）。

テリー　その時、オレは狂ったことする所にいるんだなって改めて思ったよ（笑）。

―その時に気づいたんですか（笑）。でもさすがプロレスラーって感じですね。

テリー　クレイジーボーイ！（笑）。そう、クレージーと言えばダイナマイト・キッドも大好きだった。彼はどんなに身体を痛めつけられて動けなくても目一杯ファイトしてたからな。

―そうですね。でも今は車椅子生活なんですよ。テリーさんだってそうなってもおかしくなかったワケじゃないですか。

テリー　オレだって肉体的には誉められたモンじゃないよ（笑）。でも、ほどほどにオッケーさ！

―現在、57歳ということですけど、今だにムーンサルトやったりしてますからね。

テリー　（日本語で）バカ！（笑）。

―何があなたをそういう気持ちに駆り立てるんですか。

テリー　特別でありたいからさ。それにファンにとってその日を特別な夜にしてあげたいから頑張っちゃうんだよ。危険な技を出して、その後自分がどうなるかってのは気にはしてないし、試合中は気にならない。ちょっとイカレてるよな（笑）。あそこであんなことやらなきゃ良かったって思っても、なぜか試合が始まると「やってやる！」ってなっちゃうんだよ。それで立てなくても、その時はその時だって覚悟があるから。

―その発想は、やっぱりお父さんの影響なんですか？

テリー　（ゆっくり首を振って）ノー。オヤジはそんな人じゃなかった。オレはブッチャーにイスでブッ叩かれた時にバカになったんだよ。全部ブッチャーのせいだ（笑）。

―ブッチャーのせいでしたか（笑）。この間の全日ドームでも大仁田さんと組んでブッチャーと試合しましたけど面白かったですよ。

テリー　まだまだバカだからな（笑）。でもオーニタもかなりイカレてるよ。オーニタは、そんなに強力な存在じゃないのに新日、全日に楯突いて、ある程度成功するっていうのはたいしたもんだよ。きっと彼は人のことが好きなんだよ。ただ一番好きなのは、いろんな人が自分を愛し応援してくれることなんだろうけどな。

―そんな感じはしますね。

テリー　それを肥やしに頑張ってるんだろう。オーニタにとって、人に好かれて声援を受けることがモノ凄く大事なことなんだろうな。でも、そういうことが得意で重要だっていうのが分かってるなら政治家に向いてるかもしれないな（笑）。

―そうですか（笑）。その大仁田さんは、テリーさんからの影響が大きいって言ってますけど。

テリー　きっとそうなんだろうな。何年も一緒にいろいろとやってきたからね。

―あ、そうだ。テリーさんはミスター・ポーゴの名付け親だって聞いたんですけど、それってホントなんですか。

テリー　ガッハッハッ！　それはホントだ。Ｍｒ．ＴＯＧＯがＰＯＧＯに見えちゃったんだよ。「オレにはポーゴって見えるぞ！」って言ってたら、いつの間にかそれがアメリカで定着したんだよ（笑）。

―事実でしたか。そういえば、大仁田さんが議員になったら、中牧さんが秘書になるみたいなんですよ。

テリー　それは本当かい？（日本語で）ナカマキ、バカ。クレイジー！（笑）。

―日本は危機にさらされてますか（笑）。

テリー　ナカマキが文部大臣にでもなったらヤバいな（笑）。彼が金を扱うのはデンジャラスだよ。使い込むんじゃないか。まあ、それは冗談だけどな（笑）。

―テリーさんは、最近プエルトリコやドイツで試合してるそうですが、ＸＰＷにも出てましたね。

テリー　1回だけ出たよ。ただ最近はＸＰＷも力が落ちて分裂気味っていうし、かつての勢いはないって聞いてるよ。

―今のアメリカマット界はＷＷＦの一人勝ち状態ですよね。

テリー　その通り。独占状態だよ。この映画見ると分かるだろ。日本ならいろいろあるけど、アメリカのレスリング・ファンは選択肢がないんだよ。

―ＷＷＦを見るしかないんですね。

テリー　そうだ。今のレスリングの中心は群を抜いて日本だよ。団体がいくつもあるっていうのがいいよな。レスラーが更に進化する為に、いろんなスタイルを学ぶことができるのは素晴らしいよ。ＷＷＦはエンターテインメント色が強すぎるし、権力を持ちすぎているのさ。

―ビンスのことは相当嫌いらしいですからね。

テリー　その通りだよ（笑）。ビンスは自分の会社でやりたいように、そしてやりたい放題やっていて、誰も文句言えないだろ。金も権力も持ちすぎだからな。ホントに今はアメリカのマット界は困難な時代だよ。ビンスという一人のプロモーターが牛耳ってるんだからな。

―今はＷＣＷ、ＥＣＷも、一つの軍団になっちゃいましたからね。最近、ポールＥとは連絡は取ってるんですか？

テリー　連絡は取ってるよ。

―軍団の中にテリーさんが入っていったらまた面白い気もしますけど。

テリー　ノーノー（笑）。オレはビンスのとこでやる気ないよ。逆にブン殴ってやりたいくらいさ（笑）。もう二度と関わりたくないね。

―そこまで嫌いなんですか（笑）。それでは、次の日本での試合を楽しみにしてます。

テリー　オレもそれを望んでるよ。必ず日本で試合をするから楽しみに待っててくれ！

【7月15日／東京・恵比寿ウエスティンホテルにて収録】

TERRY

BATTLE GENESIS Vol.VIII

滑川 康仁 初の
メインイベント決定!

入門1年半…遂にそのベールがはがされる
伊藤 博之 デビュー!

須藤 元気 参戦決定!!

そして…
(鳥合破門会)
矢野 卓見が
リングスマットに
現れる

参加選手

滑川 康仁（リングス・ジャパン） Vs デクスター・ケイシー（リングス・イギリス）
横井 宏考（リングス・ジャパン） Vs 小島 正也（和術慧舟會千葉支部）
伊藤 博之（リングス・ジャパン） Vs 門馬 秀貴（A3 GYM）
小谷 直之（RODEO STYLE） Vs 所 英男（パワーオブドリーム） 他

2001.9.21(金) OPEN·18:00 START·19:00 後楽園ホール

入場料金

RRS席（1〜2列目）：¥12,000
RS席：¥10,000／S席：¥7,000
A席：¥5,000／B席：¥3,000
学生特別優待A席※：¥2,000
学生特別優待B席※：¥1,000
※学生特別優待席はチケットぴあのみでの販売となります。
なお、高校生以下に限らせていただき、ご購入の際、学生証の提示が必要となります。

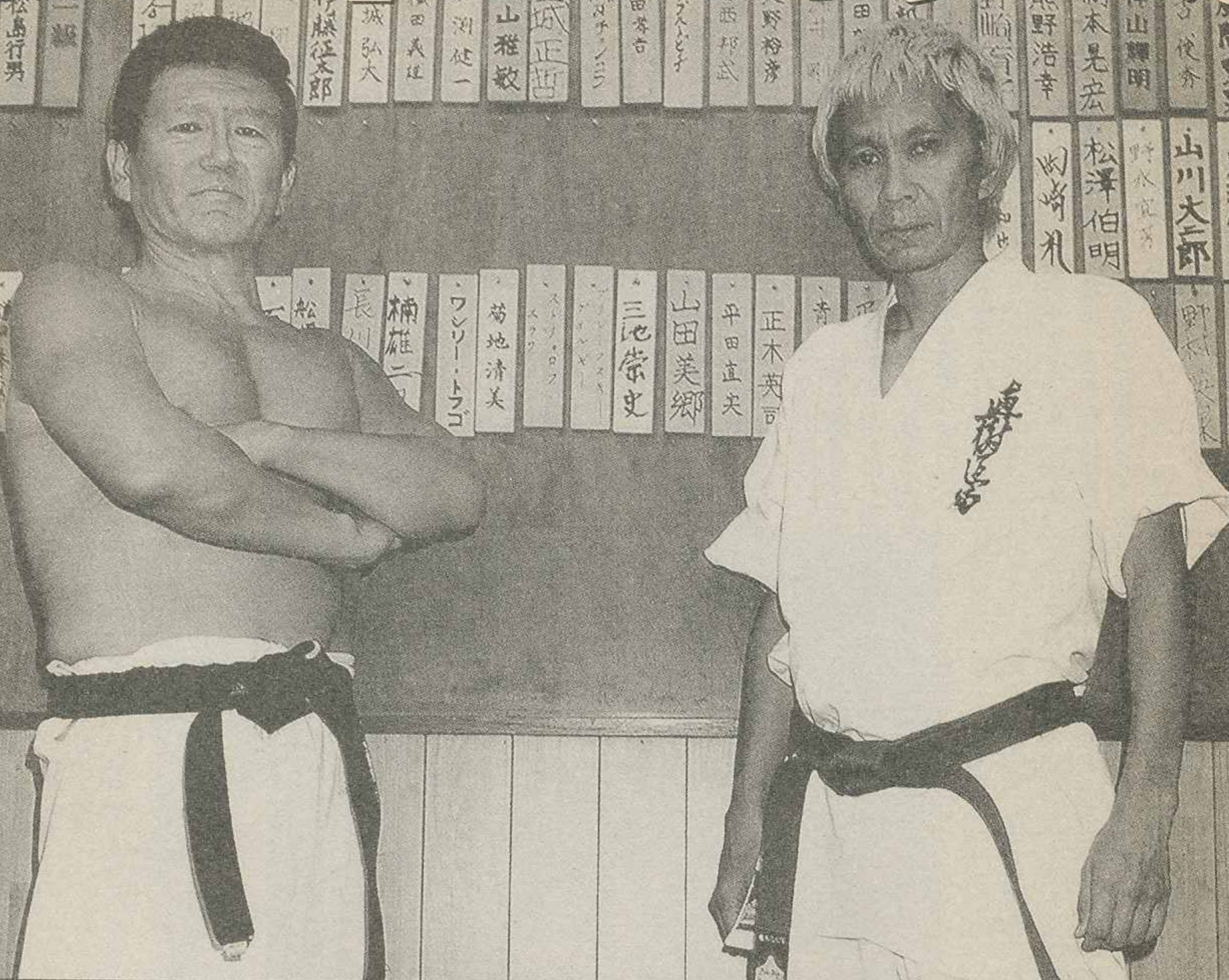
発売場所

チケットぴあ TEL:03-5237-9999／チケットぴあPコード予約TEL:03-5237-9966（Pコード／594-030）
CNプレイガイド TEL:03-5802-9999／ローソンチケット TEL:03-5537-9999
ローソンチケットLコード予約 TEL:03-3569-9900（Lコード／34146）
後楽園ホール TEL:03-5800-9999／レッスル渋谷 TEL:03-3464-0078
レッスル池袋 TEL:03-3989-0056／書泉ブックマート TEL:03-3294-0011
大山アメリカン TEL:03-3962-6443／ビデオショップ・チャンピオン TEL:03-3221-6237
フィットネスショップ水道橋店 TEL:03-3265-4646／格闘技プロショップイサミ TEL:03-3352-4083
イサミ尚武堂 TEL:03-5214-6487
●お問い合わせ：（株）リングス TEL:03-3461-0257

発売 7月14日（土）午前10時より発売開始

主催：FIGHTING NETWORK RINGS
後援：日刊スポーツ新聞社
協力：日ロスポーツ交流協会
日本コマンドサンボ連盟

FIGHTING NETWORK RINGS

祝『無比人』映画化決定(!?)記念

究極の映像美対談

日本が世界に誇る
小説家&真樹道場首席師範
真樹日佐夫

×

日本が世界に誇る
映画監督&真樹道場・青帯
三池崇史

3カ月前から企画していた真樹日佐夫vs三池崇史の対談が遂に実現。これは本誌で連載していた格闘小説『無比人』の完結を新たなステップに進ませる意味でも非常に意義深い特別企画。で、新たなステップとは『無比人』の映画化である! 小説&劇画の原作も手がける真樹先生と『デッド・オア・アライブ』『漂流街』などで知られる映画監督・三池氏は『ボディーガード牙』『シルバー』など何本もの名作・話題作を制作している仲。また、空手の師弟関係でもあるこの2人が映画と格闘技、そして『無比人』の映画化についてざっくばらんに語り合ったわけである。押忍!

聞き手／中村カタブツ君(38歳)
助手／松澤チョロ　撮影／斉藤ユーリ

designed by matsu (Two three)

BATTLE GENESIS Vol.VIII

これが真樹&三池の実戦稽古シーン！ 世界初公開の快挙だ!!

本誌で4年半に渡って連載していた格闘小説『無比人』が先々月最終回を迎えた。現実と仮想がリンクしたこの作品は、ヒクソンからカレリン、タイソンまでが実名で登場する驚愕の格闘シーンと、ペニスバンドまでが登場する壮絶なSMプレイが好評を博した名作である。その展開の早さはともかく素晴らしく、たっぷりとしたSM描写でこちらの下半身をギラギラさせておいて、その次の行では「もしもし、佐山で～す」と初代タイガー佐山聡が呑気に電話をかけてきたりと、意表を突かれることおびただしい限り。

このスケールの大きさとスピード感をぜひとも映像で見てみたいと思う本誌は真樹先生の空手の弟子でもある映画監督・三池崇史氏との対談を企画したのだ。三池氏といえば、哀川翔&竹内力主演の『デッド・オア・アライブ』、吉川晃司主演の『天国から来た男たち』、SPEED主演の『アンドロメディア』などで知られる名監督。プロレス・格闘技ファン的には、『喧嘩の花道・大阪最強伝説』での前田日明そっくりなゴンタな不良高校生たちと、近所の飲んだくれたちの怒濤のバカ丸出しっぷりが好感を持てるはず。

そしてまた、真樹&三池師弟は脚本家&映画監督としてタッグを組んで数多くの作品を残している。その作品の1つとして『無比人』が並んだりしたらこれほど嬉しいことはない。

実現するか否かは別として、まずは師弟の映画、格闘談義を楽しんでいただきたい。

P・S　三池監督のマネージャー女史の抜群の手綱の引きっぷりも併せてお楽しみいただけると幸いです。

◆

真樹　とりあえず、さっき稽古で汗かいてるからビールでも飲むか。三池君は何にする？

三池　じゃ、僕もビールを（笑）。

監督のマネージャー　（即座に）ダメです！　最近、飲むと偏頭痛が出るでしょ。

三池　一杯ぐらいなら大丈夫だって。

マネージャー　ダメ！

真樹　ふふふ。稽古のあとの酒はまた格別なんだが、それじゃ我慢するか（笑）。なにしろ三池君は日本の宝だからな。マネージャーさんは飲むだろ。

マネージャー　はい。私はいただきます（笑）。

三池　え！　じゃあ、俺だって飲むよ！

マネージャー　一杯じゃすまないでしょ。限度がないんだから。

三池　なんだよ、それぇ、もう。

真樹　ふふふ。どうだ、久しぶりの稽古は（笑）。

三池　いやもうキツいですよ。というか、今日は稽古するつもりじゃなかったですから。撮影用に道着を持ってきてただけだったんで。

真樹　騙されたか（笑）。

三池　いやぁ、そういうんじゃないんですけどぉ。

真樹　三池君もそろそろ帯の色を変えないとな。どうだ、8月に合宿があるけど1日ぐらい来て審査会を受けるか。

三池　あっ、いやぁ、僕、ちょっといま考え方を変えてますんで。またどこかで時間を作って。

真樹　それはダメ！

三池　あっ、じゃあ、もう青帯のままずっといこうと（笑）。

真樹　なんじゃ、それは。

マネージャー　あのぅ、青い色の帯ってホントにあるんですか？

真樹　おい、麗しきマネージャー女史からこんな質問が出てるんだが、いいのか（笑）。

三池　いやぁ、だから、あのぉ、自分の能力を考えると、たとえ黒帯を取れたとしても黒のようで黒でないようなぁ……。

マネージャー　黒帯だけど黒帯じゃないってなに？（笑）

三池　まあ、だから、組手をやるとちょっと強い青帯というか……。青帯なんだけどあいつとやるのは嫌だなっていうか、そんな感じの……ねぇ（笑）。

マネージャー　中学3年生みたいな言い訳しないの！（笑）

真樹　ガハハハ！　さすがの三池君も形無しだな（笑）。で、今日は何の話をするんだ？

――今日は『無比人』の最終回記念特別企画として、真樹先生と三池監督の異色師弟対談ということで格闘技と映画の話をざっくばらんに。

真樹　（三池監督に向かって）この雑誌で4年半に渡って連載していた小説が最終回になったんだよ。ちょうど（監督のマネージャーを見て）彼女みたいに美しくて気の強い女性がたくさん出てくるんだよな。格闘技もあって女もあって、そしてSMもあるぞ（笑）。

三池　SMですか（笑）。

――ペニスバンドとか奴隷とかいう言葉が随所に出てきて最高です（笑）。

真樹　コイツは俺に向かって「格闘シーンよりSMシーンを増やしてください」って言った悪い読み手だから相手にしなくてよろしい（笑）。

――す、すいません。で、先生

師弟関係という絵を撮らせてもらうため三池監督には空手着を持ってきてもらったのだったが、やはり撮影だけでは正直すまなかった（笑）。指定された時間に真樹道場を訪ねると、一般道場生に交じって熱心に稽古に励む三池監督の姿を発見！（取材当日は岩城滉一夫人の姿も）。最後には真樹先生の必殺の喉輪が三池監督を直撃！翌日、三池監督は声が出なくなってしまったという

と監督の出会いのきっかけというと真樹先生が脚本を書いた『人間兇器』になるんですか。

真樹 まあ、そうなるな。あの頃はまだ三池君も監督デビューして2、3本ぐらいだったかな。だから、その時は何だかハリネズミのように緊張してたよな（笑）。

三池 僕自身がまだ先生のことが怖かったですからね（笑）。それにあの時は先にホンをもらっててバシバシ切っちゃってたんですよね。現実問題として撮っていく時には切らなきゃいけないわけですから。で、そのあとでプロデューサーに初めて先生を紹介してもらって。もう、その時は「最初に言ってくれよ。そしたらなんにも削らなかったのに」って（笑）。

真樹 ふふふ。

三池 ただ、その前から噂はいろいろ聞いてはいたんですけど。

真樹 どんな噂だ？

三池 いやぁ～（笑）。あの、やっぱり映画業界っていうか、先生は俳優もやってますし、梶原一騎先生の弟であるし。梶原先生の場合はプロデューサーでもあったし……。

真樹 なんだ、言いにくいのか？（笑）

三池 いや、だから、まぁ……。怖いっていうか（笑）。実際、撮影の時に沖縄で暴れたじゃないですか、先生。スケジュールをちょっと変えた時に（笑）。

真樹 ガハハハ！ 俺も昔はうちのお兄ちゃん（梶原一騎）に騙されて演技者として映画には出てたんだよな。それでも内情っていうのはある程度しかわかっていなかったんだな。それなのにな、彼の場合は何にも説明しないで30分も1時間も待たせるんだよ。「なんで説明しねぇんだ」ってなっちゃうよな（笑）。

三池 まあ、説明しちゃうと待ってもらえなくなるから（笑）。

真樹 それは今ならわかるんだよ。だけど、あの時は「なんで待たせるんだ！」ってな。そしたら、三池君と助監督と、それから俳優たちがシーンとしちゃって物も言わないんだよ。

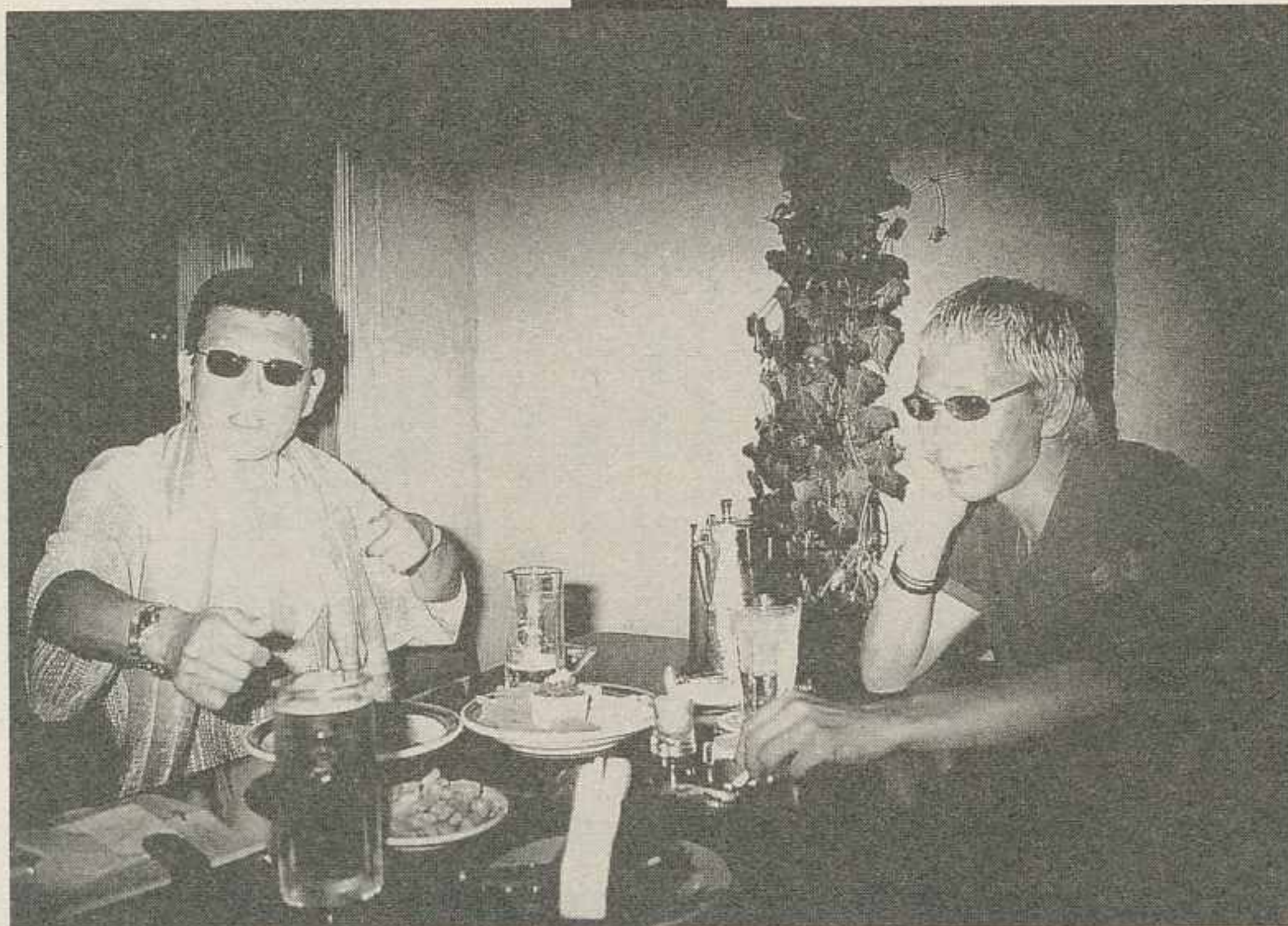
三池 言えないでしょう（笑）。

真樹 まあ、そういうことで出会ったんだ。だから、最初はスムーズとは言い難かったな。だけどな、そういう方がいいんだよ、男同士の出会いっていうのは。

三池 ただ、僕は全面的に凄く面白かったなと思ってたんですよ（笑）。

鞄に鉄板を入れて頭を叩くと首が折れるんだよ（真樹）

三池崇史 TAKASHI MIIKE

1960年8月24日、大阪府出身。横浜放送専門学校（現・日本映画学校）在学中から撮影現場に出入りし、今村昌平、恩地日出男監督に師事する。卒業してからは、数多くの作品の助監督を務める。監督デビュー後は『喧嘩の花道』『岸和田少年愚連隊』『天然少女・萬』『オーディション』『フルメタル極道』『天国から来た男たち』からSPEED主演の『アンドロメディア』までクオリティーの高い作品を連発しまくっている名監督。

真樹日佐夫 HISAO MAKI

1940年、東京都出身。『紙プロ』読者なら誰もが知っていると思うが、故・梶原一騎氏の実弟。早稲田大学を中退し、1968年『兇器』で第33回オール讀物新人賞を受賞。2000年『兄貴』でJLNA文学賞特別賞を受賞。世界空手道連盟真樹道場宗主という顔だけではなく、小説家、さらに映画の原作&脚本から製作まで各方面でその才能を発揮している。真樹先生のことをもっと詳しく知りたいという奴は迷わず『すてごろ懺悔』を読め!

真樹 俺の方は「スモークばっか焚きやがって、あの野郎、頭に来るな」って思ってたよ（笑）。でもな、完成した映像を見た時にタダ者じゃねえなって思ったんだよ。チェーンデスマッチのシーンなんか特にな。なぜかと言うと劇画の原作を書く時っていうのはコマのイメージから起こしていくわけだ。だから、彼の映像には新鮮な驚きがあったんだな。それで知り合いのプロデューサーから「若手で、いい監督いないか」って話があった時に彼を紹介したんだよ。沖縄の時は説明もしねえで1時間も2時間も待たせやがって気に入らねぇなと思っても、それはそれ、これはこれでな（笑）。

――なんか、気に入られてるような嫌われてるような微妙なラインだったんですね、実は（笑）。

三池 ええ（笑）。

真樹 それでプロデューサーが彼に会いに行って、朝までカラオケで飲んで意気投合して、いまの事務所に身を置くきっかけになったんだよ。だから、俺が縁結びの神様だな（笑）。

三池 はい（笑）。ただ、僕の先生のイメージは、怖いんですけど楽しかった、ですね。会ったことないタイプの人でしたし、ここで避けたりしたら、逃げることになっちゃうんで。

――かなり好きなタイプなんじゃないんですか。

真樹 なんか無理矢理言わそうとしてないか（笑）。三池君はもともと岸和田とかあっちの方の出身だろ？

三池 八尾です。だから普通のレベルのゴンタの一人なんです。向こうは普通のレベルでちょっと変なんで。中学校の教室にバイクで入ってくるところまでが八尾中の普通レベルなんで（笑）。

真樹 リングスの前田日明君もあの辺でモメてたんだよな（笑）。

三池 そうですね（笑）。ただ、僕らの場合は流されてやってたようなもので本物とは違いますから。もうまったく次元が違いますからね。

真樹 だけど、動きを見てると彼もかなり喧嘩をやってた時期があるのはわかるな。バタフライナイフなんかを持ってた時代ぐらいか？

三池 いや、そういう意味ではまともなものですね。

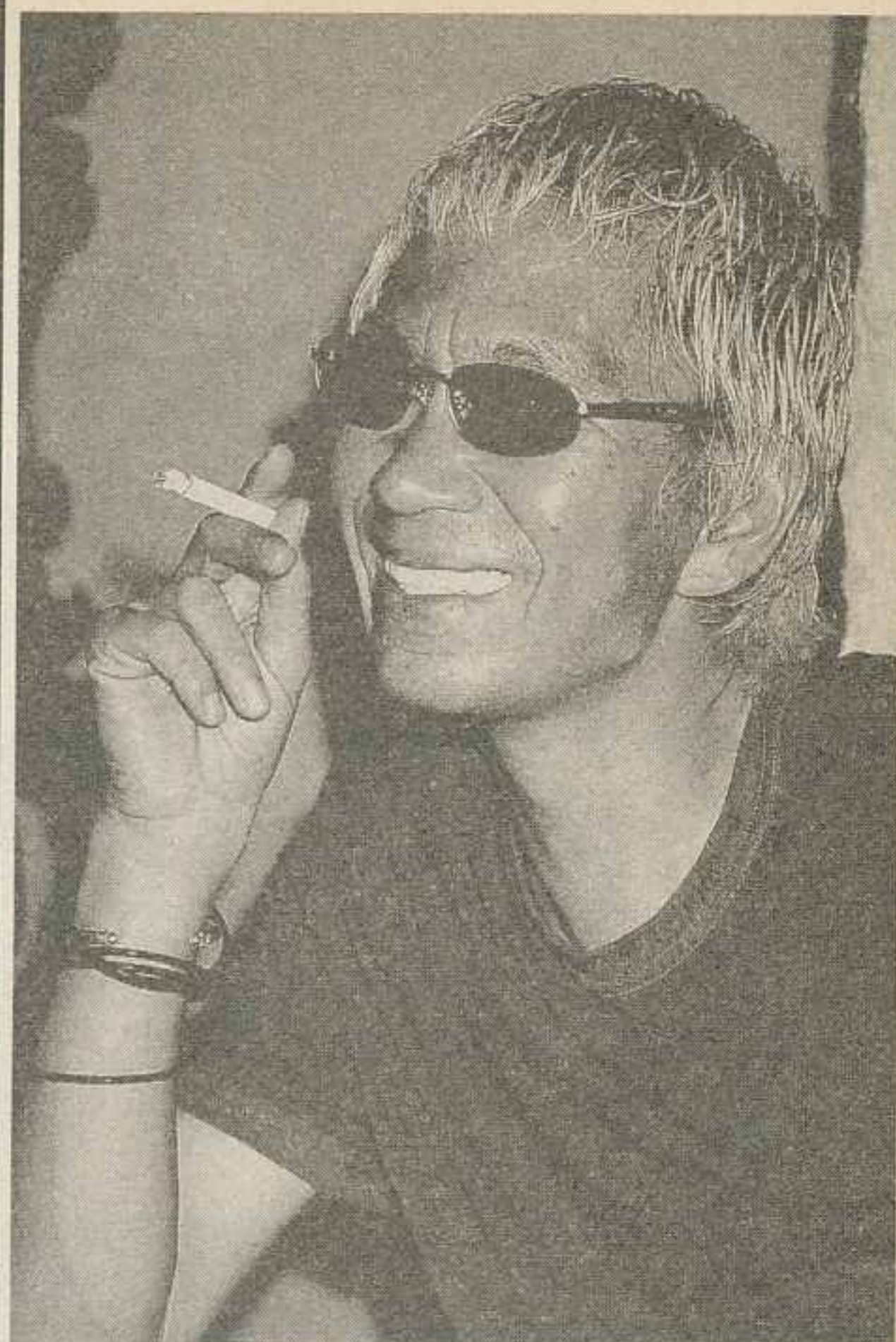
――鞄に鉄板を入れて歩いていたとかですか（笑）。

真樹 ああ、あれは効くんだよな（しみじみと）。頭を叩くと首が折れるんだよ。

三池 折れちゃマズイでしょ（笑）。

真樹 いや、ガバッと殴ると折れる。でも、首の骨が折れても死なないよ。

三池 そうなんですか（笑）。

真樹 うん。首の骨も足の骨も一緒で神経と血管さえついてれ

僕も真樹道場の一員として、ある意味死ぬ気でやりました（笑）

ば大丈夫だな。だから、ギブスってもんがあるんだろ（笑）。

三池　ギブス（笑）。だけど、僕はその道ではプロになれないとはわかりましたよね。本物の不良には成りきれないってはっきりわかりましたよね。

――ただ、やらなきゃいけない状況ってあると思うんですよね、場所が場所だけに。

三池　ありますよね。一回、中学校の時に彼女と一緒にいるところを囲まれたことがあるんですよ。その時はたまたま相手に知ってる先輩の後輩がいたんでなんともなかったんで、あれですけど、悔しい気持ちが残って。ボコボコにされてた方がまだ楽だったんですよね。避けたというか、逃げたっていう。それを、2、3年引きずる状況ってあって、そういうものは避けたいなってことで。

――じゃあ、強くならなければいけないなと。

三池　いや、強くっていうか、強くなくてもいいからやんなきゃいけないなっていうのは。

真樹　そうだな。喧嘩っていうのは格闘技を知ってるとかじゃないんだよ。空手なんか役に立たないことの方が多いんだからな。

三池　役に立たないんですか（笑）。

真樹　喧嘩は技術の応酬じゃないからな。やっぱり、やんなきゃいけないっていう気合いみたいなものが一番重要だよ。あとは金的と目突きだな（笑）。

三池　金的と目突き……。やっぱり、これが本職っていうか。

真樹　違うだろ。俺の場合は暴力団を作ろうって友達から言われたんだよ。断ったけどな。だってな、暴力団を作っちゃったら暴力団を脅せねぇだろ（笑）。

三池　そういう話はいろいろと聞いてます（笑）。

――そういうお二人だからこそ意気投合しやすかったんでしょうね。

真樹　だけど、俺と三池君を結びつけた一番のポイントは海外ロケなんだよ。人間的に結びつけたのはな。なにしろ、海外に行くとロクなことがないからな。俺が暴れたくなっても我慢するのは彼がいるからだよ。極端な言い方をすれば俺一人なら向こうで暴れてパクられてもいいんだよ。

三池　というか、何かことが起こる以前の問題として空港からなかなか出て来られないじゃないですか、先生は（笑）。

真樹　それを言うなよ（笑）。

三池　僕らはそれが一番困るんですよ。一回、ヒドい時ありましたよね。空港に迎えに行ったのに1時間経っても出て来ないし、日本に問い合わせてみると乗ったっていうし。「おかしいなぁ」って思ってたら、それから30分ぐらいしてからかなぁ、エライ剣幕で出てきて（笑）。

真樹　ロス空港は俺を入れたくないんだよ（笑）。

三池　なんか、パンツ一枚にされたらしいですよね（笑）。

真樹　いや、ズボンを脱がせたら暴れちゃおうと思ってたんだ（笑）。だけど、それが向こうの手なんだよ。逆上させて暴力振るわせて逮捕しちゃうとか、そういう二重構造が見えてるからグッと我慢してな。それにしても空港のああいう係官の女はな

真樹＆三池の最凶タッグ作品を味わえ！

人間兇器　～愛と怒りのリング～

真樹先生と三池監督が組んだ初の作品。組織拡大のためには手段を選ばない、なんだか、初期極真空手みたいな空手団体・大東空手に所属する凄腕空手家が、地下プロレスのリングで壮絶な闘いを展開する。DEEP2001のリングガール、工藤めぐみが他流派空手の師範の娘役に扮し、華麗な空手アクションを見せたり、レイプされたりとファンにはたまらない。また、真樹先生が地下プロレスの猛者どもを鮮やかに倒していくさまは圧巻。

ボディガード牙

ビデオ業界誌のビデオオリジナル大賞監督賞を受賞した名作であり、真樹＆三池作品を見るにあたって、まずは最初に見て欲しい作品。元プロボクサー大和武士が大東空手の闇のボディガード組織「神の手機関」の牙直人に扮し、ヤクザから5億円を騙し取ったチンピラの護衛のために死闘を展開する。真樹先生が沖縄の青い海をバックに対ヌンチャク、対カマの空手家たちを次々と倒していくのが痛快。ボディガード牙シリーズの最初の作品。

SILVER　シルバー

巨大な乳と乳輪を持つ桜庭あつこが囮捜査官として裏組織とつながる女子プロレス団体にレスラーとして潜入するエロス満載のアクションであるわけだが、世間的には桜庭と羽賀研二の熱愛報道によって注目された作品。真樹先生と桜庭がバーで語り合うシーンは大人の色気満載で必見！　この後、桜庭も真樹先生の弟子として空手を本格的に学び始め、彼女が女子総合格闘技リミックスに出場する気になったのもこの映画がきっかけなのである。

FAMILY　ファミリー

岩城滉一、木村一八といった濃い男達と真樹先生の共演がとにかくイカシた名作。一人は殺し屋、一人はヤクザ、一人は自衛隊幹部の3兄弟が日本の首領に闘いを挑む壮大すぎるストーリー。対談でも触れているが、この映画をきっかけに空手に目覚めた岩城が真樹道場に夫婦揃って通うようになる、映画界のみならず空手界にも貢献した作品。現在岩城は黄色帯と三池監督よりも既に上というのが素晴らしい。というか、何やってんだ、三池

んであんなに顔が悪いんだ。いい女だったら脱いだっていいんだよ、俺は（笑）。

――喜んで脱ぐと（笑）。

真樹 そうだよ。いい女が集まってたら、「いまどこにいると思う？」って電話してるよなぁ（笑）。

三池 「もうちょっと待て、いまいいところだから」と（笑）。

真樹 そうだ（笑）。まあ、海外っていうのは新婚カップルだって喧嘩して帰ってくるようなそういうもんだよ。

三池 はい（笑）。

真樹 だから海外で男同士が仕事するっていうのは、ひとつの試金石なんだよ、どっちにとっても。そういう意味で、彼との付き合いっていうのは凝縮したもんなんだよな。それは日本にいるよりも思いがけない経験がいくらでもあることもそうだし、また生意気な奴もいっぱいいるんだよ。

三池 先生は生意気な人がいるとすぐにスクワットで勝負するんですよ（笑）。

――スクワット？

真樹 ガハハハ！ 「俺は空手5段だ」とか言ってくる可愛くない奴がスタッフの中にいるんだよな（笑）。だけど、海外でのばしちゃったらマズいだろ。だから、ジャンピングスクワットで勝負だよな（笑）。

三池 でも、その時に「三池君もやりなさい」って言われるわけですよ（笑）。

――連帯責任ですか（笑）。

三池 まあ。でも、そうなるとパワーを感じるんですよ。「こいつに負けたらお前どうなるかわかってるな」っていう無言のパワーを（笑）。

真樹 ガハハハ！ 俺が何を考えているのかわかっているんだよなぁ。

三池 もうその時は僕も真樹道場の一員として、ある意味死ぬ気で（笑）。

――素晴らしい押忍の世界ですね（笑）。で、何回ぐらいやったんですか。

三池 何回ぐらいかな。10回単位でずっとやってましたからね。

真樹 そいつは70回ぐらいでネをあげたな。

三池 なにしろ、ジャンピングスクワットですからね。

真樹 普通のスクワットの10倍はきついからな。

三池 まあ、そんなことを現場の片隅でやってるんです（笑）。

海外ではジャンピングスクワットで勝負だよな（笑）

真樹 その間も映画の撮影は進んでるんだよな（笑）。

――え！ カメラは回ってるのに監督がジャンピングスクワットやってていいんですか（笑）。

三池 その時は僕はプロデュース側だったんで。だけど、そのスタッフは一週間ぐらい現場で使い物にならなくなっちゃったんですけどね（笑）。なっちゃうんですけどね（笑）。

――映画の現場ってそういうものなんですか（笑）。

三池 そんなもんです（笑）。確か、ジェイコブでしたよね。

真樹 そう。ベニー・ユキーデの弟子だって言ってたよ（笑）。で、そいつがベニーに言いつけに言ったら、ベニーは俺のところに来て「お久しぶりです」ってなってな（笑）。ジャイコブは俺とベニーことを知らなかったんだよ。

――だって、ベニーは四角いジャングルで真樹先生とは。

真樹 長いつきあいだよ。それを知らないでな（笑）。だから、指一本触れないで相手の自尊心を折るっていうのは大事なんだよな。日本だったら面倒はねえんだよ。生意気な奴がいたら、ちょっと絞めちゃえばいいんだけど、向こうは銃社会だから殴っちゃったりしたら、あとで何をされるかわからないだろ。それにアメリカ人っていうのはホントに仕事しないよな。三池君と比べたら三分の一ぐらいしか仕事しないですぐに帰っちゃう。それでギャラはカジノでみんな取られちゃって、一週間働いた分が2時間ぐらいでなくなっちゃう。そうすると現場がだんだん殺伐としてくるんだ、見てるとわかるんだよ（笑）。

三池 ピリピリしてくるんですよね（笑）。で、そんな現場の片隅でスクワットしてる僕たちっていうのも面白いんですよ（笑）。

――ある意味、贅沢な光景ですね（笑）。

三池 で、撮影終わって先生とカジノに行くとそこでも僕らは勝つんですよ。特に先生は凄いですよ。

真樹 50回ぐらい行ってるけど、負けたのは3回だけしかないからな（笑）。だけど、カジノの奴らは悔しかったんだろうな。嫌がらせするんだよ。出国する時に「この金はなんだ」ってなるだろ。カジノで稼いだんだから問題ない金だし、「カジノに問い合わせてみろ」って言ってるのに、また時間かけやがってな。

三池 それでまた身体検査でしたね（笑）。

真樹 行きも帰りもだよ（笑）。

三池 それから台湾では役者が来なかったんですよね（笑）。

真樹 そんな話、海外だといくらでもあるんだよな（笑）。

三池 あれはゲスト主役みたいな役を台湾の役者でキャスティングしてたんですね。それで、いよいよその役者の初日って時に来ないんですよ。電話してもいないし。そしたら台湾のプロデューサーがやって来て、「そんなの気にしなくていいよ。いい人がいるじゃないか、君のまわりに」って言うわけですよ（笑）。

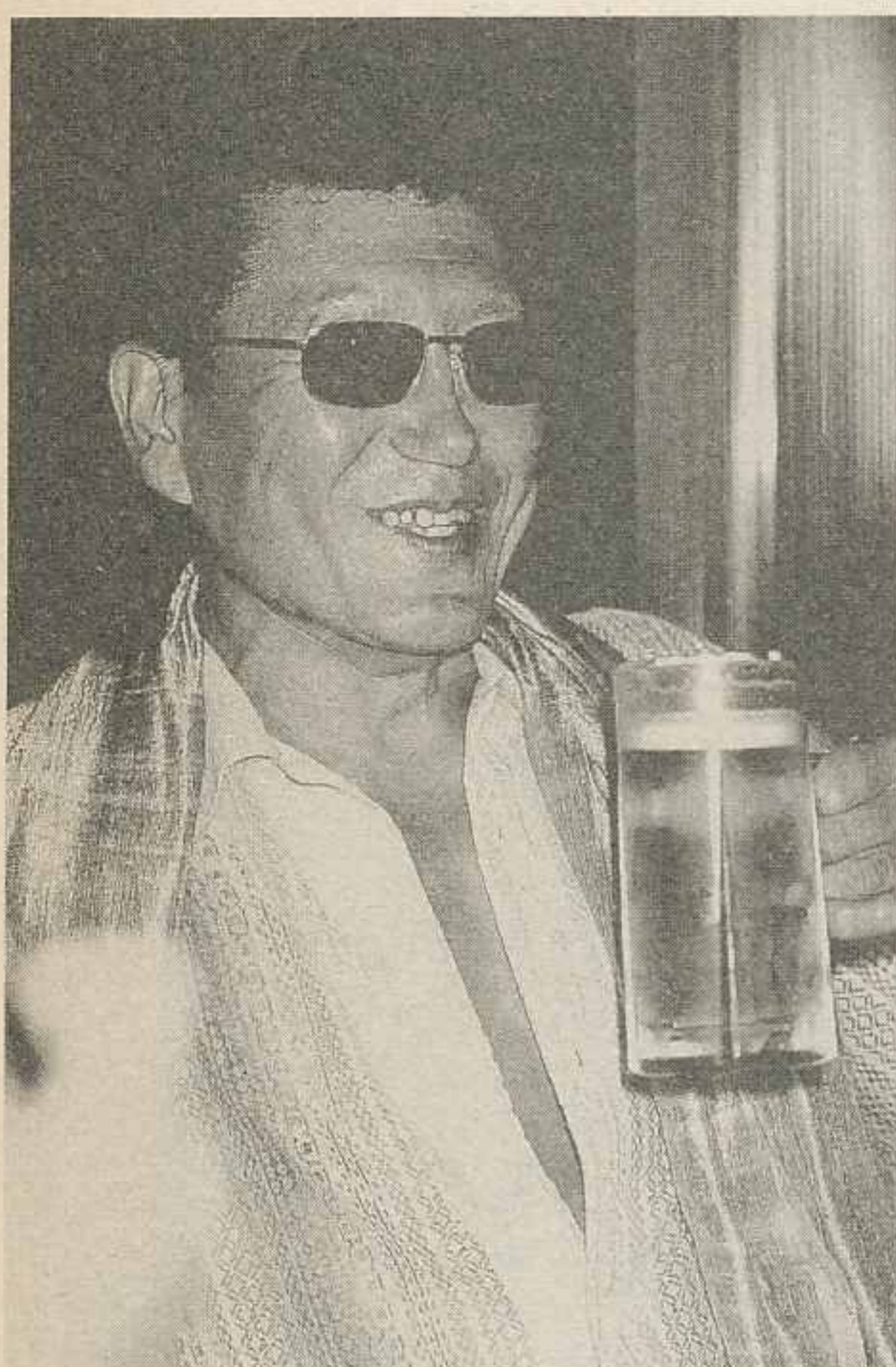
真樹 ちょうどその時、ウチの道場の沖縄支部の人間にもいろいろ手伝ってもらってたんだよな。

三池 で、沖縄支部長の安里さんを指さして、「いい人がいる」って。

真樹 いい加減な奴らだよな（笑）。

三池 だけど、確かにそういう目でみると「なるほどな」って思うんですよね、これが（笑）。

――だけど、役者としては素人ですよね。なのに準主役級にキャスティングしちゃうんですから、ムチャクチャしますね（笑）。

三池 映画ってセリフがうまいヘタとかってことじゃないじゃないですか。ヘタでも面白ければってことでそれでいいんですね。先生の演技もそうなんですけど、本人の持ち味が出てればいいんですよ。

BATTLE GENESIS Vol.VIII

――そういえば『シルバー』では桜庭あつこさんとバーのシーンで語り合ってましたよね。

真樹　あれはまあ、ちょうど同じような演技力なんで良かったんじゃないか（笑）。

――監督的にはどうだったんですか。

三池　早く時が過ぎればいいな、と（笑）。

真樹　この野郎！（笑）

三池　でも、進歩してるんですよ。

真樹　なんで俺の方を見ないで言うんだ（笑）。

三池　凄い進歩してますよ（笑）。

――ところで、『シルバー』で1つ聞きたいことがあるんですが、あの映画は桜庭あつこさんと羽賀研二さんの熱愛報道があったり、ワイドショー的にも話題になりましたよね。

真樹　あれは桜庭君がちょっと走りすぎたよな（笑）。

――だから、カラミのシーンがどうだったかっていうのをホントに聞きたいんですが。

真樹　お前は下世話な話題が好きだのぉ（呆れて）。まあ、あのシーンはゆっくりからんで、異常に長かったからな。

三池　あのシーンは10分ぐらいは撮りましたね、使ったのは2分ぐらいでしたけど。

真樹　結構、キレイに撮れてたよ。

三池　要は羽賀さんがうまいんで、任せてましたね。

真樹　あんなものは監督がゴチャゴチャ言ってもしょうがねえからな（笑）。気が済んだか？

――はい（笑）。映画を作ってる時には師弟関係っていうのはあるんですか。

真樹　うるさい監督だよ。もう嫌っていうくらいな（笑）。

三池　さっきも言ったようにウマいヘタじゃないんですよ。

――監督って脚本を直す監督として知られてますけど、その辺は。

三池　いや、直すんじゃなくて、要は解釈の仕方だし、表現ですよね。脚本に書いてあることを設計図にして作るとそういうことになるってだけですから。それは描写もそうだし、物語の解釈っていうのも個人個人違うと思うんですよ。逆に言うと、そのまんま撮るっていうのは「先生の書いたことをちゃんと俺は理解してるんだ」っていう驕りだと思うんですよね。作った人にしか本当のことってわからないと思うんですよ。脚本をわかりやすく伝えようとする人もいると思うけど、それは逃げているというか、映画を作る意味がないんじゃないかと。全部が全部、映画はそうなるべきだとは思わないけど、自分としてはそういうところを守っていかないと。

やっぱり空手を始めた以上は帯の色を変えるまではと思って

真樹　三池君の場合、俺は信頼してるよな。そりゃあ、なんて撮り方するんだ、この野郎！って思う監督だっているけど、逆に感心させられる場合だってあるよな。なんにせよ、一回預けてしまったものをあとからなんか言ったってしょうがねえんだよ。

――わかりました。それではお二人がタッグを組んだ最新作『ファミリー』についてお聞きしたいんですが、主役の岩城滉一さんも真樹道場に入門したんですよね。

真樹　『ファミリー』の時はまだ正式に弟子入りする前だったな。

三池　その時は1、2度道場で形だけ練習してくれて、その時に凄いなって思ってくれて。岩城さんも運動能力は凄いんで。車でもバイクでも日本代表ぐらいのレベルなんですよ。クレー射撃に至っては本当の日本代表ですからね。

真樹　なんでもマジになってやるんだよな。その昔、岩城君とは引っかかりがあってね、その時に「入門します」ってことになったんだよ。だけど彼はその後来ないんだよな。悪く言えば逃げたんだな（笑）。それで20何年経っちゃったんだよ。で、今度『ファミリー』の話が立ち上がって空手の名人の役だろ。一回道場に来て雰囲気だけでもアレしろやって言ったら渋々来て。で、稽古したらコロっと変わっちゃって「どうしても空手をやりたい」ってなっちゃってな（笑）。

――3人が道場で一緒に練習したりとかっていうのはないんですか。

真樹　それはないな。2人とも忙しいからな。

――三池監督の場合はなんで空手を始めたんですか。もともと格闘技は好きだったんですよね。

三池　というか、逆に言うと好きじゃないのが不思議だなって思うんですよね。

真樹　やっぱりみんな熱い血を持て余してるんだよな。

三池　それで仕事がいまのような感じになる前ですけど、半年間ぐらい、空手をやろうと思ってたんですよ。その時は仕事よりも空手を優先にしてやってたんですけど、始めた以上は帯の色を変えるまではと思って。だけど、僕らレベルだと色帯になるというだけで達成感を感じてしまったんで（笑）。それで仕事もちょうどバカバカっと入ってきたし、たまに行って空手をやるっていうのもムリでしょ。

真樹　ムリじゃないよ。それでも来ないとな。

三池　いやぁ、逆に身体に悪いだけっていうか。2カ月ぐらい行かないでたまにやると一週間ぐらい階段の上り下りが辛かったりするんですよぉ（笑）。

真樹　だから、たまに来る時は自分の体力テストだと思ってくればいいんだよ。「これだけなんにもしないで道場に出てどこまで保つか」っていうな。それはそれでちゃんと意味があるんだよ。

三池　あぁ、はい……。

真樹　いつまでも青帯じゃ、しょうがねえだろ。やっぱりだんだんと上がっていくシステムには意味があるんだから。

三池　はぁ。

真樹　まあ、俺ももっともらしいことをあえて言うがな（笑）。だってな、俺も白帯の頃は「こんなの殴っちまえば関係ねえよ」って思ってたけど、大山先生に

諭されたから。「ちゃんと空手のシステムにそってくれなくちゃ」ってな（笑）。

――先生の場合は極真空手の前に柔道と喧嘩の実績がありましたからね。

真樹　まあな。空手の時は俺の持ってる力の3分の1ぐらいなんだ。で、組手になると空手ってことはすぐに忘れちゃう。空手であって空手じゃないからな（笑）。

三池　空手じゃないって（笑）。

真樹　目に見えるようだろ（笑）。俺なんか、空手の道場で空手の大先生に「それは空手じゃない」って言われたんだから（笑）。でも、「こんなのにコケにされてたまるか」ってすぐに俺はやっちゃうんだよな。だから、今、俺は彼に「空手をちゃんとやりなさい」って説いてるわけだな（笑）。

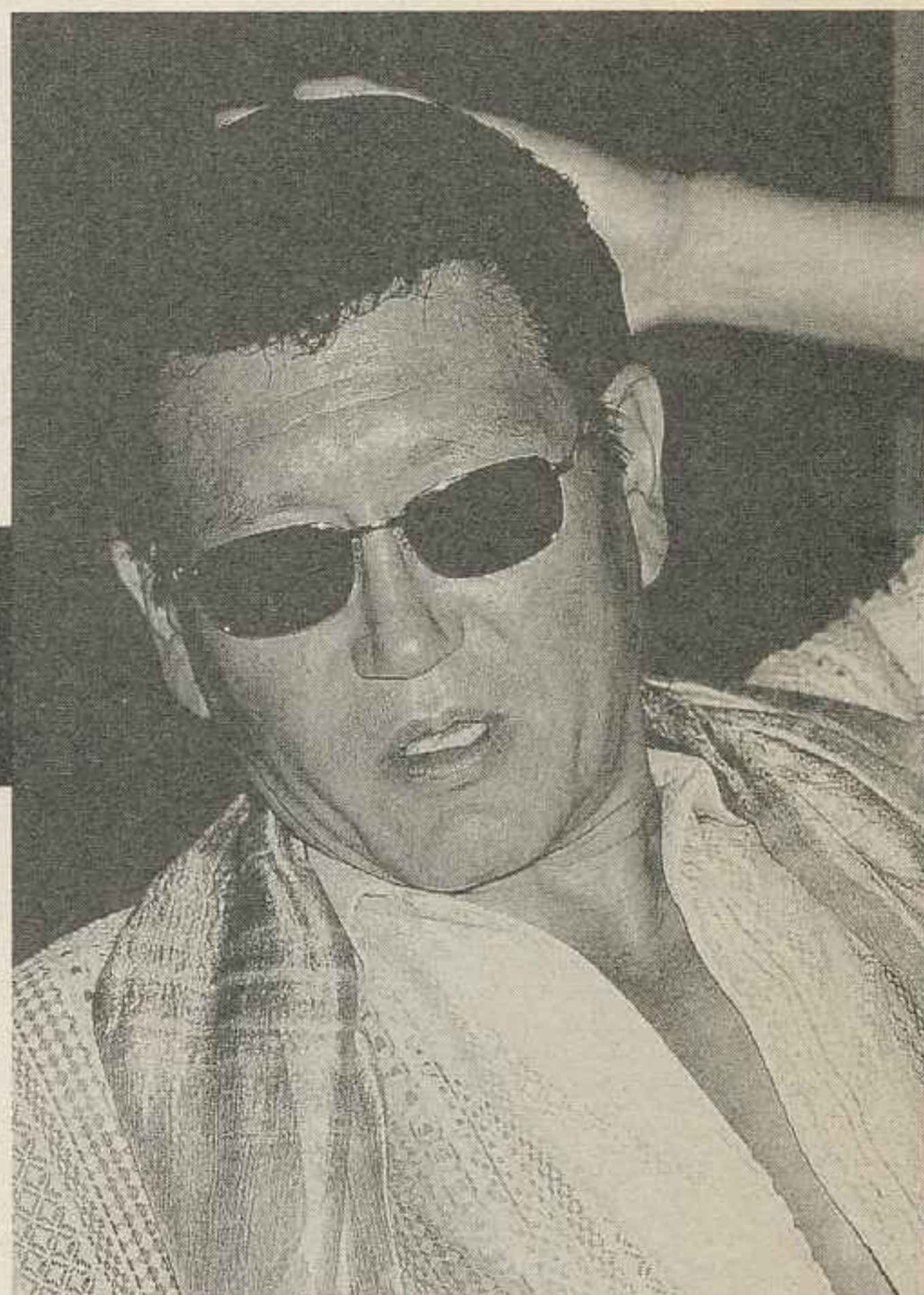
三池　順送りですかぁ。

真樹　やっぱり大山先生は正しかった（笑）。

三池　あの、道場破りっていつぐらいまであったんですか。

真樹　極真空手が道場破りに行ってたのが昭和50年ぐらいまでだね。その頃は極真空手がまだ認知されてなかったからな。で、その時に大山先生は「キレイな組手をやってきなさい」って言うんだよ。

三池　公認だったんですか（笑）。

真樹　「行ってきなさい」っていうんだからな（笑）。それで自分のところに来た時は何をしてもいいけど、よそに行く時はキレイに勝ちなさいだろ。乱打乱撃ばっかり教えといてよく言うよな（笑）。こっちは喉輪とか金掴みとかさ、レフェリーがいないんだから、やっちまえばいいだろって思うんだけど、そういかないんだよ（笑）。

――キレイな回し蹴りで勝ってきなさいと（笑）。

真樹　ところが大山先生自身は昔の空手家だからハイキックとかあまりしないんだよな（笑）。空手の本で撮影とかあるだろ。あれなんか、低く構えなきゃならないから大変だったらしいよ（笑）。

三池　相手が（笑）。

真樹　大山先生は見栄張るのが好きだからな。それがまた憎めないところなんだけどな（笑）。もともと大山先生は前蹴りとヒジが強かったんだ。これで世界を制したんだよな。それと首相撲からのヒザだ。これは俺ももらって死ぬかと思ったよ。で、俺も首を掴もうとしたら「ダメ！」って。

三池　ダメ（笑）。

真樹　そう。「持っていいのは私だけ」ってな（笑）。

――総裁らしい（笑）。だけど、三池監督って好んで映画に格闘家を出しますよね。

三池　やっぱり格闘家のことが好きなんですよね。自分が果たせないというか、自分に可能性があったりすればあれですけど向かないですから。好きなんですけど、とてもやれないっていう憧れみたいなものがあって、嫉妬を通り越してホントに好きなんですね。それにドラマチックな人たちですよね。リングに初めて上がるのってどんな気持ちなんだろって思ったり。

俺はな、『無比人』を三池君に撮ってほしいんだよ。

――じゃあ、絵として面白いものを追い求めてるだけじゃない、と。

三池　だから、映画には出来ないものですよね。ロッキーがもの凄くいい映画だったとしても、僕にとっては後楽園ホールで見る4回戦の人たちの方がドキドキするんですよ。お互いに恨みがあるわけでもないのに、後楽園ホールというその場で殴り合うというのが。ルールとかなんかじゃなくて。廃れるとかなんとかっていうものじゃなくてですよね。

真樹　ただ、格闘家とか格闘者っていうのを俺に言わせればアマチュアにしてもプロにしても、なかば発表会をやってるだけに過ぎないんだよ。それは命のやりとりじゃなく、技の応酬なんだよ。だから、世界一の格闘者になりたい、格闘家になりたいっていうのは要するにプロになって金を儲けたいというのとは無縁じゃないんだ。世界一強い男になりたいっていうのとはちょっと違う。しかも、世界一強い男っていう言葉自体に意味はない。

三池　決めようがないですね。

真樹　そうなってくると何が真実かっていうと、目の前に現れた敵を倒していく流れの中で俺は強いと自己完結するということだよな。だから、逆説的に言うと自分が敵なんだよ。

――では格闘技の試合ってなんなんですかね。

三池　僕の場合は試合なんて絶対にやらない人間じゃないですか。だから、特に後楽園ホールがそうなんですけど、試合を見ながら飲むのが好きなんですよ（笑）。コップ一杯でももの凄く酔うんですね。だって、人が命賭けて闘ってるところで、こっちはちくわ食いながら酒飲んでるっていう、そのシチュエーション（笑）。

真樹　酔うよな（笑）。沖縄でやる興行の時もそんな雰囲気があるよな。

三池　半分以上が米兵で、安い酒をガンガン飲んでましたよね。ほとんどがスタンドの席でワアワアやってて。

真樹　それで選手が生半可のことしたら、客が許さないんだよ（笑）。

三池　そういうものに根本的に惹かれるんだと思いますよね、居心地の良さというか。それが格闘技の試合を見るってことだと思うんですよね。

真樹　一番正しいよ。真実だよ、それがな（笑）。

――というところで、そろそろ次回作のお話を（笑）。

真樹　俺はな、『無比人』を三池君に撮ってほしいんだよ。あれは映画向きな壮大なスケールの話だぞ（笑）。

三池　どんな話なんですか。

真樹　最後のシーンでいえばな、無比人が自動車に乗ってる時にトラックとパワーシャベルに挟まれてグチャっと潰されるんだ。だけど、それでも死なない（笑）。

三池　それ、凄いですね（笑）。

真樹　それでベッドで瀕死の状態なのに女を呼んでな。ちゃん

と出すもの出しちゃうんだな（笑）。

三池　ちょっと待ってくださいよ。「出すんだな」って先生が出さしたんじゃないんですか（笑）。

真樹　そうか（笑）。

三池　人ごとみたいに（笑）。

真樹　それに現実にいる格闘者を出来るだけ出すからな。猪木だろ、小川だろ、佐山だろ、船木だろ。彼らは揉めなくても出てくれるだろうから（笑）。

三池　揉めないで（笑）。

真樹　みんな友情出演だよ。車代とメシぐらいは出すから。あとはカレリンにタイソンが出て、SMがある。

三池　豪華ですね（笑）。

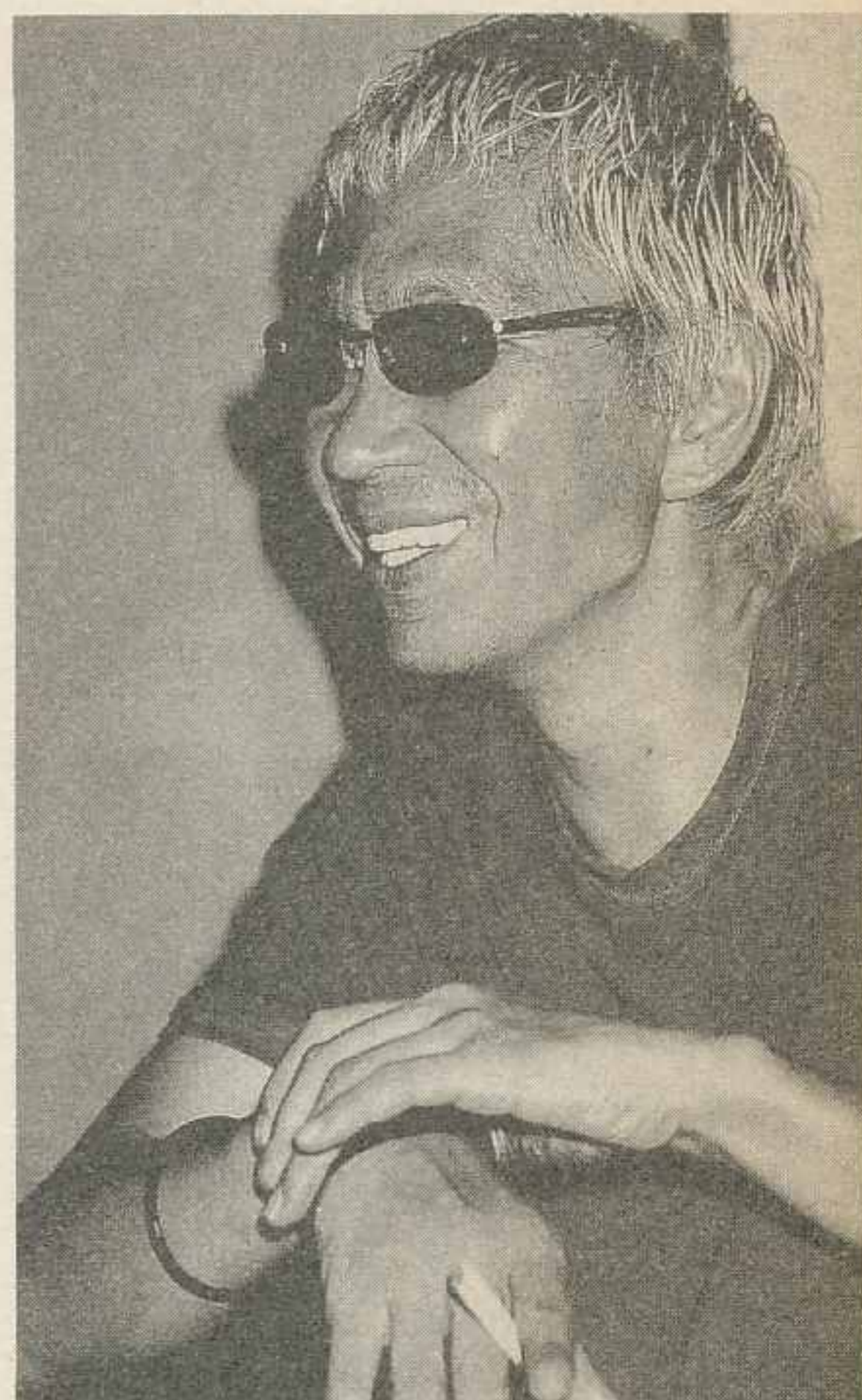
真樹　でも、最期は感動的だぞ。無比人を育てた自分こそが猛獣使いだと思っていた男が、逆に無比人に牙を抜かれちゃって、自分が一番愛してる女まで取られちゃってな。で、そんなモンスターみたいな無比人をこの世から抹殺するのは自分しかいないと思って生命維持装置を外すんだよ。そこにさまざまな葛藤があるんだ。どうだ、面白そうだろ?

三池　いいですね。最後はどうなるんですか。

真樹　言わない（笑）。

三池　なんでですか（笑）。

真樹　これ以上言うと三池君が撮ろうとする意欲がわかなくなっちゃうからな。

『無比人』にはな、カレリンにタイソンが出て、SMもあるぞ

――マキヒサオという空手の先生も登場してるんです。

三池　いよいよ実名で（笑）。

真樹　字が違うんだけどな（笑）。

三池　誰か現実にイメージはわいてる人はいるんですか。

真樹　格闘家がやっぱりいいだろうな。魔裟斗がいいんじゃないかって話があるんだよ。魔裟斗が昔の俺に似てるっていう映画プロデューサーもいるんだよ。

三池　彼は芝居がうまいですよ。凄くうまいですよ。

真樹　一緒に仕事したことがあるのか?

三池　前に『デッド・オア・アライブ』っていう映画に出てもらってるんですよ。回転寿司を食う殺し屋なんです。芝居のシーンはそんなにないんですけど、アドバイスするとそれに反応するのがやっぱり凄いですよ。本人も楽しむし。ちゃんといい役者になると思うんですよ。

――スケジュール的な問題とかも含めて実現の可能性はあるんですか。

三池　う〜ん、状況次第ですね、どういうスケールでどういう時期にやるかってことですよね。ただ、映画って仕込みが大事ですからね。時間っていうのは先に決めるもんじゃなくて必然的に決まってくると思うんですよ。役者とかどういう規模でやるかってことになって。

真樹　ゴーサインが出ればあとはもう長くかかんないんだよ。

三池　いつもそうなんですけど、その器さえ出来ちゃえば、あとは先生がこっちの事情なんか関係なく僕の肩をグッと掴んで（笑）。

あとは先生がこっちの事情なんか関係なく僕の肩をグッと掴んで（笑）

真樹　この野郎（笑）。

三池　そうなったらもう「押忍」ですから。もう何が入っててもブワッともってかれますから（笑）。

真樹　会社通すとゴチャゴチャうるさいからな（笑）。

三池　まあ、そういう形で（笑）。

――とりあえず、『無比人』の映画化は準備がうまくいけばという前提で考えておけばいいんでしょうか。

真樹　具体的に持っていこうと思えばすぐに彼を口説くから。

三池　そうですね。

――ぶしつけなお願いで申し訳ございませんが、頭の隅に入れて置いていただければ幸いです。

真樹　俺からのサービスとして撮影の時に審査会をやってあげるからな（笑）。

三池　いやぁ、それは……。

真樹　黒帯取るか、映画撮るかってことだな（笑）。

三池　映画を撮ります（笑）。

【00年7月12日／東京・六本木「ボディプラント」内のカフェバーにて収録】

◆

ということで、無比人映画化に向けてのプロジェクトの第一歩を記すこととなった今回。三池監督にも真樹先生にもいろいろとご面倒をおかけする形になってしまってなんとも申し訳ないと思う次第だが、こちらサイドとしても出来ることはなんでもやっていこうと固く決意をしているのでなにとぞよろしくお願い致します。

で、現時点では無比人役として、名前は出せないが、誰もが驚くプロ格闘家、ともかくイキのいいファイトが売り物のプロレスラーが候補に挙がっている。無比人のイメージを壊さない、繊細さと邪悪さを併せ持つ、かなり有望な候補だ。

実現はいつになるかまだわからないが、進行具合は逐一報告していくので読者の方々は期待して待ってて欲しい。

P・S　真樹&三池作品として「ボディーガード牙」3部作は映画ファンも納得する秀逸な出来。残念ながらビデオは廃盤となっているが、レンタルビデオ店ではたまにあったりするんで『無比人』完成までの時間をこの3作品を探しながら心待ちにしていただきたい。

特賞作品

該当者なし！

ザマーミロ～!!

やーいやーい

前田日明審議委員長・談

賞金総額10万円!!

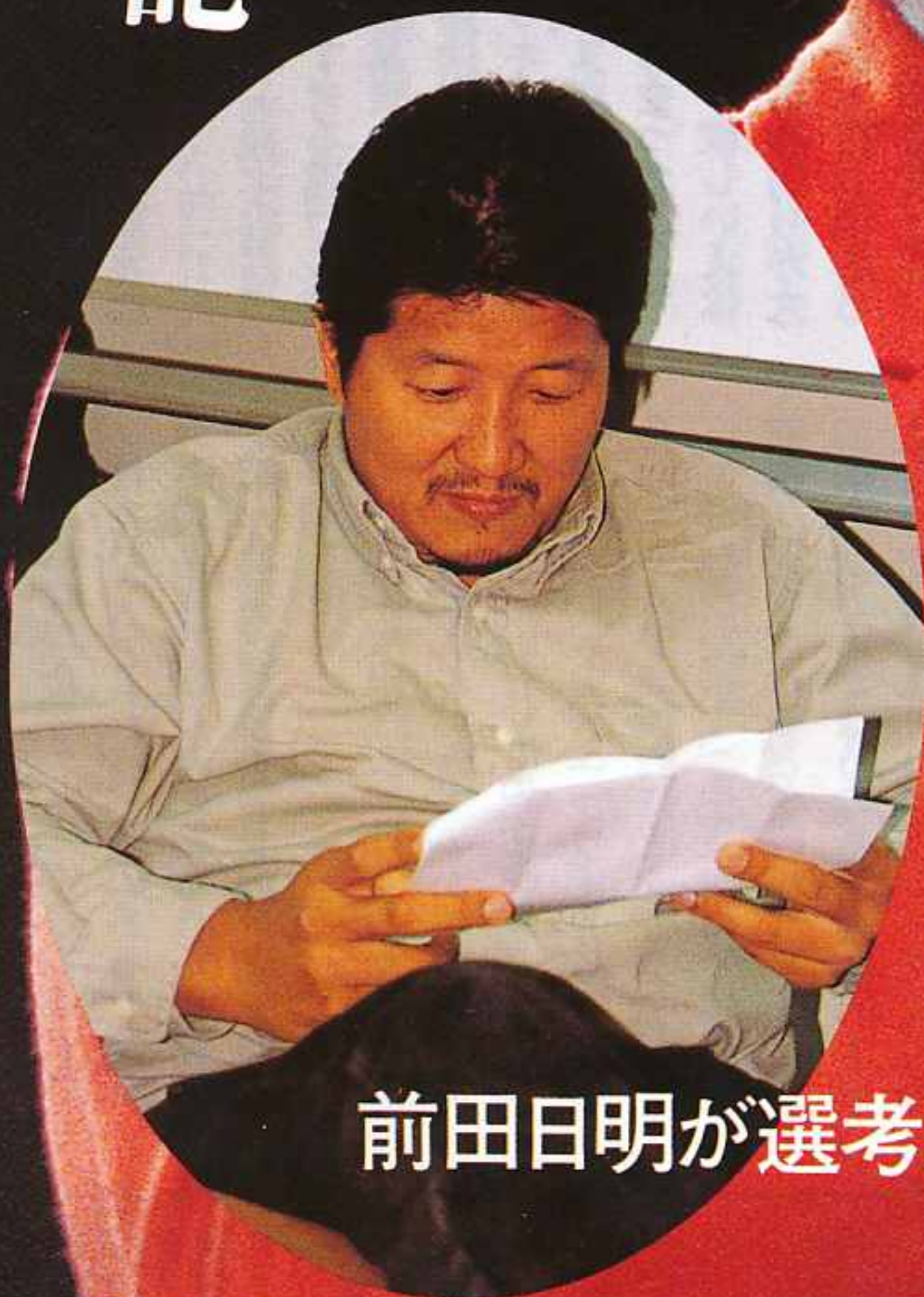
8・11リングス10周年記念興業 ワールドメガバトルオープン観戦記 結果発表!!

前田日明が選考!!

聞き手／山口日昇

試合撮影／吉澤晃

撮影＆構成／堀江ガンツ

designed by さおとめの事務所

偉そうな事ばかり言うんじゃないよ！ お前らが考える事は100年も前に考えてるこの鼻タレ小僧!!

前田日明 選考委員長が語る 総評

本誌・前号で募集した「賞金総額10万円！ 懸賞つきリングス10周年記念大会観戦記」。

しかし、肝心の8・11有明大会は、伸びない観客動員。悪すぎる進行&演出。そして試合の方も運悪く肝心のミドル級、ヘビー級王座決定トーナメント決勝戦が共に、スッキリしない結末を迎えるなど、リングスが抱える問題点が浮き彫りになってしまった。

そんなわけで、「お金が欲しい人は来てください」係には、締め切りが大会から4日しかないというにも関わらず、予想を大幅に上回る作品数が届いた。しかもそれらは8・11に対する手厳しい意見が大半。その中から編集部で選んだ予選通過8作品を、大会5日後に前田日明審議委員長に読んでもらい、特賞（5万円）、入選（3万円）、佳作（2万円）の三賞を選んでもらうことになった。

はたして、これら「愛のあるリングスへの提言」がしたためられた観戦記を読んだ前田審議委員長の反応やいかに！

——さて、前田さん、ひと通りファンの観戦記を読んでみていかがですか？ 全般的に手厳しいものが多いですけど。

前田 な〜にを、エッラそうに！ もうね、わかりきったことを生意気に！

——ダハハハ。な、生意気に！（笑）。

前田 偉そうなこと言うんじゃない！ お前らが考えるようなレベルのことはもうとっくに100年前から考えてるんじゃ！ このケツの青い鼻たれ小僧が！って感じやね（笑）。

——人生相談じゃないんだから（笑）。

前田 発表します！ 特賞は該当者ナシ！

——じゃ、1等の賞金はナシ！ ということですか？

前田 やーいやーい、ザマ〜ミロ〜！

R・アローナ（2R 判定 0—2）J・ホーン

昨年8月になぜか「リングスvsWEF」の中の一戦として実現。その「これぞKOK！」とも言うべきハイレベルな攻防でファンを驚喜させた、このカードであるが、今回はトーナメントであったためか、両者慎重で、あまり動きがないまま、僅差でアローナの勝利。

グスタボ・シム（延長R 判定 0—3）C・ヘイズマン

この日、現役ながら「リングス・オーストラリア代表」として、前田総帥から「感謝状！」を贈られたヘイズマン。まさにリングス・ネットワークを代表しての闘いだったが、田村を完封したシムの実力は本物で、腰と打撃の強さに苦戦し、判定負け。

8・11有明コロシアム
リングス10周年記念興業
PUTI REVIEW

――ガハハハハ！　子供じゃないんだから！

前田　でも、かわいそうだから2等は増やしてあげよう！

――入選作品を増やす？

前田　そ。2等を3人にしたらいいやんけ。

――賞金が上から5万円、3万円、2万円だったんですけど、3万円を3人にするということですね。……お、1万円減った（笑）。

前田　（手を出しながら）で、残った1万円を俺にちょうだい。

――なぜだ！（笑）。

前田　釣り行くのにエサ代にするよ。エサ代とボートのガソリン代に。

――まったく関係ない（笑）。

前田　（自慢げに）俺のボートをナメちゃいけないよ。高阪のボートより、俺のボートの方がスピードが速いんだから。

――釣りのボートは、スピードを競うものじゃないですよ（笑）。

前田　こないだ漁船と競争してさ、漁師のオッチャンに怒られたよ（笑）。

――ガハハハ。さ、ボートはともかく、さっさと入選作品選んでください（笑）。

前田　じゃあまずコレ。岡崎君。

――『来年は世界最強!!』ですね。前田さん、選考理由をお願いします。

前田　これは余計な生意気なことが書いてなかったのがよかったね（笑）。

――わかりやすいなぁ（笑）。

前田　『よい子ちゃんで賞』を与えます！（笑）。次コレ、上田君。『夜中に書いたラブレター賞』！　夜中に酒を飲んで書いてしまったで賞みたいなね。朝起きて読んだら恥ずかしくて出せない典型やね（笑）。

――『朝読んだら恥ずかしいで賞』って感じですか（笑）。

見てみ、この真剣な表情！　前田総師はひとつひとつじっくりと観戦記を読んで決定したのだ。

前田　そうそう。ほんで次はこれかな。前田君。これはもうね～、『何を言ってんだ、このアホんだら彼女にムチでしばいてもらえ賞』。

――まったく意味がわからない（笑）。

前田　（無視して）おまえ、同じ前田のくせに、しっかりせえ！って感じやね（笑）。

――名字にまで噛みつきますか（笑）。

前田　でも君の歪んだ愛情はよくわかった！　ザマーミロ！　あっかんべ～！　やね。

――『ザマーミロ！　あっかんべ～賞！』だそうです。入選作品3人を選んだところで、じゃあ、あと賞金1万円の佳作をひとつ選びましょう。

前田　俺に餌代とボート代くれないの？（笑）。

――あげません（笑）。

前田　ケチ！　そうやな～。えっと、この島田君。

――島田君、おめでとうございます。

前田　あ、やっぱこっちにしよ、こっちに。

――ガハハハ！　急遽変更（笑）。島田君は、ホントは三位だったんだけど、かわいそうで賞！』ですね。ということで賞金は出ません（笑）。

前田　最後の佳作はこの女の子にしよう。アキちゃん！

――選考理由はなんですか？

前田　俺の昔の彼女がアキちゃんっていうんだよ。

――ガハハハ！　それが選考理由！（笑）。

前田　だから『昔の彼女の名前と同じだったので、思わず優しくなってしまったで賞』。

――ということです、アキちゃん（笑）。ということで、予選通過8作を全部読んでみた感想はいかがですか。主催者側には手厳しい意見が多かったですね。

前田　だから、「な～にを偉そうに！」だよ。

――あ、やっぱそれ！（笑）。

前田　キミたちに言われなくてもわかってる！

――ガハハハ！　せっかく読者が送ってきてくれたのに。前田さん的には、8・11は、仮に「成功、普通、ダメ」という設定があったとしたら、どれですか？

前田　いや、ダメに決まってるやんけ！　ダメなんだけど、でも俺にとってよかったのは、いろんな問題が明確化したことやね。ルールの問題も、大会の進行的な問題、演出の問題。いろんな問題がね。だから、腹を決めるのにはよかった大会だよ。

――ということは、なにかしら腹が決まったんですか？

前田　そうやね。なんていうかさー、なんかこの1年ぐらいは、悪い意味で流れていっちゃったんだろうね。

――その原因はなんだと思います？

前田　何かね、『PRIDE』に対して頭にき過ぎたんだよね。『PRIDE』にムキになり過ぎた！

――ガハハハ！　なるほど！（笑）。じゃあ今は『PRIDE』に対しても冷静に見れると。

前田　今はちょっと頭を冷やしてね。ついでに金冷法もやって鍛えて、シャキッとして「よし、行くぞ！」って感じやね（笑）。

――そこらへんに今後のヒントがありそうですね。今大会の試合自体はどうでした？

前田　金原はねぇ、あいつは両膝おかしかったし、動かない身体を無理矢理動かしてかわいそうやったね。金原には凄い申し訳ないことしたな。凄い頑張ってくれてんのにね。

――金ちゃんにとっては、10周年のメインということで、プレッシャーのかかり方も違いますからね。デビュー戦を見事に勝利した横井選手はどうですか？

前田　あいつはトンパチだからね。

――トンパチ！　いいですね。どういうタイプの？

前田　試合する前って、普通ドキドキ

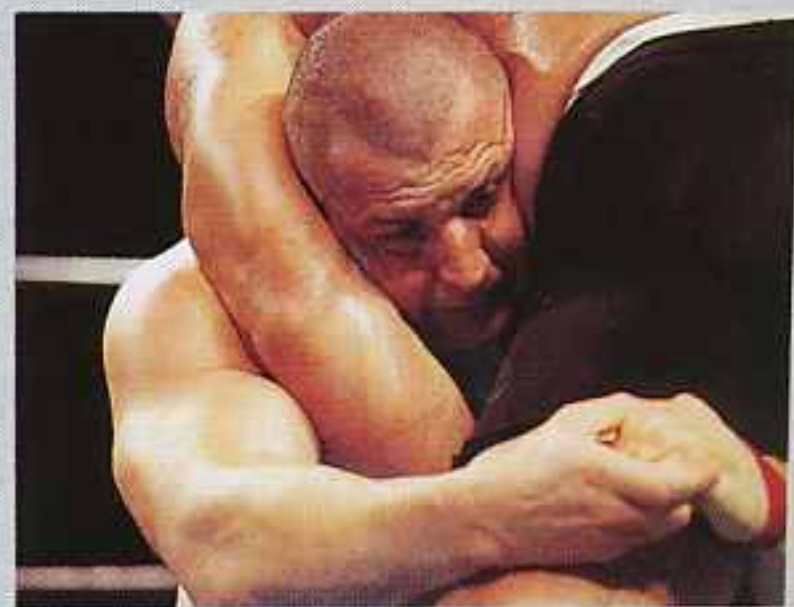
ヴォルク・ハン　vs　藤原喜明

「エキジビションマッチ」と銘打たれた、旧リングスルールでの「夢の対決」。練習用スパッツで登場した両者は、ファンの期待どおり、往年のサブミッションを次々と公開。「エスケープが見たい！」という声が飛ぶ中、一度もエスケープしなかったのがまたよかった。

E・ヒョードル（2R 判定 3―0）レナート・ババル

新世代のロシアvsブラジル頂上対決とも言うべきこの一戦。下馬評では経験とインサイドワークで勝るババルが判定勝ちだったが、ヒョードルがスタンドでもグラウンドでも、ひたすら攻めまくる予想外の展開。なんとあのババルを一方的に下してしまった！　凄え！

B・ホフマン（2R T.K.O.）I・ミーシャ

ハードパンチャー・ホフマンと相対したミーシャは、なんと素手で登場。ホフマンの打撃に対して、グラップリングで真っ向から勝負に挑んだ。グローブを外した成果は顕著で、ホフマンの巨体を何度も倒したが、2R終了時、負傷していた足首が限界に来て無念のTKO。

してるやん？　それが試合する前、嬉しそうにしてさ、スキップして歩くような感じなんだよ。「そんなニヤニヤ、ヘラヘラしてたらデビュー戦いかれちゃうよ」「アホかお前は！　もっと深刻な顔せー」って言ったもんな（笑）。

——そういうタイプのトンパチだと（笑）。藤原対ハンのエキシビジョンは、皮肉にも一番歓声が大きかったですね。

前田　うん。これも腹を決めるのによかった感じかな。エキシビジョンであれ何であれ。

——腹を決める……それは今は聞かないでおきます（笑）。というわけで、じゃあ10周年記念大会を総括してください。

前田　負けて学べた大会やね。以上！

——なるほど！　観戦記の中にもそれと近い意見がありましたね。「リングスはいまは負ける時だ」というのが。

前田　だからもうそんなのとっくにわかってるんだよ！

——ダハハハ。

前田　偉そうに言うんじゃない（笑）。俺がプロレスに入った時は、オヤジの金玉の中でニョコニョコ泳いでただけのくせして。タイムマシンがあったら、お前らの親父にセンズリこかしてティッシュの中で抹殺してやるぞ〜、ってね（笑）。

——でも旗揚げの時も前田さんは一人だったんですけど、今回も旗揚げ時のメンツがいないということに関しては寂しさはないですか？

前田　選手は永遠のものじゃないからね。10年もあれば引退する人間、ケガで辞めていく人間、団体を捨てる人間もいるだろうしね。

——でもドールマンと握手してる時は前田さんも満面の笑みでしたね（笑）。

前田　曲がりなりにも10年続いてね、これまでいろいろ言ったヤツ、やったヤツに対して「ザマァミロ！　そうはいくかい！　おとといきやがれ！」って感じだね。ま、終わったこと考えてもしゃーない。男性美の本質はね、「神秘と復讐」ですよ！　ボードレールって知ってる？　ボードレール。

——名前だけは（笑）。

前田　ボードレールの『悪の華』っていう詩集のなかに、「男性美の本質とは何か？　それは『神秘と復讐』であるって書いてあるんだよ。「い〜まに見てろよ、コラッ！」ってね（笑）。

——それは誰に対して言ってるんですか？（笑）。

前田　い〜っぱいいるよ（笑）。

——いや、奇しくもターザン山本が最近、「呪い」っていう言葉をズーッと使ってるんですよ（笑）。

前田　「呪い」って言ってもね、あのオッサンの呪いは、頭の回転のスピードがノロいの「ノロイ」でしょ（笑）。

——ガハハハハハ！　前田さんの言ってる「復讐」とはレベルが違うっていうことですね（笑）。

前田　レベルもラベルも違う！（キッパリ）俺の復讐は高貴だよ、高貴！

——実にいい締めです！（笑）。

その他 入選作品

2等（3万円）2作

3等（1万円）1作

- 上田哲也さん「負けるときもあるだろう」
- 前田辰也さん「リングスの明日のために」
- 佐々木亜希さん

以上　3作品は次号で掲載予定！　エッらそうに！

丸ごと前田日明 フリーペーパー「漢」5名様にプレゼント！

8・11有明大会に合わせて、渋谷界隈で配られた、前田総帥インタビューが掲載されたフリーペーパー「漢」を5名様にプレゼントします！　これはレアだ！　応募方法はP159参照。

AKIRA MAEDA SPECIAL INTERVIEW

R・アローナ（1R 1分29秒 K.O.）G・シム

ブラジル人同士のリングス初代ミドル級王座決定戦。シムの打撃vsアローナのグラウンドの闘いと思いきや、アローナがパンチで一気にラッシュ！　一気にコーナーまで追いつめKO！　しかし、ワンダウン即KOルールが観客に浸透しておらず後味の悪い結果に。

V・アターエフ（1R 1分09秒 K.O.）A・ブリンク

残念ながらvs新日本は流れてしまったが、このブリンクはティト・オーティズと練習する120kgのファイターで、ある意味遙かに難しい相手。しかし、アローナはそんなことはモノともせず、またもや期待通りのKO勝ち！　いよいよ本物だ、アターエフ！

横井宏考（1R 2分34秒 腕ひしぎ逆十字固め）R・フィエート

"リングスの秘密兵器"という、大それた異名がついてしまい、デビュー戦からプレッシャーがかかってしまった横井。しかし、横井はフィエートの打撃をくらいながらも、積極的に前に出るファイトで、見事一本勝ちデビュー！　リングスに一筋の光明。

前田日明が選ぶ入選作品

よい子ちゃんで賞

「来年は世界最強!!」

岡崎満久

リングスは、格闘競技としては確実に進化しているが、格闘興行としては確実に退化している。残念ながら、これが今回の10周年記念大会を見ての結論だ。理由は三つ。

一、絶対的メインイベンターの不在
二、ダウン即試合終了ルール
三、多すぎる未知の強豪である。

まず一。前田引退後、リングスでは安心してメインを任せられる選手が育っていない。これは田村がいたとて一緒。山本など論外。信頼できる四番、エースがいない野球チームが弱いのと一緒。どうしても低迷してしまう。

そして二。選手の安全を考えればこそのルールなのであろうが、観る方にとっては何とも消化不良。今回も盛り上がるべきTKの試合も、終わりが唐突すぎて肩透かし。ミドル級決勝も、どう見てもダウンには見えなかった。

続いて三。リングスの呼んでくる外人選手はみんな強い。いや強すぎる。観客が見たこともないまさに未知の強豪が、期待の日本人選手を倒しまくる。観客には強さは伝わるが、その選手のバックボーンを知らぬがため感情移入ができない。例えば、プライド上がり、とでもあれば話は別だが。無名の外人の強さが、続々と番狂わせを生み、どうにもそれがいい方向に転がっていない気がする。

これら三つの要素が絡みあい、さらに不幸なアクシデントが続発することが、リングスの盛り上がりを妨げている。トーナメントを開けば優勝選手が引き抜かれ、頼みの日本人選手は手前勝手な理屈をつけてホイホイ離脱。まったく先月号の坂田のインタビューなど腹が立って仕方がなかった！ けじめつけたい相手がパンクラスやプライドにいる？ まずリングスに何のケジメもついてないだろっ！ 治療代前田に返せ！ お前は進化どころか、明らかに退化してるよ！ 何が熱い男だ！ お前はDEVO（退化）だっ！ と、坂田を罵倒するだけで10ページぐらい埋まってしまいそうだが、坂田なんぞ、置いといて、今後のリングスは一体どう進むべきなのか？

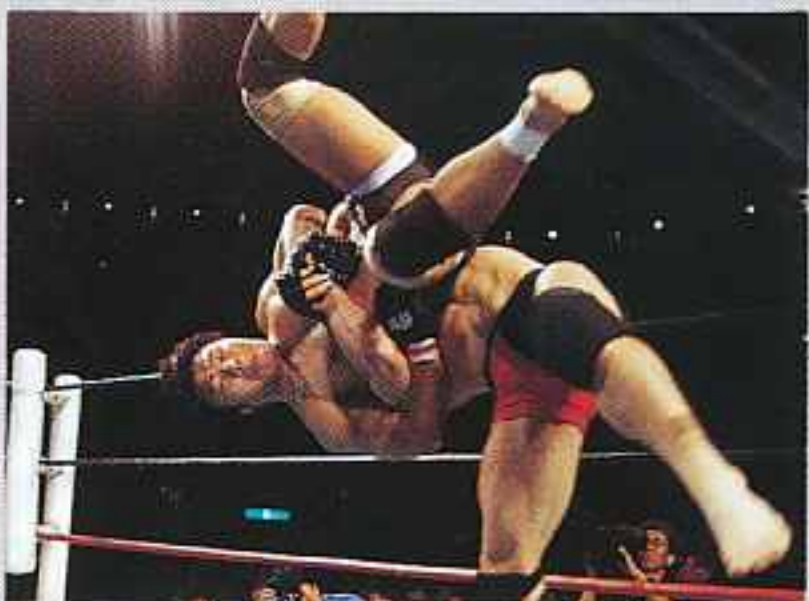
ゴチャゴチャといろいろ書いてきたが、結局これしかない！ プライド、K-1、猪木軍。みんなまとめてぶっ潰しに出撃することだっ！ リングス軍。いいじゃないか。前田プロデューサー。参謀にハン、ドールマン。選手層の厚さはもともとノー問題。高阪、金原、そして超大型新人期待の横井、頑張れ滑川。外人選手は言うに及ばず誰でもイイよ強いから。

もうリングス、バンバンうって出てくれよ。これだけ豊富な選手層、ネットワークを持ちながら、マニア受けの「月」にしかなれないようじゃ寂しいじゃないかっ！ 11周年興行は東京ドームでやってくれよ！ 俺は競技として熟成するリングスより、世界一メジャーな（人気実力共に）総合格闘技となったリングスを見たいのである。それができなきゃ、最終指令、自爆せよ！

世界最強の男はリングスが決める。この最高の公約をまずは実現してくれよ！ 今回の有明大会では、残念ながら世界最強の男は見れなかった。しかし来年の11周年東京ドームでは、絶対的世界最強の男が見られると信じて、今後もリングスを見続けていく所存である。プライド、K-1をぶっ潰すリングス。東京ドームVIP席で、余裕で葉巻を燻らす前田。その横に美女を侍らし脇を固めるTK、金原。何だかそんな光景が目に浮かんだ仕方がない。超満員の東京ドームではリングス勢が連戦連勝！ 余裕だぜ、リングス！

世界最強の団体はリングスと決めてくれ！

マット・ヒューズ（3R 判定 0—2）金原弘光

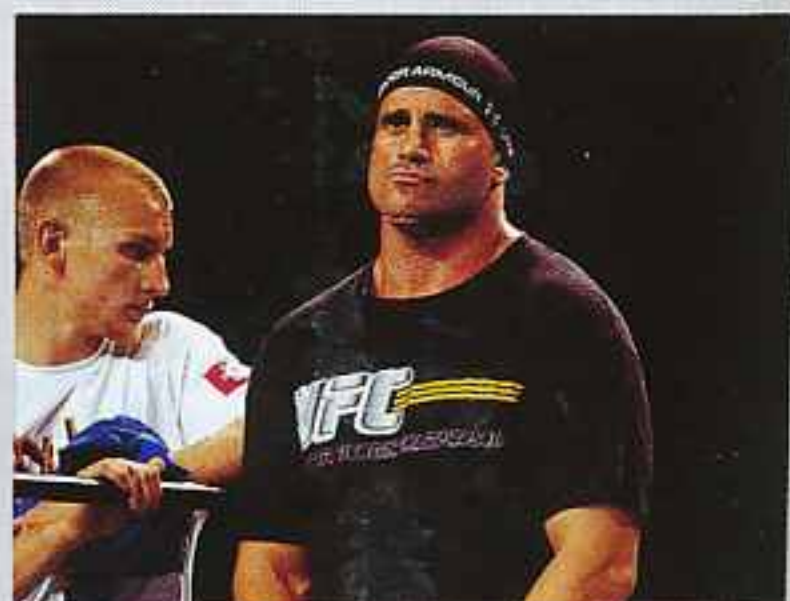
10周年大会のメインという、ただでさえプレッシャーがかかる舞台で、地味ながらメチャクチャ強いヒューズを相手にしなくてはならない悲劇のエース金ちゃん。圧倒的パワーに打撃と腕関節で応戦するも、ヒューズに逃げ切られてしまった。

高阪　剛（1R 2分17秒 K.O.）G・コバ

ヴォルク・ハンの名を受け継いだV・アターエフに続き、グロム・ザザという実に渋い所の名を受け継いだザザの実弟コバ。レスリングの強豪だけあって、TKからタックルを奪う技術はさすがだったが、最後は狙いすましたTKのヒザでKO。

E・ヒョードル（不戦勝）B・ホフマン

入場して、両国の国家吹奏が終わっても、サンダルを脱がず、キャップを被ったままのホフマン。なんと直前になって肩痛で棄権！ トーナメントの最後の最後で泥を塗るこの愚行！ しかし、ヒョードル戴冠の価値はこのなことで落ちるものじゃない。

武士(もののふ)の魂を絶やさないためにも前田日明よ興行をしっかりやれ！

（いや、やってください）

文・山口日昇

ボクはいま、前田日明に対して「ザマァミロ！」と言いたい。

大会当日から締め切りまで、たった4日しかないというのに、前号で募集した「8・11リングス10周年記念大会観戦記」には読者の方々から多数のご応募をいただいた。

審議委員長は、もちろん前田日明である。前田審議委員長に予選通過作品8通を直に読んでいただいて、「特選」「入選」「佳作」の三賞を選んでもらうという企画だったのだ。

ファンがリングスに感じていることを感じて取っていただき、少しでも、今後の糧にしていただければ幸いです、ということで行った企画だった。

それなのに、前田審議委員長は、賞金総額10万円を目指し、目の色を変えて応募してきてきた金の亡者、いやリングス&前田日明に愛のある読者様方々に対して、「ザマァミロ」と言いたいがために、たったその5文字を言いたいがために、特賞を「該当者なし」にするという暴挙に出たのだ。

ホントに、せっかくご応募いただいた読者の皆様方には、「ザマァミロ！」と言うしかない。違う。お気の毒さま、と言うしかない。

そんな読者の方々の気持ちをおもんばかって、ボクが代わりに前田日明に対して、「ザマァミロ！」と言っておきます。

なにせ、男性美の本質とは『神秘と復讐』にあるのだ。読者の皆さまになり代わり、復讐しておきました。

8・11のリングス10周年記念大会は、お世辞にも成功とは言えなかった。

超満員の観衆で埋め尽くされた有明コロシアムという風景もなかったし、地底からグワーッと吹き出すマグマのような熱も残念ながら感じなかった。

しかも、運が悪いことに、いつもに比べると試合内容も低調だときた。

いつものように「試合内容の濃さなら断然リングス！」と言えるようなものが、よりによって10周年記念大会にはなかったのだ。

こういった諸々のことが前田日明に一気に降りかかったのである。

まったく「ザマァミロ！」だ。

ボクは、いまこそ前田日明の意地や美学でない部分を見たい

Maeda & Dorman

リングスを語るとき、"たったひとりぼっちの旗揚げ"という言い方をされるが、前田にはクリス・ドールマンという盟友がいた。この2人の意地と美学があってこそ、UWFスタイル→リングス・スタイル→KOKとソフトが進化していったのだ

これで、前田日明はやるべきことがたくさん増えた。

ボクから言わせると、前田日明は、"成熟"を禁じられた存在である。目の前に起こった出来事を決して無視せずに、ムキになって向かっていく前田日明に"成熟"など、もともとありえないのだ。8・11が失敗、いや、あんまり成功しなかったことによって、前田日明には、やらければならないことが明確化されたはずだ。

"成熟"なんて、クソくらえだ。前田日明には、マット界のなかでも、まだまだやってほしいことが腐るほどあるのである。

ところで、8・11で、一番ファンのハートを掴んだ、エメリヤーエンコ・ヒョードルの闘いには、いまの日本人ファイターが忘れた気骨が見える。

思えば、そのヒョードルを産み出す土壌をつくった歴代のロシア勢、つまりヴォルク・ハンやアンドレィ・コピィロフ、イリューヒン・ミーシャらの闘いぶりには、自らの経験をベースにしたプライドと、いい意味での"馬鹿さ加減"がある。

こういった武士（もののふ）的なファイターを連綿と排出したり、惑星クリプトンから逃れるスーパーマンのように、従来の「プロレス」という惑星が爆発する前に逃れ、総合格闘技の種を世界に撒いてきたのは前田日明の功績だ。

しかし。

「ただ職業的に格闘技をやっていく道なら、きっといろいろ考えられるのだろう。だが、世界でいちばん強い者を決める場にいつもエントリーしていながら、メシを食っていくことの困難はおそらく並大抵のことではない。自ら提案し自ら選んだ過酷な道を、意地や美学でなく歩み続ける方法を、次代のリングスは、グランドデザインとして見せていく時期になっているのだと思う」

糸井重里さんは、8・11のパンフにこう書いている。まったくその通りだと思う。

前田日明の意地や美学、つまり、ソフトを構築していく力は、我々は存分に見せつけてもらった。でも、ソフトは進化していても、ズバリ言って「興行」は退化している。これでは進化は届かないのだ。

ボクは、いまこそ、前田日明の意地や美学ではない部分を見たい。

リングスは"場"であるという。

団体ではなく、"場"ならば、なおさら「興行」というものを見つめ直さないとダメだ。

おそらく、演出やサービスなど、諸々のことを含めたことを考えるのは、前田日明にとって苦手なことに違いない。意地や美学がいちばん通用しにくい世界だからだ。

でも、ボクは、だからこそそれを前田日明にやってほしい。

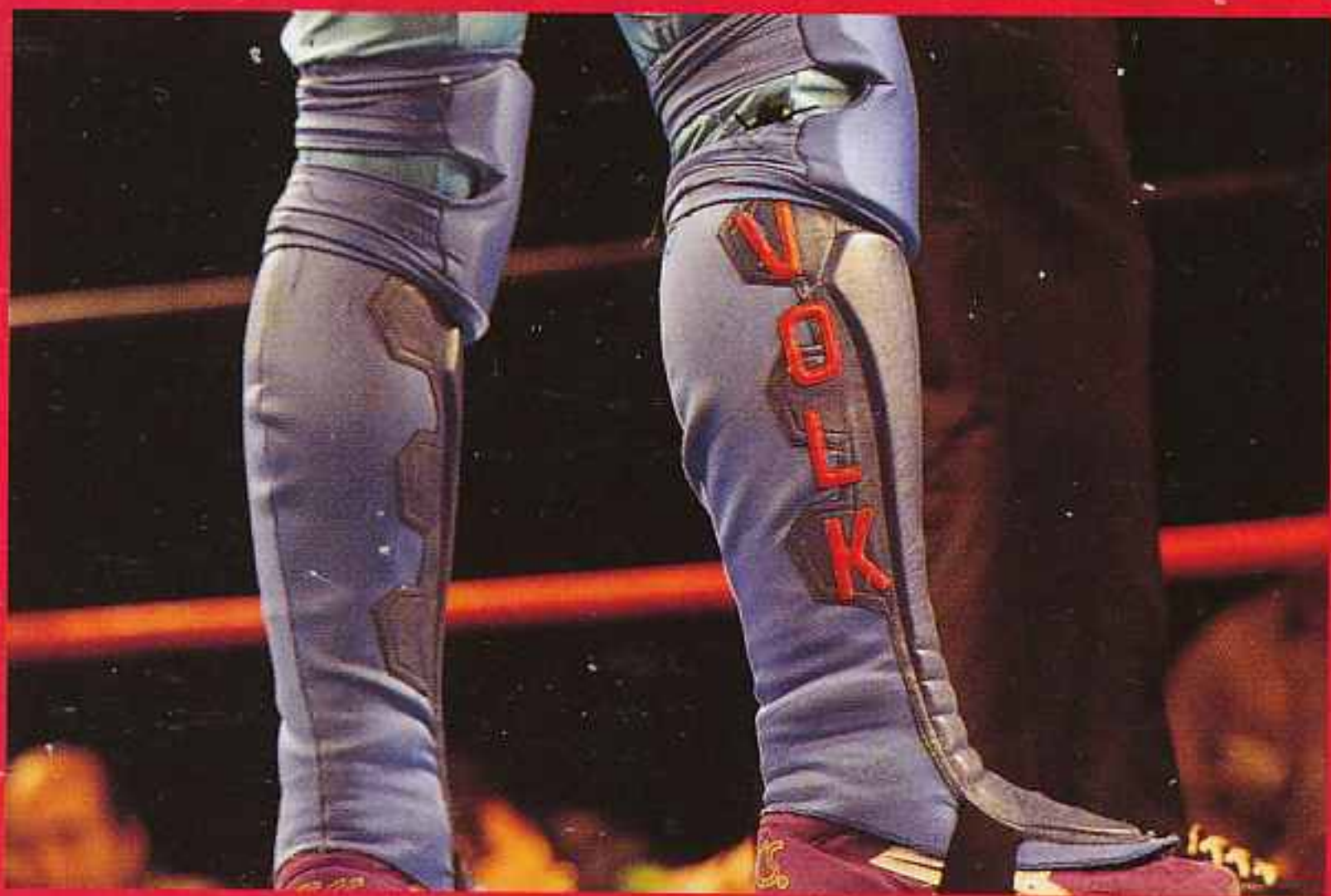
こんなことを言っても、たぶん「な〜にを偉そうに！　いつからそんなに偉くなったんだよ！」と言われるに決まっているが、この困難な「興行」を見つめ直すという作業をやったときに、前田日明の意地や美学は、つまり構築してきたソフトは、強烈な光を帯びるはずだ。

早くその光を浴びながら、前田日明にこう言われたいものである。

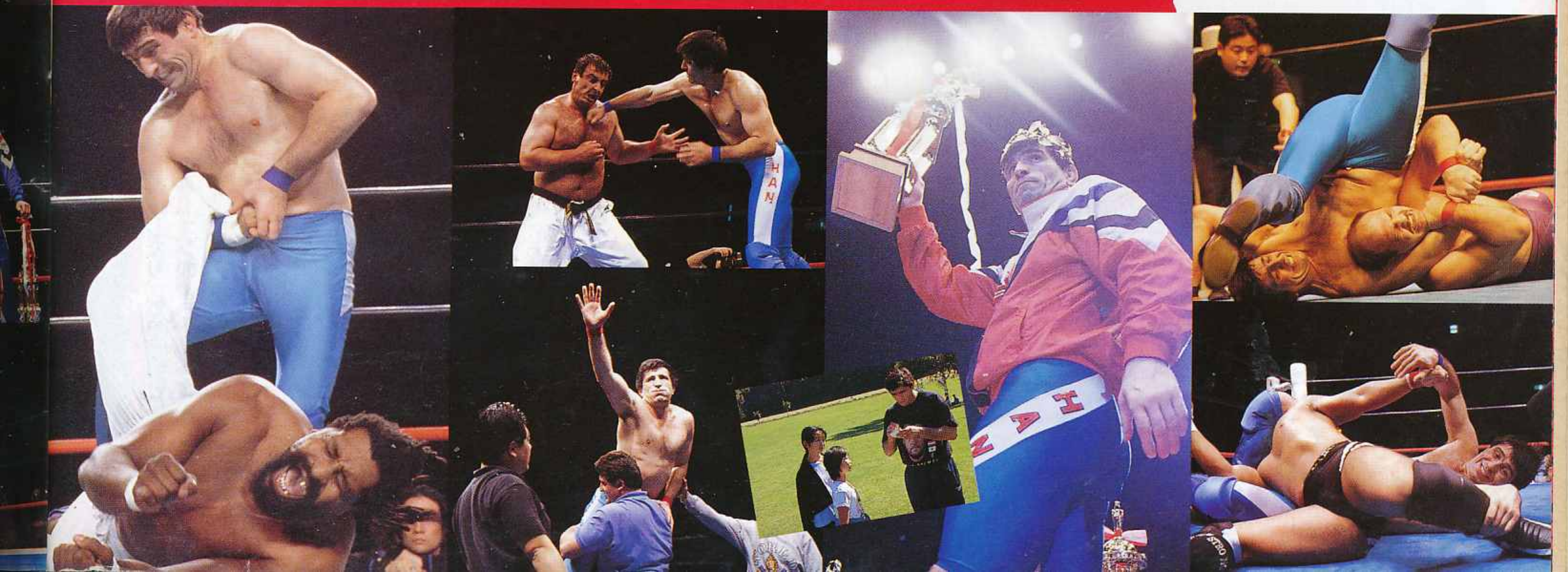
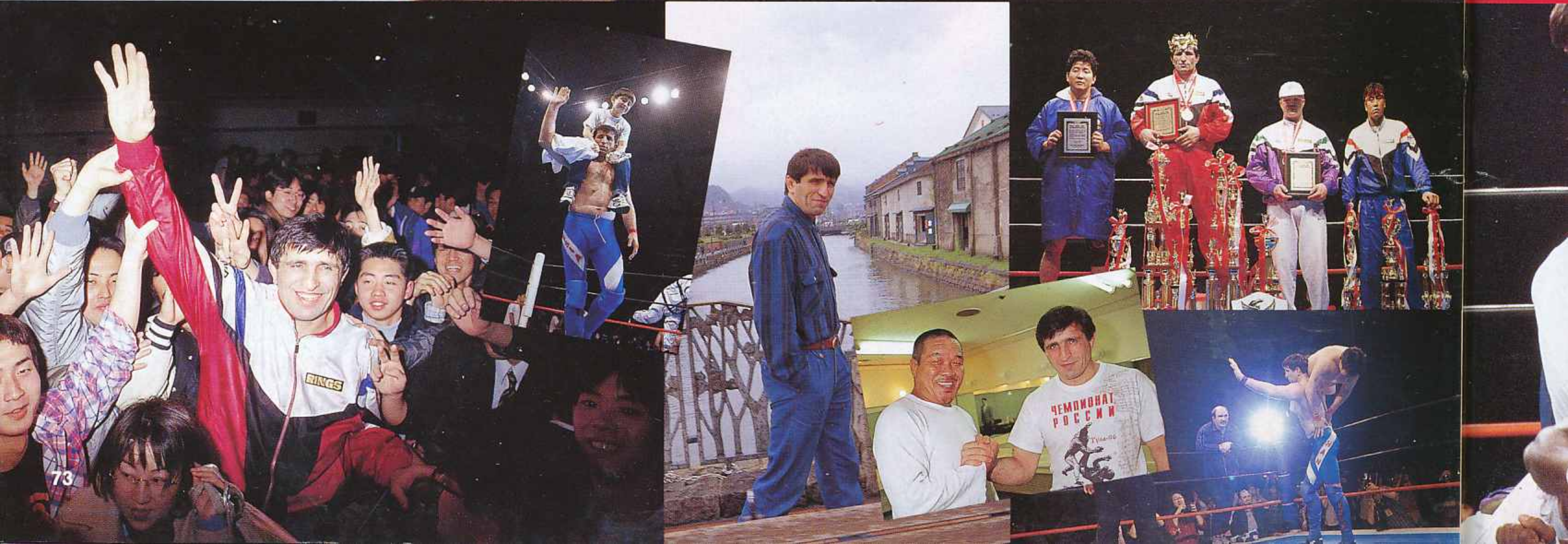
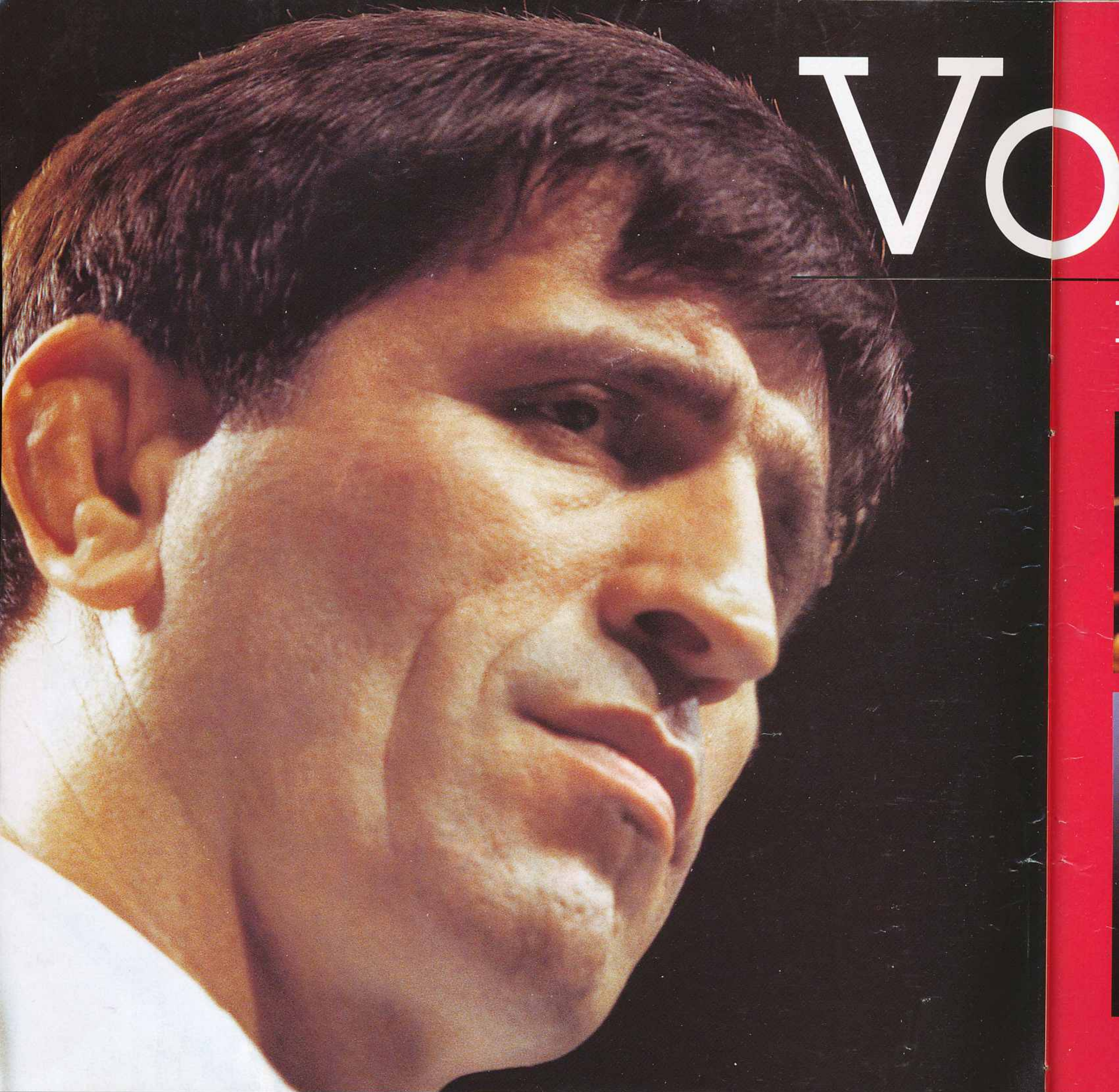
「ザマァミロ！」と。

olk HAN

RINGS 10th Aniversary INTERVIEW

リングスは私の人生そのものだよ

遂にU系団体として、史上初の旗揚げ10周年を迎えたリングス。旗揚げ当初のメンバーは姿を消し、リング上の風景はすっかり変わってしまったが、そんな中ただひとり旗揚げイヤーから参戦するヴォルク・ハンに10年間振り返ってもらった。その言葉はいまの格闘家から失われてしまった、心意気に溢れいてた。

聞き手／堀江ガンツ
試合撮影(8.11)／吉澤晃
協力／(株)リングス
designed by さおとめの事務所

Vo

ハン　（日本語で元気よく）ヒサシブリ！

——あ、お久しぶりです。覚えていただいていて実に光栄です（笑）。今日はですね、リングス10周年記念インタビューとして、リングス設立の年から闘っているハン選手にいろいろお聞きしたいことがあるので、よろしくお願いします。

ハン　ハイッ！（元気）

——相変わらず元気だ（笑）。ではまず、昨日藤原選手との試合を旧リングスルールで闘いましたけど、その感想を聞かせて下さい。

ハン　昨日は非常に嬉しかった！　私は10年間日本で闘ってきて、いつか日本の〝生きる伝説〟であるイノキさんやフジワラさんと闘いたいという夢を持っていたんだ。昨日はその内の一人であるフジワラさんと10周年の舞台で闘えたことを非常に誇りに思っている。そしてルールも以前のルールで闘うことができた。これが私にとっては非常に嬉しいね。

——観客も凄く盛り上がってましたよね。

ハン　それが一番嬉しいよ！　やはり我々の闘いというものは、観客に捧げるもなんだ。だからファンに喜んでもらわないと、感動してもらわないと闘う意味はないんだよ。そういう意味で今回、久々に旧ルールでの試合で芸術性を見せることができて、ファンに喜んでもらえたんじゃないかなと思うし、私自身非常に満足しているよ。

——闘いの芸術性と言うと、先ほどお名前が出てきたアントニオ猪木さんも、「格闘芸術」という言葉を好んで使っているんですよ。「我々の闘いは言葉の壁を超えて、世界中の人に格闘技の芸術を見せて喜んでもらえる」と。

ハン　その意見には非常に共感を覚えるね。いまのルールも確かに悪くないが、やはり観客は血生臭い喧嘩ではなく、闘いに芸術性を求めているのだと思うからね。

——ところでハン選手は昔から猪木さんのことは知ってたんですか？

ハン　ああ、彼の名前は私がまだ格闘技を始める前から知っていたよ。

——そんな昔から知っていたんですか!?

ハン　そう、これはひとつの物語があるんだ。

——ゼヒ、聞かせて下さい！

ハン　私は子供の頃によく男同士で喧嘩をしたり、取っ組み合いをしたりしていたんだが、その時に子供たちの間で〝ジャパニーズパンチ〟という技が使われていた。

——ジャパニーズパンチ？　それはどんな技なんですか？

ハン　こういう技だよ。（と言って袈裟斬りチョップを実演）

——ああ、空手チョップのことですか！

ハン　ソ連の子供たちの間では、〝ジャパニーズパンチ〟と呼ばれていたんだよ（笑）。それで子供心にそのジャパニーズパンチを使うのが日本の格闘技だということが頭に残っていた。そしてそれから10年くらい経ち、私が15～6歳の頃。モハメッド・アリがアントニオ猪木という日本人と闘うという話を聞いたんだよ。

——猪木vsアリ戦は冷戦時代の旧ソ連でも話題になっていたんですか！

噂された小原戦が流れ、結局「狼vs犬」は実現しなかったが、相手が誰でもアターエフは凄い！　この日も死角から飛び出す後ろ回し蹴りをコメカミに直撃させ、最後は“見えないショートフック”で完全KO！　10月大会こそ出てこい新日本！

敵前逃亡したホフマンに不戦勝し、リングス初代ヘビー級王者に輝いたヒョードル。決勝こそ不透明になってしまったが、あのババルを一方的に下すその実力は計り知れない。リングスが決めた世界最強の男！　誰かヒョードルを倒してみろ！

グローブをつけず素手で登場したミーシャはグリップ力が倍増。一度掴んだら決して手を離さず、ホフマンの巨体を何度もテイクダウンに成功した。しかし、2R終了後痛めていた足首が限界に来て、無念の続行不能。“棄権男”ホフマンの勝ち上がらせてしまった。

ハン　ああ、当時はまだ情報があまり入ってこない時代だったが、非常に多くの報道機関が取り上げていたよ。でも当時のソ連では、アリとイノキの闘いは「世界最強のボクサーと世界最強の空手家の闘い」だと報道された。そのとき私は子供の頃の記憶が蘇ったんだ。「ああ、〝ジャパニーズパンチ〟は空手という格闘技の技だったんだ」と。そして「アントニオ猪木という日本人が最強の空手家なのか」と。だから私は、長い間イノキさんのことは空手家だと信じ込んでいたんだよ（笑）。

——猪木さんが空手家ですか（笑）。

ハン　まだ日本の情報など、ほとんど入ってこない時代の話だからね。あまりにも遠い世界の話のようで、あたかも宇宙人同士が闘うような感じだったね（笑）。

——そこまでかけ離れてましたか（笑）。それにしても、猪木さんはロシアでも伝説の人物だったというのは、驚くと同時に日本人として嬉しいですね。

ハン　やはり格闘技を始める動機として、目標とするアイドル、神様のようになりたいと思うことは非常に大事なんだよ。当時のアリやイノキさんは、世界中の若い男たちが憧れ、そして彼らを神様として多くの優秀な格闘家が生まれたと思う。そして彼らに少しでも近づこうという気持ちがあるかこそ、苦しい練習にも耐えることができるんだ。

——ああ、なるほど。確かにそうですね。

ハン　例えばアターエフなんかもそうなんだよ。たった1年前まで彼は、私やミーシャ、そしてマエダを神様のように思い憧れていたんだ（笑）。

——そうだったんですか！（笑）。

ハン　私やマエダだけでなく、我々の世代のファイターは皆、雲の上の存在だったんだ。我々に憧れ、我々のようになりたくて鍛錬し、そして彼も強くなったんだよ。

——アターエフ選手のようにロシア、グルジア、リトアニアなんかではハン選手や日本のリングスに出ている選手達に憧れている人達っていうのは、たくさんいるわけですか？

ハン　私をアイドルというか神様のように見てくれる選手は非常に多いよ。いま、サンクトペテルブルグの若い選手などから「ゼヒ、道場に入らせてほしい」、「半年でもいいから、いろいろと教えてください」ということをよく言われるんだ。ただ、やはりプロの世界は厳しい。だから私はプロとしてやっていけるだけの才能を持った人間だけを道場に入れることにしているんだ。

——昨日もハン選手のお弟子さんは大活躍でしたよね。

ハン　ああ。ヒョードル、アターエフに関しては非常にいい試合をしたと思うので私も満足してる。ただ……ミーシャ！　ミーシャの試合に関してはちょっと不満がある！

——ミーシャ選手も続行不能で結果的には負けでしたけど、内容は悪くなかったと思うんですけど……。

ハン　確かに悪い試合じゃなかった。だからこそもうちょっと試合を続行して欲しかったんだ。彼は試合前に靱帯を痛めてしまって、ギブスをつけないと歩けないだけの痛さだった。だからその状態で2ラウンド闘えただけでも上出来とも言えるが、もう少し頑張って欲しかった。

——ミーシャ選手のケガは、試合中じゃなくて、試合前に負ったものだったんですか!?

ハン　そう！　彼は試合の一週間前に森の中をランニングしていた時に、草が高くなっていて穴が見えなくて、そこに足が入って靱帯が切れそうになってしまったんだ。

——またしても森の中の練習がアダに！

ハン　森はトレーニングには最適の環境だが、そういうことが怖い！　そんなこともあって彼は外見では出さなくても、試合中そうとう足が痛かったと思う。ただ、そんな状況の中

ソ連ではアリvs猪木が「最強のボクサーvs空手家」と報道されたんだ

でもミーシャはチャンスはあったんだ。要するにせっかく相手を倒したのだから、パンチを出せばポイントを稼げたと思う。というのは、一人のジャッジがミーシャにつけてくれた。あれでもうちょっと打撃を出せばもう一人もつけてくれたんじゃないかと思う。パンチを打てば勝てたんだよ！　こんなことで大事な試合を落としたのが、私は悔しいんだ！

（ドンッ！）

――あ、熱い（笑）。それで2ラウンドが終わったあと、ミーシャ選手にずいぶん檄を飛ばしていたんですね。

ハン　あれは正直言って、ちょっと言いすぎたとは思っているよ（笑）。

――確かに疲れ切ったミーシャ選手には、見ていて酷でした（笑）。それにしても、ミーシャ選手はそんな状態でも闘っていたのに、勝ったホフマンは決勝戦に出てこなかったじゃないですか。それについてハン選手はどう思われますか？

ハン　私はホフマンがケガをしていたなんて知らなかったし、そのことについては何とも言えない。ただ事実だけを述べると、彼はミーシャと闘って明らかにスタミナを相当消耗していた。それに対してヒョードルはスタミナ十分。だから、もし試合が行われていれば、私はヒョードルが絶対勝つという確信をもっていたよ！

――最後にちょっとミソがついたとは言え、ヒョードル選手はあのババルにも勝ってるわけですからね。やはり今までロシアの選手はけっこうブラジル人選手に苦しめられてきたんで、ババルに勝ったということは、そうとう大きいんじゃないですか。

ハン　ブラジルの選手はバーリトゥードにおいて大変豊富な経験を持っていると思う。それに対して我々はまだその経験の段階にない。だからこれまで、なかなかいい結果は出なかったが、人材的、技術的に考えたら我々の選手はブラジル人選手と比べても、決して劣らないと思う。劣らないどころか、技術の特徴によっては我々の方が勝っているんだ！　ヒョードルの勝利はそれを証明できたので、私は非常に満足しているよ。

――ロシアの選手を見ていると、技術的なこと以上に、「絶対勝ちにいく」という気持ちがすごく伝わってくるんですけど、そういう闘いにおいての心構えも弟子には教えているんですか？

ハン　「とにかくプロフェッショナル・マインドを持って闘い喜びを感じなさい。試合を楽しみなさい。そして観客に喜びを与えなさい」と言っているよ。そういうメッセージを送ることによって、より前向きに試合に挑むことができるんだ。アターエフなんかまだ21歳で大した経験もないのに、リングに上がれば非常に自由なモードで試合を楽しんでるように見えるじゃないか。それは彼が私の言葉をしっかりと受け止めているからだと思う。

――なるほど。では、この辺でリングスでの10年間を振り返ってほしいんですけど、ハン選手がリングスで闘ってきて一番印象深いことって何でしょう。

ハン　う～ん、思い出はありすぎるね。ビジネスマンとして、政治家として、もちろんプロ格闘家としていまの私があるのは、リングスで成功したおかげだから、リングスに対しての思い出というのは、私にとって切り離せないほど身近に感じているよ。日本に初めて試合しに行った時に、日本は食べる物がないんじゃないかと思って、サラミソーセージを鞄いっぱいに詰めて持っていったことも思い出せるし（笑）、リングスで優勝した時のあの気持ちも忘れられない。一言では語り尽くせないよ。

――では、一番印象に残ってる試合は何ですか？

ハン　それはもちろん私のデビュー戦であるマエダとの試合だよ。初めての日本、初めてのルール、いつもマットで闘っていた私はリングに上がるのも初めてだった。大観衆も大歓声も初めてだし、あんなに大勢の記者に囲まれるのも初めてだった。とにかく私にとっては未知の世界だった。だから無我夢中で闘

試合開始早々、ハンがタックルを切り、腹固め体勢に入る組長。しかし、ハンはすぐさま身体を一回転させ脱出。のっけからの関節魔術合戦に、場内はなつかしいどよめき。

[illegible]ハンは一気にスタンディング・アキレス腱固めに！　この技は組長がUWFの東京ドーム大会でディック・フライ相手に初めて極めた技だ！　ハンはここから、クロスヒールホールド！

闘い終わった両者は、旧UWFの試合前に行われていた、藤原のスパーリングのように、ヒザをついて礼。途中、組長が腰を痛めて動きが鈍くなる場面もあったが、見事に観客を沸かせた。願わくば5年前に見たかった夢である。

っていたので、印象には残っているが、試合内容についてはまったく覚えてない！（笑）。

――アララ（笑）。

ハン ただひとつ覚えているのは、試合中にパコージン（リングスロシア代表）が私に向かって叫んだ言葉だけだね。

――何て叫んだんですか？

ハン 「マエダを殺すな！」（笑）。

――ガハハハ！「前田を殺すな」ですか（笑）。

ハン 私もルールをわかっていなかったが、パコージンも何がおこるのか全くわかっていなかった。だから私が全力で闘ったら相手を殺してしまうんじゃないかと心配だったらしいんだよ（笑）。だから「殺すな！」とね。

――黎明期ならではの話ですね（笑）。

ハン そして私はマエダに負けた時、丸二日間は完全に落ち込んで食事もノドに通らなかったんだ。というのも、当時はソ連が崩壊した直後で、私の頭の中にも社会主義体制が考えがあったから、国に大変な恥をかかせてしまった。どの面下げて、故郷に帰ればいいのかと、真剣に悩んだものだよ（笑）。

――いまの選手で負けて「国に恥をかかせた」と思う選手はなかなかいないでしょうね（笑）。

ハン あのころは、負けた選手に次も試合のチャンスがあるなんて考えていなかったので、負けた瞬間「私のリングスにおけるキャリアもこれで終わった。オレは何のために日本に来たんだ」と、負けた時はわけがわからなくなったよ（笑）。でも試合後、前田が私の所に来て、「初めての試合なんだから、こういうときもありますよ。次に頑張ればいいじゃないですか」と慰めてくれたんだ。この言葉がなかったら、私のリングスでのキャリアは一試合で終わっていたよ（笑）。

初めて日本で試合をしたとき、「前田を殺すな」と言われたよ（笑）

――ではハン選手がキャリアで一番満足できたというのはどの試合ですか？

ハン 私にとっての満足というのは、試合自体ではなくて、瞬間的なもの。試合に勝ってその後に勝ったなっていう喜びじゃなくて試合の真っ最中にいい技ができてその時すごい歓声で盛り上がって、観客から足で床を踏む音でだね、あっ、これが気に入ってくれたんだなと。そういった瞬間的に満足してたんだ。別にそれが試合の結果に結びつくか結びつかないかは別としてね。

――やっぱり大観衆が喜んでくれるのが一番ということですね。

ハン 歓声が高いかどうか、そして会場が満員かどうか、そしてその満員の観客が試合が終わったあと、喜びを持って帰ることができるか、やはりこの3つなんだ。

――そういう意味では、昨日の10周年記念大会は、ロシアの選手達に大観声があがってたんですけど、ちょっと空席が目立って残念でしたね（笑）。

ハン 私も昨日（8月11日）は試合の中身は良かったと思うし、私の弟子もいい試合をして、非常にいい日だったと思うが、やっぱり会場が満員にならないのはいただけない。この問題は我々も肝に銘じるべきものだよ。

――その観客が減ってきた原因の一つとして、KOKで活躍したトップ選手が他団体に移ってしまったこともあると思うんですけど、そういう現象についてはどう考えていますか？

ハン 選手の寿命っていうのは非常に短いものだから、その短い間で、もっと稼ぎたいと思ったり、もうちょっと高いギャラや人気がほしいという願望をもって別の団体に行ったりするのを私は非難する立場にない。むしろ彼らには、共に闘ってきた同志として「グッドラック」という言葉を贈りたいよ。しかし、だからといってリングスにいい選手が残ってないかといったら決してそんなことはないし、間違いなく強い選手が揃っていると思う。だから例えばリングスと他団体が対戦するというマッチメイクが組まれたら、我々は喜んでそれに立ち向うよ！

――素晴らしい！　それこそがファンが望むことですよ。ノゲイラ選手もまた評価が上がったんで、万全の体調のハン選手と決着戦も見たいですし。

ハン 私は彼と闘うことに問題はないよ。私の弟子も闘う準備は常にできている。ただ、私はリングスの判断に従う、それだけだよ。

――いや～、そのロシアの選手の闘いに対する気概は素晴らしいですね。では、そのリングスのボスである、前田日明という人物はハン選手にとってどんな存在ですか？

ハン マエダは喧嘩の天才だ！　彼は喧嘩の才能を神様から与えられた人間じゃないかなと思う。彼のような選手はなかなかいないよ。

――喧嘩の天才ですか（笑）。じゃあハン選手と前田選手ってけっこう似てるんじゃないですか？

ハン ハハハ、確かに私は子供のころから喧嘩の才能を神から与えられすぎて、喧嘩ばかりしていたからそうかもしれないな（笑）。

――では、最後の質問です。ズバリ、ハン選手にとってリングスとは何ですか？

ハン リングスは私の人生そのものだね。弟子と一緒に練習したり、一緒に会話したり、楽しい時も苦しい時も一緒にいたりする。そしてリングに上がり観客の拍手をもらう。これが私の人生なんだ。そして私はリングを降りる日が来ても、私の弟子を通じてリングスに貢献していきたい。だから私にとってリングスは人生そのものなんだよ。だからファンには、これからも我々を応援してください、というメッセージを送りたいね（笑）。

――わかりました。今日はどうもありがとうございました！

ハン （日本語で元気よく）ドーイタシマシテ！

【01年8付12日／都内某ホテルにて収録】

Volk HAN 190cm、106kg。リングス・ロシア、ヴォルク・ハン格闘術

1961年4月15日、ロシア・コーカサス出身。リングスが生んだ最高傑作と呼ばれる格闘芸術家。20歳でソ連軍に入隊し、"戦場の格闘技"コマンド・サンボを修得。その後、教官として、多くのコマンド・サンビストを育成する。91年にリングス初登場。2度トーナメントを制し、リングスの頂点を極める。昨年「ヴォルク・ハン格闘術」を設立。ヒョードル、アターエフなど、時代のマット界を背負う人材の育成にも努める。

"リングス・ロシアのエース"E・ヒョードル リングス初代ヘビー級王座獲得記念

サイン入りグローブ プレゼント！

本誌がしつこく追ってきた「ヴォルク・ハン格闘術」から遂に王者が誕生！　それを記念して、リングス・ロシアをこよなく愛する人、一名様にヒョードルのサイン入り、試合用グローブをプレゼント！　ほしい人はリングスへの希望を明記して、どしどし応募してください。応募方法はP159参照。

ヒカルド・アローナ

柔術を守るため　やりたいんだったら死ぬ気で行ってこい!!

桜庭を倒したい

リングス10周年記念興行で行われたミドル級トーナメントを制したのは断然の優勝候補だったヒカルド・アローナ！　他を全く寄せ付けないブッチギリの強さでの優勝であった。
そしてアブダビ・コンバットでも2階級を制覇している恐るべき23歳のブラジリアンは、またもやあの男の名を発したのである。さらなる旋風を巻き起こすか!?　大会終了後に直撃インタビュー！

聞き手／堀江ガンツ　構成／クレ斉藤　撮影／松本崇　designed by さおとめの事務所

——戦前の予想通りとはいえ、圧倒的な強さでのミドル級トーナメント優勝、おめでとうございます！

アローナ　ありがとう！　凄くうれしいよ！

——それにしてもリング上での優勝の喜びようは凄かったですね！　観ていてビックリしましたよ（笑）。

アローナ　ワッハッハ！　そんなに喜んでたかい（笑）。

——今年のアブダビ・コンバットで優勝したときよりも凄い喜びようでしたけど（笑）。

アローナ　アブダビは確かに組み技では世界最高峰の闘いではあると思うんだけど、やっぱり打撃のあるルールの方が興奮するからね。勝った時の喜びも大きいんだよ。しかもこのトーナメントではカネハラ、ジェレミー、タムラやヘイズマンを破ったシムと、非常に強い相手と闘って優勝したんだからさ。

——そんなお喜びのところに水を差す質問なんですけど…。決勝でのグスタボ・シム戦では、レフェリーのダウンを巡る裁定で、ちょっとシム選手にとっては不満が残る終わり方になってしまいましたよね？

アローナ　確かに相手はそう思ってるかもしれないが、間違いなくオレのパンチでダウンしていた。当然の勝利の宣告だとオレは思ってるよ。

——それにしても、シム選手は打撃が非常に優れてるだけに、アローナ選手が勝つにしてもまさか打撃でとは思いませんでしたよ！

アローナ　観客もそう思ってたろうし、シムもオレの寝技を警戒していただろう？　だからこそ打撃で勝ちたかったんだ。オレはスタンドでも元々自信はあるんだ。忘れたのかい？　1回戦のカネハラとの試合でもスタンドでは圧倒していたんだぜ。オレにとっては寝技も一つに戦術にしか過ぎないんだよ。

——いやあ〜凄い自信ですね！　自信がありすぎたのか、最後はよろめいているシム選手の顔面にパンチを入れてたんですけど（笑）。

アローナ　あれは悪かったと思ってるよ。興奮してたんでついやってしまったよ（笑）。

——ワハハハ！　それでは自信満々のアローナ選手としては、ミドル級初防衛の相手に相応しい人間として一体誰を指名しますか？

アローナ　リングスでは特に誰ってことはないね。誰でもOKだよ。ただ、オレは桜庭と闘いたいんだ。

ミドル級王者決定トーナメント準決勝　vsジェレミー・ホーン

事実上の決勝戦と言われたジェレミー・ホーン戦では、確実にテイクダウンを奪い、アンダーからの攻守優れるホーンからパスガードを成功するなど柔術の技術を披露した。結果的には判定勝利になったものの、危なげない形で決勝にコマを進めた。

ミドル級王者決定トーナメント決勝　vsグスタボ・シム

決勝戦は89秒の秒刹劇となったが、アローナの打撃で倒れこんだシムの顔面にもパンチを入ってしまっただけに後味の悪い一戦となった。が、打撃の攻防ではシムが有利と考えられてただけに、アローナの強さがあらためて分かり知る1戦となった。

——やっぱり桜庭選手の名前が出ましたか！

アローナ　オレは柔術がナンバー1だと思ってる。サクラバは柔術の選手を何人も倒しているだろう。サクラバを倒して、柔術の強さを証明しなければならない。グレイシーじゃない、このオレが柔術を守るんだ。

——それではリングスを離れてしまうんですか!?　今大会でヘビー級チャンピオンに輝いたヒョードル選手には、アローナ選手は1度判定で敗れてるだけにもう1度闘って決着を付けてもらいたいんですけど…。

アローナ　リングスとは新しい契約を済ませてないんで何とも言えないな。またリングスで闘うのであればヒョードルと闘うときが来るだろう。ヒョードルと闘う事は全く問題はないね。望むところだよ！　とにかくこれまで以上に厳しいトレーニングをして、オレはもっと強くなる。今のところはそれだけだね。

——わかりました！　どこのリングに上がっても、その強さで対戦選手も観客も圧倒し続けてください！

★　★

ミドル級を制し、例によってある意味予想通りのリングス卒業と受け取れる発言をしたヒカルド・アローナ。こうなったら『PRIDE』でもどこでも行っちまえ！　ただしアローナよ、桜庭まで絶対辿りくんだ！　途中で負けることは許されない。勝つまでやれや、勝つまで!!　元気でッ！

オレが今、一番嫌いな言葉は〝グローバルスタンダード〟と〝世界〟の二つだ。何がグローバルで何がスタンダードなのかオレの前で詳しく説明して見ろだ。
グローバルは元はといえば〝球〟とか〝地球〟という意味。そこから「全地球的」、「全世界的」、「世界にまたがるさま」と一応、言われている。オレはその全地球的とか全世界的というその〝全〟という使い方が、まったく気に入らないのだ。
なぜ、そんなふうにしてすべてのことを〝全〟にしなければならないのか？　ふざけるなというしかない。そうやって〝全〟でくくってしまえば、得するヤツがいるんだろ。
あるいはそれでこの世界を、自分のものにしてやろうという魂胆なんだろう。もうそのたくらみが見え見えではないか？
グローバルなスタンダードなんてあるわけがない。初めからこんなものはないんだよ。だまされるな。あんなものはアメリカが世界を支配するための単なる方便にすぎない。
表面上は「フリー」だとか「オープン」だとか「フェア」だと言って、奇麗事の理屈をつけているが、そう言っといて結局独り占めにする腹さ。
アメリカが新たに仕組んだ世界支配のための巧妙な精神の帝国主義、それがグローバルスタンダードの正体だ。
グローバルスタンダードはアメリカ型帝国主義の手先となったコピーである。私みたいに〝マイナーパワー〟を主張するものにとっては、グローバルスタンダード（実はアメリカンスタンダード）は敵だ。
シュートしてぶち壊すしかない。クソ食らえである。立ち上がれ、これは究極の市街戦だ。我らが〝マイナーパワー〟を守るための聖戦でもある。
ごくごく自分の身のまわりに世界のすべてが堂々と存在しているのだ。だからグローバルという発想はまったく必要ない。いや、いらないのだ。
よって日本から世界へ出ていくものは、いっさい認めない。サッカーの中田英寿、プロ野球のイチローしかりだ。まぁ、彼らの場合はまだ許せる。日本が余りにもチンケなことを知ってしまったら、外の世界へ行くしかないよな。あれはあくまで〝外〟の世界のことをいっているので、世界のことではない。
リングスの10周年記念興行のパンフレットで、糸井重里氏が面白いことを書いている。引用してみよう。
「草野球から高校野球プロ野球まで、あらゆる野球は世界につながっている。という当たり前の事実を、いままで、見ないようにしてきた人々に、野茂や佐々木やイチローたちが見せてしまった。
こんなことがなければ、村中で一番でいられた人々には、彼らのやったことはまったくもって迷惑に思えたことだろう」
糸井氏が何を言いたいのかわかるだろう。リングスが草野球や高校野球、日本のプロ野球になったと言っているのだ。
いいじゃないか、それで。何が悪いというのだ。最初からリングスはリングスである。前田日明は前田日明である。
たしかに前田日明は「世界でいちばん強いものは誰か、闘って決めたらええやんけ」と言った。でもその時、前田日明が言った〝世界〟でも〝いちばん強い〟もみんな幻想でしかないのだ。それが幻想であることを最もよくわかっているのが、前田日明なのだ。
前田日明がそうしてリングスのコンセプトを言えば言うほど、オレにはそれは「汝、すべからくリングスを愛せよ！」としか思えなかった。
ファンと選手の両方に呼びかけていたのだ。

赤いブレザーの誘惑

君は前田日明を見たか？
いざ、いざ有明コロシアムへ
リングスという王国へようこそ
赤いブレザーは
プロレスファンの恋人の色
好きです、大好きです
君は前田日明を見たくないの？

平成13年8月11日有明コロシアム

前田日明は限りなく美しかった

遅れてるよ
100年は遅れてるね
いいの本当にそれでいいの？
赤いブレザーの誘惑
あかはひとりぼっちの色
でもでもボクだって君だって
ひとりぼっち
前田日明は君自身なんだよ

ターザン山本

特に選手に対しては、前田日明はその思いが強かった。子供の王国で子供たちが遊び戯れるように、前田日明はリングスという格闘技の王国を作った。

そこは決して〝世界〟とか〝全世界〟なんて言葉とは違う空間。要するに「お前達は王国で遊びたいのか、それとも世界でビジネスをしたいのか、一体どっちなのだ？」である。

グローバルスタンダードという理念はあらゆる王国を破壊する。王国を破壊していかないと、世界という帝国を築けないからだ。

草野球も高校野球もプロ野球も、みんなみんなあれは王国だった。メジャー（大リーグ）はグローバルスタンダードの象徴なんだよ。

リングスから『PRIDE』へ移っていったアイブル、オーフレイム、ノゲイラはいずれも王国を捨てた男たちだ。みんなドアホだ。

『PRIDE』が格闘技界のメジャーとしたら、そこには王国の匂いと香りはない。そんなものあるはずがないだろう？　『PRIDE』にあるのはグローバルスタンダード特有の〝結果がすべて〟というヤツ。だってグローバルスタンダードは、結果だけを真実としてそれしか認めない思想だから。

前田日明は美しい。限りなく美しい。なぜなら前田日明はリングスを王国と考えている。もうその発想だけでオレは十分だ。あとは何もいらない。

グローバルスタンダードと世界という二つの言葉をいう人間は信用できない。絶対に信用するなである。なぜならそいつらは世界を自分のものにしようとしているからだ。

前田日明にはそういう野望、野心はまったくない。だから信用できる。この理屈がわからないものはプロレスファンなんかじゃない。グローバルスタンダードよりマイナーパワーを。世界より王国を。

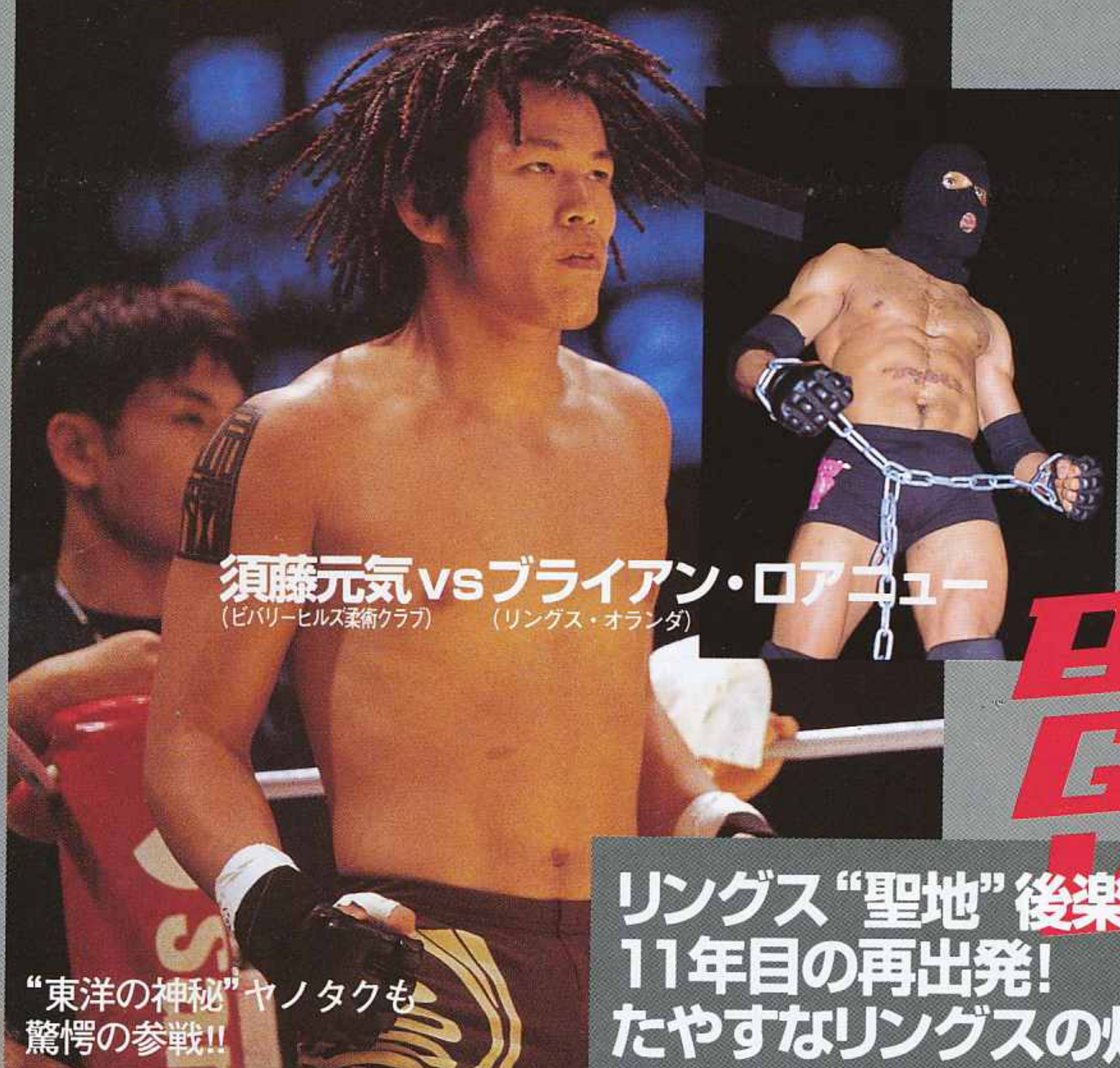
8月11日、有明コロシアム。前田日明という存在は、オレには孤高で崇高な王国の住人に見えたのだった。

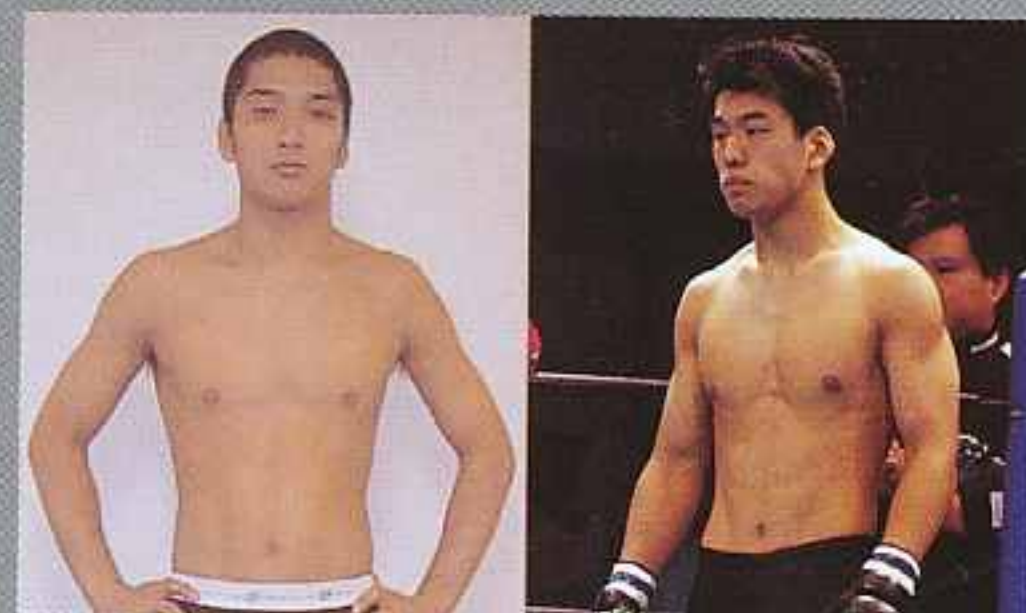
BATTLE GENESIS Vol.VIII

9月21日(金) 後楽園ホール (19:00ゴング)

リングス"聖地"後楽園で
11年目の再出発!
たやすなリングスの灯! 若い力が次々集結! そして

須藤元気 参戦決定!!

メインは任せた! Mr.リングス!
滑川康仁vsディクスター・ケーシー
(リングス)　(リングス・イギリス)

須藤元気vsブライアン・ロアニュー
(ビバリーヒルズ柔術クラブ)　(リングス・オランダ)

"東洋の神秘"ヤノタクも驚愕の参戦!!

ヤマケンの弟子もリングス初参戦!

所　秀男vs小谷直之
(パワーオブドリーム)　(ロデオスタイル)

リングスの秘密兵器連続出陣!

横井宏考vs小島正也
(リングス)　(和術慧舟會)

前田道場の新しい力が揃い踏み!

リングス最年長デビュー 武人再来!

伊藤博之vs門馬秀貴
(リングス)　(A³GYM)

いざ、後楽園ホール!! リングス再生へ、いまこそ会場に集え!

BATTLE GENESIS Vol.8
9.21(金)後楽園ホール
OPEN/18:00　START/19:00

■入場料金　ロイヤルリングサイド　¥12,000/リングサイド　¥10,000/スタンドS　¥7,000/スタンドA　¥5,000/スタンドB　¥3,000/学生特別優待席A　¥2,000/学生特別優待席B　¥1,000

※ 学生特別優待席は「チケットぴあ」のみでの販売となります。なお、高校生以下に限らせていただき、ご購入の際、学生証の提示が必要となります。

●お問い合わせ　(株)リングス:03-3461-0257
※インターネット予約受付　7月13日(土)より
http://www.rings.co.jp

リングス再生へ、"聖地"後楽園ホールに、若い力が集結した!

まず、なんといっても注目は、須藤元気の参戦! 言うまでもなく元気は、昨年12月まで日本ではパンクラスを主戦場にしていた選手。その独特のファイトスタイルは、これまでのリングスには、いなかったタイプであるため、全く新しいものが生まれる予感もあり、実に楽しみである。対戦相手は、今年3月の『バトジェネ』であの村浜武洋を打撃で追い込んだロアニュー。ド派手な入場を自粛中の元気であるが、覆面にチェーンという出で立ちのロアニューに対抗して、何か考えてくるのか? 入場シーンから見逃せない。

リングス秘密兵器・横井に続き、武人伝承"伊藤博之もデビュー。伊藤は前田道場での新弟子生活を1年半耐え抜き、ヤマノリと共に藤原道場で血便血尿トレーニングを積んだ根っからの前田道場イズムの持ち主。ついでにトンパチイズムも継承しているようなので、あらゆる面で注目だ。

また、ヤマケン道場『パワー・オブ・ドリーム』からは、"他流派荒らし"所秀男が参戦。所は先日の『クラブコンテンダーズ』でも阿部兄ィ相手に見事なジャーマンを繰り出すなど、いま注目の男。しかも相手がリングスライト級の無敗男・小谷とあって、マニア垂涎の一戦と言えるだろう。

こんなメンバーの中で、メインを努めるのは、"ミスター・リングス"(襲名予定)滑川康仁。現在、日本人他流派相手に破竹の3連勝中の滑川が久々の国際戦で、他のメンバーとは違う、"プロのメインイベント"を見せることができるか? "未来のエース"滑川にとって試金石となるだろう。

また、"あの"矢野卓見までもがリングス初参戦。もはやこれまでとは全く違う新しいリングスが見れそうだ。

9月21日、リングスの明日を確かめに、後楽園ホールに集え!

観客の満足度は『PRIDE』を超えた!

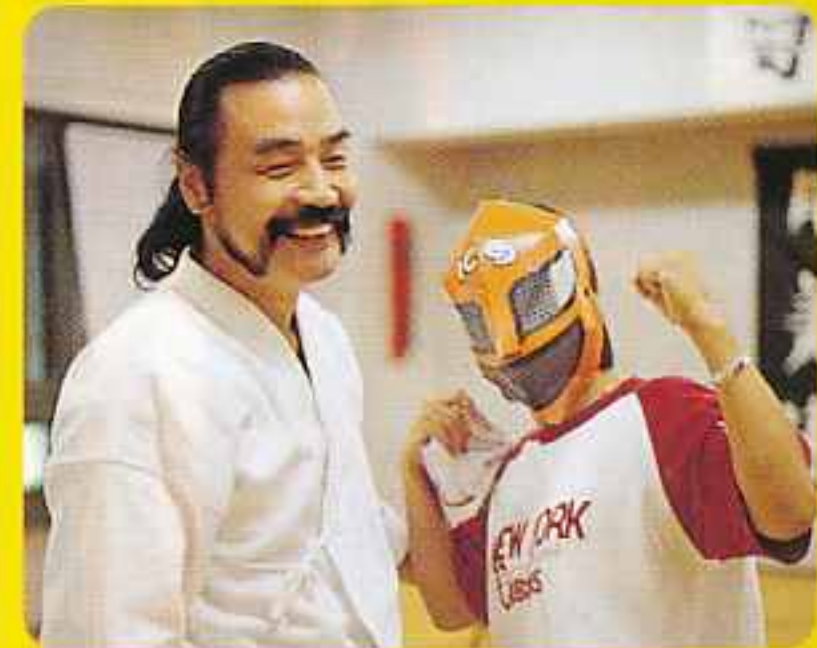
「しょせん女の闘い」とあなどるなかれ

今、スマックガールがヤバイ!!

渋谷系女子格闘技

Smack Girl 16page総力特集

「初めて見たけどスマックガールって面白いじゃん!」。最近こんな声をあちこちで耳にする。「ハッキリ言って気づくのが遅すぎるんですよォォォォ!」とターザンばりに炎上してみたが、それは事実なのだ。場所も曜日もターザンの一揆塾と同じ、毎月第四木曜日に渋谷で行われている。その魅力をスマックガール解説者のチョロが徹底紹介! スマックガール。一揆塾同様、その面白さは、まだまだマニアにしか伝わっていないが、一度でも体感すればキミもスマックの虜になること間違いなし!

［特別付録］
活字ヴァーリトゥード講座
夏休み課外授業
女子格闘技の面白さ教えます

堀辺正史×サクマシーン?

まずは、『紙プロ』スーパー読者 ささきぃの（25歳・OL）

「7・26スマックガール」観戦記を読んでワクワクしましょう。

『紙プロNO 37』で紹介した25歳・OLささきぃの〝サクへの手紙〟。好評につき、今回は7・26スマックガール観戦記をお届けします！

「スマックガールに憧れた」

とにかくその評判の良さに惹かれた。星野育蒔という生き物を見たかった。

仕事帰り、ダッシュで渋谷に駆けつけたけど、ぎりぎり7時でした。7時半開始だと嬉しいんだけど、そうもいかないでしょうか。着いたらちょうど、最初の試合が始まるところでした。

狭い空間に、リングがすとんと置いてあって、その周りを人が囲んでいる。いっぱいに人が入っていて、大体8、9割男性。選手は階段出口から出てくる。

ところで私は165センチある。自分よりほとんどの選手が小さいのだ。けっこうフクザツな気分。

これが男を取られた女同士のケンカだ（笑）

［第1試合］
〝ケーキファイター〟藤城生美○
vs〝闘うレースクイーン〟中嶋智子●

2人、ヘッドギアをつけている。ちっちゃくてカワイイ女の子選手と、普通にキレイめなお姉さんの試合。試合は男を取られた女同士のケンカを見るようだった。べしべし殴り合ったり蹴りあったり。

ところで、ひっぱたきあい、殴り合いのケンカをしたことのある女の人、というのは女性全体の割合としてそんなに多くはないと思う。

私は無い。つーか、私は、口げんかでさえしたことがない。ふっかけられることもないし、自分からふっかけることもない。ケンカといえばそれだけでもうその場にいるのがいたたまれない私は、見ているだけでドキドキして落ち着かなかった。止めなくていいのか。だけど、私に利害のない他人、しかも女同士のケンカはなんて面白いんだろう。相手に殴られてから殴り返すまでの間が素なのだ。

そして女の子は相手を殴ったりしてはいけないハズなのだ。殴られたりもしてはいけないはずだ。それなのに殴ったり殴られたりしているのだ。しかも人前で。

うーん。おもちろいぞ！

レースクイーンのお姉さん（私より年下かもしれないけど）、フロントチョークでタップ。勝った藤城、ヘッドギアを外して笑顔。

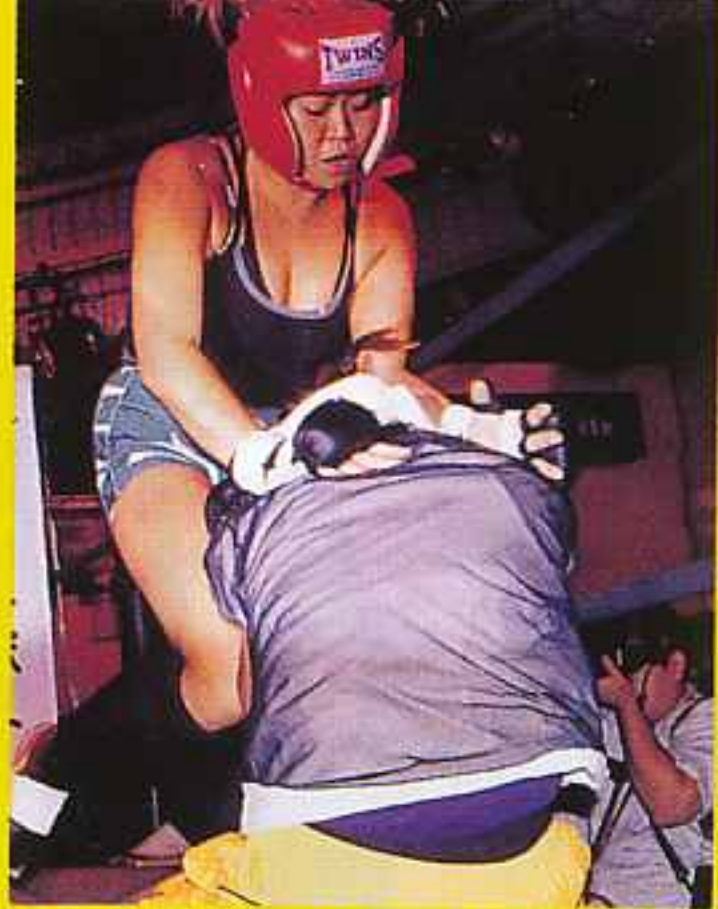
試合中ずっとヘッドギアはつけてたほうが安全だと思うけど、やっぱり髪がサラってなるのが見たいなぁ、と思っていた。でも勝って嬉しそうに外すこの瞬間、すっごく女の子が可愛く見える。嬉しそうにインタビューに答える勝者。負けた方はこっそり外されて早々にリングを降りる。

［第2試合］
〝カムバックヒロイン〟佐藤めぐみ●
vs〝東京喧嘩娘〟篠原光○

篠原、前に新宿プロレスに出たらしい「力道山を刺した男の娘」。あのときはバトラーツと島田レフェリーの掲示板に、もの凄いバッシングカキコミがあったのに。

篠原入場。セコンドの男性を見てマジで驚いた。バトラーツを退団して全日本に上がったことで、「こんな選手を育ててしまったことを後悔している」とか社長に書かれた、土方隆司じゃん!! それってやっぱバトつながり？ 的確な指示を出していたと思う。

相手の佐藤とずいぶん身長差が。

試合はまるっきり篠原ペース。前の試合の2人や佐藤とは技術レベルも、たぶん気持ちも全く違う。試合に賭けている気持ちが違うんだろうなと思った。

“力道山を刺した男の娘”篠原光の超ド迫力のケンカファイトは必見だ！

もちろん篠原の勝ち、めちゃめちゃ強い。どう考えてもヒール。是非これからも相手をこてんぱんにやっつけていって欲しい。

勝利者ポーズを決める篠原、舌が長い。がんばれ。

［第3試合］
〝ミクロの決死隊〟ナナチャンチン●
vs〝闘うギャルママ〟大野千春○

な、ナナチャンチン、小せぇ〜。入場時、横を通り過ぎる頭の位置を見てビックリした。

相手の大野は子供がいるとは思えないキレイさ。

キャットファイト好きにもたまらない一戦！

ナナチャンチンがどう闘いたいのかがイマイチよくわからず。どういう作戦なのかが見えなかったのだ。

大野が腕をとって、腕ひしぎでナナチャンチンがタップ。

休憩。サクサク進む。試合は面白いし、あと2試合というボリュームも仕事帰りにはちょうどよくて、心地いい。

［第4試合］
〝禅道会の新風〟尾上佳子○
vs〝女子格闘技の新風〟市村幸恵●

禅道会がどういう団体なのかも私は知らない。でもここから2試合は禅道会とGF2の対抗戦らしい。そしてルールも違うらしい。ヘッドギアなし。顔大丈夫かな、ちょっとドキドキ。

尾上、すらっとしていて黒髪で他の選手に比べるといくぶん地味に見える。でもカワイイ。んと、胸がない笑わない真鍋かをりちゃんって感じ。

相手の市村は短金髪ヤンキー風。

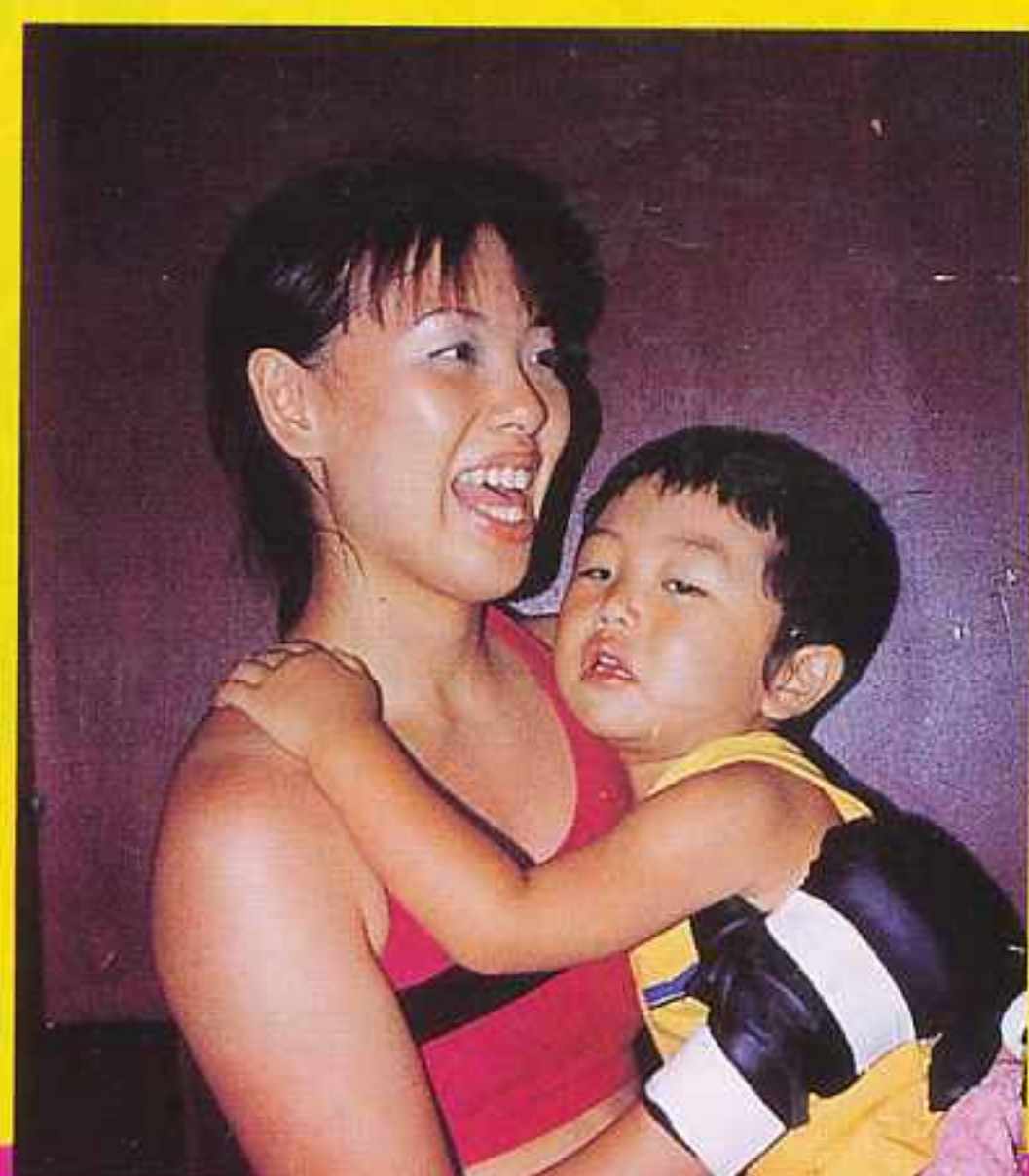
試合はどう見ても尾上のほうがリードしてると思った。闘い方もクール。何度も何度も腕ひしぎを極めていたけど、市村が意地でタップしない。

んで市村のセコンドがヤンキー軍団みたいな指示と声援。声質もダミ声。

「ガマンだぁガマン！ ガマンしろ！」

「やれッ！ やっちまえ！」

途中、尾上が鼻血を出してドクターチェックになったのに、「いいぞ！ やっちまえッ！ ドンドン行けッ！」

生徒会副会長だった自分としてはどうしても尾上を応援したくなった。しかし、グラ

突然の妊娠・出産を経て千春がリングに戻ってきた。シングルマザーの千春は現在、子供と一緒に木口道場で練習を積んでいるという。子供の顔はお父さんそっくり

胸がない笑わない真鍋かをりこと尾上佳子（笑）

ンドになると市村が尾上にがっちりくっついてどうにも出来なくなってしまう。
何度目かの腕ひしぎで市村がとうとうタップ。よし。よくやった。

[第5試合]
"禅道会の戦闘マシン" 金子真理●
vs "天然格闘少女" 星野育蒔○

見てみたかった、星野育蒔。
ゴージャスなハイホーのテーマにのって金髪で登場。ぷくぷくしていて大変カワイイ。生き物として頭を撫でてやりたい。
禅道会の金子、すごく小柄。
入場時の笑顔にかわって、星野、試合になると目が変わる。口も半開きに。会場が皆、星野を応援している。セコンドもGF2オールスター揃って応援応援。
星野がすぐに試合を終わらせてしまうかと思ったけど、金子が強いので、もしかして星野の負けるところが見られるのかなぁっと、ちっと私ひとりがワクワクしていたのだが、いつまでも星野の目は戦闘モードのまま変わらない。金子が元気を星野に吸い取られていくみたいだった。それでもグラウンドになると、星野が危ないところは何度もあった。
ラウンド終了時、セコンドの指示に「ふぁ！ ふぁ！」と雑誌で見たとおりのキャラクターな返事をしている。
高いハイキックが入る。ほぼ逆立ち状態からヒザを落とす、アップルニュートンが入る。ゼンマイで動いてるオモチャみたいにくるくるよく動く動く。星野の打撃が入るたびに会場のかけ声がかかる。
3R突入。
どうなるのかなぁっと思ったら、DDTから金子をシメあげて星野の勝ち！
よかったねぇ。

どうしてなのかわからないけど見ていて全身がワクワクしていた

試合後息の切れている星野、インタビュアーのマイクを奪ってしゃべり出す。以下スポナビのコメントを聞いた記憶を通して再現。
「あの、は、打撃をいっぱい、いっぱいもらっちゃったんで、ふぁ、もっと、いっぱい練習して、は、こうやって（動き）よけるんじゃなくて、ふぁ、こうやって（動き）よける感じで、ふぁ、いっぱい、練習して、いっぱい闘いたいんで、よろひくお願いひます」
かわいい!! かわいいぞー！ マァ☆ティン!!（星野のニックネーム）
あまりにカワイイのでキックのひとつも入れてやりたい！ ムツゴロウさんのように頭やら顔やらを撫でたい！
いつまでも終わることのなさそうな勝利者ポーズの中、突然バク転。じっとしておけと言われたら泣いたりするのかしら。

ある意味スマック名物とも言えるのがマァ☆ティンの試合後のジェスチャー付きマイクアピール。当の本人は記憶が飛んで何も覚えていないらしい

全5試合、9時前には終わった。当日券3000円で、ほぼ特別リングサイド。全然お得感いっぱい。大満足。
スマックガールの面白さをどう伝えればいいのかわからない。行けばわかる！ という言葉以上に、スマックガールを伝える言葉がない！
全身でケンカしたり感情を表したり、いたぶられてるかのようにカメラのフラッシュを浴びせられたり、ものすごく全身を使っている彼女たちを見ていると、アタマじゃなくて腕やら足やらに何やらビンビン感じる。痛みとかを想像するんじゃなくて、ワクワクを感じる。
リング上にいるのが女の子で、私が同じ女だから勝手に感情移入しているのか。どうしてなのかわからないけど、見ていて全身がワクワクしていた。
また見に行くよ。

スマックガールがヤバイ ホントの理由

「今日はハッキリ言って今年のベスト興行ですよぉぉぉぉ！」
すっかり興奮して実況席で叫んでしまった7・26スマックガール第三回大会。
いきなり出てきた現役レースクィーンと、ケーキ作りが趣味という、ごくごく普通の女の子による、技術を超越した女同士の意地の張り合い、殴り合い。
出産を経て、いろんな意味で以前より格段に強くなっていた千春の格闘技デビュー戦や、"力道山を刺した男の娘"という肩書きに押し潰されることなく、インパクト大のデビュー戦を飾った篠原光、その天然っぷりと、強くて面白い試合を連発することから、女・マッハ速人だとか、女・美濃輪などと形容されるまでになった星野育蒔の強烈なDDTによるフィニッシュシーン。
そして、いまやスマック名物となった感があるマァ☆ティンこと星野育蒔のマイクアピール（＆ジェスチャー付き）。
第一試合からメインまでの全五試合。試合が進むにつれ、会場のボルテージはそれに比例して上がりっぱなしという文句なしのベスト興行だったのだ。
その後に、この夏一番の名勝負と言われたパンクラスでの美濃輪対秋山戦や、あまり期待はしていなかったが、安田、藤田が立て続けにK-1ファイターに倒されかなりの盛り上がりを見せた8・19K-1対猪木軍など、今年のベスト興行として上位にランクされるであろう興行にも足を運んでいるが、それをふまえた上で改めて断言しよう。今年のベスト興行は7・26スマックガールであると。
とは言っても、今年もまだ4ヶ月近くあるわけで、もしかしたらそれ以上の興行が続々と出てくるのかもしれないが、正直言って、その中に再びスマックガールが入ってくる可能性が非常に高いと思う。それほどスマックガールは面白い！
別にボクがスマックガールの解説者をやっているから持ち上げているわけではない。毎回毎回、不思議なくらいにスマックガールにはハズレがないのだ。もちろん運による部分もかなり大きいが、運も実力の内なのでノー問題だろう。
ところで、『紙プロ』読者には、アメプロ嫌いと同様に女子プロ嫌いという人が多い。「女子プロは興味ない」だとか「女子格闘技はレベルが低くて見れない」といったハガキがやたらと目に付く。
そういうボクも、正直、女子プロの会場には、ほとんど足を運んでいない。元々、女子プロはあまり見なかったというのもあるが、「バッカヤローッ！」だとか「ブッ殺してやる！」といった、おしゃべりなプロレスがあまり好きではないからだ。そういった言葉が飛び交うリング上の闘いにリアルさ（真剣勝負という意味でなく）をあまり感じなくなってしまった。オレって不感症なのか？
唐突な例えで申し訳ないが、それはセックスにも同じことが言えると思う。
百戦錬磨の女性（悪い意味で）はセックス中に演技をする人が多いという（多少の演技は必要だと思うが）。まあ、演技をさせないようなガチンコテクを繰り出せれば何も問題はないのだろうが、そう簡単に加藤鷹にはなれるもんじゃない。
イッてもいないのに「イクーッ！」と過剰に叫んでみたり、さほど感じてもいないのに「アンッ」と大袈裟な喘ぎ声を出してみたり、死ぬはずなんてないのに「死ぬーッ！」とわめいてみたり、そういった演技はあまり見たくはない。
最近の女子プロを見ていると、ぼんやりと、そんなことを感じてしまう。
しかし、スマックガールのリング上での女同士の闘いは、演技などする余裕も（テクニックも）ない素人娘のナマの感情がビンビンに感じられるのだ。
本気で死んじゃったんじゃないかと思える壮絶な失神劇や、本気でイッちゃってる姿（マァ☆ティンのマイクなど）がふんだんに見られるのがスマックガールの魅力である。そりゃ面白くならないはずがない。やっぱりナマが一番！
リング上でナマの感情をぶつけ合う女の子たちはみんな輝いて見える。その姿を見て男たちは興奮し、女たちは憧れる。今、スマックガールがヤバイぞ！（チョロ）

チョロのおすすめファイター

スマック期待の美形ファイターとして注目の"小さな稲妻"こと角田絵美。過去に少林寺拳法の経験有り！

「で、結局、SMACK GIRL!って何なの?」という人のために

渋谷系女子格闘技 Smack Girl とは何なのか やさしく教えて あ・げ・る♥

プロレス格闘技に「渋谷系」という新たなるジャンルを持ち込もうとしている人がいる。エヌ・イー・オーの篠泰樹代表である。

女子のプロレス&格闘技の総合商社のような戦略であり、渋谷系女子プロレス・ReMix（リミックス）・渋谷系女子格闘技SmackGirl（スマックガール）の3本立てだ。

渋谷系女子プロレスでは「1%の真実と99%のファンタジーが絶妙に混ざり合った、究極のエンターテインメントドラマ」としてTV朝日系で毎週放映されている。今後は興行も開催される予定だ。一方ReMixは「女子格闘界の真の強さを求めスポーツライクな新しい競技ジャンルとし、世界規模の大会を開催」ということで、さしずめ〝女性版PRIDE〟を狙うかのようである。

そして今回改めて紹介するのが、前述のReMixの日本人主体の興行という位置付けとなる渋谷系女子格闘技SmackGirlである。SmackGirlは毎月第四木曜日に東京の渋谷clubATOMで開催され、既に旗揚げから4回を数え、女子格闘技界に新風を巻き起こしている。

クラブイベントらしく試合前には女性ダンサーによるリング上でのダンスや、まるで地下室プロレスさながらの怪しい照明など、まさに渋谷系の面目躍如である。

そして特筆すべきはこの興行、正真正銘の「女子による真剣勝負」が全試合展開されていることである。

渋谷系女子プロレスは、試合内容はもちろん、試合結果も含め全て台本の元に進行するプロレスドラマ、プロレスバラエティである。まさにアメプロのWWFと同じである。それに対しSmackGirlは、それとは正反対で事前の筋書きナシ・勝敗の決まっていないシュートマッチなのである。

この「渋谷系」という一つの括りの中で、「筋書きアリ」のものと「筋書きナシ」の二つがあることをはっきりとカミングアウトすること自体が、今までの常識を覆す空前絶後のものであることを『紙プロ』読者には是非理解してもらいたい。

今後もSmackGirlは〝混ぜ物ナシ〟の全試合シュートで行くと、篠代表も明言しているので興味深く見守りたい。

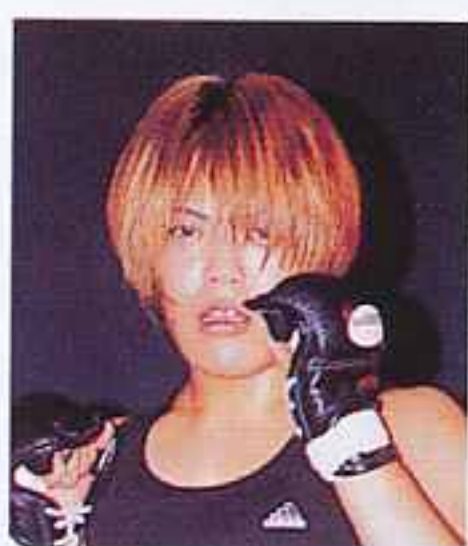
主な選手を紹介していこう。

「スマッククイーン」
八木淳子

帝京大学時代は柔道で活躍、あのYAWARAちゃんこと田村亮子とは同期生。全日本では団体優勝。1998年LLPWでデビューするも退団。今回のSmackGirlでの主役である。その恵まれた体格（172センチ・78キロ）と柔道をベースとした技の切れは他の追随を許さないであろう。格下相手には無類の強さを発揮するが、自らの格闘技のベースである柔道にこだわりすぎる余り、スタンドの打撃はいまだ発展途上。自らがSmackGirlのエースという自覚を今こそ持つ時だ。〝ミスター女子プロレス〟神取忍との対戦目指し、さらに実績を積んでもらいたい。

「天然格闘少女」
〝マァ★ティン〟星野育蒔

『紙プロ』でも既にお馴染みで、今回のSmackGirlでイチオシの新人。中学では陸上、高校より柔道（高校柔道近畿大会ベスト4）そして総合格闘技に転身。小さな身体（156センチ・55キロ）からは想像出来ないような素晴らしい打撃で、本年開催のReMixではシドニー五輪銀メダリストロシアのコボチノバ・タチアナから驚愕のKO勝ちを奪い一気にブレイク。先日のSmackGirlでは、体重165キロの元全女の鳥巣朱美をスピードと打撃で圧倒しパンチでKO、大声援を浴びた。試合後のマイクも最高で「天然格闘少女」の称号を得る。今や八木をしのぐ勢いで人気も急上昇中。

「クールファイター」
久保田有希

高校柔道選手権準優勝の実績を持つ内田有紀似の美形ファイター。まさにSmackGirlのコンセプトにぴったり。スケールの大きなファイトに期待がかかる。

「ミクロの決死隊」
ナナンチャンチン

これぞ「渋谷系」ならではの選手。ミニモニ体型（147センチ・43キロ）にどこをどう見てもコギャル。こんな娘がリングに上がって闘うんだからたまりません。殴られても目に涙をため（笑）闘う姿は一見の価値あり。

それ以外にも空手団体でありながら果敢にも総合格闘技に挑戦する禅道会の選手や吉本女子プロレスJ'dの選手も参戦し、プロアマ織り交ぜ、今後も素晴らしい闘いが展開されていくであろう。アマチュア新人の中にも、アマチュアという枠を飛び越えている選手がいる。今マスコミが最も注目している選手であり、それはあの力道山を今は無きニューラテンクォーターで刺した村田氏の娘で、最近では全日本プロレスの太●●アとの交際の噂、さらには現役キャバクラ嬢と「話題の三冠王」篠原光や、結婚→出産から3年ぶりのリング復帰で総合格闘技初出場となる、元プロレスラー・大野千春らである。

もちろんアマチュア部門も見逃せない。前述のナナチャンチンをはじめとし、とてもいままで格闘技なんてやったことないだろ?というようなフツーの娘もいるし、今までの各々の格闘キャリアを発揮しようとリングに上がる者もあり、先日はレースクイーンまでもが参戦し観客の度肝を抜いた。

まだ洗練されて無い荒削りな試合が多いのも逆に魅力の一つである。ジャンルが大ブレイクする直前の混沌とした熱気が充満しているというのが正しいのかもしれない。

SmackGirlはTV放映もあり、CSスカイパーフェクTVでPPV（600円／回）と手ごろな値段で見ることも出来、会場に足を運ぶことの出来ない方にも好評を博している。

とにかく、闘う女たちの勇姿は必見。渋谷のクラブという、DJブースがあり、ミラーボールがあり、VIPルームがあるという異空間で少女たちが殴り・投げ・極める様は既存の格闘技の興行とは全く違う趣があり、一度は足を運んでみて欲しい。男子格闘技とはまた違った独特の雰囲気をPPVで、そして出来れば直接「クラブ」でビール片手に味わってもらいたい。

プロレスファンはもちろんのこと、PRIDE・修斗・パンクラス・リングス等の格闘技ファンにも、是非見てもらいたい。「女子?興味ないよ」という方には特にお勧めだ。

クラブという小さなハコで目と鼻の先で女同士のド迫力の闘いが展開されている様は『PRIDE』などの大会場で離れて見るのとは全く違う感じを受けると思う。パンチキックの当たる音・選手の息遣い・セコンドの白熱した指示・それらを真近で体感できる、まさに全席アリーナのかぶりつきなのである。女子格闘技だって負けず劣らず進歩しているのが分かる。

「SmackGirlを体感せよ!」

（文・観戦記ネット主宰＠品川）

筆者紹介■インターネットでは知る人ぞ知るユーザー参加型の究極コンテンツの最先端をいくプロレス格闘技系サイト「観戦記ネット」の主宰。既存のプロレス・格闘技の観戦記は、各々のサイトや掲示板に単発で掲載される事はあったが、観戦記のみを集めたものは不思議と存在しなかった。また、プロレスファンと格闘技ファンの間には、暗黙の隔たりがあり、プロレスと格闘技の観戦記が同時に掲載されることはほぼなかった。そこで、品川が各プロレス格闘技系HPの観戦記の書き手の猛者を一同に集め「観戦記ネット」を旗揚げした。

［観戦記ネットURL］
http://www.sportsnavi.com/kakuto/kansenkinet/

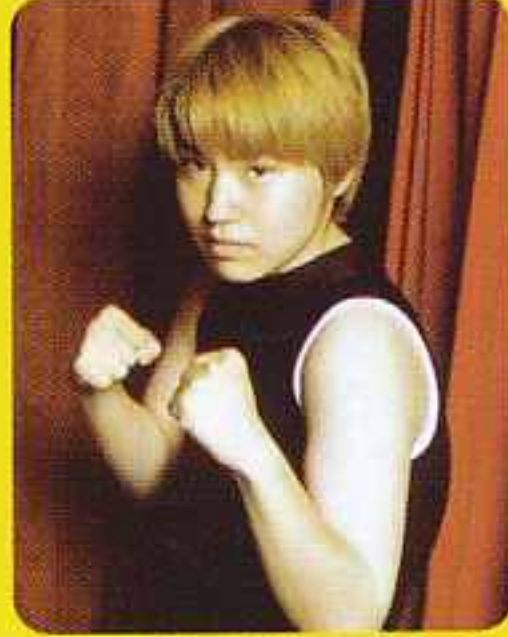
SMACK GIRL!
渋谷系女子格闘技

Smack Girlに登場する女の子たち

見てみ、この女の子の数！ これまでスマックガールに参戦した選手を一挙に紹介！「スマックガールは団体じゃなくて『場』なんです」。日明兄さんではないがそういうことです！ 今回紹介した選手以外にも、今後スマックガールのリングには様々なところから選手が送り込まれてくるだろう。注目!!

“スマック・クイーン”
八木淳子
[GF2]
ＬＬＰＷを退団後、パチンコ屋で働いているところを本誌がキャッチ。その後、総合格闘家への道を歩む

“天然格闘少女”
星野育蒔
[GF2]
スマックの主人公・星野が『紙プロＮＯ36』登場時、「東条まい」と名乗っていたのはここだけの秘密

“格闘特攻隊”
張替美佳
[GF2]
先日、その特攻精神で女子ボクシングの試合にまで出場したガテン系ファイター。全女でデビュー経験有り

“女子格闘技の新風”
市村幸恵
[GF2]
全女のオーディションを受けるも落選、格闘技へ進出。抜群の関節の柔らかさを持つボーイッシュ戦士

“埼玉の喧嘩娘”
金井広美
[GF2]
全女そしてネオレディースで練習生生活を送るが、デビュー前に退団。東京喧嘩娘との対戦はあるのか？

“小さな荒鷲”
坂口一美
[GF2]
全女＆ネオ時代は練習生。その後、ＳＰＷＦで美濃小町というリングネームで活躍していた女子プロ戦士

“ミクロの決死隊”
ナナチャンチン
[GF2]
プロレス好きが高じてリングに上がってしまったミニモニファイター。マニアファンからの支持は高い

“小さな稲妻”
角田絵美
[SSSアカデミー]
某大学の法学部に籍をおく美少女系エリートファイター。カワイイ顔して元ヤンの噂有り（笑）

“CAKE FIGHTER”
藤城育美
[SSSアカデミー]
ケーキ作りが趣味というだけで付いたキャッチフレーズがケーキファイター。女版・宇野薫となれるか？

“闘うデザイナー”
伊藤香
[SSSアカデミー]
キャッチフレーズの通り本業はデザイナー。しかもデザインしているのが『格通』という根っからの格闘娘

“日本初の女子総合格闘家”
高橋洋子
[Jd']
レフェリー兼日本初の女子総合格闘家。恵まれた体格を活かし、先日は判定ながら八木淳子を敗っている

“微笑みファイター”
亜利弥'
[Jd']
本名の小山亜矢名義でReMixにも出場。薮下同様、試合中笑顔を絶やさないところはJd'イズムか?

“禅道会最強の女”
石原美和子
[禅道会]
一回目のReMixに参戦、オランダではクーネンと互角の勝負を演じ、先日はクラブファイトにも出場

“禅道会の戦闘マシン”
金子真理
[禅道会]
クラブファイトで高橋洋子と闘い、キックの試合にも出場経験のあるバランスの取れたベテランファイター

“禅道会の新風”
尾上佳子
[禅道会]
飄々としたルックスながら、立ってよし寝てよしの、まさに禅道会とも言えるオールラウンドファイター

“COOL FIGHTER”
久保田有希
[フリー]
170cmという恵まれた身体とルックスを活かし、人気実力とも急上昇中。キャプチャーでは男と闘っていた

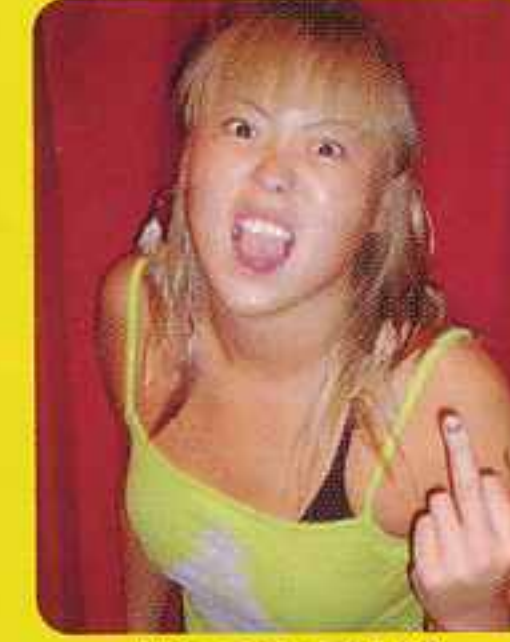
“格闘重戦車”
佐藤めぐみ
[フリー]
元祖女子高生レスラーとしてＬＬＰＷマットで話題に。ちなみにプロレス時代のニックネームはキャサリン

“浪速の喧嘩娘”
小河真子
[フリー]
ＬＬＰＷの練習生だったが、退団後、キックボクシングを中心に練習を積み重ねスマックで念願のデビュー

“闘うレースクイーン”
中島智子
[フリー]
174cm、55kgと細身で長身の現役レースクイーン。格闘技歴は数ヶ月前に始めたばかりのボクササイズ（笑）

“茨城の天然格闘娘”
森藤美樹
[TOPS]
桜井マッハ速人の師匠でもあるブス先生から指導を受ける“茨城の天然格闘娘”。旗揚げ戦のメインに出場

“佐賀のビックリみかん”
鳥巣朱美
[フリー]
10年ほど前、全女の異種格闘技戦に出場し、その後入団。その恵まれすぎた巨体のスマック再登場を期待!

“闘うギャルママ”
大野千春
[フリー]
ルーズソックスとバトントワリングで話題になった女子高生レスラー。妊娠＆出産を経て格闘技デビュー

“東京喧嘩娘”
篠原光
[チーム南部]
ストリートファイト無敗という強烈な肩書きを引っさげてスマックガールに登場した大型暴走ファイター

“伝説のキック”
ノリコM16
[ノムレック・ヒヨヒヨジム所属]
キック界では知らぬ者はいない強豪、ランバー・ソムデートM16の奥さんで、自身も女子キック界で活躍

言しているので興味深く見守りたい。

レイクする直前の混沌とした熱気が充満して

〝天然格闘少女〟星野育蒔

「ここだけの話やけど、マァ☆ティン、いま世界で一番熱いよ！ 悪いけど」

スマックガールの主役

聞き手&撮影／チョロ
designed by hisa (Two Three)

シャチに乗った天然格闘少女が衝撃告白!

「マァ☆ティン、早く人間になりたいんさ」

毎日のように練習しているＳＳＳアカデミーの夏合宿で福島の海へとやってきたマァ☆ティン（自称・両生類）。40度近い熱を出しながらも、大好きなシャチに乗って大はしゃぎ！

スマック特集、インタビューのトップを飾るのは、もちろんこの人、マァ☆ティンこと星野育蒔！　デビュー以来破竹の5連勝（しかも、全て一本かKO勝ち！）を収め、この号が発売される頃には連勝記録を6に伸ばしているはず（？）の天然格闘家である。「強くなりたい！」が口癖で、今では、どの格闘家もあまり口にしなくなった〝最強〟というテーマに向かって突き進むマァ☆ティンの叫びを聞け！むきぃ～!!

――いつも「金がないない」言ってるマァ☆ティンだけど、今の所持金はいくらなの？

星野　え～と、昨日の時点でお財布の中には376円です（笑）。さすがにやばいんで知り合いに借りちゃったけど。

――それはやばいね（笑）。でも、何かバイトはしてるんでしょ？

星野　日雇いの焼鳥屋（笑）。スゲェ、綺麗なとこなんさ。だからオッケー。で、ホンマに死にそうになったら日雇いで一日費やす感じ。セメント運んだり、ビル作ったり。

――男顔負けだね（笑）。

星野　あとは練習！　練習好き。

――練習が生き甲斐なんだ？

星野　いや、ホントはガチで闘うことが生き甲斐なん。だから、練習中も0か100しか出来へんねん。スパーリングとかで「軽くね」って言われても、本気でバチコ～ン！って入れてしまうん（笑）。「お前は女の子とはやらせられない」ってよく言われるんさ。

――そりゃ、ダメだ（笑）。今一番楽しいのは何してるときなの？

星野　（即座に）試合！　試合してる時が一番！　二番がそれに繋がる練習！　あとは笑ってる時！（早口で）それと遊んでる時と歌ってる時と食べてる時と寝てる時。あっ、寝てる時はわからん！

――そりゃそうだ（笑）。でも、マァ☆ティンは落ち込む時も人一倍落ち込むみたいだよね。

星野　うん、凄いよ！　落ち込む時もドカ～ンと（笑）。マァ☆ティン、全部0か100なんや。何事も一生懸命なんさ。でもな、最近は最強に向かって走り出してるから落ち込んでもいられないんさ。100%で走らなあかん！

――頑張れ！　でもマァ☆ティンはデビューから5連続一本勝ちなんだけど、判定は一度もない……。

星野　（遮って）あのね、判定がないとかよく言うけど、判定でも勝ちたいから全然大丈夫なん。

――でも、見てる側は判定より一本勝ちの方が面白いからね。

星野　それにこしたことはない。勝ちたいってことがまず前提で、プラス、バチッと勝ちたいんさ。投げたらバチッと決めて、パンチもバチッと決めて、キックもバチッバチッと決めたいという欲がある！　だから、その欲でマァ☆ティンは飛びだすんさ。勝利が100で、マァ☆ティンが目指してるのは120、150とかの話なん。100では満足せえへんから、120、150、180を目指してんの。

――そういう意味では、この間（7／26）の金子（真理）戦はかなり満足したでしょ？

星野　あれはトリップした！（キッパリ）。ホント、トリップすんねん。別の世界まで行った。銀色の世界やったな（笑）。

――ハッ？　銀色の世界（笑）。

星野　熱あったからかね？　あの時、40度ぐらいあって死にそうやったん。レフェリーがストップしてゴングがカンカンカンって鳴ったらもうトリップしたんさ。

――それが一番気持ちいい瞬間？

星野　（嬉しそうに）気持ちいい！　ほ～んまに気持ちいいよ！　闘うのが楽しいッ！　闘う場所がなかったらマァ☆ティンどうすればいいやろ？　試合があるからマァ☆ティンは生きてるし、生きるって闘いやねぇ（しみじみと）。

――マァ☆ティンはいろんなことと闘ってるみたいだからね（笑）。

星野　うん。貧乏とかさ（笑）。ホントはな、日々闘ってたい！

――毎日でもオッケーと（笑）。マァ☆ティンはスマックガールについてはどう思う？

星野　どうも思わん。マァ☆ティンは経営者でもないからわからん！　ファイターやから闘うことしか考えてない。

――そうだけどさ（笑）。やっぱりもっといっぱいお客さんが入って、たくさんの人に見てもらいたいっていう願望はあるでしょ？

星野　それはある。でもね、スマックガールを見てもらいたいっていうか、女子総合格闘技を見てもらいたいんさ。女子の総合格闘技をもっとメジャーにっていうか、みんなも、やればいいと思うし。

――私を見てっていうより女子の総合が盛り上がって欲しいと？

星野　やっぱ半々やなぁ（笑）。自分も見て欲しいけど……女子総合かなぁ……いやいやいや（笑）。一般人でも、そこら辺のおじいさん、おばあさんにも見てもらいたい。初めて見て「うわっ」って目塞がれても、それがマァ☆ティンの本気やから。それが素のマァ☆ティンなん

星野育時

もっともっと強くなって、マァ☆ティンは最強になりたい〜い！ ムキーッ!!

さ。それを見て欲しい。闘うって楽しい!! あぁ、早く闘いたいッ！

—マァ☆ティンは、リングに上がれば怖いモノはないでしょ？

星野 負けず嫌いやから、そう思わんようにしてる部分もあるかもしれんけど、やっぱ基本的には何も怖くないような気がする。「怖い！」って思っても、そう思ったらまず向かっていくんさ。先に潰して先に殴っておいたら怖くないやん。先手必勝！ やられる前にやれ!!

—やっちゃって下さい（笑）。

星野 でもな、そこで自分をどれだけ奮い立たせるっていうか、いかに自分に勝ちたいと思うかなんさ。そこで「もうええわ」とか「もうしんどいわ」って思ったら、絶対向かっていくっていうことができへんと思うんね。やっぱ誰かに勝つっていうのは嬉しいし、自分にも勝ちたいんさ。そんで哺乳類に勝ちたい！

—エッ、哺乳類？

星野 （真顔で）ここだけの話やけど、マァ☆ティンたぶんねぇ、両生類やと思うんさ。

—両生類だったんだ（笑）。

星野 昔は爬虫類かなって思ってたん。ちょっとトカゲとかヘビ系やんか、顔とかも。カエルとかさ、トカゲとかさ、ヤモリとかイモリとかそういう系やと思う。んでね、マァ☆ティンはサメが好きなん。

—サメを見たらムラムラするって言ってたよね（笑）。

星野 うん。ムラムラしてくる（笑）。あとね、マァ☆ティン、お金持ちになったらピラニア買うん。で、肉あげて「グワァ〜」って食う獰猛な奴を買いたい。そんで、よう考えたら、やっぱり水のモノが好きなん。この間、海に入ったら海に帰りたくなったし。

—海の中の方がしっくりきた？

星野 やっぱり、なんか海やなと。なんか懐かしい感じがすんねん。あのしょっぱさが懐かしい（笑）。

—そうなんだ（笑）。

星野 そうなん。でもな、みんな最強に向かって歩き出したらマァ☆ティンはダッシュせなあかんからね。今のうちに柔軟して準備運動してダッシュできる身体作らなあかん。むしろフライングしてやるぐらいでいないとあかんな。

—そういえば、7月の試合後に「人間みんなと闘いたい！」っていう衝撃発言が飛び出したけど。

星野 それが本音やから。けど、三日ぐらい前に気づいたなぁ。その辺歩いてる人はみんな強いと思うよ。それを出すか出さんか、出せるか出せんかやと思うな。やっぱり出したいって気持ちがなかったら出えへんやんか？ マァ☆ティンは出したいって気持ちが人7倍ぐらいあるから出るんであって…出てるかわからんけどな（笑）。

—大丈夫、出てる出てる（笑）。

星野 でもマァ☆ティン、ホント強くなりたい！ 暇あったりとかね、うっかり気を許せば「強くなりたい！」って言ってるんさ。

—うっかりマァ☆ティン（笑）。

星野 うん。寝起きでも、伸びしながら「いやぁ〜、強くなりたい！」ってな（笑）。

—「最強最強」って言ってるけど、マァ☆ティンにとっての最強ってどういう定義なの？

星野 あのね、マァ☆ティンにとっての最強っていうのは闘う気持ちを持ち続けること。持ち続ける試合をすること……（凄い勢いで頭を掻きむしり）ようわからん！（急に泣きそうな顔になり）でも、マァ☆ティン最強になりたいんさ。

—予定としては、何年後に最強になるつもり？

星野 わかんないな。だってマァ☆ティン、一生現役やもん。

—生涯現役なんだ（笑）。

星野 90歳に最強になってるかもしれんし、20歳になって死んでしまうかもわからんし。でも近いうちに最強になることはまずないな。それだけは言える。でも、それに向かって走り続ける。

—最強を目指すにあたって、今は誰かライバルはいるの？

星野 （真顔で）女子格闘家で？ それとも全人類？

—全人類でお願いします（笑）。

星野 全人類のライバルは……星野育時！（キッパリ）。これもここだけの話なんやけどな、マァ☆ティンたぶん、今世界で一番熱いよ！ 悪いけど（笑）。

—そんな気がするよ（笑）。

星野 おそらく一番熱いやろな！ そんでね、マァ☆ティンはいつか絶対最強になるから、みんなもマァ☆ティンの最強列車に乗ってもらいたんさ。むきぃ〜！

SMACK GIRL!
渋谷系女子格闘技

"力道山を刺した男の娘"
"ストリートファイト無敗"
"現役キャバクラ嬢""太●●アとつきあっていた女"

様々な肩書きと刺青を背にスマックガールで衝撃のデビュー

その名は……

篠原光

[チーム南部]

「初めて手加減なしで相手を蹴れた(笑)やっぱガチンコは最高!」

聞き手&撮影/松澤チョロ
designed by hisa (Two Three)

まさに女スタン・ハンセン！ ブレーキの壊れたダンプカーのごとく、殴る・蹴る・最後は首を絞めての一本勝ち！ 嵐のように過ぎ去った篠原光のデビュー戦！

「デビュー戦は試合じゃなくて喧嘩だったなと（笑）」

喧嘩にすぎなかったというデビュー戦。さすがは〝東京喧嘩娘〟。本人的には、このキャッチフレーズはどう思っているのか？

「う〜ん、まぁ否定はできないわけですよね（苦笑）。やっぱり、実際してたわけだから。でもね、私、あんな安いギャラで働いたこと、今までなかったよぉ（笑）」

組長の娘、そして現役キャバクラ嬢の篠原にとって、アマチュアのファイトマネーなんて、はした金にすぎないのかもしれない。

「でもね、こないだ試合をして、もらったお金は宝物なんですよ。闘って初めてもらったお金だから、手付けないでしまってある」

数え切れないほどのストリートファイトを繰り広げてきた篠原も、さすがに人を殴って金がもらえたのは初めての経験だという。

「でも、喧嘩だとやっぱり手加減しなきゃいけないんで、初めて思いきり蹴れた！（笑）。今までは喧嘩しても『やめろやめろ！』とか、止められることが多かったけど、リングの上ではやりたい放題出来るし（笑）。私、タイマンで馬乗りになったら一応聞いてあげるんですよ。『これから喧嘩する？ しない？』って（笑）。だって頭掴んで『ゴンッ！』ってやったら死んじゃうわけでしょ？ それは可哀相じゃん。でもね、大抵『やんのかコラーッ！』って言うと、男の人も黙っちゃう（笑）」

怖ッ！ こんな女とだけは絶対喧嘩はしたくない。そんな篠原が一番悪さをしていたのはいつ頃だったのだろう？

「やっぱ、13〜15（歳）くらいかな？ 毎日年上に呼ばれて『テメエ、スカートが長ぇ！』とか因縁つけられて。まず、その女と喧嘩して、女をやっちゃうと今度はその彼氏とか、くだらないのが出てくるわけですよ（笑）」

女だけではなく、その彼氏や、それこそヤクザもん相手に喧嘩三昧の日々を過ごしていた篠原。

〝喧嘩五百戦無敗〟のハイアンではないが、篠原にも〝ストリートファイト無敗〟という肩書きがある。はたして、それは真実なのかどうか、真相を確かめてみた。

「数えたことないけど、負けたことはないです！（キッパリ）」

ほ、本当だった！

「でも、もう16くらいから喧嘩はしてない。ただ痴漢とかにあった時とか凄いですよ。もうボッコボコ（笑）。ヒールの高いミュールでパコ〜ンって殴ったら頭バックリ切っちゃって、血ダラダラ流れてたこともある（笑）」

怖ッ！ 皆さん、街でナイスバディな篠原を見かけてムラムラきても触っちゃいけません！（笑）。まあ、女友達にとっては、これほど心強い用心棒はいないだろう。

「でもこないだ、スマックにも出てた、ある一人がウチに泊まったんですけど、そしたら『光ちゃん、寂しいよぉ、側に来て寝てくれ』って胸を触ろうとするわけですよ。さすがの私も怖かった（笑）」

ギョ！ 女子プロ界では、よく噂になるレ●話だが、格闘技界にも、その波は訪れているようだ（笑）。

話は脱線したが、女子プロ界では「酒・タバコ・男」禁止という三禁が有名。三禁とはほど遠い生活をしていたと思われる（失礼！）篠原にその辺をぶつけてみた。

篠原光

（しのはら・ひかる）本名・秘密。昭和53年10月9日、東京都出身。★身長170cm、体重65kg★血液型O型★足のサイズ24cm★B100cm・W70cm・H98cm★得意技・ガチコンキック（顔面へのヒザ蹴り）★スポーツ歴・3歳〜10歳ぐらいまでモダンバレー★愛読書・『ｔａｒｚａｎ』『ＢＵＲＳＴ』★好きな映画・戦争モノ「バババババッって撃ち合いのヤツとか大好き。戦争になったら絶対私が行くみたいな（笑）」★特技・「やっぱり喧嘩かな。あと歌はチョコチョコうまいって言われる。一応、前にミュージシャンのＦＦさんにも『光、うまいねぇ』って言われたぐらい。それと人に言えない特技はある（小声で）シモ系なんですけど（笑）」★好きなタレント・「電撃ネットワーク。日本だけじゃなく世界で通用してるから」★好きな言葉・切磋琢磨 ★尊敬する人「尊敬じゃないけど松田聖子は生き方的に凄いなと思う。自由に生きてるなって」

ストリートファイト？ 数えたことないけど、負けたことはないです！

「タバコはねぇ、中1から。それで初めて吸ったのはセブンスター。おきまり約束、みたいな（笑）」

期待通りの答えが返ってきた。そんな篠原にしてみればシンナーなんて朝飯前だったに違いない。

「吸ってた吸ってた！（笑）。隣の子がペンキ屋の娘だったんで（笑）。シンナーは15（歳）くらいでやめたと思うけど、お酒は16（歳）くらいからちょこちょこ。ヤンキーやめてから酒に走りましたね（笑）」

見事な不良少女っぷりを見せる篠原だが、ヤンキーをやめるきっかけは何かあったのだろうか？

「六本木の『マハラジャ』の黒服がカッコ良かったわけですよ（笑）。『もうヤンキーなんてやってらんねぇ！ 黒のワンレンでしょ』みたいな（笑）」

酒・タバコと来たら、次に気になるのは当然男だ。やっぱり初体験も相当早かったんだろうな。

「周りの人よりは、ちょっと早かったかな（笑）。でも、体験人数は少ないですよ。一桁！ これは嘘偽りなし（キッパリ）。回数は多いかもしれないけど（笑）」

意外な感じもするが篠原は異性関係に対しては、かなりマジメなのだ。でも、これだけ悪さをしてりゃ、警察のお世話になったことも一回や二回じゃ済まないはず。

「そうそう（笑）。無免許とか傷害、あと劇物取締法違反、器物破損とかもあったし、家出とか、学校行かないこともなんかの罪になるんですよ。それで14（歳）の時、鑑別所行き（笑）。でも、鑑別所に入れない年だったんで施設に行かされたり。そういうとこ行くと、点呼とかあって、今でも点呼っていう言葉大嫌いなんですよ。あと、ああいう所のみそ汁なんて飲めたもんじゃない。味噌の味なんかしない。カツオだしの味だけ（笑）」

凄ぇ！ かなりのワルだった篠原がプロレス&格闘技に興味を持ったのはいつ頃なのか？

「興味を持ったのは、やっぱりＴＫ（※高阪剛ではない）と知り合ってから（笑）。仙台に住んでた頃、プロレスのプロモーターの知り合いがいて、その人に、よく『プロレス見に行こう』って誘われてて、いつもバックれてたんだけど『一回ぐらい行ってみるか』って行ったら、『アイツ、カッコいいじゃん！』って（笑）」

一部の新聞&週刊誌等ですでに

SMACK GIRL!
渋谷系女子格闘技

私がガチコ〜ン！ってマット界を引っかき回してやりますよ！

何度か紹介されているが、篠原はTKと付き合っていたのだ。まさにBATTな女である。

「プロモーターの人が『みんなでご飯食べに行こう』って言ったらKがニコニコしちゃって『ハ〜イ』みたいな（笑）。それで、ちょっと飲んで『あたし、帰る』って言ったら、『ちょっとだけいいですか？ ホント何にもしないから』って（笑）。で、メールアドレスと電話番号教えたら、すぐに『M（本名）デース！』って、そんな感じで（笑）。それで遊んでるうちに付き合おうってなって」

2人の交際が表に出ると、TKファンから篠原に対して冷たい視線が浴びさせられたという。

「たまたま知り合って付き合っただけで、狙って付き合ったわけじゃないから。ホントに愛し合ってたんで、凄い悩んだりもした」

その後、新宿プロレスでプロレスデビューに向け特訓を積み始めた篠原だったが、TKは、なんとかやめるよう説得したという。

「『危ないからホントにやめてくれ！』って泣かれたんだけど（笑）、私も一回やるって決めたら引くに引けないし、途中で挫折するのは嫌なんで、いっぱい愛してたけど別れることになって。まあ、それだけが理由じゃないけどね……」

そんなこんながありながらも、プロレス特訓を続けていた篠原だったが、5月に行われたReMixを見て、昔の血が騒いだのか、プロレスよりも総合格闘技に惹かれはじめていった。そして「チーム南部」として篠原を応援している電撃ネットワークの南部虎弾氏とともに桜庭あつこへの挑戦を新聞紙上でブチ上げたのだった。

「正直、桜庭あつことはやりたくなかった。あれは大人が考えたことで、私が考えたことじゃないから（笑）。で、ReMixの時に篠（泰樹）さんに名刺貰ったんで、しばらくして『スマックに出たいんですけど』って電話したわけですよ。5月のスマックを見に行って、これだったら私もできるかなっていうのもあったし」

今のスマックガールの試合レベルなら、喧嘩無敗の篠原が「自分もやれる」と思っても不思議ではない。そんな篠原の目に強烈に焼き付いた女子格闘家がいた。マァ☆ティンこと星野育蒔である。

「マァ☆ティンは「そこだ、いけッ！」っていう時に絶対蹴りかパンチかしてくれるじゃん。この人は凄いと思った。あとはどんな人が出てたかも、あんまり覚えてないけど。あ、でも、エリン何とかと、グンダレンコは覚えてる。でもマァ☆ティン以外は日本人選手ってとろいなぁって思って。コーナーもってかれたら、何もできないでしょ。それ見てイライラしちゃったわけですよ。それで、篠さんに『アマチュアから一歩ずつやりたい』ってお願いしたら『それならいいよ』ってデビューが決まったの（笑）」

現在　2年前

さあ、あなたはどちらの女の子がタイプでしょう？ っていうか、右も左も篠原光なんです！ 右の写真は、約2年前、六本木のキャバクラに時給4500円でスカウトされた頃。その後も時給は順調にアップしていったというが、格闘技デビューが決まりウェートアップに励んでいると、時給の方は反比例して下降気味だという（笑）。左は、先頃のスマックガールでデビュー戦を勝利で飾りポーズを決める篠原。人間、変われば変わるものだ。

デビュー戦での豪快な勝ちっぷりと、その恵まれすぎた肉体を持ってすれば、即プロでも通用するだろうが、あと何戦かはアマルールで経験を積みたいと言う篠原。

「プロでやるまでは勝つしかない。やっぱ勝たないとつまんないじゃん。それに私は痛いの嫌いだから、やられる前にやんないと（笑）。痛いのはホント嫌い！」

まあ、誰だってやられるのは嫌だとは思うが、「殺られる前に殺れ！」という喧嘩魂を持って女子格闘技界の唯一無二のヒールとして暴れ回ってもらいたいものだ。

最後に、格闘家・篠原光の究極の目標とは何なのか聞いてみた。

「やっぱ、グンダレンコとやりたい！ デカイし強そうだなって。掴まらないように逃げ切れるかって、そのスリルが面白そう（笑）」

対戦希望としてグンダレンコの名前を挙げるあたりは、実に篠原らしい。しかも「スリルが面白そう」なんて言ってるくらいだから、相当自信もあるのだろう。

「いやいや、今はまだまだですけど、私はグンダレンコの、あのふてくされた顔が凄い好きなんですよ。後ろから飛びついて首でも絞めたろかい！ みたいな（笑）」

篠原のもう一つの顔、キャバ嬢は今後も続けていくのだろうか？

「もう行かないかもしんない（笑）。もっと練習して強くなんないと、周りの人とか期待してくれてる人になんか申し訳ないし、自分で後悔したくないんで。あと、お父さんが力道山を刺しちゃったっていうのは消えないから……まぁお父さんも、その後刺されちゃったけど（笑）、やっぱり世の中の人達とかマット界に恩返ししたいっていうか、何か面白くしていきたいなって思うし。とにかく、私がガチコ〜ン！ってマット界を引っかき回してやりますよ！（笑）」

先頃"女暴走戦士"モンスター・リッパーが亡くなってしまったが、21世紀のマット界はこの女が暴走すること間違いなし。"東京喧嘩娘"篠原光に注目せよ!!

堀辺正史

ッード講座夏休み課外授業

けの(?)対談

青春の
大発見シリーズ
［特別編］

聞き手／堀江ガンツ
撮影／松本崇
designed by hisa (Two Three)

——先生、恒例の"ド素人のための活字バーリ・トゥード講座"の時間がやってまいりました！　……と言いたいところなんですけど、今日はド素人ではなく、玄人の方がお見えなんですよ（笑）。

藪下　よろしくお願いしまぁ〜す（笑）。

堀辺　はい、今日は"ド玄人"ですね（笑）。

——ド玄人！（笑）。というわけで、今日はド玄人の両先生に女子総合格闘技の素晴らしさを語っていただきたいと思います。では、まず堀辺先生、女子格闘技の魅力をズバリお願いします！

堀辺　実は私も女子格闘技は、よく分かんないんですけどね（笑）。

——ズコッ！　専門外でしたか（笑）。

堀辺　でも藪下選手の魅力はいろいろ見えましたから、彼女の魅力について語りましょう！　まず藪下さんを最初に知ったきっかけっていうのは、『紙プロ』の山口編集長に「凄く面白かった試合がありますから、ぜひ見てください」って言われてビデオを借りて見たんですよ。それがグンダレンコとやった試合ね（H12・12・4『ReMix』日本武道館）。いやぁ、ホントにビックリしましたよ！

藪下　いえいえ、そんなぁ（笑）。

堀辺　まずなんと言っても凄い楽しそうに闘ってるでしょ。あんな風に闘うのはちょっと珍しいよね（笑）。

藪下　も〜う、凄い楽しかったんですよぉ。

堀辺　あれは格闘技の常識を覆しましたよ！　普通、総合格闘技の試合に出るなんていったら、決死の覚悟の向かっていくわけだけど、笑いながら闘ってるんだもんね（笑）。

——悲壮感ゼロ（笑）。

堀辺　しかもあんなに体重差があってね。ホントにね、ゾウの周りにネコがジャレ込む感じで（笑）。

——最強の"キャットファイター"ですね（笑）。

堀辺　あのとき体重差はどのくらいあったの？

藪下　自分はあの時50キロだったんですけど、グンダレンコは150キロぐらいあったみたいですね。

堀辺　100キロ多いんだ！　そんな試合、普通ありえないよね（笑）。

藪下　そうですね、だから凄い嬉しかったんです（笑）。

藪下めぐみ

活字バーリトゥード 試

命懸けの

女子格闘技の面白さ教えます

堀辺　100キロ差が嬉しい⁉ 普通は悲しくなるんだけどね（笑）。やっぱり大きい人とやって勝ちたいっていうのは夢としてあるのかな？

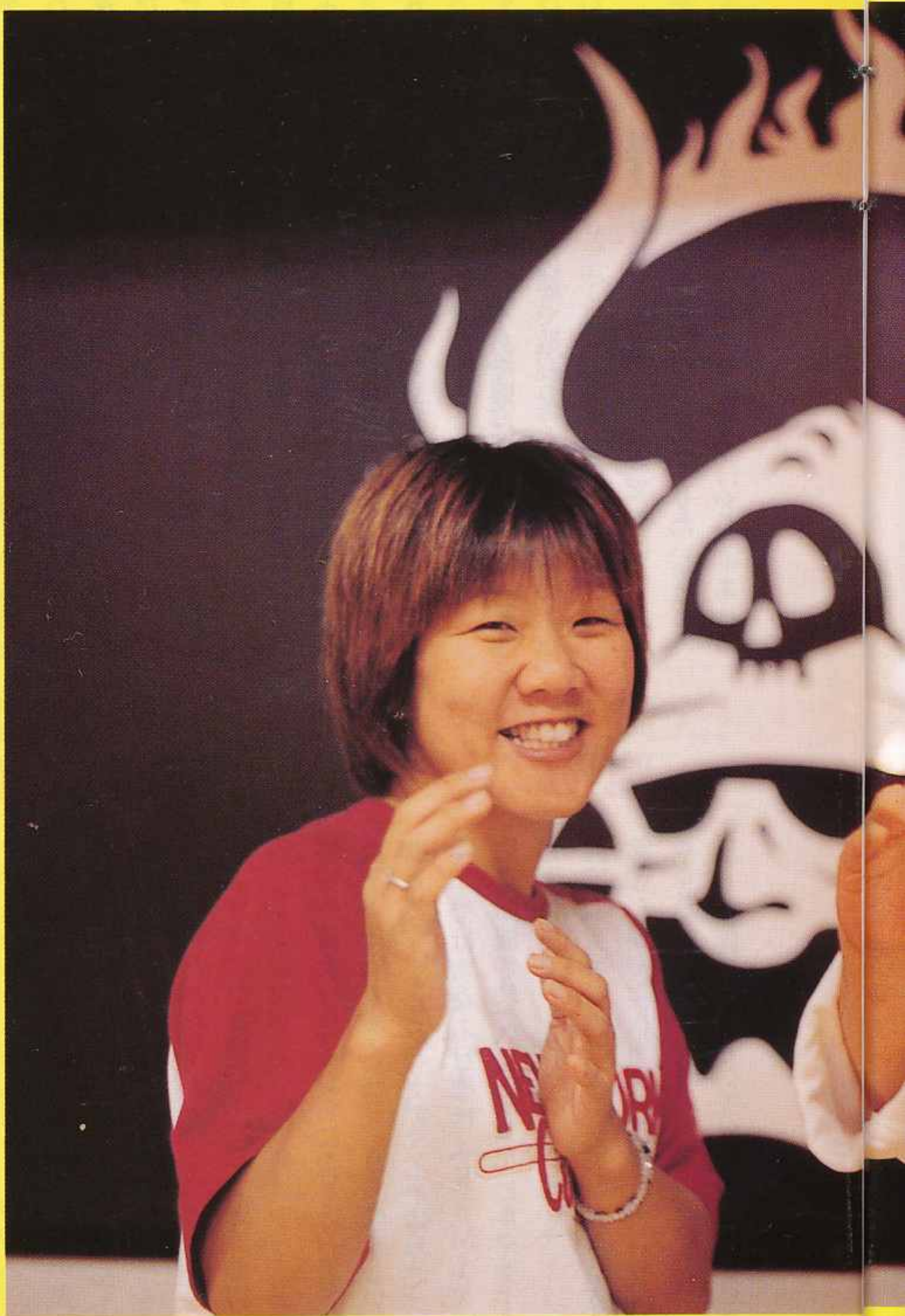
藪下　勝ちたいってより、自分は昔柔道をやってて、同じ階級選手とずっと闘ってたんですよ。基本的に違う階級の選手と闘うのは総合でしか出来ないじゃないですか。だから体が大きい人とやること自体が凄い嬉しかったんですよぉ。

堀辺　でも男だったら普通文句言いますよ、そんな100キロも違ったら。だから『紙プロ』のインタビューで「藪下選手があれだけやってるんだから、男のレスラーも頑張れよ」みたいなことを言ったんですよ。

——先生、「頑張れよ」どころじゃなかった気がするんですけど（笑）。

堀辺　あ、もっとヒドイこと言ってたね（笑）。

——確か「キン○マ付いてんのか、この野郎ッ！」ぐらい言ってました（笑）。

藪下　キャハハハ！　そんなことを～（笑）。

堀辺　それぐらいビックリしたんですよォォォ！　しかも戦法が良かったよね。とにかく相手が嫌がるところに攻めるわけだから。グンダレンコみたいな大きい人は、ヒザから下を攻められると弱いんですよ。

藪下　攻めてた本人は、何も考えてなかったんですけど（笑）。

堀辺　考えてなくても本能的に出来るんだから凄いよ。それと柔道着を着て入場してきたでしょ。昔の競技化される前の柔道家が、総合で試合をしたらこんな感じだったのかなと思ったよね。「柳に風」って感じで。あの相手の力をまともに受けないで、それを流しながら闘うというのは〝柔〟の極地ですよォォ！

藪下　でも私、試合内容は覚えてないんです（笑）。「楽しかった～」っていうことしか覚えてなくて。

——楽しかっただけですか（笑）。

堀辺　ハッキリ言って、あの試合は歴史に残りますよォォ！　なぜかといったら、女子格闘技のイメージが、あの試合でガラッと変わったから！

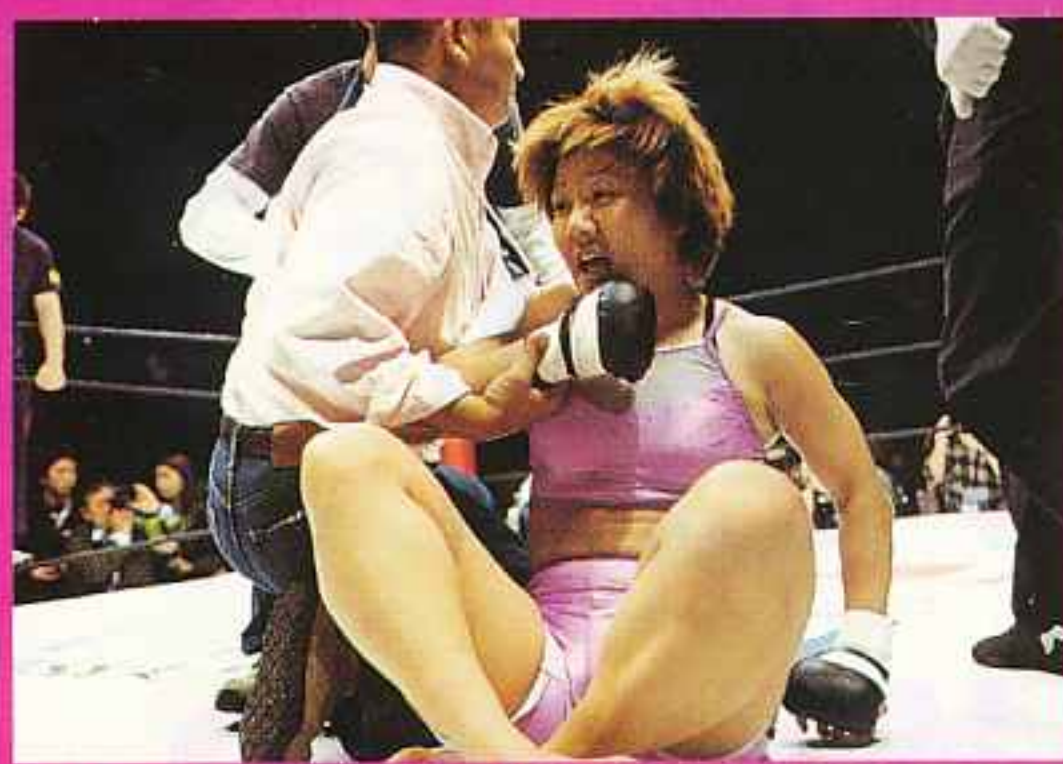
藪下　また～、そんな（笑）。

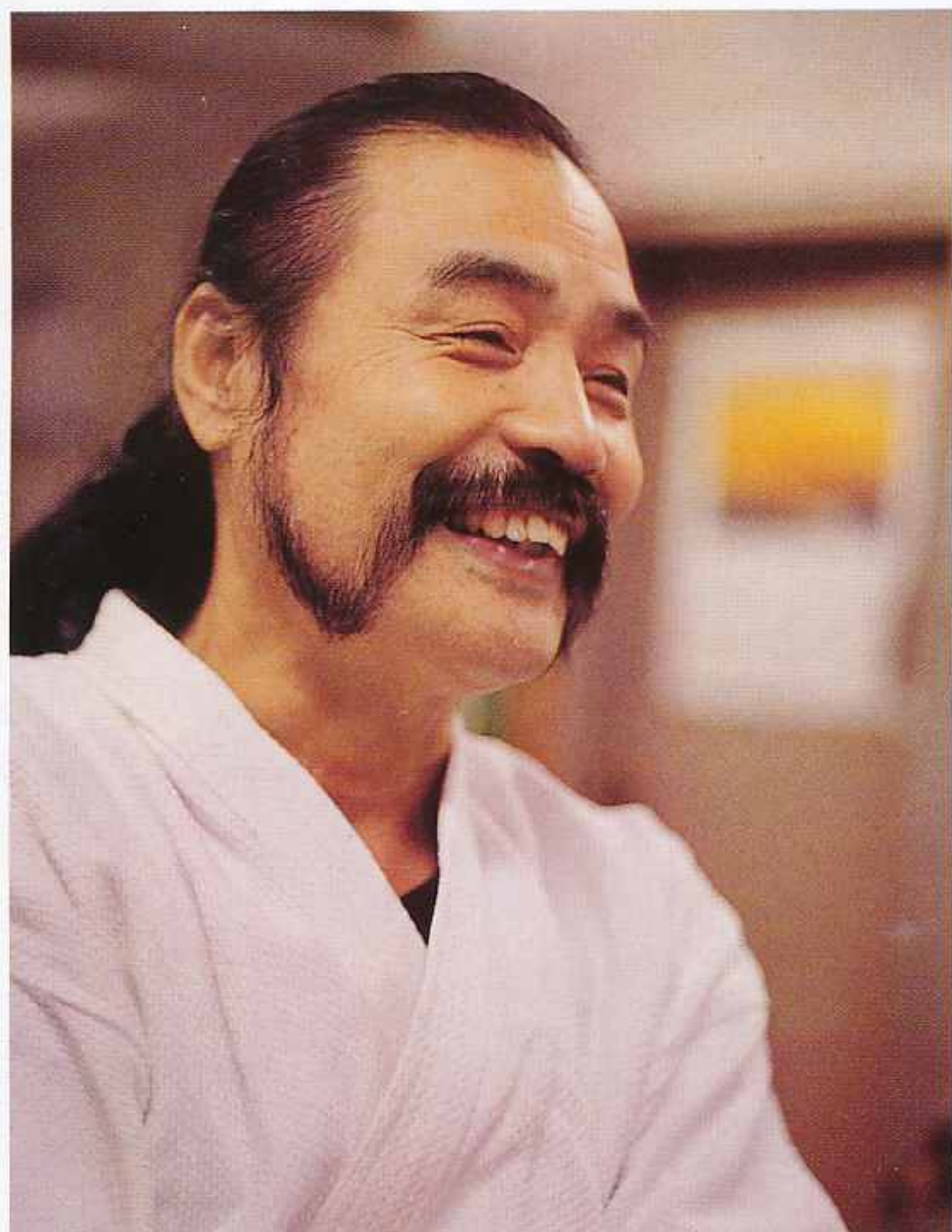
堀辺　ホントそうだと思う！　これは本人を前にしてるから言うんじゃなくて、あの試合は女子格闘技のイメージを変えたと

思う！　今まではちょっと色物的に見られたところがあるよね。それを覆したんだから、これは凄いですよォォ！
藪下　ありがとうございます（笑）。
堀辺　だからちょっと違うかもしれないけども、男の桜庭選手と通ずるところがあるよね。やっぱり体が大きい選手を翻弄する姿は観ていて楽しいし、普通体重差があると小さい方が萎縮して闘ってるように見えたりするんだけど、それを感じさせないわけだから。それは体の小さい人達を元気にさせてくれるよね。だから藪下選手みたいなキャラの選手がいれば、日本人が元気になると思うんですよぉ！
藪下　ありがとうございます（笑）。
――藪下選手みたいな人がいると女子総合をやりたいって人が増えてきますよね。
堀辺　そうそう。あの姿を見たら、やってみたくなりますよ！
――いまはスマックガールという女子総合格闘技もありますしね。先生はスマックガールはビデオで見られてるんですよね。
堀辺　見ました！　いやぁ凄いね。女の人同士であんだけのことやってるわけだからちょっと前までは考えもしませんでしたよ。いやぁ、凄い時代になったなと。
藪下　スマックガールは観ていて面白いですよね。わたしもお客さんと同じように「頑張れーッ！」って応援してます。あと、お客さんの雰囲気がいいですよね。みんなで盛り上がってて。
堀辺　場所がちょうどいい感じがするよね。ワイワイガヤガヤ近くで観るのには。ウチもあそこでやろうかなあと思って（笑）。
――「クラブ骨法」ですか！（笑）。
藪下　キャハハハハ！　面白そうですね！
――渋谷のクラブで和太鼓鳴らして武道の試合、素晴らしいです（笑）。藪下選手はスマックガールに出てみたいとかは思いませんか？
藪下　いまのところスマックガールはあんまりないですね。自分はReMiXに出たのも賞金に目がくらんだっていうのもあったんで。お金目当てでやった嫌な奴なんです（笑）。
――いまはまだ、次に総合の試合に出る予定とかはないんですか？
藪下　まだないですね、いまはプロレスに必死なんで。というか、なかなか総合の試合はないんですよね。私はガイジンさんとやりたいんで、ReMiXをやってもらわないと（笑）。
堀辺　それじゃあ今度は、（第1回『ReMiX』決勝で敗れた）クーネンに勝ちたいね。
藪下　クーネンもそうなんですけど、（エリン・）トーヒルともまたやりたいなって。クーネンも強かったんですけど、トーヒルの方が強いと思うんですよ。パワーが違うんで。
堀辺　トーヒルの立ち技が怖いんじゃないの？
藪下　凄い怖かったです。リーチが妙に長いんですよ！　何でこんなところからパンチが伸びて来るんだろうと思って。ああ〜、ヤダヤダって（笑）。
――でももう一回やりたいんですよね？
藪下　勝つまで何度でもやりたいですね！
――その辺は格闘家の魂が見えますねぇ。先日の伊藤薫vsトーヒル（7・27全女・代々木第2）は観に行かれたんですよね？

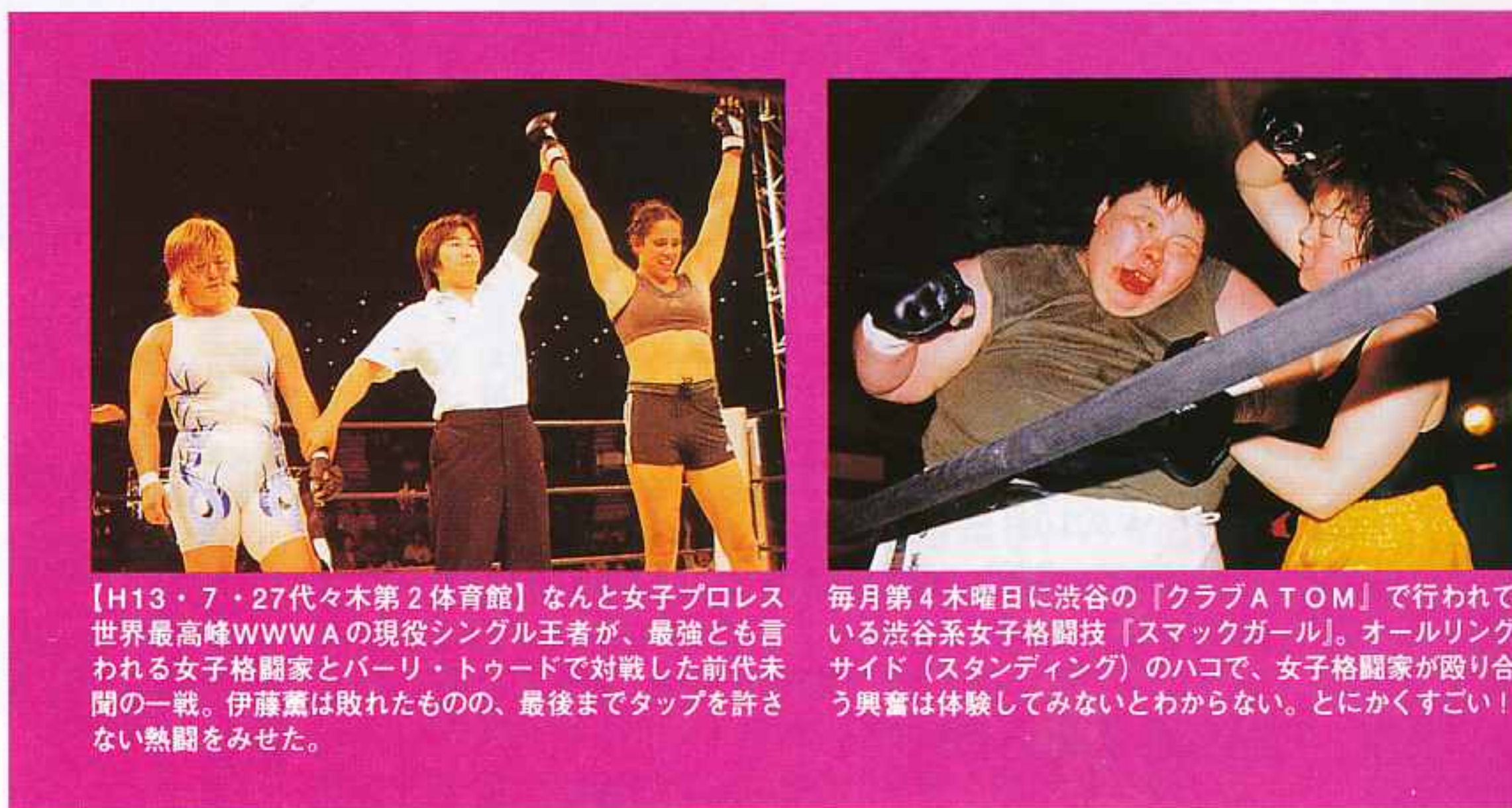
次は大っきな空手家とやりたい
蹴りの下を潜りたいんですよぉ(笑)（藪下）

藪下　はい。会場でトーヒルに英語で挨拶されたんですけど、全然わかんなくて笑ってごまかしました（笑）。
――笑ってごまかした（笑）。あの試合で打倒トーヒルの糸口は見えましたか？
藪下　全然！
――ワハハハハ！
藪下　「カッコいい〜」って思って観てました！（笑）。
堀辺　彼女は見るからに強そうだもんね。
藪下　そうですよねぇ。うらやましいって思っちゃいました。マア、イイ体って（笑）。
――では次なる目標は『ReMiX』が早く開催されて、打倒トーヒル、クーネンですね。
藪下　空手やってるロシアの大きいガイジンさんもいたじゃないですか。あの人ともやりたいんですよぉ。
――身長2メートルのアンナ・コピリーナ！
藪下　あの回し蹴りは凄いですよね！「ビューン」って！　あれ見て「ああ、あの蹴りの下を潜りたい！」って（笑）。
――ガハハハ！蹴りを潜りたい（笑）。どうですか、先生。こういう格闘家は！
堀辺　いやあ、楽しいってのはいいことだよ（笑）。
藪下　すいません、こんなヤツで（笑）。
堀辺　これからは明るい試合の時代だよね。桜庭選手も明るい試合じゃない。
――ということは藪下選手は時代にマッチした選手なんですね。
藪下　本人は全然分かってないんですけど

【H12・12・4日本武道館】女子総合格闘技の革命記念日と、一部では呼ぶ向きもある第1回『ReMix』。このトーナメントで藪下は準決勝で、グンダレンコと激突。100キロの体重差を跳ね返した勝利に武道館が揺れた。

【H13・5・3代々木第2体育館】第2回を迎えた『ReMix』はトーナメントからワンマッチ形式に変更。ここで藪下は、女子最強の呼び声も高い、エリン・トーヒルと対戦。しかし打撃と体格差に苦しみ、アンダーからの十字で一本負けを喫した。

ね（笑）。
——藪下さんはいま、総合の方の練習はやってるんですか？
藪下　チョコチョコとは行くようにはしてるんですけど。プロレスの練習が終わってから総合の練習に行くんで、帰ってくるのが夜中の2時とかになって凄く疲れるんですよ。そしてまた朝10時からプロレスの練習をしなくちゃいけないんで、体がもたないやって。
堀辺　プロレスは仕事だから大変だよね。
藪下　でも「打撃もそろそろ覚えないといけないかなあ」って自分なりにちょっと反省して、練習に行くだけは行ってるんですけど、最近結構オサボリなんです（笑）。
——どこで練習してるんですか？
藪下　三原塾というところです。今度、三原塾の選手が二人スマックガールに出るんですよ。結構、総合をやりたい人っているんですよね。だからスマックガールは伸びるんじゃないですか？
堀辺　地道にやっていけばファンはどんどん増えていくよね。
藪下　やる人もプロレスより、格闘技の方が気軽で出来そうっていうイメージがある気がするんですよ。
堀辺　それはあるよね。プロレスの方がデビューするまでが大変で、イジメがあって夜逃げしちゃう話なんかが入ったりして、大変なイメージがあるから。
藪下　実際はそんなことないんですけど、悪い話は多いですよね。しかもプロレスって最近の技とかも過激じゃないですか。
堀辺　たまに雑誌とかで見るけど凄いことやってるなあって思うよ。一度あういうのやりだしたらもう止まらないんじゃないかな。そういう意味で総合は逆の方向に戻すって点でいいかもしれない。プロレスがちょっとそういう方向に走りすぎてるから。
藪下　プロレスもやれば楽しいんですけどね。でも一から受け身を勉強して体を作っていくわけだし、危なくはないとは思うんですけどね。でも格闘技の方はセンスがあればすぐにでも出来ますからね。
——このあいだスマックガールに出たレースクイーンなんて、ボクササイズしかやってないらしいですからね（笑）。
堀辺　あのクラスが面白いのは本能だけで闘ってるのが面白いよね。
藪下　気持ちですよね。だから若い選手がいっぱい出てくれれば、もっと面白くなってきますよね。星野（育蒔）とか凄いいいじゃないですか。あの子たちが引っ張っていけばいいんですよ。若いから選手生命も長いし、星野とかに憧れて入ってくる子も出てくると思うし。あと渋谷系の子ってカワイイ子ばっかじゃないですか、体は細いですけど。あういう子がいれば男の子も観に来ると思うし、女の子もやってみようと思うから。

藪下さんは女子格闘技のイメージを変えた！ これは凄いことです！（堀辺）

堀辺　結局男の世界だってそうだからね。顔が良くて強いヤツが人気があるもんね。
藪下　J'dって昔は「ビューティー・アスリート」っていうロゴがハイってたんですけど、いまは「J'dスター」に変わってるんですよ。だ〜れもキレイな人がいなくなりましたから（笑）。
——ガハハハハ！
藪下　もっと可愛い子が入ってくれればいいんですけどね。だからこれからは顔で入門させてもいいかも（笑）。
——藪下さんはリング上で可愛いから大丈夫ですよ（笑）。
藪下　わたしはリング上でしか、カワイイって言われてないんで！　いいんですけど！「2ちゃんねる」にも書かれてるんですけど知ってますか？
——ネットですか（笑）。
藪下　ハマっちゃってダメなんですよ（笑）。「見たら絶対怒るから」って言われたんですけど、面白いですね。よくもまあ、人のこと「ブス」だの「ブサイク」だの「ブタ鼻」だの、くだらないこと一生懸命書いて。人のことはいいから、お前の顔見せろって！（笑）。
——ガハハハハ！　ごもっとも（笑）。
堀辺　でもリング上でカワイイというのはいいことだよ。
藪下　そうなんですけど、「リング上でかわいい」と言われたのもグンダレンコ戦だけなんですよ（笑）。
堀辺　あの時の髪型はお下げだったよね。あのお下げがいいんですよォォ！　うさぎちゃんみたいで。
藪下　うさぎちゃんですか（笑）。
堀辺　ピョンピョンって動いている姿と凄くマッチしてる！　だから総合の試合に出るときはあの髪型でやって欲しいよね。うさぎちゃんですよォォ！
藪下　キャハハハ、わかりました！　髪が伸びなかったらお下げのズラ被って出ま〜す（笑）。

【01年8月7日／骨法武術館にて収録】

【H13・7・27代々木第2体育館】なんと女子プロレス世界最高峰WWWAの現役シングル王者が、最強とも言われる女子格闘家とバーリ・トゥードで対戦した前代未聞の一戦。伊藤薫は敗れたものの、最後までタップを許さない熱闘をみせた。

毎月第4木曜日に渋谷の『クラブATOM』で行われている渋谷系女子格闘技『スマックガール』。オールリングサイド（スタンディング）のハコで、女子格闘家が殴り合う興奮は体験してみないとわからない。とにかくすごい！

藪下めぐみ 骨法整体の奥義を体験!!

わずか20分でO脚が直りバスト・ヒップアップが実現!!

インタビュー終了後、「身体診てあげるよ」ということで、なぜか始まった藪下めぐみの整体でO脚を治そう企画。「うそ〜」「ホントだ〜」「すご〜い!」と大はしゃぎ(大騒ぎ)する藪下のおかげで、対談以上に盛り上がったのでありました。

インタビュー終了後、道場まで来てくれた藪下さんのために、藪下の身体の調子をチェック。すると、「藪下さんはO脚だね」「そうなんですよぉ」「じゃ、すぐ治しちゃおう」と急遽、藪下O脚矯正開始!

インタビュー当日はちょうど整体治療日だったため、そくその場で治療開始。それからわずか20分弱、「ハイ、さっきと全然違うハズだよ」と堀辺先生。

見事に矯正された藪下のO脚。「ホントになおってる〜、O脚ってなおらないと思ってたのにぃ」と大はしゃぎの藪下。

そして目指すはラウンドガール?

最後は共に交流がある、ビクトル古賀先生の話などで盛り上がり、すっかりうち解けた、お二人。藪下は「またよろしくお願いしま〜す」とちゃっかりお願い。

さらに堀辺先生は、「ついでにバストアップとヒップアップもしといたから」とアッサリ。整体はそんなこともできるのか!

いつもの「ド素人講座」とは、まったく違うものの、盛り上がり方を見せた、今回の堀辺師範&藪下めぐみ対談。

対談終了後も雑談に花がさいたわけだが、そんな中で、「わたしO脚なんですよ〜」という藪下に対して、「あっそ、O脚なんてすぐなおるから、いますぐやろう」なんてことになり、突然、「藪下めぐみ骨法整体体験コーナー」がスタートすることとなった。

横になった藪下の背中をなにやら押したり、足を曲げたりする堀辺先生。そんなことをものの10分ちょっとやったところで、アッサリ「ハイ、なおりました」の声。

藪下は立ち上がり、足を揃えてみると、確かにさっきはヒザとヒザの間に3本指が入ったのにいまは2本入るかどうかの状態。

「うそ〜、ホントになおってる〜」と藪下も大騒ぎ。

さらに堀辺先生はO脚だけにとどまらず、バストアップとヒップアップの整体もいつの間にか施していたことが発覚!

藪下が次にリングに上がるときには、その体型に注目だ!

そして、すっかり気をよくした藪下は、「次の『ReMix』はラウンドガールで出る!」と宣言!

いいかげんにしろっちゅーねん!(藪下風)

骨法整体セミナー 10月生募集中

日本武道傳骨法會では、ただいま「骨法整体セミナー」の10月生を募集中。詳しいことは下記にお問い合わせ下さい。

TEL.03-3362-0010

徹底検証 W★ING

W★ING

JASON THE TERRIBLE

MISTER POGO

MITSUHIRO MATSUNAGA

FREDDIE CROUGER

LEATHER FACE

THE DEATHMATCH LEGEND

W★ING

www.wingpro.com

遂に明かされる“史上最狂の暴走団体”W★INGの真実!

茨城清志

聞き手／イナズマ☆K　構成&撮影／チョロ　designed by matsu (Two three)

ホントにあの男が帰って来た！　良くも悪くも数々の逸話をまき散らしプロレスファンの間では伝説化されていた茨城代表。WWFにビンス、ECWにポールEのように、やっぱりW★INGには茨城清志の存在は欠かせないのだ。イバラギング・ウェアーを身にまとい我々の前に姿を表した彼に合計5時間に渡るロングインタビューを敢行。初期インディの成り立ち、海外駐在記者時代の話など、W★INGファンならずとも一読の価値あり！

インタビュー終了 ために、薮下の身 さんはO脚だね」 ちゃおう」と急遽

わずか

骨 薮

——まずは、4年振りのW★ING復活なんですが、きっかけは？

茨城　プロレスから離れてたんで雑誌とかも読んでなくて、人づてで、金村（キンタロー）が中心になってW★INGの10周年をやるという連絡を受けたんですね。それで「一回だけで終わらせるのはもったいない」って話になって。昔の様にシリーズを組むのは難しいけど、年何回のペースでならっていう話から始まったんですよ。（突然）メキシコでレストランをやろうかって話があってねえ。

——エッ!?　レストランですか。

茨城　ええ（笑）。うまくW★INGにもろもろ結びつけられればなとは思ってるんですけど。

——どんなレストランなんですか？　和食とかタコスとか？

茨城　いやいや、コーヒーだとかハンバーガーとか軽食をね。まだ具体的にメニューは決めてないんですけど（苦笑）。

——それと、メキシコで道場をやるという話も出てますよね？

茨城　それもメキシコに行く前にW★INGの話になったんで、じゃあってことでセッティングしたんですよ。だから有明の同窓会マッチは行けなかったんですね。

——じゃあ道場の話とレストランと同時進行なんですね。

茨城　そうですね。それも闘龍門とかTAKA（みちのく）の道場もありますから、すぐに集まるとは思ってないですけどね。まあ、やっても儲からないんですよ、金銭的には（苦笑）。

——そうなんですか（笑）。で、道場では誰が教えるんですか？

茨城　一応、ソラールと、あとはグラン・アパッチェですか。闘龍門に来た時に話したら「いいよ」って。あとブルー・パンテルも。パンテルは向こうのトップクラスの選手を結構教えてるんですよ。

——へぇ～。一流講師陣が揃ってるじゃないですか。

茨城　そうなんですけど、あんまり揃ってもねえ（苦笑）。レスラー同士で方針が違いますから。6ヶ月練習させて、ある程度プロの目から見て良ければライセンス取らせて日本に来るっていうのが理想ですね。ある選手がグァムで何人かに教えてるらしいんですよ。

——グァムで！

茨城　W★INGの名前で興行やりたいって言ってるんで。一応グァムもアメリカですからね（笑）。

Kiyoshi Ibaragi

バーン・ガニアから「大入り袋」をしょっちゅうもらったりしてね

国際プロレスでのストロング小林vsバーン・ガニア戦。マスコミ時代、国際の担当だった茨城氏

——W★ING・USAですか（笑）。

茨城　ええ（笑）でも、間をとってW★INGオセアニアですか。それで日本とメキシコと三角形でやっていくと。青写真的には聞こえはいいですけど（苦笑）。

——はい（笑）。ではここら辺で、茨城さんの歴史を語ってもらいたいんですけど。謎が多いので皆さん興味があると思うので（笑）。

茨城　ワッハッハッハッ！　変な意味でね（笑）。

——元々は、ベースボールマガジン社の記者だったんですか。

茨城　その前に『ゴング』時代があって。入ってないんですけど編集部に何度か行ってたんですよ。

——そうなんですか。

茨城　実質的な仕事はなかったんですけど。それでベースボールに入って、当時の『プロレス&ボクシング』ですね。まだ日本プロレスと国際プロレスに2団体だけでしたから。日プロが末期で、自分は担当的には国際プロレスで。

——国際担当でしたか（笑）。

茨城　ええ。マスカラスが日プロに来た時、国際とバッティングして行けなかったことがあったりして（笑）。オレは剛竜馬とか藤波辰爾、あと佐藤昭雄なんかが同期ですね。それで八木（剛竜馬）とはしょっちゅう会ってました。それと今カナダにいる大剛鉄之助なんかも仲が良かったですね。

——それじゃよく飲みに行ったりしてたわけですか。

茨城　いや、オレは飲めないんですけど（笑）。国際の裏に寿司屋とかあったんでね。

——主に食べる方専門で（笑）。

茨城　そうですね（笑）。で、その当時、まだ海外がどうのって時代じゃなかったんですけど、雑誌的にもまだ見ぬ強豪というのがたくさんいて、オレはお金貯めて向こう行ったんですよ。

——凄い行動力ですね（笑）。

茨城　マイティ井上が行ってたカナダのモントリオール、あとAWAですか。（グレート）草津や浜ちゃん（アニマル浜口）に会いに行ったり。で、ロスに行った時に交通事故にあっちゃって（苦笑）。

——エッ、茨城さんがですか？

茨城　ええ（笑）。普通は高速道路って止まらないじゃないですか。前の前の車が急に止まったんですよ。そのまま120キロぐらいで「バーン！」って。それで、ケガはなかったけど1日体が動かなくてね。初めての、夢のアメリカなのに（笑）。

——あらら（笑）。で、本格的に向こうに住みだしたのは、いくつぐらいの時になるんですか？

茨城　30過ぎてからですね。『東スポ』の特派員として取材用のビザを取って。最初ベースボール辞めて何の仕事の当てもなかったんですよ。それでミネアポリスのダイクマンホテルって所にAWAの事務所があったんですけど、アパートが決まるまで、そこの事務所で寝泊まりしてたんですよ。

——AWAの事務所で、ですか？

茨城　掃除のオバちゃん来ると「おはよう」って（笑）。いろんな面でホント良くしてもらってますよね。

——AWAには世話になったと（笑）。

茨城　自分的にはNWAよりAWAの方が好きだったんで楽しかったですね。メンバーも当時凄かったし。会話はそんなにしなかったんだけど、バーン・ガニアから日本でいうところの「大入り袋」をしょっちゅうもらったりしてね。当時で、100ドルぐらいもらってましたから。

——大入り袋で2～3万円ですか！　それは凄いですね（笑）。

茨城　どっかでは200ドルぐらいもらいましたよ。当時のAWAは他の地域とはギャラが全然違いましたからね。

——当時のAWAには日本人選手は誰か来てたんですか？

茨城　自分がいた後半、（マサ）斉藤さんが来たんですよね。あの人が事件起こしたじゃないですか？　ケン・パテラがマクドナルドで騒ぎを起こしたっていう。その頃オレもいたんですよ。

——エッ、現場にいたんですか!?

（現・アルシオン

してやったんですよ。

日本ではいなかったし、アメリカ

——エッ、現場にいたんですか!?

茨城 現場にはいなかったですけど(苦笑)。あ! そういえば一時期、高野俊二がいましたね。

——ブラック・ニンジャですね。

茨城 それ以前に桜田(ケンドー・ナガサキ)がちょこっといたり、日本人じゃないですけど(キング・)ハクが来たりね。……もう忘れちゃったけど、結構日本人関係は来てましたね。

——ポーゴさんは来なかったんですか?

茨城 AWAには来てないですね。オレは45年にベースボールに入ったんですけど、新日本の旗揚げって47年頃ですよね。それで、ポーゴは(グラン)浜田と入門したんですよね。

——そうみたいですね。

茨城 それで新日本は旗揚げから見てるんですけど、ポーゴはあまり記憶にないんですよ。初めて話したのはロスのオリンピック・オーデトリアムになるのかな。昔は場所場所で出る選手も違ったし面白かったですよ。AWA、NWAがあって、シアトルやテキサス、アマリロにヒューストン、サンアントニオとかね。プエルトリコとかもしょっちゅう行ってて。

——そう考えると、海外時代駐在記者として、茨城さんは先駆け的な人だったんですね。

茨城 オレがベースボールマガジンに入った時はいなかったですね。その後に、ベースボールマガジンではモリオカさんって相撲とプロレスのフリーのライターの人が、たまにアメリカ行って特派員で全米各地の試合をリポートしたり、『ゴング』は竹内さん、

徹底検証 W★ING

100万ぐらい立て替えてるのにギャラは無しですよ

【いばらぎ・きよし】得意技：スレイマ、ジャネット、法的手段、居留守、時効、潜伏。好物：たまご。好きな人：レーガン。W★ING21プロジェクト代表。何年ぶりかに姿を現すも、イバキヨは何も変わってなくとんだ浦島太郎ぶりを発揮(歳と飯をくっただけで、外見・中身・懐・シルクのビキニパンツは以前のまま)【先日の後楽園大会パンフより】

『東スポ』の桜井さんが行ったり来たりしてという形でやってましたね。だから、まだ見ぬ強豪何々物語的みたいな『ゴング』で桜井さんが書いてたウソ八百をオレなんかは本気で読んでたんですよ(笑)。

——アハハハ!

茨城 向こうに住みついてレポートしたのはオレが初めてかもしれないなあ。

——さて、海外記者時代を経て日本に帰って来てからなんですが。

茨城 帰って来て何かしなきゃいけないということで、友達にジャパン女子の上の人間を紹介してもらって、それで雑誌関係じゃなくて初めて事務所に入ったんです。それで、浜田が娘のソチとエステル(・モレノ)を連れて来て。彼がメキシコの選手を呼んで、オレがアメリカの選手を呼ぶっていうことになったんですよ。ジャパン女子には(サンボ)浅子やFMWにいた高橋英樹もいてね。

——そうだったんですか?

茨城 でもね、ジャパン女子ってフロントがみんな素人なんですよ。結局、内部がグジャグジャで10人ぐらい辞めて、オレもその後に辞めたんです。で、全女の小川宏(現・アルシオン社長)に会って話をして。ただ今日の明日ってのは、こっちとしては気持ち的に嫌なんで、無駄に一ヶ月開けて。

——で、全女に入ったと。

茨城 ええ。それでメデューサとか呼んだんですよ。その後に、大剛鉄之助が日本に来て「ジャパン女子の外人のことで話を」って夜中に電話で呼ばれて。もう前と社長が違ってて、それでまたジャパン女子の外人のブッキングを手掛けたんですけどね。でも当時のお金はまだもらってない(苦笑)。

——そうなんですか(笑)。

茨城 100万ぐらい立て替えてるのにギャラは無しですよ。こっちがブッキングした選手をそのまま継続して使ったりで、全くいいところはなかったですね。それで、その頃、コーチを大仁田(厚)がやってて会うようになったんですけど、「何かやりたい。面白いこと出来れば」って話からFMWをやりだしたんですよ。

——大仁田さんと茨城さんの二人でFMWを立ち上げたんですか。

茨城 当時、大仁田はオレなんかよりも金ないですから。最初二人で話して、後楽園の近くで待ち合わせてたら、知らない間に山口雄介(ウォーリー山口)が加わってて(笑)。雄介なんか(手を下に下げて)このぐらいの時から知ってるんですよ。自分がベースボールにいた時によく編集部に来ててね。で、雄介のところの隣を事務所にしてやったんですよ。

——あぁ、『マニアックス』ですよね。大迫さん(第一次W★ING社長)とはどういう感じで知り合ったんですか?

茨城 結局、2人とも金はないし、新日本にいた大塚(直樹)さんとかに一緒に会いに行ったりしてね、その時に引っ張ってきたんですよ。なんか商売はやってたと思いますけど、ハッキリは覚えてない(苦笑)。ただ、そんなには(お金)出してないんですよ。何百万じゃないですか。それも具体的にはわかんないけどね。

——ビクター(・キニョネス)はいつからの付き合いなんですか?

茨城 結構プエルトリコは行ってたんですけど、ビクターには会ったことなかったんですよ。カルロス・コロン、(ビクター・)ジョビカとかは会ってるんだけども。ビクターはそういうポジションじゃなかったと思うんだけどね。

——ブロディを刺したホセ・ゴンザレスとかも会ってるんですか?

茨城 ゴンザレスは全然いいヤツでしたよ。オレはブロディが殺されたダイヤモンドっていう球場もしょっちゅう行ってたんですよ。だからブロディがそこで殺されたって聞いた時は「エッ!?」って思ってね。ビクターはその時の真相を知ってるんですって。

——オオッ! 茨城さんはビクターから真相を聞いてるんですか?

茨城 いえいえ、なんだかよくわかんないけど(あっさり)。それでポーゴがアメリカから帰ってきて、FMに出ることになって、当時プエルトリコにも出てたから、その関係でビクターを連れて来たんです。まだマネージャーってあまり日本ではいなかったし、アメリカとはシステムが違うから、どう使っていいかわかんないし。

——セットで来ちゃった感じなんですね(笑)。で、FMの外人選手はどういったルートで?

茨城 メキシコのEMLLからミゼット呼んで。マイク(・アッサム)はターザン後藤かな。リー・ガク・スーは、京都に住んでる韓国の人からの紹介ですね。

——京都在住の韓国人(笑)。

茨城 それで(ディック・)マードックは売り込みだったかな。その後、事務所によく電話がかかってきたけど、大仁田は断れないからオレの方に電話回してきてね、嫌な役目ばっかりですよ(苦笑)。

——アハハハ! それからFMでは電流爆破やって、地雷マッチやってっていう流れでしたよね。

茨城 それで、オレは旗揚げ一周年の駒沢大会直後に辞めるって言わないで辞めたんです。まあいうほどの価値もないしね。

——いやいや(笑)。

茨城 大仁田本人は気がついてないと思うけど、だいぶ(天狗の鼻を作って)これになってきたんですよ。はたから見てるとわかりますから。そういうのを見てるの嫌なんですよね。最初は金儲けでやったわけじゃないけど、自分もだいぶ、持ち出ししてましたからね。

——自腹ですか(笑)。

茨城 だって、あの当時オレ給料10万ですよ。それで家賃13万だったから、持ち出しするしかないんですよ(苦笑)。

——アハハハ。茨城さんはそれ以外に何かやられてたんですか?

茨城 いや、特にないですよ。ただ多少……(苦笑)。

——蓄えがあったと（笑）。
茨城　ええ。まあそんな大きな金じゃないですけども。で、途中でオレはビデオ（販売）をやりだしたんですよ。
——あぁ、『ミラクル』ですね。
茨城　そうです。のちにそれをW★INGにしたんですけど、FMには、その売り上げの10％入れてたんですよ。それで、電流爆破のビデオを了解のもとでオレがやってたんですけど、あの当時は売れてたんですよ。それを多少資金の一部にして次に活かそうと。だから辞めた当時、W★INGやるなんて全く考えてなかったですから。
——えっ？　FM辞めて、すぐW★INGを作ろうっていうんじゃなかったんですか！
茨城　全く考えてなかったですね。で、その頃偶然、大迫氏と渋谷で会ってね。それで話して、オレ結構信用しちゃう方だから（苦笑）、言ってることは面白いなって思ったんですけどねぇ。
——昔の資料を読み直すと大迫さんの構想は相当凄いですからね。バーリ・トゥードの元祖のような感じで（笑）。タイソンとか呼んでとか言ってましたよね。
茨城　そこまではどうかと思ったけど、違う世界の人の考え方もあるんじゃないかなと。実際やってみるとたいしたことなかったけど（苦笑）。そこでもね、オレ一千万ぐらい近い金出してますよ。
——またもや！（笑）。
茨城　彼は会社の登記簿を持って、その中にプロレス興行というのを書くだけで興行が打てるわけですよ。そういうのもあったし、W★ING立ち上げの時はオレはトップでやるつもりなかったし。大迫氏が社長で自分は二番手の方がいいかなって思ってたんですよ。でも大迫氏は興行的なこと知らないし、もちろん外人のルートもないし、ないないづくしで。日本人だって、自分がSAW代表の麻生さんに話をして、木村浩一郎、保坂秀樹とか、あと斉藤彰俊を紹介してもらいに名古屋に行ったり、色々セッティングして……まあいいんですけども（苦笑）。
——いいんですか（笑）。
茨城　確かに金は掛かったりしたと思いますよ。一回、板橋で金網デスマッチが決まってたんだけど、当日になって金網代がないってことがあったりね（苦笑）。使用料50万円ですよ。高いけど、試合はやんなきゃいけないし。
——そういうのも茨城さんが払ったんですね。
茨城　そうなんですよ（苦笑）。それで3シリーズの間に営業と切り離そうと言い出したんです。別会社はいいけど、大迫氏はオレに一銭も入れてないし、周りの仲間もどうなるんだって話になって。大迫さんが組んだシリーズに、オレへの補填という意味で一つ興行をやることになったんですけど、そしたらマスコミに茨城興行が中止になったって出てね。自分は全然知らなくて雑誌の人に確認したら、それ流したのは大迫さんだったの。営業妨害ですね。結局、選手はこっちに来て、向こうは一回も興行を打たずに終わりですよ。

3シリーズが終了し、しばらくして大迫社長がフロントの内部分裂と「WMA」としての再スタートを発表した（91・11・19）。しかしながら、その後、興行は開催されず……

茨城代表による「W★INGプロモーション」が後楽園大会の開催を正式発表。会見には徳田、茂木も出席（91・11・30）。12月に行われた主催大会には松永、斉藤らは不参加。

——幻の団体WMAですね（笑）。あれは本当にやるつもりだったんですかね？
茨城　オレも全然分かんないけどね。出した金一銭も戻ってきてないですからね。オレなんか逆に、マスコミには結構悪く書かれたりしたけど冗談じゃないですよ、俺から言わせれば（キッパリ）。確かに自分も人から借りたりしてますよ（笑）。でも、そんな単位の金じゃないですからね。
——そうでしたか（笑）。そして、茨城さんのビデオ会社『ミラクル』を母体にしたのが、第二次と言われるW★INGプロモーションですよね。
茨城　あの時は外人のルートで、ビクターと早々に揉めてね。初期の外人ブッキングはオレの方が多かったんですよ。ジプシー・ジョーは自分が探しに行って、あとはジミー・バックランドはFMWに来てたし、トム・プリチャードは自分が向こうにいた頃のオフィスボーイだったんですよ。
——オフィスボーイですか（笑）。
茨城　ええ。ドス・カラスとかメキシコ勢は前から知ってたしね。
——それでマスカラスが来て、松永さんも結構人気が出て、軌道に乗ってきた感じでしたよね。
茨城　名古屋で松永が乱入してTNTとやってからですね。
——それと、やっぱり伝説のバルコニーダイブですかね。
茨城　こういうことを言うと辻褄が合わなくなってしまうですけど、ホントはね、あれはアイスマンがやる予定だったんですよ。
——エッ、そうだったんですか！
茨城　それを、松永がやるって感じで。ただ飛ぶっていったって加速度も付くし、キャッチしたデブちゃん達は凄いですよねぇ（笑）。
——デブちゃん達ですか（笑）。でも確かに受ける側も凄いですよね。その後、松永さんはポーゴさんとのスクランブル・バンクハウスで踵を骨折、しかも火だるま！
茨城　松永は結構欠場が多いんですよね。でもアレがなかったらどうなってたんだろうってのはありますよね。やっぱり松永は空手をやってたけど、プロレスが好きなんですよ。ただうまくはないんですけども（苦笑）。そういうアクシデントで人気が出たという部分はありますよ。
——あれは相当なインパクトがありましたからね。茨城さんがやろうかって言ったわけでは？（笑）。
茨城　いやぁ、オレというか選手に任せてますよね。その数年後に金村がファイヤーで、あそこまで（大ヤケド）なるとは思いませんからね。あの時点で「もうファイヤーはいいや」って思いましたし。そういうのでも、自分の気持ちの中でW★INGと言えば金村ってのがあるし。今回（8・6後楽園）は出れないけど、本人の気持ちの中では出たいってのは分かるし。それでね、最初のW★ING旗揚げの時、金村が出るの決まったの前日ですから（笑）。
——そうだったんですか？
茨城　まだどんな選手かもわかんないのに（笑）。それでデビューですから。金村は最後までW★INGにいたし、IWAに上がる時も相談あったし。こっち（W★ING）がアレする（潰れる）時に金村とかが、向こう（IWA）で食わしてもらえればいいなって。ホントはオレもIWAに手を貸すって約束だったんですよ。ウチが押さえてた後楽園を譲ってね。
——そんな話があったとは。
茨城　わざわざ菓子折買って事情説明して廻ったんですけども、ダマされてオレが関知しなくなったんです。それに最後にやった平成6年の3月の多摩の興行の時なんですけど、ウチのオヤジの具合が悪くて、その翌月に亡くなったんですよ。だから、もういいかなぁっていう雰囲気もあったし。
——そうだったんですか…。それで第二次W★INGがクローズしたと。ポーゴさんが抜けてFMWに戻った時は何があったんですか？
茨城　全然知らなかったんですよ。『東スポ』買って電車の中で読んだら「何だ、これは!?」って。
——『東スポ』で知ったと（笑）。
茨城　その前に形的にアイツが副社長になって。ただホントに意味合い分かってるのかなぁという部分があって。ウチなんかシリーズの度に金策に走ってて、やっぱり一番頭痛いのは金なんですよね。
——そうでしょうね（笑）。
茨城　副社長ってことでそういう

ポーゴが抜けてFMに行ったのは『東スポ』読んで知ったんですよ

徹底検証 W★ING

Kiyoshi Ibaragi

部分にも当然関わってきますよね。でも本人の中ではそういうのがないんですよ。ただポジションってだけで。それで本人の中でも色々あったみたいで、そこに間に立ったヤツがいて話がいったのかもしれないですけど。その次の松永しかりですけどね。

——松永さんがW★INGを抜けたのはビックリしましたね。

茨城　あの時はマスコミが間に入ってたらしいですけど。でも結果的には2人とも大仁田厚より上にはなれないもんね。まあウチにいるより金銭的には儲かったかもしれないけど（苦笑）。

——そうかもしれませんね（笑）。

茨城　ただ普通だったら1回裏切ったらもう使わないし、一緒にやらないですけど、私の場合はいい意味での腐れ縁っていうものをね（笑）。昔からの繋がりもあるし。

——当時、松永さんに関してはどんな感じだったんですか？

茨城　よく雑誌で風呂ナシのアパートに住んでるって言ってたじゃないですか？

——その話は有名ですよね（笑）。

茨城　金村なんかの方がギャラが少ないのにやっていけてるわけですよ。だから、そんなことまで持ち出すのかって感じましたね。まあでも、この間カードが決まんなくて二転三転してた時、松永が「昔、迷惑掛けたんで」なんて言ってね。そうなっちゃったら、まあいいかぁってなりますけどね。

——優しいんですねぇ（笑）。まあ時も経ってますからね。

茨城　やっぱり日本人だから、そういうことがあっても会えばまたね。多少文句を言ってもね。

——マスコミには結構金銭的な部分を叩かれたと思うんですけど。

茨城　確かに選手からしてみればギャラは高くなかったと思うんですけど、ただ、それでもあの時点ではきつかったんですよ。それは外人が多かったとか色々あったんですけどね。

——そういう意味では非常に贅沢な団体でしたからね（笑）。

茨城　外人の面白さを活かすには流れがあるしね。9人呼んでたのを急に3人には出来ないですよ。まあ当時はオレは選手じゃないから反論してもしょうがないかなって思ってね。言われ損かもしれないけれど、しょうがないと。そんな中でも、金村は最後までいたし。アイツは地方の人間だったから、ずっとオレのところで寝泊まりしてて、そういうのもあるのかもしれないけど。

——へぇ～、そうだったんですか。

茨城　一時期ウチにはデブちゃん達もいたし、あとジプシー・ジョーもいた（笑）。

——凄いことになってたんですね（笑）。

茨城　それでね、オレは一応デブちゃんに勝ってますから（笑）。

——それはどういうことですか？

茨城　ふざけっこしてね、関節極めてオレが勝ってるんです（笑）。

——ワハハハハ！　ヘッドハンターズからタップを奪った男なんですね（笑）。

茨城　ええ（笑）。また呼びたいんですけど、デブちゃん達はビクターと分厚い契約書に見ないままサインさせられてて。

——そうなんですか？

茨城　ただ拘束は来年で切れるし、本人達も来たいって言ってますからね。デブちゃん達は最初にプエルトリコで会った時、今から考えれば凄い痩せててね。「それじゃあ日本で」なんて言って別れたら、次の日に「金貸してくれ」って電話が掛かってきて貸したんですけど、でもどっちに貸したか分かんないんですよ（笑）。

——双子マジックが（笑）。そういえば初期ECWに松永さん、茂木さんが遠征に行きましたよね。

茨城　松永の場合（離脱の理由）その辺が多少あるみたいなんですよ。ECWのあとメキシコに行って病気になって、毎日事務所に電話かかって来たんですよ。

——毎日ですか？

茨城　子供じゃないんだから。特にオレなんか1人で飛び回ってたじゃないですか。しかもトップなんだから。なんかビクターだかミゲル・ペレスが、からかったみたいなんですよ。向こうは冗談半分なんですけど。そういう部分が嫌になった一因だったかもしれないですけど。でも、茂木なんかは向こうでマスク買い漁ったり、何の文句もなかったし、性格とかの違いだよね。

茨城代表に関節を極められ一本負けしていたデブちゃんこと、ヘッドハンターズA＆B。いったい負けたのはどっちだ？

—松永さんが誰かとソリが合わなかったとかはないんですか？

茨城　それは分からないですよ。でも3人以上いればやっぱりね。金村なんかは松永を先輩として立てる大人な部分があって……まあ、決して金村を大人だって思わないですけど（笑）、今回出れなくなったことも金村は松永に電話入れたしね。

—IWA辞めた後も茨城さんにお世話になっていうことを金村さんが言ってましたね。「だからボクは茨城さんの悪口言わないですよ」って（笑）。

茨城　そうですか。決して本心とは思えないなぁ（笑）。

—アハハハ。さて、その後ジェイソンやECW勢と平和島テレポートで、第三次W★INGを始めたわけですけど……。

茨城　（遮って）あのぉ、大迫さんとのが第一次で、別れて始まったのが第二次でって雑誌とかでは書いてるだけで、オレの中では全然関係ないんですけどね。相関図にしてもFMWからW★INGになってますけど、オレから言わせれば全然関係ないんですよ。

—一次も二次もないと（笑）。

茨城　だってオレがFMWの旗揚げをやったってだけで、別に分裂したわけじゃないですからね。

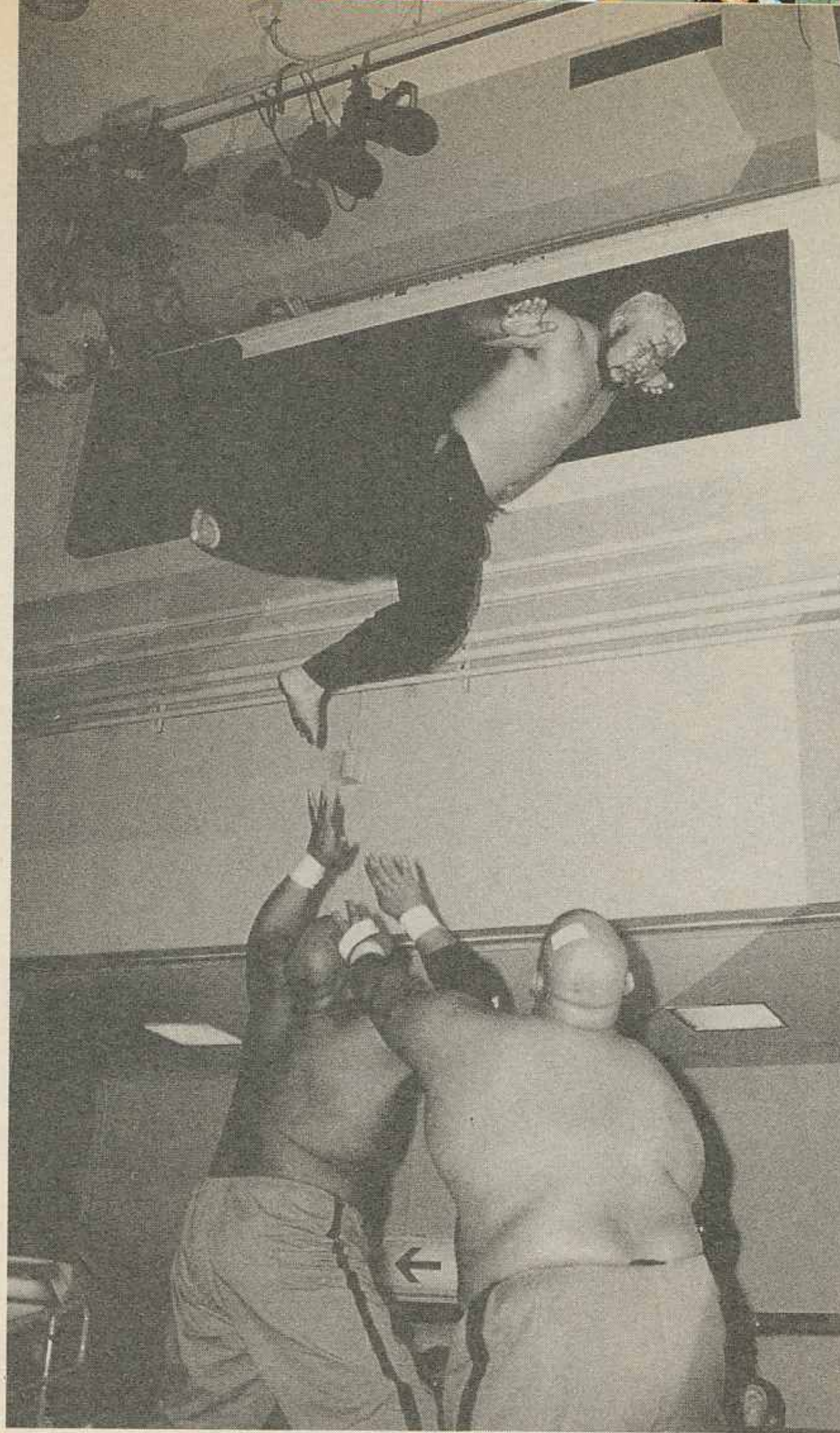
—W★INGはポーゴさんやビクターを茨城さんが引っ張って旗揚げしたというニュアンスでしたからね。

茨城　W★INGの外人だって、1、2人以外はFMWで使ってない選手ばっかりですよ。逆にこっちが聞きたいぐらいで。

—なるほど（笑）。それで第三次W★INGの話なんですけど。

茨城　それまでと違うのは日本人がほとんどいないんですよね。それで新しい部分ではECWですね。もし、ポーゴ、松永、金村、邪道・外道がECWとやったら凄い面白かったと思うんですよ。

—あの時はパブリック・エナミーとピットブルズとサンドマンとか、いいメンバー来てましたよね。

茨城　ただ、しんどかった（しみじみと）。ポールEは連絡がつかないし、あっち（海外）に行って試合終わってから話をして契約書を渡しても戻って来ないんですよ（苦笑）。ビザ間に合わなくなるし、それでパブリック達が、「オレらがやるよ」って言ってくれて、ギリギリ間に合ったんですけど。

Kiyoshi Ibaragi

—ボクは、アメリカの茨城さんがポールEなんじゃないかと思ってたんですけど（笑）。

茨城　どういう面で？（笑）。

—茨城さんも連絡がつかないイメージがあったんで（笑）。

茨城　ワッハッハッ！　でも誰に聞いてもポールEのことはそう言いますよ。確かに仕事で動いてるのかもしれないけど、10回中1回しか連絡取れないなんてしょっちゅうだから。

—一緒にはされたくないと（笑）。あの頃はちょうどFMWでW★ING勢の人気があった頃ですよね。特に「こっちに来いよ」みたいな話はなかったんですか？

茨城　よしんば金があったにしても自分は性格的に引き抜きがダメなんですよ。アイツがいればいいなっていうのがあってもね。

—性格的に引き抜けなかった（笑）。その後、2シリーズやって一旦締めという形でしたけど、2年後、真正W★INGっていうのも1シリーズやりましたよね。

茨城　ジェイソンとはしがらみっていうか性格分かってるからね。対戦カード的にジェイソンの相手ってことで岡野ウインガーで。でもね、ポールEじゃないですけど、岡野もホント連絡が取れないですからね。

—岡野さんも、連絡が取れない人なんですか？（笑）。

茨城　取れない取れない。

—そうなんですか（笑）。あとホーレス・ザ・サイコパスも予定だけで来ませんでした（苦笑）。

茨城　サイコパスはミネアポリスで一回会ってて、キャラクターが面白いなと思って、ビザまでちゃんと取ったんだけど、途中で「行かない」とかって言い出して、そうなったらもうお手上げですから。

—ひどいですねぇ（笑）。それとAAAからルチャの選手が何人か来ましたよね。

茨城　ペーニャ（AAA代表）も、あの人も、ポールEに匹敵するくらいのメヒコの手焼きで（笑）。ホントに大変ですよ。平気で待たされるわ、連絡ないわで。その頃、ジェイソンがメヒコに住んでたんですけど、ビザ大丈夫かなと思って見に行かしたら、案の定取ってなくて、結局アイツが全員連れて来たって感じですよ（苦笑）。

—もしジェイソンがいなかったら、外人選手は誰も来なかったかもしれないんですね。

茨城　とんでもないですよね（苦笑）。そんなもん、とてもじゃないけど2回3回やる自信がないですから。

—なんか岡野さんはしきりに、「茨城さんが未払い金を払うまでW★INGは辞められないんだよ」って言ってるんですが（笑）。

茨城　いや、"さん"は付けてなかったですよ！　だから、この野郎って思ってね。

—アハハハ！　確かに「茨城清志が」って言ってましたね（笑）。

茨城　8月6日は自分から出るっていうからホントに発表ギリギリまで待ってたんですよ。そしたら本人の携帯が止まってて（結局、当日緊急参戦）。まあ、連絡が取れない3人と言えば、ポールE、ペーニャ、岡野隆史ですね（笑）。

—アハハハ！　連絡が取れない三羽ガラス（笑）。さて、次は久しぶりの後楽園ですね（※この取材は後楽園大会前に行われた）。

茨城　そうですよね。やっぱり後

徹底検証 W★ING

楽園は一番ウチに合ってますよ。それに後楽園でやってる限りは赤字はなかったし。ウチは招待券も出したことないんですから。他団体で出してるって聞いて驚いたくらいで。ただね、あそこでそこそこ儲かっても他で駄目でねぇ（しみじみと）。

——そうでしたか（笑）。でも、後楽園ホールをただの入れ物じゃなく、闘いの場所として活用したのもW★INGが最初ですよね。

茨城　まぁバルコニーとか、邪道・外道はエレベーターの中でやってましたよね。エニウェアマッチは海外でも昔はやってないんじゃないですかねえ。

——W★INGが最初かも。あれはWWFのハードコアマッチの先取りですよね。話は変わりますけど、この間のW★ING同窓会の時、金村対松永の対立という新しい流れが勃発しましたけど。

茨城　そうなんですよね。金村vs松永とか、ポーゴvs金村は遺恨じゃなくて面白く出来るかなとは思ったんですけど。金村は一応、ポーゴが師匠的発言してるから10年後の自分の成長ぶりを見せるみたいなね、いろいろな図式があって。

——では、W★INGの今後の流れはどうしていこうとか具体的な考えとかはありますか？

茨城　あらかじめ考えいても分かんないですから。選手は生モノですからね。

——生モノですか（笑）。

茨城　こっちが思ってたものと時として変わってきますからね。それにウチなんか、対戦予想を結構裏切ってると思うんですよね。見え見えでいっちゃうのもどうかと思うしねぇ。

——それがW★INGの面白さの一つでしたからね。そこら辺が、やっぱりいい感じのポイントだったと思いますよ。

茨城　いい感じの（笑）。良かったんですかね？

——インディー団体はいっぱいあったけれども、ここまで「W★ING、W★ING」って言われ続けてる団体はないですからね。誰も今、オリプロ見たいって人いないじゃないですか（笑）。

茨城　そういう意味では自分の中でも面白いことやって来た自負はありますよ。でもお客さんの考えも大分変わって来てますよね。レザーとか怪奇派に追っかけられてね面白いって言ってますからね……ウチからすると面白いキャラクターとして作ってるわけじゃないしね。例えばタイガー・ジェット・シンなんかを見て面白いという意見は出てこないと思うんですよ。クリプトキーパーとか、あれが面白いとなると、オレとしてはわかんないんですよ（苦笑）。

——恐怖映画、ホラーっぽいところの、おっかない面白さが、W★INGにはあったじゃないですか。

茨城　昔の選手って、怖いモノ見たさ的な。

茨城　昔の選手って、決してアメリカで超一流の選手じゃなくてもそれぞれ個性がありましたよね。オレの中では、スカル・マーフィーっていう選手が怪奇派では、いまだに一番残ってますね。今の子供だと、怪奇派も「パスポートは素顔で作ってんだろ」とか現実的じゃないですか。

——そうかもしれませんね（笑）。

茨城　昔は、そんなこと思ってもいないですから。「何だこれは！」っていうね。昔、少年マガジンだったかな？　梶原一騎作、石原剛人画で「プロレス怪奇シリーズ」ってあったんですよ。そういうのいまだに覚えてますからね。

——オオッ、梶原先生！　いわゆる『プロレススーパースター列伝』の昔版みたいなヤツですね。

茨城　そうですね。ブル・カリーだとかね。それで石原剛人の挿し絵がまた上手いんですよね。最近のことは忘れちゃうけど小さい時のことは強烈に残ってる（笑）。

——アハハハハ！

茨城　子供の頃は大鵬さんとか相撲が好きでね。当時はプロレスが金曜日8時からで、一週おきに夜中11時からだったんですよ。ビデオがまだない時代だから、夜中の週は眠いの我慢して見てましたもん（笑）。

——そのくらい好きだったと。

茨城　その時は、まさか自分が団体やるとは思わなかった（苦笑）。でも、その辺の「プロレス怪奇シリーズ」好きの感じはW★INGに出てたかもしれないですね。

——怪奇派路線とかW★ING独特のムードの源流に梶原一騎の影響もあったんですね。ところで今、ビクターと交流はないんですか？

茨城　全然、全然。辞めた直後あたりはメキシコに行った時に会ったりしましたけど……でも、またビクター絡ませちゃうと、儲からないですから！（キッパリ）。

——儲かりませんか（笑）。

茨城　ええ（苦笑）。今回はご遠慮頂くということで（笑）。まあ今後は、ECWもなくなってしまったし、最近ではXPWですか？　ホントはちょっと前にXPWを見に行く予定だったんですけどね。

——それでは今後はXPWを絡めていく可能性もあるんですね。

茨城　W★ING的な選手がいればですけど。松永vsフレディとは違う新しい流れを作りたいんで。

——これからも期待してます！

【7月12日／東京・目黒「すかいらーく」等にて収録】

連絡が取れない3人と言えば、ポールE、ペーニャ、岡野隆史ですね（笑）

フレディとブギーマンが突如、リング上で正体を暴露した。「W★INGはクソ団体！　イバラギファック！　オレたちは全日本に行く！」と悪態をつき緊急帰国してしまった

徹底検証 W★ING

8・6 W★ING21後楽園大会

他にはないW★INGって空間を無くすな!

前回の同窓会より、面白さ、W★INGらしさにおいて数段上!

時計の針はとっくに6時を過ぎてるのに、後楽園ホールの一階には人が溢れている。予想を覆してまさかの大入り!? 実は、単に開場していないだけという事実が判明。そう、ここはW★INGの会場なのだ。世界で最も危険な団体、世界で最もルーズな団体の復活は、すでに試合開始前から告げられていた。

4月の同窓会を経て遂に21世紀に蘇ったW★ING(正式にはW★ING21PROJECT)。今回の一番のポイントは、旧W★INGの名物オーナー茨城清志代表の復帰。それだけでもう事件ですよ。過去の失敗をものともせず、ボロクソに叩かれようと、いいんです、やはりW★INGはこの人がいないとホンモノじゃないんです。実際、団体ゆかりのレスラーが勢揃いした同窓会より、今回の方が、面白さ、W★INGらしさにおいて数段上。良くも悪くも彼の存在は、W★INGに欠かせないのだ。

さて、しょっぱなからイバラギイズム(アバウトさ、本人は否定)全開で幕を開けた『W★ING RETURNS 新聖紀開戦』。ベテラン全女の今井アナですら持て余す〝誰も仕切る人がいない状態〟を、ようやく乗り切り選手入場式が始まったのはすでに7時。『デンジャーゾーン』が鳴り響きフレディ、レザーが場内を荒らす名物入場式。後楽園ホールでは何年ぶりのことだろう。やっぱりW★INGはホールが似合ってる。

売店には初期W★INGのTシャツを手掛けた植地氏によるかっこいい新作Tが並んでたり、現場は予想以上の良い空気感。残念ながらの客入りは満員とならなかったが、このスカスカぶりが乱闘にはうってつけ。気がつけば女子の試合以外は全部デスマッチ。第一試合から飛ばしまくり。戸井マサルの顎を捕らえた木村浩一郎のハイキックは、南側客席通路史上最高の衝撃キックだ。

伊藤薫vs脇澤美穂の思ったことを全部しゃべる女子プロの後は、急遽予定になかったルチャ。茨城談〝連絡が全くつかない男〟ジ・ウインガーと、メキシコに開校する『W★INGレスリング・アカデミー』の先生グラン・アパッチェの一戦はルチャの面白さがいっぱい。

今やIWGPタッグチャンピオン、邪道・外道は、NOSAWA、菊澤光信の東京愚連隊を相手に力の差を見せつける。

W★INGの定番スクランブル・バンクハウス・デスマッチはジェイソン・ザ・テリブルとレザーフェイスの定番怪奇派対決。これまたホールを隅から隅まで使う(当然バルコニーも)暴れっぷり。久々のシビアなファイトでコンニチワ外人(?)ぎみだったジェイソンも復活。

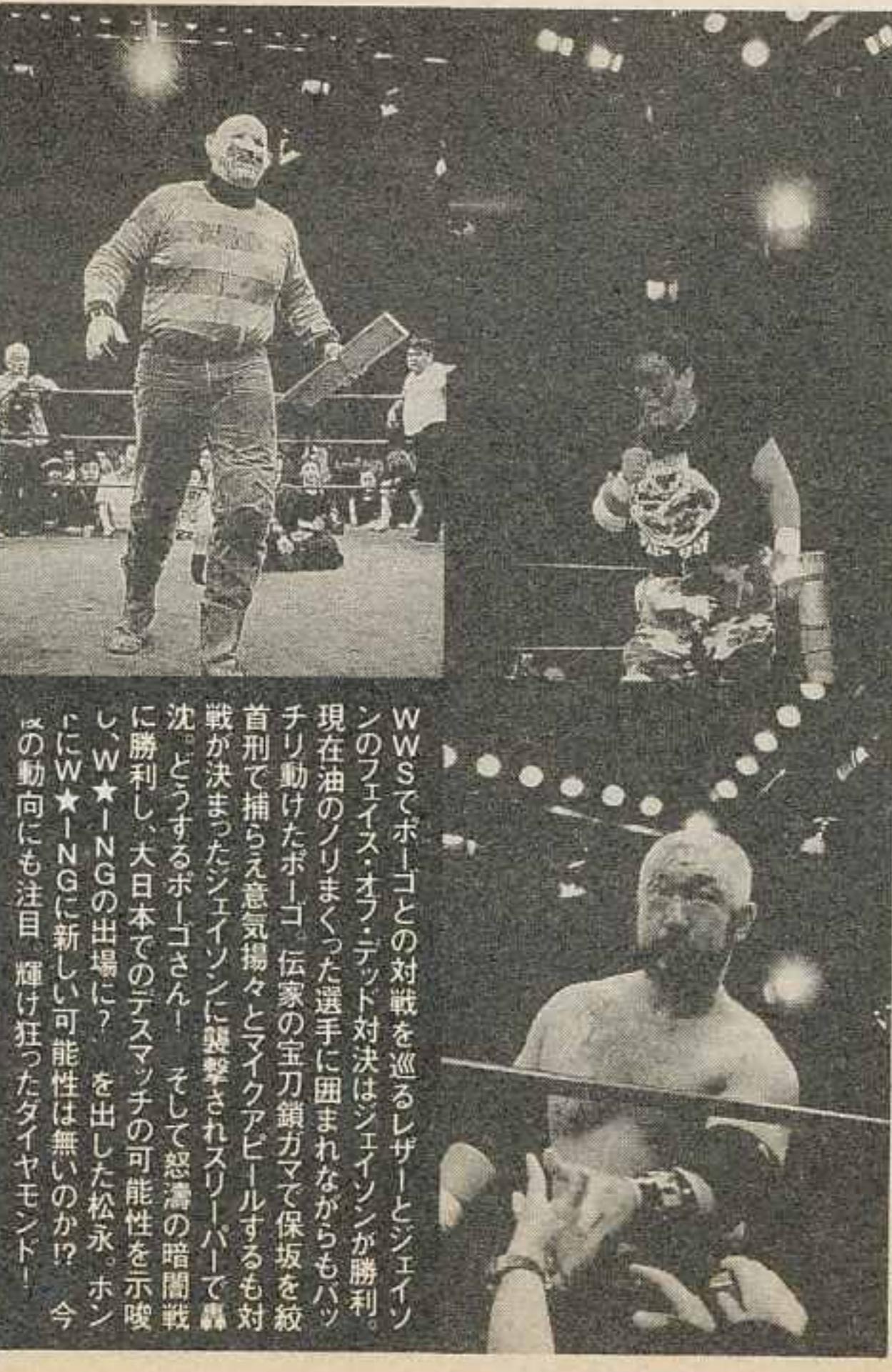
さて最もW★INGらしくない、ミスター・ポーゴ、ディック東郷vs田中将斗、保坂秀樹。これが予想を反したスウィングっぷり。そういやTOGOのスペルミスがPOGOになったわけだし、遠回りした師弟組みたいなもの? 試合後にはポーゴの口から「これからのW★INGは保坂が背負う」という世代交代発言も出た。保坂は新しいW★INGを作れるか!?

さあメインは、かつて壮絶な空間を生み出した月光闇討ちデスマッチ、松永光弘vsフレディ・クルーガーの8年越しのリマッチだ。前回と同じく蛍光有刺鉄線男になった松永。真っ暗やみのホール内をメッチャクチャにしながら、ホール全体を使った攻防を繰り広げる、けど見えないんですねえ。イマジネーション&視力アップを目指すプロレス。やっぱりこんなの好きじゃないと観に来ないか。いや、命懸けのバカバカしさがいかに素晴らしくて面白いかを直に体験しなきゃいけないんです。

試合は松永が以前やられたバルコニーを使った首吊り刑でフレディにリベンジ。しかし「今後、新しいW★INGを作るまで、オレはW★INGに上がらない。金村とのシングルマッチは必ずやるから!」という松永。

91年8月7日、世界格闘技連合W★INGから丸々10年。全体的に前回の同窓会をはるかに上回る面白さを見せた今回のW★ING。開始時刻以外の流れは予想以上のスムーズさでビックリ。売店、バルコニー、果ては女子便所まで戦場にしてしまうW★INGっぷりは、イバラギイズムの現れだというのも改めて実感。中心になるはずだった金村がFMWサイドから出場ストップがかかり、金村vs松永という同窓会時に発生した新しい流れは実現しなかったが、それ以外でも絶対的な面白さはあったんだし、さらなる展開も期待できる要素はいくつもあった。それに、まだ海外にはヘッドハンターズも非道もいるし、大迫氏を引っぱり出して木村を中心とした第一次W★ING、もしくはWMA軍団との対抗戦なんていうのも面白い。呼べるんだったらECWの残党やXPWもからめてもいい。いずれは大日本との日本最狂デスマッチトーナメント戦とかさあ……。

まあ松永いわく「W★INGはいつが最後か分からないから」と言うが、プロダクション的に隔月開催予定だし、何度か続けば確実に新しい流れは実現するはず。ホント選手の皆さん、そこをなんとか協力お願いしますよ。他にはないW★INGって空間を無くすのはもったいない。WWFを見ればわかるECWの高い支持率、その元祖は確実にW★INGなんだから。

まずは次回の10月21日ディファ有明。それがどうなるか、期待して待とう! (文・イナズマ☆K)

WWSでポーゴとの対戦を巡るレザーとジェイソンのフェイス・オフ・デッド対決はジェイソンが勝利。現在油のノリまくった選手に囲まれながらもバッチリ動けたポーゴ。伝家の宝刀鎖ガマで保坂を絞首刑で捕らえ意気揚々とマイクアピールするも対戦が決まったジェイソンに襲撃されスリーパーで轟沈。どうするポーゴさん! そして怒濤の暗闇戦に勝利し、大日本でのデスマッチの可能性を示唆し、W★INGの出場に?を出した松永。ホントにW★INGに新しい可能性は無いのか!? 今後の動向にも注目。輝け狂ったダイヤモンド!

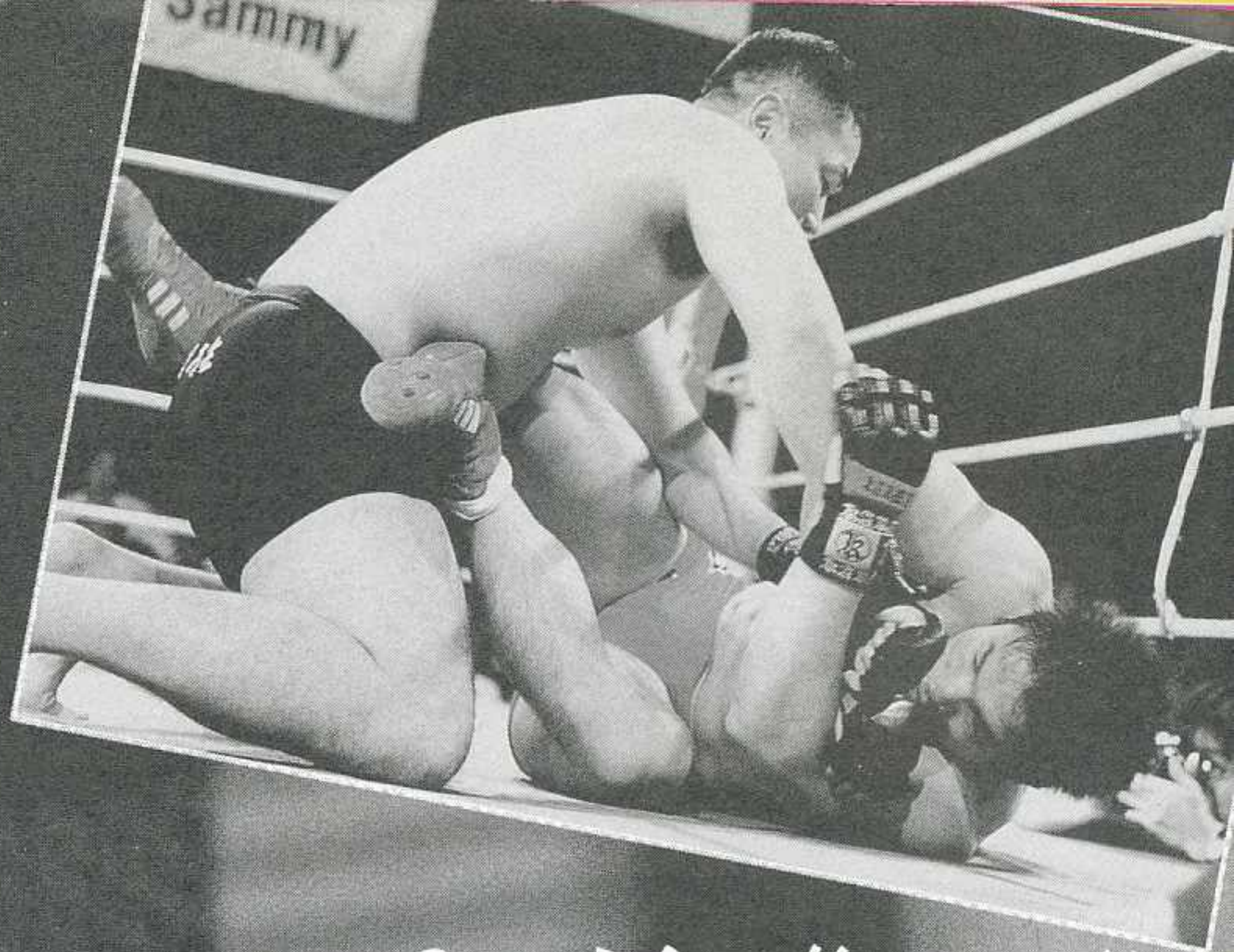
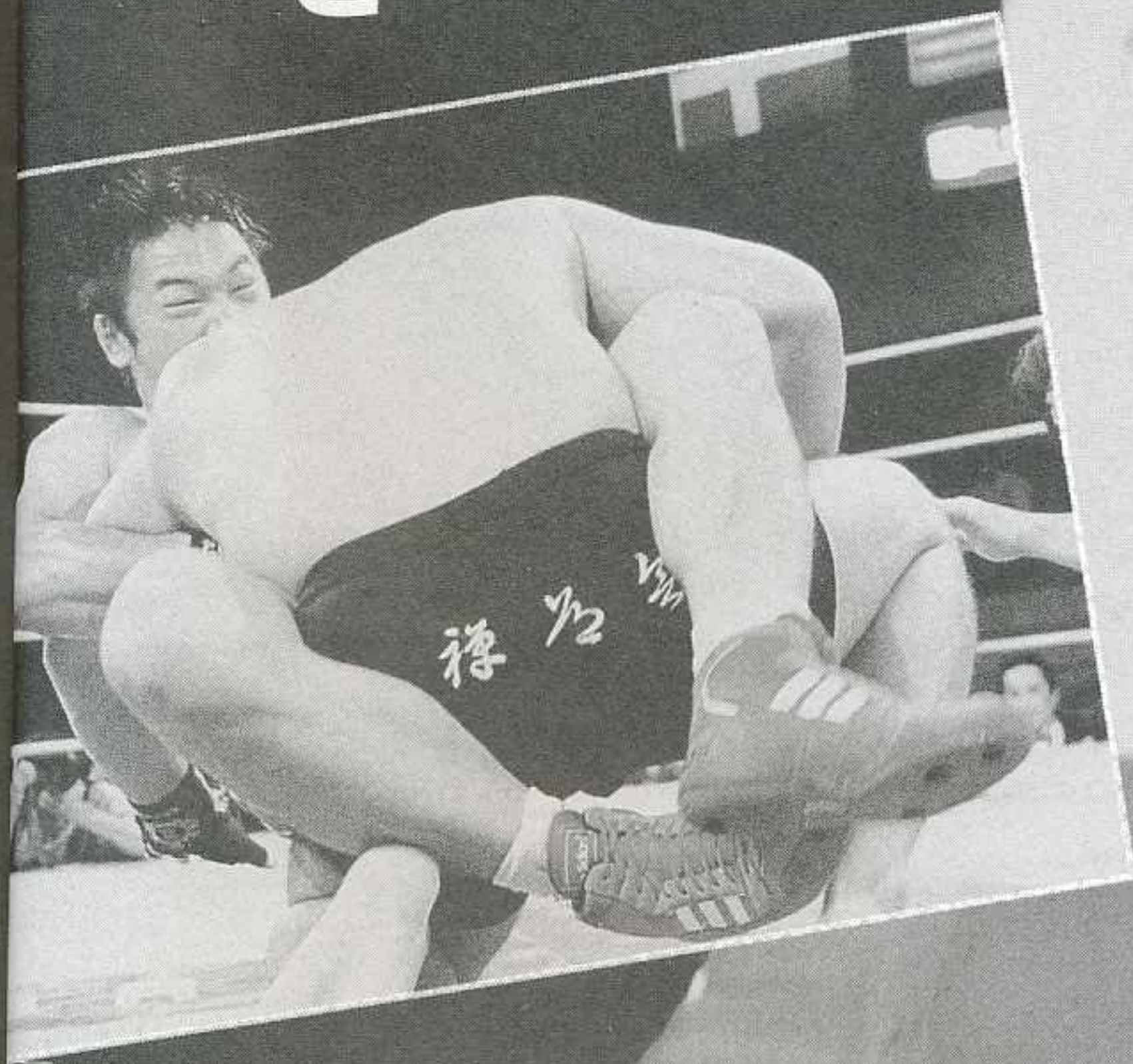
『PRIDE15』は面白かった？
簡単に今年のネオブラを振り返ると、
がチョークを狙う。一度は極まりかか
酸
イン！

PANCRASE HYBRID WRESTLING

“プロレスの快感と格闘技の快感 それを今迸らせることの出来る唯一の男”

“最もシュートであり 最もエンターテイメントな男”

それが美濃輪育久だ！

たった一人で『PRIDE・15』と張り合った凄玉がここにいる！

7・29といえば、サクの復活戦や石澤のリベンジマッチが行われた『PRIDE.15』、大仁田、佐山、堀田といったレスラー勢が大挙出馬した参院選など、マット界は大騒ぎの一日。その中で、この日一番の盛り上がりを見せたのは、猪木さんの「ダーッ！」でも、大仁田が当選した瞬間でもない。それは美濃輪が秋山からタップを奪った瞬間である。文句がある奴はビデオを借りて見てみりゃいい！　どいつもこいつも美濃輪でしびれろ！

文／大坪ケムタ　構成／松澤チョロ　designed by さおとめの事務所

現在のパンクラスのホントの意味の「顔」は菊田とグラバカ。でも、それでいいの？

「『PRIDE15』は面白かった？ でもソコに『勝負』はあったの？ この日の美濃輪vs秋山やネオブラみたいな！」と今年のネオブラッドトーナメントを観戦した人は胸を張れ！

毎年恒例のパンクラス本隊若手の登竜門から、各団体期待選手のプロデビューの場と変わりつつあるネオブラッドトーナメント。今年は過去最大の12団体16名が参加と一層激戦化。その上興行的にも同日『PRIDE15』が開催と、様々な闘いが渦巻いた7・29。まずは本編・トーナメントではグラバカの三崎和雄がズバぬけた安定感を示して優勝。激化する本隊vsグラバカの対抗戦に大きくリードしたと言える。

簡単に今年のネオブラを振り返ると、予選終了時は体格とスタンド技術、そしてケンカ度胸溢れる梁正基（パワー・オブ・ドリーム）が優勝候補という声が多かった。一方の三崎の予選は「緊張で力が出せなかった」と本人も語っていた通りインパクトの強い勝利とは言い難い出来。本戦ではその二人がぶつかった「NIGHT TIME」準決勝が今年のネオブラ・ベストバウトであり実質的な決勝戦となった。

序盤は梁がスタンドでプレッシャーをかけていくも、打極投のトータルバランスに優れた三崎が徐々に攻勢に。見せ場は延長R、途中鼻血が溢れだし既に呼吸が苦しい梁のバックから三崎がチョークを狙う。一度は極まりかかるも、絞まる腕を強引に力で外してインサイドガードに戻す展開に梁のケンカ魂を見た！ しかし延長Rはこのポイントが勝敗を分け、判定2－1で三崎が勝利を飾った。

「メンタル面弱すぎですわ。相手がグラバカということで焦ってしまった（苦笑）。落ち込んではないですけど、でもランデルマンの前に負けてしまった……『紙プロ』さん、すみません」と観客にその存在感は示したものの、プロ初黒星にショックを隠せない梁。

一方波に乗った三崎は決勝で長岡弘樹（ロデオスタイル）と対戦。長岡も準決勝を一本勝ちし、決して調子は悪くなかったが、試合が進む毎に調子を上げてきた三崎の敵では無し。1Rからマウント→アームロック→腕十字と攻め立て、2R早々に引き込みからのフロントチョークでタップ奪取。グラバカにとってのこの初タイトルは改めてその恐るべき層の厚さをアピールしたと言えるだろう。

メイン後、リング上に集結し、菊田・郷野を中心に勝利をアピールするグラバカ軍団。ちなみにネオブラ予選の大田区大会を外すと、これで今年の6興行のうち3回のメインをグラバカ勢が務めたことに。しかも5月13日、後楽園大会での山田学引退興行のメインが山田のエキシビジョンであり、佐々木有生が出場したセミが実質的なメインカードだったことを考えると4回と言ってもいい。

菊田入団から2年、UFC－J勝利にアブダビ優勝にグラバカ結成による郷野・佐々木らフリーの実力者のスカウト。船木引退後のパンクラスの「顔」といえば近藤、というイメージだけれども、ホントの意味の「顔」は菊田とグラバカなのは間違いない。でも、そんなんでいいの？

そんなグラバカの勢いを一人で止める男、といえば〝21世紀型プロレスバカ〟美濃輪育久！ 「一人で止める」という表現はまんざら大袈裟ではない。何故なら今年のグラバカ勢以外の興行のメインを務めたのは美濃輪のみ！

しかもDEEPでのリボーリオ戦に始まりフィリョ戦、佐々木戦と、いずれもその試合内容にハズレ無し。いつの間にか総合好きだけでなく、全プロレスファン必目の選手となってしまった。

しかも今年2度目のメインとなった「ネオブラDAY TIME」の相手もうってつけ、禅道会の秋山賢治だ。プロレス好きからすればクラブファイトでヤマケンを追い込んだ選手、として知名度があるけども、総合・空手好きからすればその名は大道塾の北斗旗重量級2連覇を果たした強豪。そういえば最近ご無沙汰のセーム・シュルトも北斗旗2連覇、99年「THE WARS」で闘った山崎進も北斗旗98年王者、と美濃輪は北斗旗王者と過去2戦を競っている。

しかも山崎戦は美濃輪の名を一気に上げた試合であり、シュルト戦は同年のネオブラ優勝が勢いだけでないことを見せつけた一戦。それに「プロレスと空手、今回は異種格闘技戦になるでしょう」という秋山の発言もあって試合

ネオブラの事実上の決勝戦となったグラバカ・三崎和雄対POD・梁正基の一戦。三崎のセコンドには菊田&郷野のグラバカ2トップ、梁にはヤマケンとムエタイのコーチが付き、リング下でも熱い火花が散りまくっていた。優勝宣言をしていた梁だったが、残念ながら血敗！ はたしてリベンジの日は訪れるのか？

文句なしに今年の夏一番の名勝負となった美濃輪対秋山。酸欠状態の美濃輪が一足お先にリングを降りると、秋山はマイクアピール。さらに最近出たばかりの禅道会の技術書をリング上からばらまくと秋山コールが巻き起こった。もう一丁！

PANCRASE HYBRID WRESTLING

前から名勝負ムード！

試合はいきなり秋山を担ぎ上げてパワーボム！　佐々木戦で既にやらかしてるとはいえ、総合で毎度やるとは驚きの一言。グラウンドでも逆十字、下からのアームロックと最初は楽勝？と思えた。しかし落ち着きを崩さない秋山は関節技が崩れた美濃輪の顔面に的確に重い拳を落としていく。

3R、コーナー際で足払いを仕掛けるも、逆に返され再び上からパンチ連打。ここまで消耗し、ほとんど泣き顔となった美濃輪なんて見たことない。しかし「3Rの奇跡」は今回も起きた！　ロープでもつれ合った状態からスタンドで再開し、美濃輪がヒザを突きだした所をタックル気味に足を取ろうとする秋山。しかしその落とした首に美濃輪の腕が絡みつき、一気にフロントチョークで絞め上げる！　足も腰に飛びついて絡みつかせ、全体重を首一点にかけると秋山もたまらずタップ。この大逆転劇に観客は5月の佐々木戦を更新する今年一番の盛り上がり。もはや定番となった「Oi！　Oi！　Oi！」の大コールが再び後楽園にこだまする。

プロレスの快感と格闘技の快感、それを今逆らせることの出来る唯一の男、最もシュートであり最もエンターテイメントである男、それが美濃輪育久だ！

グラバカの隆盛、美濃輪を中心にした本隊。9月時点では今年に入っての両陣営の対抗戦での勝ち星は本隊5勝に対し、グラバカ4勝十ネオブラのタイトル。この勝負をつける場として用意されるであろうのが、9月30日横浜文化体育館大会。この原稿を書いている時点ではDEEPすら終わ

「それがお前のやりたいことか？お前のやりたいこと全部やれ！」コレを合い言葉に、もうヒトツ勢いつけちまえパンクラス！

ってないためカードは一切発表されてないが、美濃輪育久vs郷野聡寛戦はほぼ間違いなし！　というか、やらなければいけないカードだろう。

郷野の凄さについては今更言うまでもなし。全国アマチュア大会を総なめ、元修斗ライトヘビー級ランキング1位、天才の名を欲しいままにするコマンドサンビストにしてストライカー。菊田をグラバカの大将とするなら参謀格。本人も「次兄のボクがグラバカを盛り返しにいきます。美濃輪以外とはやらない」と言い切っている。

また郷野にとっては5月に一本負けした佐々木の、美濃輪は6月に流血TKOした渡辺の弔い合戦ともなる。このカードと菊田vs近藤戦が組まれれば、まさにツインピークス直接対決！なのだけれど、共にDEEPで試合が組まれた二人には厳しい日程か。となると横浜文体のメインはこのカードしかありえないだろう。おそらく他のカードもこれまでの交流戦路線を総括する内容になると思われる。慧舟會やSAWといった老舗の格闘技団体、ロデオスタイル、ストライブルといった総合ジム、U-FILE-CAMP、パワーオブドリームといった"U"というルーツを同じくする団体、さらにはトム・ハワードらUPW勢を率いて真撃まで入ってきたら……いや、ドスカラスJrの次に誰が相手でもおかしくはない。

最後に窪田が以前セコンドで叫んでた、美濃輪、そして横浜道場イズム溢れる言葉を記しておく。

「それがお前のやりたいことか？　お前のやりたいこと全部やれ！」

コレを合い言葉に、もうヒトツ勢いつけちまえパンクラス！　でもイズムとしてはOKだけど、試合中に言われたら困る気もするけどね、コレ。

パンクラス二大巨頭、鈴木と船木が動いた！

田村潔司を▶▶挑発！

「ネオブラNIGHT TIME」で行われた鈴木みのるvs石川英司戦。試合は鈴木押し気味のドロー。しかし、その後の鈴木のマイクで「割と体調がいいんで言わせてもらいます」と前置きした後出た名前は……田村潔司！　インタビューで鈴木は「ネオブラッド予選に選手を出してもらうことになったんで彼のジムに行ったんですよ。もう話す内容も顔つきも10年前と変わってない。それで彼、もしかしたらヤメちゃうかもしれないじゃないですか。『もう一回試合しようよ』って言ったら『何言ってるんですか』って笑われたけどね。リングはどこでもいいし、ルールは何でもいい。やることが大事なんですよ、俺たちにしか出来ないことをやりたい」と超前向き発言。鈴木も田村も選手生命の精算の時期に来ていることは間違いない。ならば一戦一戦を自分にとって、格闘技界にとって意義のある物にしなければならないとは気づいているはず。実現すればおそらく最後のUWF選手同士の試合であり、互いのこの10年間が何だったかを示す一戦。実現するなら中立マットであり、既にパンクラスvsU-FILE-CAMPの対抗戦が実現しているDEEPが濃厚……かと思われたが、難航している模様。

主演映画公開▶▶決定！

さて引退後すっかり顔を見せなくなった船木プロデューサー（ネオブラで久々に登場）。某現場監督風に再ヒクソン戦に向け秘密トレーニングでもしてるのか、はたまた某CEO風に日本刀でも…と思いきや、映画撮影中なのでした。しかも今度は主演！　それが『SHADOW FURY』だ。舞台はクローン人間を生み出すことが可能になった未来。しかし倫理的問題から世界的にクローン人間の開発は禁止される。だが科学者ドクター・オーは自らを認めない会社への復讐のためにクローンニンジャ・タケルを完成。元同僚の博士たちを襲うタケル、それを止めるべく現れたのは賞金稼ぎのマドソン。彼はタケルを止めれるのか……というストーリー。しかしこの映画、船木がやりたくなるツボをかなり押さえてる。タイトルからして船木がこよなく愛するブルース・リーの『FIST OF FURY』を思い出すし、役どころは松田優作が演じた『ブラックレイン』でのヤクザ・佐藤風。ついでに言えばドクター・オー役は『ベストキッド』のパット・モリタだし、またルッテンも共演、とおそらく気合い入りまくりの一本。まずは今年の東京国際ファンタスティック映画祭（10/26～11/2）を待て！

http://www.spike-screen.net/shadow/

紙の新聞

●マット界の1ヶ月丸わかり●

編集長／堀江ガンツ

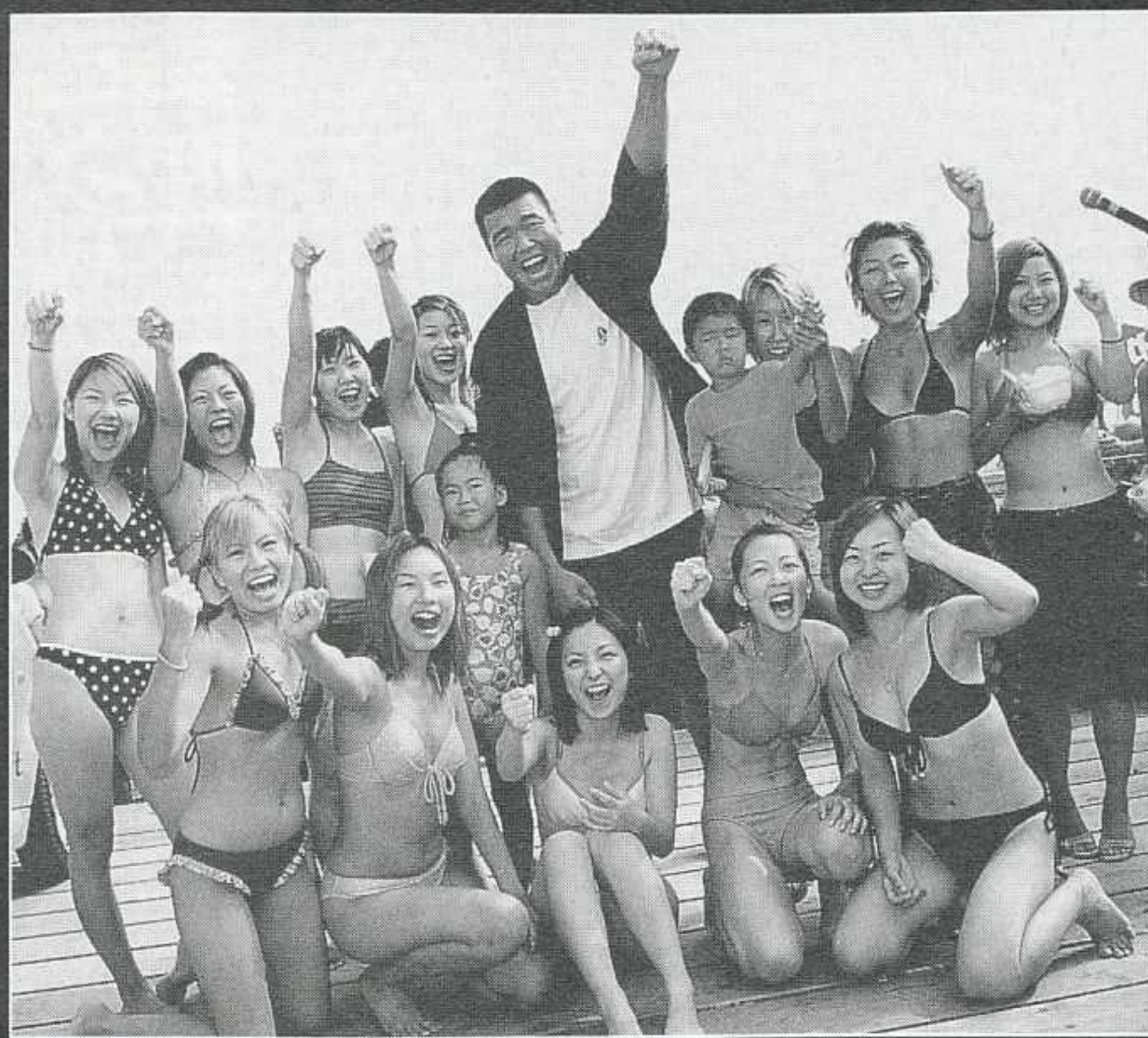
7/23 ↓ 8/19

安田が失神KO負け、藤田がミルコにまさかのTKO負けを喫し、K-1軍vs猪木軍が奇跡的な盛り上がりも見せる中、猪木軍の総大将・小川直也の今月のトピックスは、由比ヶ浜に海の家オーちゃんハウスをオープンしたという、呑気この上ないもの 青い空、青い海、水着の女の子たち……ああ、今年も海には行けなかったなぁ、とあきらめの夏

7/27

【全日本女子プロレス】

モンスター・リッパーさん死去

女子プロレスの歴史に名を残す最強外人女子プロレスラー、モンスター・リッパーがこの日、カナダ・カルガリーで死去していたことがわかった。リッパーはビューティーペア時代から90年代前半まで常にトップ外人として活躍。ジャッキー佐藤から赤いベルトを強奪したりしながら、ブル中野を全盛期に苦しめるなど、世界的に評価される全女マットで、3世代にまたがってトップレスラーであり続けたことは特筆される。また全米メジャー、メキシコマットでも暴れまわるなど、まさに怪物レスラーであった。

【全日本女子プロレス】代々木第2体育館

全女名物長時間興行勃発!

バーリトゥードで行われる伊藤薫vsエリン・トーヒルのジャッジをアレクが務め、ケアーとルッテンがトーヒルのセコンドに付き、藤田和之が観戦来場と、男子総合から豪華なメンツが集合した全女のビックマッチ。そして当然のように全女ビックマッチ恒例の長時間興行の炸裂! ホイスvs桜庭を待ち続け、糖分が減ったため藤田に負けたケアーにすればシャレにならない大事だ。2日後にヒーリングに負けるのも、しょうがないのである。全女、無意識のうちに霊長類ヒト科最強を撃破!

7/24

【新日本プロレス】

ドラゴン、またしても三冠挑戦発言

私の記憶が正しければ、毎年毎年「今年が最後の出場」と宣言しながら、次の年も出場している気がするドラゴンのG1。ほとんど一年中「閉店セール」をやってる商店街の宝石屋みたいな男であるが、ドラゴンみんなが気づいているのも知らず、今年もこんなトンデモ発言をしてくれた。「もしG1・7連戦を戦い抜いたら、オレを挑戦者に選ばざるをえない、武藤はオレを挑戦者に選ばざるをえないんじゃないかな」最初から途中脱落を前提にして、なぜか7戦闘っただけで挑戦権を要求するという、ずうずうしいにも程があるドラゴン。でも結局毎回実現しないから誰も気にとめないのであった。

7/23

【新日本プロレス】

ドラゴン、リングスとの交流見送る

「これは新日本がリングスにもちかけた話」「オレがKOKルールで闘ってもいい」など、先月まではリングスとの交流にノリノリのドラゴンだったが、この日突然「8月11日にリングスマットに上がるとは言っていない」という屁理屈をくりだし、勝手に時期尚早という結論を出した。いつものコンニャクドラゴンと言ってしまえばそれまでなのだが、今回の交流延期は、冷静に分析してみるに、ドラゴンが勝手に前田と話を進めてみたものの、例によって決定権を持ち合わせていないドラゴンのリングス出陣命令に、きっと誰も従わなかったということなのであろう。

7/23

【ZERO－ONE】サンクス本社

破壊王シリーズ第3弾発売!

破壊王弁当、破壊王爆盛きしめん、破壊王バーガーなど、常識を無視した高カロリーメニューで、ダイエットばやりの世間に風穴を空けた、サンクスの「破壊王シリーズ」。その第3弾が遂にこの日から発売された! 今回は夏らしくスポーツドリンクで、その名も「破壊王のアクアエナジー」! もちろん破壊王シリーズだけにただのスポーツドリンクではない。当初は巨大な一升瓶ペットボトルでの販売も計画されたが、冷蔵庫に入らないという理由で断念。結局はマグネシウムが通常の6倍入っているという、"飲むとうふパン"とでもいうべきものとなった。破壊王シリーズ初の身体にいい商品である。

8/12

【JTC】
水道橋フィットネス水道橋

リングスとパンクラスが同じ組織に!?

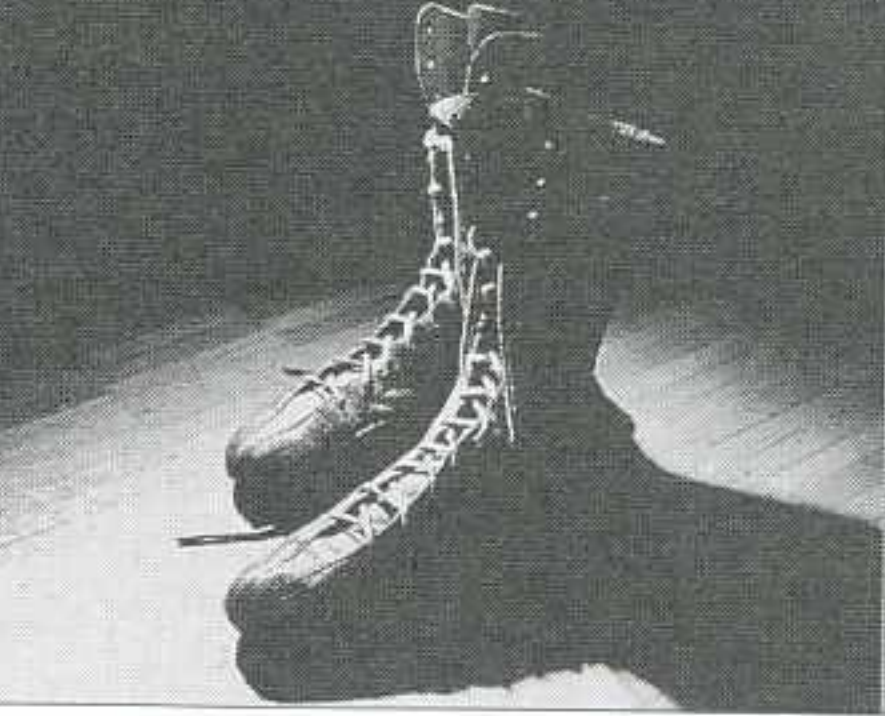
アマ統一機構作りを着手している「JTC」にリングスが参加することが発表された。犬猿の仲のリングスとパンクラスの交流は個人的な参加としてはあったが、団体の方針としては初めだけにアマチュアの交流とはいえ快挙といってもいいだろう。これをきっかけにいずれはプロ同士の交流戦が期待されるところだが、中量級がメインのパンクラスに「ホンナラ、アターエフを出そうやないけ!」と新日本を凍り尽かせた前田の危険で冷酷な潰す気満々のマッチメイクで、また距離が遠くなる可能性もありえるのである。

8/8

【オフィス北野】
グレートアントニオ

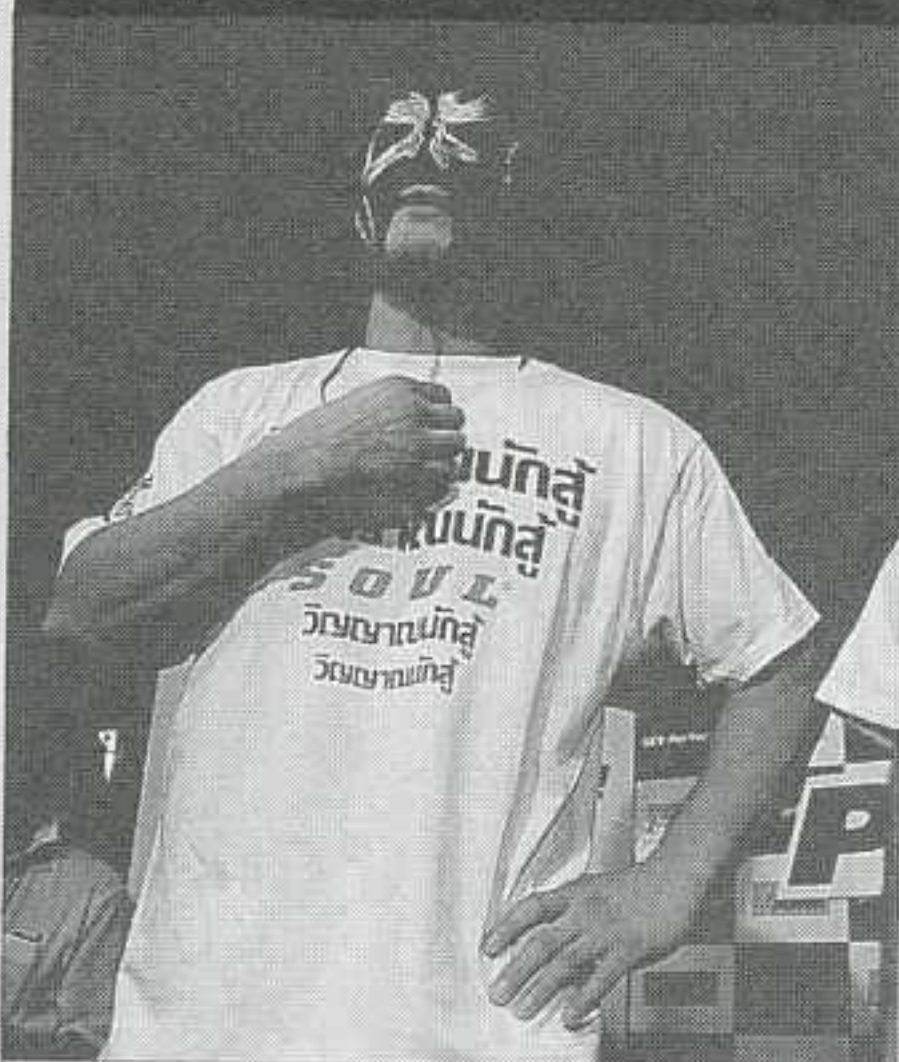
浅草キッド、恐喝!

この日、東京・神田の『グレートアントニオ』で「キッドTシャツ」発売を記念して浅草キッドが即売会を行った。先日の東スポカメラマン恐喝事件を彷彿させる前田日明を意識した、黒いサングラスを装着してあらわれたらしいご両人はフイルム抜き取り事件をひと通り演じてみせた後、集まったファンひとり一人にサイン有り、撮影有り、張り手有りの心づくしのサービス。イベント終了後も、○−1チケットやビデオデッキが当たるジャンケン大会を行うなどお客さんの心を掴んで離さない進行ぶりはさすがの一言だった。(ボン)

8/5

【新日本プロレス】
大阪府立体育会館

仰天! キムケンが戦線復帰熱望!

「ワールド・プロレスリング」での毒にも薬にもならない解説でお馴染み、我らが"歌うスカウト部長"キムケンこと木村健悟が、突如試合出場を熱望した! やはりG1クライマックスを毎日解説席で見ているウチに、レスラー魂が燃え上がってきたのかと思えば、本当の理由は「やっぱり現役じゃないとだめなのかな。足を止めてくれないんだよね」……なんと! 会場で即売会を開いている自分のCD(「若者へのメッセージソングです(健悟・談)」)の売り上げが芳しくないのを、嘆いてのものだったのだ。CDを売りたいためにリングに上がるなんて……らしくもないぜ。

7/28

【PRIDE】

ハイアン、石沢戦は「体調50%で勝つ」

『PRRIDE・15』前日のこの日、ハイアン・グレイシーがようやく来日した。桜庭戦で全身青いテーピングまみれで登場したように、負けそうな時は言い訳を用意してそうな姑息なムード漂うハイアンは、今回も「昨年末に肩を痛めたので、2ヶ月半しか練習ができなかった。体調は50%だ」と、誰もが二ヶ月半あれば十分だろとツッコミたくなる発言を堂々と吐いた。さすが腐ってもグレイシー。そして翌日の試合ではやっぱり疑惑の負傷レフェリーストップ。こんな男と因縁が生まれたカシンが不憫でならない。

8/13

【新日本プロレス】

ドラゴンが永田&秋山のタッグ結成あと押し

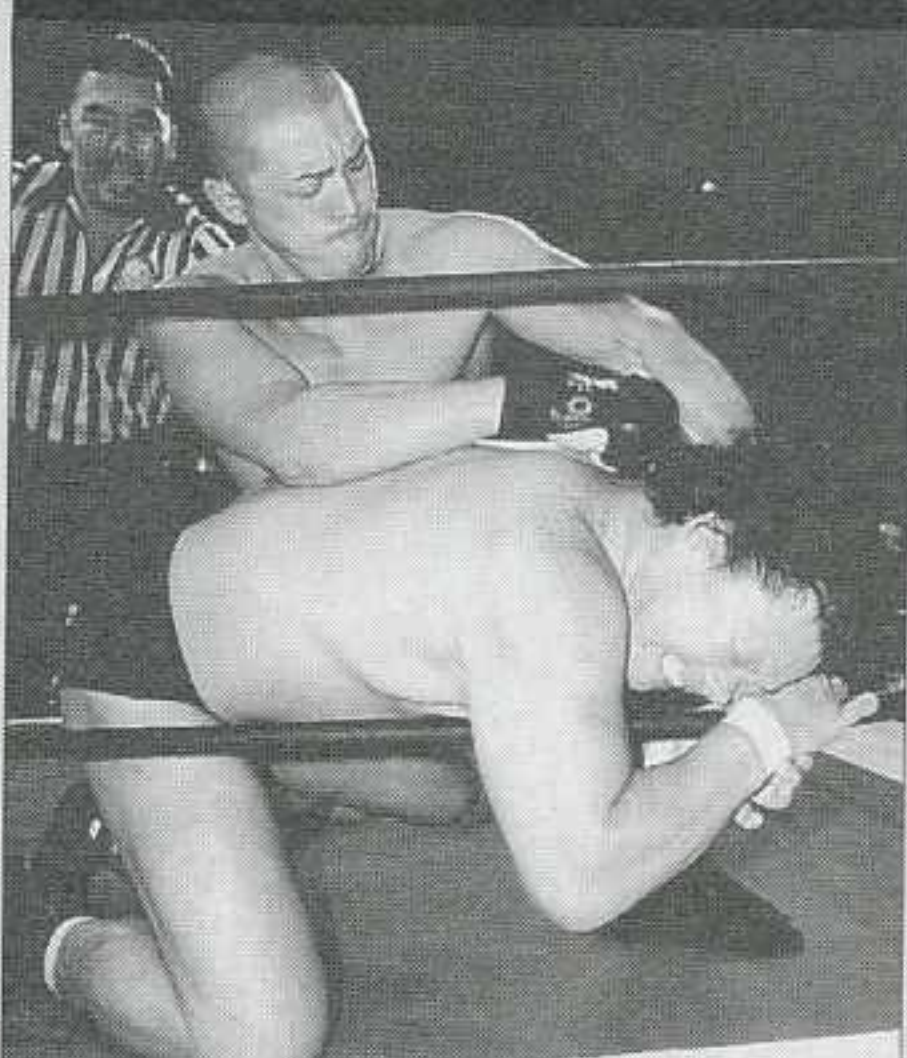
永田の「秋山とタッグを組みたい」宣言を受けて、話のわかる大人を演じたいドラゴンが、永田&秋山結成実現をあと押しすることを明言した。ドラゴンは「今、最ももいい状態にある2人が組んだらすごいことになるだろうね。これから三沢社長と話し合い、ぜひ実現させてあげたいね」とあくまで前向き。……しかし、おかしい! いつもなら、このあと「オレと三沢がタッグを組んで彼らと闘ってもいい」とかなんとか、自分の欲望を口にするハズなのに、この日はそれがなし。こんなのドラゴンじゃない!

8/12

【新日本プロレス】
両国国技館

T2000に超巨大メンバー加入!

新日本に大巨人を超える超巨人が一挙にふたりも現れた! 超満員となったG1最終日、前日準決勝で敗れ終戦を迎えた蝶野が、巨大な隠し球を出してきた!「新しいT2000のメンバーを紹介する!」と呼び出したのは、T2000らしくないことこの上ない220センチのジャイアント・シン。そして、実はDEEP参戦の噂もあったメキシコの超巨人ジャイアント・シルバが登場。9月シリーズにも参戦が決定したこのふたり、近年日本人ばかりでちっとも面白くない新日本が蝶野の手腕で少しでも面白くなって欲しいものなのである。

8/6

【新日本プロレス】
大阪府立体育会館

ドラゴン、村上の無法に怒る!

ドラゴンが自慢のパーマヘアを怒りで震わせた!「今年が最後」と誰も信用していない決意を胸に抱いて、選ばれし者の闘いG1に挑んだドラゴンにとって、無法ファイトでかき回す村上がゆるせなかった! この日も村上はドラゴンをリングしたにけ落とすなど、きっと本人も「ちょっとやりすぎちゃえ」と思いながらの大暴走。これに激怒したドラゴンはなんと! G1史上最短の36秒で村上を秒殺してみせた! でも技は首固め、ダメージゼロの丸め込み技…おおよそ制裁にはほど遠いフィニッシュだった。そしてドラゴンは叫ぶ!「このままじゃすまさん!」

7/29

【全日本女子プロレス】
全女ガレージ

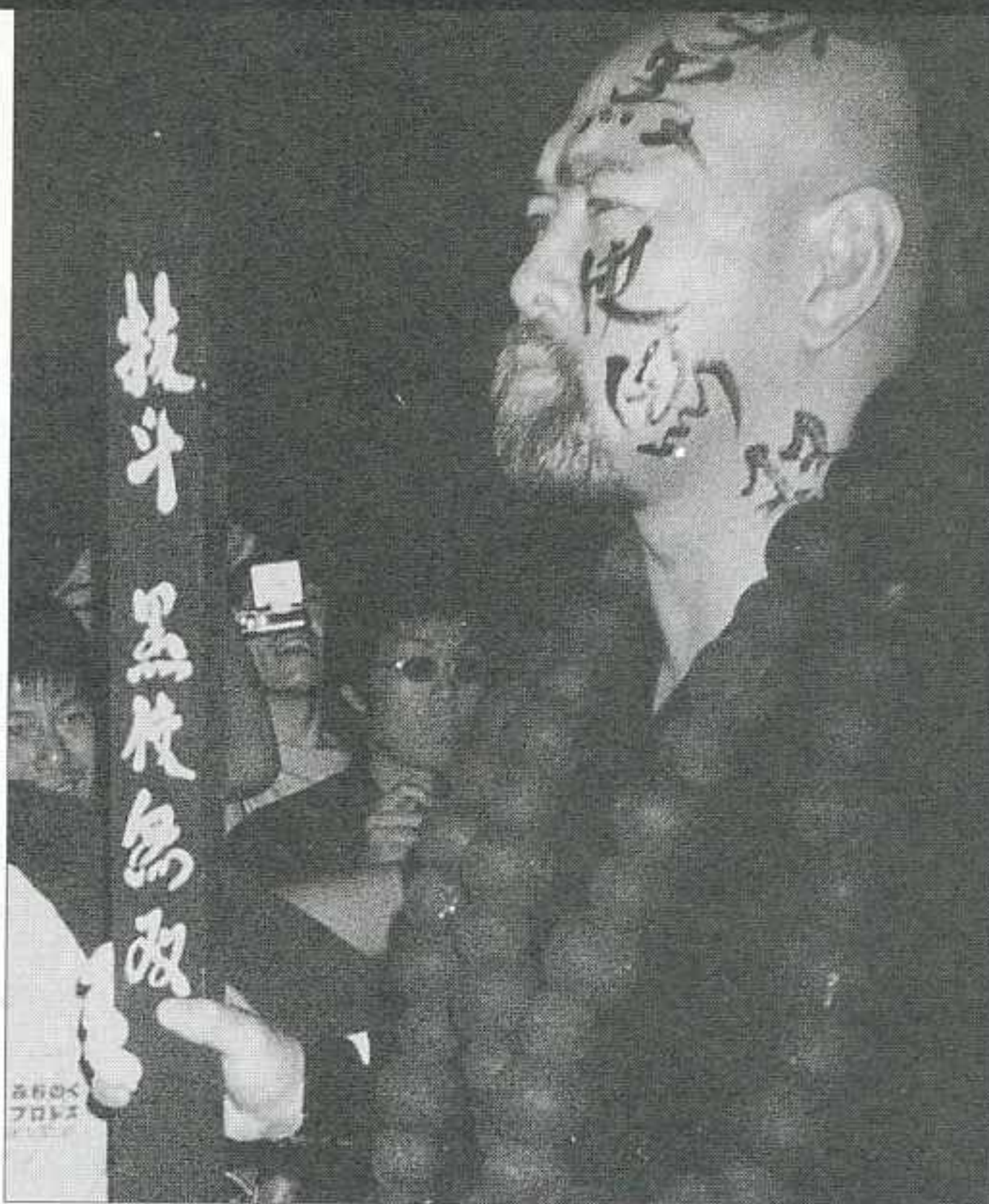
ガレージからネット生中継!

全女がインターネット生中継を人知れず開始! 月に1度のガレージマッチが自宅でお手軽に見れるようになりました。これに伴い、試合前には本誌でもおなじみ、ハチミツ二郎のお笑いユニット、カミナリボーイズのライブや、その日のゲスト解説者(前回は山本リンダ!)のトークショーも開始、もちろん一緒に見れちゃいます。おまけに毎週選手のプチレポート映像が更新、翌月にはそれをまとめたDVDをもれなくプレゼント、と至れり尽くせりのコンテンツ。生中継を見逃しても、翌日からいつでも何回でも見れちゃいます。有料だけどね。詳細は http://www.radiat.net/zenjo/index.html まで。(ジャイ子)

8/19

【みちのくプロレス】
ニューワールド仙台

みりのくプロレス観戦記 武藤様が黒使無双に!

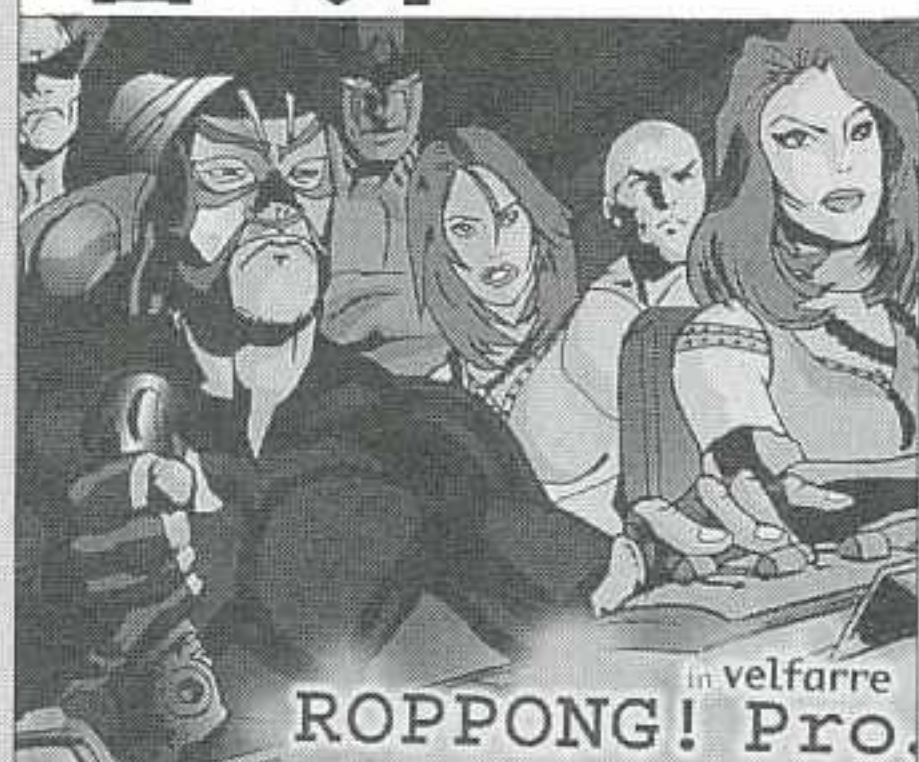
同日、私の地元さいたまスーパーアリーナではK-1が開催されていた。仙台まで行ってしまうことに少しバカだなぁと思いつつも、K-1に行くという発想が全く浮かばなかった。むしろ何故そっちを見に行くのかと聞きたい。みちのくだろ! この日は! 仙台駅からバスで40分という帰りの新幹線の時間をいやがおうにも不安にさせるニューワールドの敷地内をしばらく歩くと、入場を待つ長い長い人の列が目に入った。すぐ裏には馬小屋があったりする素敵な駐車場に作られた特設会場には、想像以上に大勢のお客さんがつめかけていた。
いつのまにかマッチョ・パンプという名前になっていたミステル・カカオvs北海珍念、カレーマンvsペロ・ルッソ、結局ニセの金メダルを返されてしまったつぼ原人vs矢樹広弓、という正直に言えば別にどっちが勝ってもいいかな、と思える試合の後、まったりしてしまった目を奪われたのが西田・折原vs東郷・サイキックの試合だった。イヤになるほどの東郷の強さと、目をおおいたくなるようなエゲつない攻撃(折原、大丈夫か?)ぶり。そしてそれに立ち向かう血まみれの西田。あんまりスゴかったので、今後も東郷には心からのブーイングを送りたいと思う。絶対に。メインは武藤敬司が新しいキャラクターで登場するという。人生の白使に合わせて黒使という名前が有力候補だったが、フルネームは黒使無双。ダジャレかよ!とは思ったものの、間近で見る武藤は隣りの小学生とともに「か、カッコいぃ～…」と呟いてしまうほどカッコ良かったので、この際何もかも許す事にした。そして、よくよく考えてみると私には白使と人生の違いさえも良くわからない。そして「武藤でもない、ムタでもない。その名は黒使無双!」って言われてもやっぱりどう見ても「黒使無双というものをやっている武藤敬司」でしかないのだった。白使とそろって披露したちょっとヨロヨロした拝み渡りも、客の声援に合掌でこたえる仕草も、白使のように技を出す前に拝んでみたらカットされちゃったりするのも、もう全部もはや「武藤様がこんな所でこんなことを」という、大観音像を拝むような心境だった。今になってみると「プロレスってそれでいいのか私!」とか自問自答したくなったりするんだけど、それでも私はアレが見たかったのだなぁ、と思ったのだ。そして本当に見られて良かったと思えたし、ザ・グレート・サスケのコーナートップからのケブラータ(リング下はコンクリート)を見せられたりすると、やっぱりスゲェやぁってワクワクして「ワン!ツー!あぁあ」なんて膝を叩いてしまっている己に気がついて1人恥かしくなってみたりした。なんだかんだ言ってもこういうの好きなんでしょ、と言われているみたいで照れくさいのだけど、実際埼玉からわざわざここに来ている自分がいるし、今日くらいは素直に「うん」と言ってみようかな、と。はい。見られて満足でした。みちのくLOVE。(さささぃ)

8/13

【新日本プロレス】
新日本プロレス事務所

新日が清原取りに名乗り!

ムード歌謡界帝王、我らが木村健悟スカウト部長が、CD「稲妻伝説」の売り上げがちっとも伸びないことにヤケになったのか、巨人軍の格闘番長・清原和博のスカウトを宣言した!「冗談ではなく、本気です。ケガはさせません。オフの間にエキシビションでいいから、出てほしい。相手は清原君が決めていい。1月4日の東京ドーム大会のリングを用意しますよ」と、猿顔を真っ赤にしながら熱弁。かくして、こうして清原が選んだ相手はヒクソン・グレイシー。清原vsヒクソンのゴングが鳴るなんてことになったら面白いのだが。

番 外

ROPPONG! Pro. in velfarre

【六本木プロレス】
六本木ベルファーレ

新宿プロレスが六本木プロレスに変身?

新宿のキャバレーで行われていた新宿プロレスが8月5日の大会をもって一端クローズ。最後のジュクプロはギッシリと客も入り、客席では飲めや歌えやの大騒ぎ。ジュクプロ恒例のストリップショーや、キャットファイト、芸人さんによるショータイムも大盛り上がり。なぜだかBOXシートでキャバクラ嬢と観戦していたターザンも「今日一番面白かったのは試合じゃなくてショータイムですよぉ!」と太鼓判。大盛況のフィナーレを飾ったジュクプロは9月から六本木プロレスと名を変え、ヴェルファーレで大会を開催するという。六本木といえばサスケ社長の出番! ジュクプロ以上に張り切るサスケの姿が見られるのは間違いない。

8/19

【掣圏道】
メッセ昭島

タイガー、コブラvsマスカラス兄弟

「先日行われたDEEPで、パンクラスの謙吾選手を“僅か50秒で病院送り”にしたドス・カラスJr選手がセコンドについています!」と、そんなバッグンに面白いコールが試合前にあったタイガーマスク&コブラvsマスカラス兄弟のメインイベントは、入場シーンから観客が総立ちになるなど猪木軍vsK-1の裏番組とは思えない盛り上がりをみせた。メインの見せ場は何といってもドスとコブラのマスクの剥がし合い。コブラはかなりドスの素顔を露出させ大暴れ! そんなコブラの話を聞いて謙吾が病院のベッドからうらやましがっているという話はまだ入ってきてない。

8/19

【K－1ジャパン】
さいたまスーパーアリーナ

ニコラス、K-1ジャパン制覇

8月19日、オレたちはよく前半、あのつまらなさと退屈に耐えた。 自分をほめてやりたい。K-1ジャパンのトーナメントは、決勝戦までだれきっていた。やっと本気になって見たのはニコラス・ペタスと武蔵戦。しかも「武蔵、負けろ。お前が勝ったらK-1ジャパンは終わる」とそればっかり考えていた。 そうしたらニコラスが劇的な勝利。あれがなかったらこの日の興行は暴動もの。二度とK-1ジャパンなんか、みんな見に行かないと思ったはず。 この日のMVPはニコラス、君だよ。(ターザン山本)

8/19

【K－1ジャパン】
さいたまスーパーアリーナ

ここにも、K-1に挑んだプロレスラーがいた!

K-1対猪木軍団が開戦となったこの日、藤田、安田以外にもK-1に挑んだプロレスラーがいたのは知っているか。その男は平直行。「平はK-1中継でよく見かけるよ」と言う人もいるだろうが、K-1ルールはこれが初めて。黒澤浩樹と闘った平は開始早々バックブローでダウンを奪うと持ち前のトリッキー殺法で黒澤を翻弄。最後は再びのバックブローで流血TKO。平は「今日は猪木軍団も出るけどボクもプロレスラーですから。バッグブローも実は反則のヒジなんですよ。レスラーは5カウントまでOKなんで(笑)」というわけで平直行選手の勝利は無効とさせていただきます(笑)。押忍!

紙のプロレスRADICAL Back Number Information

G1賞金で克彦の分も買っておいてやるか…♪

オレは言うキャラじゃないけど……

これからも『紙プロ』をよろしく！

『紙プロ』を見れば秋山準がわかる！ 今スグGET!

秋やんインタビュー掲載バックナンバーはこれだっ！

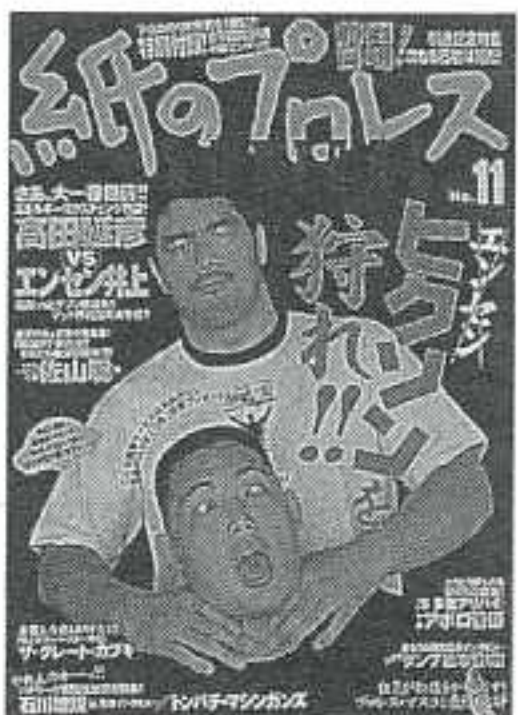
No.29 ★ノア解禁！ 箱船の舵を握るのは誰だ！ 秋山準初登場記念号
ノア勢フルメンバー／桜庭和志／ジャンボ鶴田夫人／TKおかん／仲野信市／里村明衣子

No.30 ★怒髪天!! 新エース秋山準、旗揚げ戦斬りまくり号
小川直也／村上一成／金原弘光／桜庭あつこ／高阪剛／お帰りなさい長州力／永源遙

No.39 ★6・6新日本出撃前夜…秋山準インタビュー記念号
前田日明／山本・小川襲撃／金原弘光／田村潔司／田上明／藤原敏男／桜庭和志

No.5★高田延彦、樹海へ……ヒクソン戦直前大特集号
高田延彦／タイガーキング／長与＆飛鳥／藤原vs荒川／Puffyも登場

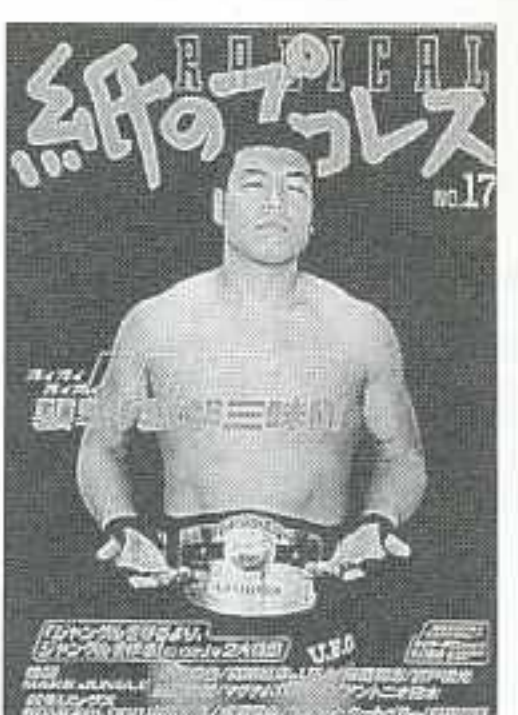
No.7★田村潔司・『紙プロ』初のロングインタビュー記念号
木村健吾／前田日明／富宅飛駈／垣原賢人／冬木弘道／松永高司／T・アボット

No.10★前田日明vsエンセン井上スクープ対談実現記念号!
高田延彦／谷津嘉章／サスケVS松永高司／北沢幹之／冬木弘道／T・山本

No.11★衝撃対談・高田延彦vsエンセン井上が実現!!
前田日明／高田VSヒクソン大予想大会／福田雅一／ザ・グレートカブキ

No.12★高田延彦、2度目のヒクソン戦直前特集号! (完売間近)
高田延彦／桜庭和志／菊田早苗＆郷野聡寛／志生野温夫／アポロ菅原

No.13★アレクサンダー大塚・『PRIDE』大ブレイク記念号 (完売間近)
高田延彦／前田日明／谷津嘉章／浅草キッド／ケンドー・ナガサキ／松永光弘

No.15★小川直也、橋本を破壊！ 1・4ドーム大激震号
前田日明／カレリン／馬場さん追悼特集／語ろうマサ・サイトー／佐野なおき

No.16★猪木！ 前田！ エンセン！ ロングインタビュー連発号
田村潔司／坂田亘／高阪剛／山本喧一／M・コールマン／語ろうジャンボ鶴田

No.17★UFO襲撃三昧！ オーちゃん大特集号!
桜庭和志／高田延彦／猪木／前田日明／山本宜久／成瀬昌由／タイガー戸口

No.19★今度はM・ケアー！ 高田延彦の新たな挑戦!!
小川直也／高田延彦／前田日明／佐山聡／宇野薫／成瀬昌由／ドン荒川

No.23★1・4新日&『PRIDE』GP2大ドーム特集号
高田延彦／大仁田VSエンセン／前田日明／ヒクソン・グレイシー／ヘンゾ

No.24★頭打ちすぎたかアレク!! 『PRIDE』GP特集号
桜庭和志／田村潔司／堀辺正史／サスケ×矢追純一UFO対談／守山竜介／WWF

No.25★格闘ロマン続行ーッ!! 藤田和之『紙プロ』初登場記念号
田村潔司／前田日明／小川直也／村上一成／石川雄規&小路晃／ミスター高橋

No.26★世紀の大一番ホイス戦直前！ やっちゃてくれサク!
前田日明&田村潔司／桜庭和志／小川直也／大仁田厚／村浜武洋／斉藤彰俊

No.28★オーちゃん、ヒクソン襲撃準備完了記念号
前田日明／田村潔司／鶴田夫人／ヘンゾ・グレイシー／TKおかん／堀辺正史

No.31★歴史に残るベスト興行『PRIDE.10』大特集号
小川直也／桜庭&TK／永源遥／ユセフ・トルコ／川田語録／田村潔司

No.32★リングスvs新日！ 10・9新プロレスvs純プロレス開戦！
小川直也／高田延彦／サク／前田日明／金原弘光／藤波語録／ラッシャー木村

No.34★「猪木祭り」、「長州vs橋本戦」を斬りまくり！ 特大号
小川直也／高田延彦／T・オーティズ／金原弘光／ヴォルク・ハン／藪下めぐみ

No.35★「純プロレス」を考え倒せ！ 「純プロレス」徹底検証号
橋本真也／大仁田厚／馳浩／杉浦貴／ジョー樋口／リングスKOK大特集

No.36★面白くなきを面白く！ 「純プロレス復興記念号」
橋本真也／三沢光晴／高山善廣／前田日明／桜庭和志／金原弘光／鋼野ゆき江

No.37★小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻号
小川直也／橋本真也／安田忠夫／村上&小路／田村&ヘンゾ／アブダビ大特集

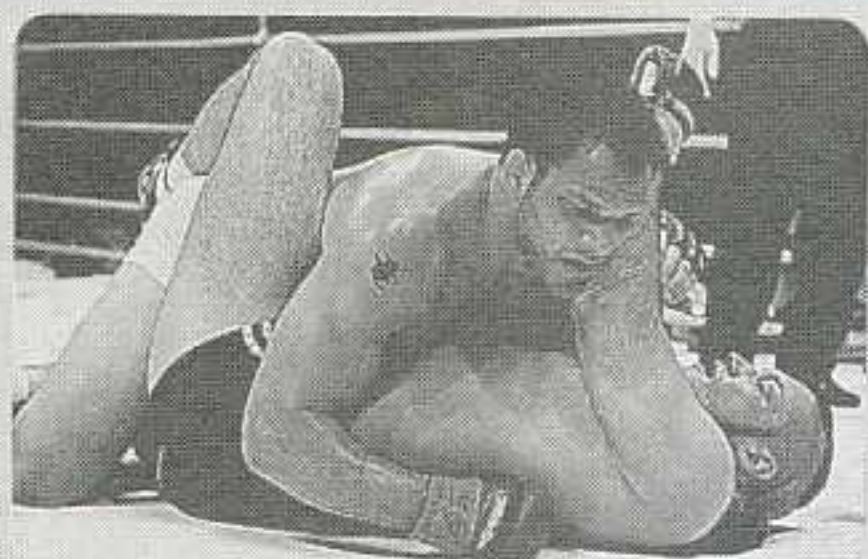
No.38★高田の"忘れ物"は小川!! ラスト・オブ・「もう一丁ッ!!」
高田延彦／小川直也／ジェラルド・ゴルドー／阿修羅原／力皇・杉浦・丸藤

No.40★ボクらが望んでいるものは地上最強のプロレスだ。殺れっ!!
小川直也／金原弘光&高山善廣／三沢光晴／大谷晋二郎／ガチンコ座談会3連発

【バックナンバー申し込み方法】

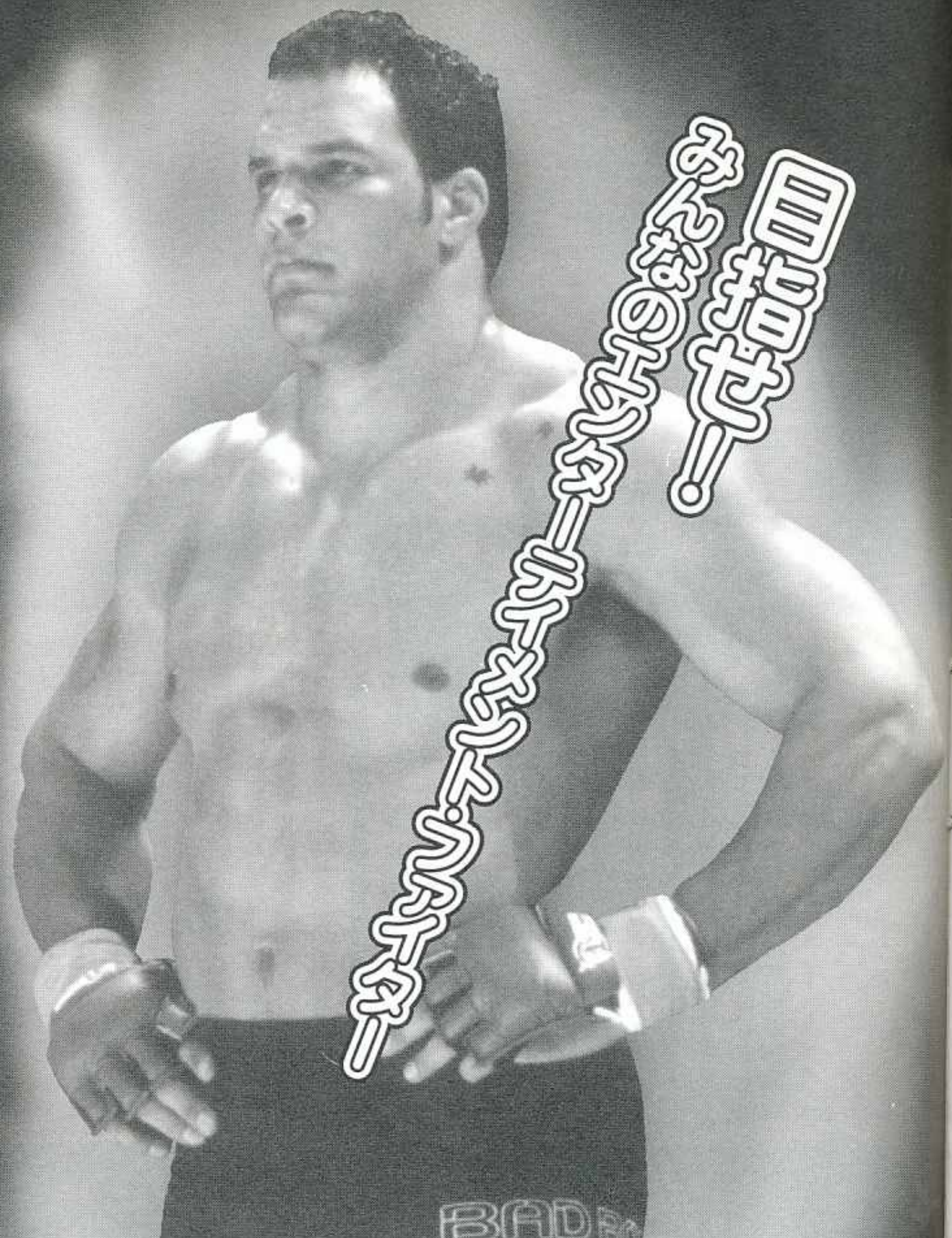
●お申し込みは郵便振替と現金書留の2通りになっております（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）
【郵便振替】00130-3-769154（株）ダブルクロス　【現金書留】〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス
●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。
●代金は、NO.5～NO.10=680円　NO.11～NO.19=780円　NO.21、NO.24～NO.32、NO.35=840円　NO23、NO.33、NO.34、NO.40=880円　NO.36～NO.39=840円　送料1冊=310円　2冊=380円　3冊～4冊=450円　5冊=520円　6冊以上=700円　※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。
●『紙のプロレス・RADICAL』バックナンバー常備のリスペクト店
アイドール新宿店、新宿ファイター、大山アメリカン、プロレスマニア館、チャンピオン東京、チャンピオン大阪、リングパレス、バディスラム、タコシェ、レッスル渋谷店、レッスル池袋店、書泉ブックマート、書泉ブックタワー、書泉グランデ、ワールドスポーツプラザKINGS（池袋店・渋谷WEST店・新宿アルタ店・名古屋店・大阪店・札幌店・福岡店）、グレート・アントニオ

★NO.1～NO.4/NO.6/NO.8,NO.9/NO.18/NO.20～NO.22/NO.27/NO.33は、完売!!!

『PRIDE.15』またしても膠着!!

『PRIDE.15』で下級生のヒーリング君にボコボコされたケアー君。登校拒否の可能性も!?破壊王先生、ケアー君を助けて!!

目指せ!みんなのエンターテイメント・ファイター

特別ボーナス提示でもダメだった…

そんなケアーに我々は『紙プロ』本誌を半額にすることでやる気にさせます!

第8号 1994年1月号
特集 さらば新日本プロレス

仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス&天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！ 20ページにも及ぶ大特集！

50%

第13号 1995年3月号
特集 道場破りとは何か?

安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！ 山本小鉄&上田馬之助道場破りとは何か?インタビュー／『平成ファミコン・プロレス』馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦

50%

第14号 1995年4月号
特集 神秘とは何か?

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

50%

第15号 1995年5月号
特集 インディペンデントの逆襲

あんた誰? 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－とは何か? 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－1三兄弟（当時）インタビュー

50%

第16号 1995年6月号
特集 新日本凸凹大学校

『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！ マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！ 糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！

50%

第17号 1995年7月号
特集 実況パワフル北朝鮮

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木&永島勝司・村松雄親・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

50%

第19号 1995年9月号
特集 さようなら紙のプロレス

『紙プロ』を偲んで… ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ&高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会

50%

第21号 1995年12月号
特集 幻的格闘技

古武道を通して『強さとは何か?』を考える。あの寛水流空手二代目会長が登場・珍法創始者前田日明／ガッツ石松の男汁溢れるインタビューも掲載！

50%

第22号 1996年2月号
特集 この人が喝っ!!

北の国から96' ジョージ高野／『紙プロ』に「ゴング」が来襲！ 小佐野景浩・熊久保英幸／脳味噌グチャグチャウルトラ対談・養老孟司vs前田日明

50%

怒濤のインタビュー16連発
極真とは何か?

松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／廬山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏

50%

パンクラス公式読本[矛]

97年夏、横浜道場所属のパンクラシストを直撃！ 鈴木みのる／近藤有己／山田学／故・長谷川悟史／そして佐山聡、カール・ゴッチも登場だ！

50%

パンクラス公式読本[盾]

97年夏、東京道場所属のパンクラシストが語る！ 船木誠勝／パンクラス非公式座談会／ナゼか、故・ジャイアント馬場vsターザン山本が実現！

50%

紙の前田日明
インタビューという名の鉄拳史

『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で展開された前田日明怒濤のエネルギー史！ 引退直前時のインタビューも特別収録だ。今こそ前田日明を振りかえれ！

膠着ナシな通販方法

●その他の号、「猪木とは何か?」「猪木とは何か? キラー編」「大山倍達とは何か?」は完売しました。どうしても欲しい方はヤフー・オークションで落札してください。

●代金は半額セールのため、8号は¥700→¥350、11号～22号は¥780→¥390、パンクラス公式読本「矛」「盾」は¥1260→¥630、「極真とは何か?」は¥1530→¥630、「紙の前田日明」は送料込みでサービス価格の¥2000となってます。

●送料は1冊＝¥310、2冊＝¥380、3～4冊＝¥450、5冊＝¥520、6冊以上は¥700となります。

●申し込みは現金書留と郵便振替でお願いします（バックナンバーは通販しか取り扱っていません。）

【現金書留】――〒151－0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3－11－3－702 （株）ダブルクロス

【郵便振替】――00130－3－769154 （株）ダブルクロス

●郵便振替の場合は通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。

【「紙プロ」本誌・50%OFFセールショップ】
アイドール新宿店・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京店・チャンピオン大阪店・リングスパレス・バディスラム・タコシェ
それでは行きますかーッ！

PART 2

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座

なぜか近頃、誌面で発表したら命がなくなりそうな芸能界＆格闘技界絡みのタレコミが次々と殺到中。ついつい、どこかの木の幹にでも「●●はホモ！」だのと叫びたくなってしまうほどなのだが、もしかしたらこれはボクの口の堅さを調査しようと企んだ業界の大物たちによる実験なのだろうか？　そして、「じゃあ、●●と●●が仲がいいのも、ホモだから？」などと余計な妄想ばかりが膨らんで順調に仕事が手に付かなくなりつつある書評コーナー。〈e-mail:go@kamipro.com〉

『プロレスのあばき方』
（ターザン山本／エンターブレイン／1400円）

近頃のターザン本では最も読みやすい、この本。クレジットこそ「花のぼんくら編集者」という匿名になっているが、聞き手は旧『紙プロ』編集者・松林貴である。

そんな本で一体、ターザンはプロレスの何をどうあばいているのかと思えば、「これは極秘中の極秘なんだけど、もうわかっていたほうがいいと思うんだよ」とばかりにとんでもないタブーを平気で暴露していくのだから、本当に驚くばかりなのであった。

つまり、こういうことである。

「レスラーは絶対に相手の右半身を攻めてはいけないということを知ってるか？　攻めるのは必ず相手の左半身。つまり、右半身を攻めたら相手は反撃できないでしょ。左半身を攻めていたら、右手、つまり利き腕で反撃できるんだと。逆に言えば、利き腕を攻めてはいけないということ。プロレスラーはまず最初に基本としてこれを教えられる。本当はファンはここまで知らなくてもいいんだけど、これは面白いでしょ。利き腕側を攻めたら、相手は反撃できないから試合がブサイクな形になるわけ。ところがUWFではそれを教えなかったから、UWF勢が新日本に上がった時に若手の選手が右半身を攻めていったんだよね。新日本からしてみれば『なにやってんだ！　何も教えてないのか』となったわけ」

これまでヒールやベビーフェイス、そしてケーフェイやアングルなどの隠語をプロレス業界一早く原稿で使ってきたターザンは、とうとうこんなことまで暴いてしまったのだ！……と言いたいところだが、他には別に大したことを暴いているわけではないからさすがはターザンなのである。

たとえば、こんな調子だ。

「俺はいま、蝶野正洋に対してすごく腹立っているんだよ。彼は言葉で激しくプロレスをしてるよね。またはメディアで新日本に対する会社批判を堂々とやったりしてるでしょ。『藤波は社長を辞めろ！』とか『代わりに俺が社長になる』とか、そういう体制批判をどんどんやって、それが『東スポ』に取り上げられるよね。その発言に対して、坂口会長とかが『なんでこんなこと言ったんだ？』と聞くと、『あれはプロレスです』と言うんだよ。これほどファンをバカにした言葉はない。つまり社長批判、上司批判、体制批判をマスコミに対して言ってるのは、彼からすれば本音ではなくてアングルだと言ってるわけだよね。それを聞いた瞬間に、俺はシラケたというか、腹立って腹立って」

ボクにしてみれば、蝶野のアングルに見せかけた本音の会社批判も、それに本気で怒るビッグ・サカや藤波社長も面白いからまったく問題なしなんだが、ターザンにとってはどうしても許し難い行為だった模様。

続いて、誰よりもファンをミスリードしてきたターザンが「マスコミを信用するな！」とブチ上げて、「騙してるからだよ。つまりマスコミとプロレス団体、マスコミとプロレスラーがベッタリの関係なわけ」などと言い出したりするから驚くばかりというか。それはターザンもだって。

さらに、この調子で「井上（譲二）編集長はヘレン・ケラーだったんだよ！」だの「プロレスファンはユダヤだと思え！」だのといった不可解な発言で暴走義士ぶり発揮するものの、最後は「俺がこれまでに出した答えはすべて間違いかもしらんよ。ただ、俺は俺流を言い切ってるだけだから」とズバリ言い切るいい加減さも完璧なのであった。

『在日はなぜスポーツに強いのか』
（カン・ヒボン／KKベストセラーズ／680円）

謎の男・本末典斗が「週ゴン」誌上で紹介していた、この本。確かに巻頭インタビューに力道山の義兄弟・張本勲や極真会館館長・松井章圭が登場するのみならず、プロレス界からは長州力や前田日明ではなくなぜか「母は日本人で、その母の戸籍に入っていた関係で国籍は日本だった」ものの「朝鮮学校にも通い、民族の誇りを絶対に失わなかった」男、キム・ドクを紹介しているというだけでも断じて評価すべき一冊だとボクは思う。

「小さいとき、どれほど嫌な目にあったことか。『おまえ、ニンニクくさいぞ』とよく言われた。悔しくて、5人相手に大ゲンカしたこともあるよ。強くなって相手を見返したかった。俺は力道山みたいになりたいと思ったんだ」

こうして第二の力道山になるべく日本プロレス入門こそ無事に果たしたものの、ドクが目にした現実はどうやら理想とはほど遠かったようなのだ。

「19歳のときにプロレスの世界に入って、キム・ドクは民族の大先輩である大木金太郎の弟子になった。『韓国人同士がつるんでいる』。そう勘繰って、若いキム・ドクを執拗にいじめる者もいた。『でも、俺は我慢した。どんなことをされても、必死に耐えたよ。絶対に見返してやりたかったし、人に負けたくなかった。その気持ちだけで頑張ってきたんだ』」

皮肉なことに力道山が作り出した業界にまで民族差別が横行しくさっていたからこそ、キム・ドクはこう叫んでみせるのであった。

「プロレスの世界には韓国人が非常に多いが、彼らが民族の誇りをもってやっているか。それを強く言いたい。俺が日本の国籍なのに韓国の名前でやっているのは、祖先が散々苦労したのに、それを忘れちまって逃げるようなこすい人間になりたくなかったからだ」

この決して「群れない、逃げない」姿勢が異常にカッコいいぞ、ドク！　nWoやT2000などの軍団で群れまくっている蝶野は、一刻も早く産経新聞のCMをドクと交代すべきだとボクは勝手に確信した次第なのである。

さて、そもそも『在日はなぜスポーツに強いのか』という肝心の問題についても、ドクの答えはあまりにもシンプルでわかりやすすぎたものだ。

「俺たちの民族は、何よりも具体的なんだ。金を儲けたい、いい暮らしがしたい、腹いっぱいにうまいものを食いたい、差別した奴を見返してやりたい……そういう目標がはっきり見えていたから頑張れたんだ」

なるほど！　……と納得していると、最後にドクはこんなことまで言い出すのであった。

「なんで韓国人が強いか本当のことを教えようか。尻の割れ目の上を見たら、すぐにわかる。韓国人は蒙古斑が濃いんだ。そういうのにスポーツをやらせたら最高。俺なんか、未だに蒙古斑が濃く残っているよ」

つまり、力道山や大山倍達、そして長州力や前田日明といった面々がプロレスや格闘技の世界でトップに立てたのも、すべてはケツが青いおかげだったというわけなのである。そうだったのか！

『USAゴング　オールスター SUPER CATALOGUE』
（総監修・山口雄介／日本スポーツ出版社／700円）

どうせ底の浅いよくあるアメプロ紹介本だろうとすっかり舐めてかかっていたら、なんとWWFオフィシャル雑誌『RAWマガジン』掲載のインタビューを掲載したりで想像以上にコク深かった嬉しい一冊。

とにかく冒頭の、文字通り「ストーンコールド・セッド・ソー！」なスティーブ・オースチンのインタビューを読むだけでも、その素晴らしさはわかっていただけるはずなのだ。

たとえば、「ロウ・イズ・ウォー50本分を分析した結果……相手の急所、あるいは股に攻撃を加えた回数1658回、中指を立てるなどの猥雑行為157回、セクハラ行為128回、小便行為21回」と2000年にインディアナ大学マスメディア研究科が発表したほどのエロレス団体だったWWF。

それがいまでは全米教育委員会＝PTC（不道徳な行為をリング上で取り締まる軍団ライト・トゥ・センサー＝RTCの元ネタ）のせいでエロネタを大幅に自粛せざるを得なくなったものの、「彼らが大騒ぎを起こしたことで、ケツの穴が小さくなった幾つかのスポンサーがフェデレーション離れを起こしたことは知っている」と語るオースチンは、こんなことを言い切ってみせるのである。

「俺に言わせれば、PTCだか何だか知らないが……〝クソして寝ろ！〟だ」

そう、オースチンはリング外でもキッチリとストーンコールドを演じていたわけなのだ――凄え！

……と思えば、「俺はこう見えても保守的であり、堅実に蓄えもあるし、ちゃんと税金も納めている」などと、ストーンコールドとしては別に言わなくてもいいビヨンド・ザ・マットな部分まで馬鹿正直に告白し始めるから、もうビックリ。

「俺の人生は極めてノーマルなんだ。子供の頃は何不自由なく育ったし、両親も良かったし、兄妹たちもまったく問題はなく、ハンティ

ングが好きで、スポーツに励み、学業面でも悪い生徒ではなかった。この仕事に就いてからも、まあ苦労らしい苦労をしているとは思わないし、それはそれで良かったと思うし、俺はそれを誇りに思い、俺の人生なんてこんなものでいいんじゃないかというのが結論だ」

　どうも、隠し事をなくそうとするWWFのやり方にはプロレスラーにとってマイナス面多々もあるような気がしてならないんだが、それでもプロレスラー自身が「みんな、試合のハイスパート（スポット）しか考えていないような気がする。本当は、そこに至るまでの何かが、もっと必用とされているのではないかと思う」などと当たり前のように隠語を使ってプロレスを語っていくコク深さにはボクもシビレを感じずにはいられないのだ。

「俺の復活は早過ぎた。体調万全ではないオースチンをなぜWWFはリングに上げたのかと、ミニコミ情報誌は騒ぎ立てたが『ふざけんなよ！』って。あれ以来、俺はもう、あんなものは読むまいと思ったよ」

　なにしろオースチンは裏情報満載らしい現地のミニコミ誌にまで大っぴらに噛み付き始める始末だったのだが、しかしいくら別冊とはいえ、なぜ『ワーク活字』の殿堂である『ゴング』が、あえてこんな発言を公開したのだろうか？

　そこにはおそらくミニコミ情報誌をベースとしたシュート活字＆田中正志に対する監修者・ウォーリー山口なりの反発があるんじゃないかと、ボクは勝手に解釈した次第なのである。

　確かに「スクリプト・ライター」がストーリーラインを作る「スポーツでもあり、演劇でもある」団体・WWFは、「アメリカにおいて、自分たちがやっていることをプロレスリングと表することなく、スポーツ・エンターテイメントとしてディスクロウジャー……つまり情報を一般公開した」のは事実だ。

　もちろんCEOであるビンス・マクマホンも、大学の講義などで自ら「今まで閉ざされていたプロレスリングの暗黙の領域を自らの口で公開することにも踏み切っている」。

　ただ、そのため日本でも一部で低次元なヤオガチ二元論が蔓延するようになったのだが、断じて彼らは「『プロレスは八百長です』などという野暮な一言で片付けたのではない」のだ。

「我々がやろうとしていることは、皆様と少しでも分かち合うことができるエンターテイメント・ビジネスなのです。ショックTVなのか、人生のパロディなのか……映画でもなければ、完全に演出された舞台でもない。これはスポーツをやる選手達によるエンターテイメントなのです」

　これこそは、日本のプロレス界にも絶対に共通しているはずの真理なのであった。

『豪速球 時速160キロの豪腕日記』（ターザン山本／芳賀書店／1500円）

　いきなり前書きの1行目から「この日記は芸人の浅草キッドと、若手の売れっ子ライターの吉田豪ちゃんが絶賛したものである」と書かれているように、ごく一部では熱狂的に支持されているターザン日記が遂に単行本化！

　なにしろ「部屋のテレビでAVを見るヒマもない。いつもなら必ず見て一発、二発ヌクのだが……」といった赤裸々な私生活から「もうプロレスの原稿は書きたくない。宿題を抱えているみたいでイヤだよ、もう」「野郎たちとプロレスの話をするのは飽きた」といったストレートすぎる本音まで、一切ガードしないで全てをブチまけているから本当に面白いなんてもんじゃないのである。

　それも、「呪いになっていないような日記は〝へ〟と同じである。〝へ〟とは屁のことだ」との無茶苦茶な理屈で、「私の方から関係を切ったものや、何かの理由で相手が去っていったり、人間関係がおかしくなったものは、その後不思議なほどみんな没落への道をたどっている」などと恨み言を言い出したり、そのくせ後に険悪な仲となったサダハルンバ谷川氏について当時は「人徳がありすぎるとしか表現しようがない」と呑気に言い切ってたりしているから、ターザンの変化も克明にわかって抜群に楽しめる一冊なのだ。

　その上、説明もないまま個人名が飛び交う日記を補うべく書き下ろした（「ページが余ったからって無理矢理書かされたから、あれは全然駄目だ！」と本人は憤慨していたが）第1章「ターザンワールドマップ」がまたとんでもない内容だから、騙されたと思って読んでいただきたいのである。

　とにかく、これを読めば「月曜と木曜が燃えるゴミを出す日。金曜は古新聞と古雑誌の回収日。土曜日に燃えないゴミを出す。だいたい朝9時までに表通りに出しておけば大丈夫」だの「家の外には一匹、野良猫がいる。名前はニャウーという。朝、私が目覚めた途端、玄関に来て『ニャー』と泣く」だのと、まったく知る必用のないターザンの私生活が嫌でも全部わかるのだ！

　そしてなぜか、『紙プロ』の面々に関する情報もたっぷりと詰まっているわけなのだった。

「この私の日記を『面白い！』とほめてくれるのが『紙のプロレスRADICAL』の事務所を仕事場にしている吉田豪ちゃん。豪ちゃんは1ヶ月、20本を軽く超える連載を持っている若手の売れっ子ナンバー1のライター。ターザン山本を面白がってくれる人の中では、ベスト3に入る。でも私はなぜか豪ちゃんの文章はほとんど読んでいないというひどい人間なのだ。そのことは豪ちゃんも先刻承知済み。私の性格をよくわかっていて付き合っているのだ」

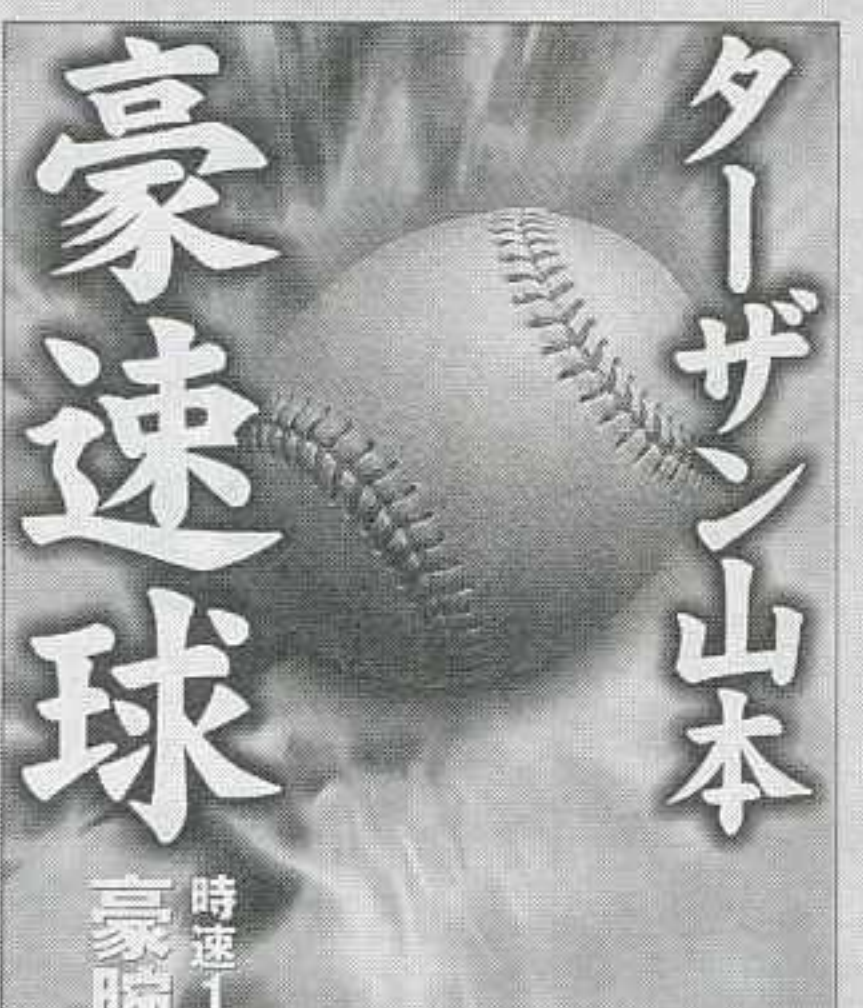
　よく読むとボクを一切誉めていないことに気付くんだが、こうしてスペースがたっぷり割かれているだけでもとりあえず喜ぶべきなのだろう。

　それは、毎日のようにターザンからかかってくる電話の応対をしている他の編集部員に対する失礼極まりない扱いを見れば明白なのである。

「『紙のプロレスRADICAL』にはもうひとり愛すべき男がいてそれは、盛岡の田舎から東京に出てきた〝チョロ〟。私は彼の本名が何であるか知らない。〝ガンツ〟もいる。彼の本名もわからない」

　さらに山口日昇に至っては、こうなのだ。

「山口さんとは15年以上も前からの知り合い。彼はプロレスラー、山田恵一のファンだった。山田選手を追っかけてイギリスまでいったファン。そんな追っかけファンが今や『紙のプロレスRADICAL』の発行人兼編集長になっているのだ。凄いことである。それとにかく彼の奥さんは最高」

　結局、山口については単なる「追っかけファン」扱いしただけで、後はひたすら山口夫人を絶賛（日記でも「この人は人間ができている。性格が抜群にいい。年齢からするとおばさんの部類にはいるが、心は天使のような人だ。あんな天使は世の中を探してもめったにいない」とまで褒めちぎっていた）し始めるから、つくづくとんでもない男なのであった。

　ターザンがそこまで山口日昇に冷たかったのは、どうやらこんな理由だった模様。

「最近の『紙のプロレスRADICAL』はどうにかならないのか？　雑誌に求心力がなくなった。あれではもう一部のファンしか相手にできないどこかのインディー団体と同じである。『紙のプロレスRADICAL』創刊号はこの私がレスラーを差しおいて〝表紙〟になっているのだ。その意味を山口編集長は思い出す必用があるだろう」

　求心力うんぬんはともかく、それは明らかに思い出すポイントが違うはずなのである。ターザンが表紙だったから、創刊号は大量に返本されたんだよ！

　なお、前の彼女に「会場に行かなくちゃダメ！」と怒られてから現場主義になったターザンは、自分のことを棚に上げて「『紙のプロレスRADICAL』の連中は、試合をあまり見ていない。また試合を一生懸命に見ることもしていない。これでは話にならない」とも断罪しているが、これも明らかに勘違い。会場に行かないのはボクだけであり、むしろ他の連中が会場に行きまくっていることが誌面に反映されていないことの方が問題なのだから。

　まあ、そんなことは正直な話どうだっていい。

　たとえば「貧乏臭くて、退屈な1日だけは生きたくない。プアーな人生は最悪だ」と言っておきながら、「月曜になると、ゼロ円生活になるケースが多い」だのと貧乏臭い発言を繰り返したりするターザンの矛盾点を突いたってしょうがないのは、『紙プロ』読者ならきっとわかっているはずだろう。

　それよりも、むしろ大不評だった新日本の4・9大阪ドームを批判しなかったと不満の声が挙がれば、「試合はつまらなかったがそれは初めからわかっていること」「みんながすでにだめだとわかっていることを私が批判して何の意味があるのだ」「私からすると4・9大阪ドームは批判する必用がないのだ。これは私が〝取材パス〟をもらったから、新日本プロレスに気を使ったということとは、まったく違う。まあ、そう誤解されるだろうが、私はそれにはなれている。誤解されるのは奇才の証明でもあるのだ。私のフェイント殺法を理解しなかったら、それは半人前だ」と勝手な自画自賛を始めるターザンを面白がるべきなのである。

「私は芸人よりも芸人らしい生き方をしている男。読んでもらったら、私の凄さはわかるはず。私のことがアンテナにひっかからない編集者はもぐりといっしょ。ろくなヤツでないと私は断言することができる」

　そう、ターザンは確かに凄いのだ。いや。本当に。

「吉田豪ちゃん、斉藤雄一、松林氏の3人はいずれも会話でプロレスができる人たち。こういう人材は本当に数少ない。私は私のことをたまらなく好きな人だけをとにかく、無条件で愛す。それが私の生きている喜びである。その点、やはり女性は視野が狭い」

「朝、起きたら吉田豪ちゃんからFAXが届いていた。あるファンが『ターザン山本は文章が下手である』と言ったミスター・ヒトさんにその件について話をきき、その一部始終を自分のホームページに載せた。それを豪ちゃんがわざわざ私に知らせてくれたのだ。私にはどうでもいいことである。FAXを送ってくれた豪ちゃんには、私は愛を感じた。愛は心地いい」

「『プロレス激本』の表紙の色校をみる。今回はフィギュアをやめる。これは吉田豪ちゃんから『やめたほうがいいよ』と言われたからだ。私は豪ちゃんの言葉は無条件で信じる。『登場人物が激本は地味すぎる。レスラーを出しなさい』とも忠告された。次はその通りにしようと思う」

　ボク絡みのことだけでも事あることにここまでいい加減かつピュアな反応を示してみせるような55歳の男が、果たしてこの世の中に存在するだろうか？

「午前中、変な若者が来て床下を点検させろという。私は〝またか〟と思ったが、勝手にやらせたら『大将、大変ですよ。水がたまってこれじゃ家が腐ってだめになりますよ』とおどす。面倒臭くなったので風通しがよくなるように三方に換気扇をつけてもらうようにする。2時間か3時間で工事は終わる。30万円也。1年間、ローンで支払う事にした」

　ターザンは、ここまで騙されやすかったり、実は「フォスタープランといって、アフリカの子供に毎月5千円ずつ仕送りをしていて、そのお金も1万5千円振り込んだ」という黒柳徹子ばりのイイ面や、「銭湯で2時間サウナに入ったり、水風呂に入ったりすると、自分が哲学者になったような気分になる」という呑気な面も持っている男なのだ。

　別に誰も知りたくもないと思われる「目が覚めたらウンコをしたくなり、トイレでバナナのような長いヤツがひとつだけ出た。体も心もすっとする」「ウンチを7回もしてしまった。出かける前、家で2回。JR水道橋のトイレで1回。WINS後楽園のトイレで2回。夕方、帰宅して家で2回。1度で出てくれたら楽なのに」といった脱糞情報であろうと、克明に報告してみせるカツシカン・バッド・アス。それがターザンなのである！

「2001年1月から4月までの日記をとりあえず本にしてみた。あとは〝買え〟。そして〝読め〟である。私の日記は2001年4月で終わっていない。5月以降も続いている。不思議なことに月を重ねるごとに、さらにパワーアップしているのだ。それを見たい者はWebマガジン『マイナーパワー』(http://www.nifty.ne.jp/minorp-ower/)の会員になれ。わずか500円で私の知的財産をたっぷり見ることができる」

　宣伝さえもいちいち命令口調で偉そうで腹立たしいんだが、とりあえずWebで公開される日記もそれ以外の部分も面白いことだけは間違いない。

「3月16日の深夜、吉田豪ちゃんから電話がかかってきた。『山口が消えていなくなったんです。誌面に穴があいたので、山本さん、すぐに書いてくれない？』というではないか？　大好きな豪ちゃんから困ったからと言って頼まれると、私の全身は思いっきりボッキする。午前2時過ぎまたしても豪ちゃんから泣きそうな電話。本当は泣きそうなのではなく、風邪をひいていたから、そういう声に聞こえてきただけである。今回のことは豪ちゃんとの友情にたまらないエクスタシーを感じた。男というものはいい生き物である」

　こんなとんでもない『紙プロ』裏エピソードが読めるのは、ハッキリ言って『マイナーパワー』だけなのだから。しかし、それでボッキするなよ！

ヤマノリVS小川戦が決まるまで続行――ッ！ 頑張れヤマノリ!、ボクも頑張る!

ノリノリ～♪

ノリノリ EVENT情報局 vol.2

ターザン山本『一揆塾』来たれ！“栄光”の第二期生

よく学び よく遊べ

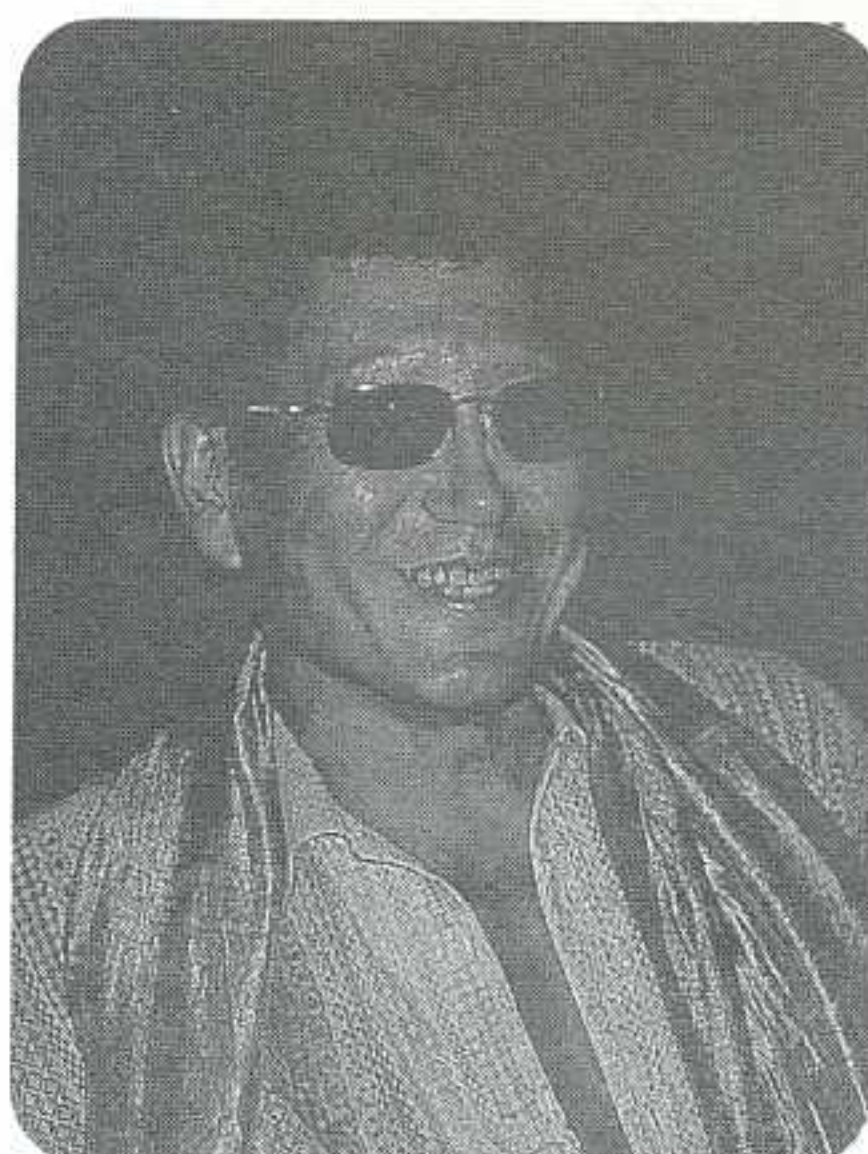
【期間】平成13年10月4日(木)～平成14年1月27日(木) 全15回（12/20、27、1/3は休み）
【時間】19：00～21：00 【募集人数】40名【参加費】80000円
※第二期生はターザン山本塾長による10分程度の個人面接にて入塾を決定します。
希望者は8月29日までに申し込みをすること
【面接日】9月1日、2日 11時より（履歴書持参）
【申込先】ロックウエスト 03-5459-7988 (14時～20時まで) 又は mail@rockwest.to

お待たせしました～！ ちょっとだけ値上げですよぉぉぉ。(なぜだ！) 面談しますよぉぉぉ（なぜだ！） すっかり『塾長』も板についてきたので一期だけじゃ終わりませんよぉぉぉ！ 編集記者になるつもりがない人でもためになる講義なので受講してみましょう。(マジで！) ボクは本気ですよぉぉぉ！

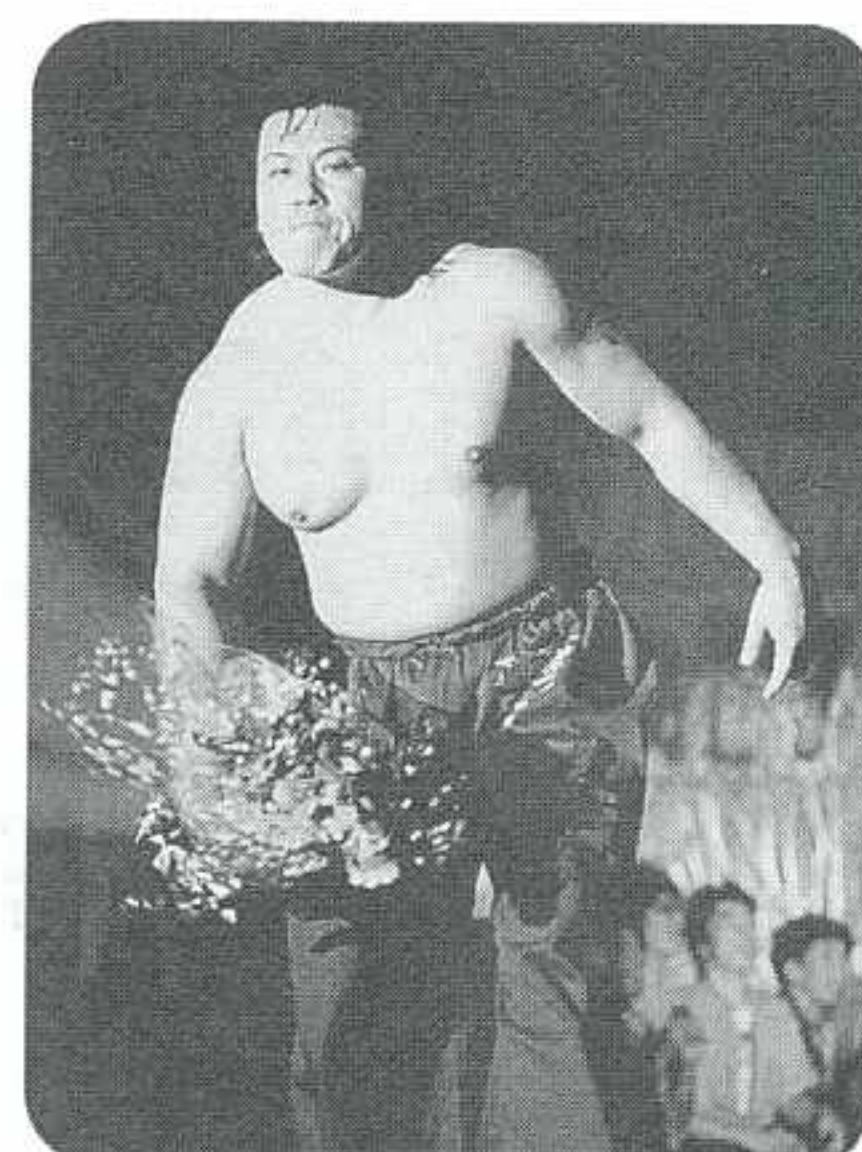
ジェラルド・ゴルドーと遊ぼう！

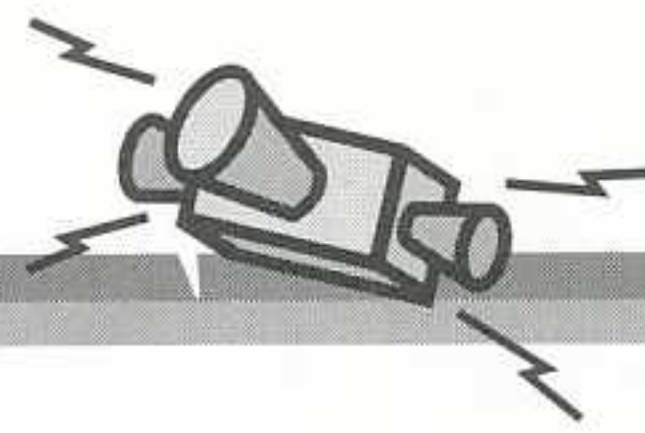
世界で最も危険な男が放つ『命懸けイベント』開催迫る！ “死神”ゴルドーが六本木の街に降臨。大阪の児童殺傷事件があった池田小学校に寄付するため、試合で使用したグローブやTシャツのオークションを行うなど優しい一面をもつゴルドー。だからといって気をぬいてるとやられちゃうぞ！ 命懸けで参加するべし！

【日時】8月29日（水） 20：00～22：00
【場所】六本木・格闘技バー“Grapple”
【入場料】無料 ただし飲食有料（Bar有り）
【出演者】ジェラルド・ゴルドー君 イゴール・メインダート君
【内容】トークショー・サイン会・ゲームコーナー・ドージョーカマクラTシャツ即売会等
【お問い合わせ】Grapple 03-5114-1974 又は、ゴルドージャパン 03-5561-0502

マッキー道場主催 第2回全日本空手道選手権大会迫る！

【日時】9月16日（日）【開場】9:30
【開始】10:00【会場】豊田市体育館
【試合形式】
2階級ウエイト制 軽中量級65kg未満
トーナメント方式 重量級65kg以上
【ルール】実際にあてて倒す実践空手ルール
【入場料】自由席 3000円（前売り2000円）
小中学生 1000円
【問い合わせ】
真樹道場愛知支部 0565-24-3861
マッキーとはなにかね、マッキーとは、とは、とは。

斉藤彰俊が道場“ノーティー”開設！

【場所】愛知県小牧市久保一色南1－160
【会費】社会人 8000円・高校生～大学生6000円・女性 5000円・子供 5000円（中学生まで）※入会金は会費の一ヶ月分。
【お問い合せ】IVY BOOKS 0568-31-0727
ココナッツ・リゾート 052-933-0899
礼節を学ぶお子様からプロ志向の方まで幅広いクラスを取り揃えているノーティー（わんぱくとか元気の意）。いい汗かいた後は彰俊バー『ココナッツ・リゾート』へ心の荷物を降ろしに行こう！

道場にどうじょうー

その他のノリノリNEWS

▌成瀬昌由が公式ホームページを開設！
まさゆき日記は必見！
●2001年8月7日（火）
その帰り道だった、"生きる伝説" と遭遇したのは！俺の横を駆け抜けていった "真っ赤なスポーツカーはどこか見覚えのあるマシンだった。信号待ちに恐る恐る車内をのぞきこむと、そこには大好きな「モスバーガー」のポテトを一心不乱にパクついていた山本宣久の神々しい姿があった。そして…。続きが気になる人はhttp://www.m-naru.comに今すぐアクセス！

▌じゅう～じゅう～DDTステーキ
プロレスファンのメッカ・水道橋にＤＤＴがステーキハウスをオープン！　水道橋のプロレスファン的三大食処、王将、マクド、富士そばに負けるな！
【場所】千代田区三崎町2-11-11　タカギビル1F
【TEL】03-3515-6465
【営業時間】11:20～14:30 17:00～23:00（22:30ラストオーダー）

▌「猪木語録　燃える闘魂篇」発売！
すべての猪木信者に贈る究極の猪木聖書（バイブル）遂に登場！　"燃える闘魂" とは一体何か!?　38年間に及ぶ波瀾万丈のプロレス人生の中で、猪木は一体何を追い求めてきたのか？　その真実は猪木自身の口から発せられた言葉に宿っている。今こそ、燃える闘魂・アントニオ猪木の魂の声を聴け!!
【収録内容】語録、入場シーン、ガウン・バリエーション、「ダーッ」ヒストリー（昭和40年代の元祖ダーッから、現在の1、2、3ダーッに至るまで様々なダーッを収録）これを見れば "猪木王" 玉袋筋太郎に勝てるかも!?
【発売日】2001年9月21日【定価】2980円（税抜）【時間】55分
【販売元】パイオニアＬＤＣ【お問い合せ】03-5721-9876
ちなみに10月25日には「猪木語録 闘魂伝承篇」発売決定！

▌第３回PRE-PRIDEの公開収録の観覧者募集
一般参加者が『PRIDE』への出場を目指し練習を積み、最終的にはトーナメントにより優勝を競う、未来のファイターを発掘するプロジェクト！　ちなみに第一回優勝は江宗勲、第二回優勝は光岡映二。今回の第三回大会も『PRIDE』ファイターを目指す、８人が熱い闘いが繰り広げるのであろう。行け！
【日時】2001年9月2日（日）【場所】クラブATOM
【開場】13:00【開始】13:30
【出演予定者】松井大二郎　アレクサンダー大塚　森下直人　島田裕二　谷川貞治
●参加選手によるトークショー＆PRIDEグッズがもらえるプレゼント大会あり
●観覧希望者は往復ハガキに、住所、氏名、電話番号、年齢、職業、観覧希望人数を明記の上、応募。
●申込先
〒107-0052　東京都港区赤坂8-5-4　ルーメリ赤坂103
（株）ドリームステージエンターテインメント
「PRE-PRIDE3 観覧希望係」まで ※定員になり次第締め切り
【お問い合せ】03-5775-5700

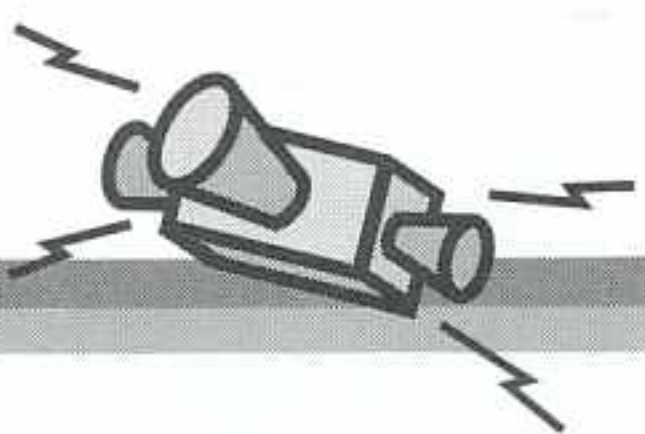
▌講談社漫画文庫"タイガーマスク４巻" を三沢光晴社長が解説！
発売日は9月12日。読め！

▌女・女・女！
『エロ生！　格闘ナイト』公開生放送ファイター＆観客募集
キャットファイト、女相撲、くすぐりファイト、追い剥ぎバトルetc…。なんだかわからないが興奮してきたアナタは迷わず行けよ
【場所】パラダイススタジオ【日時】毎週木曜日20時～22時55分
【司会】西野健一（MANZAI-C）　草凪純
【ゲスト】島田裕二（バトラーツ）　8/30（木）
【放送】スカイパーフェクTV 913ch
【問い合わせ】03-5365-0723

▌「ヤマモプレゼンツ　西口プロレス・区内最強決定戦」
ＤＤＴのスーパーバイザーを務めるヤマモこと山本雅俊氏がイベントを開催。芸人多数参加のプロレスイベントと思ってください。本誌でもおなじみ、ハチミツ二郎も参戦決定！　（ジャイ子もいる！）
【日時】10月12日（金）19時開始【場所】板橋産文ホール
【問合せ】西口プロレス03-3369-0449又は090-4205-9949

▌前田日明も大注目！
シュートボクシングvs中国散打チャンピオン5対5対抗戦!!
シーザー率いる、ＳＢと来たる北京オリンピックの公開種目候補として注目を集めている中国の国技「散打」との、立ち技最強の座を賭けた全面対抗戦が行われる。中国に興味津々のアキラ兄さんも散打を足がかりにリングス・チャイナの新設を目論んでいるだけにリングスファンなら間違いなく要チェックな大会
【日時】9月25日（火）【場所】後楽園ホール
【開場】17：00【開演】18：00
【チケット料金】RS席 8000円 SS席 6000円
A席　5000円 B席 4000円
【お問い合せ】
シュートボクシング協会　03-3843-1212

注目～！『紙プロmini』見に来～ひ！
正直スマン！　3号にわたって間違ったアドレスを掲載してまちた。H"・Feel Hのそこのアナタ！　オフィシャルサイト「格闘MAX」内の『紙プロmini』にアクセスしてどんなことが行われているのか教えてくださいな。正しくは
[@KMAX/KAKUTOU/TOP.CGI]

ノリノリEVENT報告

7/25 [渋谷ロックウエスト]
島田裕二プロデュース
『PRIDE』とは何か？

山口日昇、島田裕二、谷川貞治と、一筋縄でいかないメンバーで行われた『PRIDE』直前恒例のこのイベント。司会は島田がしっかり進行し、（携帯電話で急に席を外したり、東スポを読みふけりながら）『PRIDE.15』の話題以外にも、谷川のリングス10周年興行の煽りがあったり、（本人はＫ－１ラスベガスに行くため行かず）山口も何と驚くことに最初から最後まで会場にいるなど、大変楽しめるイベントとなった。（クレ）

8/1 [ロフトプラスワン]
ターザン山本の
「第2回激本祭り」

この日、ロフトプラスワンで４月に続いて２度目の開催となる激本祭りが行われた。雑談禁止、中身をネットに書いたヤツはオレが殺す！　というターザンイズム全開の信じられなく、つらい空気が蔓延する中、イベントは進行。トークのみという実に地味なイベントとはいえ、ターザンがブッキングしたゲストは新間寿、田中正志、竹内宏介という実にコクのある人選。内容の方は危険過ぎてふれられないが、ここだけの話連発で大盛り上がりに終わった。（ぼん）

8/4 [吉祥寺パルコKINGS]
高阪剛トークライブ

ちょうど一週間後に有明大会を控えた "世界" のＴＫが吉祥寺パルコ『KINGS』でトークライブを行った。ライブ開始早々、壁のリングスポスターがはがれ落ちたり、司会者の「イリューヒン・ミーシャって嫌な感じの名前ですよね」という暴言に「ほっといてあげて下さい！」とＴＫがやんわり一喝したり、ＴＫシャツより天龍シャツのお客さんの方が多かったり、何かと刺激的なトークショーだった。（ぼん）

「俺じゃダメなのか？（永田調）」……はい、ダメですね。わかりました。

塾長、最高❤ですかーーッ!?

海野レフェリーのリングシューズはラメラメで派手すぎッ！　まあ、そんなことはいいといて、じゅ、塾長ーッ！　何やってんですか!?……って、自分で写真撮ったくせに驚いてみました。人気AV嬢・夢野まりやとの爆乳ツーショットです。ターザンの往生際日記に「あの写真を載せなきゃ、お前とは絶交だーッ！」と書いていたので載っけてあげました。それにしてもターザンは絶交好きだよな。

今月の★健介

Dragon Illusion

健改名助

アメリカで格闘技特訓を積む健介が改名したという情報を入手（読者のイラストで）。新リングネームは佐々木健助！　まあ、そんなことはどうでもいいんですけどね。（大阪府・英加直純）

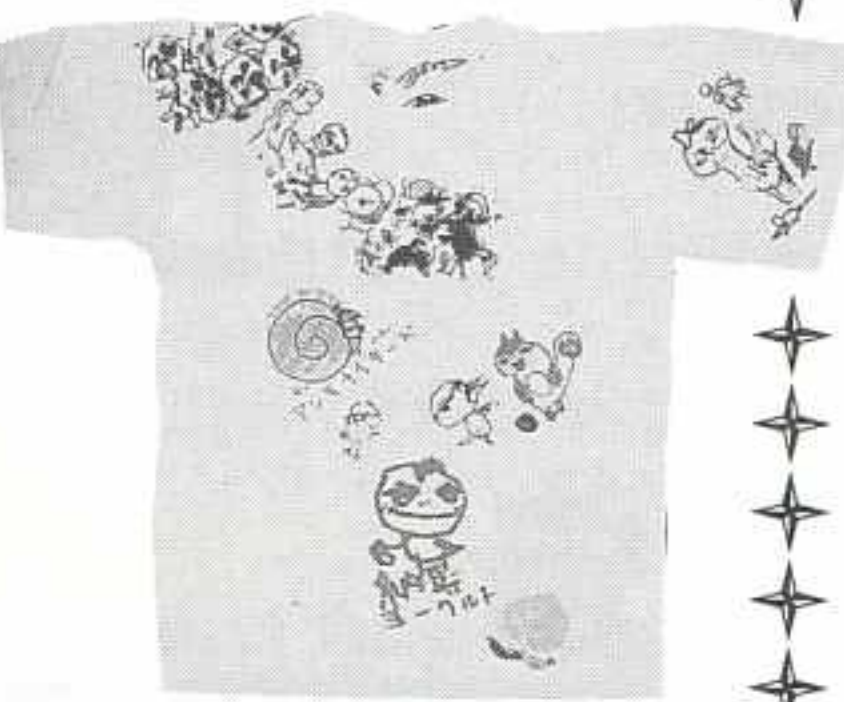
今月の☆鮫肌男ともももち娘

チョロ様
Tシャツできました。
着て下さい。

ボクの心のアイドル・ももちちゃんからカラフルなオリジナルイラスト入りTシャツが届きました。たまたま、テレ東の「猪木王」に出演の機会があったので、ももちTシャツを着て出ちゃいました。ありがと、ももち☆

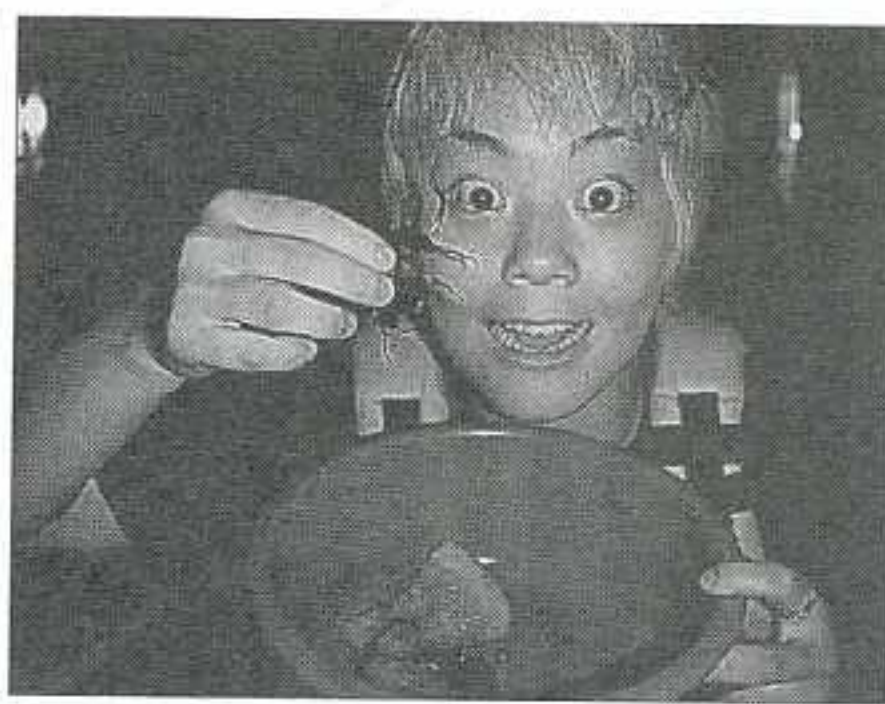
油すまし、納豆ヨーグルト、アンモナイターズといったももちワールド満載のイカしたTシャツだ！

今月のアンリミテッド王者

裏

さあ、今回から始まった賞金総額50万円『紙プロ』認定アンリミテッド王者を決めるイラスト選手権。なんと王座を5回防衛すれば、気前よくボンと50万円を差し上げます（アコムキャッシングで）。記念すべき初代アンリミテッド王者は沢田純クンに決定ーッ！

表

大神 アップルニュートン マァ☆ティン

星野育蒔

ギョ！　イラストを見てビックリ。上のイラストが届く数日前、海でマァ☆ティンの同じ様な写真を撮っていたからだ。まさに星野育蒔の表と裏。で、横で嬉しそうにカブトムシを持っているのが今回のモデルの星野。日頃、練習しているジムの夏合宿からカブトムシと一緒に帰ってきた星野はオスとメスを交尾させて遊んでました（笑）まさに天然格闘少女!

今月のボンちゃん

片山ボンとは何者だ？

ホチキスの針の換え方を知らず、針がなくなったら即ゴミ箱行きだったという片山ボン。予想はしていたが、やはりカッターも同様で、錆びた刃を折ろうとした彼女を「危ない！」と真顔で止めたというから本物。近々、尽きることのないボンちゃんネタ（本人無自覚）を集めた『片山ボン列伝』の出版も予定されている。（もちろん自費で）

郵便はがき
154-8736
（受取人）
(株)エンターブレイン
文化出版部
「男気万字固め」係 御中

本書への感想などをご自由にお書きください
豪さんの写真がたくさんのっていたので200点満点!
吉田豪様は天才です！　吉田豪バンザイ!!
今度は豪さんの写真集を出して下さい。楽しみにしています。宜しくお願いします—♡

吉田豪が見せてくれた『男気万字固め』の読者ハガキ。誰かと思ったらボンちゃんの彼女。ちなみに村上ショージに似てるそうです。

今月の★破壊され王

テレ東の『火の玉スポーツ列伝』の「猪木王」にチャレンジしてきたチョロ。その収録時に使われていたドラゴン風人形（後頭部破壊）が都内某所で寂しげに放置されてました。

今月で★狂犬失速!!

止めるの早過ぎませんか柴田さぁ～ん

そうですよ柔術家はここからですよ

今号と次号の辻アナインタビューを読めば、ヒャッホー！　アンビリーバボー！　あなたも、きっと辻アナが好きになるはず。どうですかーッ、柴田さ～ん!?

今月の★新日万歳!!

アントニオ猪木から童貞諸君へのメッセージ
このパンティーを脱がせばどうなるものか
危ぶむなかれ
危ぶめばク〇ニはなし
踏み出せばその一足がク〇ニとなり
その一足がセックスとなる
迷わず脱がせよ
脱がせば分かるさ
クリ〇リスーッ!!!

無軌道君から童貞諸君にお下劣メッセージが…。無軌道はワールドプロレスのサブタイトル公募で見事採用された男だ。新日本はケツの穴がおっきいぜ！

今月も★ドラゴンはドラゴン

このままじゃ済まさん!!

何を言ってもネタになっちゃうところがドラゴンがドラゴンたるゆえん。飛龍伝説！（青森県・青木雄大）

1丁目 読者の声

◎「面白かったのは金原&高山インタビュー。2回だけじゃなく連載にしてください」【兵庫県・大塩虎徹・28歳・旅人】
★予想通り大好評の金原&高山対談。連載希望の声も多数届きました。でも、2人以外はいろんな人間関係のしがらみがあって難しそうだな。

◎「もっともっと読みたい。つまんないギャグマンガよりゲラゲラわらえる。ダーッハッハッハ(小川口調)」【神奈川県・澤口三三多・26歳・フリーター】
★つまんないギャグマンガよりわらえるって、どういうこっちゃ!

◎「面白かったのは『PRIDE座談会』。『PRIDE』大好きです。他誌には『PRIDE』の量が少ないから、必ず『紙プロ』を買って『PRIDE』関係から読みます。ガンツさんの観点は感心させられます。片山ぼんさんは、もう少し『PRIDE』とRINGSを好きになって欲しい。そして、新日大嫌いになって欲しい。おそらく、片山さんは新日好きではないか? 新日好きは、人間として未成熟だと思う」【愛知県・岡田貴将・22歳・学生】
★新日好きは、人間として未成熟だと思う? ヒャッホーッ! まったくをもってアンビリーバボーなご意見です。

◎「面白かったのはサスケインタビュー。マスクの目の位置をもっと上にした方が良いと思う」【群馬県・樋口美由紀・23歳・会社員】
★マスクの目の位置が面白かったの? でもカトの親父は正直、残念!

◎「面白かったのは藤田和之語録。理由→藤田さんのファンだから♥ちょっとHな語録もあったのでうれしかった」【大阪府・寺沢薫・22歳・OL】
★22歳のOL? Hな語録がうれしかったですか? このエッチ娘!

◎「面白かったのは大谷晋二郎の新日本プロレスLOVE論。理由→私も大谷さんと同じくらい新日が大好きだし、大谷さんが小・中学生の時の気持ちが今の私とまったく同じだったから。ますます大谷さんが好きになりました」【北海道・竹本祥子・14歳・中学生】
★フレッシュなご意見ありがとう。祥子ちゃんは熱いヤツ好きだね。

2丁目 読者の声

◎「お金がない。モー娘。のグッズが買えない。何度もそんな苦しみを味わった。金がなくなったのはプロレスのせいだが、今はもうモー娘。の方が大事だ。プロレスはテキトーに見ている。もはや金はモー娘。第一。プロレスは第二か第三くらいといった感じです。……というわけで、スーパーコラムの『業☆勝ちます』が面白かったというか、良かった。モー娘。とプロレスの融合、素晴らしい融合ですね。爆発力があると思います(少々意味不明)。7・29の『PRIDE』もどうでもよかった。ハロプロコンサートで盛り上がって来た。今プロレスでいいなと思うのは邪外の2人」【東京都・無軌道・19歳・放牧中】
★維震軍ファンとして有名な無軌道。最近はモー娘。&邪外好きか?

◎「どうして新日が格闘技戦で呼ぶ連中って皆ダメ外人なんだろうと思っていたが、新日に上がったコールマン、グッドリッジもそいつら同様ダメに見えた。ひょっとしたら今まで来たダメ外人も『PRIDE』とかに出てたらメチャ強豪だったのかも。あと、ターザンに流行ってるJ-POPを片っぱしから聴かせて批評させてもらいたい。今の日本にaikoを『才能無い』なんて言える批評家はいないもの(僕はaikoは有能だと思うが)」【青森県・青木雄大】
★ダメ外人って、なにげに強い選手が多いからね。そういえば、ちょい前の全日に来てたサニー・ビーチがVTの大会に出るらしいよ。

◎「面白かったのは橋本真也の『人生ケサ斬りチョップ』。以前より、橋本さんは語る方だと思っていましたが、活字で読んでも面白い! ハーレークイン並ですね! 昼メロの脚本でも書いてほしいもんです」【新潟県・内山忍・36歳・主婦】
★ハーレークイン橋本(笑)。時は来た! 破壊王、改名だーッ!

◎「プロレスという言葉にアレルギーがあり、貴誌があることは知っていたのですが、シカトしていました。39号の貴誌(紙)に前田日明氏がド〜ンと写っていたので、とりあえずパラパラと時間つぶし。しかし、うれしい誤算で、すごく引き込まれてしまっていく自分に、ややあせりながらも、藤原敏男氏の記事でKOされてしまい今回も買うはこびとなりました。たてまえだけの記録の表記だけの格闘誌にうんざりしていた俺には『紙プロ』がすごく新鮮でした」【沢田純】
★またKOできるように頑張るのでよろひく。

◎今月の『ヒクソンと私』◎

「強い奴と戦ったことがない」

ヒクソンはそう言われています。それは本当だと思うのですが、それでも私は、ヒクソンのことが好きです。私は、ヒクソンの試合に感動を覚えました。なぜなら、ヒクソンの戦い方はどこまでも真っすぐ、真っすぐだからです。

これは、ボクシングだけではなく、すべての格闘技系について言えますが、皆よくクリンチの時は、何も行動を起こそうとせず休もうとします。この場面は、見ている方にとっても退屈な場面ですが、この時、重要なのは、意識までが止まってしまっているかどうかだと思います。今試合中なのに、ほとんどの人が意識までも止めてしまっているのです。体力を回復させるためにクリンチは別に構わないと思います。しかし、いくら疲れているからといって、クリンチをして「ボーッ」と意識を止めてしまうのはダメだと思うのです。しかし、ヒクソンにはそれがありませんでした。クリンチの時も常に「真っすぐ、真っすぐ戦おう」と意識が継続しているのです。私は、この姿を見て感動しました。

他に私がヒクソンのことを好きな点は、コンディション造りのところです。他の格闘家達は、調子が良い時や悪い時などで浮き沈みがあるのですが、ヒクソンにはそれがありません。

「あまり試合をしたことがないからだ」と言われたら困るのですが、常にベストコンディションを引き出そうとしている姿勢を感じるのです。悪い時なら悪い中でのベストコンディションに集中しています。

私は、これらのことは格闘技だけでなく人生にも役立てることができると考えています。ヒクソンの真っすぐさの姿勢を生きる姿勢に、コンディション造りを日常生活に。私は、ヒクソンから多くのことを学びました。

(和歌山県・東郷貴明)

ヒクソンからいろいろなことを学んだようで、うらやましい限り。ボクもヒクソンの真っすぐさの姿勢を人生に役立てよ。さあコンディション造りに没頭するぞ。

今月も『渋女』がヤバイ

ブッチャーイズム最後の継承者。
麻弥
SHIBUJO

『渋女』はいつも見逃しちゃうんだよねん。なにげに榎本加奈子が出てたり、ブッチャーが女の子に地獄づきを伝授したり、かなりヤバめの内容らしいけど、まあ来年からの第二弾に期待!(埼玉県・中川雅博)

今月のサクファン

サクファンってホントに凄いですねぇ〜。これがサクマニアの間で高価取り引きされているらしい『サクスポ』。創刊号にはサクそっくりさんが登場してるみたいです。最新号ができたらまた送ってちょ〜だい!

投稿&ハガキ 大募集でぇす!(チャッピー調)

夏バテに
キクゼ!

夏バテ知らずの矢野卓見。いろんな大会出まくりだな。(青森県・青木雄大)

ハ〜イ、チョロでぇす! 先月、武藤さんの特集をやったら、天龍率いるWAR軍団から「俺たちもたのむぜ」って言われ…ちゃいないけど、おハガキ待ってま〜す。メールでもいいよ。choro@kamipro.comまで! 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702(株)ダブルクロス『ヒャッホー!』係まで。

爆笑連載!?

ほんとにジョーク

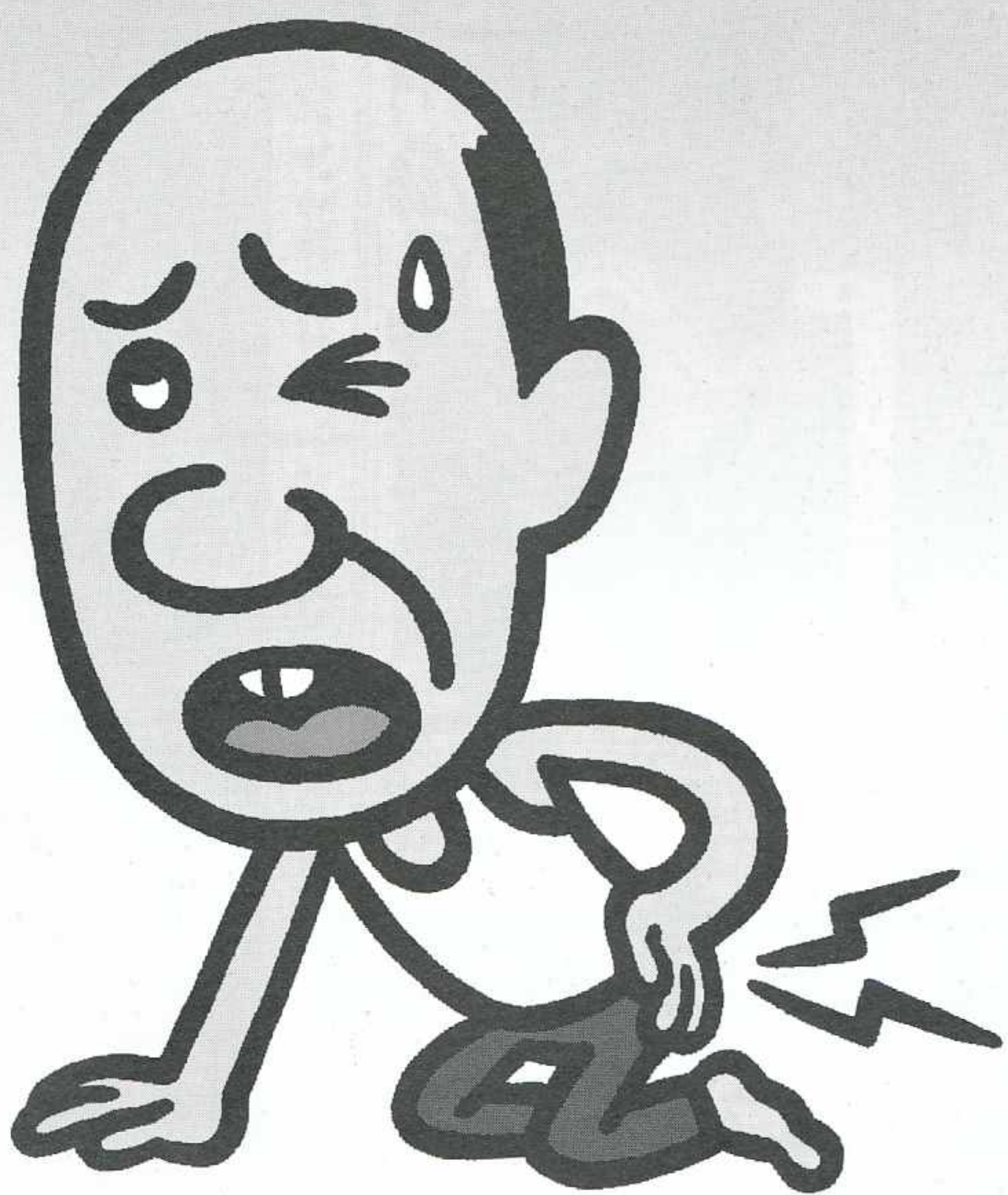
今月イチバンおもしろかった作品とその作者

埼玉県坂戸市

立川談スバーン

●当選者にお知らせ　毎月一席に当選された方に「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼントします。なるべく早く届くようにしますので楽しみにしていて下さい。

●応募方法

プロレスに関したものなら何でもけっこう。ジョーク、ギャグ、コント、マンガ、標語、何でもいいんだ。とにかく『ホントニ面白い』ヤツをたのむ▼毎月1名の作品をこのページで掲載。このページは読者投稿ですが、めでたく掲載された方には「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼント。▼原稿発送は紙のプロレス「ほんとにジョーク係」へ、希望選手名やサイズ（S・M・L・XL）をハガキに書いて下さい。〈例〉GKのXL

読者の皆さまへの★お願い

★『紙のプロレスRADICAL』読者の皆さまへ＝ハガキが全然来なくて、とても困っています。助けてください!!　お願いします。あまり面白くなくてもノー問題なのでジャンジャン書いてジャンジャン送ってください。人助けだと思って送って下さい。誰でもいいので待ってます。宜しくお願いします。

イラストレーション
中川雅博

サヨナラは8月のララバイなスーパーコラムをどうぞ！

BEST OF THE スパコラム™

AUGUST.2001

ラインナップ

花くまゆうさく◎『リングの汁RADICAL』

掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）◎『業☆勝ちます』

スモー・ノブ◎『踊る大格闘技戦リポート』

大坪ケムタ◎『エロ・サムライ』

武田いづみ◎『ディスカバー・シンニホン』

※今回は都合によりイナズマ★Kさんの『最狂プロレスファン列伝』とラーメン王の『闘魂☆たべある記』はお休みします。

Title&Illustration/Jerry Ukai for ADS

その後、対K-1撤回発言の破壊王……

花くまゆうさく リングの汁 RADICAL

思わなんだ。これからどうなるのか？と思ってる矢先にマーク・ケアーvs橋本とのニュースが『東スポ』に載っていた。それにしても、プロレスの試合でしか格闘家と絡まない橋本にはいい加減うんざりだ。対K-1もロでは珍しくノリノリなんだからホントにやってほしいよ。

大ノゲイラが、ハーフガードからスイープ炸裂した時は燃えた。なぜこれまで多くの人が柔術にのめり込んだか、グレーシー嫌いで頭がコリ固まって頑なにアンチ柔術の人のも、ちっとは判ってもらえるだろうか。あのように柔術テクは面白いの！　トリコになっちゃうのよん。

こないだ今頃になってやっと去年のアブダビコンバットの76キロ級の輪入ビデオ見たんだけど、ジアン・マチャドがとにかく最高なのねんのねん。バリジャパのフランク・トリッグ戦ではロープが邪魔で成功しなかったスイープを今大会では連発です。ジャケットなしの裸であのようにスイープバンバン炸裂させてほんとシビれた。今年も階級上の高阪に腕十字極めるし、素晴らしい柔術家でありま

す。日本でもまた試合してほしいね（打撃なしで）。コンテンダーズとかで呼んでくれないかしら。

石澤vsハイアンは会場で見ると、はじめからハイアンのダメっぷりに？？？だったが、後で冷静に考えると一年前の予想は「ハイアン5分で自滅」なので納得か。

松井vsブラガで、松井の頭ペンペン攻撃やドロップキックで客席沸いてたけど、あれで容易に受けることがかえって松井をダメにしてるような気がすんだけどなあ。美濃輪みたく、ムチヤクチャ暴れて最後は勝つ！そんな松井になった時こそガンガン盛り上げればいいんじゃないのでしょーか。

ケアーやエリクソンを倒したヒーリングに髪型以外の弱点はあるのか？小川や大ノゲイラとやってほしいね。でも小川は絶対にやりそうにないと思わせるとこが悲しい。「ノゲイラでもヒーリングでもいつでもいいよ」とあっさり言ってホントにやれば、小川は完全に高いとこまでいっちやうと思うんだけどなあ。いまじゃどうせ「ノゲイラ？　誰だそれ？　そんなのとやってらんねーよ」の一言でおしまいポイもんね。同じ時代に同体型で強い奴が日本で試合してるってのにもったいないな。新日や橋本とプロレスすんのは後回しでいいんでないの。

同じ日のパンクラスでは、また美濃輪が凄い試合したみたいだが、次から次へと凄い試合しすぎで脱帽。あれこそ「こんな試合してたら10年もつ体がウンヌン～」の世界ではないか（でも美濃輪は丈夫そうなので壊れそうにないが）。一時の桜庭みたいなペースだね、ハード（プライドとパンクラス）の違いで広まり度が違うが桜庭並に凄いことしてるよ美濃輪は。

でも横浜道場勢の「俺たちゃプロレスラー」宣言戦略はせこくてなんかやだな。あれだけの試合してる美濃輪がそう宣言するのは別にいいけど、みんながみんな急に横浜勢は「俺はプロレスラーだ」と言いだしてる感じで、なんだよあれって思うね。だったら昔からそう言えばいいじゃないですか！（日影忠男風に）。なんかそう言えばプロレスファンに好かれるというせこい戦略を感じずにはいられない。そんなこと言わなくても、ムチャクチャ暴れて勝ってけば自然と人気でるでしょ。俺はプロレスラー宣言していいのは美濃輪だけでいいよ、いまのとこは。鈴木は宣言しなくてもプロレスラーだと、昔からみんなそう思ってるので必要無し、別格。

あと最後に一言。星野育蒔は女版マッハ（桜井速人）になれる！

はなくま・ゆうさく■個人的にいま一番注目してるカードは、9月リングス後楽園大会での、小谷vs所。

BEST OF THE スポコラム

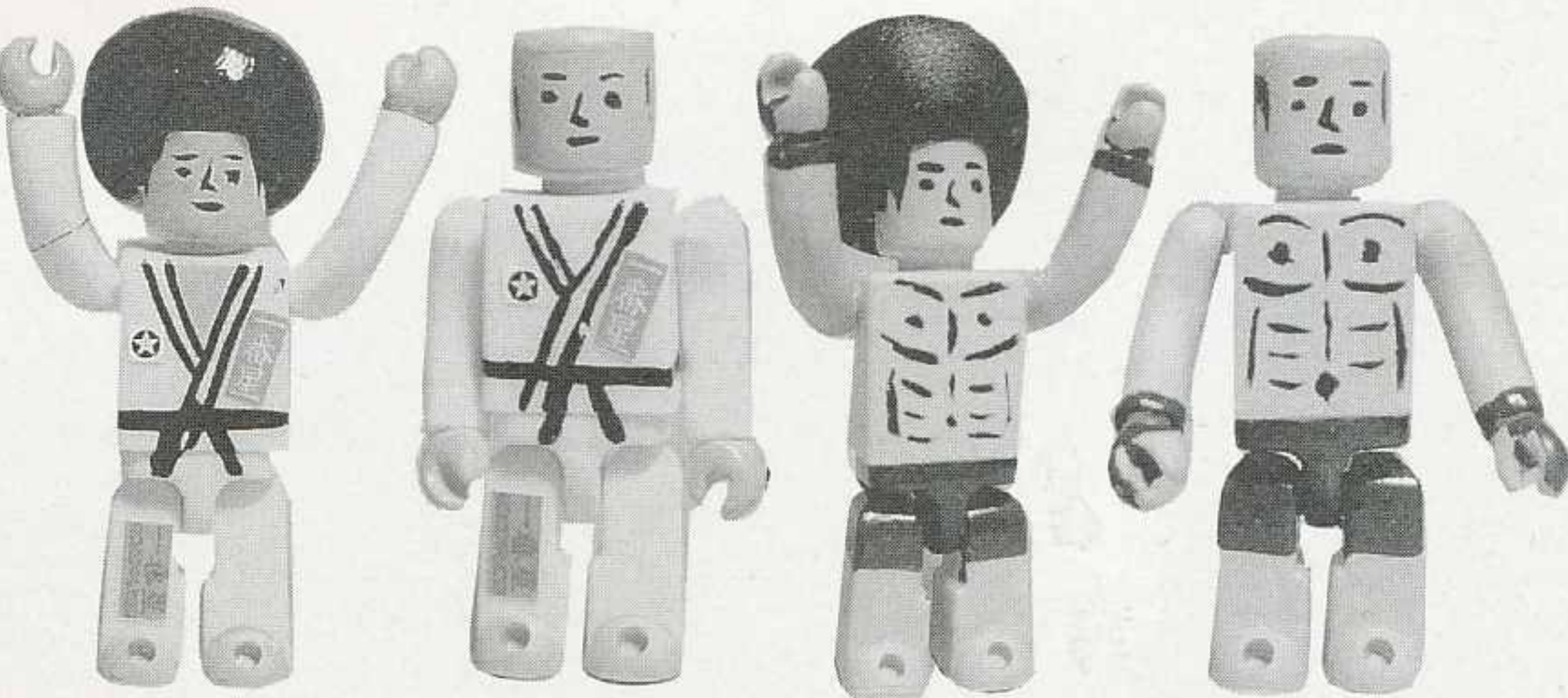
ひさびさに会場でプライド見たけど、休憩明けの猪木コーナーの盛り上がりは凄すぎる。できあがりすぎてて何言っても受けまくり。あれ見て外国人選手はどう思うのだろうか。やっぱ、「こんなに人気凄い人なんデスネ」「この人に連いてけばオイシイみたい！　いい事ありそう！」とか思っちゃうんだろうか？　実際ほとんどの外国人選手は猪木にしっぽ振りまくり。まさか、大ノゲイラやスペーヒーまで猪木にしっぽ振り振りするとは

男道コーチ屋稼業・掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）の

示☆勝ちます

『新日本健康食品プロレス』の巻

BEST OF THE スパコラム

今何故か時代は稲妻ッ！なのである。らしくもないぜ!!

なんだかんだといってもプロレス界の中心はやはり新日本プロレスにあり！

長州体制の崩壊とともに、実質的な権力が再びアントニオ猪木の元に戻った途端、新日本プロレスのホームページでは『アントニオ猪木が自信を持ってオススメするブラジル原産の健康食品・アガリクス茸』の通信販売を開始！（しかも150g＝1万5千円という猪木らしいありがたいお値段で）。このままいくと猪木ルネッサンスどころかついでにアントンハイセルまで復活してしまいかねず、かなり面白いことになりそうな気配。適正価格のないユルイ輸入品に、未だに1ドル＝360円時代の舶来品価格をムリヤリ当てはめる燃える商魂は、相変わらず健在のようである。これも株式上場を見込んで黒字経営だった新日関連グッズ販売会社・新日本プロレスサービスを合併したことによるんだろうが、どうせだったらいっそのことアントンマテ茶やひまわりナッツも復刻再発売して欲しいもんだし、外食産業・アントンリブチェーンまで再開させて、ついぞやってくることがなかった「日本中がモリモリリヴを食べる時代」に今頃になって思いきり突入することを願うばかりである。

それにつけてもあの猪木にさえ熱心に売り込みをさせてしまうアガリクス茸とはなんなのか？ シイタケとどこがどう違うのか？ そんなに効くのか？ ナニに効くのか？ そんなジャパニーズマフィアな価格で売られているところを見ると、恐らくヘソ下3寸に効能があるものに違いない。やはり朝勃ちがおさまらなくなったり仮性包茎が根元までズルムケになったり粉末状にしたブツをチ●コに塗りたくってからハメると女が離れられなくなったりするんだろうか。それとも何故か急に保田圭が可愛く見えたりするんだろうか。

先日、テリー・ファンクが来日した際に「モーニング娘。の中で誰が好きか？」と質問したら、自信満々に「ヤスーダ〜！」と即答したというから、テリーも猪木に勧められてアガリクス茸を喰っている可能性大！ 恐るべしアガリクス。きっと渋谷の露店で売られているマジックマッシュルームとかの新種に違いない。いくら時代に敏感な新日とはいえ、それはなんぼなんでも行きすぎじゃないかと思うが、アントンがやることだから何か考えがあってのことだろう。タバスコの時だってそうだった。こんな激辛なもん日本人の舌に合わないよと言われたが、今ではどこの食卓にも常備されているではないか。きっとそのうち一般家庭に当たり前のようにアガリクスがある時代がやってくるのだろうし、保田圭が国民的美少女に選出され、『アップフロント』から『オスカー』へ事務所を移籍する日もそう遠くないはずだ。そう考えるとやっぱり猪木は凄い。9人いるモー娘。の中であえて保田に着目するなんて（多分してない）先見の明がありすぎだ。

ひとたびリングを離れれば、途端に胡散臭い貿易オヤジになってしまうところがアントンのチャームポイント。新日の金を自分のビジネスにバンバンブッ込んでまた新日に余計なカオスを持ち込んで欲しい。

まぁ、アガリクスについては合法であるからこれ以上言及を避けるとして、猪木ルネッサンスの余波が今新日内外に押し寄せてきているのは皆さん御存知だろう。その最たる現象が『キムケンルネッサンス』である。「俺の人生にだって一度くらいいいことがあってもいいだろう」というくらいケンゴライフのピークとも思える大活躍期が、何故か今頃になって到来中！ 気が付けばいつの間にか山ちゃんと交代で解説席にちゃっかり座って自慢の喉で名調子を聞かせているし、『デュオ・ランバダ』以来何年振りかの音源であり引退記念アルバムでもあるCD『稲妻伝説』を7月20日OUT NOWする大車輪な活躍ぶり！（しかも購入者には健悟最新（！）ポスター（!!）というゴキゲン過ぎるオマケ付き！）。

音の方は21世紀型健悟らしくテクノサウンドをバックにこぶしを回すゴア演歌に！ …というようなことになっていれば3枚は買うだろうが、多分そんな面白過ぎることにはなってないだろう（つまり聴いてない）。しかしジェットセンターでボクシング特訓して以来、久々に健悟がやる気を出しているのは間違いなく、今何故か時代は稲妻ッ！なのである。らしくもないぜ！

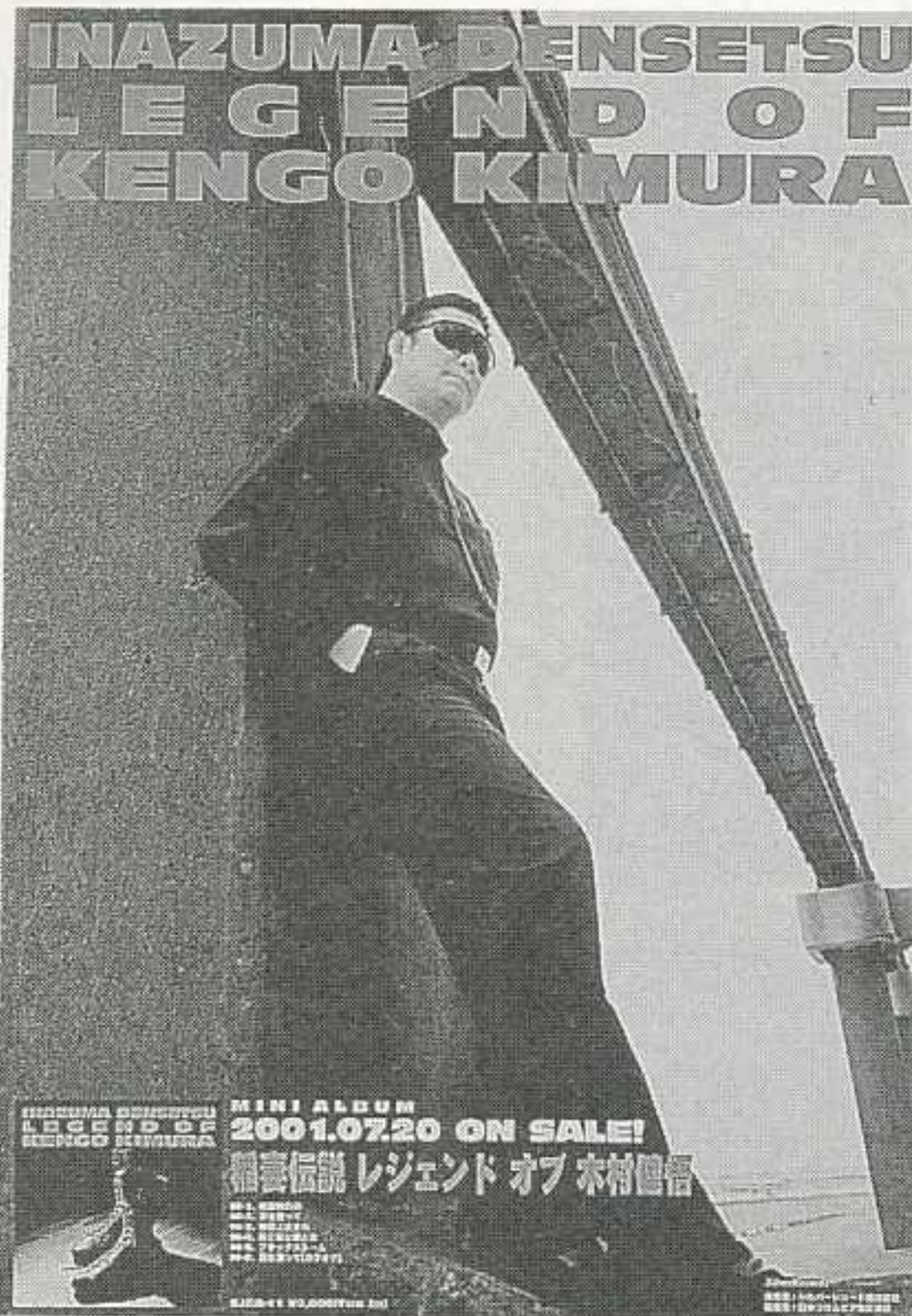
そして本業であるスカウト部長としても健悟はとんでもなく有能！ 部長就任後の挨拶では「あの〜、バレーとかバスケットとかなんでもいいんで、とにかく自信のある人は来て下さい」とコメントして、オイオイ健悟、総合格闘技全盛のこの御時世にそんなのんきなスカウトでいいのかよと思わせたが、何故それほど球技人脈に期待を寄せていたのかが遂に先日明らかに！

〝菱形に清〟のマークでおなじみの巨人軍番長・清原和博を新日のリングに上げるべく交渉していたことが発覚！ オフにはケビン・ヤマザキの元でトレーニングを続け、特になにもしなくてもその辺のバイトレスラーよりは確実に強いだろう清原の一本釣りまで画策していたとは……。早ければ来年の1・4の目玉カードとしてリング上の清原を見られるらしいから、全くもって健悟には「泣きながらアイラブユー」といいたい。最近プロレスインポ気味のお父さんたちを久々にビンビン膨張させる稲妻スカウトに、更なる期待は高まるばかりなのである。

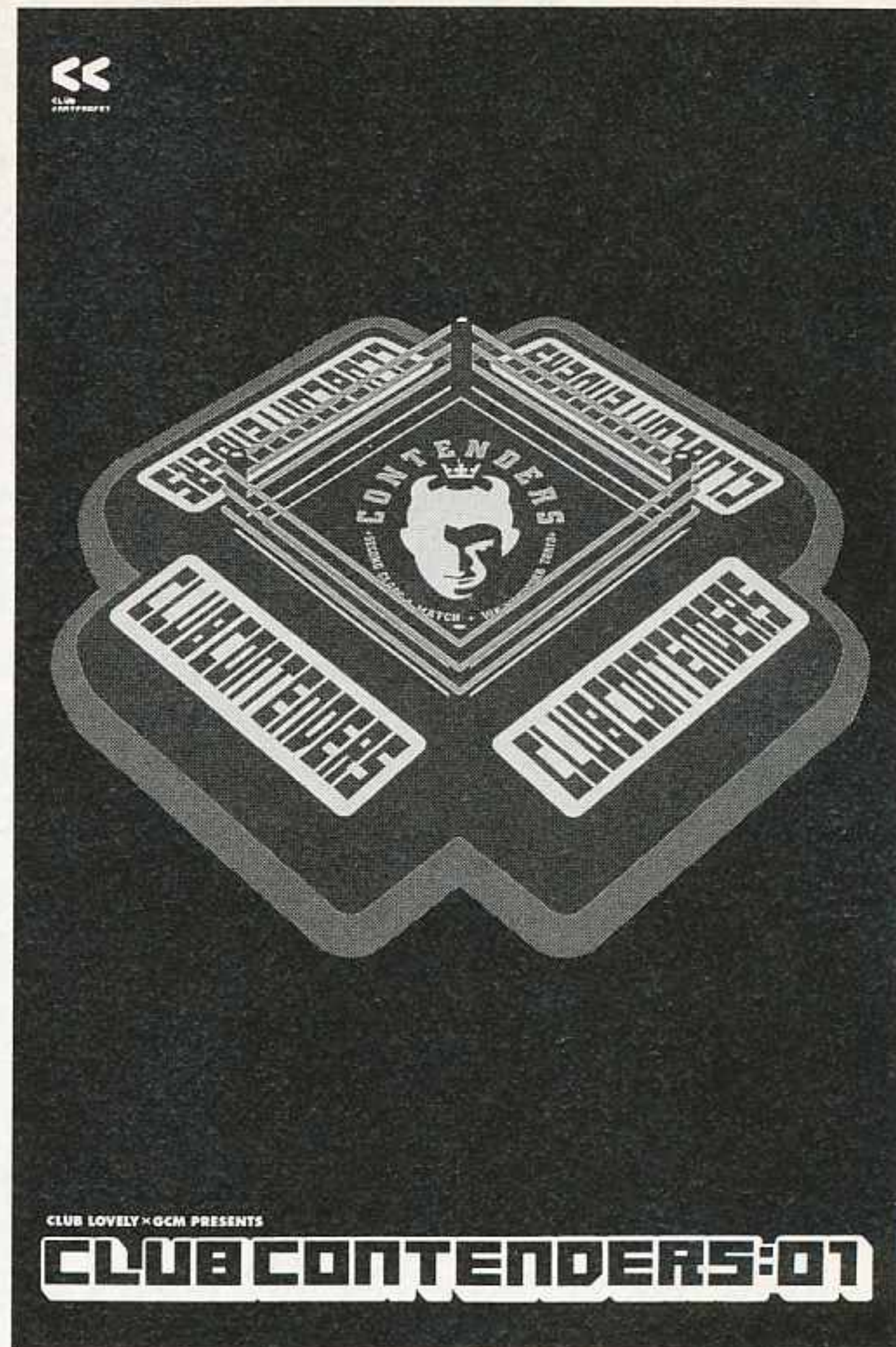
しかしこれら一連の唐突なキムケンエキサイトは何を意味するのか？ もしかしたら健悟もアガリクス喰ってんのか!? イヤ、絶対そうに違いない！ あの木村健悟さえも異常なまでに発奮させ、スーパーKEN-GO！に変えてしまったアガリクス茸……。ス、スイマセ〜ン!! 猪木さん俺にもそれ下さ〜〜〜い!!!

おきて・ぽるしぇ■先日取材で前田道場を訪ね、初めての生前田日明に緊張∞！ 「自分、どんな音楽やってんの？」とCEOに聞かれて「う、打ち込み系ですかね」と答えたら、「打ち込みってなんや？」と聞き返されました。前田最高！

INAZUMA DENSETSU LEGEND OF KENGO KIMURA

MINI ALBUM 2001.07.20 ON SALE! 稲妻伝説 レジェンド オブ 木村健悟

格闘技と音楽は融合できたのか？

クラブコンテンダーズ

6・15新宿リキッドルーム"踊る大格闘技戦"リポート

WWF特集で久々に呼び出しのかかったスモー・ノブが、勢い余ってなぜかコンテンダーズもリポート!? 『紙プロ』編集部の中でいちばんクラブで遊んでいたスモー（格闘技はほとんど知らないけど）に今回のクラブ・コンテンダーズをリポートさせてみました。

CLUB LOVELY×GCM PRESENTS
CLUB CONTENDERS:01

構成／スモーノブ

ベストバウトは所英男（パワーオブドリーム）vs阿部兄（RJW）。ジャーマンをキレイに決めた所、凄すぎ！

プロレス＆格闘技とクラブ（語尾上がり）……古くは力道山とニュー・ラテン・クォーター、UWFインターナショナル勢とジュリアナ東京、魔沙斗とベルファーレなど、何かと因縁のある2つの業界。強い男は夜の方も当然強くなくてはならないという方程式は確実に存在する。というわけで、今回は東京を代表するクラブ・イベント『CLUB LOVELY』と、総合格闘技の新時代を牽引する『CONTENDERS』が合体イベントを行った模様をリポートしてみたい。

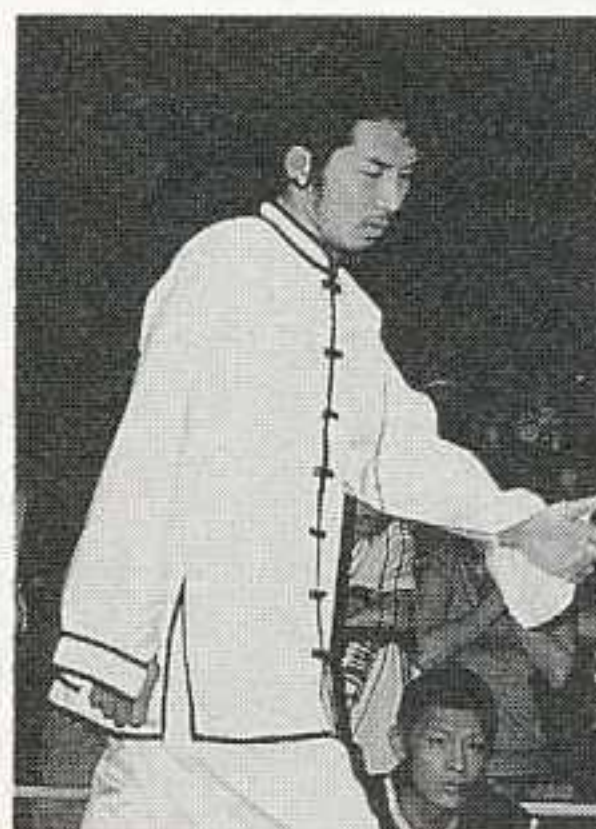
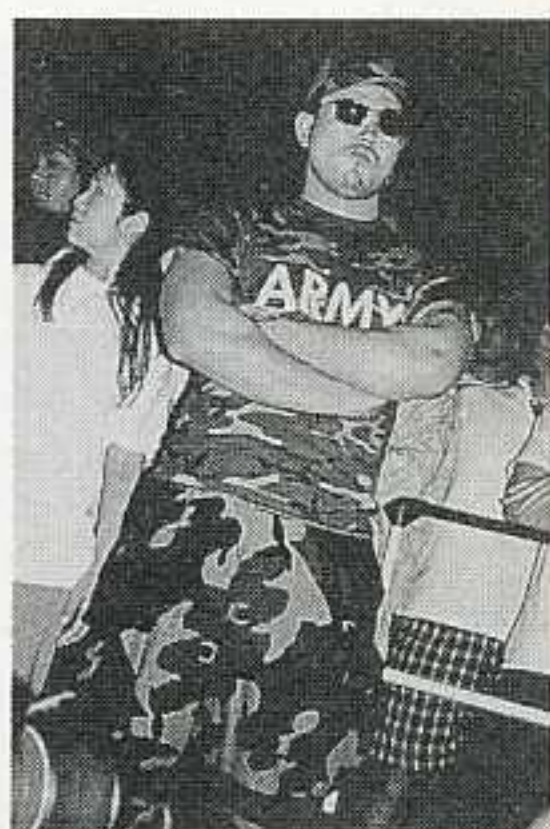
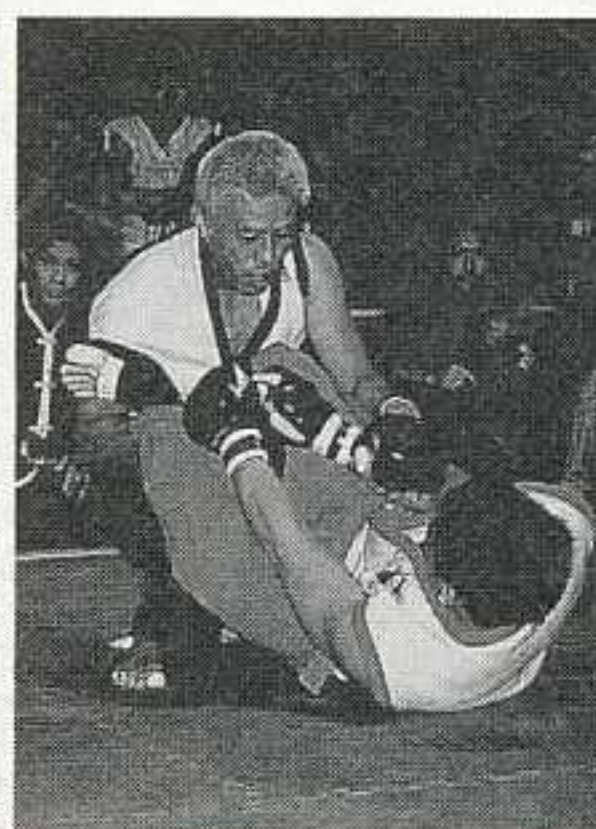
まあ、このイベントに行った格闘技ファンのホームページを見ると「客層のまったく異なるクラブイベントと一緒にイベントやる意味がわからない」という否定的な意見が少なくなかった。そりゃそうだろう、試合を見に来たつもりが、（格闘技ファンとしてみれば）余計な音楽がついてきてしまったのだから。格闘技とダンス・ミュージックを並行して楽しめる客層など、最近は増えつつあるとはいえ、まだまだ少数派であろう。

しかし、今回の合体はファッション的な、時流に乗ったようなものではないように感じた。もっと深い意味がある"合体"だった、と。むしろ『CONTENDERS』側よりも『CLUB LOVELY』側に立って見た方が、このイベントの意味は理解しやすいのではないだろうか？

「LOVE」さえあれば格闘技と音楽の合体は可能だ！

そもそも、この『CLUB LOVELY』というイベントは95年に今は亡きAUTOMATIXという新宿二丁目（！）にあったハコでスタートしている。ボクも何度か遊びに行ったことはあるが、ぶっちゃけた話、ゲイチックなノリのパーティーである。もちろん女の子もたくさんいるし、客層もだいぶ変わってきているけれども、根底には"そういうノリ"がある。さらに、このイベントのレジデントDJであるSAWA氏は宇野薫選手の大ファンで、雑誌の連載などで「宇野LOVE」をとうとうと書き綴っていた、という経緯もある。その「LOVE」が最大限に発揮されたのが、この日のベスト・バウトである所英男vs阿部兄ィの試合だった（レフェリーは宇野薫）。ツボを心得たSAWA氏はうまくBGMとして機能するよう絶妙な選曲をしていた。要するに、激しい展開のときは激しい曲を、試合が終わって両者が讃え合うシーンでは泣きのメロディーを……。闘いを非常にドラマチックなものにした選曲だったように思う。ただ試合展開もこう着し、音楽も、試合とかみ合わない場面も多かったのは残念だった。

音楽と格闘技を強引に結びつけてNKホールみたいな大会場で行う金儲けイベントよりも、よっぽど「いろんな意味での）LOVE」を感じることが出来た。格闘技と音楽の"合体"に新たな可能性を感じることが出来ただけでも、イベントとしては大きな意義があったはずだ。

でも、試合が終わったらフロアはガラガラ、帰る人続出。まだまだ完全に融合するのは難しいだろうが、この"合体"から何かが産まれることを期待したい。

道衣ありのVTルール「ORG」がこの日お披露目された。仕掛人の高瀬大樹はチャイナ服でレフェリーを務めた。パンクラスの北岡悟も参戦し、今後の広がりも期待出来そうだ！

入場ゲートには何をするでもなくアーミーが立っていた。何だ？ 園田隆か？

プロレスとエロどっちも裸のおしごとです

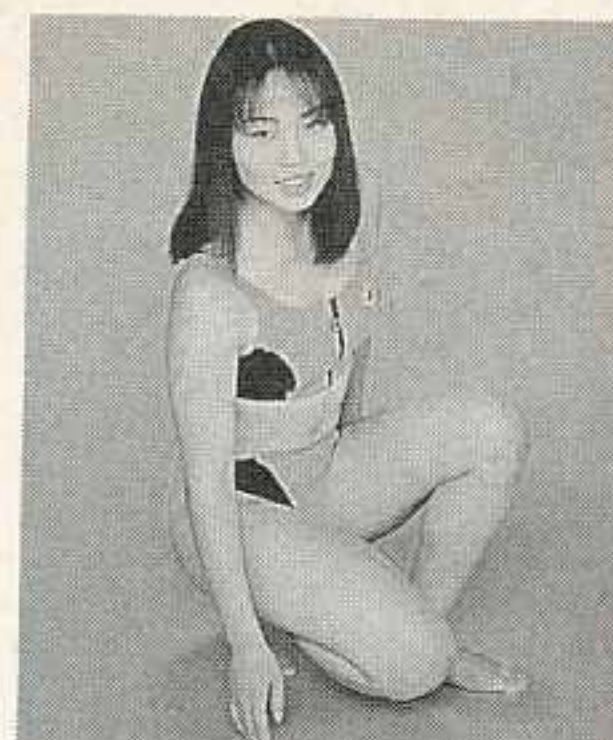
文・大坪ケムタ

エロ・サムライ

vol.8 ファンの幸せと憂鬱の巻

ボーリングのブームが起きた1970年代前半に中山律子プロが「さわやか律子さん」と謳われ、現在でも香港映画のスタントで知られる西脇美智子が「ボディビル界の百恵ちゃん」と呼ばれてたように、ジャンルが存在する所あまねくアイドルが存在する。そしてアイドルを崇拝するファンの姿勢は何処も変わらない。芸能界だろうとボディビルだろうと、当然AVだろうと女子プロだろうと。

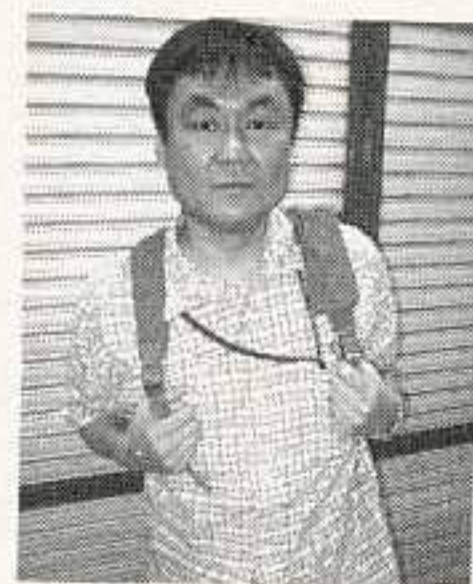
今回登場いただいたのはライターの沢木毅彦さん。ワタクシ的には『オレンジ通信』『URECCO』などAV関係の連載を多数抱え、他にもアイドルや亜細亜映画・音楽についての連載も持たれている大先輩。知ってる人は「『トゥナイト2』で毎回JWPの美咲華菜のTシャツを着てAVの解説をしてる人」といえばピンと来る人もいるかもしれない。各雑誌に自ら売り込み、プロレス専門誌でもないのに3度もインタビューしたという真性美咲華菜マニアなのだ。

「美咲選手が気になりだしたのは、長谷川咲恵選手の引退試合があった横アリでしたね。元々長谷川のファンで、そん時は永遠に咲ちゃんだぁ！って思ってたんですけど（笑）。ドン臭そうなタイプが好きなんですよ。長谷川にしてもそうでしょう？ どれだけダイヤモンドの原石が磨かれていくのかみたいな所が楽しみっていうのがあって。それでいて、ここ一番の時にケガしていなくなってしまうような（笑）。でもそういうのがあるとまたドップリとハマっちゃうんですよねぇ。長谷川もケガに泣かされてベルトの一本も巻かずに終わってるじゃないですか」

その5年近く追いかけてきた彼女が先日ディファ有明で引退したのは皆さんもご存じの通り。

「やっぱり最後の試合はジンときましたけどね。でもいい時期に引退してくれて良かったなとも思いますよ、彼女のキャラからしたらね。だいたい女子プロって22歳ってひとつのターニングポイントになるでしょう。そこを越えてどう残るかってすごく難しいと思うんですよ。22の盛りを越えたらタフであるのと同時に美しくないと生き残れない。美咲選手はどっちつかずだったからなぁ（笑）。でもああいう女の子がいるから団体として魅力的なわけでね。以前JWP5周年記念本の仕事をやったときに山本代表が『あの子はいてくれるだけでそれでいい』って言って、愛情が薄いなぁって思ってたんですけど、その意味がようやく後で分かりましたね」

また、沢木さんのスゴイのは本人を招いて新宿ロフトプラスワンで2度のトークイベントを開いたこと。しかも何の後援があるでもなく、彼女のギャラも含めてオール自腹で。

「最初に篠崎社長に『彼女のトークショーやらせてくれ』って言ったら、『喋れるタイプじゃないし客が集まるわけないからダメだ』って言われて。それを『こんな珍しいイベントは絶対見とかなきゃ、生き証人になっとかなきゃ』って、ファンが集うはずだ」と説き伏せたんですよ。実際は満員にはなったけど、こっちには一銭も入ってきませんでした（笑）。内容はファンとのトークと、あの時は彼女にビデオ渡してプライベートの映像を撮ってきてもらったんですよ。結構彼女はセンスがあって、カンパニー松尾みたいに自画撮りしながら『えー、今長崎に来てます』とかやってくれたりして。それで天野選手と豊橋のホテルで浴衣でじゃれあってる所とか、『今お酒飲んで顔赤いです』とか、ディープな映像撮ってきてくれたんですよ」

しかし引退直前にまたイベントやろうって話はなかったんだろうか？

「いやもう思わなかったですね。人前で喋るのは苦手だから精神的に疲れましたよ。しかもイベント2回もやるといつものように後楽園に行って、売店で本人からサイン入りTシャツとか買えなくなったんですよ、恥ずかしくて。中途半端な顔見知りってイヤじゃないですか？ 間合いが図りづらくて（苦笑）」

関係者になってしまったことで、自分と彼女の「選手とファン」という幸福な関係を壊してしまった沢木さん。両者の関係は近くなればヨイというもんではないのです。

「プロ野球の女性ファンって究極の夢は選手との結婚じゃないですか。でも女子プロの男のファンってそうは考えないですよね。そのレスラーのファンってだけでステイタスで。でも一番良いプレゼントしたのは誰だってあるじゃないですか。誰々は犬買ってくれたとか、女子の選手は犬好き多いから。そこでボクはイベントやってあげた、それがプレゼントだと。周りからは思いっきりバカにされましたけどね、赤字覚悟でそんな無謀なイベントするのはオカシイよと。でもボクは『なんで？』と聞き返したいんですよ。それは誰かのファンになったことのないヤツの言うことですよ！」

でも、聞いてるとキャバクラ嬢と客の関係と同じですよね、ソレって。プロレスファン論は実は水商売と同じ論理だった（笑）。

「ホンマや！（笑）。しかも共通してるのが相手がありがたがってるのかよく分からないってところ（笑）。試合見せてくれるのが水割り作ってくれるようなもんで。そうかぁ、ボクはキャバクラの客だったんだなぁ……」

おおつぼ・けむた■最近のお仕事は『デラべっぴん』（英知出版）の安売り王ビデオ再検証企画。その他『ビデオメイトDX』（コアマガジン）『お尻倶楽部』（三和出版）などで絶賛執筆中。

7月29日有明大会で引退した美咲華菜選手。沢木さん的ベストバウトは98年6月14日後楽園の本谷香名子対天野理恵子戦。

武田いづみの

ディスカバー・ジンニホン

VOL.5『リングス10周年記念興行』の巻

8月11日。

今日はリングスの旗揚げ10周年記念興行をごっつあんしに、有明に行く。いまさらだが、初めてゆりかもめに乗った。ゆりかもめは遊園地の乗り物のようで、なんだか現実感が無い。そもそもこの辺りの景色すべてが遊園地に見える。東京湾の花火大会があるとかで、浴衣の女子が多い。やはり夏といえば浴衣。それが青春。それが勝負。不戦敗、私と同行の友人。ちがう、花火を観に来たわけじゃないんだ。リングスを観に来たんだ。有明コロシアムに着くとまもなく雨が降り出した。少しほくそえんだ。

正面入口には、さすがにたくさんの人がいる。友人（巨乳）が「ノッポさんみたいな、すごく怪しい人がいる」と言って誰かを指をさした。その先には、真っ赤なTシャツを着た、ターザン山本一揆塾塾長。出来すぎている。こんなにたくさんの人の群れで、予備知識のない女がまっすぐ指さしたものがこれか。なんて人を見る目のある友人だ。それにしてもノッポさんには失礼だ。

雨が降ったせいで、涼しい。しかし、中に入るともっと涼しかった。朝の満員電車もこのぐらい頑張れ、というほど空調が絶好調だ。そこにいる人の数に対して、空間も、空調も、多すぎる。

長い長い長い、興行。

友達が「寒い」、「暗いと眠い」。携帯をいじり始める。残酷。休憩時間、売店で「肉でも食ってやれ」とジャンボフランクを買う。ふと見ると、売店のメニューには「J・フランクフルト」とある。なんだこれは。外国人選手か。200円のくせに、相当なボリュームなので「なんか、いやらしいほど太いね！」と言わないほうが無難なことも言ってみた。必死でやっつけにかかっているうち、試合が始まってしまった。暗い会場にまた潜り込んで、席で食う。暗いせいか、白いTシャツをケチャップで汚した。相変わらず空調は張り切っている。寒い。

花火の音が聞こえ始めた。低い爆発音がする。リングはそれと無関係にゴトゴト鳴っている。経験したことはないくせに「戦争みたいだ」と思った。そのうちここが防空壕のような気がしてきた。外の騒ぎから遮断された空間。10周年記念興行の真っ最中に花火が上がっているなんて、めでたいはずなのだが、ここからは花火はおろか火の粉すら見えずに音だけが聞こえるので、めでたさは無い。花火は、興行時間中に始まって、興行時間中に終わった。

「プロレス、あるよっ！」と、ダフ屋が言った。

「総合格闘技も、徐々に認知されはじめ……」と、前田日明が言った。

「プロレス終わっちゃう前に、ササッと行ってくるね！」と、試合中トイレに急ぐ子供が言った。

ジャンルというのは、なんて曖昧なんだろう。リングがある。闘う人間がいる。プロレス。格闘技。プロレス。格闘技。

試合が終わっても、なんとなく駅に行きたくない感じで歩き出す。大観覧車が綺麗で、やっぱりここは遊園地だ。普通じゃない。わけがわからない。早く帰ろう。猛烈に眠い。昨日寝てない。そのくせ、「白木屋にいる」という誘いが入ると、ここの作文の内容を全然考えてないのに飲みに行く。明日までには、きっと無理です。まだなんにも書いてない。一杯目のビールは、ぬるいビールが出てきた。こういう瞬間は大事にしなくちゃいけない。頑張って「ぬるいんですが」と言ってみる。取り替えてくれたビールは、多少冷たかった。ひとり逆方向に歩いて帰る。明日は7時に目覚ましをかけよう、という午前3時。

目覚ましどおりに7時に目覚めて、8時まで2度寝。3度4度、繰り返して11時に起床。いい加減なんか書かねばならない。書きたいんだけど。午後、TVをつけると腹筋の割れたヤスが居た。あ、G-1だ。

TATSUMI FUJINAMI

「DBSSのアレクTシャツをパクってみました。背中には "Really!?"（エーッ、本当なの!?）。着て呪われてもしりません」

たけだ・いづみ■前回、『週プロ』が新日道場を「アメリカのジム」と評したのを「謎かけなし」と書きましたが、ありましたね。今後ドラゴンはアメリカのジムで新弟子を育てるとか。逆輸入……それって闘龍門？ どっちが本物の龍かハッキリさせるため？

ザ・検証

プロレス点と線

検証検証検証骨法検証検証骨法検証変装検証円蔵検証検証……あんまりいっぱい検証しすぎると腱鞘炎になっちゃうわよ。というわけで、今回は、いつにも増して気合いを入れていってみます！　まずは秋の定番・いつもホットなドラゴンネタと、とびきりクールな小原ネタの2連発だよん。

ザ・検証

【今月の検証】

藤波探しの旅（ドラゴンクエスト）

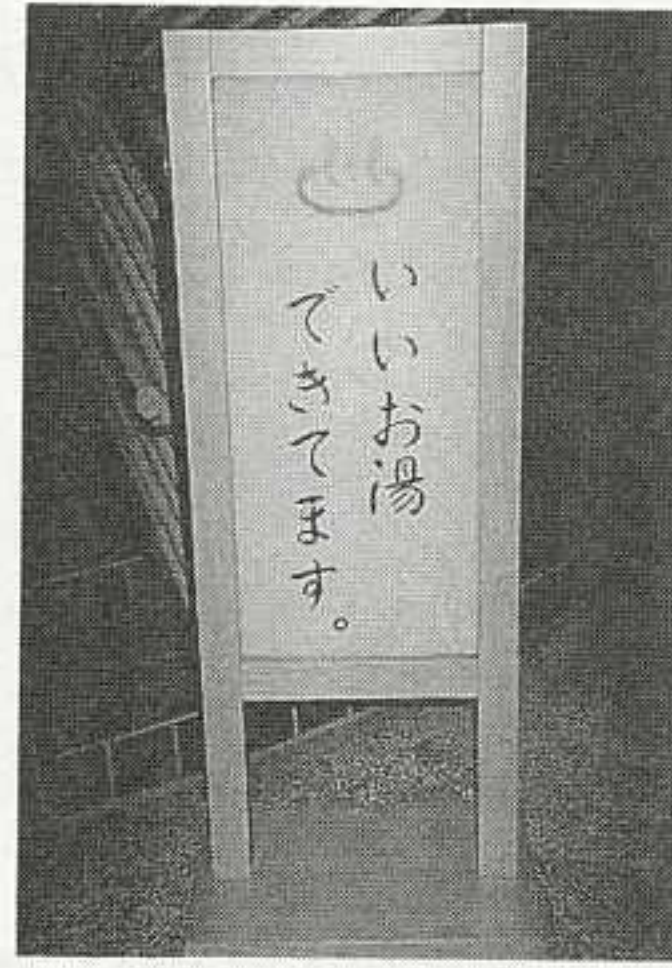
by 椎名基樹

先月、暑すぎて原稿どころじゃない、と書いたが、その後8月は一向に晴れず、夏らしい日がなかった。天気が良くなったと思ったら、空気は澄み、夜気などは涼しく、すっかり秋めいてしまった。

秋、寂しい季節だ。何もしないうちに、夏が終わろうとしている。白血病の入院治療のため、高校最後の夏休みを棒に振ってしまった、なっちのように、さらに24時間テレビの司会を徳光とともに務めた、なっちの白い眼帯のような、そしてさらに、24時間マラソンに挑んだ研ナオコに増田明美が発した「研さん、一回り小さくなってしまいました」という言葉のような、説明できない寂しさが、俺の心を埋めつくす。

寂しい。

寂しくて原稿どころじゃない。

気が狂いそう。
人にやさしくして
もらえないんだろ？
だったら俺が言ってやる！
でっかい声で言ってやる。
自分自身に言ってやる。
がんばれ！
もういっちょう！
がんばれ！
まだまだ！
もういっちょ！
がんばれ！
研さんに負けるな！
がんばれ！
もう少しだけ！
がんばれ！
それそれ～！
がんばれ！
最後にいっちょう！
がんばれ！

と、いうことで、行数を稼いだところで、先月予告した、藤波が出没するという、東京都調布市仙川の健康ランドにパトロールに行ってきたので、その報告をしよう。

今回、俺が藤波探しの旅（ドラゴンクエスト）に出かけた場所は、仙川にある『湯けむりの里』という何やらシューティングジムがありそうな名前の温泉である。そこで2度藤波を見たという、友人の情報によれば、いずれも日曜日だということで、それに合わせて俺は出かけた。

『湯けむりの里』は新しく巨大な高級マンションに隣接されていた。多分、最近温泉が出て、それをマンションのオプションとして売り出されたのだろう。とにかく新しくてきれいだ。ここだけではなく、仙川の駅に降りた時から、いかにもニューファミリーの住みそうな、便利できれいでのんびりしていて、新しく区画された住宅地だという印象を受けた。

『湯けむりの里』は思ったより小さく住民の憩いの場という感じ。ジャグジー、サウナ、露天風呂、そして大食堂と、一通りの施設は揃っていて、温泉施設としては申し分ないが、もし藤波がいたら、正に裸のつき合いという距離感を常に保てる規模である。ドキドキしながら、入り口を通る。入り口には「入れ墨お断り」のいつもの貼り紙。

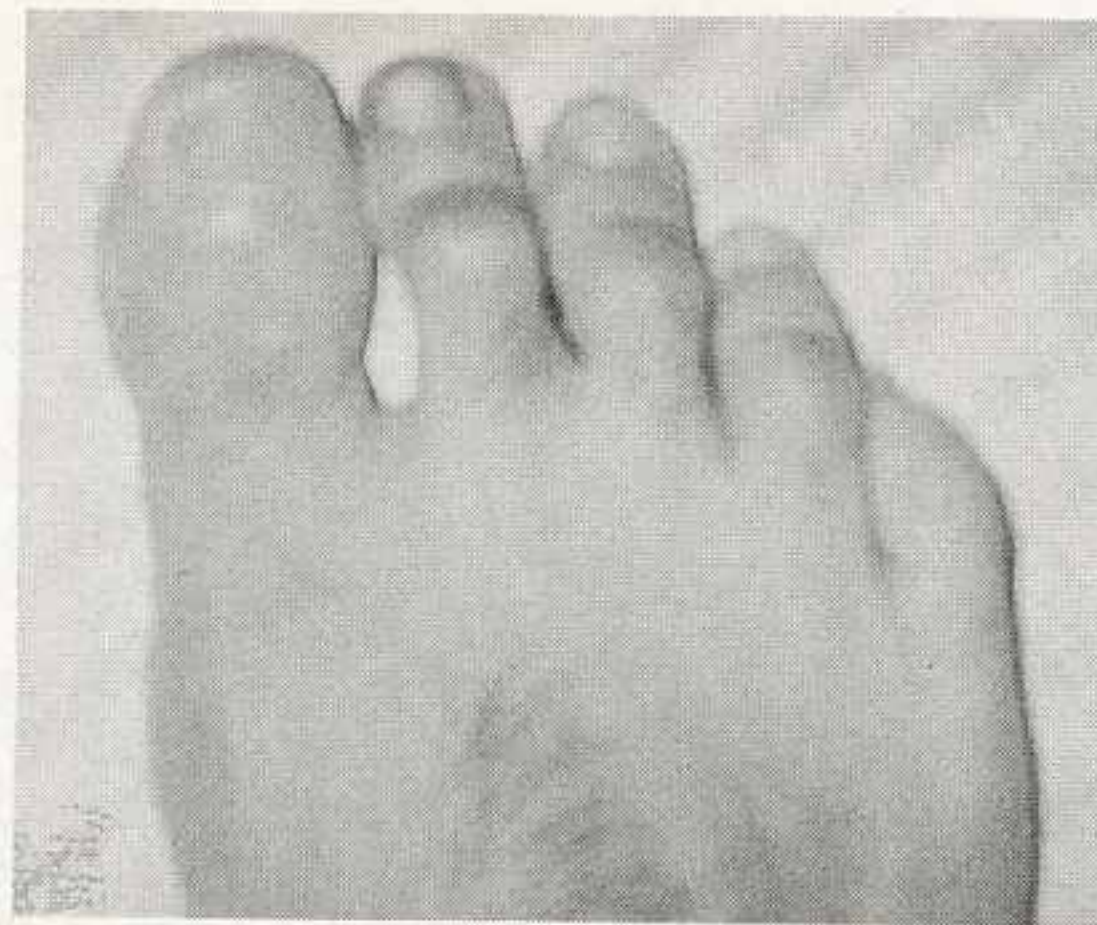
これでは、来日中のビガロをドラゴンが接待することはできない。残念。

入浴料500円。湯殿に入ると、その人の多さにビックリ。さすが日曜日だ。しかし、この人口密度の中、あの藤波のマダラなマッチョバディーは目立ちすぎるだろう。頭の中で、その空間に藤波を置いてみると、もの凄い違和感だ。しかし、しばらくするとその風景も落ち着いてきて、藤波なら馴染むハズと思えてくる。

露天風呂のスペースには、サマーベッドが置かれていて、男達がトドの大群のように、所狭しと寝ており、尚かつ湯気でダラリと伸びきったMENS・ヴァギナを隠そうとしない様は、非常に不愉快な光景であった。しかし、日焼け好きのドラゴンのこと、自慢のマグナムを隠そうとせず、寝そべっていたに違いない。そう思うと、余りの無防備な社長ぶりに、イラ立ちさえ覚える。

結局、その日は藤波には会えなかった。しかし、藤波の日常を垣間見た気にはなれた。

俺は、最後にサウナに入って帰ろうと思った。以前、某雑誌の取材で、浅草キッドが藤波のインタビューをした時、ドラゴン会いたさに、同行させてもらったことがあった。その時藤波は「今日も朝からスポーツクラブでサウナに入ってきてね」と自慢気に言っていた。しかし、きっとそれもカッコつけて、スポーツクラブと言っただけで、本当は『湯けむりの里』だったに違いない。そう確信しながら、苦手なサウナに入った。

5分後出て来たら、水風呂がある。藤波の水風呂といえば、猪木である。藤波の行きつけのサウナに入り、猪木イズムを体感するのもいいものだ。そう言い聞かせて、俺はサウナよりもさらに苦手な水風呂に入ろうとした。その瞬間だった。足をフラつかせた俺は、前のめりにコケた。左足の人差し指（足の人差し指ってのも変であるが）に激痛が走った。見る見る血が溢れてくる。爪が半分以上剥がれてぶら下がっている。

これが問題の人差し指！　やっぱり呪いか？

呪い。

その言葉を思い出した時にはすでに手遅れだった。

PS　ドラゴンは隣接するマンションに住んでいると思う。

ザ・検証

【今月の検証】小原が〝気合い〟を捨てたワケ?

by せき詩郎

小原の辞書に「気合い」以外の文字はなかった。

小原道由。飛びぬけた技術も、ズバ抜けたスピードも、アスリートと呼べるような体型も持ち合わせてはいない選手である。それでも彼は異能の持ち主であった。リング上で気合いを入れ、それをアピールすることができたのである。たった一つではあったが、彼には気合いと言う武器があるのだ。それは対戦相手を驚かせ、繰り返すことで相手をいろんな面で疲労させ、その気合いにはもうお手上げですと思わせるほどの、いわばテクニックであった。

7月20日、札幌。小原対安田戦。覚悟の量が違うと表現されるレスラー同士の格闘技戦。覚悟の量だけではない。かたや他の格闘家とは借金の量が違い、一方小原は気合いの量が違う。いや、違うはずだった。その日、小原の気合いを一目見ようとつめかけた観客は全員我が目を疑った。小原が気合いを前面に押し出していないのだ。そこにいたのは小原であって小原ではなかった。内に秘める気合い、闘志は十分過ぎるほど伝わってはくる。格闘技戦にかける意気込みも感じられる。いつもとは違う雰囲気は独特の緊張感を生み出してはいるが、小原の気合い、ポーズ、大声までも消してしまったのだろうか。小原は気合いを捨ててしまったのか!?

「オレは今、あるものに向かって照準を定めている。安田ってヤローが、ちょっと外に出て勝ったぐらいでいい気になっているらしい。邪魔だからオレが叩き潰す!」と小原が突然表明。そして安田戦。その間に何があったのか? 小原が気合いを捨てる理由がそこにあったはずだ――。

小原「気合いゆえに人は苦しまなければならぬ!! 気合いゆえに人は悲しまなければならぬ!! 気合いゆえに……」

格闘技戦用の練習を開始する小原が選んだのは、新日の道場でも国士館大学柔道部でもなかった。気合いの原点ともいえるアニマル浜口ジム。小原は師匠であるアニマル浜口のもとを訪れた。厳しい練習の日々ではあったが、小原はそれを辛いと思ったことは一度もなかった。小原はどんな厳しい修業にも耐えた。ひとつの技を体得した後、浜口の大きな手、大きなぬくもりに抱かれる喜びのために。

そして安田戦前日。浜口から小原にひとつの試練が与えられた。

浜口「よいか、小原よ。これから襲いかかる敵を倒せ。これはお前にとって初めての真剣勝負!! しかもお前は目をふさいで闘わなければならぬ!! これこそ気合い伝承者への試練! 真の伝承者の道に情けなどないのだ!!」

目隠しをする小原。そこに敵が現れる。その気配を察した小原。攻撃をかわし、気合いを入れる! 見事に決してランニングエルボー! そまり、敵は倒れる。目隠しを取り、敵へと近づく小原。そこで小原は信じられないものを見ることになる。なんと倒した敵は師匠のアニマル浜口であったのだ!

小原「お……、お師さん!!」

浜口「み……、見事だ小原!!」

小原の強烈なランニングエルボーをくらった浜口はもはや虫の息。傷ついた浜口の身体を小原は抱き寄せた。

小原「な……、なぜ。身を引けたはず。そうすれば俺のランニングエルボーをかわせたものを!」

浜口「いや……、お前のランニングエルボーの鋭さに、かわすにかわせなかったのだ」

小原の目から涙が流れる。

浜口「も……もう、お前に教えることはなにもない」

小原「うう……」

浜口「な……泣くでない……。アニマル浜口ジムの気合いもまた北斗神拳と同じく一子相伝。気合い伝承者が新たなる伝承者に倒されていくのも我らが宿命!」

小原「お……お師さん……」

浜口「わしは……お前の瞳の中に気合いを見ていたのだ……」

そして息絶える浜口。

小原「おっ、お師……お師さ〜〜ん!!」

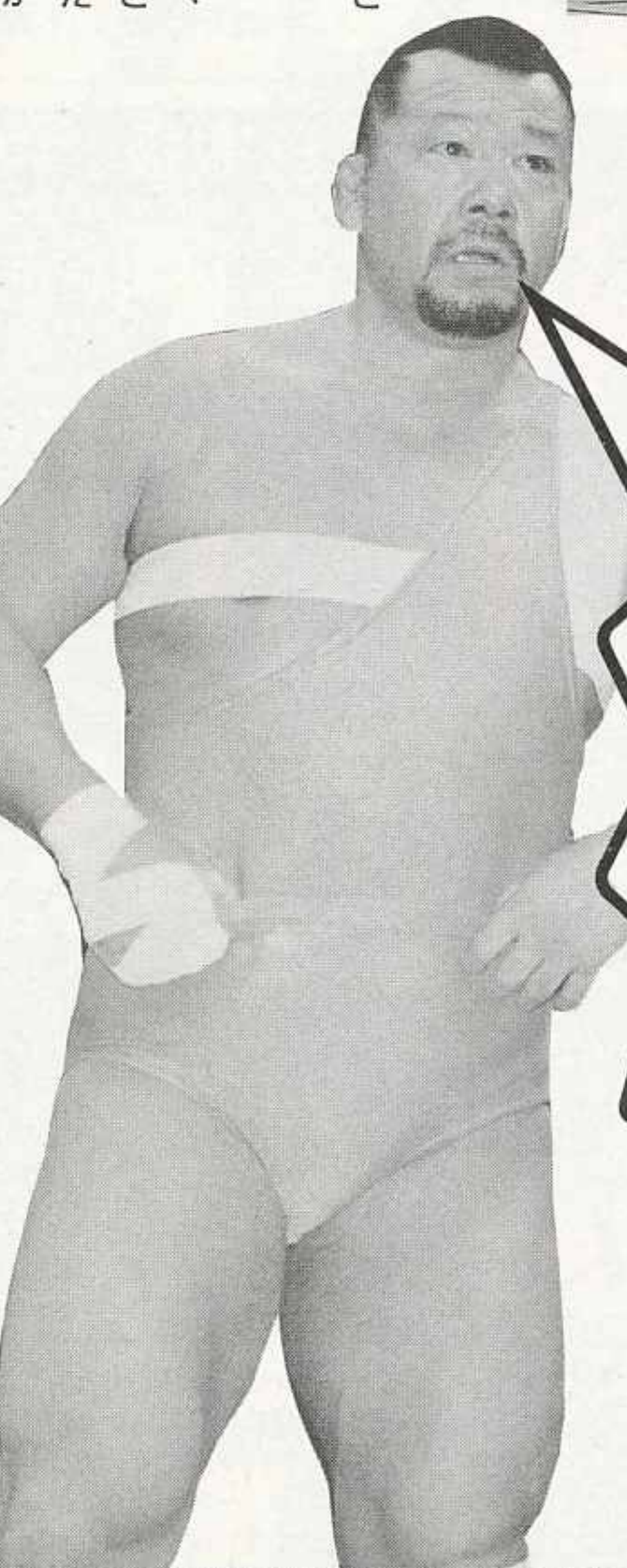
泣き叫ぶ小原。この時小原は決めたのだ。

小原「こんなに悲しいのなら、苦しいのなら……。気合いなどいらぬ!!」

こうして小原は気合いを捨てた。

などということは全くのデタラメで、真夏の熱帯夜に、ゲーム(ナニワ金融道のボードゲーム)つけっぱなしで、蚊に刺されながら見た寝苦しい夜の夢に過ぎない。

しかし、確かにアニマル浜口著『バカ野郎!〜グチャグチャ言いわけするまえにぶつかってみろ!〜』の中に書かれている、

『「オレはなんでもできるすごいヤツだ」と言いつづけろ』『朝起きたら、大雪が降っていても窓を全部開け放て』『ドキドキしてきたら、なんでもいいから大声で叫べ』『毎日〝気合い日記〟をつけて、自分の燃え方を振り返れ』『悩みがあるなら、毛が抜けるまで悩みつづけろ』等の記述を見る限り、「なんか気合いって大変そうだなあ、別に気合いなんて要らないかなあ」なんて誰もが思ってしまうことだろう。小原が安田戦で気合いを捨てたのはそういう理由ではないと思うが、いつもの小原を封印したことが敗因であると、私が勝手に断言してもそれほど影響があるとは思えないのでとりあえず断言しよう。

小原の格闘技路線はまだ終ってはいない。次の試合から、小原の気合いはリング上に充分過ぎるほど満ち溢れ、時には残酷で、時には楽しげな名画を描き続けて行くと信じていきたい。極めるべき瞬間に、突然気合いを入れ大声を出したり、意味も無く拝んでみたりしたために逆転負けを喫しても、誰も責めるものはいないだろう。それが小原を応援する者の宿命、維震ファンの運命であるのだから。

気合いだーーッ

やれんのかーッ!!

純プロレス
新世紀開幕目前!?

三沢を破りGHCヘビー級王座奪取!!

武藤を破りG1初制覇!!

新日本10・8東京ドーム
秋山&永田vs武藤&馳 決定!!!

そして試される新エース秋山永田の手腕

今年5月に秋山が発した「永田がチャンピオンになったら挑戦したい宣言」以来、着々と進められていた、秋山の新日本出陣が、秋山がGHC王者に、永田がG1王者になったことで遂に正式決定した！
10・8問東京ドーム　秋山&永田vs武藤&馳！
対戦相手が新日本というより、全日本色の強いBATTというところに若干の違和感を感じるが、そもそも秋山が永田にラブコールを送ったのは、「最高のプロレスを見せたいから」。プロ格、格プロなどと言われる中で、純プロレス復権を宣言したのである。

ならば、その相手として武藤&馳は、申し分ない相手であろう。
『猪木軍vsK－1』という巨大な対抗戦が行われる一方で、はたして秋山と永田は、メジャー交流という切り札と、その試合内容で「プロレス」を世間にアピールすることができるか？
秋山、永田、やれんのかーッ!!

構成／堀江ガンツ
design by ZERO graphics

毒舌知能犯 秋山準語録

遂に決定した、秋山の新日本10・8東京ドーム出場。その目的はズバリ、「純プロレス再生」にある！　秋山が目指す純プロレスの復興策とはいったい何なのか？　永田と共にどんなプロレスを見せようというのか？　この大一番を機に、ノア旗揚げ以来、常にそのトゲのある発言で突き動かしてきた秋山のプロレス観、生き様を、これまでの語録を振り返ることで、改めて検証してみたい。

vs新日本プロレス

遂に開戦する〝真メジャー交流〟新日本vsノア。はたして、ノアのエースは新日本に対してどんな思いを抱いているのか？

（長州の「ノアの連中は人数が多すぎるから変われないいんじゃないか」という発言に対して）

いいや、何としても変わってみせる。そしてノアを一番の団体にしてみせる。

（THIS IS NOAH！）

長州の大きなお世話な杞憂に対して、真っ先に反応する秋山。それにしても「人数が多すぎて変われない」は新日本のことでは？

同じ曲を何回も繰り返し聴かされているようだった。武藤さん、あの試合で大丈夫なの？

（平成13年　週ゴンNO．874）

武藤と馳による40分にわたるある意味、記憶に嫌でも残る凡戦に対して一言。「同じ曲」とは、もちろん四の字固めのことだろう。

武藤さんの膝がもてば、いつでも40分お

付き合いする。俺は充分できるよ。

（平成13年　週ゴンNO．874インタビュー）

同じく武藤vs馳戦への皮肉。暗に「俺達と同じペースで40分闘うのはムリ」と断言しているようなもの、10・8は武藤と秋山の絡みに注目！

藤田選手も小川選手もいいけど、俺は永田選手が良かったと思う。やってて何か久しぶりに楽しかった。ウチでは楽しめる人がなかなかいないんで。

（平成13年3月2日両国　ZERO-ONE　対橋本＆永田戦終了後コメント）

永田をほめているようでいて、「ウチでは楽しめる人がいない」と暗にノア批判。このような二通りに意味がとれる発言も秋山節である。

NOAHには僕を輝かしてくれる人間がいない、フライングかもしれないけど（永田がベルトを）とったら挑戦させてほしい

（平成13年5月13日　ディファ有明大会終了後コメント）

これが初めて正式に口に出した、永田戦への希望。しかし、永田は藤田に敗れ王座奪取ならず。

僕が一人で新日へ行く事は、ZERO-ONE参戦より上

（平成13年5月19日　釧路大会終了後コメント）

この3週間前に、ファンの話題を独占したZERO-ONEでの「三沢vs小川」に対抗する発言。

（ZERO-ONE3・2両国大会終了後の藤田との乱闘騒動について）

藤田選手には僕から蹴りを入れましたよ。哺乳類最強でも無防備にケツ向けてたらね

（平成13年　週ゴンNO．859インタビュー）

ある意味、三沢と小川の絡みよりも興味深かった秋山と藤田のファーストコンタクト。この一戦が実現することはあるのか？

（今の新日本では中西さんが頭一つ抜きん出た形ですが、と聞かれて）

新日本では中西さんが抜きん出たんじゃないんですよ！　あれは永田さんが抜きんださせてるんです。

（紙のプロレスRADICAL39号）

ファンも薄々気づいてはいたが、永田＝野人・中西の飼い主説を秋山が立証。G-EGGSが解散したいまどうする中西。

（交流機運便乗した中西、天山、藤波の三沢戦熱望に対して）

金魚のフンみたいに、俺も俺もと便乗するな

（6月4日付　東京スポーツ）

例によって「オレだって三沢とやりたい」と暴走するドラゴンを秋山が一蹴。痛い所をつかれたドラゴンは、「この話はもう終わり！」と宣言。すねるな！

全日本時代

今振り返ると実に興味深い、秋山の全日時代の発言。その毒舌はこの頃の方がストレートな分、さらに強烈だ。いまだから真意がわかる発言を読め！

（秋山の試合を「技のデパート」と酷評していたことについて）

川田さんだって、自分があれだけ言ったんだから秋山がどんな気持ちでいるのか、それくらいはわかるでしょう。きづかなければアホですよ

これだけじゃなく、「裏でどうこう言う人なんで、レスラーじゃなく人間として腹を立てたことがあります」と川田を断罪！

僕がここまで来れたというのは川田さんの存在が大きいですね

（プロレスの達人12）

「反面教師」という言葉が、誰の頭にもごく自然に浮かび上がるかのような、発言である。

VSプロレスリング・ノア

"三沢から"ベルトを奪うことで、リング上の主権を遂に獲得した秋山。で、ノアはどう変わるのか？ また秋山がチャンピオンになったことで、痛烈発言は健在なのか？

（三沢の「秋山はどこへ出しても面白いですよ」という発言に対して）

どこに出してもいいのは僕一人じゃないですか。それじゃ困るんですよ。

（THIS IS NOAH!）
ノア内部への秋山の思いが凝縮されたような一言。

（アマレスの主将をやっていた大学時代と、後輩への接し方は変わったか？ と聞かれて）

昔だったら、丸藤なんか相当殴ってますよね。橋なんか死んでますよ。

（THIS IS NOAH!）
死ぬまで殴られそうな橋という男に逆に興味がわいてしまうのが不思議である。

若手は自衛隊にいけ！

（紙のプロレスRADICAL29号）
新人・杉浦に頭下げてでも、アマレスを身につけろ、という秋山の檄。全日時代に「ウチの若手は新日本に勝てない」発言をするなど、秋山は強さのベースを身につけさせることにこだわりをもっている。

（若手の技術底上げについて）

百田さんには精神的なことを教えてもらいたいですね。いいプライドもってるんですよ。身体は大きくないけど気持ちは2メートル50くらいあるんで（笑）。

（THIS IS NOAH!）
さすが力道山ジュニア。百田のインタビューも本誌でやりたいものである。

（三沢の「ヒクソンとやったとしても投げ技が決められるんじゃないか」との発言に対し）

それは無理ですね（キッパリ）

（平成12年 週プロNO．975）
「ホイスだったら飯塚で十分。うちの若手でも勝てる」と言った親方発言とは正反対の発言。この正直者！

ノアに今必要なものは男前の選手

（週プロ1000号突破記念ライブ）
決してファミリー軍団の増殖を訴えているわけではない。

三沢VSベイダーがメインで俺と小橋さんがセミだったら、もう会場には行かない。

（平成12年10月22日 ディファ有明大会終了後コメント）
どっちがメインにふさわしいか。現時点での試合内容に重点を置く秋山らしい発言。

（花道で田上を絞め落としたことについて）

だってあれぐらいやんないと動かないじゃん、オッサンだから

（平成13年2・11ディファ有明）
やっぱり出てきた田上への発言。しかし、あれぐらいやっても田上が目覚めるのは年に一度なのであった。

（7・27武道館での三沢とのGHC選手権を前にして）

三沢さんのファンも最後のベルト姿を見に、ぜひ武道館に来てください。

（平成13年6月28日「ヒューマンアカデミー」でのトークショーで）
ベルト奪取を予告し、三沢ファンを挑発する発言。決してシュート活字なわけではない、よね？

（「三沢選手は個人的に新日本には出ないと言っているが」と聞かれて）

小川（直也）と絡まないと言ってて、絡んでるんだから。三沢さんも嫌いじゃないし、俺も嫌いじゃない。

（平成13年 6月28日「ヒューマンアカデミー」でのトークショーで）
捉え方によっては、いずれ三沢も新日本との闘いに参加することを予告しているようでもある発言。はたしてどうなるか。

入ってきて浅子さんと井上さんとやって、正直レスリングなら僕のほうが強かったですよ。「なんだこんなもんか」と思いました。

（THIS IS NOAH!）
この後、「受け身が入ると、ボクの方が息が上がった」という発言に続くのだが、「こんなもんか」という言葉の破壊力の前では無力である。

（橋本の「ZERO-ONE旗揚げ戦での試合のテーマは闘魂VS王道」という発言に対して）

もう王道じゃないからね。闘魂とか王道とか…まぁ闘魂っていうのは俺にもあるからね。

（平成13年2月11日 ディファ有明大会後コメント）
そして闘魂の欠片を携えて、いよいよ10・8秋山が新日本のリングに上がる！。

（四天王の一角を初めて崩して）

田上さんに勝ったからといって、階段をのぼったとは思ってません。

（平成8年 週プロNO．718インタビュー）
およそ年に1度しか爆発しない田上火山。休火山に勝ってもやっぱしゃーないわな。

（セミでジョニー・エースを秒殺して）

予定通りです。みんな三沢さんと小橋さんの試合を早く見たいだろうから、前座は早く終わらせました。

（平成11年6月11日 日本武道館）
レスラー間でのエースの評価がかいま見られる発言。ではなぜエースは全日で優遇されていたのか？ と考えると夜も眠れません。

先輩のレスラーにぐちゃぐちゃにやられた時なんかは、リングの中だろうと外だろうと殺してやろうかな、後ろから刺してやろうか、なんて考えてた。

（THIS IS NOAH!）

「それ、なんのTシャツ？」って聞かれたときに堂々とプロレスのヤツって答えられるぐらいじゃないと

（紙のプロレスRADICAL29号）
全日本時代のTシャツは、相当ガマンならなかったと思われ。

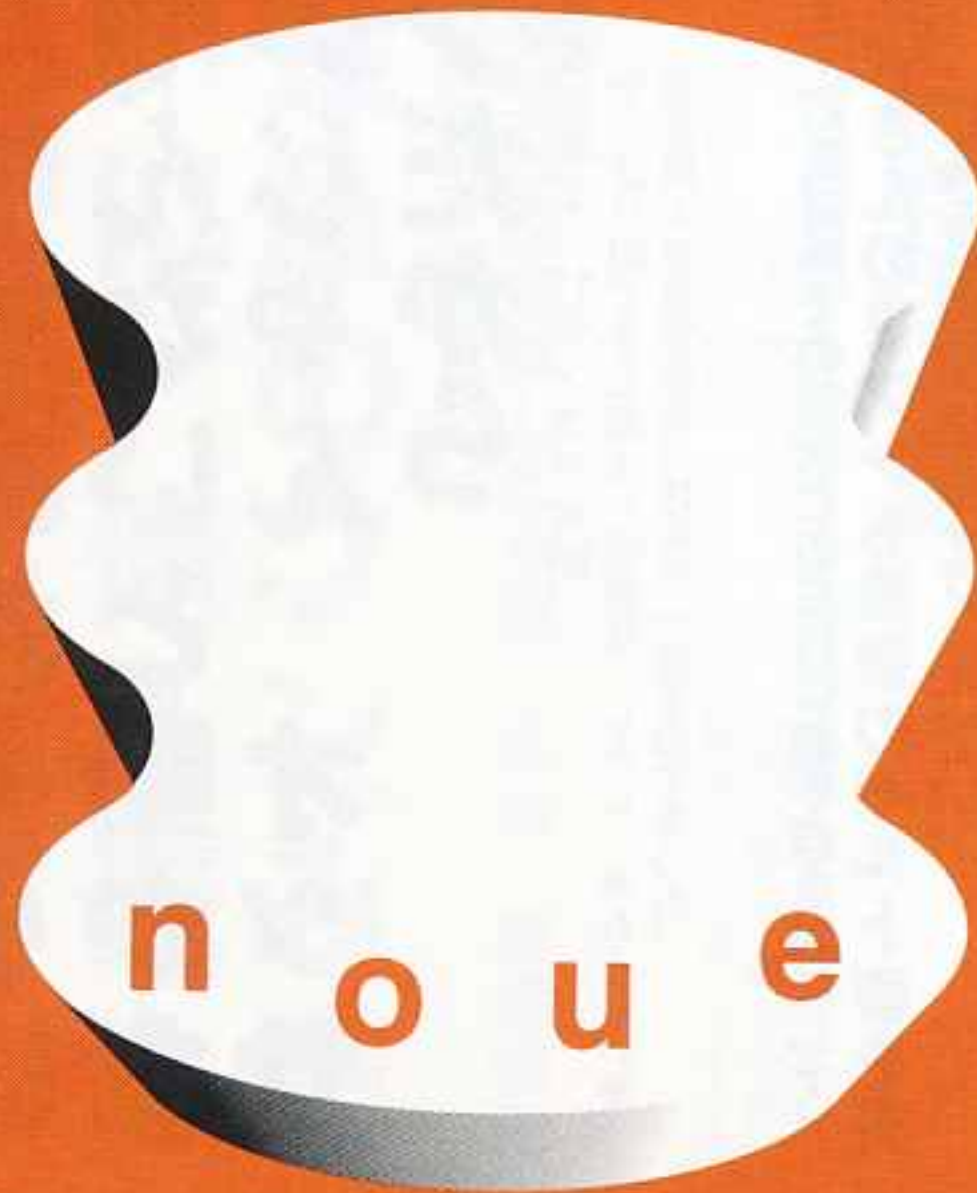
たとえば、プロスポーツ大賞とかあるじゃないですか。あそこに来ている他のプロスポーツの人の中には「なんで、オマエらが来てるんだよ」というのがあると思うんです。それを考えると…寂しいですよね。ちっちぇえなあ、って思いますよね。

（平成9年 週プロNO．779インタビュー）
プロレスラーの受賞基準がサッパリわからない、禁断のプロスポーツ大賞にも言及！ 誰も触れないところをあえて触れるのも秋山ならでは。

プロレスマスコミの哲人
元・週刊ファイト編集長
井上義啓氏
（通称＝I編集長）
狂乱のマット界時評連載

喫茶店トーク

オール
カラー
スペシャル

Inoue mode

井上　オレは久々に怒ってるんだよ、言うちゃ悪いけど！（ドンッとテーブルを叩く）。

——うわっ、いきなりテンション高いっすね！　今は藤田対ミルコ戦の試合をテレビで見終わった後、お電話しているのですが、やっぱりあの試合に関して怒っているんですね？

井上　当たり前だよ、そんなもん！　なんであんな程度の流血で、ドクターストップなんだよ！？　あんなもん、血がすでに止まりかけていたじゃないか!!!　藤田はやれたはずだよ、きっと。藤田自身だってあんなもんじゃ納得いくはずがない！

——井上さんがいちばん納得してませんね（笑）。

井上　藤田は絶対にやれたんだから！　それが野獣ってもんだろうが。ファンはあんな結果で納得するか？

——そりゃ納得はしないでしょうけどねえ。しょうがないって感じじゃないですか。

井上　オレはね、前から何度も口を酸っぱくして言ってるんだけど、ああやってアクシデントが起こった場合は、一旦試合を中断して、5分でも10分でも様子をみてね、それでどうしても試合が続行できないとなったら、その時はじめて試合を中止すればいいんだよ！　それを一瞬の判断だけで試合を止めるから、みんな納得しないんだよ！

——ふんふん。

井上　マスコミもマスコミだ！　どうせどこの雑誌も新聞もそんなこと書かないだろう。『紙プロ』だって批判したりせんだろ、どうせ。もっと怒れとオレは言いたいんだ！（ドンッ）。

——熱いです、井上さん！

井上　マスコミもいつまでも黙ってちゃイカンのだよ！　この間の前田の件でもそうだけど、いつまでも選手や団体がマスコミを喰わせてやってると思っていることに、もっと反発せんでどうするんだ！　昔、（ターザン）山本が取材拒否を喰らった時も、他のマスコミは知らんぷりだっただろ？　あんなもん、オレが『ファイト』の編集長だったら、山本と共闘しますよ！「取材拒否されるくらいならこっちから願い下げだ！」ってな。

——なるほどお。とにかく井上さんは、藤田とミルコの試合を見て怒っていると。

井上　腹が立ったよ、凄く！

——というわけでまあ、不満ながらもK-1対猪木軍団が開戦したわけですが、今後、この抗争はどのようになっていくとお考えですか？

井上　やっぱりね、ルールの問題だとかなんだとかあるけれども、「男だったら徹底的にやれ！」ということだよ。

——猪木さんが乗り移ってますねえ（笑）。

井上　だいたいノールールなんていうもんはな、やってはいけないことなんてないんだから。手段を選ばないってことがノールールってことだろう？　それが闘いなんだから。じゃあ、ちょっと古い話になるけど、武蔵対小次郎はなんだったんだってオレは言いたいんだよ！

——ちょっとどころじゃないです（笑）。古すぎです！

井上　武蔵が卑怯だって言うか？　闘いで鎖鎌持ち出してずるいなんて言うか？　言わないだろう。戦争だってそうだろう。毒ガスだ催涙ガスだって使うんだから。それがいいと言ってるわけじゃないけど、本来闘いというのはそういうことだとオレは言いたいんだよ、言うちゃ悪いけど。

——うーん、闘いの原点のようなお話ですねえ。井上さんはK-1に関してはどのような印象をお持ちですか？

井上　やっぱりキックボクシングなんだな、あれは。沢村忠のブームがあったようにね。ただ、K-1が少しでもインチキなことをしたら、ファンはみんな見破るよ。そしたらファンは一斉にひいていくだろうな。それがK-1。プロレスは違いますよ。そういうのも全部含んでいるから。だから「底が丸見えの底なし沼」って言うとるんだから。K-1は底なし沼じゃないからね。

——ふむふむ。

井上　ただね、こうやってK-1がいずれ絡んでくるということは、オレは前から言うとったんだよ！　それを「井上はバカだ、K-1は立ち技なのに」って言うとったヤツがおるらしいけど、プロ格っていうのは、全ての格闘技を含んだものなんだから、K-1がそこに入るのは当たり前なんだよ！　そんなことも知らんとワーワー言うとるバカがたくさんいるってことだよ！（ドンッ）。

——おお。

井上　じゃあ猪木対アリは何だったんだ？　ボクシングは立ち技だろう。そうやって歴史を遡ればちゃんと答えはあるんだから！

——わかりました。石井館長に関しては？

今月のお題

永田、秋山時代到来の兆しを受けてマット界は新時代を迎えるのか？

夏の暑さにも負けない熱さで毎度毎度好評の喫茶店トーク。そんな井上さんに負けじと、マット界も猪木軍vsK―1や、秋山、永田らの台頭と熱い闘いの季節を迎えました。そんならどっちが熱いか確かめたらいいんや！ということで、これらの闘いを今日も井上さんに熱く語っていただきましょう。あ～暑い。

聞き手／原一博（元タコヤキ君）

井上　あの人はやっぱり頭がいいんだろうな。バイタリティも相当なもんだろう。それでないと、空手団体のK－1会館をここまで大きくできないんだから！

――正道会館です、井上さん。

井上　だから、石井さんという人はわかっていると思うけどな、ちゃんと。今度は藤田対ミルコみたいな試合にならないように考えてるだろうけど。

――で、藤田の話なんですが、この藤田をはじめ、永田がG－取ったり、秋山がGHCのチャンピオンになったりと、ここんところ第三世代の台頭が著しいですよね。井上さんにしたらやっとかという感じなんですかねえ。

井上　やっとどころか5年遅いよ！

――5年遅い！

井上　だいたいな、オレは前から言ってるんだけど、30になろうとしている選手じゃあ、ハッキリ言って体力的には下り坂だよ！　あの松坂なんて、オレに言わせりゃ、もうピークは過ぎてるよ。

――おお！

井上　そう考えると、永田だ藤田なんかでも遅いんだけど、そうとばかりは言ってられないから、まあ、やっとかなとは思うけどな。

――ふむふむ。

井上　オレは一貫して言ってるんだよ。これがな、まだ三銃士で商売になるんだったら、オレは何も言わない。でもそうじゃないだろ？　三銃士もトップに立ったのはハッキリ言って遅すぎたんだよ。その三銃士がいつまでたっても第三世代の上にいるってことが、オレに言わせればおかしいんだよ!!　だからマスコミも含めて、もう武藤じゃないんだよ、もう三沢じゃないんだよって言わなきゃいかんのだよ。

――なるほど。

井上　だいたい、去年、利明とやったの誰だっけ？

――利明？　ああ、川田利明ですね（笑）。変わってますね、川田を利明って呼ぶなんて。健介ですよ、闘ったのは。

井上　あれだって、川田と健介が闘って、じゃああの新日本対全日本は何だったんだって感じだよな。

――ホンマそうですよね。いったい何だったんでしょう。それもやはり三銃士だ四天王だって世代の中での闘いだからですかね？

井上　ハッキリ言ってそういうことですよ！

――まあ、でもあれですよね。この世代闘争もお決まりというか、「まだ三銃士を超えた訳じゃない」ってことになるんでしょうね、流れとしては。

井上　もっと永田だ中西だって連中が、ハッキリクッキリ、新日本のトップなんだってことを団体も打ち出していかないとダメですよ。

――もう世代闘争なんてテーマも手垢にまみれてますよね。さて、井上さん、実はこのコーナーにも世代闘争が勃発しているんですよ。

井上　ふん？

――ボクというロートルを押しのけてですね、『紙プロ』の永田と誰も呼んでいない堀江ガンツくんが、しばらく井上さんのお相手をすることになったんですよ。

井上　ふーん。

――というわけで、ボクはしばらくお休みさせていただきます。いたらないところもあるかと思いますが、ガンツをビシビシしごいてやってください！　ということでありがとうございました！

井上　はい。

言うちゃ悪いけど今月の結論

30になろうとしてる選手じゃあ、体力的には下り坂だよ！

いのうえ・よしひろ■1934年、岡山県出身。若い頃は大阪の新開地でドスを持ったヤクザと喧嘩したり武勇伝は数知れず。『週刊ファイト』編集長を長く務め、「活字プロレス」と呼ばれるジャンルの創始者。現・ビートたかしのターザン山本やゴングのGK金沢編集長など、プロレスマスコミ業界には井上さんの弟子が多数いる。現在も『ファイト』で鋭すぎる批評コラムを連載中（必読）。

アントニオ・ホドリゴ“ミノタウロ”&ホジェイリオ“ミノトゥーロ”ノゲイラ

ANTONIO HODORIGO " MINITAURO" NOGUEIRA

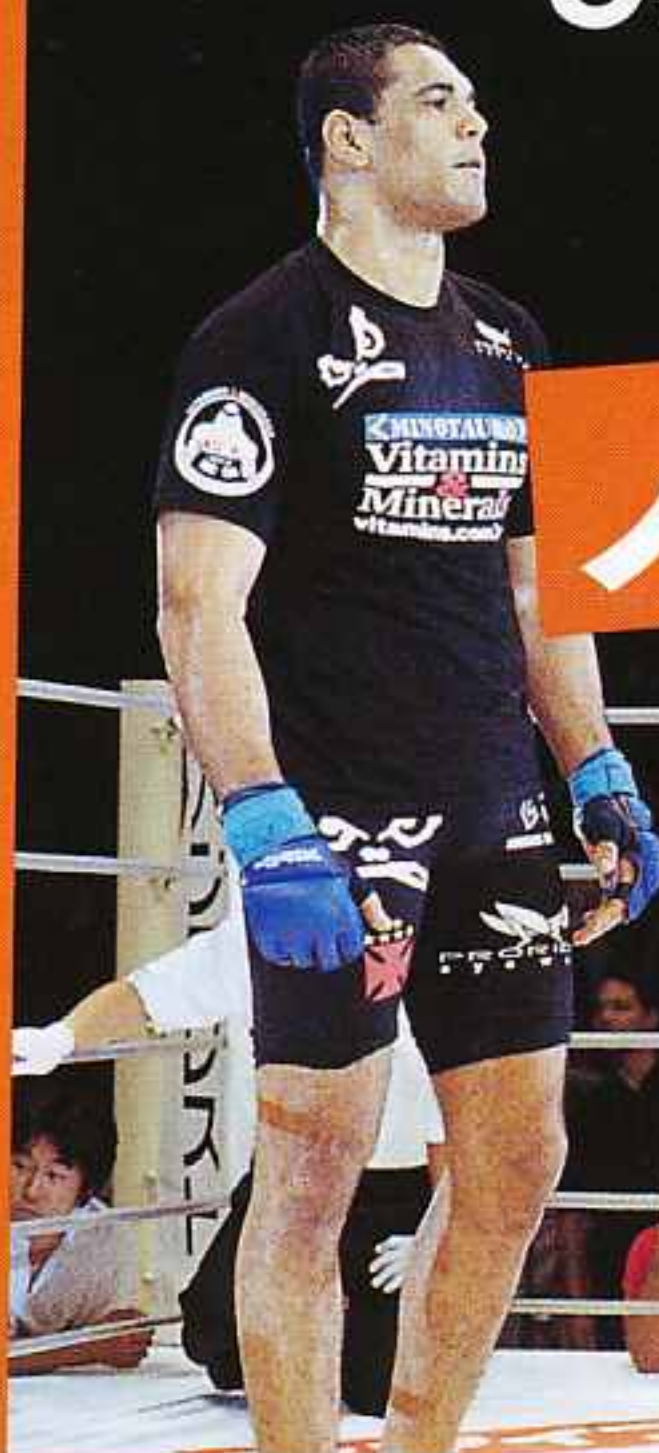
ROGERIO " MINITAURO" NOGUEIRA

ブラジリアン“超獣コンビ”現る!!

9.24 大阪城ホール「PRIDE.16」

ノゲイラ vs コールマン 決定!!

弟“ミノトゥーロ”もDEEPで一本勝ちデビュー!!

聞き手／堀江ガンツ　撮影／森鷹博　designed by さおとめの事務所

ブラジルの超獣が二匹に増殖! KOKトーナメントをブッちぎりの強さで制し、『PRIDE』でもグッドリッジが完璧に極めるなど、底知れぬ強さをほこる〝ミノタウロ〟ノゲイラに、双子の弟がいた!
見た目も兄譲りなら、柔術テクも遜色ナシ。恐るべき双子が現れた。格闘技界の〝超獣コンビ〟ここに誕生!

――まずですね、お二人の名前を確認しておきたいんですけど（笑）。お兄さんの方は、日本でもお馴染みのアントニオ・ホドリゴ・〝ミノタウロ〟ノゲイラ選手ですよね。ノゲイラが名字だというのはわかるんですけど、お名前はホドリゴでよろしいんですか?

ノゲイラ兄　そう、アントニオとノゲイラは二人とも一緒で、名前は私がホドリゴ、弟がホジェイリオ。そしてニックネームが違って弟は〝ミノトゥーロ〟なんだ。

――〝ミノタウロ〟と〝ミノトゥーロ〟は違うんですか?（笑）。

ノゲイラ兄　私のニックネームである〝ミノタウロ〟はポルトガル語で〝半人獣〟という意味で、〝ミノトゥーロ〟という言葉自体ポルトガル語にはなくて、これは私のニックネームにトゥーロ（牛）を混ぜたニックネーム上だけに存在する言葉なんだ。

ノゲイラ弟　兄貴と似たニックネームが良かったから付けたんだ。気軽に〝ミノトゥーロ〟と呼んでくれよ（笑）。

――わかりました（笑）。では、お二人は双子ということですから、生年月日ももちろん一緒なわけですけど、柔術も一緒に始めたんですか?

ノゲイラ兄　柔術はわたしの方がちょっと先に習い始めたんだ。16歳ぐらいかな。

――あ、そんなに昔からではないんですね。ミノタウロ選手はテクニックが凄いので、てっきり子供の頃から柔術に明け暮れていたのかと思ってました。

ノゲイラ兄　柔術は16歳だけど、その前に柔道をやっていて、その頃から寝技のテクニックを磨いていたんだよ。

――なるほど。ミノトゥーロ選手はお兄さんの影響を受けて柔術を始めたんですか?

ノゲイラ弟　ボクはそのことはボクシングをやってたんだけど、家に帰るとミノタウロに柔術にはこんな技があると、毎日実験台にされていたんだよ（苦笑）、だからボクの最初の先生はミノタウロなんだ。そのうちボクも道場に通うようになったけどね。

――柔術界で頭角を現したのは、やはりミノタウロ選手が先だったんですか?

ノゲイラ兄　わたしの方が先だったね。でも1年後にはミノトゥーロも、私と同じタイトルを獲っているし、いまや衣（ギ）を着てやる柔術のキャリアはミノトゥーロの方が長くなった。

――ミノタウロ選手から見て弟の柔術の実力の程っていうのはどうでしょう?

ノゲイラ兄　技術的に優れているのは言うまでもないよ。そしてミノトゥーロが最も優れているのは、冷静でインテリジェンスなところだ。きっとバーリトゥードの世界でも成功するだろうね。わたしが寝技の技術で日本にファンを増やしたように、ミノトゥーロもファンを作ることになると思うよ。

――ミノトゥーロ選手は今回のDEEPがバーリトゥードに初挑戦なんですか?

ノゲイラ弟　そうだね。バーリトゥードで闘うのは初めてなるよ。

――やっぱりお兄さんの活躍に触発された部分もあるんですか?

ノゲイラ弟　ボクは大学に通っていたこともあって、バーリトゥードに専念するわけにはいかなかったんだ。プロになれば、それこそ朝から晩まで練習することになるからね。でも今は大学をやめたんで、練習に専念できているよ。これから柔術以外の技もどんどん学んでいくつもりさ。

――お二人は双子ですけど、お互い似ていると思うところはありますか?

兄がそうであったように相手を
極めまくって日本で成功したいね

コールマンを極めたあと、
バンナを極めてやる、逃げるなよ！

ノゲイラ兄　容姿だけなくて、性格も似ていると思うよ。お互いに大人しい性格だし、物事の好みも共通しているしね。

——それでは同じ女性が好きになったりすることも?（笑）。

ノゲイラ兄　ワハハハ！　いまのところ、そういうことはないな（笑）。

ノゲイラ弟　幸運なことにね（笑）。

——ミノトゥーロ選手は今回が初来日ではないんですよね?

ノゲイラ弟　うん。去年2月のリングスの時（00・2・26日本武道館大会）が初めてでそれ以来だね。

——初めての日本で、大きな大会を見て、どう感じましたか?

ノゲイラ弟　非常にオオーガナイズされた大会だと思ったよ。観客も我々格闘家にに対して敬意を持ってるし。アメリカの観客とは大違いだ。彼らは野次や叫び声がヒドイからね。初めて日本に来てみて、必ずプロとしてまた日本に戻ってきたいと思ったよ。

——ミノタウロ選手はそのリングスから、今回『PRIDE』に戦場を移したわけですけど、リングス対する思いはどんなのがありますか?

ノゲイラ兄　私に日本への扉を開いたくれたのはリングスだったので、それは大変感謝しているし、リングスは優秀な格闘家が集まっている団体だったので、そこで闘うことが出来て良い思い出しかないよ。ただ自分はバーリトゥードの世界でナンバー1になりたいんだ。確かにリングスではナンバー1にはなれたけれども、それはリングスの中でのナンバー1であって、残念ながらそういう評価しか得られない。『PRIDE』は組織自体がリングスよりさらに大きいし、もっと良い選手が集まっているから、今度はそこで自分の実力を証明したいと思っているよ。

——先日V・ハン選手にお話を聞いたんですけど、ノゲイラ選手に「グッドラック」と言ってました。そしてババルに勝ったハン選手の弟子のヒョードルと、いつの日か闘ってくれとも言っていましたよ（笑）。

ノゲイラ兄　それは全然構わないよ。ただし次はバーリ・トゥードでね（笑）。それにしても、ババルがヒョードルに負けたとは聞いてはいたけども……信じられないな。どんな試合だったんだい?

——スタンドでもグラウンドでも、ヒョードルがリードしていましたよ。ババル選手が一方的に攻められたのは初めて見ました。

ノゲイラ兄　そうか……いまだに信じられないな。ババルはスタンドもグラウンドも強いのに。ビデオが手に入るだろうから、見てみるよ。

見事なＰＲＩＤＥデビューを飾った翌日。策士マリオ・スペーヒーと共に、偶然空港でアントンと出くわしたノゲイラは突如、猪木軍入りを表明。あまりアントンとは関係ない気もするが、強けりゃなんでもいいよ。

リング上で実際に会ったコールマンはひどく弱々しい印象を持ったよ

——では、ミノタウロ選手のお話に戻します。『PRIDE』で闘ってみて、あの会場の雰囲気はどう感じましたか?

ノゲイラ兄　非常に大きい大会で、素晴らしい演出されているのが最初の印象だね。それとリングサイドは若干年齢層が高い人もいるのに気が付いたね。

——そうですか（笑）。では急に対戦相手がコールマンからグッドリッジに変更になったわけですけど。それについてはどう思われましたか?

ノゲイラ兄　確かに初めはコールマンが相手という事で、主にテイクダウンを防ぐ練習をしていたんだ。対戦相手がグッドリッジに代わったけれど、テイクダウンされることはなかったので、結果的には練習が活かされたんじゃないかなと思ってるよ。

——試合後リング上でもコールマンに対戦をアピールしてましたけど、やはり「逃げられた」という思いはありました?

ノゲイラ兄　（ニヤリと笑い）これ、言っていいのかい?（笑）。

——ガンガン言ってください！（笑）。

ノゲイラ兄　コールマンはケガをして、わたしの対戦をキャンセルしたのかもしれないけれど、もともとあらゆる面で私と闘う準備が出来てなかったんじゃないかな。そういう印象をもったね。

——コールマンがミノタウロ選手とリング上で向かいあったとき、あのコールマンが伏し目がちで弱気な感じがしたんですけど（笑）。

ノゲイラ兄　確かに実際に会うまでは、コールマンは外見上、逞しくいかにも強そうな男だと思っていたけど、リング上の彼はハッキリ言ってフィジカル面で弱い印象を強く感じたよ。これがチャンピオンなのかなってね。

7.29 PRIDE.15 in Saitama

アントニオ・ホドリゴ“ミノタウロ”ノゲイラ
（1R1分0秒　三角締め）**ゲーリー・グッドリッジ**

コールマン戦では前半戦をスタンドで勝負する作戦を立てていたノゲイラは、グッドリッジ相手にも積極的に打撃を出していく。

この一戦で一気に流行しそうな「オモプラッタ」。この体勢から、いつの間にか三角絞め！　極められたグッドリッジも自分がどうやって極められたかわからなかっただろう。

アイブル、ヘンダーソン、オーフレイムが味わった『ＰＲＩＤＥ』初戦の壁を見事に撃破！　この勝利で一気にＰＲＩＤＥ最強へ王手をかけた！

いつの日か二人でタッグを組んで
プロレスに出る日が来るかも知れない

――では、9月24日の『PRIDE.16』でコールマン戦が今度こそ正式に決定しましたけど、恐るに足らずという感じですか？

ノゲイラ兄　もともと先月闘うはずだったからね。準備は万全だよ。彼はきっとまだ準備不十分だろうけどね（笑）。

――うわぁ、言いますね（笑）。コールマンは今回ミノタウロ選手の対策を練るために、ビクトー・ベウフォートと一緒にトレーニングをするらしいですけど、ミノタウロ選手はビクトーとは同じブラジリアン・トップチームだったわけですよね？

ノゲイラ兄　え!?　コールマンとビクトーが一緒に練習するだって？　それは本当か!?ビクトーは確かにチームを離れたけど、今でもたまに一緒にトレーニングをしているんだが……。

――ええ、『PRIDE』オフィシャルサイトでのインタビューでそういっていました。日本ではトップチームが分裂したという話になってますけど、実際はどういう状況なんですか？

ノゲイラ兄　確かに何人かがチームを離れたが、喧嘩別れしたわけではないよ。チームを離れたメンバーとも一緒に練習するしね。トップチームはまだまだ多くの選手がいるし、弱くなるとかそういう影響はないよ。ただ、ビクトーがコールマンと一緒に練習するという話はビックリしたよ。ビクトーはアメリカに行って自分プロモートをする必要があるからかもしれないけど……どういった形であれ、私にとっては望むべきことではないね。貴重な情報をありがとう。

――なんか密告してしまったようですね（笑）。ところで、グッドリッジ戦の翌日に、突然「猪木軍団」入りしてビックリしたんですけど、あれはどういった経緯でああなったんですか？

ノゲイラ兄　ミスター・イノキは日本を代表する格闘家であったし、日本で輝かしい実績、知名度を持っているので、彼の軍団に加わるのもいいと思って決断したんだ。

――猪木軍に入るとK―1戦士と闘うこともあると思いますけど、K―1の選手で誰と闘いたいというのはありますか？

ノゲイラ兄　もちろんジェロム・レ・バンナだ！　K―1で一番強いのは彼だからね。

――闘いたいのは、バンナがバーリトゥードを罵倒したからではないんですね。

ノゲイラ兄　彼の馬鹿げた発言はよく知ってるよ（笑）。

ノゲイラ弟　なんて言ったの？

ノゲイラ兄　我々のことを「ションベン」だってさ（笑）。

ノゲイラ弟　ひでぇ（笑）。

ノゲイラ兄　まぁ、奴はコールマンを極めたあとに極めてやるよ（笑）。

――おお！　それは楽しみですね！　ミノトゥーロ選手はK―1との闘いには興味はありますか？

ノゲイラ弟　もちろんあるよ！　自分もK―1ファイターと闘ってみたいね。とにかくいまは試合がしたいんだ。

――猪木軍団に入っているとなると、対K―1だけじゃなく、プロレスに出場するような機会もあるかと思うんですけど、プロレスに出ることは考えてますか？

ノゲイラ兄　いいんじゃないか？　ただ、それは未来の話だ。いまはバーリ・トゥードに専念したいね。

――お二人でタッグ結成したりしたら最高だと思うんですけど（笑）。

ノゲイラ兄　ワッハハハ！　将来的にはぜひタッグを組んで闘いたいね。よろしく頼むよパートナー（笑）。

ノゲイラ弟　そういう機会ができるように頑張るよ。まずはDEEPで一本勝ちを極めて、日本でどんどん闘っていきたいね。日本のファンにはゼヒ、ボクの柔術テクニックをみてほしいと思う。

――お二人のこれからの活躍期待しています！　特にミノタウロ選手はコールマン戦頑張ってください！　あと、ミノタウロ選手にお願いがあるんですけど。

ノゲイラ兄　なんだい？

――ゼヒ、入場テーマ曲を『バスコ・ダ・ガマ』に戻してほしいんですよ（笑）。

ノゲイラ兄　ハハハハ、OKOK（笑）。実は『PRIDE』でもあの曲で入場するつもりだったんだけど、ベベルってコーチがブラジルに忘れてきやがったんだ（笑）。

――では、次回『PRIDE16』では、あのテーマ曲を高らかにならして入場してください！（笑）。

ROGERIO " MINITAURO" NOGUEIRA

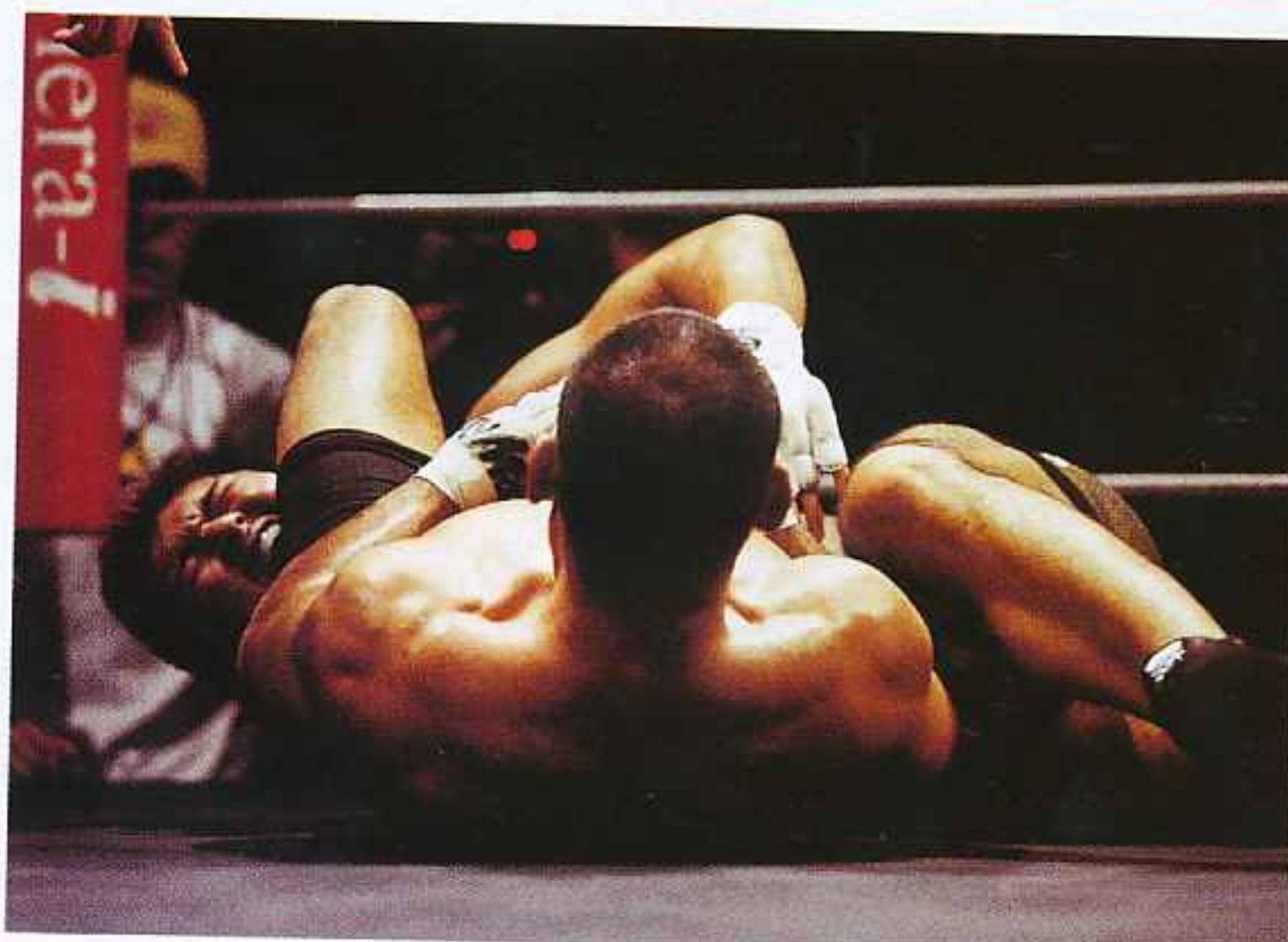
ANTONIO HODORIGO " MINITAURO" NOGUEIRA

アントニオ・ホジェイリオ"ミノトゥーロ"ノゲイラ
1976年6月2日、ブラジル・バイア州出身。191cm、102kg。98 、99 ブラジル柔術選手権優勝。2000年ワールド柔術選手権優勝。今回の藤井戦がバーリ・トゥードデビュー戦。ブラジリアン・トップチーム所属。

アントニオ・ホドリゴ・"ミノタウロ"ノゲイラ
1976年6月2日、ブラジル・バイア州出身。191cm、104kg。ご存じ第2回KOK王者。極めの強さはヘビー級世界一とも言われる寝技のスペシャリスト。
96～98年のブラジル柔術選手権無差別級優勝。ブラジリアン・トップチーム所属。

8.19 DEEP2001 in Yokohama
ホジェイリオ"ミノトゥーロ"ノゲイラ （1R3分59秒　腕ひしぎ十字固め）藤井克久

リング上の姿当たり前ながらノゲイラ兄にそっくり。藤井の打撃にもっと苦戦するかと思いきや、強引なテイクダウンでアッサリ克服。

トップチームの強さは、一度掴んだら離さないしるこさ。試合は終始ミノトゥーロペース。

トップポジションを奪うと、ミノトゥーロはじわじわと極めの体勢に入り、一気に腕十字！　見事な一本勝ちでバーリ・トゥードデビューをはたした！

あの辻よしなりが「PRIDE.15」そして日本マット界をブッた斬る！

「ワールドプロレスリング」実況＆「PRIDE侍」総合司会

聞き手／吉田豪／チョロ
構成／クレ斎藤
撮影／丸山剛史
design by ZERO graphics

プロレス実況アナNO.1スーパーヒールが語る

前編 実況席から見た衝撃の真実

アンビリーバボー！「ヒャッホー!」はギミックだった!!

プロレスファンを不快にさせることでは歴代プロレス実況アナNO.1といっても過言ではない“ヒャッホー”辻よしなりが、石澤vsハイアンや新日本プロレス、そして日本マット界の未来をブッた斬った！　聞き手には滅多に会場に行かない本誌スパーバイザー吉田が、久々に足を運ぶハズだったDEEPを蹴ってまで辻よしなりの実像に迫る。
そして、そこには誰もが予想だにしなかったDEEPよりディープな辻の姿があった！
あまりの面白さに前編・後編でお送りする、辻よしなりの真実の姿を見よ！

——去年の『PRIDE・10』石澤vsハイアンでの辻さんの実況はかなりの大反響があったんですけど、こないだの『PRIDE・15』をどう見たのか今日は聞かせてもらいたいんですけど。

辻　はい。喜んで！

豪　ボクはDEEPを蹴ってまで来たんで、今日は新日本プロレスについて突っ込んだ質問させて頂きます！

——（無視して）辻さんは『PRIDE・15』は会場には行かれたんですか？

辻　仕事の関係で行きましたよ。

——ああ、辻さんがメインパーソナリティを務めるサムライ！TVの『PRIDE・侍』ですね。

豪　辻さんはあの番組の司会をすることによって『PRIDE』の見方が変わったりしたんですか？

辻　変わったというか、単純に『PRIDE』の情報通にはなりますよね。

豪　噂では小路選手を知らなかったんじゃないかってのがあるんですけど。

辻　小路さんは知ってますよ。高田延彦は知らないですけど（笑）。

——どんな情報通なんですか（笑）。

辻　ハハハハ！　まあ、『PRIDE』って高田延彦のために出来たイベントじゃないですか。それが徐々に変わって行って。まさか『PRIDE・15』とかまでくるとは、関係者の方には申し訳ないけど思ってなかった。

豪　というか、誰も思ってないですよ（笑）。そうじゃないとこんな回数を増やしていく団体名にしないですから。

辻　それで『PRIDE』って、キャラが立つ選手が多い1番の団体なんじゃないのかなって気はしますね。もしかしたらK－1や新日本よりちょっと気が利いたキャプションがはまる選手たちが多いなって。

——そんな『PRIDE』ですけど、こないだの『PRIDE・15』ではどの試合が印象に残ったんですか？

辻　一番印象に残ったのは石澤君の試合だったんですけど…。

——まあ、絶対にその試合だとは思ったんですけど（笑）。

辻　いや、マーク・ケアーとヒース・ヒーリングの試合もですね。外国人の世代交代ということもあったし、マーク・ケアーが昔の名前になっちゃったのかなあというのもあったりして。

——ケアーに対するお客さんのブーイングも凄かったですよね。

辻　凄かったですよね〜。それでお客さんの反応がダイレクトにルールまでも動かしてしまうかあと思って。多分そんなことはないんだろうけど。

——ブーイングにつられるような形でマーク・ケアーが敗れたっていうか。

辻　そうそう。そんなタイミングになっちゃたのかなあと。

——石澤選手がハイアンにリベンジを果たしたのはどう思われました？

辻　石澤は勝って当然なんですよ（キッパリ）。

——勝って当然ですか！

辻　勝って当然っていうかねえ、観るまでもないんですよ！　石澤君なんだからさ。

——観るまでもないって（笑）。

豪　去年の発言が間違っていなかったというのが証明されたというか（笑）。

——昨年の実況では「まだまだ大丈夫！」って言ってましたもんね（笑）。

辻　面白おかしく取り上げられたね。2割ぐらいはギャグが入ってたけど、ホントに8割はそう思ってたんですよ。自分はピュアな気持ちで石澤君を信じてるんで。去年のは負けは負けと認めましょう。認めるけども、あれは本当の現実が見える前のハプニングだったんですよ。

——石澤選手とは昨年のハイアン戦の事を話したりとかはされたんですか？

辻　話は出来なかったですね。不謹慎と思われるかもしれないですけど、ボクはあの試合は面白かったです。負ける姿も魅力だったりするわけですよ。だけど今回はもっと面白い！　本当にこないだの試合は面白かった！　ハイアンがタップしてないとか言ってるけどさ。

——負傷した反対側を痛がってるとか（笑）。

辻　そう（笑）。そんなことよりも面白かった。泣きそうになっちゃったもん。石澤が勝ったとか、それだけじゃなくて色んな意味でね。

辻　あとグレイシー一族の姑息なところも良かったっていうかね（笑）。

——姑息さがいいって（笑）。

豪　ハイアンはキャラ立てやすいですよね。辻さんが実況したらはまりそうですよ（笑）。

辻　ホントにッ、喋りたかったですよ！　「またやった⁉　この姑息野郎！」とか「問答無用のペテン師！」みたいに（笑）。

豪　ダハハハ！　あんまり言い過ぎて、前の蝶野さんの絡みみたいな感じでやられちゃったりして（笑）。

辻　そうだねえ、グレイシー・トレインで轢かれたりしてさ（笑）。

豪　それで石澤選手は今回、珍しく本音を出したかなって思いましたけどね。

石澤の強さってのは、誇りやプライドとか目に見えない部分なんです。

リング上で「ありがとう」って。

辻　ああ、そうですね！　初めてじゃないですかねえ、あんなこと言うの。

豪　でもコメントルームにカシンのマスクを付けて現れて、カタイ格闘技関係者評判が悪かったいうのもあったんですけど。「ふざけてる！」って（笑）。

辻　ふざけてないんですよ、あれは。

豪　あれはあれで一生懸命だと（笑）。

辻　いやあ、いっぱいいっぱいなんだって（笑）。石澤君はねえ、そういう男なんですよ。

豪　石澤というか、カシンの役割を全うしようとしてるんですね。

辻　石澤君というのは、精神的によく格闘技者としてやっていられるなっていうぐらいの繊細な気持ちの持ち主だと思うんですよ。だから、もしかすると彼はナメくさったりとか、バカにしてるとか、そういう所にいる方が楽なんじゃないかなってね。

豪　中西選手とかなり違うと（笑）。

辻　石澤君は精神的にかなりギリギリだったと思うんだよ。

豪　追いつめられてたわけですね。

辻　精神的に参っちゃう、参らないのギリギリの所ですよ。早稲田のアマチュアレスリング部のエリートだったただけに殻みたいなモノが、どっかに見えないところで邪魔をしてたんじゃないかっていう気がするんですね。それをケンドー・カシンというマスクを被って自分を出そうとしてたんだけど、いよいよできなくなって。彼の中の「助けてくれッ!!　いいから助けてッ!!」（呻き声で）っていうもがきがあって、ホントにまさに蜘蛛の糸状態。それで猪木さんに助けを求めて、新日で孤立してでも『ＰＲＩＤＥ』参戦になったと思うんですよ。

——それは石澤選手の近くにいないと分からないもがきなんですよね。

辻　いやあ〜っていうか、オレが考え過ぎなのかもね（笑）。石澤君には「何言ってんですか！」って怒られるかもしれない（笑）。

豪　間違いなく言われますよ（笑）。

辻　考え過ぎなのかもしれないけど、オレしか分かってないかもしれない。その早稲田の看板が重かったとか。オレはね、ずっとそういう気がしてるんですよ。石澤君は本当は人なつっこい人間ですよ。

——人なつっこいというか、いたずら好きっていうか。週プロの選手名鑑でもライバルは永島勝司とかあって（笑）。

辻　だからカシンで自分を出してるようでホントは出してないんだと思う。変なベルト作ってきたりとか、コメントにしてもそうだけど。

——カシンらしい行動といえば行動ですけどね。

辻　カシンらしいって、みんなが思ってるんじゃないかなって思ってカシンがやってる行動だと思う。オレは今回のことを一つの契機にしてオレはもうケンドー・カシンをやめて欲しいんですよ。今度は素顔というマスクを付けてくれたらいいのになって。

——まあ、石澤選手なんかは素顔もいいですからね。

辻　それはライガーとサムライが良くないって言ってるんじゃないですか（笑）。

——ワハハハ！　いやいや（笑）。サスケさんもいますしね（笑）。

辻　だから成瀬のＩＷＧＰジュニアに挑戦するにしてもケンドー・カシンではファンは納得しないですよ。

——しないですかね。

辻　オレは納得しない（キッパリ）。『ＰＲＩＤＥ』に出た価値がないし意味がない。

豪　せっかく『ＰＲＩＤＥ』で勝利して何か新しいテーマが出来たのにリセットしてどうするんだって。せめて成瀬にカシンで負けて石澤でリベンジぐらいの流れになって欲しいですけど。

辻　そうですよね。意味がないとか、価値がないとかいうことが美徳じゃないって言うかもしれないけれど「石澤！　それで生き残れるのか!?」って思うし。今チャンスをゲットしとかないで、この後なにがあるのって!?　どうしてもカシンのマスクを被りたいんであったら『ＰＲＩＤＥ』にもマスクを被って出ればいい。ルールでいけないのかもしれないけどさ。

——辻さんは石澤選手は実力的に藤田選手より上のモノをたくさん持ってるって認めてるじゃないですか。何がそう辻さんに思わせるんですか？

辻　ボクには藤田最強説ってのがあるんで、藤田より強いっては簡単には言えないんだけども。石澤の強さっていうのは誇りであるとか、プライドとか、目に見えない部分の強さだと思うんですよ。

——人間的な強さの部分ですね。

豪　石澤選手の人間的な面が気になるのも、藤田選手が最強っていうのも凄く分かるんですよ。ただ藤田選手の人間的な面が気にならないのはなぜだろうと思ってるんですよね。その辺を辻さんにお尋ねしたいんですけど？　どうしても藤田選手には乗り切れない部分があるんですよ。

辻　う〜ん……。

―藤田ファンっていると思うんですけど、熱狂的な藤田ファンってそんなに聞かないですからね。

豪　応援はするけど信者的なところまではいかないっていう。人間性が見えないってのもあるんでしょうけど。

辻　……率直に藤田は我々の常識を越えてるね。だから、乗り切れないんだよね。凄い勇気とか決断力とか、それに突っ走るパワーっていうか。それは我々の桁外れに外れているんだよね!

豪　外れ過ぎてて感情移入しづらいと。

辻　感情移入しづらいってことを前提に話をするとしたらね。レベルが違うんですよ。だって、人間じゃないんだよね、何か。

豪　そういう結論ですか（笑）。

辻　100%人間じゃないって言ってるんじゃなくて、そういうところを持ってると思うんですよ

―藤田選手はインタビュアー泣かせって言われますよね。打ち解けた人だと喋ってくれるけどっていう。

辻　いや、打ち解けてても1つの方向に触覚が向いてるとダメだね。例えば寿司屋とかに行くと全く話を聞いてないからね。「一体何を聞いているんだ!」っていうぐらい（呆れながら）。

豪　寿司とか何かが目の前にあると他の物には興味がないと（笑）。

辻　女の子とかもかね!（笑）。

豪　美味しそうなモノが目の前にあるとっていう（笑）。

豪　昔から凄いですもんね、強さ以外面でも。例えば長州さんに対する態度とか。バスの中で「イビキがうるさいから、寝るな!」って言ってるにの平気で寝たりとか。長州さんに怒られて、

カシンで成瀬に挑戦してもファンは納得しない『PRIDE』に出た

意味がないし価値がない。

「座れ!」って言われて、普通にドカッってイスに座って「正座だよッ!」ってまた怒られて（笑）。

辻　でもそういうのは日常茶飯事でしょう。ふてぶてしい話は山程あるじゃないですか。アイツは生まれながらにしてフリーランスなんだよね。

豪　会社組織には、はっきり言って絶対にいちゃいけないタイプですよね。

辻　というか、組織にとってマイナスでしょう!

豪　ダハハハ!　言うこと聞かないですからね（笑）。デビュー前からふてぶてしいなあって思ってて。

辻　誰が飼育係になったのだか知らないんだけどねえ。

―猪木さんとの会見なんかでも。凄い態度で横にドカッと座ってますからね（笑）。

辻　もしかしたら猪木さんがいるから気持ちが乗っかれないと思うんだ。

豪　それがちょっと大きいんですよ。猪木さんが藤田選手の代弁者になり過ぎちゃってるというか。

辻　こういう言い方すれば分かってくれると思うんだけど、レスラーとか格闘技者は相対的な強さってのがいつの時代にも求められると思うんですよ。今1番強いとか、誰より強いであるとか。でもね、藤田は絶対的な強さなんですよ。何かに相対的な偏差値的強さではないんですよ!　偏差値のラインに乗っかれないレスラーなの。

豪　わかります。ただ、プロレス界って偏差値の世界っていうイメージがあるんですよ。だからそこにいれなかったのかっていう感じもしますよね。正直、藤田選手はプロレス偏差値は高くなかったと思うんですけど。

辻　また微妙なところにいきますね（笑）。確かに藤田はプロレスのリングでは面白くないんだよなあ。

豪　藤田さんの強さは、プロレスだと表現しづらいんですよね。

―藤田選手に限らず『PRIDE』の選手はプロレスのリングに上がるとそういうのがありますよね?

辻　それは一言では言えないのかもしれない。でもねえ、これは「東スポ」のコラムに書いたんだけど、『PRIDE』と新日本プロレスが絡むのはやめた方がいいと思う。正直に言ってね……おれはガッカリしたんです。

―それは札幌ドームのグッドリッジvs中西や永田vsコールマンの試合のことですね。

辻　あの試合にはガッカリした!　そういう環境を作った新日本にもガッカリした。だけど、オレはもう1つ、そういうガッカリした自分にもガッカリした。「そんなことでがっかりすんなよ」って。でも、新日本プロレスってそんなものなのとか、色んな葛藤みたいなものがあの2試合で凝縮されちゃってるみたいで。このまま絡み続けていくと『PRIDE』や新日本自体も倒れるんじゃないかと思うんですよ。

豪　お互いがプラスになるわけじゃないと。ボクもその辺の捉え方はほとんど同じなんで、気持ちは凄く良く分かるんですよ。辻さんが実況で「これが『PRIDE』殺法だッ!」と叫ぶと正直引く部分があったんですけど、さっきから話を聞いていると、絶対裏があるんだろうなっていう気がしてたんで（笑）。

辻　「『PRIDE』殺法」っていう言葉も、言いたくないんだけど言わなきゃいけないみたいな。というか、『PRIDE』殺法て言った方が分かりやすいってこともあるんだけどね（笑）。

豪　キャラとしてっていうことですね　それで辻さんは『PRIDE』を上位概念に置いてる様な実況だなっていう気がしたんですけど。リング上でああいう試合をやることにやっぱり何か引っかかりがあったんだろうなって。

辻　あの試合は全然ダメだよね（呟くように）。

豪　同じ様な事やったら違いハッキリするわけじゃないですか。プロレスでは、全く違う事をやらないといけないような気がするんですけど。

辻　相容れないんですよ。相容れないことを……やっぱり新日本プロレスのリングでやっちゃいけないんですよ!　あんまり言いたくないけど、はっきり言って『PRIDE』にはアスリートが必要なんですけど、新日本のリング

には役者が必要なんですよ。

豪　役者！　つまり、ただ強いだけじゃダメだっていうことですね。強さを伝える表現力が必要だっていう。

辻　コールマンもグッドリッジもアスリートとすれば合格点のでも大根役者だったからね。

豪　映像で見る限りでは中西選手もやりずらそうでしたね。

辻　みんなもオレが知ってるゲーリー・グッドリッジ、マーク・コールマンじゃないって思ったんじゃない。以前さ、ボクシングの試合に出た映画の俳優がいたじゃない？

――ネコ撫でパンチのミッキー・ロークですか？（笑）。

辻　そう！　ミッキー・ロークだよ！　ゲーリー・グッドリッジがミッキー・ロークだよぉ！　グッドリッジの試合は実況してなくて間近でずっと見てたんだけど、もう早くやめてくれ！　早くゴングを乱打してくれ！と思ったよ。

豪　長州vs橋本の様に、藤波社長が止めろと（笑）。

辻　石澤を止めた様に止めて欲しい！

豪　プロレスラー側も格闘技側も、あいうカードだとお互いの光を消しちゃうんですよね。

辻　血が混じる事で心臓が止まるみたいな、そんなことにならないで欲しいなってありますね。

豪　ああいう試合を見るとボーダはキッチリ作った方がいいんじゃないかって思いますけど、でも今は逆の流れになりつつあるじゃないですか。

辻　一見するとK−1とか『PRIDE』とか全日本が絡めば、面白いかなあって思うかもしれないけど、そういうのが当たり前になっちゃってるでしょ？　だからK−1vs猪木軍をやっても前のモードだったら驚くんだけどさ。なんか、ないよねぇ。

豪　ホント、驚かないんですよね。

辻　オレたちが慣れてきてファンの気持ちとかが、分かんなくなっちゃってんのかなという若干の不安と心配があるの。でもそういう人こそ分かってんじゃないかなあって思ってるわけ。

豪　ですよねぇ。でも大丈夫なんですか？　辻さんがこういう話しをしちゃって。

辻　エッ？　何で？

豪　こんな批判的なことを言ってると柴田さんみたいにいなくなっちゃいそうで（笑）。

辻　いいッスよ、別に（キッパリ）。

――ワハハハハ！

豪　柴田さんは大阪ドームで「新日崩壊」ってういう番組的な流れ通りに解説をしたら、なぜか怒られてクビになったっていう噂を聞いたんですけど？

辻　オレは真相の部分はよく知らないから何とも言えないけど……。オレは柴田さんに対しての気持ちも強いから。凄い残念の一言だね（しみじみと）。

――柴田さんもそうですけど、マサさんがいないのも残念なんですよね。

豪　辻さんとマサさんとの絡みは最高でしたよね（笑）。それと、こないだのG−1で1番面白かったのは健悟さんの解説だったんですよ。健悟さんって、漢字そのまま読んじゃうんですよね。「彼は凄い猛者で」を「彼は凄い"もしゃ"で」って（笑）。

辻　それは違った楽しみ方なんじゃない？（笑）。

――それで実際にあの実況席での辻さんの本音の部分はどれぐらいなんですか？

辻　過去から引きずってるモードがあるんで何とも言えない。レスラーに対する尊敬の念もあるしね。でもね、本音っていうか「これプロレス的だよね」とかさ、プロレスと格闘技を分けて喋るのってみんな当たり前の様に言ってない!?　ケーフェイって言葉は、もう古いのかなあ。

――確かにそういう使い方はされますね。

辻　結局、「所詮プロレスでしょ」っていうところがあるわけじゃないですか？　ただ、もうそういうのに目くじらを立てる時代じゃないのかなあって。そうじゃないとプロレスは生き残れないでしょって。今から何年かは分かんないけどしっかりやって行かなきゃいけない時期だっていうのが自分でもをもの凄く感じるだよね。

豪　それは実感しますね。

辻　このままではプロレスに新しいファンがつかなくなるよ。頭デッカチの高齢者ばっかりになっちゃいますよ。それを少々おこまがしくなっても、初めて人でも分かるように説明して行かないと、後に繋がらないっていうか。例えば歌舞伎って、じっくり解説してくれないと分かんないんだよ。それこそ10回ぐらい観たって分かんないよ。プロレスもそれに近い状態になってるよね。

このままではプロレスに新しいファンがつかなくなるよ。頭デッカチの高齢者ばっかりになる。

豪　でも歌舞伎は観ながらでもヘッドホンで解説してくれるようになってますよね。

辻　そう！　プロレスにもそういったのが必要なんですよ！　それをコアなファンに向けるとこうなるっていう論議になるけど、コアなファンにじゃないんだって。だからプロレスも歌舞伎と同じ様に大見栄を切って大向こうから声が掛かる、それが大事なわけじゃないですか。それ自体が芸術なんですよ。

豪　辻さんがそんな先の段階を考えてたなんて正直、意外でしたね。

辻　いつもグチュグチュ考えてますよ。もう2つぐらい上とか横のステージに移行してないとダメなのに、それが出来なくて結構もがいてる部分があって。はっきり言って言えないことがあるじゃないですか。それをちょっと本にしたんですよ。（カバンから本を取り出す）

遅ればせながら 7.29「PRIDE.15」PETET REVIEW

1ヶ月遅れだがあなたの心にそっとときめくプチレビュー。それでは夏の思い出を振り返ってみますかーッ！

ヒース・ヒーリングvsマーク・ケアー

背水の陣のケアーと絶大な支持を集めつつあるヒーリングとの世代闘争マッチは、ヒーリングが相変わらずの勝負強さで、遂にというかやっとというか「霊長類ヒト科最強」が完全失墜！ヒーリングの次の相標的は、ボブか？　コールマンか？　ノゲイラか!?

アントニオ・ホドリゴ"ミノタウロ"ノゲイラvsゲーリー・グッドリッジ

ルール上ではKOKならともかくバーリトゥードでは難しいと言われる潜り込みスイープを鮮やかに決めたノゲイラ。その後もグラウンドでグッドリッジを翻弄し最後はオモプラッタからの三角締めで『PRIDE』デビューを見事に飾った。柔術幻想再び！

桜庭和志vsクイントン"ランペイジ"ジャクソン

ジャクソンのパワーが凄いのか、サクがまだ万全な状態ではないのか、極めれるシーンを何度も逃し、あげく抱え上げれてパワーボムで叩きつけられた！最後は何とかチョークで仕留めたが、シウバ戦に暗雲を感じさせる復帰戦となった。大丈夫か!?　サク！

――タイトルは「プロレス裏実況」ですか！

豪　辻さんを誤解している人って多いと思うんですよ。特にプロレスファンレベルだと。この本は辻さんが、分かってる上でモノを言ってるという事が分かる踏み込んだ内容なんですか？

辻　かなり踏み込んでいますよ。橋本vs小川の裏側も書いてますし。もう買わずにはいられないみたいな（笑）。しかも発売は8月28日、今日です！

豪　『紙プロ』と合わせて買えと（笑）。橋本vs小川の真相については詳しく本で読んでもらうとして、辻さんはあの4・7の橋本戦で何を感じましたか？

辻　色んな人間の弱さが出た試合かな。それはTV局も含めてそういう気がするよ。

豪　1・4の時はリング上の2人以外の部分の闘いでしたよね。ホント蝶野さんの「この会社腐ってるよ！」の言葉が1番リアルに響いたっていう部分かなって。

――やっぱり小川選手に対しては嫌な感じを抱いてるんですか？

辻　いや小川さんとはサザンオールスターズの茅ヶ崎ライブのときに一緒だったんですよ。それで凄く優しい人だったんですよ。最初は嫌なヤツだなって思ってたんですけど（笑）。

みんなもオレが知ってるグッドリッジやコールマンじゃないって思ったんじゃない。

豪　特に実況してる側から見れば（笑）。

辻　それは橋本と闘うからどうのこうのじゃなくて、なんかね、そういうところがあったんだよね。でも小川さんは、リング以外でのプロレスという部分を凄く考えてるよね。

豪　舞台裏を含めてたら1番闘ってると思うんですよね。それが見えないから、ただ単に試合しない人みたいな感じに見えて。

辻　それはマスコミにも責任があると思うね。これ書いたら怒られるとか、突っ込まない取材して。じゃあ、オマエは何やってんだってことになるんだけど（笑）。ただ、取材で人間をえぐり出すことによって、闘いになったときのそれだけダシとして効いてくるわけじゃない。猪木さんなんかはそういう風にやってきたと思うんだよね。マスコミがスターを作っていくことも凄く重要になってくると思うんだけど。

豪　今は明らかにスターが作りづらい時代になってきてますよね。

辻　何でなんですかねえ。

豪　どこをを見渡してもスター不在なんですよね。中堅はいくらでもいるのに。突き抜けてるのは、せいぜい三沢、武藤ぐらいかなって。

辻　ただ、武藤だってさ、プロレスラー武藤だけで取り上げようとするんじゃなくてね、相手に視線を合わさないところに天才を魅せようしてるところとかさ、何で間を置いて側転エルボーをやるのかってを考えた方が面白いよ。

豪　要するに無駄な動きが多いんだけど、だからこそ魅せるっていう。見方から何から、1歩踏み込んだ方が絶対に面白くなるハズなんですよね。いまプロレス裏側に踏み込んだ「ビヨン

アスエリオ・シウバvsバレンタイン・オーフレイム

キック出身のオーフレイム、相手のアスエリオもシュートボクセ所属ということで派手な打撃戦が期待されたが、何とアスエリオのヒールホールドがオーフレイムを捕らえる意外な決着になった。不甲斐ない2連敗のオーフレイムはこれでグッバイ!?

ヴァリッジ・イズマイウvs大山峻護

大山にとってはまたもや試練となったイズマイウ戦は観客の大声援に応えることなくイズマイウの肩固めに失神負けに切って落とされた。これで大山はキング・オブ・ゲージを含め3連敗。次は「PRIDE」での選手生命を賭けた、土壇場の闘いになるか!?

イゴール・ボブチャンチンvs佐竹雅昭

ボブチャンチンの強打が所々で佐竹を襲ったが、佐竹もローキックでボブチャンチンの顔を何度も歪ませるなどK－1で培った打撃の真髄を見せつけたが、グラウンドの攻防はボブがマウントを取り圧倒。KO劇が予想された1戦はボブの判定勝ちに終わった。

エベンゼール・フォンテス・ブラガvs松井大二郎

K－1でも猛威を振るったブラガの狂烈な打撃が松井に炸裂！　松井の執拗なタックルにもブラガは冷静に対応し何もさせず。結果的には判定であったが圧倒的な判強さで久しぶりの「PRIDE」で凱歌を上げた。ブラガ、おまえこそ猪木軍団入ってくれ！

ド・ザ・マット」っていうドキュメンタリー映画が公開されてるですけど御存知ですか？

辻　予告みたいのしか見てないんだけど。

豪　あのCM予告は、またエグい部分ばかりでしたよね。

辻　だから、率直にそういう時代なんだなって思ったね。

豪　辻さんも早すぎた「ビヨンド・ザ・マット」というか、吉江選手のプライベートを実況でバラして中西さんに怒られたりとかしてきたわけですけど（笑）。

辻　ハハハハ！　これは大義名分なんだけど、こういう時代を表現したいっていうのがあって（笑）。

豪　辻さんの実況スタイルってWWFに凄く合うと思うんですよ。

辻　WWFは喋りたいですよね（頷きながら）。

豪　陽気なスタイルで、1番「ヒャッホー！」が合うのはWWFだろうって（笑）。

辻　ヒャッホーとかねえ……ああいうのはいっぱいいっぱいなんですよね。

——エッ！　あれはいっぱいいっぱい思いますけど（笑）。

ヒャッホーとかねえ……ホントはあういうキャラクターじゃないんですよ！

の叫びだったんですか⁉　「アンビリーバボー！」とかも（笑）。

辻　ホントはあういうキャラクターじゃないんですよ（しみじみと）。

豪　みんなそういうところでバッシングしがちですけどね（笑）。

辻　まあそういう意味ではヒールでもいいんだけどね。

豪　ヒールとしてはかなり、屈指のキャラ立ちだと思いますよ（笑）。

辻　……ヒールでもいいですよ。こないだTVでビンス・マクマホンが「オレはどこに向かってるか分からない。分からないけどやらなきゃいけない」みたいなことを言っていて。共感するんだよな。

——ビンスに共感ですか！

辻　オレさ、ビンスとはちょっと違うけど、かすってるんだよね（笑）。ビンスもヒールなんだろうけどさ（笑）

豪　大ヒールですよ（笑）。やっぱり辻さんにはWWFの実況をやって欲しいですね。「トゥナイト」で培った技術が凄く活かされますよ。ブラ＆パンティ・マッチとかありますから、辻さんと杉作さんのコンビでやれば最高だと思いますけど（笑）。

辻　何かバカにしてない？（笑）。

豪　いやいや（笑）。絶対受けますよ。

辻　そういうチャレンジ精神が欠けてるかもね。ボーダーレスにすることがチャレンジ精神じゃなくてさ。だから藤田や石澤、橋本たちが頑張って闘ってるのが目に入ると「ああ～、なにやってんの！」ってなって、ここでオレも踏ん張らなきゃって思うよね。その踏ん張り方も今までと同じ踏ん張り方したんじゃダメなのって。おもちゃのテトラポットじゃなくて土嚢みたいな踏ん張りね。どんな津波にも負けないようなさ。そうじゃないと意味がないっていうか。

豪　だいぶ辻さんの実像が見えてきましたよ。

辻　ホント？

豪　ええ。いかにキャラを演じていたというか。今までやってきた辻アナ像に忠実になろうとしたっていう。

辻　だから東スポさんとか「ストロング・スタイル」っていう雑誌とかに書かせてもらってるんだけど、そのニュアンスが違ってきてるなって思ってくれるとうれしいんですけどね。自分を解放エリアに入れたろッってね。だってオレ、いつ実況をやめさせられるか分からないから（笑）。

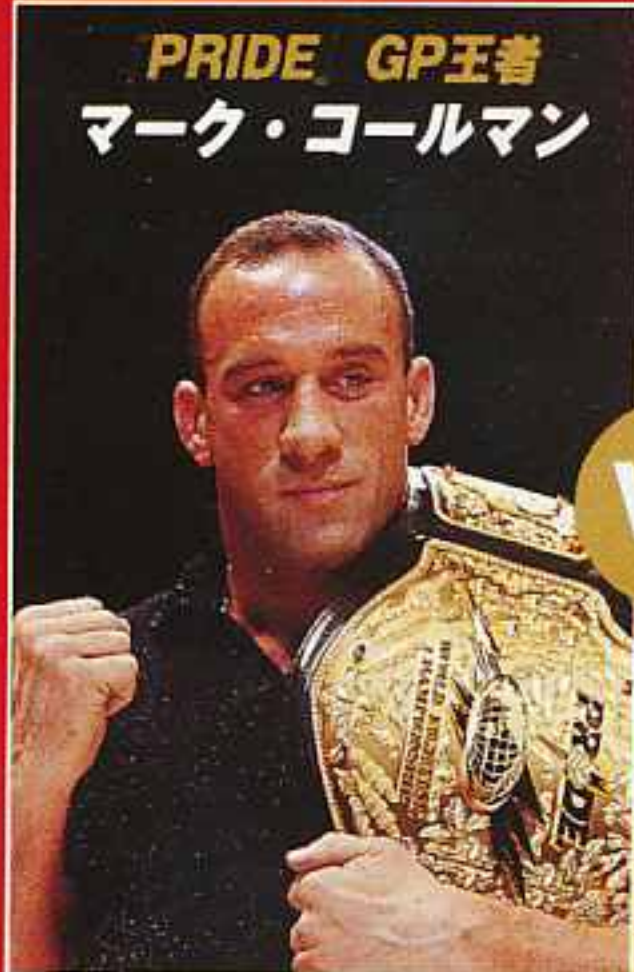
豪　ダハハハ！　いいですねえ（笑）。

★　★

タイム！（ハイアン風に）。というわけで前編はここで棄権、いや終了！　どうですかッ、今までの辻アナのイメージを完全に覆す言動の数々！　後編も勝るとも劣らない内容というか、完全に勝る内容でお送りします！　それでは来月も読みますかーッ　ヒャッホー！（いっぱいいっぱい）

実況席では言えない事を本にしました。（8月26日発売!!）

プロレス裏実況
辻よしなり
血と汗と涙と嗚咽の実況13年。
このニュアンスを、解ってほしい！
アスキー

辻よしなり【つじ・よしなり】昭和36年3月29日生まれ埼玉県出身。慶応義塾大学法学部政治学科卒業後、テレビ朝日に入社。17年7ヶ月勤務し課長になるも昨年の10月に円満退社し(有)ツジ・プランニング・オフィス設立し辻義就から現在の名前にとなった。テレビ朝日在籍時は異色のヒールアナとして活躍。フリーになった現在も「ワールドプロレスリング」で実況を務めており、その13年間にも及ぶ実況アナの経験を生かし、今だからこそ告白する「プロレス裏実況」（アスキー刊・¥1400税抜）を執筆した。

PRIDE GP王者
マーク・コールマン

VS

第2回 KOK 王者
アントニオ・ホドリゴ“ミノタウロ”ノゲイラ

コールマンVSノゲイラは『PRIDE.16』大阪で実現！

今月は『PRIDE』の記事が少なくて、正直スマン！
次号にて『PRIDE.16』超直前見どころ大特集（予定）をするから許してくれ！　そのあまりの衝撃な特集（予定）はドス・カラスのJrの衝撃を“チリマ”を上回る！　しっかり受け身の練習をして次号に備えよう！

『PRIDE.16』9月24日（月・休）　大阪城ホール
試合開始●15：00（予定）
料金●VIP　100,000円（特典付き）/RRS　23,000円
スタンドS　13,000円/スタンドA　7,000円
お問い合わせ●（株）DSE　03-5775-5700

ホントはこんな表紙にしたかった!!

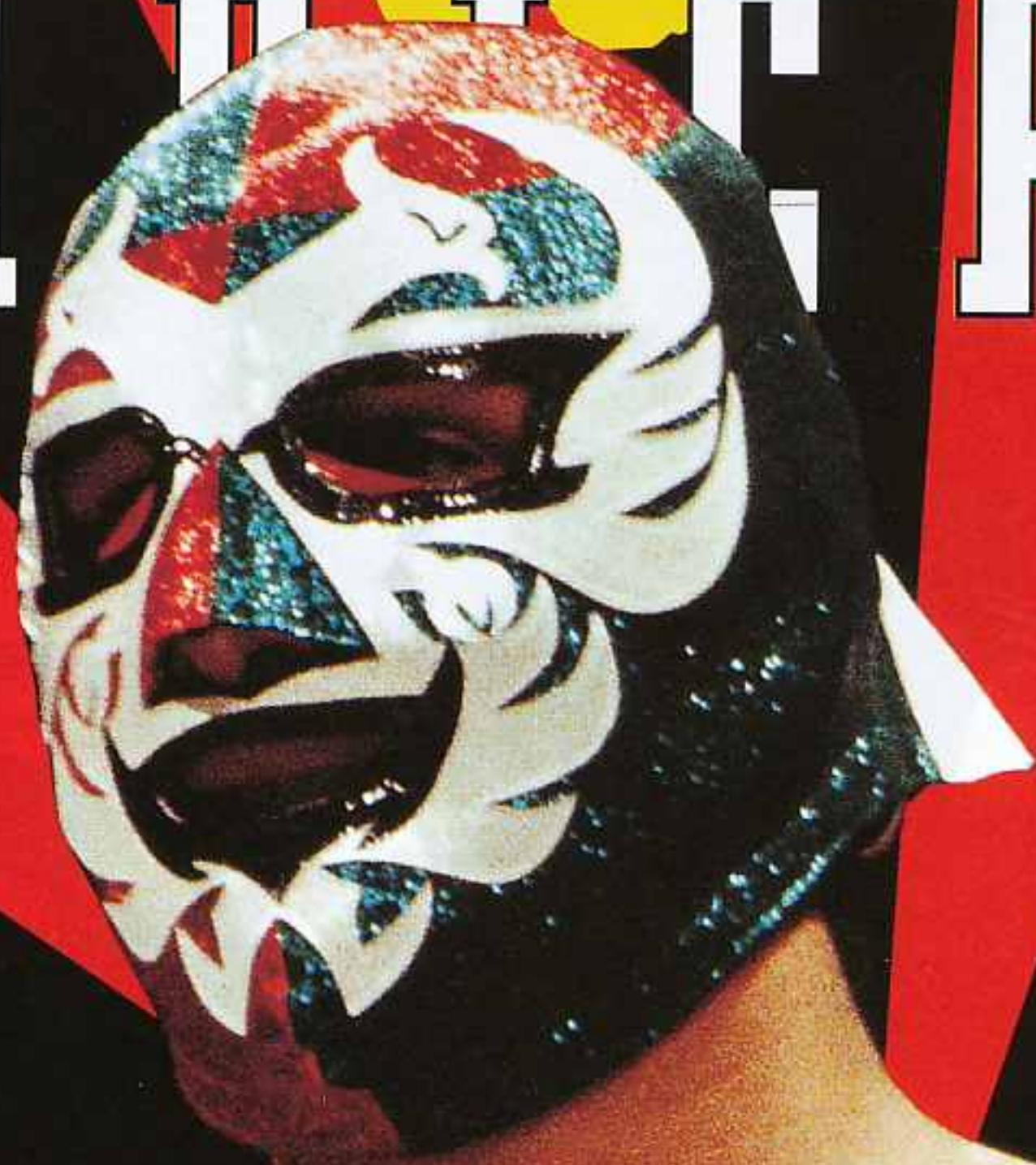
紙のプロレス RADICAL

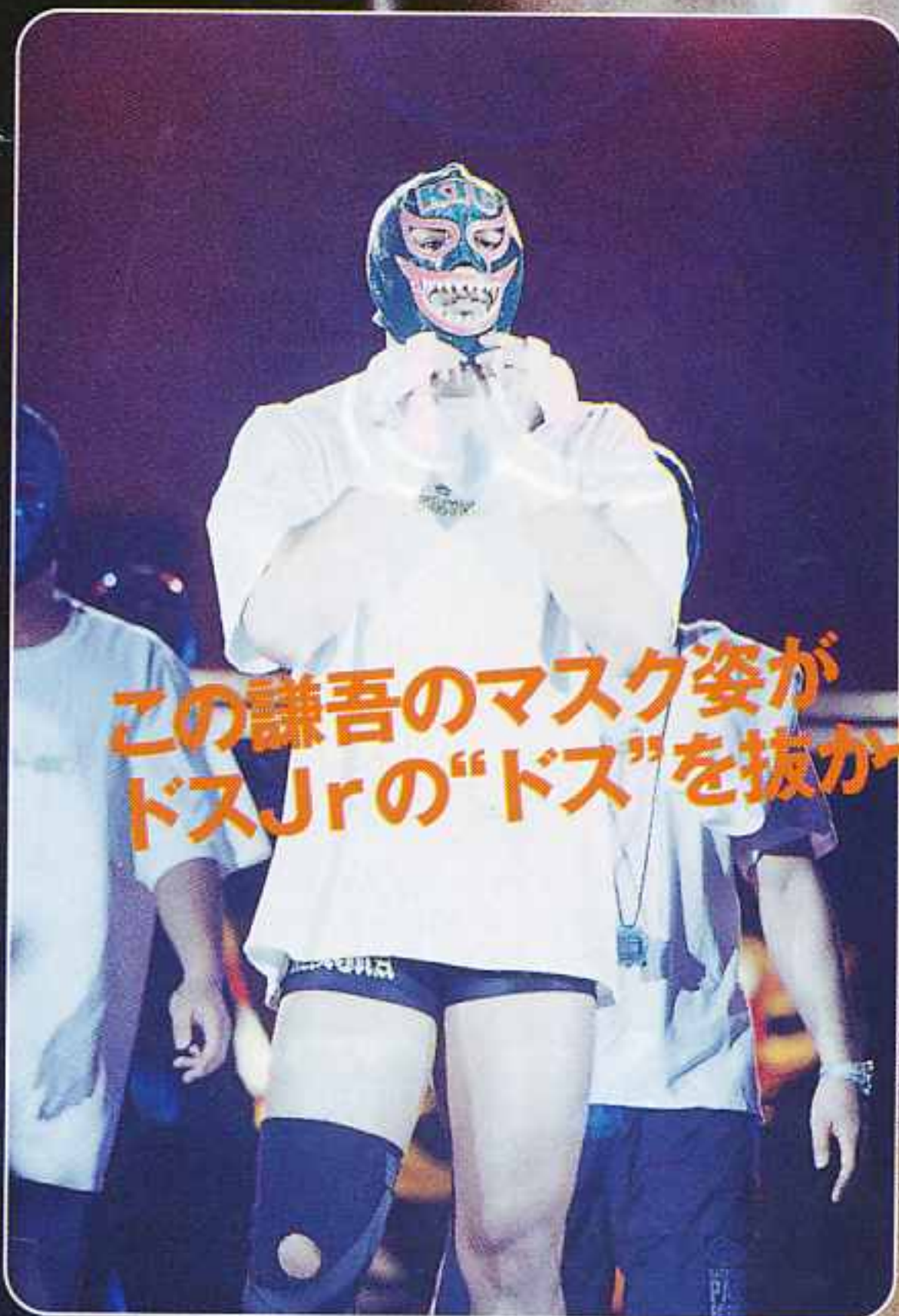
正義は勝つ!

GO GO DOS!

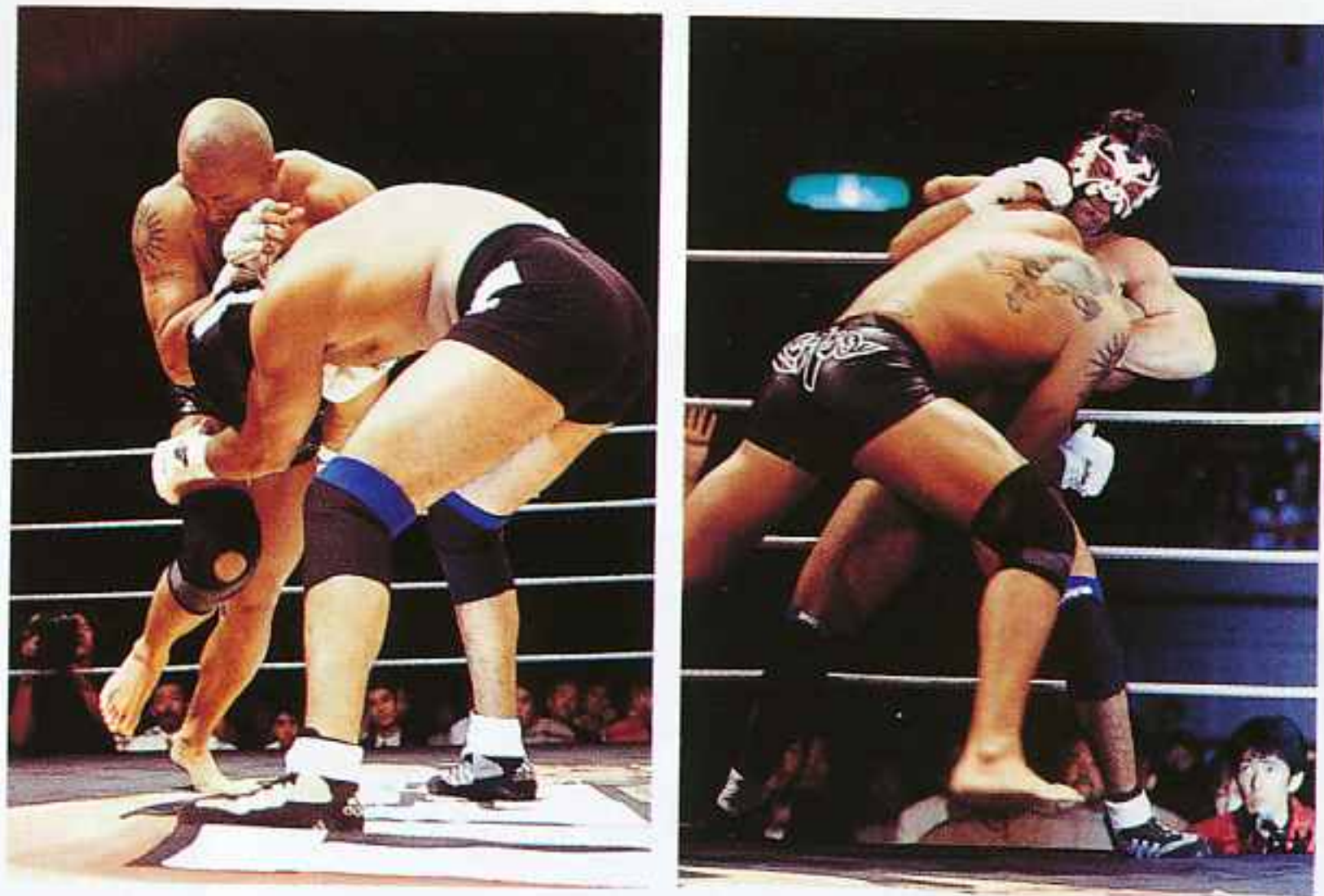
ビバ メヒコ!

ドスカラス宣言

DEEP INTERNATIONAL 2001

ルチャリブレにも"気骨"あり されど心にドス!

バーリ・トゥード初挑戦の
ドス・カラスJr、マスク姿のまま
殺人スープレックス"チリマ"で
パンクラス・謙吾を
骨折病院送り!

この謙吾のマスク姿が
ドスJrの"ドス"を抜かせた!!

セコンドと共にマスカラス・マスクを被って入場。花道の途中でマスクを投げ捨てた謙吾の愚行に、ドスの怒りの炎が燃え上がった!

ドス・カラスJr (1R50秒 レフェリーストップ) 謙吾

"生け贄"にならなかったドスJr いまや"日本人の魂"は外国勢にあり!!

まったくザマアミロだ！

8・18横浜文化体育館で行われた『DEEP』2nd。そこになんと、ルチャ・リブレの世界から、ドス・カラスJrが飛来！ パンクラスの謙吾を受け身の取れないフロント・スープレックス（ルチャの秘技・〝チリマ〟）で病院送りにした。

投げられた謙吾が、かばい手のように手を付いてしまい、腕を骨折！ レフェリーストップ！ 秒殺！ という流れだった。これはアクシデントという見方もできる。でも、これはやっぱり謙吾の完敗だ。痛快だ！ ザマアミロだ！

ドスJrの重い腰と激しい気性が〝生け贄〟になることはさせなかった。

謙吾はナメているから、こういう目にあう。何をナメていたのか？ 謙吾はプロレスをナメている。日本をナメている。他人をナメている。そして自分自身をナメている！

そういえば、この日の謙吾の入場には、鳥肌が立つほど腹が立った。

『スカイハイ』に乗り、先に入場したドスJrの待つリングに向かって、謙吾は2人のセコンドと共に、ヒップホップだかラップだかで入場してきた。謙吾はマスカラス風のオーバーマスク。セコンド2人もルチャのマスクを付けている。しかも薄ら笑いを浮かべ、不遜な態度まで付けて。

これでは、まるで学園祭だ。「向こうもマスクを付けてくるんだから、こっちもマスカラスのマスクでも付けていったら面白いんじゃないな〜い。へっへっへ」という光景が、この入場シーンからは透けて見えた。俺には見えた。

リングからは、すべてが透けて見える。だから、いつも俺は「プロレス」とは総合人間力を競う場だと言っているのだ。

ルチャ・ドールが付けているマスクは、アステカ文化の太古の風習や伝統、メキシコの文化を表現しているものので、ルチャ・ドールにとっては〝誇り〟の象徴である。

なぜドスJrが不利になるにも関わらず、マスクを付けたままガチンコのリングに上がったのか？ なぜ、謙吾たちが花道から客席にマスクを投げたときに、ドスJrが「ブッ殺してやる」と思ったのか？ そういうことを謙吾はまるでわかっていない。

たしかに桜庭和志は、謙吾と同じようにセコンド2人と共にマスクを被って出てきた。そのときのサクが、どれほどのスケールのプレッシャーと十字架を背負っていたか。そういうことも謙吾たちはまるでわかっていない。

相手にリスペクトの気持ちもないのに、茶化すな！ パクるな！ パロるな！ パロディというのは、リスペクトの気持ちがあって、初めて成り立つものなんだよ。

謙吾の入場のとき、俺は生まれて初めて政治家にでもなってやろうかと思った。俺が政治家になったら、即、格闘家がヒップホップだかラップだかで入場してくるのを禁止する法案を国家に提出する。いや、ヒップホップだかラップだかに罪はない。罪なのは、日本人の格闘家orプロレスラー、いや、日本の若い奴ら全員だ！

俺は親父か？ 俺は右翼か？ 俺はアブナイか？ でも、そう思ってしまうほど、団体、派閥を問わず、最近の日本勢のヘタレぶりは深刻だ。

この『DEEP』の翌日に行われたK―1ジャパンの決勝戦でも、〝闘魂〟を見せてくれたのは、武蔵ではなくニコラス・ペタスのほうだった。『DEEP』の1週間前のリングス10周年大会で、〝気骨〟を見せてくれたのも、ロシア勢のヒョードルだった。

いまや、幻想としての〝日本人の魂〟が立ち昇るのは、日本勢よりも外国勢の闘いっぷりのほうが多い。

この日も、「負けられない」というプレッシャーと、「ルチャ」という十字架を背負い闘ったドスJrの闘いっぷりは、謙吾より断然カッコよかった。

ビバ、メヒコ！ やばいぞ、ジャパン！ テイキング・バンプだ、謙吾！

【元ミル・マスカラス私設ファンクラブ会長・山口日昇】

ドスJrのコメント

最後の技は公式にはスープレックスだが、メキシコでは、相手にわからないように"チリマ"と暗号で言うんだ。身体の内側に相手の腕を入れて、クラッチして投げた。相手が入場のとき、マスカラスのマスクを被ってきて、それを客席に放り投げたとき、オレの怒りが沸いて、エネルギーになったよ。今後もバーリ・トゥードで闘うことは考えているが、細かいルールがあるのでもっと勉強しなくてはいけないな。それにトレーナーなどにもお金が行き渡るようにしなくてはならないから、それも解決しないといけない。今日は個人のために闘ったが、同時にルチャの旗を背負って闘った。ルチャは生活の糧を与えてくれたし、すべては父を通してルチャからもらったものだ。

ドスカラスのコメント

この勝利はやる前からわかっていたことだ。ジュニアは柔道、柔術、空手、テコンドーなど、すべてに精通したファイターだし、アマチュアでは6年間ナショナルチャンピオンだった。誰とやっても勝つ。短い時間だったのが残念だ。あのままいけば腕だけじゃなく足も折れたよ！

カト・クン・リー54歳 自らの経験への自信と誇りを胸にいざ、バーリ・トゥードへ出陣！

昨年亡くなったクン・フーと共に闘う！

カトはそう宣言してリングに向かった

大久保一樹（1R3分5秒 腕ひしぎ十字固め）**カト・クン・リー**

見てみこの緊張感溢れるにらみ合い、闘うオヤジの大まじめな顔は実に美しい！

大久保のスネを的確に狙うローキック！　これはおそらくカンフーの実戦技だろう。

コーナーに追いつめて、フックの連打！　試合後カトは私のパンチに手応えがあった。彼とはもう一度闘ってもいいとコメント。

カトの充実感と悔しさが入り交じった顔を見よ！　カッコイイぜカトの親父！

大久保の腕十字を回転して逃れようとしたり、しばらくガマンするなど意地をみせたカト。

カト・クン・リー54歳。

各専門誌で50歳、51歳などと書かれているカトだが、実際は54歳なのだ。前日行ったインタビューで本人がちょっぴり恥ずかしそうに告白してくれたのだから間違いない。

初期UFCに登場したロン・バン・クリフ十段の51歳よりも、エンセンと闘ったときの魔人ズールよりも（確か）年上。ということは、もしかしたら近代バーリ・トゥード史の最年長かもしれないのだ。

それでもカトは自信満々。戦術を聞けば「リングに上がった瞬間に身体が自然に動くなら問題ない」と言うし、「ルチャリブレはどんな闘いにも対応できる！」と言ってきかない。今大会でドスカラス・ジュニアの評価が一気に跳ね上がったが、一番ルチャにプロレスに誇りを持って挑んだのはこの男なのだ。

そんなカトでも、闘いに関しては真摯だった。名トリオ、ロス・ファンタスコティコスの同士クンフーのハーフマスクを用意し、「明日は亡くなったクンフーと一緒に闘うよ」と言われたときには、不覚にもジュンと来てしまった。もうこうなると、勝敗なんて関係ない。カトがリングでどんな生き様を見せてくれるかだけだ。そしてカトは見事自分の半分にも満たない年齢の選手に玉砕。

しかし、インタビューの最後カトが「明日私の試合がよかったら、アミーゴからおひねりがもらいたいな」と笑ったとおり、ボクはおひねりを投げたい気持ちでいっぱいだったのだ。

次号掲載するカトの親父インタビュー。ゼヒ期待して下さい。

【堀江ガンツ】

前回のＤＥＥＰでホイラー・グレイシーをあと一歩まで追いつめる熱闘を演じ、一躍総合格闘家として時の人となった村浜。しかし、今回はＶＴの実力はホイラーを上回るホーキが相手。目にも止まらぬタックルを極められ、関節アリ地獄にハマリ一本負けを喫した。

ジョン・ホーキ
<ブラジル/ルイス&ベデネイラス柔術>
（1R4分29秒 腕ひしぎ十字固め）
村浜武洋
<パンクラス横浜>

○ パウロ・フィリョ
<ブラジリアン・トップ・チーム>
（判定0-3）
近藤有己 ×
<パンクラス東京>

これまで、美濃輪とライトヘビー級王者時代の山宮を下し、パンクラス中量級を制圧しようというパウロ・フィリオに遂に"エース"近藤が立ちはだかった！　近藤としては、なんとか得意の打撃でＫＯしたいところだが、パウロは堅実にグラウンドに持ち込む闘いぶり。結局、最近の近藤の負けパターン通り、グラウンドで押さえ込まれての判定負けを喫した。これでいいのか近藤！

DEEP INTERNATIONAL 2001 DIGEST

パンクラスで抜群の存在感を示した郷野が大苦戦した。その相手はＤ・デニス。ブラジリアン・トップチームの中でただ一人のアメリカ人。ノゲイラがフロリダにいたときの仲間だという。このデニスのガードにやられた郷野。このドローは痛い。

△ 郷野聡寛
<チームGRABAKA>
（判定1-0）
ダスティン・デニス △
<ブラジリアン・トップ・チーム>

当初はリボーリオ戦などが噂された菊田であるが、蓋を開けてみれば無名のウォレス。この相手に菊田はスタンドでもグラウンドでも圧倒。最後はマウントパンチで流血ＫＯ勝ちを収めた。

○ 菊田早苗
<パンクラスGRABAKA>
（1R1分52秒 レフェリーストップ）
シェマック・ウォレス×
<コロンビア・マーシャルアーツ・ジム>

○坂田　亘
<フリー>
（1R終了時 レフェリーストップ）
エイドリアン・セラーノ×
<アメリカ/柔術&フリースタイルグラップリング>

今年５月にリングスを退団した坂田は、リングス在籍時代から参戦を希望していたＤＥＥＰのマットで再出発。セラーノから勝利を収めたが、足関節を極めきれず納得のいかない勝利となった。

△ 上山龍紀
<U-FILE-CAMP>
（判定0-0）
窪田幸生 △
<パンクラス横浜>

第１回ＤＥＥＰではリングスｖｓパンクラスという目で見られ、リング上以上に客席がヒートアップしたこの一戦。再戦となる今回は、そういった闘いの背景なしの、純粋勝負であったが、どちらも決めてがなくドロー。

ファンタシー溢れる内容をちょっと紹介

確かにピストルの弾はよけた！日本人が見ていたハズだ。パクチューが見ていたよ！

御期待下さい！

カト・クン・リー インタビュー

面白すぎたので次号でたっぷり紹介！

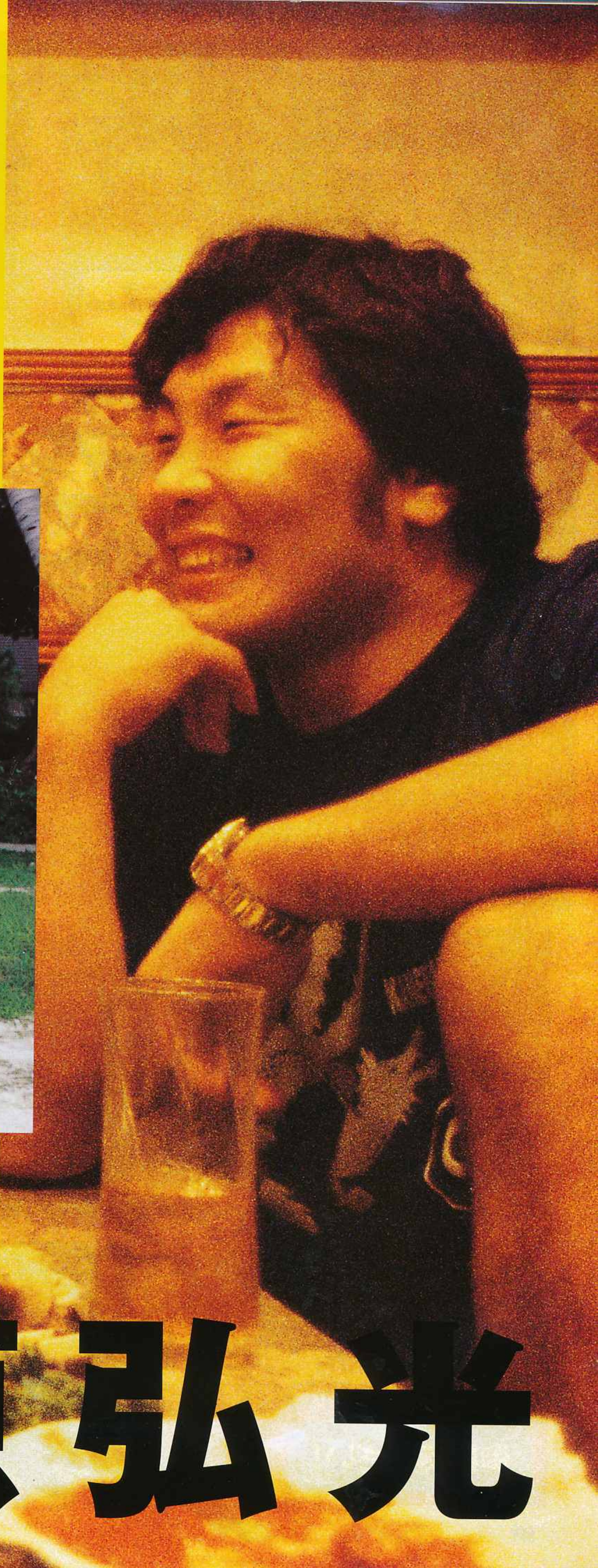
強

ンター伝説! [後編]

&キングダム

1ヶ月のおまっとさんでした!　本誌前号で掲載し、読者からブッちぎりの大好評をいただいた金原&高山対談。「地上最強のプロレス」を標榜し、よく飲み、よく暴れ、そしてぶっ倒れるまで練習に明け暮れたUインターに、忘れかけたプロレス本来の凄みを見た読者も多かったであろう。後編となる今回は、そんな愛すべき団体Uインター崩壊の真相。そして幻の最強軍団キングダム秘話をお届けします!　ん〜サイキョッ!

金原弘光

最

蘇れ! UWFインタ

前号で人気爆発!!
今号もエピソード満載!!

聞き手／堀江ガンツ　撮影／松本崇　designed by hisa (Two Three)

高山善廣 ×

高山　Uインターは新日本と対抗戦をやらなきゃいけない状況になった時点でダメでしょう。その前の年にあった『ワールド・トーナメント』。あれがコケたからUインターが崩れたんだと思いますよ、いま思えば。

金原　宮戸さんの「馬の骨発言」とかがあったやつね（笑）。

——ありましたね〜、通称『一億円トーナメント』（笑）。あのトーナメントは興行的に失敗だったんですか？

金原　けっこうお客入ってたよね？

高山　いや、かなり招待券バラ蒔いたらしいですよ。

金原　ああ、そういえば当時、宮戸さんが試合前に「金原、来て見ろよ。招待券の客が一杯いるよ。ヒャッヒャッヒャ」って言ってたよ（笑）。

——公式発表は毎回、1万6000人（超満員）でしたけどね（笑）。

高山　それに、あの頃はハシミコフとかロシア人呼んだり、ベイダー呼んだりして外人が凄かったから、出ていく金も多かったと思いますよ。ゲーリー（・オブライト）とかもギャラアップしてましたしね。

——バッドニュース・アレンやジョン・テンタまで来てたし（笑）。

金原　そういう風にだんだんUインターが変わってきてたんだろうね。

——だんだんアメプロ化していくUインターの状況を当時の若い選手はどう思っていたんですか？

金原　どう思うも何も、当時の俺らって発言権なかったからさ。上から言われたらやるしかなかったんだよね。

——心の中では「違うかな」っていうのはあったんですか？

金原　それはあったよね。「あれ〜？」っていうのはさ。

ーが一番効いた技は和田さんのエルボーだったんだよ（笑）

高山　ボクはベイダーをあういう風に使うのは良かったと思いますけどね。

金原　そうそう。俺も来る前は「ベイダー、大丈夫かな？」って思ってたんだけど、最初にやった中野さんとの試合が凄く良かったじゃない。

——あの試合は異常なくらい盛り上がりましたよね。

金原　ベイダーもUインター初参戦だから凄く興奮しててね。ベイダーのセコンドにオレと高山君で付いたんだけどさ、試合前なんか近づくのが怖かったよ。それで試合が終わって、ベイダーにお客さんが寄りつかない様にブロックしてたらさ、高山君がベイダーに思いっきり「バーン！」って張られてさ（笑）。

高山　1メートル吹っ飛びましたね（笑）。

金原　それを宮戸さんと安生さんが見て「お前ら、よくあんな怖いヤツのセコンド付けるな」って大笑いしてるんだよ（笑）。

——自分らで指示しといて（笑）。

高山　サクとか山本（喧一）とかいたのに、「あいつらじゃ危ないからお前ら2人が行け」って言ったクセにね（笑）。

金原　ホント、あんなにベイダーが怖いと思わなかったよ。

高山　そういえばあの時、中野（龍雄＝当時）さんが初めて「みんなのために闘う」って言ったんですよね（笑）。

——中野さんが〝U〟を背負いましたか（笑）。

金原　でもさ、あの試合でベイダーが一番効いた技は、和田さん（和田良覚レフェリー）のエルボーだったらしいのよ（笑）。

——なんでレフェリーのエルボーなんですか！（笑）。

金原　中野さんがダウンしていて、和田さんがカウントしてるときにベイダーがベイダーアタックで突っ込んできたんだよ。そこでとっさに和田さんがヒジを出したら、ベイダーのミゾオチにモロに入っちゃってさ。試合後控え室でベイダーが「あのレフェリーのエルボーが一番効いた」って、安生さんに言ってたらしいよ（笑）。

——〝U〟を背負って闘った中野さんの立場はどうなるんですか！（笑）。

高山　また和田最強幻想が膨らみますよね（笑）。

——当時はちょうどアルティメットが出現したり、総合格闘技の団体ができたりした頃だったと思うんですけど、それについてはどう思いました？

金原　あの時はね、俺は正直、うらやましいなって思ってたよ。そういう試合もやってみたい気持ちはあったよ。どんなもんだろうっていうね。でも俺らは、まだ下のペーペーだからさ、移籍するようなタマじゃなかったんだよね。

——試合で他団体を意識したりはしなかったんですか？

金原　そういうのはあんまりなかったね。試合は自分の与えられた試合をしっかりこなすだけだから。

純プロレスとは一線を画していた当時のU系に、外人最強のベイダーが参戦（新日本からの引き抜きだったため、版権が問題となり、リングネームは「スーパーベイダー」）。この異次元遭遇は大ヒット。武道館は異常な盛り上がりとなった。ちなみに対戦相手がなぜか中野なのは、シッシーの大プッシュによるもの。感動させてよ！

賞金一億円を餌に、各団体のエース、三沢、橋本、天龍、船木、そして前田にトーナメント参戦を呼びかけた『ワールドトーナメント』。結局、この年の1月に対抗戦を呼びかけた前田以外、全員に無視された格好になったが、前田の個人参戦か、全面対抗戦かで揉めに揉めた挙げ句、結局決裂。このとき安生の「前田日明は全然強くない。200％勝てる」の発言に前田が激怒。後の両者の修復不能の関係のスタートとなった。

(中野戦で)ベイダーが

高山　でも当時、ボクと金原さんのカードがよく組まれたんですけど、誉められる試合が多かったんですよ。お客さんも沸いてたし。だから上でやってる変な外人より俺らの方がいい試合やってるとは思ってたんだけど、最後に高田さんに全部かっさらわれるから、「やっぱり違うな」って、そういうのは感じましたけどね。

金原　俺と高山君の試合はホント激しかったよ。ヒザをガンガン入れてきてさ。Uインターって試合が終わると酒を凄い飲むんだけど、高山君と試合をした後は飲めなかったもんね。頭ガンガンしてさ。

高山　ボクは金原さんにローキックをバンバン入れられて、内出血した血が足の裏にたまってドス黒くなりましたからね。前歯は全部折られるしね（苦笑）。

金原　ハハハハ、そうそう（笑）。ホント、高山君とはよく試合したよね。

高山　ボクがデビューしてから金原さんと4連戦ですね。

金原　普通やんないよ、そんなに！

高山　金原さんは、その前に前田（雅和＝引退）さんとも連戦してましたよね（笑）。

金原　あれも5連戦ぐらいやってるよ！

——そんなのばっかりですね（笑）。

高山　組織のピラミッドを守るためだろうと思うんですけど、絶対上の選手と試合させてもらえなかったですからね。例えば垣原さんと金原さんはキャリア的にそんなに変わらないし、ましてや垣原さんは長期欠場してたから、金原さんと垣原さんの試合が組まれてもおかしくないはずなのに組まれませんでしたから。

金原　そう、俺が上の垣原さんとやったのはデビューして3年後ぐらいだよ！

高山　しかも俺らが垣原さんに勝った後なんですよ（笑）。

——ガハハハ！　なぜかそこでは後輩に先を越されて（笑）。

高山　凄いブーブー言ってました（笑）。

金原　どんな順番だよって思ってさ。俺は絶対、干されてたよ！　若いころって色んな相手と試合したいじゃん。それなのに毎回トム・バートンとかだからね！

——バートン！　なつかしいですね（笑）。

高山　1回試合が組まれなかったときもありましたよね（笑）。

金原　そう！「お前の試合は良くないから、次は組まない」って言われてさ。自分では面白い試合してると思うんだけどね。

高山　きっと金原さんは組織を壊す試合をするからじゃないですか（笑）。

——ガハハハ！「俺が、俺が」がアダとなりましたか（笑）。本当に話を聞けば聞くほど、Uインターの様な団体がなくなってしまったのは悔やまれるばかりなんですけど、Uインターの末期っていうはどんな感じだったんですか？

金原　それまでUインターを動かしてた宮戸さんがいなくなったでしょ？　それでガラッと変わったよね。

高山　宮戸さんは新日本との対抗戦に反対して、辞めたんですよね。新日と東京ドームでやったときは、田村さんと宮戸さんは道場にいたんですよ。あの二人がいなくなって、ムードも会社の方針も何もかも変わりましたからね。

——新日と対抗戦を契機に若い選手の個性が開花したような気もするんですけど。

高山　やりたいことがやれちゃったのはありましたね。金原さんだって宮戸さんがいて、ちゃんと仕切られてたら、ムエタイ路線に行けなかったとおもいますよ。

金原　そうそう、最初に宮戸さんにタイで試合をやりたいって言ったらダメだったもんね。練習だけしてこいって。

——ましてやゴールデン・カップスなんてありえなかったでしょうね（笑）。それで結局Uインターは崩壊してしまうわけですけど、どんないきさつでキングダムに変わったんですか？

高山　あれはぶっちゃけって言うと「新しいものをやるなら」という条件つきで、スポンサーが決まり掛けてたんですよ。それでUインターのままじゃダメだから、キングダムにしようということなんです。ところがフタを開けてみたらスポンサーが倒産状態だったと（笑）。

——いきなり巨大なつまずきですね（笑）。

金原　だから一年もたなかったもんね。でもキングダムの練習環境は最高だったよ。安達（功）さんにレスリング習えて、ボウィーと打撃の練習が出来て、地下にウエイトのジムもあったしね。ホント充実したよね。

——確かビル全体がキングダムだったんですよね。

金原　地下がウエイトルームで、一階が事務所、2階がレスリング、3階が打撃になっててさ。「その階のボスを倒さないと上にいけない」とかやってたのよ（笑）。

——ガハハハ！　ブルース・リーの「死亡遊戯」みたいに（笑）。

高山　まず地下のウエイトルームで「和田越え」ってね（笑）。

——いきなり強敵ですね（笑）。

金原　和田さんが「オレを倒してから上に行け！」って言うんだけど、誰も和田さんより重いモノ上げられなくて地下にたまっちゃうんだよ（笑）。

——キングダムでも和田良覚最強でしたか（笑）。

金原　あと、キングダムの道場は街中にあるから、夜はネオンに惹かれちゃうんだよね（笑）。

高山　ちょっと出たら麻布十番なんです

【96年12月27日後楽園ホール】91年に後楽園ホールで旗揚げしたUインターは、最終興行も“Uの聖地”で迎えることになった。メインは、高田への挑戦権を掛けた若手選手のリーグ戦でトップに立った高山が高田と一騎打ち。この試合が最後の“U”となった。

キングダム全選手がUFC－J所属になる話もあったんだよ

よ。それで当時安生さんが経営にタッチしたクラブがあって。いつも練習が終わると「今日はどうする?」って話になるんですよ（笑）。

金原　そして必ず「ちょこっと寄ろうか」ってね（笑）。だからあのころは練習も遊びもどっちもやってたよね。

――キングダムは当時としては斬新な、いまのバーリ・トゥードに近いルールを採用してましたけど、どうしてあのルールになったんですか?

金原　気が付いたら安生さんが決めてたんだよ。全部安生さん（笑）。

――伝説の「ヒット」「オフ」は安生さんルールでしたか（笑）。

高山　それで高田さんに怒られたんですよ。「お前ら新しいモノを作ろうとしないで、安ちゃんに全部任してとけばいいと思いやがって」って。でも当時の最先端じゃないですか?　プロレスの団体でグローブ付けるのは初めてでしょう。

――やはりバーリ・トゥード対策みたいな感じだったんですか?

金原　そうだね。Uインターが潰れてまたUWFルールでやってもしょうがないし、グレイシーが出てきてた時だしね。

――あとよくわからなかったのは、高田さんとキングダムの関係なんですけど。結局、高田さんは一度もキングダムの試合には出ませんでしたしよね。

金原　高田さんとキングダムの関係は俺らもよくわからなかったよね。

高山　説明になってない説明受けてね。もう高田さんと自分たちは別物になっちゃってたんですよ。練習も高田さんは松井とか上山を連れて他で練習してましたし。高田さんがキングダムの道場に来たのは、ヒクソン戦のホント直前ぐらいじゃないですか。

金原　それで高田さんが（キングダムの試合に）出る出ないで地方のプロモーターと揉めたりして、俺らは何か複雑な心境だったよね。そうこうしてるうちに俺らは給料が出なくなっちゃったからね。

――大変な時期だったんですね。

金原　出るモンだって思ってるわけだからさ、みんなビックリしちゃって。それでどうするんだって話になったら、やっぱり別れちゃうよね、みんな生きて行かなくちゃいけないから。分裂っていうのも辛いよね。Uインターだってずっと続くものだと思ってたし骨を埋めるつもりだったからね。

高山　あの頃、給料がストップしてたんで、「いついつまでに給料が出ないなら、次の興行に出ません」って話を選手側から会社に出したんですよ。それでも給料が出なくてボクは言った通り出なかったんです。

――出場拒否ですか!

高山　ボクなんかそのときにもう全日本に出てたから、俺のステージはこっち（全日本）でいいんじゃねぇかと思ってたから。でも金原さんがかわいそうだったのは、ギャラが出なくなったころにメインイベンターになっちゃったんですよ（笑）。それでメインの責任感で出たんですよね。

金原　それと宮戸さんの神の声があったんだよ（笑）。

――宮戸さんの神の声!?（笑）。

金原　そう。宮戸さんから電話がかかってきてさ、「ギャラは出てないかもしれないけど、お前を目当てにチケットを買ったファンに失礼だから、出ろよ」って。自分の名前でカードが発表されたから、元々出るつもりだったんで「それは分かってます」って言ったんだけどね。だから3試合ぐらいノーギャラだよ!

高山　ボクなんかは全日本に出たギャラまで会社に取られてもらえなかったから、余計イライラが募っちゃったんですよ。それは違うだろうって思って。そして、そのころUFC－Jの坂田（晶＝代表）さんが来て会議をして、キングダムの選手に「ウチの専属になってくれ」って話があったんですよ。

――えっ!?　キングダム勢が「UFCジャパン」になる話もあったんですか?

金原　そう。坂田さんがオーナーになってキングダムの選手と契約してっていうね。

高山　その会議でオレは「もうやらない」って言ったんですよ。道場で練習するのはいいんだけど、キングダムという組織の中にいるのが嫌で。全日本という別のことにも興味が出てたし、もういいやってなっちゃったんですよ。

金原　俺なんか「今度はUFC－Jとしてみんなでやっていけばいいじゃん」と思ってたんだけど、高山君はもう完全に興味がなくなってたからね。

高山　金原さんは人がいいんですよ。だから端から見るとちょっと会社に利用されちゃってるんじゃないかとも、思うんですよ。

金原　それでキングダム崩壊のときも気付いたら、みんな行き先決まってたんだもんね。今回のリングスと同じだよ!（笑）。

――ガハハハ!　知らない間に取り残さ

（写真・上）【98・12・21ＵＦＣ－Ｊ】「高田、ヒクソンに敗れる！」の２ヶ月後、遂にプロレスラーが「グレイシー柔術家」を破った、記念すべき一戦。高田、金原、高山、和田レフェリー……サクの勝利はＵインターの勝利だった。（写真・下）【99・1・28後楽園】「サク歴史的勝利」の１ヶ月後、高田道場として高田、桜庭らがキングダムから独立。それに伴い、崩壊説が流れたこの日の後楽園は、ファンが全試合終了後も帰らず、大混乱。選手一人一人がマイクを握り、存続を訴えたが、結局この日をもって、キングダムは事実上解散状態となった。

金原さんはギャラが出なくなった頃エースになっちゃったんですよ（笑）

れていた（笑）。

金原　桜庭とか佐野さんは、高田道場に行きますって言うしさ、高山君は全日本に行くって言ってるしさ。気づいたらいつもそうなんだよね！

――そういう流れが出来上がってるんですね（笑）。

金原　キングダムに残ったときでも、オレは結構早くリングスから声を掛けられていたけど、山本（喧一）とかも残っていたし、「オレがここで抜けてたら、キングダムどうなっちゃうの？」っていうのを考えると動けないないなって思ってたのよ。でも気が付いたらさ、山本が「リングスに行くことになりました」って。「エッー!?」って感じでさ（笑）。

高山　金原さんは実力があるから、UFC－Jにしてもエンセンさんのつながりで修斗にしても、動ける場所はあったわけだから。ボクから見て一番ややヤバかったのは和田さんで（笑）、その次に喧一でしたから。だから二人には「早くリングス行った方がいい」って言ってたんですよ。

金原　オレは誘われてもね、「もう少し待って下さい」って言ってたんだよ。そしたら和田さんがアッサリ「リングス行くことになったから！」って。「このオヤジぃぃ！」と思ってさ（笑）。

――それで結局どん尻でリングスと契約することになったんですね（笑）。

金原　そういう経緯もあって、俺は前田さんに拾ってもらったっていう恩があるから、今年4月の契約もすぐしたんだけどね。

――いまやリングスの最後の砦ですからね。

金原　またぁ！　そうやって、選手が抜けてから急に「エース」とか言われるのが一番嫌なんだよ！（笑）。

――すいません！（笑）。

金原　なんか団体の行く末とか考えちゃって、試合だけに集中できない環境なんだよね。もう体にもガタが来てるしさ、周りのことは考えず集中してやりたいんだよね。オレも今年31だからさ、あと現役で出来て30試合ぐらいだからね。俺、もうカウントダウン始まってると思うんだよ！

高山　藤波さんはカウントダウン撤回しましたけどね（笑）。

――ガハハハハ！　藤波さんの座右の銘は「生涯現役」ですから（笑）。

金原　年間6試合で5年間だからね、すぐだよ。それを考えるとさみしいよね。だから本当に悔いが残らないように、闘える環境を作ってもらいたい。やっぱり20代と比べると体力も落ちてるからさ。練習生のころは「スクワットやれ」って言われたら、ずっと出来たけど、いまは出来るかって言われたら難しいからね。

高山　逆に昔は出来たっていうのが不思議ですよね。あの頃、もっと効率良い練習してたらとも思いますけど（笑）。

金原　理不尽極まりなかったもんね（笑）。

高山　だからいまのリングスの若い選手はドンドン効率の良い練習で鍛えてあげればいいんじゃないですか。

金原　でもいまは道場に前田さんが来てるから（笑）。若いヤツがガンガン練習やってんの！　すげぇってくらい。

高山　まさに「前田道場」ですね。原点に還ったトレーニング（笑）。

金原　馬飛びやってから、アヒル歩きやってさ（笑）。

高山　それは前田さんがゴッチさんのところにいたときのトレーニングじゃないですか！（笑）。

――ガハハハ！　20年前の練習方法（笑）。

金原　でも、それはある意味ね、若いときに体験するのはいいと思うよ。心が強くなる！　身体はともかく（笑）。

――身体はともかく（笑）。

高山　金原さんもリングスに入ったときには前田さんにヤラされましたよね。

金原　そう！　1000本タックルをヤラされた！

高山　そのころ会うたびに、そのボヤキを聞かされたんですよ（笑）。

――ガハハハハ！　金原さんはリングス入り直後からボヤいてましたか（笑）。

金原　リングス移籍して3戦目でさ、いきなりロシアで試合やって帰国したときで、疲れてるから練習じゃなくてマッサージを受けに道場に行ったの。そしたら前田さんが道場にいて「金原！　1000本タックル行け！」って（笑）。キャリア8年もあって、まさか1000本タックルやらされるとは思わなかったよ（笑）。

高山　でも絶対、数をごまかしてますね（笑）。

金原　それは言っちゃいけないよ（笑）。

高山　金原さんは、昔から回数をごまかすのが得意なんですよ（笑）。

金原　「さんじゅう！」「よんじゅう！」と

各自バラバラの道を歩むことになったUインター勢。高山はキングダム在籍時代から、全日本に参戦。故・馬場さんが笑顔で参戦記者会見に同席するなど、日本人レスラー屈指の長身を誇る高山に対する期待の高さが伺える（写真・左）。金原は99年４月からリングスに参戦。破竹の12連勝という好成績を残す。この頃からUインター再評価の動きが出てきた。

かハッキリ言わないで、「ふんじゅう！」とかいったりしてね（笑）。
——まぁ、いずれにしても、いまの前田道場の雰囲気は凄くいいみたいですね。
金原　そうだね。だから俺らが試合に集中できるような状況に早くなってほしいよね。どう？　これくらいで記事まとまる？
——いや、バッチリですよ！　ホントに連載にしたいくらい（笑）。
金原　Uインターの面白い話ならまだまだいくらでもあるからね（笑）。
——まだまだありますか！
高山　Uインターは辞めた練習生も強烈な奴が多かったですからね（笑）。
——練習生まで！（笑）。
金原　そうそう、変な練習生いっぱいいたよ（笑）。ある日気づいたら、ボーウィー（・チョーワイクン＝Uインタースタンディングバウトのムエタイ選手）が愛用していたビキニパンツを勝手に履いてる奴がいたりね（笑）。
——ガハハハ！　なんで人のパンツ勝手に履いてるんですか！（笑）。
高山　パンツのサイズも身体の小さいボーウィーにピッタリだから、その練習生が履くともの凄く小さいんですよ。ほとんどTバック（笑）。
金原　それで上の人に「お前、なんでボーウィーのパンツ履いてるの？」って聞かれたら、「あ…あ……」とか取り乱しちゃって（笑）。すぐ辞めちゃうような奴は、変わったのが多かったよね。
高山　○○も凄かったですよね（笑）。
金原　アハハハハ！　もうねえ、ホモなのよ、絶対！（笑）。
——ガハハハハ！　ホモの練習生！　それはキツイですねぇ（笑）。
金原　垣原さんが練習後にシャワー浴び

Uインターの練習生は強烈な奴多いよ、ホモとか（笑）

【かねはらひろみつ】1970年10月5日、愛知県尾張旭市出身。91年にUインター第1回入門テストに合格し入門。Uインターに骨を埋める覚悟をするが、Uインター、キングダムと所属団体が順調に崩壊。そして99年3月にリングス入りし、いまやリングスのエースと呼ばれる。178cm、90kg。

【たかやまよしひろ】66年9月19日、東京都墨田区出身。大学時代ライフガードを努め、卒業後サラリーマンを努めたのち、25歳でUインターに入門。98年6月金原戦でデビュー。キングダム崩壊後は全日本プロレスに入団。ノアへは旗揚げから参戦。今年フリーとなり、『PRIDE・15』で藤田と対戦、敗れるも高い評価を得る。今後の動向が注目される。196cm、125kg。

次は「Uインター練習生大集合座談会」やりましょう（笑）

てる姿とか見てね、ウットリしてんのよ（笑）。
高山　目がキラキラしてるんですよ（笑）。
——そんなあからさまな（笑）。
金原　スパーリングしてもさ、痛がってはいるんだけど、心の中では喜んでるのがわかるのよ（笑）。
高山　それで高田さんがその噂聞いて、面白がって「お前はホモか？」って聞いたら「ハイッ！」って（笑）。
——ガハハハ！　アッサリ、カミングアウト（笑）。
金原　ちょっとしてから、そいつは夜逃げしちゃったんだけど、何日かあとに道場に手紙が届いてね。その手紙の内容が凄かったんだよ（笑）。
高山　（思い出して）ワッハハハハ！　そうそう（笑）。そいつは合宿所で垣原さんとドアを隔てて隣の部屋だったんですけど、「ドアを隔てた向こうに垣原さんが寝てると思うと眠れなくなって、何度オロナインを持って忍び込もうと思ったことか」とかホントに書いてあるんですよ！（笑）。
——ガハハハハハ！　オロナイン！（笑）。
高山　あと「佐野さんがコシティを振る姿がステキだった」とか（笑）。
——ガハハハハハハハハ！
金原　ホモだって言ったって、最初は冗談だと思ってたんだけど。手紙を見て本物だったんだなって（笑）。ホント変わった奴多かったよね。なんか昔の練習生を集めて同窓会やりたいよね。みんなどこで何やってるかわかんないからさ、『紙プロ』で募集してみてよ（笑）。
——それは金原さんのスポンサーの探偵事務所で探してもらいましょう！（笑）。
高山　では次は「Uインター練習生大集合！」っていう座談会ということで（笑）。
【01年7月11日／前田道場近くの「焼き肉村」にて収録】

凶悪犯罪者は 撃て! 撃て! 撃ち殺せッ!

読者プレゼントも撃ち当てろ!

自由連合非公認・読プレページ

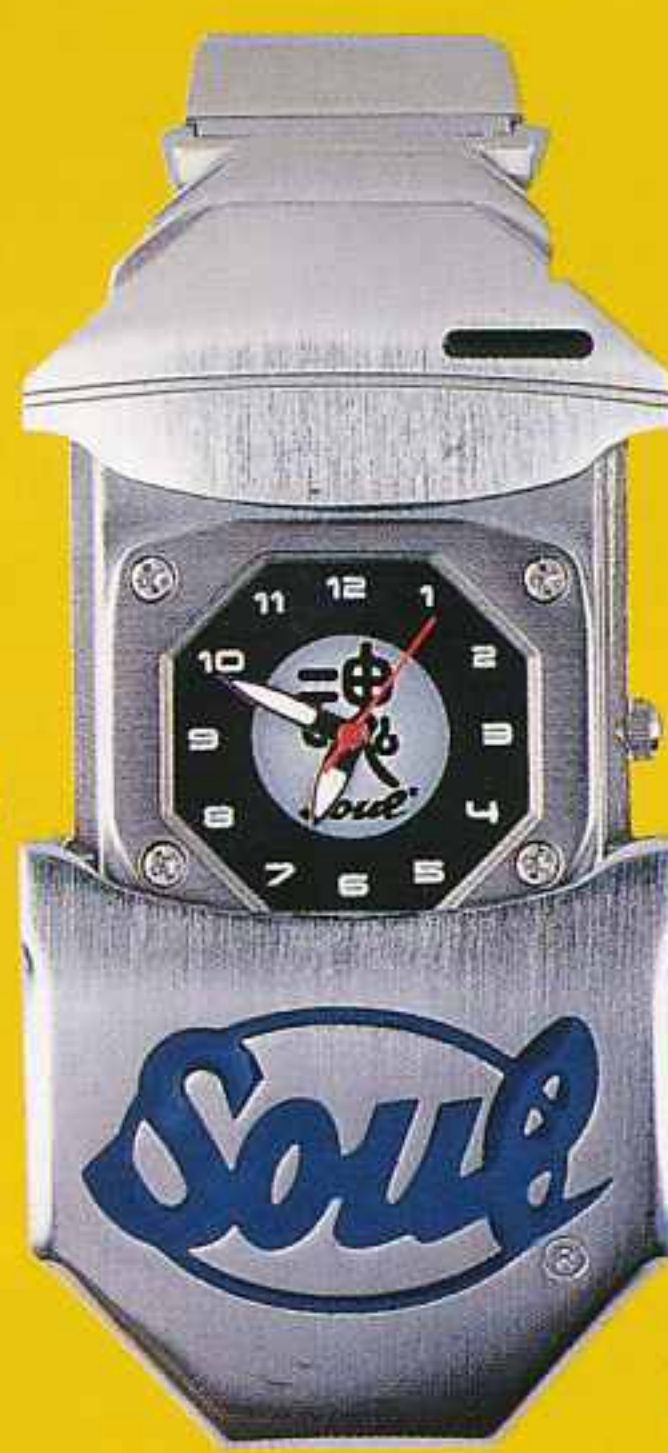
参院選では残念ながら落選してしまったクールな佐山聡さん。

激動のマット界の時を刻め!

各1名様

★三沢光晴「NOAH」
イメージカラーでもあるグリーンが心にときめく三沢「NOAH」Watch! 大海原を航海するノアの息吹が聞こえてくるぞ!【イグニッション提供】

★小橋健太「BURNING」
小橋のサインが入った、ファンにはたまらない「BURNING」Watch! 小橋が復帰する時間は何時何分何秒だ!? これで見届けろ!【イグニッション提供】

★秋山準「STERNNESS」
GHC王者に輝き永田とタッグを結成する秋山準のマット界の革命への秒読みを「STERNNESS」Watchです

★SOUL「魂」
藤田がイメージキャラクターになっている「SOUL」の重量感溢れる「魂」Watch! K−1ファイターのヒザ蹴りでも壊れないぞ!【イグニッション提供】

お問い合わせ◎(有)共同開発システム
TEL.011-836-1755

リングス10周年を祝いますかーッ!

各2名様

★前田道場Tシャツ

★10周年Tシャツ

★大会記念Tシャツ

★前田日明携帯ストラップ

★10周年記念大会パンフレット

リングス10周年を記念して新作グッズが登場! Tシャツはもちろん、なんと前田携帯ストラップが完成だ! 10周年だけに10個は買うんだ! 糸井重里や浅草キッドも寄稿している10周年記念パンフも最高だ!【リングス提供】TEL.03-3461-0257

吉田豪プレゼンツ グレートフィギュア

各1名様

★力道山フィギュア
偉大な昭和のヒーロー力道山のフィギアにひざまずけ! 復刻してないフィギュアだけにとっても貴重だぞ!【吉田豪提供】

★ジャンボ鶴田・フィギュア
ジャンボはフィギュアでも僕らをシビレさせてくれるッ! なんとドナーカード付きのジャンボ鶴田フィギュアだ。【吉田豪提供】

『紙プロ』はグレートアントニオに屈します!

各2名様

★とうふパンTシャツ
(黒・緑/XS・M・L)¥2800

★ペールワンズTシャツ
(白/XS・M・L)¥3500

★猪木軍団応援Tシャツ
(白/XS・S・M・L)¥4000

★猪木軍団応援手ぬぐい
(8・19猪木軍団応援シート特典・非売品)

★浅草キッドTシャツ
(赤・黒/S・M・L)¥3500
※サイン入り・水道橋博士提供

グッズを提供して頂けるなら『紙プロ』は「グレートアントニオ」に屈します! みんなも神保町方向に土下座するんだ!【グレートアントニオ提供】
TEL.03-3219-9550
http://www.great-antonio.jp

JOE FOREVER!

★コラージュTシャツ

★泪橋Tシャツ

FRONT　BACK

★マンガシーンTシャツ

★ジョー顔面Tシャツ

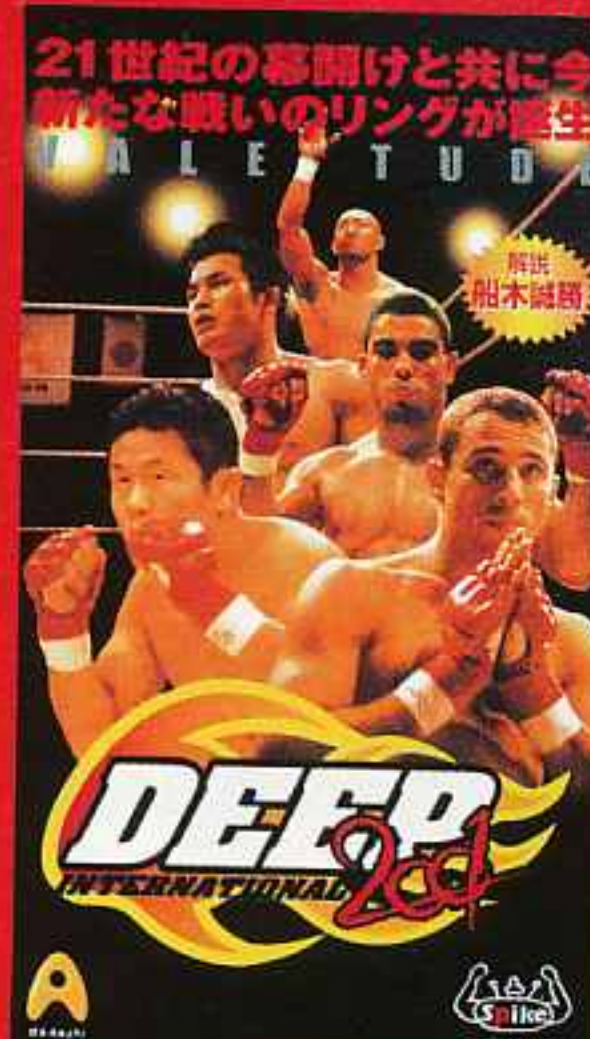
★クロスカウンターTシャツ

「我々はあしたのジョーである!」 ハイジャックしてなくてもそう叫びたいヤツは、泪橋交差点にこれを着て集まれッ! 着たいのはどれだ! あしたはどっちだ!?
【IVY BOOKs提供】TEL.0568-31-0727

各2名様

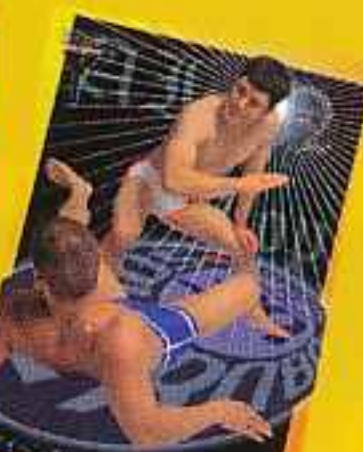
ディープな世界へ

★W☆ING Tシャツ
『PRIDE』? 修斗だああ? TシャツはW☆INGに決まってるだろ! 危険なヤツの危険なTシャツ! 何回洗っても血の匂いがするから不思議だ……。【イナズマ☆K提供】
お問い合わせ
http://www.wingpro.com
E-MAIL:wingpro@website.co.jp

★オ・ト・コはつらいのよ IWA JAPAN プロレス
新宿2丁目で繰り広げられたIWA浅井社長たちの狂騒曲! 浅井社長に惚れることは間違いないDVDだ!
【ユニバーサルミュージック提供】TEL.03-3780-8549

★DEEP2001(DVD・ビデオ)
今年の1月の行われたディープなブラジリアンとパンクラス勢のDEEPな闘い! ホイラーvs村浜は見逃せないぞ!
【スパイク提供】TEL.03-3403-7793

各3名様

地上最強のカードコレクション

★高田道場 オフィシャルカードコレクション
高田、サク、松井、今村と、世界が恐れる高田道場の選手がカードで登場だ! 必殺技や道場訓カードも封入してるぞ!
【さくら堂提供】
TEL.03-5686-7671

★レースクイーンカードコレクション「ready RADY」
今月のオマエに夢中はこれだ! 当然の如く

各2名様

バッテンを背負え!

★美濃輪 Tシャツ

★パンクラス野獣Tシャツ

オレはいつだって、このバッテン背負ってるんだよ。おまえも背負って出てこい! いいかーッ! 絶対着るんだぞッ!
【ケイゴ提供】
SUBSCABS TEL.03-5339-0455　http://www.subscabs.com

各2名様

稲妻伝説

1名様

★木村健吾ミニアルバム「稲妻伝説」
紅白歌合戦出場するため、大晦日はいつも空けてる健吾兄さんのミニアルバムにサイン色紙とポスターがついてくる! それでは歌いますかーッ! 1、2、3、イナズマッ!
【片山ぽん提供】

『PRIDE』はグッズも絶好調!

各2名様

★藤田・ボブチャンチン コットンバック
藤田、ボブチャンチンのおなじみのロゴ入りコットンバック! 町中でおもわずブンブン振り回したくなるぞ! 【DSE提供】
TEL.03-5775-5700

★コールマン・グッドリッジTシャツ
『PRIDE』の門番とノゲイラ戦が熱望されるコールマンのニューTシャツ! これを着て道の真ん中を堂々と歩け!【DSE提供】TEL.03-5775-5700

応募要項

応募券

❶郵便番号・住所・電話番号
❷氏名
❸年齢・職業
❹希望商品
❺面白かった記事&その理由
❻つまらなかった記事&その理由
❼あなたがカラダを許してもOKな同性のレスラーは誰ですか?

【宛　先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「国歌吹奏までして棄権」係まで

※締切は2001年9月22日(土)当日消印有効

怒濤のヴァリス・スペシャル

★「長州力の凄み」DVD
長州自身、永島、健介、GKなどがインタビューで長州を語る! 貴重な長州引退パーティーの模様も収録してるぞ!

★「これが新日道場だ!! 2001~新日魂6~」ビデオ
若手同士の道場でのスパーリングやトレーニング風景、合宿所の紹介を真壁伸也がナビゲーターし

★中西学 DVD
VT、藤田、プロレス観などを中西が咆哮する! 中西の考えるストロングスタイルとは何かがわかる1本!

★永田裕志 ビデオ
真夏の祭典「G-1」を遂に制した永田裕志! 今後もマット界を熱くする永田のファイトを堪能するんだ!

★「新日事件簿3」ビデオ・DVD
新日本を揺るがした事件を特集する大好評のシリーズ第3弾! 西村の衝撃のガン告白も……。決意を感じよ!

★「田中稔パート1&2」ビデオ
王座からは転落したものの新日本のジュニアを引っ張る田中稔。巻き起こした旋風をもう一度、目に焼き付けろ!

★「蝶野正洋最前線」ビデオ
蝶野正洋の黒い躍動は終わらない! 身を削り、奏で続ける黒い旋律は新日本をまたもや黒く染め上げる!

★「We Are Batt」DVD
DVDにもプロレスLOVE! 武藤らBATT勢の団体の垣根を越えた闘いが、キミの心にシャイニングウィザードだ!

各3名様

【ヴァリス提供】
TEL.03-5351-5181　http://www.valis.to

紙のプロレス RADICAL
No.41
2001年9月26日発行

No.42は 9月下旬発売予定!

※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

●編集兼発行人
山口日昇

●編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
八木賢太郎 (ドスJr.に感動しメキシコに行くため非番)

●編集見習い
クレ斉藤
片山ぽん

●スーパーバイザー
吉田豪

●助っ人
中村カタブツ君
スモーノブ

●アートディレクター
出田さん(TwoThree)

●デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
ミネ(以上TwoThree)

トメさん
はなえちゃん
あっちゃん (以上さおとめの事務所)

海老沢勇 (Zero graphics)

古賀ゆきえ

●出前
出前持ち入江(TwoThree)

●カメラマン
斉藤ユーリ
森廣博
遠藤政文
黒田史夫
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
森田友美

●試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

●銭ケバ
ジャイ子

●お勘定&衣料部
林"ヘックション"一枝

●フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所

●印刷
図書印刷株式会社

●印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元●株式会社ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町一番地 TEL.03-3357-2911 (販売・営業)
発行元●株式会社ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 TEL.03-3403-5188 (編集・制作)

『紙プロ』通販部も猪木軍団入りを宣言!?

燃え上がる猪木軍団vsK—1で便乗商売します!

ノゲイラ、スペーヒーに続け!

紙のプロレスRADICAL おもいっきりロゴT

¥3,800 SorMorL SOLD OUT SOLD OUT

猪木軍団のロゴが入る日も近い!? 21世紀を記念して作られた『紙プロ』ゆかりの関係者がロゴで総登場Tシャツ!!

U.M.F. Tシャツ〈黒×黄〉

¥3,800 SorMorL SOLD OUT

花くま先生書き下ろし! 左ソデにワンポイントが入ってるので「ダーッ!」をやるときは左手を挙げよう! ムフフフ。

SS Tシャツ半ソデ〈赤〉

¥3,500 SorMorL SOLD OUT

熱いヤツには赤のSS Tシャツがよく似合う! それでは皆さん、KING OF MAGAZINを背負いますかーッ!

SS Tシャツ半ソデ〈紺〉

¥3,500 SorMorL SOLD OUT

Tシャツの売り上げなんて勘定してんじゃねえよ! それほど売れてるおなじみSS Tシャツだ!

リングおじさんパーカー(黒)

¥6,000 MorL

買う前から季節のこと考えてるバカいるかよッ! 冬が来る前から絶対欲しい『紙プロ』パーカー!

リングおじさんパーカー(黒×白)

¥6,000 MorL

汗かいて、掻きまくって見えてくる本当の自分の姿。自分を見つめ直せるあったかパーカーを着るんだ!

紙プロネックピース

¥~~1,200~~→大特価¥600

大特価で人気集中! ネックピースを掛けた俺のクビをカッ斬ってみろッ、この野郎!

通販方法

希望商品の代金+送料¥500(何枚でも・ネックピースだけなら¥300)を郵便振替か現金書留で下記の住所まで送ってください。郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、希望商品(サイズ・カラーを明記)を必ず記入してください! これがないと世界戦略商品が発信できません。隣のページのTシャツも一緒の申し込みもOK!

■郵便振替の宛先
00130-3-769154

■現金書留
(株)ダブルクロス
〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ケ谷3-11-3-702

お問い合わせ先 (株)ダブルクロス TEL03-3403-5188

SS Tシャツ長ソデ、リングおじさんトレーナー、パトTシャツ、ジャイ子Tシャツの通販分は完売しました。下欄外の直販店でお求め下さい。

【『紙プロ』ウェアが常備の猪木軍団入りするかもなショップ】★チャンピオン東京店(TEL.03-3221-6237)★チャンピオン大阪(TEL.06-6645-5186)★岐阜・バンザイ商会(TEL.0584-75-4966)★宮城・スクワット(TEL.022-264-8160)★大阪・少年ジェッター(TEL.06-6541-3551)★グレート・アントニオ(TEL.03-3219-9550)

☎INDEX

団体名	電話番号	住所
全日本プロレス	➡03-3403-7344	〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12
プロレスリング・ノア	➡03-3527-5311	〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
新日本プロレス	➡03-5468-3111	〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11
FMW	➡03-5496-0671	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-23-15　ダヴィンチ下目黒6F
リングス	➡03-3461-0257	〒150-0036 東京都渋谷区南平台13-1　サトウビル202
WAR	➡03-5477-0461	〒154-0015 東京都世田谷区桜新町1-14-23　萬豊ビル2F
みちのくプロレス	➡019-626-1333	〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
SPWF	➡03-3814-6371	〒113-0001 東京都文京区白山1-17-4　クロサキビル
パンクラス	➡03-5792-0815	〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
IWAジャパン	➡03-3352-3366	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1　四谷サンハイツ401
大日本プロレス	➡045-937-0811	〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347
バトラーツ	➡0489-63-0005	〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
DDT	➡03-3356-8493	〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-18 オリエンタル千駄ヶ谷102プリントオフィス内
髙田道場	➡03-5749-5030	〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6　ワールドパレス武蔵小山1F-B1
UFO	➡03-5447-2121	〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5　OK白金台ビル7F
大阪プロレス	➡06-6243-5131	〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場3-1-7　日宝東心斎橋ビル301
闘龍門JAPAN	➡078-333-9797	〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り3-17-8　TOWA元町ビル901
ダイプロデュース(大仁田興行)	➡03-5496-4900	〒141-0031 東京都品川区西五反田1-32-3　大北ビル3F
ZERO-ONE	➡03-5730-3401	〒105-0014 東京都港区芝2-30-11
掣圏道	➡03-5456-7333	〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14　恵比寿スカイハイツ607
レッスル夢ファクトリー	➡03-5828-8494	〒165-0032 東京都中野区鷺宮5-15-11
キングダム・エルガイツ	➡0423-31-2797	〒206-0822東京都稲城市坂浜2305
キャプチャー	➡044-959-3333	〒215-0011神奈川県川崎市麻生区百合丘2-2-1　横山ビルB1
国際プロレス	➡0467-86-0197	〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14
メビウス	➡03-5382-6991	〒167-0034東京都杉並区桃井4-1-15
つぼプロモーション	➡03-3498-4710	〒107-0062 東京都港区南青山6-15-1　アパルトマン青山2F-E
華☆激	➡092-522-1901	〒810-0022 福岡市中央区薬院4-8-29　エステートピア薬院302
喧嘩プロレス二瓶組	➡044-588-2438	〒212-0055 神奈川県川崎市幸区南加瀬5-32-2　二瓶ビル
ZIPANG	➡03-3312-0328	〒166-0011 東京都杉並区梅里2-40-21　ハイネス梅里201
T.A.M.A	➡042-572-6795	〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5
CMLL・JAPAN	➡075-601-7816	〒612-8221 京都府京都市伏見区禅正町151
UNW	➡03-3362-3014	〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311
栗栖ジム	➡06-6790-8896	〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7
ドリームステージエンターテインメント	➡03-5775-5700	〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-4　ルーメリ赤坂103
K－1 事務局	➡03-3796-2977	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14
修斗コミッション	➡03-5725-7338	〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-2-10　エビスユニオンビル202サステイン
GCM COMUNICATION (和術慧舟會、A'GYM、RJW)	➡03-3538-5801	〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10　松楠ビル9F
DEEP 2001事務局	➡052-339-0303	〒460-0017 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
怪獣王国	➡03-5952-1177	〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F
コロシアム事務局	➡03-5473-3148	〒105-8012 東京都港区虎ノ門4-3-12　テレビ東京事業部内
全日本女子プロレス	➡03-3493-6541	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17
JWP	➡03-3839-4161	〒110-0005 東京都台東区上野1-15-10　大秀ビル502
LLPW	➡03-3945-7926	〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4　ビクセル文京105
GAEA JAPAN	➡03-3795-2555	〒154-0004 東京都世田谷区太子堂5-15-3　COVAMOC BUILDING 2F
Jd'	➡03-5561-0522	〒107-0052 東京都港区赤坂2-3-4　ランディック赤坂ビル4F
アルシオン	➡03-5720-5217	〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南3-7-1　代官山島田ビル3F
NEO	➡044-422-8344	〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
エヌ・イー・オー	➡03-3796-7461	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-19-13　ドミシール平野503

塾長！カラーピンナップ奪取!!

これでまだ文句があるなら“ご苦労さん”と言うしかない!!

山口編集長さん

オレは
カラーで
メインで
10ページ以上
扱わないと
もう出ません！
山本

左のテロFAXを通訳するとこうなる!!

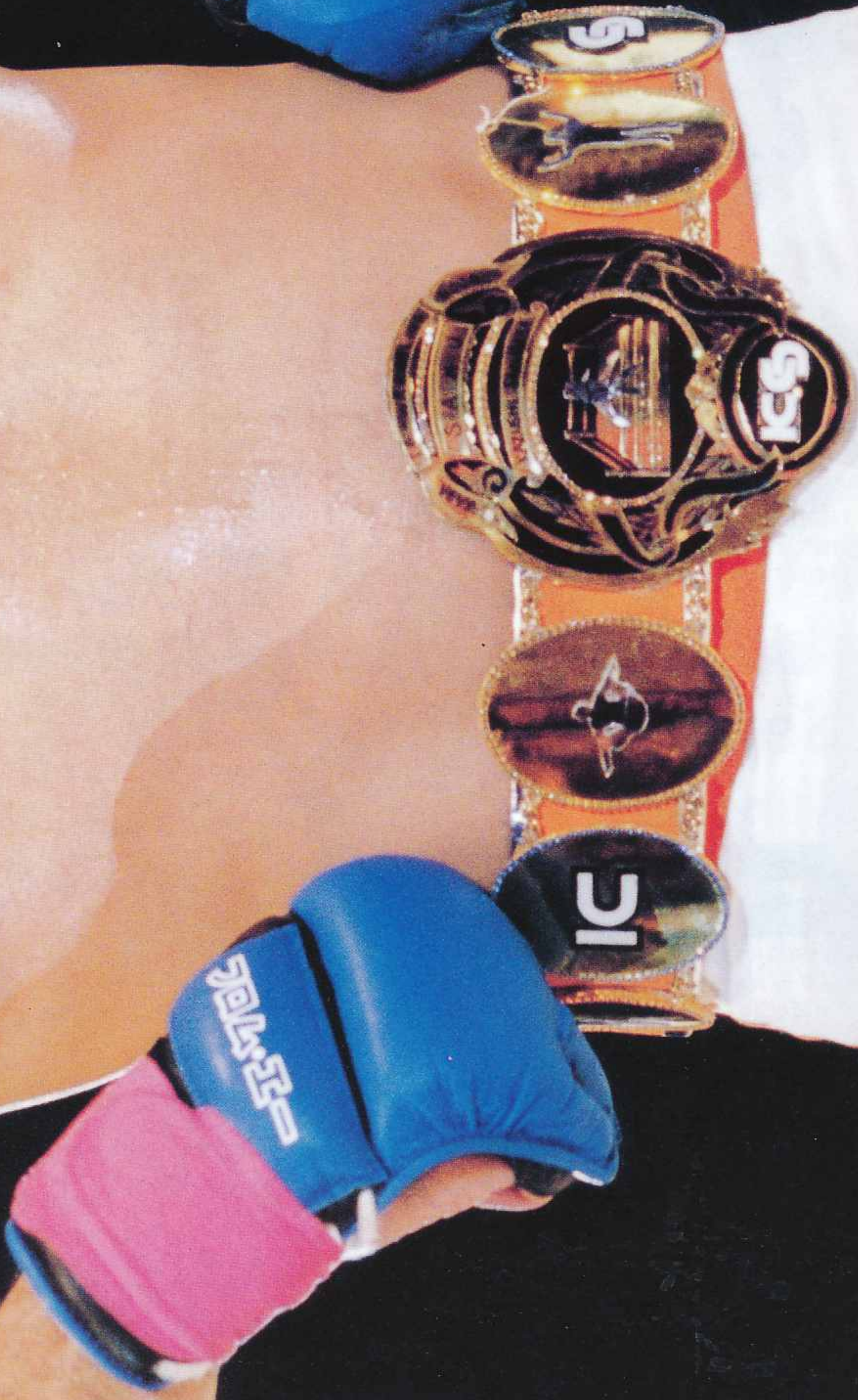
山口編集長さん

オレは
カラーで
メインで
10ページ以上
扱わないと
もう出ません！
山本

『新しい『紙のプロレス』（No.40）を見て腹が立った。
私を扱うならカラーページでメイン記事にしろ。
少なくとも10ページは取って大きく扱え。
それをしないならもう紙プロには出ないとFAXした。
そりゃそうだろう。
読者は小川直也のインタビューよりも、私の言っていることを見たいからだ。
紙プロがそうじゃないと判断するなら『SRS-DX』と同じく、私は“御苦労さん”というしかない。
別に紙プロに載らなくても、私はどうってことないんだから…。
これを友人に話したら「また”FAXテロ”をやってしまったか…」とあきれていた。
テロほど痛快なものはない！』

■以上が、「一揆塾」塾長・ターザン山本による有料HP『マイナーパワー』（www2.cplaza.ne.jp/auth/ringside/mp/）の「往生際日記」に掲載された、“FAXテロ”に対する見解である。どうやら、前号でご登場いただいた座談会がモノクロページでメイン扱いじゃないことが塾長の逆鱗に触れたらしい。はたして『紙プロ』読者は「小川直也のインタビューよりも、私の言っていることを見たい」のか？　“FAXテロ”の“テロ”ってチョロのことか？　「別に紙プロに載らなくても、私はどうってことないんだから…」と書いているが、塾長自ら、本誌・ガンツに「『一揆塾』の二期生募集の告知よろしくお願いしま～す」と言っていたのは、なに？　ぜひともそのへんを「往生際日記」に炎上しまくりながら綴ってほしいものである。押忍！

ターザン“FAXテロ”の真相!!

“最強”復活!

暴走ホームレスを倒し、サク完全復活&ベルト奪取記念ピンナップ

“最強”復活!

『紙プロ』編集部おススメ興行

★ 山口日昇　♠ 松澤チョロ記者
◆ ガンツ堀江　◎ クレ斉藤
¥ 片山ぼん

(18:30)

30)

8:30)

30)

大日本■福岡・甘木青果市場(18:30)
NEO■東京・板橋区立産文ホール(19:00)
アルシオン■秋田・本荘市民体育館(18:30)
バトラーツ■東京・ディファ有明(18:30)
闘龍門■北海道・札幌テイセンホール(18:30)
みちのく■宮城・石巻市総合体育館(18:30)

15 SAT.

新日本■神奈川・相模原市総合体育館(18:30)
Jd'■東京・ディファ有明(12:30)
大日本■福岡・博多スターレーン(16:30)
大阪■大阪・なんばマザーホール(18:00)
全女■東京・フジテレビ内7F屋上庭園(18:00)
ZERO−ONE■東京・ディファ有明(19:00)◎
みちのく■福島・サンシャイン浪江(15:00)

16 SUN.

バトラーツ■広島・広島県立ふくやま産業交流館(19:00)
新日本■愛知・名古屋レインボーホール(18:00)
J'd■大阪・NGKスタジオ(18:00)
大日本■長崎・西海町民体育館(18:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(16:00)
全女■東京・フジテレビ内7F屋上庭園(18:00)
闘龍門■北海道・釧路市鳥取ドーム(18:30)
みちのく■宮城・名取市スポーツパーク「ナスパ」(14:00)

17 MON.

バトラーツ■福岡・アクロス福岡(19:00)
大日本■大分・県立荷揚町民体育館(18:30)
LLPW■島根・出雲ドーム(18:30)

18 TUE.

IWA■東京・後楽園ホール(18:30)
闘龍門■北海道・北見市立体育センター(18:30)
みちのく■福島・河北町体育館(18:30)

19 WED.

新日本■長野・松本市総合体育館(18:30)
大日本■福岡・博多スターレーン(18:30)
LLPW■島根・出雲ドーム(18:30)
みちのく■宮城・松山町民体育館(18:30)★

20 THU.

新日本■山梨・アイメッセ山梨(18:30)
大日本■大分・三重町体育館(18:30)
アルシオン■埼玉・秩父市民体育館(18:30)
闘龍門■東京・東京ジョイポリス(予定)

21 FRI.

新日本■埼玉・さいたま市大宮体育館(18:30)
アルシオン■茨城・境町民体育館(18:30)
リングス■東京・後楽園ホール(19:00)★◆

22 SAT.

アルシオン■東京・ディファ有明(18:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
闘龍門■埼玉・川越ペペホールアトラス(18:00)

23 SUN.

新日本■大阪・なみはやドーム(16:00)
大日本■東京・後楽園ホール(18:30)
アルシオン■富山・魚津市総合体育館(17:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(16:00)
NEO■東京・北沢タウンホール(13:30)
修斗■大阪・NGKスタジオ(未定)
闘龍門■埼玉・越谷桂スタジオ(16:00)
Jd'■岩手・北上市和賀多目的催事場(13:00)

24 MON.

GAEA■東京・後楽園ホール(18:30)
FMW■群馬・伊勢崎市民体育館(16:00)
NEO■東京・北沢タウンホール(13:30)
アルシオン■石川・七尾総合市民体育館(18:30)
DSE『PRIDE.16』■大阪・大阪城ホール(16:00)★◎¥
ノア■東京・ディファ有明(15:00)
闘龍門■静岡・キラメッセぬまづ(17:00)
Jd'■岩手・一関文化センター体育館(13:00)

25 TUE.

アルシオン■金沢・石川産業展示館2号館(18:30)

26 WED.

JWP■東京・板橋区立産文ホール(19:00)
アルシオン■京都・舞鶴駅とれとれセンター特設(18:30)
FMW■北海道・函館市民体育館(18:00)

27 THU.

修斗■東京・北沢タウンホール(18:00)
SMACK GIRL■東京・渋谷Culb ATOM(19:00)♠

29 SAT.

FMW■静岡・ツインメッセ静岡(18:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

30 SUN.

パンクラス■神奈川・横浜文化体育館(16:30)♠◆
GAEA■大阪・梅田ステラホール(16:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(16:00)
闘龍門■東京・大田区体育館(17:00)
Jd'■東京・ディファ有明(12:30)

10 October

5 FRI.

FMW■鹿児島・国分市屋内運動場(18:30)

6 SAT.

ノア■東京・ディファ有明(18:00)¥
FMW■鹿児島・出水市総合体育館(18:30)

7 SUN.

全日本■東京・後楽園ホール(12:30)
ノア■東京・後楽園ホール(12:00)
新日本■東京・後楽園ホール(18:00)
FMW■熊本・八代市総合体育館(17:00)

8 MON.

K−1■福岡・マリンメッセ福岡(未定)
新日本■東京・東京ドーム(16:00)
全日本■東京・後楽園ホール(12:30)
ノア■静岡・アクトシティ浜松(12:00)
NEO■東京・板橋区立産文ホール(13:30&18:00)

9 TUE.

FMW■東京・後楽園ホール(19:00)

RADICAL CALENDAR

8 August

28 TUE.

ノア■東京・後楽園ホール(18:30)
全日本■大阪・高石臨海スポーツセンター(18:30)
アルシオン■富山・福野町ア・ミュール広場(18:30)
全女■埼玉・三郷市鷹野文化センター裏駐車場(19:00)
LLPW■秋田・大館市民体育館(18:30)

29 WED.

全日本■岡山・岡山オレンジホール(18:30)
全女■茨城・水戸市民体育館(18:30)

30 THU.

ノア■愛知・春日井市総合体育館(18:30)
全日本■広島・広島市東区スポーツセンター(18:00)
真撃■東京・日本武道館(19:00)★
アルシオン■富山・新湊市総合体育館(18:30)
DDT■東京・渋谷culb ATOM(19:00)

31 FRI.

ノア■大阪・大阪府立体育館第二競技場(18:00)
JWP■東京・板橋区立産文ホール(19:00)
アルシオン■愛知・愛知県体育館第2競技場(18:30)

9 September

1 SAT.

ノア■京都・KBSホール(18:00)
全日本■熊本・熊本市田崎森永青果市場特設リング(18:00)
NEO■東京・ディファ有明(18:30)
FMW■北海道・すぱーく網走(総合体育館横)(18:00)
全女■香川・高松国際ホテル別館大ホール
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
T.A.M.A■東京・葛飾金町地区センター(18:00)
ZERO−ONE■東京・後楽園ホール(19:00)

2 SUN.

ノア■静岡・ツインメッセ静岡(17:00)
修斗■東京・後楽園ホール(18:00)
全日本■大分・大分県立荷揚町体育館(17:00)
J'd■東京・新宿リキッドルーム(18:00)
GAEA■東京・後楽園ホール(12:00)
FMW■北海道・北見市立体育センター(18:30)
全女■香川・善通寺市民体育館(18:30)
大日本■神奈川・川崎市体育館(16:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(16:00)
TEAM KURISU■大阪・茨田土地改良記念会館(13:00)

3 MON.

全日本■大分・三重町フレッシュランドみえ(18:30)

4 TUE.

ノア■宮城・多賀城市総合体育館(18:30)
FMW■北海道・登別市総合体育館(18:30)

5 WED.

ノア■岩手・岩手県営体育館(18:30)
FMW■北海道・月寒グリーンドーム(18:30)
全女■静岡・キラメッセぬまづ(18:30)

6 THU.

ノア■弘前・青森県武道館(18:30)
全日本■愛知・名古屋国際展示場イベントホール(18:30)
新日本■新潟・リージョンプラザ上越(18:30)

7 FRI.

新日本■新潟・新潟市体育館(18:30)
闘龍門■山形・山形市総合スポーツセンター(18:30)

8 SAT.

ノア■新潟・長岡市厚生会館(18:00)
全日本■東京・日本武道館(18:00)
新日本■新潟・三条市厚生福祉会館(18:00)
アルシオン■大阪・大阪府立体育館第2競技場(18:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
全女■東京・ディファ有明(18:30)
レッスル夢■東京・板橋区立産文ホール(18:00)
DDT■東京・板橋区大山東町(未定)
ZERO−ONE■東京・Zeep Tokyo(19:00)
闘龍門■秋田・秋田テルサ(18:30)
「PRE-STAGE.1」■千葉・銚子市体育館(13:00)
みちのく■岩手・大迫町カントリープラザ(19:00)

9 SUN.

ノア■東京・ディファ有明(15:00)
バトラーツ■東京・後楽園ホール(18:30)
新日本■千葉・東金市アリーナ(18:00)
J'd■東京・葛飾金町地区センター(16:30)
FMW■東京・後楽園ホール(12:30)
全女■東京・JR秋葉原駅前広場(18:30)
闘龍門■宮城・Zeep Sendai(17:00)
みちのく■福島・保原町民体育館(15:00)

10 MON.

大日本■高知・高知県民体育館(18:30)
JWP■東京・キネマ倶楽部(19:00)
闘龍門■青森・はちのへハイツ(18:30)

11 TUE.

大日本■兵庫・淡路南淡町文化体育館(18:30)
アルシオン■東京・後楽園ホール(19:00)
みちのく■青森・十和田市民体育館(18:30)

12 WED.

闘龍門■北海道・帯広市総合体育館(18:30)
みちのく■岩手・新里村トレーニングセンター(18:30)

13 THU.

新日本■茨城・水戸市民体育館(18:30)
大日本■山口・海峡メッセ(18:30)
闘龍門■北海道・月寒グリーンドーム(18:30)
みちのく■青森・黒石市中央スポーツ館(18:30)

14 FRI.

新日本■静岡・浜松市体育館(18:30)
FMW■埼玉・熊谷市民体育館(18:30)
大日本■福岡・甘木青
NEO■東京・板橋区立
アルシオン■秋田・本荘
バトラーツ■東京・ディフ
闘龍門■北海道・札幌
みちのく■宮城・石巻市

15 SAT.

新日本■神奈川・相模原
Jd'■東京・ディファ有明
大日本■福岡・博多スタ
大阪■大阪・なんばマザ
全女■東京・フジテレビ
ZERO−ONE■東京・
みちのく■福島・サンシャ

16 SUN.

バトラーツ■広島・広島県
新日本■愛知・名古屋
J'd■大阪・NGKスタジオ
大日本■長崎・西海町民
大阪■大阪・デルフィンア
全女■東京・フジテレビ
闘龍門■北海道・釧路市
みちのく■宮城・名取市

17 MON.

バトラーツ■福岡・アクロ
大日本■大分・県立荷揚
LLPW■島根・出雲ドーム

18 TUE.

IWA■東京・後楽園ホー
闘龍門■北海道・北見市
みちのく■福島・河北町体

19 WED.

新日本■長野・松本市総
大日本■福岡・博多スタ
LLPW■島根・出雲ドーム
みちのく■宮城・松山町民

20 THU.

新日本■山梨・アイメッセ
大日本■大分・三重町体
アルシオン■埼玉・秩父市
闘龍門■東京・東京ジョイ

21 FRI.

新日本■埼玉・さいたま市
アルシオン■茨城・境町民
リングス■東京・後楽園ホ

22 SAT.

アルシオン■東京・ディファ
大阪■大阪・デルフィンアリ
闘龍門■埼玉・川越ペペ

23 SUN.

新日本■大阪・なみはや
大日本■東京・後楽園ホー
アルシオン■富山・魚津市
大阪■大阪・デルフィンアリ
NEO■東京・北沢タウン
修斗■大阪・NGKスタジオ
闘龍門■埼玉・越谷桂ス